

- 2400 **是阿**(ぜあは阿弥陀仏) 1177-? 大和慈恩院法相僧; 貞慶門、1225「般若心経幽賛鈔」  
 世阿(ぜあ) → **世阿彌**(ぜあみ・元清、能役/作者) 2401  
 是愛(ぜあい・六人部) → **是愛**(よしちか・六人部ひとべ、神職/国学) P 4 7 4 9
- 2401 **世阿彌**(ぜあみ・姓; 秦?、名; 元清/幼名; 鬼夜叉/藤若、観阿弥男) 1363?-1443? 81? 室町期能役/作者、  
 母; 伊賀小波多領主竹原大覚女?、父と能楽完成に尽力、1384(至徳元)父観阿弥没;  
 結崎座棟梁観世大夫を継嗣、物真似主体の大和猿楽を歌舞中心の能へ脱皮、1422頃出家、  
 息子元雅の家督譲渡; その後も活動継続、1434足利義教により佐渡に配流; 以後消息不明、  
 能楽論書; [世阿彌16部集]「風姿花伝」「花鏡」「習道書」「至花道」「能作書」「六義」「金鳥書」等  
 作能; [50曲余]「高砂」「忠度」「養老」「老松」「敦盛」「井筒」「恋重荷」「当麻」「山姥」「鶴」等  
 [初心忘るべからず この句三ヶ条の口伝あり 是非初心を忘るべからず  
 時々々の初心を忘るべからず 老後の初心を忘るべからず  
 この三つよくよく口伝すべし](ここでいう初心は初体験による未熟さ; 花鏡)  
 [世阿彌の別称] 三郎/観世三郎/世阿弥陀仏/世阿、世子(敬称)、法諱; 善方・道号; 至翁  
 世阿弥陀仏(ぜあみだぶつ) → **世阿彌**(ぜあみ・元清、能役/作者) 2401
- 2446 **是庵**(ぜあん・三上みかみ、名; 景雄/景夫、清武男) 1818-76 59 伊予松山藩士/儒; 村田箕山・高橋復斎門、  
 松山城三の丸門番/1835藩命で江戸; 西川楽斎門/36帰郷/43致仕; 江戸で奥平棲遅庵門、  
 丹波綾部藩・紀伊田辺藩の儒臣、尊王思想を主唱/1867松山に帰郷; 藩主松平定昭の顧問、  
 維新時の藩の難局を善処/私塾を開く、歌人、「小川真砂」「随得録」「没巴鼻草」「乙丑雑録」、  
 「甲子雑録」「辛酉雑録」「斯事雑誌」「涇渭雑録」「三上是庵雑録」「竜門遺響録・続録」外多数、  
 [是庵(;号)の幼名/通称]幼名; 六之助/長太郎/退助、通称; 新三郎/新左衛門/新三  
 是安(ぜあん・和久) → **半左衛門**(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0  
 是庵(ぜあん・亀田) → **敦**(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5
- 2455 **精**(せい・しらけ?/くわし?・源、定さだむ男/嵯峨源氏)?-? 平安前期廷臣; 大和守/従五下、至いたるの弟、  
 歌; 921醍醐御時内裏菊合参のしらけと同一?、古今歌人寵ちゅうの父  
 [うつろふとなにかいふべき菊の花霜の中にも色ぞまされる](醍醐菊合; しらけ)  
 息女 → **寵**(ちゅう・うつく・ろう、源精女/古今集歌人) H 2 8 0 6  
 → **二条**(にじょう・精女?/宥女?、古今歌人) 3 3 2 3
- 2447 **精**(せい・松井、号; 壺峯) ? - ? 江前期; 1684俗語辞書「野語述説やごじゆつせつ」著
- H2408 **静**(せい; 名・安田やすだ) ? - ? 江後期本草家; 曾槃門、  
 1784「本艸綱目会識」、1800曾槃「春の七くさ」を上梓
- H2409 **省**(せい・木田きだ、字; 成甫)?-? 江後期長門赤間関の儒者; 亀井昭陽(1773-1836)門、  
 1829「昭陽先生文集二篇」編(; 一篇は徳永宥ゆう編・木田省跋文[題昭陽先生文集初編後]著)
- 02402 **済**(せい・小野おの、) 1802 - 1853 51 備中浅口郡長尾村の庄屋の2男/小野寿の弟、  
 国学・歌; 木下幸文・小野務門、檜雨山房を結庵; 自適生活/陶芸; 京の仏阿弥道八門、  
 桑園焼を制作、  
 [済(;名)の別名/字/通称/号]初名; 禄、字; 公熙、通称; 民次郎/中蔵、  
 号; 桑園/栗園/米華/檜雨山房、屋号; 新笹屋、法名; 慈光桑園清信士
- H2410 **済**(せい・堀川ほりかわ、号; 舟庵/丹庵)?-? 江後期医学館講師、1850「扁鵲倉公攷異並備参」  
 1856森立之編「経籍訪古志」浄書(渋江抽斎らと編纂支援)
- 02428 **せい**(せい・武田たけだ、) 1838 - 1889 52 筑後久留米藩士の武田巖雄いむおと結婚、歌人  
 せい(影・松平) → **影子**(せい・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7  
 正(せい; 一字名) → **重条**(しげだ・庭田/源、大納言/日記) Q 2 1 6 6  
 正(せい・渡邊) → **正**(まさ・渡邊わたなべ、藩士/歌人) U 4 0 2 0  
 正(せい・平元) → **謹斎**(きんさい・平元ひらもと、藩士/儒/軍事) J 1 6 0 0  
 正(せい・山田) → **正修**(まさなが・山田、医者/儒者) F 4 0 2 9  
 正(せい・西山) → **拙斎**(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0

正(せい・草野)	→	石瀬(せきらい・草野くさの、藩士/儒者)	D 2 4 9 4
正(せい・ただし・小沢)	→	正容(まさやす・小沢、和算・暦算家)	I 4 0 0 7
正(せい・成田/稲葉)	→	蚕水(さんすい・稲葉/成田、医者)	E 2 0 4 3
正(せい・額田)	→	正三郎(しょうざぶろう・擁万堂、書肆)	S 2 2 4 4
政(せい・北岡)	→	石台(せきだい・北岡きたおか、藩士/詩人)	K 2 4 3 7
政(せい・荒川)	→	栗園(りつえん・荒川/荒河あらかわ、勤王家)	B 4 9 6 0
政(せい・まさ・遠藤)	→	繁子(しばこ・遠藤えんどう/堀、藩主室/歌)	N 2 1 5 5
生(せい; 一字名)	→	輝資(てるすけ・日野/藤原/広橋、故実/連歌)	C 3 0 7 6
性(せい・森)	→	海庵(かいあん・森もり、医者/侍医)	I 1 5 3 4
惺(せい・金子)	→	松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人)	R 2 2 5 8
惺(せい・安孫子/小田島)	→	翠塙(すい・小田島/安孫子、書肆/詩)	E 2 3 0 5
整(せい・源)	→	整(とどのう・源、歌人)	O 3 1 5 4
整(せい・山県)	→	榕所(ようしょ・山県やまがた、儒者)	B 4 7 2 3
整(せい・三木)	→	整(ただし・三木みき、大庄屋/神職)	Z 2 6 6 7
澗(せい・兵藤)	→	澗(きよし・兵藤ひょうどう、儒/和算家)	P 1 6 5 8
澗(せい・富永)	→	莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学)	2 2 9 0
省(せい・後藤)	→	椿庵(ちんあん・後藤、医者)	K 2 8 5 6
省(せい・田中)	→	桐江(とうこう・田中、儒/詩人)	D 3 1 7 2
省(せい・会田/野呂)	→	陶斎(とうさい・野呂のろ、儒者/教育)	E 3 1 2 4
省(せい・辻原)	→	元甫(げんぼ・辻原つじはら、儒/仮名草子)	D 1 8 0 1
省(せい・阿部)	→	耕雲(こううん・阿部あべ、農家/儒者)	H 1 9 4 8
省(せい・広津)	→	藍溪(らんけい・広津ひろつ、農家/儒者/教育)	B 4 8 8 2
晟(せい)	→	日晟(にちせい、垂水入道、連歌)	3 3 0 5
晟(せい・木村)	→	梅軒(ばいけん・木村きむら、儒者/詩)	B 3 6 0 7
青(せい・銭田)	→	立斎(りつさい・銭田せいた、商家/詩人)	B 4 9 9 1
清(せい・吉田)	→	鶯湖(がこ・吉田よしだ、藩士/儒詩)	H 1 5 8 1
清(せい・藤原/川辺)	→	橋亭(きょうてい・川辺かわべ、藩士/漢学者)	L 1 6 5 0
清(せい・高島/宇留野/山野辺/田中)	→	江南(こうなん・田中/田でん、儒/医/投壺)	G 1 9 4 3
清(せい・中山)	→	高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師)	C 1 9 0 0
清(せい・河野)	→	清(きよ・河野/宮下、歌人)	L 2 0 6 0
清(せい・渡辺)	→	清(きよし・渡辺わたなべ、絵師/国学/故実)	V 1 6 6 5
清(せい・滝)	→	無量(むりょう; 号・滝たき、儒者)	D 4 2 2 7
清(せい・石川)	→	滄浪(そうろう・石川いしかわ、儒者)	D 2 5 2 5
清(せい・三好)	→	俊平(しゅんぺい; 通称・三好みよし、文筆家)	L 2 1 8 3
清(せい・金子)	→	松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人)	R 2 2 5 8
靖(せい/やすし・原田)	→	竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育)	E 4 9 2 3
精(せい; 一字名)	→	光慶(みつよし・日野/藤原、廷臣/歌人)	F 4 1 1 3
精(せい・生田)	→	精(くわし・生田いくた、藩士/国学)	D 1 7 5 7
精(せい・日高)	→	涼台(りょうだい・日高ひだか、蘭医者/詩)	I 4 9 8 0
精(せい・岡)	→	研介(けんかい・岡おか、蘭医)	E 1 8 2 3
彪(せい・松平)	→	彪子(せいこ・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌)	O 2 4 4 7
静(せい・荘田)	→	琳庵(りんあん・荘田しょうだ、藩儒)	J 4 9 9 6
静(せい・武田)	→	兼山(けんざん・武田たけだ、医者)	J 1 8 2 0
静(せい・喜田)	→	華堂(かどう・喜田きた、絵師)	O 1 5 1 9
静(せい・上田)	→	子琴(しきん・上田うえた、詩人)	D 2 1 4 4
静(せい・山田)	→	松斎(しょうさい・山田、儒者; 農事改善)	J 2 2 0 1
静(せい・久坂)	→	玄機(げんき・久坂くさか、医者/海防)	I 1 8 3 7
静(せい・花井)	→	健吉(けんきち・花井はない、算学/測量家)	I 1 8 4 1
静(せい・泉/和泉)	→	久澄(ひさずみ・泉/和泉いずみ、商家/歌人)	B 3 7 2 0
静(せい・藤井)	→	静(しずか・藤井ふじい、洋学者)	T 2 1 9 9

静(せい・平山)	→	静(しずか・平山ひらやま、歌人)	T 2 1 0 1
聖(せい/しょう;一字名)	→	道興(どうこう;法諱、天台僧/修験/歌)	E 3 1 0 1
聖(せい/しょう;一字名)	→	道澄(どうちよう;法諱、天台門跡/連歌)	G 3 1 4 7
斎(せい・山口)	→	滄洲(そうしゅう・山口やまぐち、儒者)	H 2 5 7 6
済(せい・源)	→	済(わたる/わたす・源みなもと、廷臣/歌人)	5 3 4 4
済(せい・種村)	→	箕山(きざん・種村たねむら、儒者/詩人)	F 1 6 3 9
済(せい・岡田)	→	済(わたる・岡田おかだ、藩儒)	5 3 4 7
済(せい・芥川)	→	帰山(きざん・芥川あくたがわ、儒者)	K 1 6 7 0
済(せい・加藤)	→	霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人)	M 1 5 6 7
済(成せい→なる・北原/吉松)	→	秦里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画)	Q 2 2 0 4
霽(せい・中村)	→	水竹(すいちく・中村なかつむら、篆刻家)	E 2 3 8 5
成(せい;一字名・毛利)	→	秀就(ひでなり・毛利もうり、藩主/連歌)	D 3 7 4 8
成(せい・有馬)	→	白嶋(はくしよ・有馬ありま、儒者/詩)	D 3 6 3 2
成(せい・馬場)	→	逸斎(いっさい・馬場ばば、儒者/武術)	H 1 1 2 0
成(せい・樋口)	→	遯庵(かいあん・樋口ひぐち、藩士/儒者)	H 1 5 1 3
成(せい・岡本)	→	花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人)	C 1 5 5 7
成(せい・小町)	→	玉川(ぎよくせん・小町おまち、儒者/詩文)	P 1 6 2 0
成(せい・伴)	→	侗庵(とうあん・伴ばん、藩儒/詩人)	3 1 8 4
成(せい・牧野)	→	成著(しげあきら・牧野/田口、幕臣/文筆家)	Q 2 1 5 3
盛(せい・坂根/桃)	→	白鹿(はくろく・桃もも/とう・桃井もものい、儒者)	E 3 6 1 9
盛(せい・近衛/徳川)	→	宗睦室(むねちかのしつ・徳川、藩主夫人/歌)	B 4 2 6 1
盛(せい・日根野)	→	対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師)	K 2 6 1 0
誠(せい) すべて	→	誠(まこと)	
勢以(せい・森)	→	清子(せいこ・森もり/国島、国学/歌人)	O 2 4 5 2
2448 姓阿(せいあ;法諱)	?	?	平安後期の僧/阿闍梨大法師、 歌人;1172(承安2)広田社歌合参加(;俊恵・叡山僧静縁[浄縁]らと/判者俊成)、 [はふりこがさすさかきばに降る雪をちりてみだるる幣かとぞ見る]、 (広田歌合;廿八番左55、祝子はふりには神職)
2449 盛阿(清阿せいあ・田島/田嶋たじま)?-1438			武家、早歌の名手;坂阿はん(坂口盛勝)門、 口阿・蔭山入道実阿らと活動、細川満之に招聘/1408將軍義満催の早歌会に招聘、 心敬「ひとりごと」入(;清阿口阿とて二輪二翔の如く…)
2450 井阿(せいあ、井阿弥)	?	?	室町期能作者(世阿彌以前)、 「静」、「通盛」、「丹後物狂」著
2451 生阿(せいあ)	?	?	室町期連歌作者、 1445垂水入道日晟にちせい邸で宗砌ら「文安月ぶんあんつき千句」第七朝何の発句
H2411 青阿(せいあ)	?	?	室町期歌人;1457武家歌合参(正徹・心敬らと);3首入、 [かけそへし井垣のみしめ末終に契りありてやなびきあふらん](武家歌合;廿四番41)
H2412 青亞(青鴉せいあ・抱笙窠、名;玄甫)?-1687. 12月没			近江大津の僧、俳人、1685風瀑「一楼賦」入、 [白鷺の鯨どぞ夢見る柳かな](一楼賦)、 「猿蓑」に尚白の青亞追悼句入(;乳のみ子に世を渡したる師走哉)
C2451 井蛙(せいあ)	?	?	江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(99) [幅形はばりに富士を吹込む風の亭ちん](二葉之松;99/前句;寝るほど寐ては心よきもの)
H2413 青阿(せいあ・如雪庵)	?	?	江中後期京東山の双林寺の堂守、俳人; 1793「こからし集」編、1817「楽筆帖」編、「歳旦春興」編
H2414 青蛙(せいあ)	?	?	美濃大垣社中の俳人;暮来門、 1812暮来百日忌追善参加、「花霞集」編
正阿(せいあ、河合)	→	正阿(しょうあ/せいあ・河合、医者/俳人)	Q 2 2 7 0
成阿(せいあ)	→	成阿(じょうあ、僧/連歌作者)	Q 2 2 7 1
聖阿(せいあ)	→	聖阿(しょうあ、俳人)	Q 2 2 6 9
誠阿(せいあ・心蓮社深誉)	→	伝察(でんさつ・心蓮社、浄土僧)	D 3 0 5 1

- 誓阿(せいあ) → 元彊(もとたけ・上田うねだ、医者/歌人) C 4 4 8 9
- 誓阿(せいあ) → 秀嵩(ひでたか・宮川みやがわ、旅宿業/歌) L 3 7 3 9
- 正愛(せいあい・広田) → 正愛(まさちか・広田ひろた/度会、神職/国学) S 4 0 2 0
- 政愛(せいあい・杉) → 政愛(まさよし・杉すぎ、文筆家) I 4 0 6 1
- 政愛(せいあい・榊原) → 政愛(まさちか・榊原さかきばら/源、藩主/歌) M 4 0 8 0
- 盛愛(せいあい・猿渡) → 盛愛(もりえ・猿渡さわたり、神職/歌人) E 4 4 8 7
- 井蛙亭如水(せいあていじょすい) → 如水(じょすい・井蛙亭、狂歌) C 2 2 6 9
- 菁阿堂主人(せいあどうしゅじん) → 弘庵(こうあん・藤森、儒者) 1 9 0 3
- 井蛙坊(せいあぼう;号) → 水巴(すいは;号、武士/俳人) E 2 3 8 9
- 井阿弥(せいあみ) → 井阿(せいあ、能作者) 2 4 5 0
- 2451 **盛安**(せいあん) ? - ? 連歌作者、1487宗祇「葉守千句(珠玉庵千句)」入
- 2402 **省庵**(せいあん・安東あんど、安東親清2男) 1622-1701 80 筑後柳川藩士;1634-42(13-21歳)江戸住、  
 帰郷後柳川で修学/上京;儒;松永尺五門、柳川藩儒、朱舜水門;舜水の困窮を助ける、  
 1684「三忠伝」89「幼学類編」著/97「舜水文集」編、「伝統録」「愚得集」「草書韻略」「求是録」著、  
 「訓蒙要語」「啓蒙通解」「経翼群書集」「四書道德総図」「三書奇抄」「理学抄要」「双魚片鱗」著、  
 「詩書集伝朱蔡異同考」「増尾春栄伝」「恥斎漫録」著/「心喪集語」「立花戦功録」編、外編著多、  
 「省庵先生遺集」(門人山崎道貞編)、侗庵とうあんの父、  
 [省庵(;号)の名/字/通称/別号]名;親善(初名)/守正/守約、字;魯黙/子牧、  
 通称;四郎/市之進/助四郎、別号;恥斎
- 2454 **政安**(せいあん) ? - ? 伊勢の俳人・梅盛門、  
 1668梅盛「細少石さざれい」入;69句
- H2415 **生庵**(せいあん・石橋いしばし、名;辰章) 1641-? 1697存 江前期医者;紀州和歌山藩家老三浦家の侍医、  
 文学・芸能に興味;日記入、「蓬聴夜話」「家乗」著、  
 [生庵(;通称)の号] 忍斎
- H2416 **静安**(せいあん・中山なかやま、名;盛直、倉光盛次男) 1680-? 羽後秋田の医者;吉原蘇庵門、中山に改姓、  
 上京し儒学浅見綱斎門;闇斎学修学、帰郷師秋田藩の闇斎学派の祖、1720「角館道ノ記」著、  
 [静安(;通称)の別通称/号]別通称;寿庵/専庵/道伯、号;梅庵、盛貞の父/菁菘せいのかの祖父
- H2417 **省庵**(せいあん・原はら、別号;若一子) ?-? 江中期大阪伏見町の医者、  
 1728「夜光珠」編(;毒性と公衆衛生を説く書)
- H2418 **清庵**(2世せいあん・建部たけべ、名;由正/由朴、元水[初世清庵]男) 1712-82 71 代々陸中、  
 医;1730陸前仙台で松井寿哲門/蘭方外科;江戸の富永従意門、帰郷;一関藩医、  
 寛延宝暦1748-64の飢餓に対策書を著し救済に尽力、真の蘭医学を求め杉田玄白と親交、  
 1755「民間備荒録」70「和蘭医事問答問」71「備荒草木図」82「癘風秘録」、「清菴漫筆」著、  
 3男亮策・5男勤・門人大槻玄沢を杉田玄白に入門させる、  
 亮策は3世清庵を継嗣・勤は玄白の養嗣杉田伯元となる  
 [清庵(;通称)の字/号]字;元策、号;寧静館
- H2419 **清庵**(せいあん・小県おがた、名;公器きんかた/常臣) つねおみ 1714-1803 長寿 90 近江彦根藩に医者として出仕、  
 1778御医師、1783文庫修蔵館を開設、国学者、1790致仕、  
 のち藩校稽古館創設に際し修蔵館蔵書を献上、  
 「滯下方論」著(1808刊)、嗣子;静庵(称を継嗣)、  
 [清庵(;通称)の字/号]字;子璉、号;石山/修蔵館
- H2430 **正安**(せいあん・土井どい) ? - ? 江中後期医者;吉益東洞[1702-73]門、  
 1825東洞家集「東洞翁遺草」編・刊、  
 [正安(;名)の通称] 存庵
- H2420 **静安**(せいあん・篠原しのはら、名;惟秀、北田太兵衛2男) 1745-1812 68 上総の医者/儒;稲葉黙齋門、  
 師没後上総成東村で医業;篠原に改姓、漢学を講ず、「清谷話録」「訓門人開卷講義」、  
 「黙翁小学講義」/1790「黙齋再講冬至文筆記」99「黙齋先生易本義口義」著、外編著多、  
 [静安(;号)の通称] 与五右衛門
- H2421 **正庵**(せいあん;号・加藤かとう、名;公達こうき) 1745-? 1818存 尾張の外科医/漢学者、1803隠居、  
 1811「春秋左氏国字辨」、「傷寒論古伝附録」著

- H2422 **静庵**(せいあん・川上かわかみ、名;義胤よしね) ?-?天明1781-89頃没 江中期大阪京橋の国学者;  
国学教授を業とす、1792「万葉集話」(没後刊?)、「源氏物語断綿」著、  
[静庵( ;通称)の字/号]字;子燕、号;遮莫しゃばく/臨江齋/東園
- H2423 **誠安**(せいあん;通称・林はやし) ?- ? 江後期美濃大垣の医者、  
江戸筋違御門外御成小路で医業、1791犬塚印南の紹介で林家入門、「霊蘭自怡」著
- H2424 **済庵**(せいあん・高橋たかはし、藩医並河宗方男) 1765-1834 70 大和郡山藩医高橋政勝の養子、  
医者;父門/1786郡山藩の医員、上京し医学;中西深齋門/本草学;小野蘭山門、書に長ず、  
詩:皆川淇園門、1795-97江戸藩邸詰/帰国/1824侍医、1809「調神社歳旦詩集」著、  
1827「済菴詩集」、「傷寒論摘要歌及自註」「類聚日用方」著、  
[済庵( ;号)の名/字/通称/別号]名;政順/順徳、字;徳郷、通称;仙益、別号;謙齋
- H2425 **静庵**(せいあん・宇留野うるの、名;弘) ?-? 常陸水戸藩士;1816彰考館入、1841弘道館訓導、  
1859(安政6)「旅中見聞筆記常総」著、  
[静庵( ;号)の字/通称/別号]字;毅卿、通称;、別号;秋齋
- H2426 **静庵**(せいあん・沢田さわだ、名;重徽) 1785-1862 78 信濃木曾福島の儒者/尾張藩木曾代官山村家家臣、  
経学;大田錦城門/詩;菊池五山門/のち山村家江戸屋敷留守居番/儒学;松崎慊堂こうどう門、  
1820代官山村良由・良喬に従い武居敬齋らと学問所を設立;子弟教育、兵法・禅学にも通ず、  
「薫風楼集」「木曾旧言」「木曾古道記追考」「方言彙」「岐山遺玉」「櫓拙情話」「齋々一助」著、  
「朝昏記聞」「藩南精舎詩」著、沢田世瑞の孫、  
[静庵( ;号)の字/通称/別号]字;伯猷、通称;斧象、別号;岨山/藩南
- H2427 **静庵**(せいあん・巽たつみ、名;行精、行天男) 1792-1867 76 京の書家;1806(15歳)書の教授、1842剃髮、  
1843大坂に移住/1867帰京;没、1850「新庭訓往来」51「女文章指南車」著、  
[静庵( ;剃髮後の号)の字/別号]字;常勇、別号;康甫
- H2428 **精庵**(せいあん・小沢おざわ) 1798-1864 67 相模小田原藩士/のち藩を去り漂泊、  
越後蒲原で儒学を教授、西洋事情を考察;兵学・砲術・天文を研究、  
出雲崎代官篠本為直・新潟奉行根岸衛奮に重用される、1857江戸で幕府に開国上書提出、  
不採用、1845「辨志録」59「辺備警言」53-54「小沢新兵衛呈書」、「越後武林伝」「百際漫録」、  
「眼学新書」「喚酔」「癸卯災異録」「語辞喘」「三藩通史」「鍼砭しんへん録」「読史牖とくしゅう」外著多、  
[精庵( ;号)の名/字/通称/別号]名;斑美/孱守せんしゅ、字;自炤、通称;新兵衛、別号;嶺峨
- H2429 **省庵**(せいあん・河津かわづ、名;卓/字;子立) 1800-52 53 相模相原村の医者;初め古医方を修学、  
蘭方医学;宇田川榛齋・緒方洪庵門/1823シーボルト門、漢学;伊豆の芳川波山門、  
波山が武蔵忍お藩儒になると随行/波山の推挙で忍藩医に抜擢、眼科に精通、  
何度かの解剖経験により1840「医則發揮」著、「医則發揮抜抄」「眼科方規」「治療大全」、  
「内景図」「胎児全書」「動物質論」「植物性論」「病原覈論かくろん」
- 2456 **成庵**(せいあん・西坂にしざか、名;衷) 1805-62 58 加賀金沢藩儒;初め藩校明倫館で大島賛川門、  
兵法;清水赤城門、1831藩命で江戸昌平黌に修学;安積良齋・大槻磐溪と交流、  
帰藩;明倫堂仮助教/1853助教、他方私塾孝友堂で子弟教育、「成庵襍説どっせつ」「謙山詩文」、  
「本藩政要」「華夷十辨」「皇国蒙求」「諸藩学政記」「籌海奏議」/1838「垂統別史」外著多数、  
[成庵( ;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;権次郎/余所之助/常八、字;天錫てんしゃく、  
通称;錫、別号;謙山、椿台老人
- H2431 **精庵**(せいあん・蒲生がもう、名;重章/章) 1833-1901 69 越後の医者;多紀菫亭門、儒者;加藤松齋門、  
経義を修学、越後村松藩儒医;執政と合わず辞職;諸国遍歴、維新後東京で議政官吏官、  
「夢見録」、「近世佳人伝」「近世偉人伝」著、詩人:1865松塘「房山楼詩」編、  
[精庵( ;号)の字/別号]字;子闇/意賛、  
別号;契亭けいてい/省庵/白囊子/蠖屈潜夫/青天白日楼主人/綱亭けいてい
- H2432 **省庵**(せいあん・桑田くわた/初姓;小久保、名;衡平) 1834-1905 72 武蔵川越の製茶専業農家の生、  
医者:1856江戸で坪井信良門/信良の仲介で桑田立齋の養嗣子、杉田玄端門、訳書出版、  
一時高林省庵を称す、維新後;陸軍軍医/内務省准奏任御用掛など歴任、  
1863「遠西解毒篇」「薩偲斯氏解毒篇」訳、  
[省庵( ;通称)の別号] 鉄幹

成安(せいあん・正法寺/堺)→ 成安(じょうあん・正法寺/俗姓;成安なりやす、俳人) G 2 2 6 7

青庵(せいあん・細川)	→	昌庵(しょうあん・細川ほそかわ、医者/俳人)	V 2 2 2 1
清庵(せいあん;道号)	→	宗胃(そうい;法諱・清庵;道号、臨濟僧)	2 5 5 0
清庵(せいあん・水田)	→	正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人)	4 0 1 7
清安(せいあん・山田)	→	清安(きよやす・山田やまだ、藩士/国学者)	D 1 6 6 9
清安(せいあん・鳥居)	→	清安(きよやす・鳥居とりい、絵師)	Q 1 6 3 7
靖庵(せいあん・馬島)	→	穀生(としなり・馬島まじま/水野、医・国学)	W 3 1 3 9
請安(せいあん・南淵)	→	請安(しょうあん・南淵みなぶち、学問僧)	Q 2 2 7 8
蜻菴(せいあん)	→	応胤親王(おういんしんのう、天台座主)	C 1 4 3 1
静庵(せいあん・佐々木)	→	志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家)	U 2 1 0 7
静庵(せいあん)	→	道祐(どうゆう・黒川玄逸、医/儒/地誌)	3 1 2 6
静庵(清菴せいあん・西村)	→	貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人)	I 2 0 3 6
静庵(せいあん・花井)	→	健吉(けんきち・花井はない、算学/測量家)	I 1 8 4 1
静庵(せいあん・橋本)	→	香坡(こうは・橋本はしもと、儒者/詩/勤王)	F 1 9 3 4
静安(せいあん・山澄)	→	延年(えんねん・山澄やまざみ、医者)	F 1 3 3 0
静安(せいあん・岡田)	→	華陽(かよう・岡田おかだ、医者/詩)	P 1 5 6 0
西庵(せいあん;道号・中蓮)	→	中蓮(ちゅうれん;法諱・西庵、臨濟僧)	H 2 8 0 0
醒庵(省庵:せいあん・井戸)	→	南濤(なんとう・陶山すやま、儒医)	J 3 2 3 4
省庵(せいあん・田中)	→	清溪(せいけい・田中、医/儒詩)	H 2 4 9 5
惺庵(せいあん)	→	西馬(さいば、富処[所]、俳人)	B 2 0 0 5
正庵(せいあん・竹内)	→	式部(しきぶ、竹内たけのうち、垂加神道家)	B 2 1 5 4
正庵(せいあん)	→	綱条(つなえだ・朽木くつき、藩主/儒/詩)	B 2 9 0 3
正庵(せいあん・辛島)	→	春帆(しゅんぱん・辛島からしま、医者/詩人)	K 2 1 4 0
正庵(せいあん・勝俣)	→	秀安(ひでやす・勝俣かつまた、医者/国学)	J 3 7 0 7
正安(せいあん・奥平)	→	正安(まさやす・奥平おくだいら、藩士/儒者)	I 4 0 0 4
正安(せいあん・野口)	→	東溟(とうめい・野口、儒者/開塾/尊攘)	H 3 1 3 7
正安(せいあん・河本)	→	正安(まさやす・河本/川本、医者詩文)	I 4 0 1 4
正安(せいあん・梶川)	→	正安(まさやす・梶川かじかわ/宮崎、藩士)	O 4 0 8 2
生闇(せいあん;号)	→	有筋(ゆうせつ;道号・瑞保/周保;法諱、臨濟僧/詩人)	D 4 6 0 5
政安(せいあん・今田)	→	政安(まさやす・今田いまだ、和算家)	I 4 0 1 1
政安(せいあん・中原)	→	政安(まさやす・中原なかはら、和算家)	I 4 0 1 2
盛庵(せいあん・小島)	→	瑞(ずい・小島こじま、医者)	2 3 1 9
霽庵(せいあん・後藤)	→	鷲眠(りゅみん・後藤ごとう、俳人)	C 5 2 4 3

H2433 **贅庵**(ぜいあん・桜田さくらだ、名;景雄、景明男)1767-1838<sup>72</sup> 仙台の儒者、生来病弱のため出仕せず、  
 独学で経義を修得/周易に精通、1792「詩集并景雄詠草」著、病弱の割には長命、  
 [贅庵(;号)の通称/別号]通称;栄助/門弥、別号;崇易叟、虎門の兄、澹斎・簡斎の父

弟	→	虎門(こもん・桜田景質、儒者)	F 1 9 9 0
息	→	澹斎(たんさい・桜田景行、儒者)	I 2 6 7 0
	→	簡斎(かんさい・桜田景迪、儒者)	Q 1 5 6 1

H2434 **贅庵**(ぜいあん・岩本/巖本おむと、修姓;巖、名;復、景寛の長男)1792-1863<sup>72</sup> 徳島藩家老賀島家の臣、  
 病身のため家督を弟に譲渡/江戸で儒者;古賀洞庵門/詩文に長ず、晩年は経書に通ず、  
 賀島家の司読となる、梁川星巖・横山湖山・黒田東園と詩友、新居水竹・有井進斎らの師、  
 1853「白鹿洞揭示図解」著、「贅庵遺稿」、

[贅庵(;号)の字/通称]字;不遠、通称;大介/尚作

静安居(せいあんきよ)	→	榴園(りゅうえん・江馬えま/飯尾、蘭医)	D 4 9 0 3
栖安軒(せいあんけん)	→	琳公(りんこう、説話伝承)	K 4 9 2 1
靖斎斎(せいあんさい;号)	→	等恵(とうけい/とうえ;法諱、僧/連歌)	D 3 1 0 2
西庵中蓮(せいあんちゅうれん)	→	中蓮(ちゅうれん・西庵、臨濟僧)	H 2 8 0 0

G2403 **誠安尼**(せいあんに・松平まつだいら、田安宗武女?)?-? 伊予松山藩主松平定国(宗武男)の妹、  
 丹波亀山藩主松平信道の妻;藩主信彰のぶたかの母、出家、  
 歌人;冷泉家門、1798刊広通「霞関集」入、

[日ぐらしの声ひびきあふ夏山の木陰や風のやどりなるらん](霞関;夏326)

2457 西衣(せいゐ) ? - ? 俳人、1788「探荷集第四編」編

J2479 誠意(せいゐ・太田おた、通称;小太郎)?-? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[海士あまの子が拾ふ難波の桜貝花の浪よる春風ぞ吹く](大江戸倭歌;360/春人事)

正意(せいゐ・堀) → 杏庵(きょうあん・堀ほり、医者/儒者) 1 6 2 9

正意(せいゐ・小川) → 正意(まさおき・小川おがわ、曆法家) B 4 0 4 6

正意(せいゐ・松井) → 美澄(みはる・松井/源、藩医/国学者) F 4 1 7 4

正意(せいゐ・久保倉) → 正意(まさり・久保倉くぼくら、国学者) P 4 0 3 8

正意(せいゐ・佐野) → 正意(まさり・佐野さの、藩士/国学者) P 4 0 9 1

正夷(せいゐ→まさひな・佐竹) → 蓬平(ほうへい・佐竹さたけ/野口、絵師) C 3 9 4 9

正倚(せいゐ・稲葉) → 正倚(まさより・稲葉いなば、幕臣/歌人) I 4 0 8 1

正猗(せいゐ・尾見/石島) → 筑波(つば・石島/石/尾見、浪人/儒詩) 2 9 7 9

正為(せいゐ・重田) → 蘭溪(らんけい・重田しげた、儒者/医者) B 4 8 8 9

正遺(せいゐ・朝山) → 嘉寛(よしひろ・朝山あさやま/勝部、神職) L 4 7 2 4

成以(せいゐ・渡辺) → 成以(しげもち・渡辺/渡部、藩士/書家) S 2 1 9 2

成為(せいゐ・三木) → 成為(しげため・三木みき、読本作者) C 2 1 3 7

成為(せいゐ・佐治) → 成為(なりため・佐治さじ、藩士/歌人) M 3 2 1 8

成意(せいゐ・野口) → 成意(なりもと・野口にのぐち、神道/心学) O 3 2 2 4

政以(せいゐ・荏戸) → 政以(まさもち・荏戸のぞき、藩士/実学) H 4 0 8 2

政為(せいゐ・冷泉) → 政為(まさため・冷泉/藤原、廷臣/歌人) 4 0 1 0

政彝(せいゐ・宍戸ししど) → 政彝(まさつね・宍戸ししど、商家/和算家) E 4 0 1 6

性威(せいゐ、沙彌) → 性威(しょうゐ;号、神資脩、室町幕臣/歌人) Q 2 2 8 3

清以(せいゐ・二宮) → 清以(きよゆき・二宮にのみや/平、歌人) U 1 6 9 4

清矣(せいゐ・高島) → 清矣(きよなり・高島たかしま/一井、藩士) U 1 6 6 2

清為(せいゐ・中大路) → 清為(きよため・中大路なかおおじ/賀茂、神職/連歌) P 1 6 8 7

清漪(せいゐ→きよなみ・蜂屋) → 茂橋(もきつ・蜂屋はちや/源、幕臣/随筆) 4 4 6 2

精意(せいゐ・栗原/宮崎) → 通泰(みちやす・宮崎/栗原、医者/歌) C 4 1 7 5

静伊(せいゐ;法諱) → 静伊(じょうゐ、園城寺権僧正、歌人) Q 2 2 8 8

誠意(せいゐ・加部) → 誠斎(せいざい・加部かべ、医/儒者) I 2 4 2 5

誠意(せいゐ・堀家) → 是経(これつね・堀家ほりけ、神職/国学) R 1 9 2 8

世彝(せいゐ・石野) → 雲嶺(うんれい・石野、儒者) E 1 2 1 5

世育(せいゐ・芳野) → 金陵(きんりょう・芳野よしの、儒者) E 1 6 9 3

H2435 精一(せいゐち・深田ふかだ、香実の長男) 1802-1855<sup>54</sup> 尾張名古屋藩儒;家学を受ける、  
兵学;中山君練門、煎茶法に精通、1835藩主交替時[金鉄連]に参加し藩の幕府姿勢をとる、  
1846「黙黙余声」1849「煎茶訣」、「諭等放言」著、

[精一(;)の号] 百信庵/放下叟/木石居

2458 清一(せいゐち・杉山すぎやま、字;堯陳)?-? 江後期幕臣;紅葉山文庫に出仕、

1844「官版書籍解題略」編、「足利学校考」著/「金沢文庫考」「官版書籍解題目録抄」編

H2436 清一(せいゐち・川本かわもと、幸民長男)?-? 江後期洋学者;開成所助教、1870太政官に出仕、

1865「歩兵制律」訳、「歩兵必携」著

H2437 誠一(せいゐち・鈴木すずき、名;元規、絵師鈴木其一男)?-1882 江戸の絵師、「日光山御祭礼之図」

正一(せいゐち・阿部) → 正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約) H 4 0 0 1

政一(せいゐち・福原) → 政一(まさかず・福原ふくはら、歌人)

政一(せいゐち・佐分利) → 政一(まさかず・佐分利/佐分さぶり、家老) B 4 0 8 2

聖一(せいゐち→聖一しょういち国師) → 円爾(えんに、天台/臨濟僧) B 1 3 2 7

静一(せいゐち・伊庭) → 一貫堂(いっかんどう・伊庭いば、儒者) G 1 1 8 6

清一(せいゐち・松川) → 庸興(つねおき・松川まつかわ、神職/国学) G 2 9 3 7

精一(せいゐち・谷口) → 渭陽(いよう・谷口たにぐち、儒者/詩人) I 1 1 3 5

精一(せいゐち・滝沢/高齋) → 単山(たんざん・高齋こうさい/滝沢、書家) I 2 6 7 7

- 精一(せいいち・村田) → 中玄(ちゅうげん・村田むらた、医者) F 2 8 9 9
- 精一(せいいち・山岡/高橋) → 泥舟(でいしゅう・高橋、幕臣/槍術家) B 3 0 1 2
- 精一(せいいち・伊藤) → 慎蔵(しんぞう・伊藤いとう、蘭学者) P 2 2 2 5
- 精一(せいいち・高田) → 茂敏(しげとし・高田たかた、商家/歌人) Z 2 1 2 8
- 精一(せいいち・広田) → 執中(もりなか・広田ひろた、藩士/勤王) L 4 4 1 6
- 成一(せいいち・貴島) → 北秀(ほくしゅう・葛飾かつしか、絵師) D 3 9 4 1
- 成一(せいいち・藤木) → 成一(しげかず・藤木/賀茂、医;鍼博士) Q 2 1 7 4
- 成一(せいいち・島川) → 成一(なりかず・島川しまかわ、国学/神職) N 3 2 3 3
- 誠一(成一せいいち・中村) → 雪樹(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) H 4 6 0 5
- 静一居士(せいいちこじ) → 松亭(しょうてい・三上みかみ、医者/詩人) U 2 2 0 0
- 静一上人(せいいちどうじん) → 松亭(しょうてい・三上みかみ、医者/詩人) U 2 2 0 0
- 斉一郎(せいいちろう・本庄) → 星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒) C 2 4 4 7
- 正一郎(せいいちろう・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学者) B 4 5 9 5
- 政一郎(せいいちろう・原田) → 蘇堂(そどう・原田はらだ、藩儒者) K 2 5 2 2
- 誠一郎(せいいちろう・近藤) → 眞琴(まこと・近藤こんどう、洋学/海軍) 4 0 8 0
- 誠一郎(せいいちろう・藤田) → 容斎(ようさい・藤田ふじた、儒/教育者/詩) B 4 7 0 0
- 誠一郎(せいいちろう・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9
- 清一郎(せいいちろう・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3
- 清一郎(せいいちろう・久米) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4
- 清市郎(せいいちろう・十一屋) → 昌光(まさみつ・羽間はざま/井岡/村上、商家/国学) R 4 0 5 6
- 精一郎(せいいちろう・武居) → 筋庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9
- 精一郎(せいいちろう・千村) → 政成(まさなり・千村ちむら、歌人) Q 4 0 9 0
- 精一郎(せいいちろう・青木) → 菴(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8
- 静一郎(せいいちろう・市川) → 菴(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8
- 静一郎(せいいちろう・木宮) → 磐根(いわね・木宮きみや、戸長、国学/歌) K 1 1 1 5
- 2461 清一(せいいつ) ? - ? 室町後期法師/連歌;  
1482通直願主「大山祇社法楽連歌」(万句)参加
- 2459 清一(せいいつ) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子集」3句入、  
[毛をふくや虎の尾も散る花の風](犬子集;二364)、  
(毛を吹いて疵ぎを求む;他人の欠点を探し自分の欠点を曝す/虎の尾を踏むを匂わす)
- 2460 盛一(せいいつ) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子集」6句入、  
[花咲かぬ梅の木だちは無作ぶさく哉](犬子集;一158/小太刀で言えば無作;技倆なし)
- H2438 清溢(せいいつ・灌園房) ? - ? 江後期池坊華道家、1853「生花百瓶図」「生花百花式」
- 正乙(せいいつ・堀) → 槐庵(かいあん・堀ほり、儒者) I 1 5 3 2
- 正逸(せいいつ・磯部) → 正逸(まさはや・磯部いそべ、神職/国学) N 4 0 6 7
- 世逸(せいいつ・藤田) → 丹岳(たんがく・藤田ふじた、医者/儒者) T 2 6 2 6
- 清逸(せいいつ・川合) → 清逸(きよはや・川合かわい、国学者) T 1 6 9 5
- 清逸(せいいつ・原) → 吉門(よしかど・原はら/藤原、神職/国学) O 4 7 6 4
- 静逸斎(せいいつさい・梅) → 智波也(ちはや・梅とが、神職/国学者) N 2 8 0 6
- 静頤堂(せいいつどう) → 文筋(ぶんせつ・林はやし、医者) F 3 8 9 7
- C2454 濟胤(せいいつ;法諱、僧綱円男)?-? 平安後期僧;法印/権大僧都、歌人藤原師綱の孫、  
律師親遍の父、寂超「後葉集」259は清胤しょういんの誤写
- L2452 西胤(せいいつ;道号・俊承しゅんしょう;法諱) 1358-1422<sup>65</sup> 筑後の臨濟僧・絶海中津門/法嗣、詩人、  
遠江の平田寺住持/1414京の相国寺23世/相国寺勝定院内雲巢軒に退隠/嵯峨雲松軒住、  
玉泉寺住持、1403「絶海和尚語録」編、「真愚稿」著、  
[西胤俊承の号] 関西/真愚/紫陽
- H2439 清陰(せいいつん・三浦みづら、名;与稽/字;元卿)?-? 江中期石見の儒者;山県周南門、  
1744「知非編」-46「答問疑」著
- H2440 清蔭(せいいつん/きよかげ・木村きむら、名;元昌/坦之) 1744-76<sup>33</sup> 三河吉田呉服町の富商;九文字屋主人、  
詩:竜草廬(公美)門/歌;建部綾足門、詩歌・俳諧・片歌を嗜む、植田義方と交流、



「寓木集」著(没後:1803刊)、孫;木村紅蓼(伊左衛門昌教/1778-1836/商家/絵師)、  
 [清蔭(号)の字/通称]字;履道、通称;伊左衛門

清因(せいゐん・大平)	→	蘆平(あしひら・大平おだいら/鎮西、神職/詩歌)	H 1 0 2 5
清因(せいゐん・佐野)	→	尚友(しょうゆう・佐野さの、日蓮僧/国学)	U 2 2 8 6
清因(せいゐん・佐分利)	→	清因(きよより・佐分利/佐分さぶり、里正/国学)	U 1 6 3 9
清胤(せいゐん;法諱)	→	清胤(清因しょうゐん;法諱、天台僧/歌)	G 2 2 7 5
清胤(せいゐん・大中臣)	→	清胤(きよたね・大中臣おおなかとみ、歌人)	P 1 6 8 4
清胤(せいゐん・水谷/栗津)	→	清胤(きよたね・栗津あわづ/中原、廷臣)	P 1 6 8 5
清胤(せいゐん・中御門/烏丸)	→	光胤(みつたね・烏丸からすまる/藤原、歌人)	D 4 1 8 2
清胤(精胤せいゐん・千葉)	→	清胤(きよたね・千葉ちば、和学者)	I 1 6 9 3
清陰(せいゐん・高橋)	→	俊壽(としひさ・高橋たかはし、廷臣)	N 3 1 4 7
清蔭(せいゐん・源)	→	清蔭(きよかげ・源みなもと、陽成天皇皇子/歌)	1 6 4 7
清蔭(せいゐん・藤原)	→	清蔭(きよたか・藤原ふじわら、廷臣/歌人)	H 1 6 4 5
清蔭(せいゐん・桜戸)	→	綱雄(つなお・岩崎、国学者)	B 2 9 0 4
清蔭(せいゐん・丸尾)	→	俊夫(敏夫としお・木下、歌人)	M 3 1 0 9
清蔭(せいゐん・杉本)	→	清蔭(きよかげ・杉本すぎもと、池田屋/商家/歌)	O 1 6 6 8
清蔭(せいゐん・楠瀬)	→	清蔭(きよかげ・楠瀬くすせ、藩士歌人)	T 1 6 9 8
清蔭(せいゐん・若泉)	→	清蔭(きよかげ・若泉わかいずみ、歌人)	S 1 6 9 4
清蔭(せいゐん・山口)	→	清蔭(きよかげ・山口やまぐち、歌人)	S 1 6 9 5
清蔭(せいゐん・榎本)	→	清蔭(きよかげ・榎本えのもと、藩士/国学)	T 1 6 6 3
清蔭(せいゐん・松井)	→	清蔭(きよかげ・松井まつい、歌人)	V 1 6 2 3
静因(せいゐん;法名)	→	実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣)	D 2 0 1 7
静伊(せいゐん;法諱)	→	静伊(じょうゐ、園城寺権僧正、歌人)	Q 2 2 8 8
静隠(せいゐん・木村)	→	探元(たんげん・木村/平、絵師)	T 2 6 4 0
静胤(せいゐん;法諱)	→	静胤(じょうゐん;法諱、天台多武峯僧)	F 2 2 2 2
晴陰(せいゐん・佐藤)	→	晴陰(はるかかげ・佐藤さとう、幕臣/歌人)	L 3 6 1 5
成允(せいゐん・多田)	→	暘谷(ようこく・多田ただ、儒者)	4 7 8 1
成允(せいゐん)	→	成允(じょうゐん;法諱・惟一いち;道号、曹洞僧)	G 2 2 8 9
成允(せいゐん・三須)	→	竊水(とうすい・三須みす、儒者)	F 3 1 7 5
成允(せいゐん・金井)	→	質直(ただなお・金井、藩士/蝦夷郡代)	Q 2 6 2 5
成允(せいゐん・荒尾)	→	成允(しげまさ・荒尾あらお、幕臣/外交)	S 2 1 6 7
成胤(せいゐん)	→	成胤(じょうゐん、連歌作者)	G 2 2 8 6
政胤(せいゐん・山名)	→	政胤(まさたね・山名やまな、和学者)	T 4 0 5 1
政胤(せいゐん/まさたね・安井/島尾)	→	大江丸(おおえまる・大伴、飛脚問屋/俳人)	1 4 0 3
政胤(せいゐん・町野)	→	政胤(まさたね・町野まちの、藩士/歌人)	Q 4 0 1 2
政員(せいゐん・三溝)	→	政員(まさかず・三溝さみぞ、国学/教育者)	P 4 0 7 8
政尹(せいゐん・小堀)	→	政尹(まさただ・小堀/浅井、幕臣/茶人)	D 4 0 4 8
政尹(せいゐん・難波)	→	政尹(まさただ・難波なんば、歌人)	R 4 0 3 1
政因(せいゐん・半谷)	→	政因(まさより・半谷はんにたに/藤原、神職)	S 4 0 0 2
盛尹(せいゐん・堤)	→	盛尹(もりただ・堤つみ、神職/国学)	K 4 4 6 1
盛員(せいゐん・友安)	→	盛員(もりかず・友安ともやす、神職)	F 4 4 2 7
盛員(せいゐん・堤)	→	盛員(もりかず・堤/荒木田、神職/国学)	F 4 4 2 8
盛胤(せいゐん・関)	→	盛胤(もりたね・関せき、薬種業/史家)	F 4 4 6 5
正韵(せいゐん・招月軒)	→	正韵(しょうゐん;号、招月軒/歌・連歌)	F 2 2 1 2
正殷(せいゐん・小倉おぐら)	→	竹苞(ちくほう・小倉、儒者)	D 2 8 7 8
正因(せいゐん・伊丹)	→	正因(まさより・伊丹いたみ、俳人)	L 4 0 5 3
正因(せいゐん)	→	正因(しょうゐん;法諱、禅僧/歌人)	V 2 2 5 0
正因(せいゐん・高森)	→	正因(まさよし・高森、医者/歌人)	I 4 0 4 5
正因(せいゐん・牛丸/菊池)	→	景福(けいふく・菊池さくち、医者)	G 1 8 6 0
正因(せいゐん・前波)	→	正因(まさより・前波まえなみ、藩士)	I 4 0 8 2

- 正因(せいゐん・山田) → 正因(まさより・山田やまだ、随筆) I 4 0 8 3  
 正因(せいゐん・柚木崎) → 正因(まさより・柚木崎ゆきさき、郷土/国学) T 4 0 6 2  
 正尹(せいゐん・和田) → 省齋(せいさい・和田わだ、藩儒/暦学/詩) B 2 4 5 3  
 正贄(せいゐん・増山) → 正贄(まさよし・増山ましま/藤原、藩主) I 4 0 5 4  
 正贄(せいゐん・浅井) → 正贄(まさとし・浅井、藩医者) E 4 0 5 2  
 正隠(せいゐん・藤村) → 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人) C 4 8 4 3  
 正蔭(せいゐん・中臣) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
 正蔭(せいゐん・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学者) B 4 5 9 5  
 正胤(せいゐん)すべて → 正胤(まさたね)  
 正員(せいゐん)すべて → 正員(まさかず)  
 正殷(せいゐん・六郷) → 正殷(まさただ・六郷ろくごう、藩主/歌) M 4 0 8 1  
 性胤(せいゐん/しょうゐん) → 常胤親王(じょうゐんしんのう、天台座首/連歌) F 2 2 2 4  
 聖引(せいゐん;号) → 大玄(だいげん;法諱、浄土僧/戒律) J 2 6 9 0  
 晴蔭(せいゐん;道号) → 音竺(おんじく;法諱・晴蔭、臨濟僧) D 1 4 4 5  
 濟蔭(せいゐん・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5  
 西隠師(せいゐんし) → 大魯(だいろ;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 6  
 青蔭舎(せいゐんしゃ) → 正克(まさかつ・橋村/度会、神職/歌/書) C 4 0 1 2  
 清筠舎(せいゐんしゃ) → 嵩鶴(すうかく・桜井さくらい、絵師) F 2 3 2 2  
 西胤俊承(せいゐんしゅんしょう) → 俊承(しゅんしょう、五山文学) J 2 1 9 2  
 清陰亭(せいゐんてい) → 知次(ともつぐ・青山、藩家老) P 3 1 8 1  
 2462 青雨(せいう・春草舎、通称;若狭屋七兵衛)?-? 江中期安藝広島の俳人;風律門、  
 1775「いしなとり」編(風律序)、69蝶夢「己丑墨直し」/76几董「続明鳥」入、刷物「遊嵯峨吟」、  
 [十六夜いざよひやしはし黒谷くろだに真如しんによ堂](続明鳥;542/十六夜にそぞろ歩きを掛る)  
 H2441 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、名;正衡まさひら、阪元正芳男)1767-184074 日向都城儒者:  
 1790皆川淇園門、一時;種子田利智の養子/のち復籍、都城領主の師傅、  
 稽古館学頭/学校奉行を歴任、  
 「論語実義」「大学実義」「中庸実義」「孟子実義」「啓蒙字義」「孝経字義」「小学字義」著、  
 [生字(字)の別字/通称/号] 別字;土鍾、通称;間五/喜兵衛/伊兵衛、号;牛庵  
 2464 静雨(せいう・梅笠庵) ? - ? 安藝広島の俳人;1834「百五十日々記」著(/和切跋)  
 整宇(せいう・林) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3  
 清宇(せいう・古野) → 元軌(げんき・古野ふるの、藩士/儒者) B 1 8 4 9  
 青宇(せいう・木綿屋/丘崎) → 俊平(としひら・丘崎/丘岬/岡崎おかざき、国学者) N 3 1 5 7  
 青軒(せいう・溝口) → 素丸(2世そまる・溝口/吉田、幕臣/俳人) E 2 5 3 6  
 静宇(せいう・河合) → 専堯(もろたか・河合/仙石、藩士/教育) H 4 4 3 4  
 正羽(せいう→まさゆき・栗崎) → 道有(どうゆう・栗崎、外科医者) H 3 1 6 4  
 正羽(せいう・松本) → 正羽(まさのぶ・松本まつもと/藤原、藩士/歌) S 4 0 7 6  
 省宇(せいう・立川) → 伸(しん・立川たちかわ、藩士/寺伝) N 2 2 1 9  
 霽宇(霽雨せいう・深川) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
 聖雨齋(せいうさい・瀬谷) → 桐齋(とうさい・瀬谷せや、藩士/儒者) E 3 1 2 3  
 星鳥亭(せいうてい) → 有中(ゆうちゅう・星鳥亭、俳人) G 4 6 2 1  
 2463 成運(せいうん・じょううん、通称;行全坊)?-? 鎌倉末期叡山僧;天台宗法印/権大僧都、  
 二条派法体歌人、「比叡社ひえのやしろの歌合」参加、続現葉集入、  
 勅撰5首;続千載(952/997)新千載(866/924)新拾遺(1420)、  
 [さざなみや霞む船路をつたひきて花にぞなるる志賀の山越え](比叡社歌合;六番左)  
 2465 栖雲(せいうん) ? - ? 連歌、1557三条西公条催「弘治三年千句」入  
 2466 青雲(せいうん・松木まつき) ? - ? 江前期甲斐の生/江戸住/俳人、桂林の父、  
 1678幽山「江戸八百韻」(八吟)参加、「俳諧当世男」入  
 正運(せいうん・宮永) → 正運(まさゆき・宮永みやなが、農政家/俳人) I 4 0 2 6  
 斉雲(せいうん;道号) → 斉雲(さいうん;道号・道棟、黄檗僧) N 2 0 1 9  
 政運(せいうん・志賀/宮川) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8

聖雲(せいうん) → 聖雲法親王(しょううんほっしんのう、僧/歌人) C 2 2 4 8  
 棲雲(せいうん) → 長教(ながのり・今村、医者) F 3 2 3 4  
 青雲(せいうん) → 前豊(さきとよ・近衛/広幡、詩人/画) G 2 0 3 9  
 青雲(せいうん・加藤) → 仲実(ちゅうじつ・加藤、医者) G 2 8 1 7  
 栖雲(せいうん) → 九山(きゅうざん・松村/松邨、医/儒者) C 1 6 0 2  
 栖雲(せいうん) → 近慮(ちかのり・保科/西郷、藩家老/神職) B 2 8 6 5  
 栖雲(せいうん・土岐) → 頼旨(よりむね・土岐とき、幕臣/対外交渉) J 4 7 8 2  
 栖雲(せいうん・岡本) → 成章(なりあき・岡本おかもと、儒・国学/教育) L 3 2 4 9  
 性雲(せいうん→しょううん:字) → 託童(たくりゅう:法諱・性雲、浄土僧) E 2 6 3 1  
 霽雲(せいうん・藤井) → 行権(ゆきのり・藤井ふじい、国学・歌人) H 4 6 2 0  
 晴雲庵(せいうんあん) → 正広(しょうこう;法諱、歌僧) S 2 2 0 9  
 清雲院(せいうんいん;法号) → 晴豊(はれとよ・勸修寺かじゅうじ、廷臣/日記) 3 6 3 9  
 青雲院(せいうんいん) → 正亮(まさすけ・堀田/紀、藩主/老中/詩歌) C 4 0 9 2  
 青雲院(せいうんいん) → 晴子(はるこ・有馬ありま、藩主妻/歌・琴) J 3 6 6 0  
 静雲閣主人(せいうんかくしゅじん) → 静雲閣主人(しょううんかくしゅじん、歌謡) L 2 1 3 6  
 青雲館(せいうんかん:屋号) → 平八(へいはち・西村にしむら、書肆) 2 7 7 9  
 青雲居(せいうんきよ) → 騏道(きどう・木村きむら、俳人) B 1 6 5 8  
 清雲軒(せいうんけん) → 親賢(ちかかた・舟橋ふなはし、明経博士) I 2 8 0 1  
 青雲軒主人(せいうんけんしゅじん) → 東随舎(とうずいしゃ、戯作/狂歌) F 3 1 8 6  
 青雲斎(せいうんさい・原) → 溪崖(けいがい・原はら、華道家) 1 8 4 0  
 棲雲寺(せいうんじ;法号) → 信満(のぶみつ・武田/源、武将/詩歌) D 3 5 4 6  
 静雲舎(せいうんしゃ) → 呑吐(どんと・静雲舎、俳人) S 3 1 4 4  
 青雲亭友呼(せいうんていとともび) → 紫文斎(初世しぶんさい・宇治、名主/一中節/狂歌) F 2 1 6 0  
 青雲堂(せいうんどう) → 春台(しゅんたい・松田、医者/箏曲) F 2 2 7 4  
 清雲洞(せいうんどう) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、俳/狂歌) 3 0 0 9

**星運堂**(せいうんどう、花屋久次郎、書肆);三代で消滅

→ 雪成(初世せつせい、俳人) E 2 4 4 7  
 → 菅裏(かんり、雪成男/川柳作者) E 1 5 2 1  
 → 菅子(かんし、菅裏男/川柳作者) S 1 5 5 2

成恵(せいえ;法諱) → 成恵(じょうえ;法諱、真言僧) H 2 2 0 9

2468 **静栄**(せいえい・拳扇堂きょせんどう)?-? 俳人;和及門、1692和及追善「俳諧水茎の岡」編;  
 (1692師没後同門桜叟・暮四・竹亭と洛西壬生露吹庵で法会と追悼俳諧催;追善集を企画)  
 1704(宝永元)「和語連珠集(和漢故事談)」著、

02433 **正英**(せいえい・豊川とよかわ、豊川親方うゑかた、唐名;伊世奇)1689-1770<sup>82</sup> 琉球廷臣;文書奉行、  
 和文学者、「六諭衍義大意」編著(蔡温さいおんの立案)、  
 [正英(;名)の初名/通称]初名;忠頼、通称;添石親雲上

2469 **政栄**(せいえい・中村なかむら、勘兵衛政平男)?-1746? 出羽鶴岡の酒造業、算学修学;直指撞破流創始、  
 1691無尽利廻算法を考案;無尽数理の開祖、1719庄内藩主酒井忠真命で月山・鳥海山測量、  
 1691「長崎むしん物語」編、1702「算法天元樵談集」「算法天元適等」編  
 [政栄(;名)の通称/法号]通称;八郎兵衛、法号;高山智旭居士

02407 **清纒**(せいえい・川村かわむら、)?-? 尾張清洲の国学者;岡田高穎(たかひで/1814-99)門、  
 [清纒(;名)の通称/号]通称;吉蔵、号;蟹の菴

正英(せいえい・大村/玉木/橘) → 正英(まさひで・玉木/橘、神道家) G 4 0 6 6  
 正英(せいえい・堀) → 立庵(りつあん・堀、儒者/藩儒) B 4 9 5 5  
 正英(せいえい・中根) → 正英(まさてる・中根なかね、幕臣/記録) E 4 0 2 6  
 正英(せいえい・東あずま) → 正英(まさひで・東あずま、槍術家) G 4 0 6 8  
 正英(せいえい・高山) → 正英(まさひで・高山、藩家老/兵法家) G 4 0 6 9  
 正英(せいえい・畑井) → 正英(まさひで・畑井/曠井はたい/畑屋/度会、国学) G 4 0 7 0  
 正英(せいえい・三島) → 正英(まさひで・三島みしま、小説作者) G 4 0 7 1  
 正栄(せいえい・平) → 正栄(まさひで・平、歌人) G 4 0 7 3

- 正栄(せいえい・狩野) → 正栄(しょうえい/まさひで・狩野かのう、絵師) H 2 2 1 5  
 正栄(せいえい・本木) → 正栄(しょうえい・本木もとき、通事/対訳辞書) H 2 2 1 6  
 正栄(せいえい・伊藤) → 逸衛(はやえ・伊藤いとう、書家/歌人) J 3 6 6 5  
 正永(せいえい・九保) → 正永(まさなが・九保くぼ、幕臣/書記) F 4 0 2 0  
 正永(せいえい・小林) → 正永(まさなが・小林、幕臣/紀行文) F 4 0 2 8  
 正永(せいえい・坂) → 正永(まさなが・坂/阪さか、商家/暦・天文) F 4 0 3 3  
 正穎(せいえい・阿波加) → 脩造(しゅうぞう・阿波加あわか/佐渡、医者) X 2 1 8 8  
 正衛(せいえい・橋村) → 正衛(まさえ・橋村/度会、神職/書) B 4 0 3 5  
 正盈(せいえい・間島) → 正盈(まさみち・間島まじま、藩士/歌人) H 4 0 5 5  
 正盈(せいえい・石山) → 正盈(まさみつ・石山いしやま、藩士/和算家) H 4 0 6 8  
 正盈(せいえい/まさみつ・橋) → 峻江(しゅんこう・橋たちばな、書家/文筆家) K 2 1 6 8  
 正盈(せいえい・大神) → 正盈(まさみつ・大神おおが、神職/歌人) O 4 0 2 9  
 正叡(正睿せいえい;法諱) → 正叡(正睿しょうえい、浄土僧;西山派僧) H 2 2 1 3  
 盛永(せいえい/もりなが・高橋) → 乗専(じょうせん;法諱、真宗僧) T 2 2 9 2  
 盛永(せいえい/もりなが・大国) → 士豊(しほう・大国おおくに、絵師) F 2 1 7 1  
 盛永(せいえい) → 永我(えいが・盛もり/さかり、俳人) C 1 3 5 4  
 盛永(せいえい・伊藤) → 盛永(もりなが・伊藤いとう、本陣宿経営) I 4 4 8 3  
 盛英(せいえい・井関) → 盛英(もりひで・井関/越智/井門、藩士) G 4 4 3 1  
 盛栄(せいえい・浦上) → 盛栄(もりひで・浦上うらがみ、公共事業/歌) J 4 4 3 9  
 盛栄(せいえい・小野田) → 盛栄(もりひで・小野田、藩士/歌人) J 4 4 5 0  
 盛栄(せいえい・白井) → 盛栄(もりひで・白井しらい、酒造家/歌人) K 4 4 1 0  
 政永(せいえい・小池) → 政永(まさなが・小池こいけ、藩士/記録) F 4 0 3 0  
 政永(せいえい・久野) → 二栗(じりつ・久野くの、篆刻家) M 2 2 9 7  
 政栄(せいえい・内藤) → 露沾(ろせん・内藤ないとう、俳人) 5 2 0 6  
 政英(せいえい・清水) → 政英(まさひで・清水しみず、和算家) G 4 0 7 8  
 政盈(せいえい・梶山) → 金竟(きんきょう・梶山かじやま、神職/俳人) Q 1 6 7 8  
 清永(せいえい・高屋) → 清永(きよなが・高屋たかや、藩士/歴史) Q 1 6 0 5  
 清栄(せいえい・松村) → 芳洲(ほうしゅう・松村、藩士/儒者/詩人) B 3 9 3 9  
 静栄(せいえい;法諱) → 静栄(じょうえい;法諱、天台僧) H 2 2 1 8  
 静衛(せいえい・鈴木) → 光重(みつげ・鈴木すざき、神職/国学者) D 4 1 5 8  
 性慧(せいえい;法諱) → 聖恵(性慧しょうえ;法諱、天台座主/歌) W 2 2 2 9  
 性叡(せいえい→しょうえい) → 慶忍(きょうにん;法諱・田丸たまる、真宗僧) O 1 6 4 2
- 2470 **精衛道人**(せいえいどうじん) ? - ? 俳人、1840「俳諧七部集」編(豆本2冊)  
 星英堂北雄(せいえいどうほくゆう) → 広城(ひろき・太田おた/喜満多、藩士/詩歌) I 3 7 9 0  
 性易(せいえき→しょうえき) → 独立(どくりゆう;道号・性易;法諱、戴笠、医者/黄檗僧) L 3 1 5 6  
 正益(せいえき・速水) → 正益(しょうえき・速水はやみ、連歌作者) H 2 2 2 1  
 正益(せいえき・深田) → 九臯(きゅうこう・深田ふかだ、藩士/儒者) I 1 6 7 2  
 政益(せいえき・武田) → 識正(としまさ・武田たけだ/白玉、国学/歌) V 3 1 2 3  
 聖恵親王(せいえいしんのう) → 聖恵親王(しょうけいしんのう、真言仁和寺僧) I 2 2 2 9  
 成越(せいえつ・牧田) → 成越(なりおき・牧田まきた/徳岡、国学/歌) O 3 2 7 5
- 2467 **清右衛門**(せいえもん・神戸かんべ、法号;清庵、前田右馬助の末男) ?-1636 武家;織田信長の家臣、前田利家臣/利家の命で神戸加助の婿養子;千3百石/津幡城の前田秀継・利秀に出仕、利秀没後は利家/利長に出仕、1625剃髪;隠居料5百石、「神戸家系譜」著
- 2472 **清右衛門**(せいえもん・柏原屋かしわぼらや、名;正常、姓;渋川) ?-1765 大坂心斎橋筋順慶町の書肆、1724設立願書に参加、地理書などを刊行、「女要智恵鑑」「万宝」など著、草芥堂と同一? → 草芥堂(そうふんどう、雑俳) C 2 5 8 7
- H2442 **清右衛門**(せいえもん;通称・松本まつもと、号;松宝堂しょうほうどう) ?-? 江中期享保1716-36頃江戸の書肆、俳書/雑俳撰集を編刊、俳人:1720「冠附句集」30「誹諧桜かり」33「続みどり」編
- H2443 **清右衛門**(せいえもん・藤根ふじね) ?- ? 江中期陸中盛岡藩士;右筆役?、1784「書上御書拔書」著

- H2444 **清右衛門** (せいえもん・鈴木すずき、名;貞美、篤貞男/本姓;穂積) 1737-180771 尾張藩士;長沼流兵学者、地下茂矩門;兵学の奥義を究める/弓銃槍刀の武芸にず、1789藩主に拔擢され海防担当、兵学講義;門弟に中山和清・近松茂弘等多数、浅野長富らと交流、「鈴木清右衛門問答書」著、[清右衛門(;通称)の字/号]字;碩甫、号;武仙、法号;鶴翁院
- H2445 **清衛門** (清右衛門せいえもん・大内おうち、名;利貞) 1788-186780 常陸那珂郡湊村の廻船・海産問屋、松前交易により富商、1822水戸藩郷士となる;1838藩命で蝦夷地探索/56勘定奉行に拔擢、1857格式小納戸役/湊穀会所仕法懸、1860致仕、1838「蝦夷情実」著、[清衛門(;通称)の別通称]利三郎(;初通称)/五衛門
- H2446 **清右衛門** (せいえもん・滝沢たきざわ、名;正次、鱗形屋徳兵衛長男) 1802-5150 江戸書肆鱗形屋の生、江戸横山町書肆岩戸屋喜三郎に・のち下谷御成道諸士榎本吉兵衛に奉公、1838(天保9)曲亭滝沢馬琴の長女幸(or咲)の2人目の婿;江戸飯田町の家を相続、失明した馬琴の代稿作者、1845-47「玉石童子訓」編、[清衛門(;通称)の別通称]初通称;鱗形屋庄次郎
- 清右衛門(せいえもん・加藤) → 信成(のぶなり・加藤、儒/医/歌人) C 3 5 6 0  
 清右衛門(せいえもん・賀藤) → 景林(かげしげ・賀藤かとう、藩士/詩人) K 1 5 8 9  
 清右衛門(せいえもん・渡辺) → 利容(としかた・渡辺わたなべ、藩士) M 3 1 1 8  
 清右衛門(せいえもん・小津) → 審齋(しんさい・小津おつ、国学者/歌人) O 2 2 4 1  
 清右衛門(せいえもん・小川屋、書肆) → 東岡(とうこう・加藤、歌人) D 3 1 8 6  
 清右衛門(せいえもん・片桐) → 良保(りょうほ・片桐かたぎり、俳人) J 4 9 4 2  
 清右衛門(せいえもん・松岡) → 辰方(ときかた・松岡/丹比たじひ、故実家) J 3 1 0 4  
 清右衛門(せいえもん・片山) → 秋月(しゅうげつ・片山かたやま、俳人) H 2 1 1 1  
 清右衛門(せいえもん・竹下) → 矩方(のりかた・竹下、藩士/記録) E 3 5 4 2  
 清右衛門(せいえもん・中野) → 幸正(こうせい・中野、藩士/郷土史家) K 1 9 0 4  
 清右衛門(せいえもん・滝沢) → 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者) 3 6 0 7  
 清右衛門(せいえもん・浦井/柳屋) → 有国(ありくに・浦井、商人/俳人) B 1 0 6 7  
 清右衛門(せいえもん・上坂/斎藤) → 九腕(きゅうえん・齋藤、藩士/儒者) I 1 6 7 5  
 清右衛門(せいえもん・古沢) → 康伯(やすのり・古沢、藩士/槍術家) I 4 5 7 3  
 清右衛門(せいえもん・佐羽) → 竹翁(ちくおう・佐羽さば、商家) C 2 8 7 1  
 清右衛門(せいえもん・山県/村瀬) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2  
 清右衛門(せいえもん・久米) → 逸淵(いつえん・児玉/久米、俳人) B 1 1 3 4  
 清右衛門(せいえもん・津野) → 芳州(ほうしゅう・津野つの、蚕糸商/儒者) G 3 9 2 8  
 清右衛門(せいえもん・関東屋/中木) → 維明(これあき・中木、養蚕家/蚕種商) O 1 9 0 9  
 清右衛門(せいえもん・石見屋) → 西坡(さいは/せいは・和気わけ、俳人) N 2 0 0 2  
 清右衛門(せいえもん・小野) → 殷興(たかおき・小野おの、藩士/国学者) V 2 6 9 9  
 清右衛門(せいえもん・三浦) → 元住(もとずみ・三浦みうら、藩士/歌人) L 4 4 4 4  
 清右衛門(せいえもん・丸尾/木下) → 俊夫(敏夫としお・木下/丸尾/榛葉、歌) M 3 1 0 9  
 清右衛門(せいえもん・熊谷) → 直茂(なおしげ・熊谷くまがい、国学者) L 3 2 9 6  
 清右衛門(せいえもん・大清/中村) → 勝祐(かつすけ・中村なかむら、庄屋/歌) V 1 5 2 4  
 静右衛門(清右衛門せいえもん・荒井) → 静野(清野しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5  
 政右衛門(せいえもん)すべて → 政右衛門(まさえもん)
- 2474 **西園** (せいえん・山口やまぐち、名;直淳、西里男) 1779-185274 安藝広島 of 儒者;父門/京の古義堂に修学、広島藩家老上田家の儒臣/広島城内上田邸の講学所教授、傍ら父の家塾柳花園で教授、父没後は家塾敬業堂を開設;子弟教育、頼杏平・春水・山陽と交流、藤沢東暎とうがい師、「日本古文真宝」「西園詩文集」「西園諾録」「祖君遺事」「聴雨漫録」「孝経講義」著、[西園(;号)の通称] 恕助、 鳴鶴の兄/西郭の父
- 正延(せいえん・林) → 正延(まさのぶ・林はやし、暦算家) F 4 0 6 3  
 正遠(せいえん・前川) → 正遠(まさとお・前川まえかわ、藩士/文筆家) E 4 0 2 8  
 性演(せいえん;法諱) → 性演(しょうえん;法諱、真言大僧正) H 2 2 2 7  
 政演(せいえん・まさのぶ・北尾葦斎せんさい:画号) → 京伝(きょうでん・山東) 1 6 3 7  
 政焔(せいえん・林/小倉) → 実麿(さねあき・小倉おぐら/林、幕臣/歌) K 2 0 6 9

成遠(せいえん・清野/石沢)→ 浚平(俊平しゅんぺい・石沢/清野、藩儒) L 2 1 8 4  
 成円(せいえん;法諱) → 成円(じょうえん;法諱、僧/歌人) V 2 2 8 4  
 成園(せいえん・新居) → 水竹(すいちく・新居にい、藩士/儒者) 2 3 8 1  
 声淵(せいえん;法諱) → 声淵(しょうえん;法諱・洞円房、天台僧) H 2 2 2 6  
 櫻園(せいえん) → 広海(ひろみ・大江、歌人) H 3 7 2 0  
 清園(せいえん) → 須賀雄(すがお・西川、神職/歌人) F 2 3 8 1  
 清園(せいえん→すみぞの) → 残夢(ざんむ・高橋、国学/歌学) 2 0 5 7  
 清園(せいえん→すみぞの) → 正純(まさずみ・高橋、残夢男/歌人) D 4 0 0 7  
 清円(せいえん・佐分さぶり) → 清円(きよのぶ・佐分さぶり/眞清田ますみだ、国学/歌) Q 1 6 1 0  
 清遠(せいえん・藤原) → 清遠(きよとお・藤原、廷臣/歌人) J 1 6 4 4  
 清遠(せいえん/きよとお・桂川) → 国寧(くにやす・桂川/6世、蘭医) D 1 7 3 1  
 清遠(せいえん・寺田) → 清遠(きよとお・寺田てらだ、歌人) U 1 6 8 0  
 清遠(せいえん・藤井) → 良文(好文よしふみ・藤井ふじい松林、藩絵師) O 4 7 8 6  
 清婉(せいえん・野口) → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、絵師) N 2 8 2 6  
 清淵(せいえん・久保木) → 竹窓(ちくそう・久保木くぼぎ、名主/儒者) D 2 8 3 4  
 青垣(せいえん・堀尾) → 秀斎(しゅうさい・堀尾、医/儒/神道) X 2 1 2 8  
 菁園(せいえん・山崎) → 宗徳(そうとく・山崎/多紀、幕府/鍼医) I 2 5 5 9  
 菁園(せいえん・熊谷) → 千邦(ちくに・熊谷くまがい、藩医/国学) M 2 8 2 3  
 齋園(せいえん・原川) → 方教(よりのり・原川はらかわ、歌人) O 4 7 6 6  
 静円(せいえん;法諱) → 静円(じょうえん;法諱、天台僧/歌人) F 2 2 5 5  
 静円(せいえん;法名) → 実親(さねちか・三条/転法輪三条、右大臣) D 2 0 1 7  
 静縁(せいえん;法諱) → 静縁(じょうえん天台僧/歌人) F 2 2 5 6  
 静園(せいえん・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0  
 静園(せいえん・喜多村) → 鼎(かなえ・喜多村きたむら、藩士/医者) O 1 5 2 5  
 静園(せいえん・久保) → 季茲(すえしげ・久保くぼ/源、幕医/国典) B 2 3 1 9  
 静園(せいえん・三陰) → 顕遠(けんおん;法諱・三陰みかげ、真宗僧/国学) N 1 8 9 3  
 静園(せいえん・松浦) → 果(か・あきら・松浦まつうら、藩士/歌人) V 1 5 7 3  
 静遠(せいえん・林) → 保綱(やすつな・林はやし、酒造業/歌人) G 4 5 4 5  
 静淵(せいえん・植原) → 正方(まさかた・植原/広川、藩士/水練) B 4 0 9 9  
 静淵(せいえん・黒川) → 良安(りょうあん・黒川くろかわ、医者) G 4 9 1 0  
 斉延(せいえん・藤/斎藤) → 斉延(まさのぶ・藤とう/斎藤、神職/故実) F 4 0 6 1  
 西園(せいえん・渋江) → 長伯(ちやうはく・渋江、幕府奥医/本草) J 2 8 6 9  
 西園(せいえん・梁田) → 天柱(てんちゅう・梁田やなだ/万代、藩儒) E 3 0 0 6  
 西崦(せいえん・帆足) → 万里(ばんり・帆足ほし、藩士/儒者) I 3 6 6 4  
 性円(せいえん→しょうえん;法諱) → 独照(どくしょう;道号・性円、臨濟/黄檗僧) L 3 1 0  
 誠園(せいえん・松平) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7  
 星園(せいえん・高島) → 章貞(あきさだ・高島たかしま、医者/歌人) G 1 0 6 5  
 星園(せいえん・矢内) → 千俊(かずとし・矢内やない、国学/歌人) W 1 5 0 1  
 青猿翁(せいえんおう) → 大筈(たいこう・青野あおの、酒造業/俳人) B 2 6 3 7  
 青筵居(せいえんきよ) → 卓丈(たくじょう・大橋/石橋、俳人) O 2 6 0 6  
 西垣三三氏(せいえんさんちゆうし) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4  
 腥鳶子(せいえんし) → 大町(たいちやう・中西、商家/俳人) B 2 6 8 7  
 清遠舎(せいえんしゃ) → 梅裡(ばいり・大橋おほし、商家/俳人) C 3 6 1 6  
 静遠処(せいえんしよ) → 筋山(せつざん・桃井/桃、翠庵養嗣/藩儒) E 2 4 3 9  
 成円房(せいえんぼう) → 有詮(有詮ゆうせん;法諱、修験僧) D 4 6 1 7  
 清遠楼(せいえんろう) → 松根(まつね・村山/樺山、藩士/歌) J 4 0 8 4

H2447 西塙(せいお・福井ふくい) ? - ? 江後期佐渡後山の俳人、「一歳雑話集」著、

[西塙(;号)の通称/別号]通称;新兵衛、別号;弄月井ろうげつせい

H2448 成雄(せいおう;法諱・字;行性ぎやうしやう) 1381-1451 71 甲斐の真言僧;1394頃京で顕密を修学、高野山の宝性院宥快門;安祥寺流秘事の伝授を受、のち宝性院7世、

- 「安祥寺流大事口伝」「中院流口伝」「秘要記」「辨頭密二教論問題」「釈論問題」外著多数、
- 2475 **聖応**(せいおう・しょうおう;法諱、号;胡蝶庵)1716?-87? 真言僧/密教;菊洞阿闍梨門、諸家に参学/国典・儒学を修学、晩年;大阪の生玉神社の社僧;阿闍梨/持宝院に住、1785「神道弁惑」86「胡蝶庵随筆」、「真言宗打聞集」著
- H2450 **政黄**(せいおう・萩野はぎの) ? - ? 江後期伊勢桑名藩士/長谷川流和算;松永直英門、1804(文化元)「拳筋法要」著
- H2449 **誠翁**(せいおう;号・青木あおき)1801-1873 73 上州山田郡桐生の絹買継業、歌人;黒川春村門、1852(嘉永5)「こころのはつな」著
- 02418 **誠翁**(せいおう・庄野しょうの)1813-1846 34 阿波徳島の歌人
- 正央(せいおう/まさなか・道工)→ 彦文(ひこぶみ・道工どうく、歌人/紀行) 3 7 7 0
- 正応(せいおう・鶴殿/志毛)→ 藕塘(ぐとう・志毛しげ、儒者) C 1 7 0 4
- 正往(せいおう・稲葉) → 正往(まさゆき・稲葉いなば、藩主/老中/茶) N 4 0 7 3
- 正翁(せいおう・朝山) → 嘉保(よしやす・朝山あさやま/勝部、神職/歌) L 4 7 2 5
- 正翁(せいおう・高橋) → 文祇(ふみまさ・高橋たかはし、国学者) I 3 8 4 4
- 成翁(せいおう・嵯峨) → 実愛(さねなる・嵯峨/藤原/正親町三条、大納言/記録) L 2 0 1 7
- 西鶯(せいおう) → 西鶯(さいおう、浮世草子) 2 0 6 3
- 西翁(せいおう) → 宗因(そういん・西山/西、俳人/連歌) 2 5 0 3
- 西翁(せいおう・西川) → 祐信(すけのぶ・西川にしかわ、絵師/絵本) C 2 3 7 4
- 政應(せいおう・伊藤) → 宗桂(8代そうけい・大橋/伊藤、将棋士) G 2 5 9 5
- 誠翁(せいおう・藤村) → 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人) C 4 8 4 3
- 誠翁(せいおう・亀井) → 直通(なほみち・亀井かめい、藩士/国学者) L 3 2 6 5
- 星翁(せいおう・泉川) → 星堂(せいどう・泉川いずみかわ、儒者/詩人) J 2 4 3 1
- 星泓(せいおう・福地) → 源一郎(げんいちろう・福地/名村、蘭学/幕臣) H 1 8 6 6
- 醒翁(せいおう・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7
- 醒翁(せいおう・長谷川) → 昆溪(こんけい・長谷川、藩士/詩人) P 1 9 1 7
- 醒翁(せいおう) → 策伝(さくでん・安楽庵あんらくあん、浄土僧/茶人) 2 0 1 4
- 醒翁(せいおう・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7
- 醒翁(せいおう・佐竹) → 義遵(よしゆき・佐竹さたけ、藩士;城代) I 4 7 0 0
- 醒翁(せいおう・井上) → 経行(つねゆき・井上いのうえ、藩医/歌人) F 2 9 1 7
- 精翁(せいおう・神尾) → 包鬻(かねたか・神尾かみお、幕臣) O 1 5 5 7
- 精翁(せいおう・雨森) → 精斎(せいさい・雨森あめのもり/妹尾、藩儒) 2 4 7 6
- 晴翁(せいおう) → 鐘成(かねなり・暁あかつき、読本作者/絵師) C 1 5 9 3
- 静翁(せいおう・村田) → 清風(せいふう・村田むらた、藩士/歌人) C 2 4 9 5
- 静翁(せいおう・永井) → 如瓶子(じょへいし・永井/大江、書家/狂歌) C 2 2 9 5
- 静翁(せいおう・山中) → 盛美(もりよし・山中やまなか、幕臣) G 4 4 9 1
- 静翁(せいおう・輝白亭) → 雪湖(せつこ・加藤かとう、俳人) K 2 4 8 6
- 盛央(せいおう/もりなか・横田) → 柳几(りゅうき・横田よこた、酒造業/俳人) D 4 9 3 0
- 盛翁(せいおう・福王) → 盛充(もりみつ・福王ふくおう、能楽師) G 4 4 6 3
- 蛻翁(せいおう・梁田) → 蛻巖(せいがん・梁田やなだ、儒者/詩) 2 4 0 6
- 毳翁(せいおう) → 文藻(あやも・小宅おやけ、国学/歌) F 1 0 1 6
- 2477 **井鷗笑**(せいおうしょう) ? - ? 越後加茂の俳人、1727「賀茂の矢立」編
- 清翁霊神(せいおうれいしん) → 亨翁(こうおう・頼、紺屋/歌人) H 1 9 7 2
- 正屋(せいおう・鎌田) → 広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0
- 政屋(せいおう・野津) → 政屋(まさいえ・野津/竹屋、藩士/歌人) J 4 0 0 7
- 晴屋(せいおう・南部) → 晴屋(はるいえ・南部なんぶ、家老/歌人) K 3 6 5 2
- 02484 **晴恩**(せいおん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉集]入、[山路暁月といふ事を、あけはてむわかれをいかにしのばまし月とこえゆくさよの中山](檜葉;羈旅644)
- 清音(せいおん・長田) → 鶴夫(たづお・長田おさだ、国学/歌) B 2 6 4 4

清音(せいおん・窪田)	→	清音(きよね・窪田くぼた、幕臣/武道)	Q 1 6 0 9
清音(せいおん・小出)	→	清音(きよね・小出こいで/大江、国学歌)	U 1 6 3 1
清音(せいおん・高島)	→	清音(きよね・高島たかばたけ、鍼医/歌人)	U 1 6 6 7
清温(せいおん・きよあつ・観世)	→	元章(もとあきら・観世かんぜ、能楽/謡曲改訂)	C 4 4 0 3
正温(せいおん・古林)	→	見宜(けんぎ・古林ふるばやし、医者)	B 1 8 3 4
正温(せいおん・竹内)	→	正温(まさあつ・竹内たけうち、神職/国学)	B 4 0 1 9
盛音(せいおん;法諱)	→	盛音(じょうおん;法諱、天台僧)	H 2 2 4 2
成遠院(せいおんいん→じょうおんいん)	→	日達(にちだつ;法諱・学忍、日蓮僧)	C 3 3 8 3
成恩寺(せいおんじ→じょうおんじ)	→	経嗣(つねつぐ・一条/二条、関白/歌人)	C 2 9 5 2
清音寺(せいおんじ)	→	義篤(よしあつ・佐竹/源、武将/連歌)	C 4 7 0 7
清音詩屋(せいおんしおく)	→	揺舟(ようしゅう・福原ふくはら、絵師/書家)	B 4 7 1 2
清音舎(せいおんしゃ)	→	簾水(れんすい・武田たけだ、俳人)	B 5 1 2 1
清音塾(せいおんじゅく)	→	竹窓(ちくそう・吉田、藩士/儒者)	D 2 8 3 6
清音楼(せいおんろう)	→	蘇門(そもん・山村良由たかよし、家老/儒詩)	E 2 5 4 3

H2451 **清音楼清樹**(せいおんろうきよき;号、大坂屋喜兵衛)?-? 京の押小路高倉西へ入る住の狂歌作者、東都檜垣連判者、1850(嘉永3)「三十石狂歌集」編

2403 **惺窩**(せいか・藤原ふじわら、名;肃/字;斂夫、冷泉為純男)1561-1619<sup>59</sup> 播磨細川庄生;7-8歳頃仏門、竜野景雲寺修学;東明宗昊・文鳳宗韶門、1578父戦死/京の叔父清叔寿泉門;禅学修業、還俗/儒学研究、1596渡明計画;鬼界島漂着/帰郷後門弟教育;講説;家康に講/1605隠棲、近世朱子学祖/歌学、「惺窩家集」「惺窩詩文集」「文章達徳録」「寸鉄録」、家集「鸚がやぐき」外多数、[惺窩の別号] 僧名;葬/妙寿院、

別号;柴立子/北肉山人/昨木山人/東海狂波子/惺齋/惺々子/竹房/竹居/広胖窩/竹処/竹所堂/松邁所しょうまいよ/松下/都勾墩とこうとん/妙寿

**藤門四天王**・・・惺窩門下生多数の内特に4人のすぐれた儒者

→	羅山(らざん・林はやし)	1583-1657	4 8 0 2
→	杏庵(きょうあん・堀ほり)	1585-1642	1 6 2 9
→	昌三(しょうぞう・松永尺五せきご)	1592-1657	2 1 8 9
→	活所(かつしよ・那波なば)	1595-1648	1 5 2 3

2478 **清霞**(せいか・有銭堂) ? - ? 河東節・可柳門、「東都一流江戸節根元集」著(未刊)

2479 **西河**(せいか・桃井ももい/桃もも、名;世明/忠徳、脇坂小扁男)1748-1810<sup>63</sup> 出雲松江藩の儒臣:1763(16歳)藩儒桃井[桃]白鹿門/1771白鹿の養嗣子、74上京;柴野栗山・皆川淇園門、さらに江村北海門/江戸で林鳳潭門、1783帰郷し松江藩儒;90江戸勤番;藩邸で講義、眼病のため1792帰国;1801養家の家督嗣/藩校明教館教授/文庫書物掛/1807(文化4)侍講、「西河雑著」「西河詩文集」「周礼窺」「潜夫論考証」「賈誼新書考」「坐臥記」「王制図考」外著多、[西河(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;鉄弥、字;君義、通称;義三郎、別号;孟津/鰐尾

N2469 **せいくわ**(せいか;組連) ? - ? 江戸橋場真先まきさき(現台東区)の川柳の組連、取次;1772「川柳評万句合」入、取次例;[我慢して乗りも乗ったり六度まで](1772万句合/前句;かたづけにけり々々)(以仁王もちひとおうが平家討伐で挙兵したが敗走し睡眠不足で六度落馬[平家物語])

H2452 **青荷**(せいか) ? - ? 丹波篠山の俳人;蕪村門、1782蕪村「花鳥篇」編、[花に添うていさゝか逃ぐる胡蝶こゝかな](花鳥篇;20/密を吸いつつ移動する生態)

H2453 **西河**(せいか・永田ながた、名;忠誠/忠成、観鷺男)1761-1809<sup>49</sup> 京の儒者・書家;父門(家学)、式部省史生となる/越前大掾を受領、忠順の父、岡崎鶴亭の義兄、1807(文化4)「詩語聯璧続編」著、「詩語碎錦続編」(没後1815刊/息子忠順校)、[西河(;号)の字/通称]字;伯行、通称;周介、諡号;虚心齋西河先生

H2454 **青霞**(せいか・畑中はたなか/はたけなか、名;孝標たかひで、荷沢たたく[盛雄]男)1764-1810<sup>47</sup> 陸奥仙台藩士、儒;父門、1794物書役、勘定方など歴任、詩文に長ず、「連璧集」著、[青霞(;号)の字/通称/別号]字;君英、通称;十太夫、別号;青樵/白華

2471 **青河**(せいか・木村きむら、通称;源蔵)?-1820 備後福山舟町の油商/俳人、



[月を請て開今宵や二見の図](文台開き十五夜の句;短冊)

- 2481 **青可**(せいか・都築つづき) ? - ? 江後期文政天保1818-1844頃の三河寺部の俳人、  
卓池門、尾張にも住;文政1818-30頃師卓池に随い長崎へ俳諧行脚、1835「くにまたぎ」編
- H2456 **青葭**(せいか・号・野田のだ、通称;源三郎)?-? 江後期長崎の本草家;代々薬種目利を務める、  
本草学;薬種目利頭取の中島真兵衛門/京の山本亡羊門、1856長崎御薬園掛助、  
1859戸田町轆轤辻の直物場植物方、1845「蘭館檢品録」50「拾品考」、「青葭十品考」著、  
1860「穀物種蒔付之儀ニ付シーボルトより聞取書」著
- H2457 **棲霞**(せいか;法諱、号;東林舎/竹窓/蘆洲こうしゅう)?-? 江後期越後横越村通琳寺の真宗学僧、  
高倉学寮に修学/内外の典籍に精通、詩人;梅辻春樵門、「竹窓詩集」著
- H2458 **静嘉**(せいか) ? - ? 江後期俳人:梅裡門、尾張愛知郡古渡に隠棲、  
1856「はなこゝろ」編
- H2459 **醒花**(せいか) ? - ? 1862存 江後期俳人:栗本可大[1807-1862]門、  
師の遺言により師との発句集を編纂;1862「可大発句集」編
- H2460 **青荷**(せいか、別号;樞寮きょうりょう)?-? 江末期俳人:碩布門、師の号樞寮を継承(2世?)、  
1866「春水集」編
- 正家(せいか)訓読みは多く→ 正家(まさいえ)
- 正華(せいか:「浪華人物誌」著→必華ひっか)→ 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8
- 正河(せいか・橋村) → 正河(まさかわ・橋村はむら/度会、神職/歌) R 4 0 6 2
- 成加(せいか・木部) → 四郎右衛門(しろうえもん・木部きべ、藩士/測量家) N 2 2 0 7
- 世華(せいか・竜) → 世華(つぐあき・せいか・竜たつ、藩儒/歌人) F 2 9 9 9
- 省窩(せいか・北村) → 国雅(くにまさ・北村きたむら、国学/歌人) E 1 7 1 3
- 清家(せいか・藤原) → 清家(きよいえ・藤原、廷臣/歌人) C 1 6 1 2
- 清窩(せいか・河崎) → 延貞(のぶさだ・河崎、神職/医者) B 3 5 4 5
- 青霞(せいか、青霞堂) → 志友(しゆう・高市、俳人、書肆) G 2 1 7 1
- 青霞(せいか) → 景貫(かげつら・山井、楽人/詩人) L 1 5 0 5
- 青霞(せいか・鈿) → 景村(かげむら・鈿いかり/河野、町年寄) T 1 5 5 9
- 青柯(せいか・秋山) → 玉山(ぎよくざん・秋山、藩士/儒者) 1 6 4 1
- 青荷(せいか・三枝) → 莚(しげる・三枝さいぐさ、僧/尊攘) O 2 1 5 8
- 静窠(せいか・小松原) → 亘(わたり・小松原こまつばら/源、国学/歌) 5 3 8 2
- 盛可(せいか・小島) → 盛可(もりよし・小島こじま、藩士/国学/神職) J 4 4 9 4
- 盛家(せいか・源) → 盛家(もりいえ・源、廷臣/歌人) F 4 4 1 3
- 盛家(せいか・紀) → 盛家(もりいえ・紀き、廷臣/歌人) F 4 4 1 4
- 盛家(せいか) → 盛家(もりいえ、連歌) F 4 4 1 5
- 盛夏(せいか・堤) → 盛夏(もりなつ・堤つみ、神職/国学) K 4 4 6 4
- 清夏(せいか、青夏堂) → 政昭(まさあき・浅井、儒者) B 4 0 0 8
- 清華(せいか・北原) → 雅長(まさなが・北原きたはら/神保、藩士/歌) P 4 0 2 9
- 棲霞(せいか・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医者/儒/詩) K 1 6 6 1
- 栖霞(せいか・野村) → 空翠(くうすい・野村、商家/詩歌/勤王) C 1 7 2 5
- 栖霞(せいか・奥) → 文鳴(ぶんめい・奥おく、絵師) G 3 8 5 1
- E2418 **省我**(せいが・半孤軒/一三子)?-? 江前期讃岐の俳人、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入  
[さてはあの月がないたかほとゝぎす](手鑑/  
千載集;夏161藤原実定;郭公鳴きつる方を眺むればたゞ有明の月ぞ残れる)
- 2482 **青峨**(初世せいが・鴛田おしだ)?- 1730 江中期江戸の俳人;東潮門/のち沾徳門、  
江戸座初期の俳人、1716風葉「江戸筏」地巻第十一独吟歌仙入、1730「続江戸筏」編、  
[朝北あさぎたの触事ふれごと通ほる一葉かな](江戸筏;793独吟歌仙発句)、  
(朝吹く北風が官府を触れ回る下吏のように桐の一葉を落として行く)  
[初世青峨(;号)の別号] 春来軒/百華[花]窓/牡丹堂/六盃仙ろくわんせん
- 2483 **青峨**(2世せいが・前田まえだ) 1698- ? 1759存/1746没説は誤り 俳人:初世青峨門、白雄・渭北の師、  
1746青峨を春来に改号;深川法善寺に墓を造り佯死ようし(死を偽装)し作句;

[生きながら死びとに花の降る日かな];これが没年の誤伝となる、1756「東風流あざむり」編、「おやすずめ」「皐雨集」、1758「老桂窩茂堂百韻」跋文、59米仲「靱随筆」に老いた様子入、  
[こほろぎの髭ほのかなり夕まぐれ](東風流)、  
[2世青蛾(;)号)の別号] 二柳庵、泰室/春来、黙々齋、紫子庵/紫隱

- C2449 **青芽**(せいが) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」入(232)
- 2480 **清河**(せいが・安達あだち、名;于慶/修、修験者安達頼栄2男)1726-9267 代々下野烏山の修験者、1739千本玉泉観の司祀を継嗣;玉泉道士と称す;法印、法印職を好まず儒者;松章甫門、江戸で服部南郭門、明和1764-72頃浅草に開塾/詩文に長ず;江戸市隠草堂結社、旅を好む、1770-84「嚮風草」編、1775-1802「市隠草堂集」、1783「東毛紀行」85「東海遊囊」著、1787「相中紀行」、「日本詩刪」「忘談録」「孟浪之言」「詩準」「詩典」「大東地名考」著、[清河(;)号)の字/別号]字;文仲/吉甫、別号;玉泉道士/市隠堂/市隠詩社
- 2485 **菁莪**(せいが・中山なかやま、名;盛履もりふみ、盛貞2男)1728-180578 母;二木六左衛門女、静安の孫、羽後秋田の代々の医者;家業嗣、儒学;小野鶴山・稲葉迂齋門、1758(宝暦8)秋田藩主佐竹義明の侍読/1765(明和2)士班に列す;文学に進む、1792藩校明道館初代祭酒:藩の学政を総括、門弟多数;平田篤胤など、盛貞の父、「論孟講義」「大学講義」「孟子浩然章講義」「孝道講話一枝梅」「中山盛履獄日記」著、「菁莪雅言」著(門弟東堤編)、「菁莪先生講義筆記」「菁莪先生劄記」外著多数、[菁莪(;)号)の字/通称]字;子絢/子約、通称;幸次郎/小次郎/宗専/宗仙/伝右衛門/文右衛門
- H2462 **青瓦**(せいが・筒井ついで) ? - ? 江中期播州?の俳人;富春齋瓢水門、1760(宝暦10)句集「柱虎与美(柱暦)」編(休翁序/瓢水・莫秘との三吟五十韻入)
- H2463 **青雅**(せいが;号) ? - ? 江中期加賀の俳人;1776樽良「俳諧月の夜」1句入、[嬉しさにしばしは眠る月見かな](月の夜;60/月見前の一眠り)
- H2464 **青蛾**(せいが;号) ? - ? 江中期江戸の俳人;  
1783維駒これこま「五車反古ごしやほぐ」6句入、  
[古頭巾ふるづきん烏帽子に捻ねちよ花の春](五車反古;春77)
- H2465 **省我**(せいが・中野なかの)1742 - 1787 伊勢宮後の郷土史家/詩人、1786「宮川雑記」著、[省我(;)名)の通称/号]通称;仲之助、号;静斎
- 2484 **青峩**(せいが;号) ? - ? 俳、1798沾山「俳諧二冊子」歌仙入
- H2466 **青蛾**(せいが・山田やまだ) ? - ? 江後期上州榛名町の俳人、生花・盆景に通ず、鶯笠・碓嶺と交流、1830(文政13)「東土産」著、[青蛾(;)号)の通称/別号]通称;門太夫/門大夫、別号;雲泉庵
- H2467 **青蛾**(せいが・田村たむら、権右衛門男)?-1833 俳人:宜麦ざく[1757-1828]門、1830「宜麦発句集」編/30「ひとり旅」著、[青蛾(;)号)の通称/別号]通称;権右衛門(;)父を継承)、別号;古樟亭/2世老鶯巢
- H2468 **旌蛾**(せいが・長井/永井ながい、名;韋)?-? 幕末期越後柏崎の医家の生/儒者・詩文:江戸開塾、筒井政憲の知遇を得;1853「牧民心鑑訳解」、  
[旌蛾(;)号)の字/通称]字;佩弦/佩絃はいげん、通称;修蔵
- 青峩(せいが) → 顕成(けんじょう・三蔭/三陰/御影みかげ、真宗僧/歌) J 1 8 9 0
- 菁莪(せいが・前田) → 慶寧(よしやす・前田まえだ/藤原、藩主/歌) H 4 7 8 5
- 清雅(せいが・鷹司) → 清雅(きよまさ・鷹司たかつかき、廷臣/歌人) D 1 6 5 8
- 清雅(せいが・堀) → 蘭崖(らんがい・堀ほり、藩士/書家) B 4 8 6 7
- 清雅(せいが/きよまさ・井上) → 寒鳥(かんう・井上いのうえ、俳人) G 1 5 0 9
- 清河(せいが・桐生) → 利正(としまさ・桐生きりゆう、歌人) V 3 1 0 0
- 清蛾(せいが・安形) → 讚岐(さぬき・安形あがた、神道家) K 2 0 6 6
- 西河(せいが・山本) → 忠告(ただたり/ただつぐ・山本/加賀美、神職) Q 2 6 4 2
- 正賀(せいが・立石) → 正賀(まさよし・立石たていし、武将/歴史) I 4 0 4 4
- 正賀(せいが・小野) → 愚侍(ぐじ・小野おの/高須、商家/俳人) B 1 7 3 7
- 成雅(せいが・日下) → 雪中(せつちゆう・日下くさか、商家/俳人) E 2 4 5 5
- 生芽(せいが・国分) → 高広(たかひろ・国分こくぶん、和算家) N 2 6 1 0
- 省我(せいが) → しょうが・古森 → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0

- 盛雅(せいが・藤原) → 盛雅(もりまさ・藤原ふじわら、歌人) G 4 4 4 9  
 井下庵(せいかあん) → 双鳥(そうふ・瀬上せがみ、俳人) I 2 5 7 9  
 青霞庵(せいかあん) → 故厓(こがい・遠藤えんどう、俳人) L 1 9 8 5  
 晴霞庵(せいかあん) → 多代女(たよじよ・市原いちばらたよ、俳人) H 2 6 7 2
- P2402 清海(せいかい;法諱/聖人、少将聖人しょうしょうのしょうにん)?-? 平安中後期;僧/常陸の出身、  
 初め大和興福寺入/のち超証寺住、1017(寛仁元)遷化、  
 金葉集入(聖海聖人名)、袋草紙;(少将聖人名)、  
 [清海聖人後生なほ恐れ思ひて眠り入りたりける枕上に僧のたちてよみかけける歌、  
 かくばかり東風こちてふ風の吹くをみて塵の疑ひをおこさずもがな]、  
 (金葉;雑632;東風と此方[西方に吹く風]を掛る/塵[少し]に塵海を含む;風の縁語、  
 袋草紙;少将聖人と云う人後生の事思ひて寝たる夢に見る歌なり)
- H2469 星海(せいかい・鈴木すずき、名;世孝)1782-1862<sup>81</sup> 播磨赤穂の天文/易学家、京の土御門家の家司;  
 天台都講となる、中野熙政の師、「清正大神祇靈驗記」画、百年ひやくねん(絵師)の父、  
 [星海(;号)の字/通称/別号]字;子養、通称;俊平/図書、別号;漁翁/南山、諡号;曠達居士
- H2470 静海(せいかい・戸塚とつか、名;維泰、医者 of 隆珀3男)1799-1876<sup>78</sup> 遠江掛川の医者;蘭学;十束井斎門、  
 儒;松崎慊堂こうどう門、蘭医学;1820江戸の宇田川玄真門/24長崎でシーボルト門;  
 シーボルト事件連座、赦免後;後進指導、1831江戸で医開業、掛川藩・薩摩藩の江戸詰藩医、  
 1858将軍家定の奥医師、1863法印、「シーボルト処方録」「静海上府日記」著、  
 1857「戸塚静海自記斉興公臨床日誌」59「戸塚静海自記薩藩応招始末」著、  
 「製塩法」「天璋院様御麻疹諸留帳」外著多数、  
 [静海(;通称)の字/別通称/号]字;藻徳、別通称;春輔/亮斎、号;春山/静春院(;法号も)、
- M2444 青海(せいかい・深谷ふかや) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [夕闇をおのが時とや大井川鶉舟のかがり数まさりゆく](大江戸倭歌;夏570)
- H2471 晴海(せいかい;号・小島/小嶋こじま、名;友章/通称;弾正)1817-74<sup>58</sup> 武蔵川越藩士;儒者/詩人、  
 「櫻荘存稿」著
- 正介(せいかい・北川) → 正介(まさすけ・北川きたがわ/栗生あお、藩士)M 4 0 9 5  
 正楷(せいかい→しょうかい;法諱) → 正楷(しょうかい;法諱、真宗本願寺派僧)H 2 2 5 8  
 性海(せいかい→しょうかい;法諱) → 性海(しょうかい;法諱、真言律僧) H 2 2 5 4  
 性海(せいかい→しょうかい;法諱) → 慈航(じこう;法諱、真宗本願寺派僧)T 2 1 3 7  
 性海(せいかい→しょうかい;法諱) → 性海(しょうかい;法諱、讃岐の真宗僧)H 2 2 5 9  
 性海(せいかい→しょうかい;法諱) → 性海(しょうかい;法諱、本願寺派僧) H 2 2 6 0  
 政海(せいかい→しょうかい;法諱) → 政海(しょうかい;法諱、天台僧) H 2 2 5 3  
 聖快(せいかい→しょうかい;法諱) → 聖快(しょうかい;法諱、真言僧) H 2 2 5 6  
 聖戒(せいかい→しょうかい;法諱) → 聖戒(しょうかい;法諱、時宗僧/一遍絵伝編)F 2 2 7 9  
 青海(せいかい;道号) → 実東(宗東じつとう;法諱・青海;道号、黄檗僧)U 2 1 9 9  
 清海(せいかい・蒲) → 八十村(やそむら・蒲がま、正茂男/商/国学/歌)F 4 5 7 7  
 清海(せいかい・水沢) → 清稔(きよね・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 6  
 晴海(せいかい・山本) → 晴海(はるみ・山本、砲術家) G 3 6 9 1
- 2487 西涯(せいがい/さいがい・近藤こんどう、名;篤)1723-1807<sup>85</sup> 備前の儒者;播磨姫路藩儒河口静斎門;程朱学、  
 湯浅常山門、音韻学;京の文雄門、詩文に長ず、岡山藩に出仕;藩校で講官、  
 1748・64朝鮮通信使の接待役、古学主流の折に宋学を主唱、歌を嗜む、「文献史稿」著、  
 「韻鏡発蘊」「東游紀談」「旅行須知」「倭語辨誤」「音律考」「字義明辨」「詩経音訓考」著、  
 1750「正楷録」著/50「反切啓蒙」94「韻学筌蹄」編/96「西涯館詩集」著、「備藩集義録」編、  
 「集義録」編/「猛寛説」「易学私録」「詩法正眼」「大成発音考」「唐律考」著、外編著多数、  
 [西涯(;号)の字/通称]字;子業、通称;六之丞
- H2472 西涯(せいがい・山下やました、名;世幹、播磨赤穂藩士正智2男)1749-1802<sup>54</sup> 播磨の儒者;大川滄洲門、  
 世恭の弟、各地遊歴後;1765飯室天目・大村蘭林らと美作津山藩校学問所創設に参画、  
 1783津山藩主松平康哉に出仕/康哉没後は幼君康又の侍講、詩文・書を嗜む、子弟教育尽力、  
 「西涯集」著、

[西涯(；号)の字/通称]字;子礼、通称;官弥

- H2473 **誓鑑**(せいがい;法諱) 1753 - 1829<sup>77</sup> 安藝山県郡岩戸村の医家の生、  
真宗学;仰誓門/京の本願寺派本山学林で聴講/出雲能義郡安来の本願寺派徳応寺住職、  
1811司教、貝原益軒の破仏を批判、1776「棲浄斎安心注進書」1781「解魔辨」1812「排僻篇」著、  
1817「神道俗談論」、「莊嚴経毛滲記」「浄土論宝積録」「三帖和讃字音辨」外著多数、  
[誓鑑(；法諱)の別法諱/号]別法諱;尚綱しょうけい、号;棲浄斎
- H2474 **西崖**(せいがい・菊池きくち、名;貫)1786-1847<sup>62</sup> 常陸水戸藩士/1801彰考館入、  
「西崖集」「神道集成行事」「送窮迎祥篇」著、「公式令」「郊祀」「神祇志目録」編、  
[西崖(；号)の字/通称]字;子行、通称;善三郎/善左衛門
- H2475 **青崖**(せいがい・桜間さくらま/山中、桜間出右衛門能保2男)1786-1851<sup>66</sup> 江戸本郷本多家下屋敷の生、  
絵師;片桐桐隠・渡辺華山門、1834桜間の支家(藤兵衛)継嗣/三河岡崎藩主本多忠顕に出仕、  
1836(天保7)「鬪芳叢」画、椿椿山と親交、  
[青崖(号)の名/字/別号]名;咸、字;善訥、別号;迂亭、法号;神名院天心
- H2476 **青崖**(青厓せいがい・永井ながい、名;則)?-1854 筑前福岡藩士;禄6石二人扶持、  
1828藩主黒田斉清に随い長崎で蘭学修学/のち江戸詰/蘭学塾を開、藩主長溥の蘭学侍講、  
1850「泰西三才正蒙」46「万国輿地方図」、「五大洲各州全図説」「新製風船之記」著、  
[青崖(；号)の字/通称/別号]字;士訓、通称;太郎/助吉、別号;皞如楼こうじょう、勝海舟の師
- 青厓(せいがい・小津) → 長澄(ながすみ・小津おつ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
青涯(せいがい・中沢) → 東皐(とうこう・中沢/山本、儒者) D 3 1 9 5  
青崖(せいがい・小浦) → 広名(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2  
西涯(せいがい・頼) → 支峯(しほう・頼らい復、儒者) F 2 1 7 0  
西涯(せいがい・中村) → 守手(もりて・中村/永井、神職/国学/歌) F 4 4 8 7  
西崖(せいがい・礪はざま) → 師古(しこ・礪はざま、絵師) T 2 1 2 9  
西崖(せいがい・南小柿) → 寧一(やすかず・南小柿みながき/南、藩医) B 4 5 1 2  
青海実東(せいかいじつとう) → 実東(じつとう・青海;道号、黄檗僧) U 2 1 9 9
- 2488 **青海舎主人**(せいかいしやしゅじん、通称;梅沢茂七)??-? 江戸築地万年橋の書肆/洒落本作者、  
山東京伝と親交、1791「南品傀儡」著、  
[青海舎主人の別号]柳枝
- 臍下逸人(せいかいつじん) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7  
栖霞園(せいかえん) → 田鳳(でんぼう・鶴田、酒造業/俳人) E 3 0 3 2  
青霞園(せいかえん) → 忠雄(ただお・市川いらかわ、国学者) V 2 6 6 6  
清花閣(せいかかく) → 利謹(としり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2
- 02459 **西華門院**(せいかもんいん、名;基子、源具守とももり女)1269-1355<sup>87</sup> 鎌倉南北期;後宇多天皇に出仕;  
女房名;二条局、邦治くにはる親王(後二条天皇)の母/1308(徳治3)出家;准三宮;院号を受、  
女房に西華門院宮内卿(歌人)
- 清花揚(せいかよう) → 利謹(としり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2  
棲霞観主人(せいかかんしゅじん) → 直躬(なおみ・前田、藩士/歌人) C 3 2 5 2
- 2404 **聖覚**(せいかく/しょうかく;法諱・安居院あぐい法印、澄憲男)1167-1235<sup>69</sup> 天台僧;叡山竹林房静厳門;  
恵心流修学、檀那流;顕真門、宝地房証真門、洛北安居院あぐいに住/父の跡を継嗣し唱導修得、  
安居院流唱導を大成、法印/権大僧都、天台に属しつつ浄土僧;法然房源空門;重鎮、  
天台宗では[しょうかく]/浄土宗では[せいかく]と呼ぶ、「法然源空記」「願文記」著、  
「源空上人伝」「釈門秘論」外著多数、歌人;続門葉集入、勅撰2首;新勅1151/続千載987、  
[もろともに山辺をめぐるむら時雨さてもうき世に降るぞ悲しき]、  
(新勅;雑1151/隠遁中久しぶりて上京し時雨にあい木陰にて詠む)
- 02475 **盛覚**(せいかく/しょうかく;法諱、?)?-? 平安鎌倉期;南都の法師、歌人;1237刊檜葉集入、  
[おそくとき花にながめのうつりきてけふやかぎりのみよしののさと](檜葉;春101)
- H2477 **政覚**(せいかく;法諱/法号;後智恵光院、二条持通男)1453-94<sup>42</sup> 法相僧;興福寺大乘院入;尋尊付弟、  
1463得度;東院大僧正兼円門、長谷寺別当・薬師寺別当歴任/1483興福寺別当、  
21代興福寺大乘院門跡/大僧正、1483-94「政覚大僧正記」1484「薬師寺別当之記」著
- 2489 **栖鶴**(2世?せいかく・武内たけうち、巢居そうきよ)?-1769 江戸の俳人;盤谷門、宗匠;其角座平砂側点者、

1749「冬至梅」編/52「江戸十余歌仙」入/54竹翁「誹諧童の的」点句入

生覚(せいかく)	→	生覚(しょうかく、綾小路経資、歌人)	H 2 2 7 3
西郭(せいかく・工藤)	→	艶文(えんぶん・工藤どう、儒者)	F 1 3 3 4
駢角(せいかく・是枝駢角)	→	貞至(さだのり・是枝これえだ、商人/勤王)	J 2 0 3 0
正格(せいかく・斎藤)	→	誠軒(せいけん・斎藤さいとう、儒者/詩人)	B 2 4 2 7
正慤(せいかく・河野/平松)	→	築斎(らくさい・平松ひらまつ、政治家/詩)	D 4 8 4 0
正郭(せいかく・吉田)	→	臥龍(がりよう・吉田よしだ、藩士/漢学者)	P 1 5 7 5
誠慤(せいかく・井土)	→	学圃(がくほ・井土いど/喜多岡、藩儒)	H 1 5 3 7
成覚(せいかく;法諱)	→	成覚(じょうかく、仁和寺僧/歌人?)	W 2 2 1 4
性覚(せいかく;法諱)	→	性覚(しょうかく;法諱、天台叡山僧)	H 2 2 7 5
静覚(せいかく・じょうかく;法名)	→	仲平(なかひら・藤原、左大臣/歌人)	F 3 2 5 0
静覚(せいかく・じょうかく;法名)	→	為兼(ためかね・ためかね、京極/藤原/入江、歌人)	2 6 5 8
静覚(せいかく・じょうかく;法名)	→	静覚(じょうかく、歌人、僧)	E 2 2 0 7
清覚(せいかく;法諱)	→	清覚(しょうかく;法諱、天台叡山僧)	H 2 2 7 1
清格(せいかく・大槻)	→	習斎(しゅうさい・大槻おおつき、儒/洋学者)	X 2 1 3 1
聖覚(せいかく)	→	聖覚(しょうかく、源義行、和学者/歌人)	F 2 2 8 2
栖鶴(せいかく・津軽)	→	寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人)	G 4 5 2 7

2490 **西岳**(せいがく・小林こばやし、名;重徳) 1716-79or180064or85? 出羽秋田藩儒:江戸詰、儒;入江南溟門、  
經学に精通、「西岳稿」「大学定本必伝」「論語集注辨誤」著、1796刊「論語古伝」著  
[西岳(;)号)の字/通称/別号]字;鳳卿/風卿/風郷、通称;満架/万架/佐哲/祐哲、  
別号;西嶺/観耕亭

H2478 **青岳**(せいがく;法諱) ? - ? 江中期能登の真宗本願寺派僧:  
能登菅原の明専寺の智洞門、師と共に布教に尽力、1778「勸向西方編」著

H2479 **静学**(せいがく・小橋こばし、名;道寧) 1779-182951 讃岐香川郡円座村の儒者:菊地万年・三野元密門、  
書;菊地高洲門/劍術;富永忠誥・馬淵会通門、医術:吉益南涯・花岡青州門、医を業とす、  
「静学先生遺稿」「静学先生遺書」あり、小橋香水・橘陰・木内竜山・村岡箏子の父、  
[静学(;)号)の字/通称/別号]字;定夫/子静、通称;伊三郎/渡/安蔵、別号;西原

H2480 **清壑**(せいがく・滝たき、名;世脩) ? - ? 江後期文政天保1818-44頃奈良半田町の絵師、  
文人画に長ず、1841「石斎雑録」著、  
[清壑(;)号)の字/通称]字;子敬、通称;長蔵

西嶽(せいがく・塩/内野)	→	元華(げんか・内野うちの、儒者/農政)	I 1 8 0 3
西岳(せいがく・藤堂)	→	高猷(たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌)	N 2 6 6 6
正学(せいがく・本木)	→	正栄(しょうえい・本木もとき、通事/対訳辞書)	H 2 2 1 6
成岳(せいがく・小林)	→	繁樹(しげき・小林こばやし、国学者)	E 2 1 6 5
星嶽(せいがく・富小路)	→	任筋(にんせつ・富小路、坊官/勤王家)	G 3 3 6 0
西閣院(せいかくいん)	→	正右(まさすけ・阿部あべ、藩主/老中)	M 4 0 9 4
栖雀園(せいかくえん)	→	光甫(みつとし/みつよし・吉村、国学者/画)	E 4 1 0 2
静学斎(せいがくさい・満生)	→	大麓(だいろく・満生みつお、儒者)	L 2 6 3 9
静覚親王(せいかくしんのう)	→	静覚法親王(じょうかくほつしんのう、真言仁和寺僧)	H 2 2 7 8
棲鶴楼(せいかくろう)	→	常之(つねゆき・河澄かわすみ、商家/歌人)	F 2 9 5 7
生可軒(せいかけん)	→	玄通(げんつう・前田まえだ、医者)	L 1 8 4 6
青霞居士(せいかこじ)	→	崑岳(こんがく・宇津木、藩士/儒者)	G 1 9 5 7
生花斎(せいかさい)	→	照道(てるみち・生花斎/橘、医者/狂歌)	C 3 0 9 7
靄霞山樵(せいかさんしょう)	→	文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/歌)	F 1 0 1 6
青霞山人(せいかさんじん)	→	宗璠(そうはん:法諱・玉舟、臨濟僧)	I 2 5 7 4
西河潜子(せいかせんし)	→	妙菴(みょうは;法諱・春屋;道号、臨濟僧/五山文学)	4 1 4 3
棲霞陳人(せいかちんじん)	→	茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学)	B 2 1 9 8
晴霞亭(せいかてい:塾名)	→	天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩文)	D 3 0 9 3
青霞亭(せいかてい)	→	古江(ここう・寺田、俳人)	M 1 9 4 0
棲霞亭(せいかてい)	→	茂興(しげおき・伊勢/沢、農業/和漢学)	B 2 1 9 8

清花堂(せいかどう)	→	路健(ろけん・直海なおみ、俳人)	B 5 2 3 6
青花堂(せいかどう)	→	泉晁(せんちやう・貞斎ていさい、絵師)	G 2 4 3 9
青霞堂(せいかどう)	→	志友(しゆう、俳人、書肆)	G 2 1 7 1
青霞堂(せいかどう)	→	道斎(どうさい・高橋、儒者/書/俳)	E 3 1 3 7
清夏堂(せいかどう)	→	政昭(まさあき・浅井、藩士/儒者)	B 4 0 0 8
青菘堂(せいがどう)	→	中陵(ちゅうりやう・佐藤、本草家)	G 2 8 9 8
菁菘堂(せいがどう)	→	淡斎(たんさい・佐羽さば、商家/詩人)	I 2 6 1 6
菁菘堂(せいがどう)	→	園村竹(そのむらたけ、多田敏包、狂歌)	E 2 5 1 7
清雅堂(せいがどう)	→	蘊善(うんぜん; 法諱、真言僧/声明)	D 1 2 8 9
青霞堂主人(せいかどうしゅじん)	→	道斎(どうさい・高橋、儒者/詩文)	E 3 1 3 7
静窩道人(せいかどうじん)	→	巖戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学)	F 1 1 1 7
西華坊(せいかぼう→さいかぼう)	→	支考(しこう・各務かみ、村瀬、俳人)	2 1 1 9
青夏坊(せいかぼう)	→	有琴(ゆうきん・林はやし、支考門俳人)	B 4 6 2 7

H2481 **西華門院**(せいかもんいん/さいかもんいん、名; 基子、内大臣堀川具守女) 1269-1355<sup>87</sup> 母; 平親継女、後宇多天皇妃、1308子息の後二条天皇没により出家/1308従三位・准三宮/院号宣下、歌人; 続現葉集入、勅撰2首; 新千載840/新拾遺890、

[過ぎきつる名残はいとどます鏡ありとしもなき夢の面影](新千; 釈教840/返歌)、(後二条院没後七日法要ののち大僧正禅助が水精の鏡を返却するときの贈歌;

新千839; 尋常よのねの光ならねばますかがみ底まですめるさとりをぞ知る)

[西華門院(; 女院号)の通称/法名]通称; 東御方/二条局、法名; 清浄法

清華廬(せいかろ)	→	古棠(こどう・高橋/山口、旅館業/俳人)	N 1 9 1 8
青華楼(せいかろう)	→	麦洲(ばくしゅう・多田ただ、医者/俳人)	D 3 6 3 1
靄霞老人(せいかろうじん)	→	文藻(あやも・小宅おやけ、商人/国学/画)	F 1 0 1 6

H2482 **清閑**(せいかん; 法諱) ? - ? 天正-慶長1573-1615頃京の天台宗上善寺僧、連歌; 1594(文禄3)「紹巴清閑等何船百韻」参加、竹葉山草夫の祖父含翠軒清閑と同一? 参照 → 草夫(そうふ・竹葉山ちくようざん、連歌論集編纂) C 2 5 8 3

C2459 **政寛**(せいかん・京屋きやうや) ? - ? 大阪の俳人、1682春林「誹諧百人一句難波色紙」入、[編笠も梢の夏か生駒山](難波色紙; 56/炎天下は編み笠を脱ぎ難い 故に山も見え難い、後拾遺; 夏167能因/我が宿の梢の夏になるときは生駒の山ぞ見えなくなりゆく)

2491 **井関**(せいかん) ? - ? 俳人、1691北枝「卯辰集」入(211)、[山里や明けゆく窓の麦いり粉こ](卯辰; 夏211/宿の窓側に麦こがしの粉が干してある)

西澗(西礪せいかん; 道号)	→	子曇(しどん/すどん; 法諱・西澗; 道号、臨濟僧)	F 2 1 3 5
晴寛(せいかん; 法諱)	→	浪化(ろうか; 号、真宗大谷派僧、俳人)	5 2 0 2
清閑(せいかん・内藤)	→	頼寧(よりやす/よりさと・内藤ないとう、藩主)	J 4 7 9 1
清寛(せいかん/きよひろ・中山)	→	和清(かずきよ・中山なかやま、藩士/兵学者)	M 1 5 1 7
清鑒(せいかん・葛井)	→	清鑒(きよりの・葛井ふじい、漢学、歌)	H 1 6 4 9
清簡(せいかん・奥瀬)	→	清簡(清閑きよひろ・奥瀬おくせ、藩士/儒者)	Q 1 6 2 3
清韓(せいかん; 法諱)	→	文英(ぶんえい; 道号・清韓、臨濟僧/鐘銘事件)	H 3 8 5 2
静観(せいかん・一条)	→	正直(まさなお/まなほ・一条、藩士/天文)	F 4 0 0 5
正簡(せいかん・柴田)	→	洞元(どうげん・柴田しばた、医者/国学)	D 3 1 6 2
正寛(せいかん・不破)	→	正寛(まさひろ・不破ふむ、藩士/藩政改革)	L 4 0 1 7
正寛(せいかん・竹尾)	→	正寛(まさひろ・竹尾/源、神職)	G 4 0 9 9
正寛(せいかん・牧江)	→	冥斎(めいさい・牧江まさえ、漢詩人)	4 3 1 6
正寛(せいかん・岡)	→	正寛(まさひろ・岡おか、藩士/国学)	O 4 0 5 3
正貫(せいかん・橋村)	→	正貫(まさつら・橋村はむら/度会/中山、神職)	R 4 0 6 9
正幹(せいかん/まさもと・竹内)	→	玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医)	L 1 8 9 5
正幹(せいかん・松井)	→	正幹(まさとも・松井まつい、藩士/歌)	S 4 0 6 0
正観(せいかん・城所/成瀬)	→	正観(まさみ・成瀬/城所、藩士/儒者)	H 4 0 3 7
正観(せいかん; 法諱)	→	正観(しょうかん; 法諱、真宗大谷派僧)	H 2 2 8 1

- 正桓(せいかん・浅野/阿部)→ 正桓(まさたけ・阿部あべ、藩主/記録) L 4 0 3 2  
 正閑(せいかん・坂上) → 羨鳥(せんちょう・坂上、大庄屋/俳人) G 2 4 3 7  
 正煥(せいかん・金子) → 正煥(まさてる・金子かねこ、国学/歌人) O 4 0 9 3  
 成寛(せいかん;法諱) → 成寛(じょうかん;法諱、法師/歌人) W 2 2 2 0  
 成寛(せいかん・牛田/大岡)→ 雲峯(うんぼう・大岡おおおか、絵師) E 1 2 0 5  
 征煥(せいかん・雨森) → 笠山(りゅうざん・雨森あめのもり/雨、儒/詩) E 4 9 2 1  
 政貫(せいかん・栗田) → 千嶺(せんれい・栗田くりた、商家/歌人) O 2 4 1 0  
 政寛(せいかん・横山) → 政寛(まさひろ・横山よこやま、藩士/記録) G 4 0 9 7  
 政寛(せいかん・日尾) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5  
 政寛(せいかん・野原) → 蘭二(らんじ・野原のはら、俳人) C 4 8 4 0  
 政寛(せいかん・渡辺) → 政寛(まさひろ・渡辺わたなべ、藩士;建白) T 4 0 8 4  
 政寛(せいかん・市原) → 政寛(まさひろ・市原いちばら、絵師) H 4 0 0 0  
 政寛(せいかん・岡部) → 政美(まさよし・岡部おかべ、神職/俳人) O 4 0 5 9  
 政幹(せいかん・坂部) → 政幹(まさもと・坂部さかべ/渡辺、商家/国学) P 4 0 9 8  
 誠観(せいかん;字) → 聞証(もんしょう;法諱、浄土学僧) I 4 4 2 6  
 聖観(せいかん;法諱) → 聖観(しょうかん;法諱、良天、浄土名越派僧) H 2 2 8 0  
 聖観(せいかん;法諱) → 聖観(しょうかん;法諱、僧/国学) U 2 2 9 5  
 盛貫(せいかん・藤原) → 盛貫(もりつら・藤原ふじわら、歌人) L 4 4 9 6  
 盛寛(せいかん・大塚) → 盛寛(もりひろ・大塚おつか、藩士/歌人) J 4 4 0 4  
 世幹(せいかん・山下) → 西涯(せいがい・山下やました、儒者/教育) H 2 4 7 2  
 世簡(せいかん・杉野) → 駁華(ばくか・杉野すぎの、医者/料理) C 3 6 8 0  
 世煥(せいかん・小栗) → 常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5  
 02495 誓願(せいがん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;僧/法師/歌人、  
 1233刊[御裳濯集]入、  
 [しもとみるあさぢがすゑの月影にうらがれそむる野辺の色かな](御裳濯集;秋438)  
 2405 星巖(せいがん・梁川やながわ、名;長澄/卯/孟緯/緯、稻津長高[考]男/本姓藤原) 1789-1858 70歳  
 美濃安八郡曾根村の詩人;山本北山・古賀精里門、1807家督を弟に譲渡、梁川に改姓、  
 1817帰郷;梨花村草舎開塾/白鷗社(詩社)結社、1820稻津紅蘭(祖父同士が兄弟)と結婚、  
 1822妻と西遊;菅茶山・頼杏平等と交流、1832江戸;34神田で玉池吟社主宰、  
 1845帰郷/46上京;鴨沂小隠に住;勤王家と接触、1858大獄直前コレで急逝、妻は入獄、  
 「西帰集」「星巖集」「香巖集」「西帰集」「梨花村草舎集」「黄葉山房集」「紫薇仙館集」、  
 「帰省集」「顛天やくてん集」「玉池生集」「玉池生続集」「京甸集」「京甸支集」「鴨沂小隠集」、  
 1822-27「西征集」32「竹兜集」34「余燼集」40「蓮塘集」40-56「星巖集」54「春雷余響」外著多数、  
 [星巖の幼名/字/通称/別号]幼名;善之丞、字;伯兔/公叟/無象、通称;新十郎、  
 別号;天谷/天谷道人/百峰/老竜庵/鴨沂小隠/三野逸民/詩禪、  
 妻 → 紅蘭(紅鸞こうらん・梁川/修姓;張、詩人) C 1 9 0 1  
 星巖(せいがん・鍋島) → 直能(なおよし・鍋島なべしま、藩主/歌人) C 3 2 9 0  
 西岸(せいがん・森田) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1  
 清丸(せいがん・川合) → 清丸(きよまる・川合かわい、神職/思想家) T 1 5 9 6  
 清崑(せいがん・平松) → 理準(りじゅん・平松ひらまつ、真宗大谷派僧/詩歌) L 4 9 8 6  
 清巖(せいがん;道号) → 正徹(しょうてつ;法諱・清巖、臨濟僧/歌) 2 2 4 1  
 清巖(せいがん;道号) → 宗渭(そうい;法諱・清巖、臨濟僧) F 2 5 9 6  
 清巖(せいがん・二階堂) → 清巖(じょうがん;法諱、真言僧/連歌) H 2 2 9 0  
 2406 蛻巖(せいがん・梁田やなだ、名;邦彦/邦美/幼名;新六郎、勝秀男) 1672-1757 86 江戸儒者;人見竹洞門、  
 山崎闇斎著書独学、1693金沢藩出仕/致仕、江戸で講説業/1696-1706美濃加納藩出仕、  
 17019明石藩出仕;藩儒/郷校景德館開;藩士教育/49致仕、詩壇の大家、門弟多数、  
 「清詩選」「蛻巖集/同後編」「学範」「播州古城趾考略」「蛻巖先生答問書」著、毅斎の弟、  
 [蛻巖の字/通称/別号]字;景鸞、通称;元叔/才右衛門、別号;蛻翁/亀毛(;俳号)、法号浦月庵  
 蛻巖(せいがん・村井) → 見樸(見朴けんぼく・村井、藩士/医者) E 1 8 4 1  
 静寛院(せいかんいん、静寛院宮)→ 親子内親王(しんしなしんのう、和宮、歌人) E 2 2 4 1

- 清観院(せいかんいん) → 種類(たねひで・秋月、藩主/藩校創設) S 2 6 0 0
- 2492 静観窩(せいかんか・和田わだ、名;宗允、浩悦男)1607-? 1677存 京の儒者;吉田素庵門/朱子学修学、1634(寛永11)頃;信州飯田藩主脇坂安元に出仕/安元没後藩主安政に随い江戸駿河往来、播磨竜野藩転封に同行/竜野藩儒、儒者の林羅山・堀杏庵・那波活所を師友とす、儒・国学・仏典・神道に通ず、「静観窩文集」「自楽亭記」「論語諺解」「神代系図伝」、「長源寺修営記」/1670「四書集註序諺解」/1677(延宝5)「丹後海陸巡遊日録」著、外著多数、[静観窩(;号)の字/別号]字;子誠、別号;静観老人/慵々子/慵翁/峨山/峨山山人、以悦の弟
- 贅巖窟(ぜいがんくつ) → 蔵澤(ぞうたく・吉田よしだ、藩士/絵師) L 2 5 1 4
- 清閑斎(せいかんさい・大森) → 有斐(ゆうひ・大森おおもり、茶道家) D 4 6 6 3
- 静閑子(せいかんし・狩野) → 安信(やすのぶ・狩野家八世/藤原、絵師) C 4 5 5 4
- 清閑寺(せいがんじ;号) → 善成(よしなり・四辻よつじ/源、左大臣/歌学) 4 7 2 1
- 清閑寺僧正(せいがんじのそうじょう;徒然草入) → 道我(どうが、真言僧/歌) B 3 1 8 0
- 静巖舎(せいがんしゃ) → 千秋(ちあき・田所/三輪、藩士/国学) 2 8 0 0
- 静観堂(せいかんだう) → 貞庵(ていあん・浅井、医者/詩人) 3 0 2 6
- 青眼堂(せいがんどう) → 景山(けいざん・大野、俳人) 1 8 5 8
- 清閑堂主人(せいかんだうしゅじん) → 長伯(ちやうはく・渋江、幕府奥医/本草) J 2 8 6 9
- 清間道人(せいかんだうじん) → 大成(だいてい;道号・照漢、渡来黄檗僧) K 2 6 3 5
- 勢観坊(せいかんぼう;号) → 源智(げんち;法諱、浄土僧) E 1 8 3 8
- 性願房(せいがんぼう) → 快成(かいじやう・性願房、真言僧) I 1 5 7 6
- 静観廬(せいかんろ・森) → 庸軒(ようけん・森、医/儒者) 4 7 7 5
- 静観老人(せいかんろうじん) → 静観窩(せいかんか・和田わだ、儒者/国学) 2 4 9 2
- 2493 清基(せいき/しやうき;法諱、栄春男)?-? 母;大中臣定海女、平安中期石清水八幡宮の社僧、父を継承;石清水八幡宮少別当/法師、歌人;後拾遺集63、[風吹けばをちの垣根の梅の花香かはわが宿のものにぞありける](後拾;一春63)
- H2483 晴喜(せいき;法諱・通称;大式法印、俗姓;紀、法印感晴男)?-? 鎌倉期社僧;祇園社権長吏兼執行、1302(正安4)父感晴より社頭所職を譲渡/法印、「祇園社記録」著
- 2494 世喜(せいき・尾城下) ? - ? 1732存 尾張名古屋の浮草子作者、最古の名古屋郷土本作者、1732?「契情双盃(けいせいふたさかずき)編
- H2484 清璣(せいき・菅すが、隆珀男)?- ? 江中期宝暦1751-64頃京の医者;父を継嗣、「奇観名話」著、[清璣(;名)の号] 隆珀(;父号を嗣)
- 2495 青岐(せいき・上野うえの、俳人の吏丁男)1757-180448 淡路洲本の商家/俳人;青蘿門、同門玉屑と陸奥行脚、1796「東北遊」著/1800「さくら塚集」編、青岐追善句集「驢鳴篇」(;1806玉屑編)[青岐(;号)の通称/別号]通称;桑名屋佐代吉、別号狼藉天柱(;初号)/藜あかざ庵/藜藿(いてき庵
- H2404 世輝(せいき・毛もう) ? - ? 琉球首里の漢学者/詩人、1810清国留学官生、「毛世輝詩集」著
- 02443 清暉(せいき・横山よこやま)1792- 186473 京の絵師;江村春甫門/松村月溪(呉春)門、松村景文(1779-1843)門:筆頭門弟(中島来章・岸連山・塩川文麟と平安四名家と称)、円山四条派絵師、1820(文政3)池坊専定「插花百規」の挿絵を景文と担当、東本願寺再建の白書院の杉戸絵を画/1829(文政12)祇園祭長刀鉾の軒下絵[百鳥図]彩色、青蓮院尊超入道親王の抱え絵師、六角室町東・新町四条北に住、門弟;横山春暉・村瀬双石・岡島清曠・加納黄文・林耕雲・有山旭峰・島田雪谷・奥村石蘭など、「大江山鬼退治図屏風」「菊白頬鳥図」「孔雀牡丹図」「東方朔図」画、外多数、[清暉(;名)の別号/字/通称/号]別名;暉三、字;成文、通称;主馬/詳介、号;霞城/吾岳/奇文
- H2485 精器(せいき・根本ねもと、通称;宗兵衛/惣兵衛、別号;梧屋/巳秋庵)?-1863 会津下二之町鏝師、俳人;1832梅室門、40滝沢峠芭蕉句碑建立、55「野かたま集」、「四季精器集」著、妻の[素琴]も俳人
- 02455 盛熹(せいき・山内やまうち、親雲上、本姓;毛)1842-191675 琉球廷臣;国王尚泰の御近習役、



古典音楽演奏家/歌三線;野村安趙あんちよう門、衰微する湛水流三線を名護良保から伝承;  
聴取曲を孫の山内盛彬に伝承、共に安趙から学習した松村真信は記録「湛水流工工四」著

清喜(せいき・新田)	→ 尚純(ひさずみ・新田、連歌作者)	B 3 7 1 8
清規(せいき・大沢)	→ 清規(きよのり・大沢おおさわ、文筆家)	H 1 6 5 0
清季(せいき/きよすえ・源)	→ 季広(すえひろ・源みなもと、廷臣/歌人)	B 2 3 4 1
清季(せいき/きよすえ・今出川)	→ 公詮(きんあき・今出川、廷臣/日記)	Q 1 6 6 2
清記(せいき・鏡味)	→ 敬義(甲鵬たかよし・鏡味がみ、楽人)	N 2 6 7 4
清記(せいき・武居)	→ 用拙(ようせつ・武居たけい、儒者/教育)	B 4 7 3 2
清記(せいき・宇都宮)	→ 竜山(りゅうざん・宇都宮/原田、儒者/教育)	E 4 9 2 3
清記(せいき・菊池)	→ 真建(まさたけ・菊池きくち、神職/国学)	P 4 0 2 3
清基(せいき/きよもと・坊門)	→ 基輔(もとすけ・坊門ぼもん/藤原、廷臣/歌人)	C 4 4 6 8
清暉(晴暉せいき・大竹/岳)	→ 麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者)	4 0 7 0
静基(せいき→じょうき;法諱)	→ 静基(じょうき;法諱、真言僧)	H 2 2 9 4
静喜(せいき→じょうき・新田)	→ 尚純(ひさずみ・新田/岩松、武将/連歌)	B 3 7 1 8
晴季(せいき・今出川)	→ 晴季(はるすえ・今出川いまでがわ/菊亭/藤原、右大臣)	G 3 6 4 3
成己(せいき・中村)	→ 成己(なりみ・中村なかむら、藩士/国学)	O 3 2 1 3
成夔(せいき・鈴木)	→ 桃野(とうや・鈴木すずき、幕臣/儒者)	H 3 1 5 1
成季(せいき・星山)	→ 成季(なりすえ・星山ほしやま、神職/記録)	H 3 2 4 3
成季(せいき・高松)	→ 重季(成季しげすえ・高松/藤原/武者小路、廷臣/歌学)	C 2 1 2 4
成喜(せいき・牧野)	→ 忠辰(ただとき・牧野まさの、藩主/国学)	Z 2 6 4 9
成器(せいき・田口)	→ 霞村(かそん・田口たぐち、書家)	C 1 5 5 1
成器(せいき・杉野/片山)	→ 恒斎(こうさい・片山/杉野、藩士/儒者)	F 1 9 0 3
成器(せいき・児玉)	→ 琢(たく・児玉こだま、藩士/地誌)	N 2 6 9 1
成耆(せいき・寺村)	→ 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文)	Q 2 1 8 9
成祺(せいき・源)	→ 成祺(しげき・源、絵師)	C 2 1 1 4
斉貴(せいき・松平)	→ 斉貴(なりたけ/なりたか・松平、藩主/鷹狩)	H 3 2 5 1
斉輝(せいき・池田)	→ 斉輝(なりてる・池田いけだ、日記)	H 3 2 6 8
斉熙(せいき・毛利)	→ 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作)	I 3 2 0 7
誠季(せいき・今出川)	→ 誠季(のぶすえ・今出川/西園寺、廷臣/日記)	B 3 5 6 4
世輝(せいき・木村)	→ 石居(せききよ・木村、商家/兼葭堂2世)	J 2 4 9 9
世奇(せいき・伊)	→ 正英(せいえい・豊川とよかわ、琉球廷臣、和文)	O 2 4 3 3
正毅(せいき・河合)	→ 川井物梁(かわいものやな、河合かわい、狂歌)	G 1 5 0 3
正毅(せいき・山本)	→ 正毅(まさよし・山本やまもと、旗本/教育/歌)	M 4 0 0 7
正起(せいき・まさおき・安田)	→ 広治(ひろはる・安田/秦/藤本、神職/国学)	G 3 7 9 5
正起(せいき・飯田)	→ 正起(まさおき・飯田いいた、藩士/歌/教育)	N 4 0 4 6
正起(せいき・増田)	→ 正起(まさおき・増田ますだ、藩士/国学者)	S 4 0 5 7
正季(せいき・藤原)	→ 正季(まさすえ・藤原ふじむら、廷臣/歌)	C 4 0 8 2
正貴(せいき・都築)	→ 正貴(まさたか・都築つづき、歌人)	U 4 0 0 4
正紀(せいき・和田/早川)	→ 正紀(まさとし・早川/和田、幕臣/教育)	E 4 0 4 7
正紀(せいき・玉江)	→ 正紀(まさのり・玉江たまえ、医者)	G 4 0 0 7
正紀(せいき・綾野)	→ 正紀(まさのり・綾野あやの、藩士/砲術/歌)	N 4 0 2 2
正紀(せいき・飯田)	→ 正紀(まさのり・飯田いいた、神職/国学/歌)	N 4 0 4 9
正記(せいき・比留)	→ 正記(まさのり・比留ひる/藤原、幕臣/歌人)	L 4 0 6 0
正記(せいき・町田)	→ 正記(まさのり・町田まちだ、藩士/和算家)	G 4 0 1 3
正輝(せいき/まさてる・藤原)	→ 春章(初世しゅんしょう・勝川/勝宮川、絵師)	J 2 1 9 4
正基(せいき・野原)	→ 正基(まさもと・野原のはら、国学者/歌)	M 4 0 0 8
正基(せいき・石河)	→ 正基(まさもと・石河いしかわ、藩士/歌人)	N 4 0 5 8
正喜(せいき・星)	→ 正喜(真左喜まさよし・星ほし、藩士/国学)	S 4 0 4 1
正期(せいき・岡田)	→ 正期(まさとき・岡田おかだ/大橋、商家/歌)	O 4 0 5 6

乗一、字;文度、通称;喜太郎/喜平次、号;鳳成/曬書楼さいしやう主人

- 世軌(せいき・松平) → 世軌(つぐのり・松平まつだいら、幕臣) G 2 9 3 8
- 正熙(せいき・橋本) → 正熙(まさひろ・橋本はしもと、歌人) M 4 0 5 5
- 政基(せいき・九条) → 政基(まさもと・九条/藤原、関白/聯句) H 4 0 8 6
- 政規(せいき・白井) → 一之(いっし・白井、俳人) B 1 1 4 6
- 政己(せいき・田辺) → 政己(まさおの・田辺たなべ、藩士/記録) B 4 0 5 7
- 政紀(せいき/まさのり・小山) → 駿亭(しゅんてい・小山こやま、藩士/書家) L 2 1 5 1
- 政紀(せい・浅井) → 政紀(まさのり・浅井あさい、藩士/歌人) M 4 0 1 0
- 政貴(せいき・飯田) → 政貴(まさたか・飯田いいだ、歌人) M 4 0 3 9
- 政毅(せいき・新井) → 政毅(まさかた・新井あらい、歌人/蔵書家) N 4 0 2 3
- 政毅(せいき・児島) → 政毅(まさたけ・児島こじま/土田、商家/国学) P 4 0 6 6
- 政熙(せいき・一色) → 政熙(まさひろ・一色いっしき/源、幕臣/歌) G 4 0 9 2
- 政熙(せいき・鷹司) → 政熙(まさひろ・鷹司/藤原、関白/歌人) G 4 0 9 5
- 盛貴(せいき・岡内) → 幸盛(ゆきもり・岡内おかうち/平、医者/歌) G 4 6 7 0
- 盛喜(せいき・齋藤) → 盛喜(もりよし・齋藤さいとう、湯屋/歌人) K 4 4 0 6
- 聖奇(せいき;法諱) → 聖奇(しょうき;法諱、真言僧) H 2 2 9 2
- 聖基(せいき;法諱) → 聖基(しょうき;法諱、真言・三論大僧正) H 2 2 9 1
- 2496 正義(せいぎ・まさよし;名、辻つじ、通称;庄兵衛)?-? 京の俳人、  
1658元知編の四季類題発句集「拾玉集」に97句入
- 2497 青祇(せいぎ) ? - ? 俳人;心祇(魚貫)門、1748「六日記」編(2世魚貫と)、  
狂歌:1742百子「狂歌時雨の橋」入  
[義氏(;名)の通称/号]通称;三郎、;正義、法号;法楽寺正義
- 正義(せいぎ・入道号) → 義氏(よしうじ・足利/源、武将/幕臣/歌) C 4 7 1 9
- 正義(せいぎ) 多くは → 正義(まさよし)を参照
- 正儀(せいぎ・太田) → 正儀(まさよし・太田おおた、藩士/和算家) I 4 0 7 2
- 正宜(せいぎ・香田) → 朋水(ほうすい・香田こうた、俳人/歌人) B 3 9 8 6
- 正宜(せいぎ・宮下) → 正宜(まさよし・宮下みやした、国学者/歌) T 4 0 0 1
- 正誼(せいぎ・三宅) → 春楼(しゅんろう・三宅みやげ、儒者) P 2 1 5 5
- 正誼(せいぎ/まさよし・杉村) → 健(けん・杉村すぎむら、文筆家/年譜) H 1 8 4 7
- 正誼(せいぎ・山本) → 秋水(しゅうすい・山本やまもと、藩儒/詩文) H 2 1 7 5
- 正誼(せいぎ・倉八) → 隣(となり・倉八くらはち/梶原、神職/歌人) V 3 1 0 8
- 正祇(せいぎ・土田) → 杜若(とじゃく・土田つちだ、藩士/俳人) N 3 1 9 7
- 政義(せいぎ;法名) → 義政(よしまさ・北条/平、武将/連署/歌) G 4 7 9 4
- 政義(せいぎ)訓はすべて → 政義(まさよし)
- 成儀(せいぎ) → 成儀(なりのり・浅羽、系譜家) H 3 2 9 9
- 盛義(せいぎ/もりよし・松本) → 董斎(とうさい・松本まつもと、書家) E 3 1 3 1
- 世儀(せいぎ・牧まき/新興) → 夏嶽(かagak・新興におう/興、書家) J 1 5 3 0
- 世儀(せいぎ・樺島) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7
- 斉義(せいぎ・伊達) → 斉義(なりよし・伊達だて、藩主) N 3 2 7 0
- 精義(せいぎ・松元) → 正名(まさな・松元まつもと/橋、書家) E 4 0 9 1
- 精義(せいぎ・山本) → 青城(せいじょう・山本、家老/儒者) C 2 4 2 6
- 精義(せいぎ・幸田) → 誠之(まさゆき・幸田/藤原、幕臣/儒者) I 4 0 2 3
- 静義(せいぎ・清水) → 由斎(ゆうさい・清水しみず、医者/俳人) B 4 6 7 9
- 星喜庵(せいきあん) → 北因(ほくいん・小林、俳人) C 3 9 8 8
- 清熙園(せいきえん) → 弦山(げんざん・阪本、儒医、詩人) J 1 8 2 8
- 清暉閣(せいきかく) → 陶斎(とうさい・趙ちよう/深見/高良、書家) E 3 1 2 0
- 清宜園(せいぎえん) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
- 青几観(せいきかん) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0
- 政幾久(せいききゆう・鎌原) → 桐山(とうざん・鎌原かんばら、藩士/儒者) E 3 1 6 2
- 静寄軒(せいきけん) → 二洲(じしゅう・尾藤孝肇たかもと、儒者) 2 1 2 1
- 静宜軒(せいぎけん) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8

- 井亀軒(せいきけん) → 鞭石(べんせき・福田、俳人) B 2 7 3 3  
 精義塾主人(せいぎじゅくしゅじん) → 長洲(ちようしゅう・城じょう、医/儒/詩) I 2 8 7 5  
 精義草廬(せいぎそうろ) → 操存齋(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1  
 2498 正吉(せいきち) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」841、  
 [夕顔をけはふか白き花の色](犬子集;三841/けはふは化粧する)  
 正吉(せいきち・曾根) → 正吉(しょうきち・曾根そね、歌舞伎作者) H 2 2 9 8  
 正吉(せいきち・待乳) → 正吉(しょうきち・待乳まち、歌舞伎作者) G 2 2 0 0  
 正吉(まさきち・大和田) → 篤胤(あつたね・平田ひらた、国学/神道) 1 0 2 2  
 正吉(せいきち→まさきち・岡) → 長洲(ちようしゅう・岡おか、藩儒/詩文) I 2 8 7 1  
 正吉(せいきち→まさきち・塙) → 守約(もりのぶ・塙はなわ、兵法家) G 4 4 1 9  
 正吉(せいきち・林屋) → 正吉(しょうきち・林屋、噺家) H 2 2 9 9  
 世吉(せいきち・畑) → 柳泰(りゅうたい・畑/上林、儒/医者/詩) F 4 9 1 1  
 清吉(せいきち・山鹿) → 貞行(さだゆき・山鹿やまが、藩士/兵学者) K 2 0 1 2  
 清吉(せいきち・奈良屋/本屋) → 普栗釣方(ふぐりのつりかた、書肆/狂歌) B 3 8 7 0  
 清吉(初世せいきち・青山) → 枇杷麿(枇杷丸びわまる・青山堂、書肆/狂歌) 3 7 3 2  
 清吉(せいきち・大谷) → 尚古(しょうこ・大谷おおたに、儒者/俳人) I 2 2 6 8  
 清吉(せいきち・馬田) → 当充(あつみつ・石井/馬田、蘭学/通詞) E 1 0 8 5  
 清吉(せいきち・有賀/小林) → 文康(ふみやす・小林/有賀、国学者) E 3 8 1 0  
 清吉(せいきち・小田) → 光満(みつまる・小田おだ、国学者) E 4 1 9 2  
 清吉(せいきち・島田) → 幸雄(ゆきお・島田しまだ、藩士/国学者) G 4 6 9 3  
 清吉(せいきち・黒瀬) → 正親(まさちか・黒瀬くろせ/秦、神職/絵師) P 4 0 5 4  
 清吉(せいきち・宮本) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5  
 清吉(せいきち・篠沢) → 隆壽(たかひさ・篠沢しのざわ/前田、里正/歌) X 2 6 4 6  
 精吉(せいきち・殿村) → 琴魚(きんぎょ・櫛亭れきてい、読本作者) D 1 6 9 2  
 静吉(せいきち・勝村) → 嬖斎(かくさい・勝村かつむら、儒者) J 1 5 8 3  
 盛吉(せいきち・福原/来原) → 良蔵(りようぞう・来原くるはら/福原、藩士) I 4 9 6 8  
 西吉(せいきち) → 吉兵衛(きちべゑ・二朱判にしゅばん、帮間/大尺舞) F 1 6 8 3  
 静吉郎(せいきちろう・野呂) → 静処(せいじょ・野呂のろ、藩儒者) I 2 4 7 6  
 2499 政橋(せいきつ/せいきち・奈河ながわ) ? - ? 江戸後期/明治期の歌舞伎作者; 合作者、  
 1820(文政3)頃より京阪の舞台で活動; 初号近松正橋/1967奈河政助を政橋に改名、  
 1836「花魁荅八総はなのあにつぼみのやつふさ」合作/1846「絵本先代萩」67(慶応3)「大賀誠心録」外著多、  
 [奈河政橋(;号)の別号]近松正橋/近松政橋/奈河政助(政輔)  
 青橋(せいきつ・宮本) → 天姥(てんぼ・宮本みやもと、農業/俳人) E 3 0 2 5  
 清暉堂(せいきどう) → 芝峰(しばう・清暉堂、俳人) V 2 1 6 8  
 省己堂(せいきどう) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5  
 正気堂(せいきどう/しょうきどう・大久保) → 要(かなめ・大久保、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
 正気堂(せいきどう) → 文山(ぶんざん・綿引わたひき、医者/随筆) F 3 8 4 3  
 正気堂(せいきどう) → 赤城(せきじょう・清水しみず、兵学者/随筆) D 2 4 5 7  
 正己堂(せいきどう) → 茂矩(しげのり・近松/松、藩士/兵法/俳人) C 2 1 8 2  
 H2486 青綺門院(せいきもんいん; 女院号、名; 舎子、関白二条吉忠女) 1726-9065 母; 加賀藩主前田綱紀女利子、  
 桜町天皇が東宮時代に妃/天皇即位後1736入内; 女御/40従三位; 准三宮、47皇太后、  
 1750院号宣下、竹内式部事件時に朝廷内の事態の穏健解決に尽力、  
 盛子内親王・後桜町天皇の母、1745-56「青綺門院御日記抄」著、「女院御所様よりの御文」著、  
 清客堂(せいきゃくどう) → 児水(じすい、瀬山、俳人) E 2 1 2 4  
 Q2467 正休(せいきゅう/まさやす?-よし?-尾関おせき、)-? 江前期; 上方の医者/歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]7首入、  
 [つらかりしこそこのあだをば忘るべし花の香いそげはるの初かぜ](林葉累塵; 春132)、  
 [こしかたの我が悔しさに手ををれば恋こそかずのはじめなりけれ](同集; 雑1258)  
 Q2464 清久(せいきゅう; 号) ? - ? 江前期; 京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]入、  
 河瀬家の人か?、

[のがれても色こそかはれ世中をしのばでいかが墨染の袖](麓の塵;雑633)

B2400 **正休**(せいきゅう/まさよし・西川にしかわ、如見男)1693-1756<sup>64</sup> 肥前長崎天文暦学者;父門/父の推挙で幕臣、1741(寛保元)暦術測量御用/46改暦御用/47天文方:50改暦作業のため渋川則休と上京、幕府天文方からの編暦権奪還を策する陰陽頭土御門泰邦との交渉;将軍吉宗没後は泰邦に主導権を奪われる;1755天文方罷免;不遇のうちに没、1720如見「長崎夜話艸」刊、24「天学童子問答」、「崎陽夜話」「在京記録」著、游子六の天経或問に訓点;1729「大略天学名目鈔」著、42「紅毛緯度記」「紅毛緯度日曆」著、「西川正休筆記」外著多数、

[正休(;)名)の通称/法号]通称;忠次郎、法号;天理院

正久(せいきゅう・丹羽) → 正久(まさひさ・丹羽にわ、俳人) K 4 0 9 7  
正久(せいきゅう・竹中) → 残口(ざんこう・増穂/十寸穂/藤原/竹中、神道唱導家) F 2 0 7 9  
正久(せいきゅう・久保寺) → 正久(まさひさ・久保寺くぼでら、幕臣/和算家) G 4 0 6 0  
正久(せいきゅう・竹尾) → 正久(まさひさ・竹尾、神職/国学/歌) G 4 0 6 4  
正休(せいきゅう・河田) → 正休(まさやす・河田かわた、農家/文筆家) I 4 0 1 5  
正糾(せいきゅう・大藤) → 正糾(まさただ・大藤おおふじ、藩士/文筆家) D 4 0 5 2  
正躬(せいきゅう・島田) → 正躬(まさみ・島田しまだ、幕臣//国学者) Q 4 0 1 6  
正躬(せいきゅう・磯谷) → 正躬(まさみ・磯谷いそがや、藩士/国学者) H 4 0 3 4  
正躬(せいきゅう・小谷) → 秋水(しゅうすい・小谷おたに、藩士/儒者) H 2 1 7 8  
正躬(せいきゅう・佐々木) → 正躬(まさみ・佐々木ささき、国学/歌人) P 4 0 8 2  
正躬(せいきゅう・田中) → 正躬(まさみ・田中たなか、商家/歌人) Q 4 0 5 9  
正躬(せいきゅう・遠山) → 正躬(まさみ・遠山とおやま、歌人) R 4 0 0 6  
政久(せいきゅう・澤) → 政久(まさひさ・澤さわ、歌人) U 4 0 1 0  
成紘(せいきゅう・本多) → 成紘(なりただ・本多ほんだ、陪臣/歌人) O 3 2 7 3  
青丘(せいきゅう・海老江) → 元庸(もとつね・海老江えびえ、藩士/歌人) J 4 4 4 0  
青邱(せいきゅう・宮武) → 正策(しょうさく・宮武みやたけ、藩医/漢学) V 2 2 3 2  
清久(せいきゅう・神河) → 佐野(さの・神河かみかわ、歌人) O 2 0 3 3  
西丘(せいきゅう/さいきゅう) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5  
盛久(せいきゅう・金刺) → 盛久(もりひさ・金刺かなさし、神職/武芸/歌) G 4 4 2 9  
晴久(せいきゅう・尼子) → 晴久(はるひさ・尼子あまこ/源、武将/連歌) G 3 6 7 2  
晴穹(せいきゅう・池田) → 長恵(ながしげ・池田、幕臣/文筆) D 3 2 8 4

H2487 **青牛**(せいぎゅう、向陽軒) ? - 1801 撰津菟原郡小野の俳人:青蘿・嘯山門、灘に住、几董と交流、通称;小野の青牛、1768「文塚集」/88「をののちくさ」「桃くらひ」編、1802几董13回忌追善「夢の猪名野」入集、

H2488 **青牛**(せいぎゅう、寥々亭) ? - ? 1844-48頃存 江戸の俳人:蓼太門、1822「たね瓢ふくべ」編

青牛(せいぎゅう・勝沢) → 一順(いちじゅん・勝沢かつざわ、医者/詩歌) G 1 1 2 4  
青牛(せいぎゅう・村田) → 氏章(うじあき・村田、藩士/文筆家) C 1 2 3 0  
晴穹(せいきゅう・池田) → 長恵(ながしげ・池田、幕臣/文筆) D 3 2 8 4  
西丘(せいきゅう/さいきゅう) → 乗完(のりさだ・松平、藩主/老中/儒) E 3 5 5 5  
青丘遺老(せいきゅういろろ) → 伯英(はくえい;道号・徳俊;法諱、臨濟僧) C 3 6 6 1  
静休斎(せいきゅうさい) → 重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌) O 2 1 5 3  
青牛舎(せいぎゅうしゃ) → 麦里(ばくり・石垣いしがき、俳人) E 3 6 0 5  
正休老人(せいきゅうろうじん) → 正休老人(しょうきゅうろうじん、説話伝承) M 2 1 0 0  
西丘老夫(せいきゅうろうふ) → 訥庵(とつあん・陶山すやま、藩士/農政) O 3 1 4 0  
正居(せいきよ・成瀬) → 正居(まさやす・成瀬なるせ、藩士/記録) B 4 0 2 3  
政挙(せいきよ・鎌田) → 梁洲(りょうしゅう・鎌田かまた、儒官/家老) H 4 9 8 7  
静居(せいきよ・揚/上野あげ) → 弘斎(こうさい・揚あげ、儒/国学/詩歌) I 1 9 9 5  
静居(せいきよ・近藤) → 芳介(よしすけ・近藤こんどう/佐甲、国学/歌) L 4 7 7 2  
清虚(せいきよ・鶴殿) → 平七(へいしち・鶴殿うどの、藩士) 2 7 5 1

B2401 **青魚**(せいぎょ・勝部かつべ/修姓;勝、名;弼みつる、兼義[了元]3男)1712-88<sup>77</sup> 撰津西宮の代々大庄屋・医者、1728父没/上京;医;村上等詮門/儒;宇野明霞問/大阪で医を開業/俳諧;淡々門、

上田秋成と交流/1755郷里で医開業、1754「如在篇」著/73「桑蓬集」75「安永四年歳旦」編、  
「剪灯随筆」著、「にしのみやくさ」(；遺稿/1789刊)、欽次の父、

[青魚(；号)の字/通称/別号]字；孔彪、通称；正析、別号；朔庵/南谿子/疎竹菴、法号；宗雲

正魚(せいぎょ・加増) → 正魚(まさお・加増かぞう/千田、陪臣/国学) O 4 0 6 5

清魚(せいぎょ・河合) → 清魚(きよな・河合かわい、神職/歌人) U 1 6 0 0

清魚(せいぎょ・広田) → 清魚(きよな・広田ひろた/度会/宇治、神職) V 1 6 0 9

清虚庵(せいきょあん) → 眞澄(ますみ・小川おがわ、里正/歌人/茶) O 4 0 0 6

H2489 清狂(せいきやう・西村にしむら、名；百春) 1727-9468 尾張名古屋御園町絵師、小景の山水・人物に長ず、  
狂画も能くす、1785(天明5)「孝子林左衛門伝」著、

[清狂(；号)の字/通称/別号]字；子芳、通称；鏝屋いりや/清兵衛、別号；糟百春/千寿/酒民、  
法号；風雪清狂

H2490 世恭(せいきやう/ながやす・江田えだ) 1719?-9577? 江中期大阪の豪商/歌；似雲門/国学・典故に通ず、  
琵琶・香道を嗜む/書画鑑定に秀で[富八極め]と称す、頼山陽・入江昌喜と交友、古書蒐集、  
「色葉字類名香録」「五月雨の記考」著、「拾遺後葉集」「品香要録」「和漢錦繡一覽」編、  
「香之茶式集説」「古香徴説別集」「名香いろは分類名録」編/1783「香炉品彙」編、外編著多数、  
[世恭(；名)の字/通称/号]字；楨夫、通称；富田屋八郎右[左]衛門、号；蘭台

H2491 盛卿(せいきやう・青木あおき) ? - 1830? 尾張藩士、導引法青木流の祖、  
「導引法」「矯引狂歌教草」著、

[盛卿(；名)の通称/号]通称；平太夫、号；朝陽堂

H2492 盛恭(せいきやう・秋山あきやま) 1803-184644 水戸藩儒、儒；高橋担室・藤田幽谷門、  
1827彰考館入、32(天保3)「弘夷策」著、

[盛恭(；名)の字/通称/号]字；子謙、通称；弥九郎、号；静正堂

H2493 正恭(せいきやう/まさやす・吉田よしだ) ? - ? 江後期江戸の医者；徳川田安家の奥詰、  
蘭学を修学；西洋博物学に精通、大名・幕臣らの博物同好会[楮鞭会]に参加指導、  
松平定信がドドネウス「草木誌」邦訳企画の際石井当光の原訳の修訂に当る；  
原訳；「独々涅烏斯草木譜」、1790(寛政2)「赤表先生御伽話」98「嘉里穂久良」著、  
1810「字説管見」、「医事夢中論」「女科叮嚀方」「和産石類譜」「井擺い問答」「本草和品攷」著、  
「六書稽古編」著、

[正恭(；名)の別名/字/通称/号]別名；正三、字；和三、通称；九市、号；魯鈍斎

正共(せいきやう・真野) → 正共(まさとも・真野まの、歌人) U 4 0 0 0

正恭(せいきやう・津村) → 淙庵(そうあん・津村/円、商家/随筆/歌) 2 5 4 7

正恭(せいきやう) → まさただ・橋村 → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5

正恭(せいきやう・江坂) → 正恭(まさゆき・江坂えさか、幕臣/検地) I 4 0 2 4

正恭(せいきやう・毛山) → 正庸(まさゆき・毛山けやま/松浦、神職/歌) P 4 0 5 6

正恭(せいきやう・広岡) → 正恭(まさたか・広岡ひろおか/藤原、神職/尊皇) S 4 0 1 7

正喬(せいきやう・稲葉) → 正倚(まさより・稲葉いなば、幕臣/歌人) I 4 0 8 1

正喬(せいきやう・越智) → 正喬(まさたか・越智おち、歌人) D 4 0 1 7

正喬(せいきやう・片山) → 正喬(まさたか・片山かたやま、国学者) O 4 0 8 7

正教(せいきやう・山本) → 正教(まさのり・山本やまと/源、歌人) T 4 0 9 8

正教(せいきやう・山田) → 正教(まさのり・山田やまだ、歌人) M 4 0 2 2

正教(せいきやう・北沢) → 正教(まさのり/まさとし・北沢きたざわ、神職) P 4 0 2 7

正興(成興せいきやう) → 正礼(成礼せいれい・稲次いなつぐ/稲、藩士/暦算) J 2 4 8 6

正郷(せいきやう・安原) → 正郷(まささと・安原やすがら、商家/歌人) T 4 0 3 4

正郷(せいきやう・久貝) → 正郷(まささと・久貝くがい/藤原、幕臣/文筆) C 4 0 5 8

世教(せいきやう・斎藤) → 鑾江(らんこう・斎藤さいとう、商家/儒者) C 4 8 0 5

青郷(せいきやう・小野) → 栗野(りつや・小野おの、商家/漢学/詩歌) C 4 9 1 6

清郷(せいきやう・原) → 清郷(きよさと・原はら、藩士/和学/歌) V 1 6 0 4

清狂(せいきやう) → 月性(げつしょう・釈、真宗僧/海防論) E 1 8 7 9

靖共(せいきやう・小塚/内田) → 恒助(つねすけ・内田/小塚、藩士/文筆) C 2 9 3 0

盛郷(せいきやう・波々伯部) → 盛郷(もりさと・波々伯部ほおかべ、武将/連歌) F 4 4 4 3

- 盛匡(せいきやう・関せき) → 兎毛(とも・関せき、藩士/詩/狂歌) P 3 1 0 3  
 盛教(せいきやう・松倉) → 嵐蘭(らんらん・松倉まつくら、俳人) 4 8 0 7  
 斉匡(せいきやう・一橋/田安) → 斉匡(なりまさ・田安、画) I 3 2 1 8  
 成恭(せいきやう・鈴木) → 白藤(はくとう・鈴木すずき、幕臣/蔵書) D 3 6 6 6  
 成教(せいきやう・松井) → 成教(しげのり/なりのり・松井/源、随筆筆者) C 2 1 8 3  
 政共(せいきやう・荳戸) → 政共(まさとも・荳戸のぞき、藩士/和学者) R 4 0 5 3  
 政恭(正恭せいきやう・中西) → 政恭(まさゆき・中西なかにし、国学者) R 4 0 1 5  
 政郷(せいきやう・北畠) → 政郷(まささと・北畠/源、武将/連歌) C 4 0 5 7  
 政郷(せいきやう・加藤) → 逸人(いつじん・加藤かとう、商家/俳人) B 1 1 5 1  
 政教(せいきやう) すべて → 政教(まさのり)  
 政興(せいきやう・戸塚) → 正興(まさおき・戸塚とつか、歌人) B 4 0 5 4  
 政興(せいきやう・今泉) → 正興(まさおき・今泉いまいずみ、歌人) M 4 0 3 2  
 政興(せいきやう・山田) → 正興(まさおき・山田やまだ、歌人) M 4 0 5 1  
 誠恐(せいきやう・沖) → 勝間(かつかま・沖おき、藩士/国学) U 1 5 0 3  
 醒郷(せいきやう・今井/長岡) → 懐山(かいざん・長岡ながおか、医者) I 1 5 6 6  
 B2402 正業(せいぎやう・田中たなか) 1655?-1715?61 京の俳人、1691江水「元録百人一句」目録入  
 [正業(；号)の通称/別号]通称；作助、別号；溪葉軒きやうけん  
 H2494 盛業(せいぎやう・内藤ないとう) 1794-185562 出羽庄内藩士；鶴岡住、飽海郡代官、  
 1840庄内藩の長岡転封阻止事件の資料蒐集；「合浦珠」編、俳諧を嗜む、  
 [盛業(；名)の通称/号]通称；昇/宇右衛門、俳号；一娥いつしゅう  
 正業(せいぎやう・剣持) → 正業(まさなり・剣持けんもち、日記) L 4 0 1 4  
 正業(せいぎやう・沢田) → 眉山(びざん・沢田さわだ、藩儒/書/詩人) C 3 7 3 0  
 正業(せいぎやう・神谷) → 正業(まさなり・神谷かみや、養勇軒/俳人) F 4 0 4 1  
 正業(せいぎやう・向井) → 正業(まさなり・向井むかい/源、歌人) M 4 0 4 5  
 世業(せいぎやう・野村) → 西巒(せいらん・野村/丹治比、藩儒/香道) D 2 4 0 8  
 成業(せいぎやう・中林) → 竹溪(ちくけい・中林なかばやし、絵師) C 2 8 8 9  
 成堯(せいぎやう・西池) → 成麗(なりあきら・西池にいけ、神職) H 3 2 0 6  
 政業(せいぎやう・高階) → 政業(まさなり・高階たかしな、廷臣/歌人) U 4 0 2 8  
 政業(せいぎやう/まさなり・百々どど) → 百雄(ひやくゆう・花月堂、狂歌) E 3 7 8 2  
 政業(せいぎやう・長岡) → 政業(まさなり・長岡ながおか、神職/歌人) R 4 0 2 4  
 盛業(せいぎやう・淀川) → 盛信(もりのぶ・淀川よどがわ、国学者) G 4 4 2 0  
 盛業(せいぎやう・大国) → 盛業(もりなり・大国/荒木田、国学/歌) G 4 4 1 5  
 盛業(せいぎやう・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2  
 西峽庵(せいきやうあん) → 沾山(せんざん・内田/中村、俳人) F 2 4 5 4  
 晴鏡廓(せいきやうかく) → 池天(ちてん・桜山さくらやま、俳人) E 2 8 8 2  
 晴暁子(せいぎやうし) → 重章(しげあき・朝日あさひ、藩士/儒者) B 2 1 7 8  
 靖共先生(せいきやうせんせい) → 東峯(とうほう・伊藤、儒者/古義堂5世) H 3 1 1 5  
 靖恭先生(せいきやうせんせい) → 山陰(さんいん・佐野、藩士/儒者/地誌) G 2 0 1 5  
 B2403 清玉(せいぎよく) ? - ? 連歌、1476「表佐千句」「因幡千句」連衆；専順らと  
 清旭(せいぎよく・中村) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4  
 正旭(せいぎよく・若林) → 正旭(まさあきら・若林わかばやし、商家/歌人) T 4 0 7 8  
 青玉園(せいぎよくえん) → 天目(てんもく・志村しむら、篆刻) E 3 0 4 0  
 清気楼(せいきろう) → 三蕉(さんしやう・中村、儒/藩儒/詩文) M 2 0 3 9  
 晴暉楼(せいきろう) → 麻谷(まこく・大竹/岳、漢学者) 4 0 7 0  
 B2404 成均(せいきん・小河) ? - ? 漢学/富士谷御杖の叔父、御杖に影響を与える  
 性均(せいきん) → 性均(しやうきん；法諱、唯阿、本願寺派僧) Q 2 2 9 5  
 成均(せいきん・山田) → 嘯廬(しやうろ・山田やまだ、詩歌人) M 2 2 0 8  
 成近(せいきん・半井) → 瑞寿(ずいじゆ・半井なからい/和気、医；典薬頭) E 2 3 6 6  
 正近(せいきん・高原) → 正近(まさちか・高原たかはら、文筆家) D 4 0 7 6  
 正勤(せいきん・原) → 三左衛門(さんざえもん・原はら、藩士/武芸) M 2 0 2 4

青琴(せいきん・杉田) → 正政(まさはる・杉田すぎた、俳人) G 4 0 4 1  
 政均(せいきん→まさひら・田中) → 万春(ばんしゅん・田中、暦算家) H 3 6 9 7  
 政均(せいきん・栗田) → 政均(まさひら・栗田くりた/松田、国学/歌) P 4 0 4 8  
 聖欽(せいきん・下坂/江馬) → 天江(てんこう・江馬えま、医者/詩人) D 3 0 4 6  
 盛金(せいきん;法諱) → 盛金(じょうこん;法諱、天台僧) I 2 2 8 9  
 盛歆(せいきん→もりまれ・平塚) → 春江(しゅんこう・平塚、漢学/詩文) J 2 1 6 6  
 清琴軒(せいきんどう) → 延貞(のぶさだ・明星あかばし、商家/歌人) H 3 5 1 1  
 清吟堂(せいぎんどう) → 水谷(すいこく・杉辺すぎべ、書家) E 2 3 5 3  
 生駒(せいく・日下) → 世傑(せいけつ・日下文雄) B 2 4 1 7  
 正矩(せいく・香川) → 正矩(まさのり・香川/平、藩士/軍記作者) F 4 0 9 3  
 正矩(せいく・花房) → 正矩(まさのり・花房はなぶさ、幕臣/歌) F 4 0 9 8  
 正矩(せいく・橋村) → 正長(まさなが・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 7 0  
 正矩(せいく・河田) → 正矩(まさのり・河田かわた、農家/心学者) G 4 0 0 2  
 正矩(せいく・今木/今城) → 正矩(まさのり・今木/今城いまき、和算家) G 4 0 1 8  
 正矩(せいく・奥貫) → 正矩(まさのり・奥貫おくぬき、国学者) G 4 0 3 1  
 正矩(せいく・辻) → 正矩(まさのり・辻つじ/度会、神職/国学) Q 4 0 9 5  
 政矩(せいく/まさのり・井上) → 残夢(ざんむ・井上いのうえ、藩士/詩人) M 2 0 7 9  
 政矩(せいく/まさのり・柳田) → 凌雲(りょううん・柳田やなぎだ、医者/藩士) G 4 9 3 8  
 政矩(せいく/まさのり・林) → 為成(ためなり・林はやし、幕臣/歌人) U 2 6 0 7  
 清矩(せいく・小中村) → 清矩(きよのり・小中村こなかむら/紀、商家/国学者) H 1 6 5 1  
 静区(せいく・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うづぎ、儒者) I 2 4 3 1  
 盛矩(せいく・神戸) → 盛矩(もりのり・神戸かんべ、藩士/刀剣鍛法) G 4 4 2 6  
 盛矩(せいく・稲次) → 盛矩(もりのり・稲次いなつぐ/有馬、家老) J 4 4 3 1

F2478 誠愚(せいぐ・門阪かどさか) 1727- 1801 75 近江日野の酒造業、国学/歌;浜崎景斎・石川雅望門、相模藤沢に住、

[誠愚(;)の名/通称/号]名;のぼる、通称;市太郎/喜三郎/伝左衛門、号;了信

正愚(せいぐ) → 正愚(しょうぐ、法師/浄土僧) M 2 1 6 0  
 政具(せいぐ→まさとも・北畠) → 政郷(まささと・北畠/源、武将/連歌) C 4 0 5 7  
 性愚(せいぐ;字) → 性愚(しょうぐ;字・聖伝;法諱、浄土僧) I 2 2 1 2  
 性愚(せいぐ→しょうぐ;法諱) → 大巖(だいてん;道号・性愚、曹洞僧) K 2 6 7 3

B2406 清空(せいくう・村上むらかみ) ? - ? 秋月藩と関り?、1667随筆「村上編輯雑記」著

性空(せいくう;法諱) → 性空(しょうくう;法諱、天台僧/書写上人/歌) S 2 2 0 4  
 清空(せいくう;法名) → 持通(もちみち・二条/藤原、関白/歌・連歌) B 4 4 7 1  
 清空(せいくう;法名) → 元長(もとなが・甘露寺/藤原、廷臣/歌・連歌) 4 4 1 8  
 清空(せいくう;法諱) → 清空(しょうくう;法諱、浄土僧/歌) G 2 2 2 5  
 静空(せいくう/じょうくう;法名) → 実房(さねふさ・三条/転法輪三条、左大臣/歌) 2 0 4 5  
 静空(せいくう/じょうくう;初法諱) → 実融(じつゆう;法諱・満月;字、真言僧) V 2 1 1 0  
 正隅(せいぐう・春原/赤塚) → 芸庵(うんあん・赤塚あかつか、廷臣/詩歌) D 1 2 5 4  
 清九郎(せいくろう・前田) → 正房(まさふさ・前田、藩士) H 4 0 2 0  
 清九郎(せいくろう・杉田) → 直孟(なおたけ・杉田、和算家) B 3 2 5 4  
 清九郎(せいくろう・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8  
 清九郎(せいくろう・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q 1 6 0 7  
 清九郎(せいくろう・前田) → 正房(まさふさ;名・前田/太田、藩士) H 4 0 2 0  
 清九郎(せいくろう・石井) → 恭信(よしのぶ・石井いし、藩士/歌人) L 4 7 5 2  
 清九郎(せいくろう・上木) → 蔭尋(かげたず・上木うわぎ/源、商家/国学) T 1 5 8 1  
 聖訓(せいくん・伊藤) → 聖訓(しょうくん・伊藤、儒者) M 2 1 1 5  
 聖君(せいくん・太田) → 主計(かづえ・太田おた、医者) M 1 5 1 0  
 清薫(せいくん) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1  
 盛郡(せいぐん・日高) → 五明(ごめい・日高ひだか、酒造業/俳人) N 1 9 7 5  
 静家(せいけ・中田) → 長主(ながぬし・中田なかつ、商家/国学) O 3 2 0 7

- B2407 **正景**(せいけい) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」入;1157、  
[月は目に目はつきに入る夕べかな](犬子集;五1157)
- B2409 **正慶**(せいけい) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子集」732  
[降りくらし火の雨まじるほたる哉](犬子集;三732)
- B2408 **正継**(せいけい) ? - ? 伊勢の俳人:高政門、  
1633重頼「犬子集」入(;859)、1675「俳諧絵合」入、  
[さゝれてもよきは蓮はちすの花瓶哉](犬子集;三859)
- B2412 **青溪**(せいけい・角田すみた/本姓;平、名;明、克寛男)1720-89 父は丹後宮津藩主青山氏の家老、  
江戸青山の生;家を嗣ぎ宮津藩家老;1756財政再建問題で家督を2歳の嫡男青陵に譲渡、  
1771尾張藩に出仕;竹腰山城守の同心/人見璣邑の推挙で世子斉朝の侍読、1788致仕、  
剃髪(;青溪号)、漢学;松江藩儒宇佐美瀧水しんすい門、能書、「老荘同異考」「老荘翼解」、  
「毛詩鄭箋同異考」「尚書古今文同異考」「頼宮はんきゅう考」「墨隱稿」、1783「経子説」編、  
[青溪(;剃髪号)の字/通称]字;公熙、通称;市左衛門、諡号;協真公、海保青陵の父
- B2410 **青溪**(せいけい・辛島からしま、名;光輔みつづけ、義先男)1724-9370 肥後熊本藩の儒者;秋山玉山門、  
1753(30歳)読書師役/55藩校時習館の助教/56学校方御奉行触を兼務、  
1754「玉山詩集」編、「水経注選」著、  
[青溪(;号)の字/通称]字;翼之、通称;義助
- 2407 **清溪**(せいけい・田中たなか/修姓;田、名;節、喜三郎長男)1734-181481 肥後山本郡の医者/儒者、  
1764熊本藩許を得て医者/94目見医師/1800(寛政12)目疾により致仕、  
漢学の私塾を開き子弟教育/詩人、「清溪詩集」「北遊記稿」「樵余録稿」著、「省庵遺稿」、  
[清溪(;号)の字/通称]字;礼夫、通称;節斎/省庵
- B2411 **清溪**(せいけい・山本やまもと/本姓;藤原、名;正臣、正興男)1754-182370 京大炊御門家家臣;父を継嗣、  
官人;従四下/土佐守/近江守/大膳権亮、漢学;岩垣竜溪門/職制・制度に精通、国学/詩歌人、  
1800致仕/1806江戸下向;没、「清溪集」「源語函鈔」「三十六歌仙函抄」「八省考」「論語折衷」、  
「女房装束着用次第函」「律呂新書訳説」「制度通補遺」「撰家次第」「日光紀行」著、  
1807「あたま紀行」10「歌仙絵抄」著/21「百官職掌便覧」編、昌敷の父、  
[清溪(;号)の字] 字;欽若
- 02426 **成蹊**(せいけい・水沼みづぬま) ? - ? 江後期;伊予大洲中町の商家;淡路屋、書家/歌人、  
1801(享和元)頃;母80・88・90歳の賀集「水沼成蹊母の賀集」編(詩歌・発句など)、  
「諸家人物小伝」著、歌;[大洲和歌集]5首入、  
[吹く風の便りならでは遠山の鹿のなくねはいかできかまし](大洲和歌集)
- B2413 **成蹊**(せいけい) ? - ? 俳人、1812(文化9)「栞集」編:梅人13回忌追善集、  
1818「俳諧十二律」著
- B2414 **精溪**(せいけい・昌谷さかや/原田、名;碩、原田左平次5男)1792-185867 備中川上郡九名村の儒者、  
郷儒伊達北山門/1808筑前の亀井塾入門/亀井南冥・昭陽の父子門;護園けんえん古文辞学修学、  
1817江戸の佐藤一斎門/林述斎門、美作津山藩儒臣;江戸詰/世子松平齐民の侍講、  
藩儒稲垣雪洞と「学校御造営諸制度調書」を提出;1843文武稽古場設立、  
「精溪文章」「精溪日記」「精溪萃稿」「精溪日記」「匿名詩稿」「藩史」「巴調」「文房災余」著、  
1853「御戒策」著/57「小学書合纂」編、「精溪先生詩抄」「精溪先生文稿」、外著多数、  
[精溪(;号)の字/通称/別号]字;子儼、通称;五郎左衛門/五郎、  
別号;莫知其斎/無二三道入/寄々園主人/望岳楼、千里の父
- H2496 **清溪**(せいけい・中野なかの、名;南強)1799-188486 筑後柳川藩士;詩文;篠崎小竹・広瀬淡窓門、  
漢学;安東節庵・牧園茅山門、1820(文政3)書物方助役/24藩校伝習館句読師、  
1855上総富津警衛隊士として出陣、1861筑後三池郡江ノ浦邑住;子弟教育、  
1835「柳河藻」編、49「金蘭詩集」、「藩中群英詩稿抄」著、  
[清溪(;号)の字/通称]字;君教、通称;彦市/彦一
- B2416 **成卿**(せいけい・杉田すぎた、名;信、立卿りゅうけい男)1817-5943 江戸の医者、玄白の孫、蘭学;坪井信道門、  
儒;萩原緑野門、1840幕府天文台の訳官/1844幕府命で和蘭書翻訳従事(宇田川榕庵らと)、  
1845父の跡継嗣;若狭小浜藩医、54家督を杉田玄瑞に譲渡/隠棲、55蕃書調所教授に就任、  
1849「医戒」50「牛痘略説」51「済生備考」58「万宝玉手箱初篇」など翻訳書多数、



「遠西秤量尺度考」「解剖刀式」「泰西医源」「養生法」「玉川紀行」「海上砲術全書」外著多数、  
[成卿(；通称)の号] 梅里/風来散人/天真楼、法号；梅里院

N2470 静溪(せいけい・河東かわひがし、名；坤、字；子厚、虎臣男)1830-9465 伊予松山藩士/儒者；父門、  
昌平黌で修学；古賀侗庵門、松山藩明教館教授/千舟学舎開設；子弟教育、碧梧桐の父、  
「静溪随筆集」「静溪雑記」著

02432 盛圭(せいけい・富川とみかわ、唐名；毛鳳来、)832-9059 琉球首里儀保村で毛氏富川殿内家の生、  
琉球廷臣；1872検使；宮古・八重山に渡り在地の法制を監査/1875-79三司官(最後)、  
琉球処分では沖縄県庁顧問；新政府に協力、1882日清間の分島増約案に反対；清国亡命、  
復藩活動に奔走；清国で客死、歌人

正卿(せいけい・松田) → 駒水(くすい・松田まつだ、藩士/儒者) C 1 7 0 6  
正卿(せいけい・菅井) → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0  
正卿(せいけい・祇園) → 南海(なんかい・祇園ぎおん/祇/阮、詩人/絵師) 3 2 3 0  
正卿(せいけい・久野) → 純固(すみかた・久野くの、藩家老/詩歌) D 2 3 8 8  
正卿(せいけい・河島) → 正卿(まさのり・河島かわしま、商家/詩歌人) P 4 0 0 6  
正卿(せいけい・磯谷) → 滄洲(そうしゅう・磯谷いそがい、儒者/文章) B 2 5 8 3  
正卿(せいけい・奥貫) → 友山(ゆうざん・奥貫おくぬき/荻生、名主/救荒) B 4 6 9 1  
正卿(成卿せいけい・国枝) → 松宇(しょうう・国枝くにえだ、商家/儒者) G 2 2 9 5  
正卿(せいけい・保岡) → 川荘(せんそう・保岡やすおか、藩儒者) G 2 4 2 7  
正卿(せいけい・近藤) → 正卿(まさつぐ・近藤こんどう/加藤、神職/歌) P 4 0 7 5  
正景(せいけい・田付) → 正景(まさかげ・田付たつけ/源、砲術家) B 4 0 7 0  
正景(せいけい・立田) → 正景(まさかげ・立田たつた、狂歌作者) L 4 0 0 9  
正景(せいけい・杉浦) → 正景(まさかげ・杉浦、藩士/剣術家) B 4 0 7 1  
正景(せいけい・矢田) → 正景(まさかげ・矢田やだ、真宗僧/歌人) T 4 0 3 0  
正璟(せいけい・橋村) → 正璟(まさあきら・橋村はしむら/中山、和漢学) R 4 0 6 6  
正兄(せいけい・福住) → 正兄(まさえ・福住/大沢、名主/報徳思想) B 4 0 3 4  
正径(せいけい・磯辺) → 昌言(まさのぶ・磯辺/磯部、藩士/兵法) F 4 0 6 2  
正珪(せいけい・曲直瀬まなせ) → 雲夢(うんむ・越智、幕府医/儒者) E 1 2 0 6  
正啓(せいけい/まさひろ・下村) → 彦右衛門(ひこえもん・下村、呉服業大丸屋初代) 3 7 5 2  
正啓(せいけい・高橋) → 正純(まさずみ・高橋たかはし、商家/歌人) D 4 0 0 7  
正啓(せいけい・小津) → 審斎(しんさい・小津おう、国学者/歌人) O 2 2 4 1  
正啓(せいけい・藤野) → 海南(かいなん・藤野ふじの、儒/蘭学) H 1 5 7 6  
正啓(せいけい・篠原) → 景雄(かげお・篠原しのはら、国学者) K 1 5 8 0  
正敬(せいけい・大内) → 玉江(ぎよくこう・大内おおうち、藩士/儒者) O 1 6 9 0  
正敬(せいけい・橋) → 岷江(みんごう・橋たちばな、絵師) G 4 1 8 0  
正敬(せいけい；諡号) → 虚斎(ちゆうさい・久保くぼ、儒者/詩人) G 2 8 0 5  
正継(せいけい・井上) → 正継(まさつぐ・井上、幕臣/砲術家) D 4 0 8 9  
正継(せいけい・自影庵) → 正継(まさつぐ、自影庵、狂歌) L 4 0 0 3  
正継(せいけい・弓削) → 正継(まさつぐ・弓削ゆげ/市川、官人/国学) T 4 0 6 0  
正慶(せいけい；法諱) → 正慶(しょうきょう；法諱、真宗大谷派僧) I 2 2 0 3  
正慶(せいけい、靈翁) → 正慶(しょうきょう、靈翁、真宗本願寺僧) I 2 2 0 3  
正慶(せいけい・池田) → 正慶(まさよし・池田いけだ、和算家) I 4 0 7 6  
正慶(せいけい；法諱) → 正慶(しょうけい；法諱、天台僧) G 2 2 3 0  
正慶(せいけい・浅井) → 正慶(しょうけい・浅井、守護/連歌作者) I 2 2 1 6  
正慶(せいけい・桜井) → 正慶(しょうけい・桜井、連歌作者) I 2 2 1 7  
正慶(せいけい) → 恵瓊(えけい；法諱・瑤甫、臨濟僧/外交) D 1 3 7 5  
正慶(せいけい/まさよし・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6  
政景(せいけい・梅津) → 政景(まさかげ・梅津/藤原、藩家老/日記) B 4 0 6 9  
政経(せいけい・保科) → 政経(まさつね・保科ほしな、藩主/能書家) E 4 0 0 7  
政経(せいけい・岡田) → 政経(まさつね・岡田おかだ、藩士/茶/辞書) E 4 0 1 2  
政慶(せいけい/まさよし・高田) → 清兵衛(せいべえ・高田たかだ/堺屋、書肆) J 2 4 5 7

政瓊(せいけい・宮本)	→	君山(くんざん・宮本みやもと/宮、絵師)	D 1 7 6 6
生卿(せいけい・陳)	→	錢塘(せんとう・陳ちん、漢学者)	N 2 4 0 0
性瑩(せいけい→しょうけい)	→	独湛(どくたん;道号・性瑩;法諱、黄檗僧)	L 3 1 2 0
性慶(せいけい;法諱)	→	性慶(しょうけい;法諱、天台園城寺僧)	I 2 2 2 0
清慶(せいけい;法諱)	→	清慶(しょうけい;法諱、興福寺法相僧)	I 2 2 1 8
清溪[谿](せいけい;道号)	→	通徹(つうてつ;法諱・清溪、臨濟僧)	2 9 4 1
清溪(せいけい・行方)	→	水谿(すいけい・行方なめかた、本草家)	E 2 3 3 6
清溪(せいけい・上田)	→	一徳(かずのり・上田うえだ、藩士/国学)	T 1 5 7 5
清啓(せいけい・天譽;道号)	→	天与(てんよ・清啓、臨濟僧)	E 3 0 4 9
清溪(せいけい:号)	→	龍喜(りゅうき;法諱・熙春;道号、臨濟僧)	D 4 9 2 9
清経(せいけい・源)	→	清経(きよつね・源、今様・鞠)	D 1 6 3 6
清馨(せいけい・岩間)	→	麦羅(ばくら・岩間、俳人)	E 3 6 0 2
清馨(せいけい・斎藤/高須)	→	松斎(しょうさい・高須/斎藤、蘭医/藩医)	J 2 2 0 5
清経(せいけい・鳥居)	→	清経(きよつね・鳥居とりい、絵師)	D 1 6 3 7
清卿(せいけい・木内)	→	惺堂(せいどう・木内きうち、儒者/詩人)	J 2 4 3 2
青圭(せいけい・頼)	→	春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒)	2 1 6 0
青溪(せいけい・広瀬)	→	淡窓(たんそう・広瀬ひろせ/建、儒者)	2 6 9 3
青溪(せいけい・村)	→	純清(すみきよ・村むら、文筆家)	D 2 3 5 7
青溪(青谿せいけい・三浦)	→	無窮(むきゆう・三浦みうら、医者)	4 2 3 8
青谿(せいけい・武田)	→	済美(せいび・武田、和算家)	J 2 4 4 7
青卿(せいけい・鳥山/高橋)	→	巴山(はざん・高橋、儒者)	E 3 6 3 3
靖卿(せいけい・荻野)	→	朝匡(ともまさ・荻野おぎの/鈴木、藩士/歌)	U 3 1 6 1
静卿(せいけい・桑原/工藤)	→	周庵(しゅうあん・工藤くどう、医者)	G 2 1 7 6
世敬(せいけい・神吉かんき/かみよし)	→	東郭(とうかく・神吉、医/儒者)	C 3 1 1 4
世経(せいけい・服部)	→	豊山(ほうざん・服部はっとり、藩士/儒者)	B 3 9 0 7
世継(せいけい・田中)	→	散木(さんぼく・田中たなか、藩士/儒者)	G 2 0 1 6
世卿(せいけい・中川)	→	善継(よしつぐ・中川ながかわ、眼科医/歌)	O 4 7 1 5
成景(せいけい・栗原)	→	茂景(しげかげ・栗原くりはら/角井、神職/歌)	O 2 1 3 2
成慶(せいけい・皆川)	→	春洞(しゅんどう・皆川、淇園父/商家/医者?)	K 2 1 3 3
成敬(せいけい・甲田)	→	成敬(なりたか・甲田こうだ、兵法家)	H 3 2 4 6
成卿(せいけい・辻)	→	晩庵(ばんあん・辻/十街、藩士/儒者)	H 3 6 1 9
成卿(せいけい・多田)	→	海庵(かいあん・多田ただ、儒者/砲術)	I 1 5 3 5
成卿(せいけい・木村)	→	卓堂(たくどう・木村/源、儒者)	O 2 6 1 6
成蹊(せいけい・桃井)	→	翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩)	2 3 2 0
聖恵(せいけい;法諱)	→	聖恵(性慧しょうえ;法諱、天台座主/歌)	W 2 2 2 9
聖慶(せいけい;法諱)	→	聖慶(しょうきよう;法諱、東大寺僧/歌人)	W 2 2 1 0
聖罔(せいけい;法諱)	→	聖罔(しょうけい;法諱、浄土僧/宗学)	Q 2 2 9 6
聖卿(せいけい・柏淵)	→	時憲(ときのり・柏淵かしづち、国学者)	U 3 1 7 2
盛経(せいけい) すべて	→	盛経(もりつね)	
盛継(せいけい・伊豆)	→	盛継(もりつぐ・伊豆いず、神職/歌人)	F 4 4 7 3
斉敬(せいけい・二条)	→	斉敬(なりたか・二条、摂政/公武合体派)	H 3 2 4 9
斉卿(せいけい・神谷)	→	元等(もととも・神谷かみや、商家/国学者)	J 4 4 7 2
誠敬(せいけい・神南かんなんみ)	→	誠敬(のぶたか・神南かんなんみ、神道/国学/歌)	B 3 5 7 2
誠卿(せいけい・森)	→	海庵(かいあん・森もり、医者/侍医)	I 1 5 3 4
誠卿(せいけい・村田)	→	中玄(ちゅうげん・村田むらた、医者)	F 2 8 9 9
星溪(せいけい・服部)	→	大方(たいほう・服部/沢、藩士/儒者)	C 2 6 2 0
星溪(せいけい・本庄)	→	星川(せいせん・本庄/本荘ほんじょう、藩儒)	C 2 4 4 7
星溪(せいけい・河地)	→	時俣(ときよし・河地かわち、国学)	U 3 1 8 8
整卿(せいけい・橋村)	→	正身(まさのぶ・橋村/度会、神職/神典)	F 4 0 6 9
清芸(せいげい・武田)	→	吸松斎(きゅうしょうさい、武田たけだ、故実家)	M 1 6 7 2

- 清溪院(せいけいいん) → 光貞(みつさだ・徳川/松平/源、藩主) D 4 1 4 4  
 聖恵親王(せいけいしんのう) → 聖恵親王(しょうけいしんのう、真言仁和寺僧) I 2 2 2 9
- B2417 **世傑**(せいけつ・日下くさか/本姓;森/修姓;孔、日下益胤男) 1712-5241 河内日下の農家(豪農)の生、  
 儒者;宋学修学/のち荻生徂徠に私淑;古文辞学を修学し李王の説を主唱、詩人、  
 時務経済を以て自らの任とす、竜草廬・山脇東洋・清田儋叟と交流、元凱の父、  
 「生駒山人詩集」「鳴鶴随筆」「慶延史断」「聖楠舎聞稿」著、「孔竜詩鈔」編、  
 [世傑(;字)の名/通称/号]名;文雄、通称;真蔵/竜蔵、  
 号;生駒にま/生駒山人/鳴鶴陳人/愚拙農夫/聖楠舎
- 正潔(せいけつ・取田) → 正潔(まさきよ・取田とりだ、神道家) C 4 0 3 3
- B415 **井月**(せいげつ;号) ? - ? 江中期江戸の俳人;雑俳点者、  
 1720(享保5)撰集「俳諧ちゑぶくろ」点入(蝶々子・紫川・文考らと)
- H2497 **星月**(せいげつ・北見きたみ、名;衛)?(天明1781-89頃生)-?(1819以後没) 江後期佐渡相川の和算家:  
 下野宇都宮で空一流算学修学/1804江戸で算学教授/のち市瀬惟長門;最上流算学を修学、  
 文政初頭(1818-)帰郷/佐渡で医を開業/金山の役人を兼ねる、音韻・悉曇学に通ず、  
 1808「球題集」編、「算学諸源集」「算学諸源集」「悉曇正解」著、「あしかな」著(1834刊)、  
 [星月(;号)の通称/別号]通称;見勇/玄勇/都矩/阿都摩勇(;文政以後の称)、  
 別号;桂廼舎かつらのや/霽月せいげつ
- B2418 **井月**(せいげつ・井上いのうえ、通称;勝造/or勝之進) 1822-8766 信濃の俳人、長岡藩士;のち浪人;放浪、  
 1839ころ江戸に出る、その後も信州各地行脚/1887上伊那郡美篤村で客死、  
 「越後獅子」「家づと集」「余波なごりの水茎」編、没後;「井月の句集」「漂泊俳人井月全集」刊
- 霽月(せいげつ・田内) → 穂波(ほなみ・田内たのうち、藩士/随筆) G 3 9 2 5  
 霽月居(せいげつきよ) → 郊花(こうか・野口のぐち、俳人) H 1 9 7 8  
 静月亭(せいげつてい) → 車龍(しゃりゅう・武田たけだ、歌人) Z 2 1 3 8  
 霽月堂(せいげつどう) → 金鱗(きんりん・児玉こだま、藩士/儒者/詩) J 1 6 0 9  
 霽月堂(せいげつどう) → 丈竹(じょうちく・霽月堂/本草家) K 2 2 8 4  
 清月楼蘆舟(せいげつろうしゅう) → 蓬壺(ほうこ・高島たかしま、俳人) F 3 9 6 4
- B2419 **清見**(せいけん・しょうけん;法諱)?-? 万葉十八4070「左注人物」、越中国分寺国師の従僧、  
 748(天平20)4月国師(主僧)に随い帰京;越中守大伴家持から送別会で歌と酒を贈られる、  
 [4070庭中牛麦なでじの歌;一本ひともの牛麦植ゑしその心誰に見せむと思ひそめけむ;家持]
- B2420 **成憲**(せいけん) ? - ? 戦国期連歌作者、  
 1537. 5. 22今城能親張行「伊予千句」連衆;周桂・宗牧らと
- 2408 **静軒**(せいけん・野間のみ/修姓;野、名;成大、野間玄琢男) 1608-7669 医者;父門/1636法橋/38法眼、  
 1640禁裏出仕;隔年ごとに江戸出仕、1646家督/68法印;洛西柳谷に住、儒;松永貞徳門、  
 松永尺五・林羅山門、詩/俳諧を嗜む、妻;本多正勝女、木下長嘯子・石川丈山を敬慕、  
 「医学類」編/1662「医統源流図」「北溪含毫」編/68「四時幽賞」69「本朝詩英」70「桑華紀年」、  
 1679「文体明辨粹抄」編、「俗語録」「沈静録」「孤燈録」「備忘録」「沈静録」「潜楼文集」外多数、  
 [静軒(;号)の字/通称/別号]字;子苞、通称;三竹、別号;潜楼/柳谷/壽昌院じゅしょういん
- B2421 **清軒**(せいけん・国枝くにえだ、通称;藤兵衛)?-? 江前期の軍記作者/浪人し近江大津住、  
 祖父松本木工之助は上杉家譜代の家臣、諸家の浪人から戦国期の武将の言行を聞書す、  
 軍記:1680「武辺咄ばなし聞書」著・80「会津陣物語」校、「武功記」編/「近世軍記」著、  
 「近世名勇伝」「武功要名秘録」「世説雲談録」「続武者物語」「武要実録」著
- B2422 **静軒**(せいけん) ? - ? 江前期詩人、1681似春「芝肴しばざかな」漢句入
- E2468 **斉賢**(せいけん) ? - ? 江前期漢学者、  
 1688「夷堅志和解いけんしわけ(人鏡故事談)」著(8巻;南宋洪邁編の小説『夷堅志』抄訳)
- B2423 **静軒**(せいけん・宮地みやじ、藩士三右衛門2男) 1674-175380 土佐藩儒者;谷秦山門/程朱学修学、  
 秦山学風が藩の忌諱に触れ藩命で緒方黙堂門/宝永1704-11頃上京;古義堂入学、  
 伊藤東涯門、帰藩後東涯学に従えない旨上申;禄剥奪/蟄居、1718請うて上京;三宅尚斎門、  
 1720赦免帰藩;扈從格、のち侍講;藩主に随い江戸と土佐を往復;学問を講義、  
 「与子談」「山内公遺事」1731「御代々御誌石」著、  
 [静軒(;号)の名/通称]名;介行/介直/介正、通称;藤弥/弥七郎

- B2424 **誓謙**(せいけん;法諱) ? - ? 江中期天明1781-89頃越中の真宗本願寺派僧、  
:柔遠門/越中新川郡高柳の明楽寺14世、「浄土論聴記」著
- H2499 **正賢**(せいけん・辻つじ) ? - 1823 江戸下谷金杉の関流和算家;神谷藍水門、  
1804下総銚子に移住;教授/21山形で教授;山形で没、「雑題三十九好」著、  
[正賢(;)名]の通称/号]通称;三作/嘉左衛門、号;螻齋かくさい
- B2426 **晴軒**(せいけん・大田おおた、名;敦、錦城3男)1795-1873 79 漢学者(家学);父多忙のため独学で修学、  
儒学・老子研究、天保1830-44頃父継嗣;三河吉田藩主松平信明に出仕;藩校時習館で講義、  
詩文・医学に通ず、「老子全解」「列子考証」「孟子考」「荀子考」「莊子考」「孝経考」、  
「戦国策考」「大田晴軒文」「晴軒随筆」「晴軒百絶前編」「晴窓漫筆」「魯得集」「山窓雅談」、  
「揮毫漫録」「甘節斎随筆」「知新録」、1814「三経小伝」30「漫存藁」65「訓蒙浅語」外著多数、  
[晴軒(;)号]の字/通称]字;叔復、通称;魯三郎/魯佐(ろすけ?)
- 2409 **静軒**(せいけん・寺門てらかど、名;良、勝春2男)1796-1868 73 常陸石塚の儒者;山本緑陰門、  
父は水戸藩士、仏典;江戸上野寛永寺漢学寮入学/文政1818-30頃江戸駒込に克己塾を開塾、  
詩人、水戸藩への仕官叶わず/1831-4「江戸繁盛記」執筆;天保改革で敗俗之書とされる;  
武家奉公御構の処分/江戸を出て上州など各地遊歴;1837武州胄山の豪農根岸友山と交流、  
武蔵妻沼に両宜塾を開く、1837「静軒一家言」38「静軒詩鈔」著/44「懷玉節用集」編、  
1850「江頭百詠」57「楨肩瓦囊(ていけんがのう)」59「新潟富史」、「静軒百詩」「静軒迂言」外著多数、  
[静軒(;)号]の字/通称]字;子温、通称;弥五左衛門
- I2400 **清軒**(せいけん・小田野おの、名;行世/直養)1798-1856 59 常陸の儒者;常陸長倉の松平家に出仕、  
「東奥紀行」著、「直養遺稿」、  
[静軒(;)号]の字/通称]字;子行、通称;権之介
- I2401 **晴軒**(せいけん・広川ひろかわ、三右衛門2男)1803-84 82 越後魚沼郡小千谷村の商家;家業に従事、  
50余歳頃和算;佐藤解記門;師没後1860(58歳)江戸に遊学/洋学;箕作阮甫門、  
帰郷後1865「三元素略説」著;熱・火・電気は本来同一と主張、1870東京で太陽暦採用を建白、  
帰郷後柏崎県議事者;三度東京に行き洋学塾を開く;門人少なく小千谷に帰郷、  
「極楽浄土之説」「儒仏比較論」「人生説」「男女配匹論」「舎密一家言」著、  
[晴軒(;)号]の字/通称/別号]字;魯、通称;亀七/徳三郎、別号;九阜楼きゅうこうろう主人
- G2489 **省軒**(せいけん・堀田ほった、本間義制2男)1808-79 72 但馬出石藩士の家の生/堀田為恭(為泰)の養子、  
儒;藩儒桜井石門門/徂徠学;筑前福岡の亀井陽洲(ようしゅう)門/大阪の藤沢東暎門、  
帰藩後;藩校弘道館講師兼諫諍役/町奉行・勘定奉行・先手物頭歴任、維新後;出石藩大参事、  
「省軒集」著、「無尽蔵随筆」編、  
[省軒(;)号]の名/字/通称]名;遊、字;子敏、通称;友爾/反爾
- B2427 **誠軒**(せいけん・斎藤さいとう、名;正格、拙堂男)1826-76 51 伊勢津藩士/儒(家学);父門、  
京摂津・安藝周防を遊学、藩校有造館の句読師/副講官/侍読/講官/1859督学参謀;父継嗣、  
詩人、「誠軒集」著、  
[誠軒(;)号]の字/通称]字;致卿、通称;徳太郎、諡号;文真先生
- I2402 **静軒**(せいけん・井上いのうえ、名;謙、藤兵衛男)?-? 江後期代々但馬出石藩の諸記役人、  
儒者;頼春水・若槻幾斎門、出石藩儒/藩主仙石家の家譜編纂の命を受く、  
「但馬続風土記」「静軒集」著、  
[静軒(;)号]の字/通称]字;頤卿/子静、通称;謙蔵
- I2444 **誠軒**(せいけん・頼らい、名;元啓、聿庵(いつあん)男)1829-94 66 儒者/安藝広島藩儒、浦太郎宛書簡あり、  
[誠軒(;)号]の字/通称]字;子明、通称;東三郎、
- I2403 **誠軒**(せいけん・赤田あかた、名;昭/商衡、章斎男)1831-73 43 祖父;臥牛、飛騨高山の儒者;家学を修学、  
私塾静修館で門人指導、1868高山県知事梅村速水よりの学問取締方就任要請を断る、  
塾を閉鎖し北越を遊歴;病で帰郷し高山勝久寺に没、  
「正鑑参衡録」「孝経明徴」「中庸明徴」「皇鑑冀経録」「諸家帝王略記」著、  
[誠軒(;)号]の字/通称]字;子黄、通称;瑛次郎/雌雄五郎、法号;長景

性憲(せいけん;法諱) → 性憲(しょうけん;法諱、天台僧/歌人) G 2 2 3 8

性憲(せいけん;法諱) → 性憲(しょうけん;法諱・慈空;字、浄土西山派僧) I 2 2 4 3

盛憲(せいけん;法諱) → 盛憲(じょうけん;法諱、法師/連歌作者) I 2 2 6 1

盛兼(せいけん・藤原) → 盛兼(もりかね・藤原ふじわら、廷臣/歌人) M 4 4 2 0  
 盛見(せいけん・大内/多々良) → 盛見(もりはる/もりみ・大内/多々良、守護/歌) G 4 4 2 7  
 正見(せいけん・羽田) → 正見(満佐美まさみ・羽田はねだ、幕臣) H 4 0 3 6  
 正兼(せいけん・藤田) → 正兼(まさかね・藤田ふじた、歌人) C 4 0 1 8  
 正謙(せいけん・斎藤) → 拙堂(せつどう・斎藤、儒者/藩学/詩歌) 2 4 2 1  
 正謙(せいけん・富永) → 正謙(まさかね・富永とみなが、漢学者) C 4 0 1 6  
 正謙(せいけん・布川) → 正謙(まさかた・布川ぬのかわ、商/国学/歌) R 4 0 4 6  
 正謙(せいけん・岩本) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6  
 正謙(せいけん・林) → 正謙(まさかた・林はやし、藩士/国学) R 4 0 9 2  
 正堅(せいけん・三宅) → 澹庵(たんあん・三宅、藩士/儒者/歌人) H 2 6 8 7  
 正賢(せいけん・吉田) → 栄賢(ひでかた・吉田、詩人) C 3 7 9 5  
 正賢(せいけん・吉田) → 栄賢(ひでかた・吉田、藩士/詩人) C 3 7 9 5  
 正賢(せいけん・増山) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0  
 正賢(せいけん・成毛) → 正賢(まさかた・成毛なりけ/内藤、暦算家) C 4 0 0 0  
 正賢(せいけん・高橋) → 正賢(まさかた・高橋たかはし/橘、歌人) P 4 0 4 5  
 正賢(せいけん・赤塚) → 正賢(まさかた・赤塚あかつか/春原、廷臣/歌) M 4 0 0 6  
 正賢(せいけん・木下) → 正賢(まさかた・木下きのした、商家/歌人) P 4 0 1 2  
 正憲(せいけん・中村) → 政憲(まさのり・中村なかむら、歌人) M 4 0 0 2  
 正憲(せいけん・櫻井) → 正憲(まさのり・櫻井さくらい、漢学者/詩人) G 4 0 3 4  
 正憲(せいけん・森田) → 正憲(まさのり・森田もりた、国学者) T 4 0 2 6  
 正健(せいけん・伊吹) → 正健(まさよし・伊吹いぶき、藩士/国典) I 4 0 7 5  
 正健(せいけん・加峰/中島) → 操存斎(そうそんさい・中島/加峰、藩儒) C 2 5 4 1  
 正軒(せいけん・関) → 載甫(さいほ・関、儒者/教育) F 2 0 0 1  
 正顕(せいけん・吉田) → 正顕(まさあき・吉田よしだ/藤原、歌人) M 4 0 1 8  
 正顕(せいけん・宇都宮) → 正顕(まさあき・宇都宮うつのみや/古海、庄屋) N 4 0 9 0  
 世顕(せいけん・田中) → 世顕(つぐあき・田中たなか、医者) F 2 9 9 1  
 世甄(せいけん・小野) → 季顕(すえあきら・小野おの/原田、庄屋/国学) I 2 3 1 7  
 世謙(せいけん・福) → 石室(せきしつ・福ふく、儒者/詩人) K 2 4 1 2  
 清賢(せいけん・源) → 飛騨掾(ひだのじょう・山本、人形遣/浄瑠璃作者) B 3 7 8 6  
 清賢(せいけん・小野) → 清賢(きよかた・小野おの、国学/歌人) T 1 6 7 2  
 清堅(せいけん・宇仁) → 清堅(きよかた・宇仁うに、儒者) O 1 6 7 0  
 清兼(せいけん・蒲) → 清兼(きよかね・蒲がま、神職/歌人) T 1 6 9 3  
 清兼(せいけん・黒田) → 清兼(きよかね・黒田くろだ/源、神職/国学) U 1 6 2 6  
 清謙(せいけん・織田/大岡) → 清謙(きよかた・大岡/織田、幕臣) O 1 6 7 1  
 清謙(せいけん・丸尾) → 清謙(きよかた・丸尾まるお、国学/歌人) V 1 6 2 9  
 清健(せいけん・土居) → 清武(きよたけ・土居どい、藩士/文筆家) P 1 6 8 3  
 清憲(せいけん/きよのり・林) → 単山((たんざん・林はやし、藩儒) I 2 6 2 0  
 清憲(せいけん・上杉) → 清憲(きよのり・上杉うえずぎ、商家/歌人) T 1 6 5 9  
 清顕(せいけん;法諱) → 清顕(しょうけん;法諱、天台園城寺学僧) I 2 2 4 1  
 靖軒(せいけん・岡) → 光間(みつかど・岡田、大庄屋/歌人) H 4 1 0 8  
 静軒(せいけん・萩原) → 緑野(りよくや・萩原、儒者) J 4 9 8 2  
 静軒(せいけん・吉村) → 宣徳(のぶのり・吉村よしむら、家老/歌) C 3 5 7 5  
 静軒(せいけん・萩原) → 緑野(りよくや・萩原はざむら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2  
 静軒(せいけん・東条) → 英庵(えいあん・東条、洋学/兵学者) C 1 3 5 1  
 静軒(せいけん・黒田) → 増熊(ますくま・黒田/立花、藩家老/歌) I 4 0 9 7  
 静軒(せいけん・加治) → 紫山(しざん・加治/杉野、儒者/兵法家) D 2 1 7 8  
 静軒(せいけん・天野) → 公敬(きみよし・天野あまの/河本、商家/国学) T 1 6 4 2  
 静軒(せいけん・岡本) → 宣顕(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 3  
 静見(せいけん;法諱) → 静見(じょうけん;法諱、浄土西山派僧) I 2 2 6 2  
 静顕(せいけん・藤木) → 静顕(きよあき・藤木ふじき、医官) N 1 6 0 3

静賢(静憲せいけん;法諱)→ 静賢(浄憲じょうけん;法諱、天台僧/歌人) R 2 2 4 1  
 晴軒(せいけん・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3  
 晴軒(せいけん・藤田) → 北郭(ほつかく・藤田ふじた、藩士/書) E 3 9 5 6  
 晴軒(せいけん・松平) → 康爵(やすたか・松平まつだいら、藩主/歌人) B 4 5 8 7  
 晴軒(せいけん・岡本) → 宣顕(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 3  
 晴研(せいけん;法諱) → 浪化(ろうか;号、真宗大谷派僧、俳人) 5 2 0 2  
 霽堅(せいけん・加屋) → 霽堅(はるかた・加屋かや、藩士/神職/神風連) J 3 6 8 8  
 成賢(せいけん) → 成賢(じょうけん・東大寺僧、歌人) M 2 1 4 2  
 成憲(せいけん→しげり・藤原)→ 成範(しげり・藤原、廷臣/歌人) C 2 1 7 8  
 成憲(せいけん・倉石) → 侗齋(とうか・倉石、商家/儒者) B 3 1 7 3  
 成憲(せいけん・宇野) → 醴泉(れいせん・宇野うの、儒者/詩人) 5 1 4 7  
 成憲(せいけん・渡辺) → 琴台(きんだい・渡辺わたなべ、儒者/詩人) J 1 6 0 6  
 成兼(せいけん・高階) → 成兼(なりかね・高階たかしな、廷臣/歌人) H 3 2 2 1  
 政兼(せいけん・前田) → 政兼(まさかね・前田まえだ、藩士/国学者) S 4 0 5 2  
 政顕(せいけん・勸修寺) → 政顕(まさあき・勸修寺かじゅうじ/藤原、歌人) 4 0 9 1  
 政賢(せいけん・山崎/横山)→ 政賢(まさかた・横山/山崎、藩家老) B 4 0 8 9  
 政賢(せいけん・竹下) → 政賢(まさかた・竹下たけした、測量家) B 4 0 9 4  
 政賢(せいけん・桜井) → 政賢(まさかた・桜井さくらい/下田/秦、神職/歌) Q 4 0 0 2  
 政憲(せいけん・久世/筒井)→ 政憲(まさのり・筒井/久世、幕臣/海防) G 4 0 1 0  
 政憲(せいけん・中村) → 政憲(まさのり・中村なかむら、酒造業/歌人) M 4 0 0 2  
 聖兼(せいけん;法諱) → 聖兼(しょうけん;法諱、真言大僧正/歌) G 2 2 4 1  
 聖賢(せいけん;法諱) → 聖賢(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 5  
 聖憲(せいけん;法諱) → 聖憲(しょうけん;法諱、天台叡山僧/歌) G 2 2 4 0  
 聖憲(せいけん;法諱) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言醍醐寺僧) I 2 2 3 7  
 聖憲(せいけん;法諱) → 聖憲(しょうけん;法諱、真言根来寺僧) I 2 2 4 0  
 整軒(せいけん・宮城) → 玄魚(げんぎょ・梅素亭、絵師/狂歌) B 1 8 5 4  
 省軒(せいけん・前田) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5  
 省軒(せいけん・大林) → 正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1  
 醒軒(せいけん) → 三蕉(さんしょう・中村、儒者/教育/詩人) M 2 0 3 9  
 醒軒(せいけん) → 固庵(こあん・佐藤/草野、儒者) G 1 9 2 0  
 齊賢(せいけん・藤) → 仲郷(なかさと・藤とう、神職/古蹟研究) D 3 2 7 3  
 齊賢(せいけん・青地) → 兼山(けんざん・青地あおち/あおち、藩士/儒者) B 1 8 9 4  
 齊憲(せいけん・上杉) → 齊憲(なりのり・上杉うえずぎ、藩主/歌) K 3 2 2 9  
 誠軒(せいけん・坪井) → 信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医) 2 2 6 5  
 誠県(せいけん・家里) → 松嶸(しょうとう・家里いえさと/近藤、儒者/尊攘) R 2 2 5 7  
 誠顕(せいけん・田村) → 誠顕(のぶあき・田村たむら、藩主/歌人) I 3 5 8 9  
 盛賢(せいけん・岡部) → 盛賢(もりかた・岡部おかべ、和算家) F 4 4 3 1  
 青軒(せいけん・安井) → 顕比(あきちか・安井、藩士/日記) D 1 0 5 3

B2428 成嚴(せいげん/じょうごん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、  
 1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」右方入(判者;紀伊入道素意[藤原重経])、  
 [くさむらのはなはにおける白露は色々の玉をぬけるなりけり]  
 (千世君歌合;三番右6/叢露為玉)

02478 晴玄(せいげん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [ひむろ山かくるしたひのすゑなれやむすぶてさむき谷河の水](檜葉;夏175)

B2432 成元(せいげん/なりもと・細谷/号;柳夏りゅうか)?- ? 江前期和泉堺の俳人、  
 1667秀政しゅうせい「貝殻かいがら集」91句入、1676西鶴「俳諧師手鑑」入、  
 [松に藤かゝる折りにや人たかり](手鑑)

I2404 精元(せいげん;法諱) ? - ? 江前期真言宗長谷寺の僧、

1690「科註経前六意」/93「観心誦経法」著

- N2080 **盛元**(せいげん・伊舎堂いじやどう、唐名;翁安烈)1776-1842<sup>67</sup> 琉球の三司官(1821-28)、  
1790慶賀使に従い楽童子として江戸に行く、歌人;沖縄38歌仙の1
- H2405 **正元**(せいげん・安富祖あふそ)? - ? 琉歌研究;1845「歌道要法琉歌集」編
- 正元(せいげん)すべて → 正元(まさもと)
- 正彦(せいげん)すべて → 正彦(まさひこ)
- 正言(せいげん・大江) → 正言(まさとき・大江/弓削、廷臣/歌人) E 4 0 3 0
- 正言(せいげん・中条) → 良蔵(りうぞう・中条ちゆうじょう、幕臣/山陵補修) I 4 9 6 7
- 正言(せいげん・中根) → 正言(まさとき・中根なかね/平、幕臣/歌) M 4 0 6 3
- 正玄(せいげん;法諱) → 正玄(しょうげん;法諱、真宗僧) I 2 2 5 9
- 正玄(せいげん・関) → 正玄(まさはる・関せき/藤原、幕臣) G 4 0 3 7
- 正儼(せいげん・細木) → 正儼(まさたか・細木ほそき、藩士/国学) S 4 0 4 2
- 世彦(せいげん・末包) → 立石(りつせき・末包すえかね、儒者) C 4 9 0 7
- 政元(せいげん・藤原) → 政元(まさもと・藤原/二階堂、歌人) H 4 0 8 4
- 政元(せいげん・細川) → 政元(まさもと・細川/源、武将/連歌) H 4 0 8 7
- 政言(せいげん・佐野) → 政言(まさこと・佐野、幕臣、天明事件) L 4 0 1 2
- 西原(せいげん・小橋) → 静学(せいがく・小橋こばし、儒者/医者) H 2 4 7 9
- 静厳(せいげん) → 静厳(じょうごん;法諱、法相僧/歌人) S 2 2 2 1
- 静玄(せいげん/じょうげん?;法名) → 実時(さねとき・藤原、廷臣/歌人) D 2 0 2 7
- 静玄(せいげん) → 静玄(じょうげん、歌人) R 2 2 4 8
- 成賢(せいげん) → 成賢(じょうけん、真言醍醐寺僧/歌人) R 2 2 4 2
- 成言(せいげん) → 成言(なりこと・荒木田、神職/歌) H 3 2 3 2
- 成言(せいげん・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0
- 成言(せいげん・大山) → 融斎(ゆうさい・大山おおやま、儒者/国学) B 4 6 7 7
- 成言(せいげん・兼松) → 石居(せききよ・兼松かねまつ、藩/儒/教育) D 2 4 4 0
- 成元(せいげん・橘) → 成元(なりもと/しげもと・橘、廷臣/歌人) I 3 2 3 2
- 成元(せいげん・藤原) → 成元(なりもと/しげもと・藤原、廷臣/歌人) I 3 2 3 3
- 成元(せいげん・浮田) → 秀家(ひでいえ・浮田/宇喜多うきた、武将) 3 7 0 8
- 成元(せいげん・富士谷/北辺きたのべ) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌) 4 1 2 3
- 成源(成厳せいげん;法諱) → 成源(成厳じょうげん;法諱、天台僧/歌人) R 2 2 4 5
- 盛玄(せいげん) → 盛玄(じょうげん;法諱、天台園城寺僧) I 2 2 6 6
- 盛言(せいげん;法名) → 言国(とくくに・山科/藤原、廷臣/歌人) J 3 1 1 3
- 盛言(せいげん・堤) → 盛言(もりのぶ・堤つみ/荒木田、神職・歌) K 4 4 6 6
- 盛彦(せいげん・松木) → 盛彦(もりひこ・松木/度会、神職/俳人) G 4 4 2 8
- 盛厳(せいげん;法諱) → 盛厳(じょうごん;法諱、天台修験僧) I 2 2 9 1
- 聖玄(せいげん;法諱) → 聖玄(しょうげん;法諱、僧/歌人) V 2 2 8 6
- 聖玄(せいげん;法諱) → 聖玄(しょうげん;法諱、僧/朗詠) R 2 2 3 8
- 青彦(せいげん) → 青彦(あおひこ、俳人) D 1 0 2 3
- 性源(せいげん→しょうげん;法諱) → 独本(どくほん;道号・性源、曹洞/黄檗僧) L 3 1 4 7
- 性厳(せいげん→しょうごん;法諱) → 性厳(しょうごん;法諱、僧侶/歌人) S 2 2 2 0
- 星見庵(せいけんあん) → 幾暁(きぎょう、雲蝶、僧/俳人) 1 6 9 2
- 星見庵(せいけんあん) → 春渚(しゅんしよ・文藻舎、御師職/俳人) J 2 1 8 9
- 清源院(せいげんいん) → 軌子(のりこ・細川、歌人) 3 5 2 0
- 靖厳院(せいげんいん) → 輝(てる・池田いけだ/一条いちじょう、廷臣室/歌人) F 3 0 2 9
- 静儉陳人(せいけんちんじん) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6
- 静儉堂(せいけんどう) → 鶴陵(かくりょう・片倉かたくら、医者) K 1 5 6 0
- 性厳房(せいげんぼう→しょうごんぼう) → 宥快(ゆうかい;法諱、真言僧/南山流大成) 4 6 9 6
- B2433 **西湖**(せいこ・田村たむら/本姓;坂上、名;善之、藍水長男)1739-93<sup>55</sup> 母;田村宗宣女の栄、  
江戸の本草家/医術を修学、父の跡を継嗣;幕吏、1790江戸城奥詰御番医師次席、  
1791(寛政5)と93(寛政5)伊豆諸島から薬草を移植/幕府製薬所監督、

桐山正哲・鈴木素行の師/平賀源内・中川淳庵と交流、  
1763「物類品隲」校/64「倭朝医談」82「度量小識」編、「豆州諸島物産説」「物詩名彙考」著、  
「本草綱目会解」「種人参養法并甘蔗養並製法」著  
[西湖(;)号)の通称/別号]通称;元長、別号;僊杏院

02447 **彰子**(せいこ・松平まつだいら、伊達宗村9女)1752-2978 出雲松江藩主松平治郷はるさと(不昧)の正室、  
(1774[安永3/23歳]婚姻/治郷24歳)、子はなし、側室おゆき(心眼院)の子鶴太郎を育成、  
古典・歌人;荷田蒼生子たみこ門、  
[彰子(;)名)の別号/号]別名;より(方子/より子)/せい(せい子)/きよ、号;礪川、  
法号;彰楽院(;)夫没後)

H2461 **晴湖**(せいこ・費ひ) ? - ? 江戸時代中期;清浙江省の商人/絵師、  
天明(1781-89)頃船主として渡来;来舶清人費漢源の同族、南宗画様式の画技を伝える、  
長崎住の父が薩摩沖で遭難死;遺骨引取を長崎奉行所より許可され1795祖国に持帰る、  
画号;増山雪斎として春木南湖・十時梅屋の画の師、来舶四大家の1、  
1796菊舎尼と交流;菊舎の詩と七弦琴の才に感動;詩文を贈る、  
のち明治の女流絵師奥原晴湖は費晴湖を敬慕し自らの画号とす、  
[晴湖(;)号)の名/字/通称]名;肇陽ちょうよう、字;得天、通称;耕霞使者

B2434 **精古**(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井ながい、静泉2男)1772-182655 阿波大麻比古神社神官/度々上京遊学、  
国学;1795-96頃伊勢の荒木田久老門、神典復古学を主唱、大田豊年と共に阿波国学の双壁、  
歌人、「引板音」(随筆)、「湯島紀行」「随見抄」「群名拾得」「夏野の草」「大麻山雷」、  
1806「祭官重任考証」15「阿波国式社略考」20「阿波国見聞記」、「自筆詠草」外著多数、  
[精古(;)名)の通称/号]通称;上野正こうげのしゅう、号;五十鈴麻呂/雪本/雪平/藤原清平

I2405 **晴湖**(せいこ・荒井あらい、名;繇行、字;堯民/通称次郎右衛門)?-? 1818-50頃江戸儒者:大田錦城門、  
幕臣白須甲斐守の用人、1823「梧窓漫筆」24「梧窓教諭」26「辨居秘要」、1829「談鋒資鋭」、  
1835「竜背師伝図説」45「春雪解話」55「本朝人物百詠」、「詠史詩」、錦城「梧窓漫筆」校訂

I2406 **腥湖**(せいこ・淡水社) ? - ? 江末期尾張の書肆淡水社主人/俳人:鶴叟と親交、  
1858「俳諧刈跡集」編

02452 **清子**(せいこ・森もり、名;勢以せい/号;倚竹、旧姓;国島)1833-7240 美濃方県郡の国学者、  
国学・歌;松田(賀茂)直兄・富樫広蔭門

せい子(せいこ・松平)	→	彰子(せいこ・松平まつだいら/伊達、藩主室/歌)	O 2 4 4 7
正古(せいこ・中臣)	→	正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌)	C 1 4 7 5
正古(せいこ・菊池)	→	正古(まさひさ・菊池まぐち、医者/教育)	G 4 0 6 2
正固(せいこ・西依)	→	成斎(せいさい・西依にしより/西、儒者)	B 2 4 5 5
正虎(せいこ)すべて	→	正虎(まさとら)	
政固(せいこ・土岐/仙石)	→	政固(まさかた・仙石せんごく/土岐、藩士/歌)	C 4 0 0 1
政固(せいこ・新田)	→	政固(まさこ・新田につた、郷土史家)	C 4 0 4 8
西湖(せいこ・藤井)	→	素月(そげつ・藤井ふじい、華道家/俳人)	D 2 5 6 7
西虎(せいこ・木村)	→	西虎(さいこ・木村きむら、俳人)	2 0 7 4
清古(せいこ・平川)	→	清古(きよひさ・平川/田中、藩儒/歌)	V 1 6 0 7
清湖(せいこ・前田)	→	重靖(しげのぶ・前田まえだ、藩主/詩歌)	R 2 1 9 6
青菰(せいこ・高島)	→	勘兵衛(かんべえ・高島たかばたけ/高畑、考証家)	R 1 5 6 2
世伊子(せいこ・和田)	→	高円(こうえん;法名/高円尼、歌人)	Q 1 9 8 0

B2435 **静娛**(せいご・猪飼いかい) ? - ? 江後期詩人:勝田半斎催の詩会第2・3回参加、  
1823「声応集」76首入

静娛(せいご・橋本)	→	徳光(のりみつ・橋本はしもと、町役/歌人)	J 3 5 6 2
斉護(せいご・細川)	→	斉護(なりもり・細川ほそかわ、藩主/歌)	I 3 2 3 5
青護(せいご・林)	→	峨山(がさん・林はやし、神職/案内記)	L 1 5 7 3
青互(せいご・石井)	→	樟斎(しょうさい・石井いしい、儒者/書家)	I 2 2 9 8
清吾(せいご・那須)	→	賢直(よしなお・那須なす、藩士/絵師/歌)	O 4 7 0 9
省吾(せいご・古森)	→	省吾(しょうご・古森こもり、俳人)	I 2 2 7 0
省吾(せいご/しょうご・西岡)	→	訓棟(のりたか・西岡/谷/秦、国学/歌)	H 3 5 8 0



- 省吾(せいご・菅野) → 千秋(ちあき・菅野すがの/菅原、藩士/国学/神職) M 2 8 7 0  
 聖護(せいご;号) → 聖護(しょうご;号/聖護房、浄土僧) I 2 2 6 9  
 青願庵(せいごあん) → 了輔(りょうほ・野村のむら、俳人) J 4 9 4 3  
 晴湖庵濁斎(せいごあんたくさい) → 巳人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1
- B2436 正好(せいこう) ? - ? 連歌、1493「清水本式連歌百韻」連衆  
 B2437 清光(せいこう;法諱・月甫げっぽ;道号、守護武田信繁男)?-? 若狭の臨濟僧;東沼周巖(しゅうげん)門、  
 建仁寺禅居庵の天与清啓門/嗣法、信濃開禅寺住寺/建仁寺禅居庵塔主、  
 同庵に永元軒を創建、1499「禅居集付録」編
- B2438 成宏(せいこう) ? - ? 連歌、1508?肖柏亭「池田千句」参  
 B2439 正綱(せいこう・奥村おくむら) ? - ? 伊勢山田俳人、1633重頼「犬子えの集」2句入、  
 [うぐひすや柳の糸のつなぎ鳥](犬子集;一鶯190)
- 2473 成功(せいこう・鄭てい/明の賜姓;朱/国姓爺、名;森しん、鄭芝童男) 1624-62 母;平戸の田川七左衛門女、  
 日本名;田川福松、明末の遺臣の父の遺志を受け、中国に渡り清軍と戦闘、  
 廈門・金門島・台湾で奮戦/志遂げず病没[「明清闘記」入]、  
 近松門左衛門「国姓爺合戦(こくせんやかっせん)の主人公[和藤内わとうない](作者の創作名)で有名
- B2440 政好(正好せいこう・窪田くぼた、通称;六兵衛)?-? 江前期俳人、伊賀上野の商家俳人猿雖(えんすい)の従兄  
 1665蟬吟催「貞徳十三回忌追善俳諧」百韻に芭蕉と同席、1672可常「俳諧法農華のりのはな」入
- C2472 正行(せいこう・小西こにし) ? - ? 江前期;上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第七嶋発句入、1678西鶴「物種集」入、  
 [姥鳴やかゝれとてしも天の網](生玉万句;嶋発句/姥鳴;山嶋/天の網;捕鳥用霞網、  
 後撰集;1240遍昭;たらちめはかゝれとてしもむばたまの我が黒髪を撫でずやありけむ、  
 ;剃髪の時物に書付ける)
- P2400 正香(せいこう・林はやし、通称;文右衛門)?-? 江前期;常陸水戸藩士、歌人、  
 [文翰雑編]所収の水戸徳川歌会に山本春正・清水宗川・板垣宗懺らと同座、  
 1681光圀催[延宝九年九月十三夜会]にも参加、  
 [事繁きうきを忘れてしのぼずのいけるかひある月を見るかな]、  
 (十三夜会;多忙な日常を忘れ生きがいのある月を不忍池の面に見る)
- E2440 盛光(せいこう・小河原) ? - ? 江前期;上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第五芥子発句入、  
 [芥子壺の内より花の世界哉](芥子発句;壺は粒の訛、諺;芥子の内に三千世界を蔵す)
- B2441 正広(せいこう・万水軒) ? - ? 大和兵庫の俳人、  
 1689言水「俳諧前後集」入/言水「新撰都曲(みやこぶり)」4句入、  
 [華に我走りてゆるむ心かな](都曲;下439/夢中で桜の下に着くと心がゆるむ)
- C2401 霽江(せいこう) ? - ? 江前期俳人、1687一昌「丁卯(ていぼう)集」入、  
 [生れ得て知るや恋の居り所](丁卯集;智)
- I2407 青江(せいこう) ? - ? 俳人;1689「あら野」2句入、  
 [道細く追はれぬ沢の螢かな](あら野;卷三螢狩)
- B2442 盛弘(せいこう/しょうこう) ? - ? 俳人;1690北枝「卯辰集」3句入、  
 [むらむらとむらむらとあり花すゝき](卯辰集;三)
- I2408 青郊(せいこう・江村むら、名;惊実/字;若虚、毅庵長男) 1691-1734 京の儒者;家学、丹後宮津藩儒、  
 藩主青山幸秀に出仕、父に先立ち没、「竹墩詩集」著/「青郊遺篇」
- B2443 晴虹(せいこう) ? - ? 江前期俳人、1699荷兮(かへい)「青葛葉(あおくずのは)」連句入、  
 吉川晴虹(1770「往昔模様亀山染」を三冬庵自在らと合作)と同一か?
- G2357 青江(せいこう・岡部おかべ) ? - ? 江戸前期儒者;田中桐江門、  
 1721桐江「東海漫詩稿」;同門来(らい)明(あきら)と編纂参加
- I2409 盛香(せいこう;名・清水しみず/本姓;源) 1706-? 1770存 薩摩藩士、  
 1770(明和7)島津義久より綱貴まで五代の藩主言行録「盛香集」編
- E2468 晴虹(せいこう・吉川) ? - ? 江中期江戸の浄瑠璃作者、  
 1770「往昔模様亀山染(むかしもようかめやまぞめ)」三冬庵自在らと合作
- B2444 西郊(せいこう・梅沢うめざわ、名;肃、一橋家用人伝右衛門男) 1744-83 幕臣;1765父没し家督/無役、

漢学・詩文;井上金峨門、1776「本朝名臣言行録」、「本朝名臣言行録拾遺」「建国功臣録」、  
「韓非子考」「至知編」「先識録」著、  
[西郊(;)号)の字/通称/別号]字;惟艾いがい/子肅、通称;弥十郎/与十郎、別号;驩虞堂かんぐどう

- B2430 青江(せいこう) ? - ? 江中期川柳作者;若菜連で活躍、  
1786「女柳追善句合」催主の1、初世川柳3男説あり、「誹風柳多留」入  
[渡し舟淋しく乗て鑓を立](柳多留;一四)
- B2445 星臯(星岡せいこう・鷹見たかみ、名;允/定允、定興男)1750-181162 三河田原藩士/儒;祖父鷹見爽鳩門、  
細井平洲・南宮大湫門、20代で田原藩家老/1778実弟の大罪脱藩により隠居、1794赦免、  
年寄役として再出仕、私塾有朋堂開く;佐藤一斎・渡辺華山ら門弟多数、定美の父、  
1774「掌中詩語」94「掌中詩語大成」編、「掌中詩礎」「詩経纂註」「翠竹園吟稿」「星臯詩稿」、  
「月泉吟社稿」「春秋私説」「春秋五論」「有明館経史説」「四庫簡明目錄」著、  
[星臯(星岡;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名;五郎太、字;子允、  
通称;市郎右衛門/三郎右衛門/弥一[市]右衛門/市右衛門/八三郎右衛門/三代爽鳩、  
別号;翠竹園/金沢于閣(;)隠居号)
- I2410 西臯(せいこう・菊池きくち、名;元習/元、衡岳男)1769-181345 儒家;家学を嗣/和歌山藩士;藩の文学、  
のち勘定奉行、「海岳雜詠」編/1843「三山紀略」51「済勝余興」著、  
[西臯(;)号)の字/通称]字;博甫、通称;角右衛門、梅軒の父/三溪の祖父
- B2446 正行(せいこう・岡田おかだ、南山[1742-1810]男)?-? 江後期阿波藩士/詩人、  
1814南山「半間園はんかんえん遺稿」編(父の没の8年後刊)
- I2411 青岡(せいこう・志賀しが、名;宜親、祐親男)?-? 江後期文政天保1818-44頃羽前米沢藩士、  
藩主上杉鷹山に出仕;六老の1と称される、「水明楼詩稿」「水明楼外史」著  
[青岡(;)号)の別号]水明楼
- H2455 晴臯(せいこう・狩野かのう、狩野陽信男)1797-186771 長府藩御用絵師;木挽町狩野伊川院門、  
祖父察信から長府藩の絵師/父陽信(松隣)も藩絵師、鑄金・彫刻・刀剣研磨にも長ず、  
1864(元治元)英米仏蘭四国と講和条約締結時に高杉晋作一行の絵図係に参加、  
狩野芳崖の父、藤島常興・諸葛信道の師、  
[晴臯(;)号)の通称/別号]通称;蔵槌、別号;松隣/環翠斎
- B2447 誠孝(せいこう・亀井かめい) ? - ? 江後期詩人:  
1848菊池海莊「海莊集」巻二の校定(上街伯英と)
- 02431 盛綱(せいこう・豊見城とみぎすく/姓;毛、名;台光、親雲上盛方男)1829-9365 琉球廷臣;親方うえ-かた/紫冠、  
田地奉行、舞踊/歌・馬術に秀でる/楽童子がくどうじとして江戸へ赴く、  
琉球処分後;県の行政顧問;開明派の指導者として活躍
- I2412 星岬(せいこう・永井ながい/旧姓;土田、名;匡威)1829-190072 尾張丹羽郡の俳人;永井士前門、  
士前の養子となる、1858「初しくれ」著/63「二度遊」編、  
[星岬(;)号)の通称/別号]通称;松右衛門、別号;芝椿、法号;松心院
- H2406 世功(せいこう・林りん、大和名;名城なしろ、号;春傍)1842-8039 琉球の政治家/詩人、久米村出身、  
首里で琉球国学を修学/1868中国留学官生;北京国子監に留学、帰国;1875国学大師匠、  
世子尚典の教育係/位階;名城里之子親雲上なしろさとぬしおうあくもい、愛国者、  
日本の強圧に対し渡清し琉球危機の陳情活動を続ける、1880日清間の割譲交渉に絶望;  
北京で自刃、「琉球詩録」著(従兄弟の林世忠と)、辞世「一死なほ社稷の存するを期す」
- 盛行(せいこう・度会) → 盛行(もりゆき・度会わたらい、神職/歌人) G 4 4 7 1  
盛行(せいこう・黒沢) → 深谷(しんこく・黒沢くろさわ、藩医/詩人) O 2 2 3 6  
盛行(せいこう・竹村) → 盛行(もりゆき・竹村たけむら、国学者) K 4 4 4 7  
盛孝(せいこう・宮原) → 盛孝(もりたか・宮原みやはら、武将/連歌) F 4 4 5 5  
盛孝(せいこう/もりたか・岡野井) → 正純(しょうじゆん・曲直瀬まなせ、医者) J 2 2 6 7  
盛香(せいこう・奥田) → 楽山(らくざん・奥田おくだ、藩士/儒者) B 4 8 1 6  
盛弘(せいこう) → 盛弘(しょうこう;法諱、法師/歌人) S 2 2 0 8  
盛幸(せいこう/もりゆき・平) → 口阿(こうあ、早歌) 1 9 6 1  
盛光(せいこう/もりみつ・藤原) → 基光(もとみつ・藤原、廷臣/絵師/歌人) E 4 4 3 7  
盛功(せいこう・来原) → 良蔵(りょうぞう・来原くるはら/福原、藩士) I 4 9 6 8

盛好(せいこう・山下) → 盛好(もりよし・山下やました、神職/国学者) L 4 4 8 0  
 盛晃(せいこう・長山) → 盛晃(もりあき・長山ながやま、藩士/文筆家) F 4 4 0 6  
 盛衡(せいこう・堤) → 盛衡(もりひら・堤つみ、神職) G 4 4 3 7  
 世弘(せいこう・塩谷) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒者/詩) 3 1 0 3  
 世功(せいこう・前田) → 斉広(なりなが・前田まえだ、藩主/謡曲) H 3 2 8 8  
 世衡(せいこう・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井ふじい、医/詩文) K 2 8 4 2  
 世璜(せいこう・尾池) → 松湾(しょうわん・尾池おいけ、藩医/儒/詩) M 2 2 1 4  
 正行(せいこう・楠木) → 正行(まさつら・楠木くすのき、武将) D 4 0 9 4  
 正行(せいこう・加藤) → 正行(まさゆき・加藤かとう、幕臣/記録) I 4 0 3 5  
 正行(せいこう・宮川) → 松堅(しょうけん・宮川みやがわ、歌・俳人) S 2 2 0 6  
 正行(せいこう・津山) → 正行(まさゆき・津山つやま/平野、歌人) Q 4 0 9 1  
 正行(せいこう・本多) → 正信(まさのぶ・本多ほんだ、幕臣/老職) F 4 0 5 4  
 正行(せいこう・上田/源) → 未生齋(2世みしょうさい・広甫こうほ、華道家) 4 1 8 8  
 正光(せいこう・藤原) → 正光(まさみつ・藤原ふじわら、廷臣/歌) H 4 0 6 2  
 正光(せいこう・宮川) → 正光(まさみつ・宮川/秋山、幕臣旗本) H 4 0 7 0  
 正功(せいこう→まさのり・高橋) → 坦堂(たんどう・高橋たかはし、藩士/勤王) I 2 6 5 5  
 正巧(せいこう・野原) → 正巧(まさよし・野原のはら/平沢、商家/歌人) R 4 0 5 0  
 正公(せいこう・源;諡号) → 光友(みつとも・徳川、尾張藩主/書画) E 4 1 0 5  
 正公(せいこう・近藤) → 棠軒(とうけん・近藤、藩儒/経史) D 3 1 3 5  
 正広(せいこう・法師) → 正広(しょうこう、歌人) 2 1 7 7  
 正好(せいこう・山口) → 正弘(まさひろ・山口やまぐち、武将/領主) G 4 0 9 3  
 正好(せいこう・雨宮) → 正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌) L 4 0 5 8  
 正好(せいこう・中西) → 正好(まさよし・中西なかにし/床井、和算家) I 4 0 4 8  
 正好(せいこう・中島) → 正好(まさよし・中島、狂歌) L 4 0 0 8  
 正好(せいこう・宮永) → 正好(まさよし・宮永みやなが、農政家) I 4 0 6 5  
 正好(せいこう・早崎) → 正好(まさよし・早崎おはやさき、国学者/歌) R 4 0 8 6  
 正好(せいこう・釜屋) → 正好(まさよし・釜屋かまや/秦、国学者) O 4 0 9 5  
 正弘(せいこう・阿部) → 正弘(まさひろ・阿部、藩主/老中/条約) H 4 0 0 1  
 正弘(せいこう・橋村) → 正弘(まさひろ・橋村はしむら/度会、神職) R 4 0 6 7  
 正弘(せいこう・服部) → 正弘(まさひろ・服部、藩家老/砲術家) H 4 0 0 3  
 正晃(せいこう・若林) → 正晃(まさあきら・若林わかばやし、商家/詩人) T 4 0 7 7  
 正恒(せいこう)すべて → 正恒(まさつね)  
 正貢(せいこう・三木) → 幹齋(かんさい・三木みき、詩/書/俳諧) Q 1 5 7 1  
 正孝(せいこう・増山) → 正賛(まさよし・増山ましやま/藤原、藩主) I 4 0 5 4  
 正孝(せいこう・長尾ながお) → 正孝(まさたか・長尾ながお、藩士/詩・書) D 4 0 2 6  
 正孝(せいこう・根木谷) → 正孝(まさたか・根木谷ねきや、国学者) D 4 0 2 7  
 正孝(せいこう・粟生) → 正孝(まさよし・粟生あお、藩士/国学) M 4 0 9 7  
 正孝(せいこう・井原) → 正孝(まさたか・井原いはら/橋、神職) N 4 0 3 7  
 正孝(せいこう・丸岡) → 正孝(まさたか・丸岡まるおか/度会/秦、神職/書家) S 4 0 7 8  
 正香(せいこう・井上) → 正香(まさか・井上いのうえ、医者/神職) N 4 0 3 1  
 正皓(せいこう・北山) → 七僧(しちそう・北山きたやま、儒者/医者) E 2 1 5 5  
 正康(せいこう・柏原) → 正康(まさやす・柏原かわばら、国学者) O 4 0 8 4  
 正衡(せいこう・堀田) → 正衡(まさひら・堀田/紀、藩主/画) G 4 0 8 4  
 正衡(せいこう・橋村) → 正衡(まさひら・橋村はしむら/度会/檜垣、神職) R 4 0 6 5  
 正衡(せいこう・まさひら・阪元) → 生字(せいう・阪元さかもと/種子田、儒者) H 2 4 4 1  
 正高(せいこう)すべて → 正高(まさたか)  
 正幸(せいこう→まさよし・青山) → 忠高(ただたか・青山、藩主/藩校創設) P 2 6 7 4  
 正幸(せいこう・村越/森) → 正幸(まさゆき・森/村越、幕臣/鷹匠) I 4 0 3 1  
 正興(せいこう)すべて → 正興(まさおき)  
 正綱(せいこう;法名) → 通敏(みちとし・中院/源、廷臣/歌人) B 4 1 9 7

青江(せいこう・山巴亭)	→ 与八(2世よはち・西村屋、書肆)	I 4 7 2 3
青公(せいこう・吉良/今川)	→ 範英(のりひで・吉良きら/今川、幕臣)	F 3 5 5 5
清公(せいこう・菅原)	→ 清公(きよとも・菅原、廷臣/詩人)	D 1 6 4 2
清光(せいこう・水口)	→ 清光(きよみつ・水口みなくち/身人部むとべ、廷臣/歌人)	V 1 6 4 0
清晃(せいこう・星川)	→ 清晃(きよあきら・星川、藩士/国学者)	N 1 6 0 5
清興(せいこう・多田)	→ 清興(きよおき・多田、儒/歌人)	O 1 6 6 5
清厚(せいこう・河崎)	→ 清厚(きよあつ・河崎/度会、神職/国学者)	G 1 6 5 1
清厚(せいこう・筒井)	→ 清厚(きよあつ・筒井つひ、国学者)	U 1 6 7 8
清江(せいこう・大津)	→ 清江(きよえ・大津、歌人)	H 1 6 0 5
清江(せいこう・住吉)	→ 弘貫(ひろつら・住吉、広行男/幕府絵師)	G 3 7 4 5
清江(せいこう・岡/広瀬)	→ 保庵(ほあん・広瀬/岡、医者)	3 9 0 5
清岡(せいこう・菅原)	→ 清岡(きよおか・菅原、詩人)	O 1 6 6 3
清香(せいこう・今尾)	→ 清香(きよか・今尾いまお/奥河内、歌/書)	O 1 6 6 7
清香(せいこう・七条)	→ 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌)	G 3 8 3 0
清香(せいこう・中島)	→ 眞兵衛(しんべえ・中島なかじま、本草学者)	P 2 2 7 8
清香(せいこう・木原)	→ 清香(きよか・木原きはら/永安、藩士/歌)	U 1 6 0 4
清香(せいこう・大谷)	→ 清香(きよか・大谷おおたに、藩士/国学者)	T 1 6 7 5
清行(せいこう・安倍)	→ 清行(きよゆき・安倍/阿部あべ、廷臣/歌)	1 6 4 8
清行(せいこう・三善)	→ 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学)	1 6 4 9
清行(せいこう・鎮西)	→ 清行(きよゆき・鎮西ちんぜい、神職/歌人)	U 1 6 7 4
清行(せいこう・柴田/宮城)	→ 清行(きよゆき・宮城/柴田、和算家)	Q 1 6 3 9
清行(せいこう/きよゆき・大城/森田)	→ 桂園(けいえん・森田、幕臣/儒者)	F 1 8 3 0
清行(せいこう・岩間)	→ 清行(きよゆき・岩間いわま、藩士/歌人)	T 1 6 5 5
清光(せいこう・小寺)	→ 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌)	H 1 6 5 8
清光(せいこう・大須賀)	→ 皎斎(こうさい・大須賀おおすが、商家/絵師)	I 1 9 9 6
清孝(せいこう・加藤)	→ 清孝(きよたか・加藤かとう、医者/歌人)	T 1 6 8 7
清広(せいこう・前川)	→ 清広(きよひろ・前川まえかわ、神職/歌人)	T 1 6 3 4
清広(せいこう・山田)	→ 清広(きよひろ・山田やまだ/日比、国学者)	V 1 6 5 6
清侯(せいこう・松平)	→ 頼説(よりひさ・松平まつだいら、藩主/蹴鞠)	K 4 7 5 6
清綱(せいこう・黒田)	→ 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人)	U 1 6 2 7
晴孝(せいこう・木村)	→ 晴孝(はるとか・木村きむら、藩士/文筆家)	G 3 6 4 9
晴好(せいこう・木村)	→ 晴好(はるとか・木村きむら、藩士/国学)	K 3 6 0 7
静好(せいこう・分部)	→ 光庸(みつね・分部わけべ、藩主/歌)	K 4 1 9 7
静厚(せいこう・北村)	→ 季吟(きぎん・北村きたむら、俳人/古典学)	1 6 0 6
征広(せいこう・松前)	→ 昌広(まさひろ・松前まつまえ、藩主)	M 4 0 3 5
政光(せいこう・渋江)	→ 政光(まさみつ・渋江/荒川、藩士/農政)	H 4 0 6 3
政行(せいこう・松田)	→ 政行(まさゆき・松田/源、武士/連歌)	I 4 0 1 8
政行(せいこう・本多)	→ 政行(まさゆき・本多ほんだ、藩士/記録)	I 4 0 2 5
政行(せいこう・植村)	→ 政行(まさゆき・植村うえむら、幕臣/家伝)	I 4 0 2 0
政行(せいこう・三島)	→ 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌家)	I 4 0 3 0
政行(せいこう・天野)	→ 政行(まさゆき・天野あまの/源、幕臣?/歌)	M 4 0 6 9
政弘(せいこう・大内)	→ 政弘(まさひろ・大内/多々良、武将/歌)	G 4 0 9 1
政弘(せいこう・矢野)	→ 政弘(まさひろ・矢野やの、藩士/歌人)	H 4 0 0 4
政恒(せいこう)すべて	→ 政恒(まさつね)	
政晃(せいこう・高橋)	→ 泥舟(でいしゅう・高橋、槍術家)	B 3 0 1 2
政香(せいこう・葛岡)	→ 菊園(きくえん・葛岡くずおか、医者)	K 1 6 0 3
政香(せいこう・箕形)	→ 政香(まさか・箕形みのかた/源、藩士/歌人)	S 4 0 9 8
政香(せいこう・渡辺)	→ 政香(まさか・渡辺わたなべ、神職/国学/歌)	B 4 0 6 4
政香(せいこう・葛岡)	→ 菊園(きくえん・葛岡くずおか、医者/歌人)	K 1 6 0 3
政高(せいこう・青江)	→ 政高(まさたか・青江あおえ/山和、歌人)	M 4 0 9 9

政恒(せいこう・国重) → 政恒(まさつね・国重くにしげ、藩士) E 4 0 0 6  
 政恒(せいこう・本多) → 政恒(まさつね・本多ほんだ、藩家老/記録) E 4 0 0 8  
 政恒(せいこう・外山) → 政恒(まさつね・外山とやま、歌人) E 4 0 1 5  
 政恒(せいこう・榊原) → 政愛(まさちか・榊原さかきばら/源、藩主/歌) M 4 0 8 0  
 政恒(せいこう・橋本) → 正恒(まさつね・橋本はしもと/藤原、神職) R 4 0 7 6  
 政孝(せいこう・池田) → 政孝(まさたか・池田いけだ、藩国老、歌人) N 4 0 5 2  
 政孝(せいこう・横山) → 政孝(まさたか・横山よこやま、藩士/詩人) D 4 0 2 4  
 政孝(せいこう・橋本) → 政孝(まさたか・橋本/藤原/二階堂/中条、与力/槍術) D 4 0 2 9  
 政興(せいこう)すべて → 政興(まさおき)  
 聖功(せいこう・山川) → 東林(とうりん・山川やまかわ、藩士/儒者) I 3 1 4 1  
 聖耕(せいこう・篠田/土岐) → 霞亭(かてい・土岐とき/武、医者/詩文) H 1 5 5 0  
 聖岡(せいこう・建部) → 政醇(まさあつ・建部たけべ、藩主/国学者) B 4 0 1 7  
 聖臯(せいこう;法諱) → 聖臯(しょうこう;法諱・竹巖、真言律僧) I 2 2 7 2  
 斉恒(せいこう・松平) → 斉恒(なりつね・松平、藩主/茶/俳) H 3 2 6 4  
 斉広(せいこう・毛利) → 斉広(なりとお・毛利、藩主/文筆) H 3 2 7 1  
 斉広(せいこう・前田) → 斉広(なりなが・前田まえだ、藩主/謡曲) H 3 2 8 8  
 成衡(せいこう・大江) → 成衡(しげひら・大江おおえ、漢学者) C 2 1 9 1  
 成広(せいこう・守屋) → 中洲(ちゅうしゅう・守屋もりや、藩士/詩文) G 2 8 2 2  
 成行(せいこう・荒木田) → 成行(なりゆき・荒木田あきだ、神職/歌人) P 3 2 6 3  
 成行(せいこう・景山) → 青千(せいせん・景山かげやま/田中、俳人) J 2 4 0 5  
 成行(せいこう・内田) → 成行(しげゆき・内田うちだ/吉田、国学/歌) N 2 1 5 0  
 成興(せいこう・円岡) → 成興(なりおき・円岡まるおか、藩士/国学) O 3 2 9 5  
 成公(せいこう;諡号) → 宗堯(むねたか・徳川/松平、藩主/文筆) B 4 2 4 7  
 成孝(せいこう/しげたか・荒尾) → 成章(しげあき・荒尾あらお、幕臣/奉行職) Q 2 1 4 8  
 晟孝(せいこう・山本) → 晟孝(あきたか・山本やまもと/藤原、神職/歌) I 1 0 7 2  
 星光(せいこう・三角) → 有紀(ありのり、廷臣/医者) I 1 0 5 1  
 星岡(せいこう・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、藩士/国学/歌) C 2 8 2 3  
 西臯(せいこう・多々羅) → 西臯(さいこう・多々羅たたら、町人/詩人) G 2 0 6 7  
 西隍(せいこう・原田) → 復初(ふくしょ・原田はらだ、儒者) B 3 8 5 7  
 西江(せいこう・中江) → 藤樹(とうじゅ・中江なかえ、儒者;陽明学) 3 1 1 6  
 西江(せいこう・清流亭) → 西江(さいこう、山本嘉兵衛の妻/狂歌) G 2 0 6 8

P2403 清豪(せいごう;法諱、慈心寺上人/慈心上人) ?-? 平安中期;天台僧、歌人、袖中抄;慈心寺上人、  
 袋草紙;慈心上人/浜こそと云う名の侍童の49日法要に誦経文に書き送る歌、  
 [おしてるや与謝の浜こそ恋しけれ泪をよする方しなれば]、  
 (押し照るや;光一面に照る;難波・海の枕詞/与謝は丹後/浜こそ;童の名を掛る)、  
 横川の覚超僧都(960-1034)が導師でこれに和す;

[世中に有りてかひなき我れが身をかき惜しまるる人にかへばや]

正号(せいごう・飯田) → 正号(まさな・飯田いいた、藩士) N 4 0 4 8  
 正剛(せいごう・高木) → 正剛(まさかた・高木たかぎ/松平/源、藩士/歌) L 4 0 6 9  
 正剛(せいごう→まさたけ・中根) → 正言(まさとき・中根なかね/平、幕臣/歌) M 4 0 6 3  
 正剛(せいごう・北山) → 正剛(まさかた・北山きたやま/橘、医者/歌) P 4 0 3 3  
 清濠(せいごう・大喜) → 清濠(きよたか・大喜だいき、神職) P 1 6 8 1  
 砌公(せいごう) → 宗砌(そうせい、連歌) 2 5 1 3  
 清香庵(せいこうあん) → 白鷺(はっこう・大矢、俳人) F 3 6 2 0  
 清香庵(せいこうあん) → 梅岳(ばいがく・海野うんの、高橋/絵師) 3 6 8 6  
 清香庵(せいこうあん) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3  
 清光院(せいこういん) → 幸長(よしなが・浅野あさの、藩主/連歌) F 4 7 2 6  
 清光院(せいこういん) → 久江(ひさえ・鈴木すずき、藩主側室/歌人) J 3 7 9 4  
 晴耕雨読斎(せいこううどくさい) → 松塘(しょうとう・鈴木/鱸すずき、詩人) R 2 2 5 6  
 静香園丹蓉(せいこうえんたんよう) → 守正(もりまさ・増山/藤原、医者/詩歌) G 4 4 5 3

- 静好閣(せいこうかく) → 蘭腕(らんえん・横山よこやま、詩人) B 4 8 6 0  
 清高軒(せいこうけん・鈴木) → 常明(つねあき・鈴木、蘭医/国学) B 2 9 5 4
- I2413 誠好斎(せいこうさい・福田ふくだ/湯沢、福田敦信男) 1810or12-1900 91or89 下野都賀郡引田の剣術家:  
 儒;古河の小山霞外・鹿沼の鈴木永雲門、剣術;父門/叔父正光・水野定欽・男谷下総守門、  
 心明当流の開祖、医;法眼森宗竹門/医開業、神道;梅園春男(1818-91/二荒山社祠官)門、  
 天保1830-44頃湯沢家を継承;鹿沼の石裂山おざくさん加蘇山神社祠官、のち福田に復姓/  
 郷里の諏訪社・岩戸社の神官/日光山内取締、持田千代吉(福田八之助/柔術家)の養父、  
 1864天狗党乱に長男・養子を派遣;幕府の謹慎、「心明当流万化録」著、  
 [誠好斎(;号)の名/通称/一時名]名;義典/義豊よしとよ、通称;八郎左(右)衛門/宗節、  
 一時名;湯沢監物
- 清江舎(せいこうしゃ) → 長順(ながより・今村、医者/俳人) G 3 2 5 8  
 静篁舎(せいこうしゃ) → 弘夫(ひろお・三浦みづら/高村、神職/教育) L 3 7 3 1  
 生光女(せいこうじょ・度会) → 生光女(いくみつのおとめ・度会わたらい、歌人) K 1 1 8 9  
 清江娘子(せいこうじょうし) → 清江娘子(すみのおとめ、万葉歌人) D 2 3 4 4  
 清香書屋(せいこうしよく) → 巽所(そんじょ・八木やぎ/米、絵師) K 2 5 8 2  
 西郊田楽(西江田楽せいこうでんがく) → 田楽(でんがく・椒芽きのめ、医者/戯作者) D 3 0 2 5  
 静好堂(せいこうどう) → 高嶺(たかさど・藤堂、藩主/詩文) L 2 6 9 1  
 静好堂(せいこうどう) → 高菘(たかすけ・藤堂、高嶺男/国学) C 2 6 8 9  
 西江堂(せいこうどう) → 殿峰(でんぼう・広江ひろえ、商家/篆刻) E 3 0 3 0  
 暉好堂(せいこうどう) → 左簾(4世されん・笠家かさや、俳人) L 2 0 6 8
- N2492 清厚尼(せいこうに) ? - ? 江後期;尼僧、  
 備中鴨方藩主池田内匠頭(政養まさよし、1772-1819)の後室、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸和歌集」入、  
 [千代ふともかぎりはあらじ天地とともにさかゆる敷島の道](大江戸和歌;雑2028)
- 聖光房(せいこうぼう) → 弁長(べんちやう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) B 2 7 3 6  
 静光房(せいこうぼう;号) → 頼尊(らいそん;法諱・静光房、真言僧) 4 8 8 0  
 成功霊神(せいこうれいしん) → 連胤(つらたね・鈴鹿/中臣/卜部、神職/国学) E 2 9 4 1  
 青梧園(せいごえん) → 華陽(かやう・川村、詩人) H 1 5 5 2  
 西湖外史(せいこがいし) → 蘭洲(らんしゅう・伊東/伊藤/修姓東、漢学者/戯作) C 4 8 6 0
- I2414 青谷(せいこく・宮崎みやざき/修姓;宮、名;定憲/憲、定礼男) 1811-66 56 伊勢津藩士/儒;斎藤拙堂門、  
 1830(20歳)養正寮読師/31上京し経学・文学;猪飼敬所・頼山陽門、江戸昌平黌入学、  
 1843江戸藩邸教読、45家督継嗣、侍読/1859藩校有造館講官/武場目付次席、詩文に長ず、  
 絵師;米村醉翁門;王仲健章の画法を修得;山水画で一家を成す、  
 1837「清書画人名統録」編、「大和月瀬」「梅溪ノ図」画、「青谷遺稿」、  
 [青谷(;号)の字/通称/別号]字;士達/子達、通称;弥三郎、  
 別号;誠有軒/補石軒/竹蟻齋ちくいていさい/春雨楼/白沙翠竹江村舎
- 清谷(せいこく・村上) → 範致(のりむね・村上、藩家老/砲術家) F 3 5 9 4  
 正克(せいこく・柿並) → 半右衛門(はんえもん・柿並かきなみ、藩士) H 3 6 2 8  
 正克(せいこく・橋村) → 正克(まさかつ・橋村/度会、神職/歌/書) C 4 0 1 2  
 正克(せいこく・吉松) → 正克(まさかつ・吉松よしまつ、国学者) T 4 0 7 2  
 正国(せいこく・加藤) → 正国(まさくに・加藤かとう、国学/歌人) O 4 0 6 7  
 正国(せいこく・長崎) → 正国(まさくに・長崎ながさき/橋、医/神職) R 4 0 2 5  
 正毅(せいこく・堀田) → 正毅(まささね・堀田/紀、藩主/文学) C 4 0 6 3  
 正毅(せいこく・前田) → 正毅(まさよし・前田まえだ、蘭学者) I 4 0 7 7  
 正毅(せいこく・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 正毅(せいこく・山本) → 正毅(まささね・山本やまと/源、歌人) M 4 0 6 1  
 政国(せいこく・細川) → 政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌人) C 4 0 3 6  
 成毅(せいこく・中村) → 西里(せいり・中村なかむら、藩儒/教育) D 2 4 1 0  
 世克(せいこく・宇野/細井) → 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1  
 晴国(せいこく・清水) → 晴国(はるくに・清水しみず、藩士/歌人) K 3 6 2 6

靖国院(せいこくいん・;法号)→ 宗城(むねなり)・伊達南洲、藩主/藩政改革) C 4 2 0 5  
 青梧斎(せいごさい・狩野) → 融川(ゆうせん)・狩野;浜町家5世/藤原、絵師) D 4 6 2 1  
 清古散人(せいこさんじん) → 十口(じっこう)・青木/柳/広瀬、俳人) E 2 1 8 5  
 正笏(せいこつ)・香西/綾野)→ 義賢(よしかた)・綾野あやの/香西、藩士) C 4 7 7 3  
 棲鶺斎(せいこつさい) → 玄瑞(げんずい)・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3  
 西湖亭(せいこてい) → 不扇(ふせん)・立羽たちばな、俳人) B 3 8 7 4  
 精故堂(せいこどう) → 政和(まさかず)・水野、鋳物師/和算家) B 4 0 7 7  
 青願廬(せいごら) → 了輔(りょうほ)・野村のむら、俳人) J 4 9 4 3

B2448 **清五郎**(初世せいごろう)・中村なかむら、役者名:花さき七十郎/号;了雀) 1664-1707<sup>44</sup> 歌舞伎役・作者、初め若衆方の役者;花さき七十郎名、1697(元禄10)中村勘三郎2世門;立役を勤める、1698作者を兼任、1698「竜女三十二相」合作/1702「女鉢木三鱗」1706「宇治源氏弓張月」、1706「陸奥十二段」著

B2449 **清五郎**(2世せいごろう)・中村なかむら) 1679-1717<sup>39</sup> 歌舞伎役・作者、初め役者;中村明石清三郎門、のち作者;中村伝七門;中村玄之助を名乗る、1707清五郎2世を襲名/立作者、1707「女帝愛護若」/08「中将姫京雛」「傾城嵐曾我」/10「女兵常磐松」1714「姫鑑薄雪桜」著、1714(正徳4)江島生島事件に連座;神津島に遠流;同地没、

[清五郎(2世;通称)の別通称/号]別通称;中村玄之助、俳号;雀子

清五郎(せいごろう)・古谷) → 久語(ひさつぐ)・古谷ふるや、国学者) I 3 7 0 7

清五郎(せいごろう)・布施) → 定安(さだやす)・布施ふせ、藩士/文筆家) K 2 0 0 3

清五郎(せいごろう)・篠原) → 景雄(かげお)・篠原しのはら、国学者) K 1 5 8 0

清五郎(せいごろう)・石野) → 広温(ひろはる)・石野いしの、幕臣/記録) G 3 7 9 4

清五郎(せいごろう)・賀島) → 安河(やすかわ)・賀島かしま、国学者) B 4 5 2 1

清五郎(せいごろう)・江波屋) → 朝霞亭波音(あさかていなみおと)、商家/狂歌) H 2 8 7 0

清五郎(せいごろう)・後藤) → 清乗(せいじょう)・後藤ごとう、金工/歌) K 2 4 9 8

清五郎(せいごろう)・石川) → 信栄(のぶひで)・石川いしかわ、国学者) H 3 5 3 4

清五郎(せいごろう)・上野) → 為環(ためあき)・上野うえの、国学者) V 2 6 8 0

清五郎(せいごろう)・尾崎) → 靖(やすし)・尾崎おさき、藩士/国学/尊攘) F 4 5 4 8

省五郎(せいごろう)・高橋) → 知周(ともちか)・高橋、藩士/薙刀/歌) P 3 1 8 0

正根(せいこん) → 正根(しょうこん;法諱、華嚴僧/連歌作者) I 2 2 8 6

正根(せいこん)・賀島) → 正根(まさね)・賀島/藤原、藩士/国学) F 4 0 4 7

清根(せいこん)・菅原) → 清根(すがね)・菅原すがわら/山本、社僧/国学) F 2 3 8 6

I2415 **井左**(せいさ)・浅野あさの) ? - ? 大坂立花通五丁目の俳人;井眉門、1827「俳諧蓮の茎」49「ものなくさ」47「芙蓉庵月次集」編/60「類題木の葉集」「此花集」著、[井左(;号)の別号]芙蓉庵/世外庵/採薇堂/蛙之

正佐(せいさ)・岡) → 正佐(まさすけ)・岡おか、商家/国学) O 4 0 5 2

省左(せいさ)・平井) → 直純(なおずみ)・平井ひらい、醸造/歌人) O 3 2 5 2

青簑(せいさ)・松平) → 頼学(よりさと)・松平まつだいら、藩主/詩歌) P 4 7 2 0

I2416 **正濟**(清濟せいさい)・松井まつい) ? - ? 室町期の医家の生;医者、医者板坂宗徳と交流、寛政文正1460-67頃室町幕府の医師、將軍足利義政を診察、「松家集要方」著

B2450 **誠齋**(せいさい)・号・三宅みやけ、名;堅恕、澹庵2男) ?-1728 伊勢桑名藩儒;藩主松平定重に出仕、11歳で15人扶持/兄病のため家督嗣;禄3百石の儒臣、1721(享保6)致仕、隠居料50石/京住、1694刊の[京鑑]に当時三儒の1とある、「孟子講義」著

B2451 **誠齋**(せいさい) ? - ? 江前期俳人、「詼諧非芸」;1703惟然「二葉集」入

B2452 **整齋**(せいさい)・田辺たなべ/本姓;上毛野、) 1653-1738<sup>86</sup> 京の儒者;伊藤仁齋・木下順庵門、儒・神道;山崎敬義もりよし(闇齋)門/神道家;吉田家入門、書;持明院基時門、茶;清水道竿門、兵法に通ず、1679(延宝7)陸奥仙台藩主伊達綱村に招聘;仙台藩儒員/93仙台に移住、1695(元禄8)世子吉村の侍読(侍講)、仙台藩儒宗田辺家の祖/1702家格召出二番座/600石、1724(享保9)致仕隠居;息子希文まほぶみ(晋齋)が家督嗣、歴史家/兵法に通ず/詩歌を嗜む、「肯山公実録」「整齋詩文集」「整齋筆記」「神書訓解」「八陣図説」/1703「貞山公治家記録」著、「三教名数」外著多数・詩集あり、

[整齋(；号)の名/字/通称/別号]名；**希賢**まれかた、字；淳甫、通称；喜右衛門、  
別号；西山麿樵/帰楽、諡号；恭懿先生

- B2453 **省齋**(せいさい・和田わだ、名；正尹まさただ) 1685-1739<sup>55</sup> 備前岡山藩儒；市浦毅齋門/1716藩校直講、  
1731藩校副監；学政を掌裡；朱子学を主唱、1732江戸で天文学；猪飼司天監門、  
曆を作成し藩主献上、1739「備陽国志」、「詞林旧稿」編、「省齋詩集」  
[省齋(；号)の字/通称/別号]字；子温、通称；弥兵衛、別号；芥舟、森谷芝蘭・原田蘭洲の師
- B2454 **精齋**(せいさい・須賀すか/修姓；賀、理右衛門安平男) 1688-1754<sup>67</sup> 尾張名古屋の儒者；  
儒；小出侗齋門・国学；吉見幸和門、闇齋学修学；垂加神道を教導、  
1744(延享元)藩子弟教育の功績で五人扶持支給/尾張藩儒、藩主の侍講、  
双生児の兄理右衛門親安は藩書物奉行、安貞やすだ(亮齋)の父、津金鷗洲の師、  
1744「朱子策問」編、48「主一箴解」49「始学猫眼」著、「昭穆凶解」著、の父、  
[精齋(；号)の名/通称/別号]名；安長/安致**誼安**よしやす、通称；吉平次、別号；麗沢窩
- I2417 **惺齋**(せいさい・植木うえき、名；挙因/幸順、藩医植木祐庵男) 1688-1774<sup>87</sup> 土佐高知藩儒、  
神儒；京の玉木葦齋門/儒学；宮地静軒門、  
1746「土佐国水土私考」、「土佐国淵岳志」  
[惺齋(；号)の通称]敝齋しょうさい
- B2455 **成齋**(せいさい・西依にしより/修姓；西、未及2男) 1702-97**長寿96歳** 肥後玉名郡の儒者；前原丈軒門、  
1722京の若林強齋門；程朱学修学、帰郷・上京を繰返す/師丈軒に出仕、  
1741(寛保元)長崎遊学、42京の小野鶴山(強齋の女婿)門；鶴山が若狭小浜藩に招聘；  
強齋の家塾望楠軒書院の講主を務める、二条宗基の知遇を得て二条家学舎創建企画参与、  
その間甥の墨山を養子とし講主を任せる/1770望楠軒講主に復帰/晩年；若狭小浜藩儒官、  
「朱子行状資講」  
[成齋(；号)の名/字/通称/別号]名；正固/**周行**かねゆき、字；潭明、  
通称；門平/儀平/義平/儀平衛/儀兵衛、別号；望楠軒
- B2456 **静齋**(せいさい・河口かわぐち/修姓；河、名；光遠) 1703-54<sup>52</sup> 江戸儒者/詩；室鳩巢門高弟(中村蘭林と)、  
松平朝矩に出仕；主君の転封で姫路・前橋移住、1725「老人雑話」、「享保善政録」  
[静齋(；号)の字/通称/別号]字；子深/穆仲/仲賓、通称；三八、別号；苧山ちよざん/新酊嘯月庵
- G2490 **省齋**(せいさい・森もり、名；祐望/久大、森瀬助2男) 1714-74<sup>61</sup> 伯父森長門久国の養子、  
肥後江田村熊野宮の社司/儒者；大塚退野門；師の没後門人を託される、  
「性論」  
[省齋(；号)の通称]石見
- I2418 **省齋**(せいさい・富田とみだ、名；以実、益実3男) 1716-84<sup>69</sup> 陸前仙台藩士；1747別家を立て独立、  
世子伊達重村に近侍、経子学を重視/書家；三井竜湖門、連歌・剣/槍術を嗜む、育齋の弟、  
1751「秋保日記」、「富田家証明録」著、  
[省齋(；号)の字/通称/別号]字；子和、通称；郷助、別号；南阜/草湖
- B2457 **静齋**(せいさい・斎いき/本姓；斎藤/斎宮、名；必簡、斎藤大信男) 1729-78<sup>50</sup> 安藝沼田郡中調子の農業、  
儒者；服部南郭門；徂徠学修学、京で講説/医開業、伊予松山藩に招聘；尚書説命篇を講ず、  
その講説を聴く諸侯多く有栖川宮より諡号を賜る、「五紀解」  
[静齋(；号)の字/通称]字；大礼/叔子、通称；少助/五右衛門、諡号；文憲先生、法号；謙光院
- I2419 **誠齋**(せいさい；号・蜂屋はちや) 1729- ? 大坂堂島舟大工町住の文筆家、  
1791「風の沙汰」、95「浪花忠孝伝」、「民間不可忘」著
- I2420 **靖齋**(せいさい・長村ながむら、名；鑑、三左衛門男) 1767-1820<sup>54</sup> 肥前平戸藩士；1778家督嗣、  
儒；京の皆川淇園門/江戸の佐藤一齋と講究；文武に通ず、藩主松浦清に出仕；執政職、  
1786藩校維新館学頭兼物頭並；藩の文教振興に尽力、詩歌・書画を嗜む、香川景樹と交流、  
「春秋名臣伝」  
[靖齋(；号)の字/通称]字；大和、通称；少助、別号；松浦、諡号；文憲先生、法号；謙光院



[靖齋(；号)の字/通称]字；仲槃、通称；内蔵助/内蔵介

- I2421 **成齋**(せいさい・稲垣いながき、名；濟、中村彦左衛門3男)1768-? 1827存 武蔵埼玉郡の儒者；経学；1786亀田鵬齋門、1790(寛政2)江戸浅草福富町の酒問屋池田屋(稲垣)市兵衛の養子、家業を継嗣/1827養子に家督譲渡；下谷竜泉寺に隠居、1824「鵬齋先生隅田川詩診解」；注
- B2458 **正齋**(せいさい・近藤こんどう、名；守重もりげ、守知男)1771-182959 江戸駒込の幕臣；1789御先手組与力見習、儒；山本北山門、1790家督嗣；長崎奉行出役/支配勘定方、1798松前蝦夷地御用、4回蝦夷地に赴く；千島択捉探検、1808書物奉行/19大坂弓奉行、1821不行跡のため罷免、1826長男富蔵の殺傷事件連座；改易、近江大溝藩預り；病没、1793「上野国志」/94「上梁文」94「近藤重蔵対策」著/95「足利家職掌考」「外国書翰」編、1796「バッテイラの凶」著、1800「チュプカ諸島凶」編/1817歌撰集「不尽の煙」編、1817「楓山貴重書目録」18「尚古図録」編、19「古刻書跋」23「正齋書籍考」「正齋書籍考」著、「安南紀略藁」「異船来航年表」「巡夷録」「蝦夷事略」「外蕃通書」「北嶋議草」「憲台実録」著、「羅文集」「右文故事」「正齋書籍考」外著多数、  
[正齋(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名：円次郎、字；子厚/藤通/擁書城、通称；吉蔵/重蔵、別号；昇真人/芙蓉道人、法号；自休院、蔵書を擁書城と称す、
- I2422 **惺齋**(せいさい・堀江ほりえ、名；允)1772-184271 江戸の儒者；昌平黌に修学、文化1804-18頃岩代二本松藩主丹羽長祥の招聘；世子長富の侍読/藩儒；藩の子弟を教授、「論語解」「周易解」「尚書解」「中庸解」「書経講義」「大学講義」著、半峯はんぼう・堀六石の父、  
[惺齋(；号)の字/通称/法号]字；肩蘇、通称；仁蔵、法号；慈眼院
- I2423 **精齋**(せいさい・新井あらい/初姓；志鎌、名；元禎/元稹、)1773-184169 上州厩橋医者；旗本遠山家家臣、同僚の讒で遠山家を去る/1815佐渡で新井家の女と結婚；新井に改姓/医業、俳、子弟教育、1806「東海参譚」、「有明日記」「草津紀行」「越路日記」「小倉八景歌」「昆花物語」「東橋集」、  
[精齋(；号)の字/通称/別号]字；叔泰、通称；万輔、別号；嶺松軒東齋とうかい/鞭羊居愚僊
- I2424 **静齋**(せいさい・寺島でらしま、名；兢、原はら元成3男)1777-1837配流先没61 加賀金沢藩士/儒者；1790藩校明倫館読師、1801兄の寺島恵和の末期養子；高岡町奉行/普請奉行/改作奉行、横目を歴任、1824馬廻組頭/宗門奉行兼帯；前藩主前田斉広の教諭局に参加；藩政刷新の中心で活動、歌・画を嗜む、浦上玉堂・海保青陵と交流、斉広没後；1825逼塞、1836知行召上/37能登島配流；配所に没、養子主馬が祖父恵和の名跡嗣、「静齋随筆」「寺嶋随筆」「夢物語」「波の藻屑」「寺嶋蔵人上書」/1824「経済彙纂」著、  
[静齋(；号)の字/通称/別号]字；季業、通称；此母/蔵人、別号；応養/乾泉亭/王梁元
- I2425 **誠齋**(せいさい・加部かべ、名；亀太郎/常/誠意)1784-184259 上州医者；多紀家入門/儒者；亀田鵬齋門、下野田で医業/漢籍を教授、晩年；故郷吾妻村で医業、本草学に精通、「上野国史」「誠齋詩集」著、  
[誠齋(；号)の通称] 誠左衛門/清左衛門
- I2426 **靖齋**(せいさい・葛西かさい/小山田、名；孔彰/彰)1790-185263 父の代より小山田を称す、大阪の医者、祖父蘭叟は阿波徳島藩士、金石文の研究、西田直養と交流、「証古金石集」著、  
[靖齋(；号)の字/通称/別号]字；子言、通称；俊蔵、別号；十洲/秋香
- I2427 **整齋**(せいさい・藤川ふじかわ、名；貞/貞近、藤川近常の嗣)1791-? 1856存 江戸の藤川流剣道本家、近常は伊勢貞丈の門系で武家故実の伝承者；整齋も武家故実を継承、「故事雑説鈔」著、1840「墓目鳴弦意考」「火矢之伝書」「鎧直垂之伝書」、46「庭乗之書」、「出石紀聞」「靈劔略解」著、  
[整齋(；号)の通称]弥次郎右衛門
- B2459 **清齋**(せいさい・細川ほそかわ、名；元春、亭齋2男)1793-187078 土佐藩儒/高知城下南新町住、経史/詩文、文政1817-30頃藩校教授館教授、傍ら家塾を開き子弟教育、潤次郎の父、「万行開源」「嘉永災異記」「時務策」「睡余瑣言」「文海珊瑚」「文華辨色」「西遊百絶」著、1860(万延元)「四老唱和小稿」(大井漁隠・井上水石・長崎奇山と4人の唱和詩)、  
[清齋(；号)の字/通称/別号]字；子陽、通称；延平、別号；司成書室/司成書屋
- I2428 **誠齋**(せいさい・村田むらた、名；行、徳兵衛男)1795-185864 越中井波の医者/京の吉益北洲門、師のもとで診療・教授/1852門人と越中高岡・越後・陸奥を経て江戸に滞在/58帰京、勸修寺宮濟範親王の侍医/法橋；風疾で急逝、「類証観覧」「薬性観覧」「傷寒論本義」外著多、  
[誠齋(；号)の字/諡号]字；士文/順道、諡号；有述先生

- B2460 **成斎** (せいさい・小島こじま、名; 親長/知足、俊蔵男) 1796-1862 67 備後福山藩士; 江戸住、  
 儒学; 市河寛斎・同米庵・狩谷椽斎・松崎慊堂こうどう門/語学・書法も修学; 筆札に長ず、  
 1813 供番格書官/25 (文政8) 家督嗣、公用方右筆頭取/奥詰、58 藩主阿部正弘が老中就任;  
 将軍の命で老中がロシアに服書の際成斎が浄書; 書家として名声を得る、説文の研究、  
 1820 「徹夜吟草稿」、随筆「酣中清話」、「読令私記」「読令札記」、1844 「淳化祖帖积文」著、  
 1849 「唐太宗屏風書积文」、「説文新附攷正」「説文段注補正」「干禄字書辨証」外著多数、  
 [成斎 (; 号) の字/通称/別号] 字; 子詳/子節、通称; 五一/岩太郎  
 別号; 静斎 (; 初号)/心画斎/不惑道人/奇觚楼きこう/風翁、法号: 靈照院
- I2429 **省斎** (せいさい・入交いまり、名; 守一もりかず、小川惣左衛門2男) 1796-1865 70 藩士入交信安の養嗣子、  
 伊賀上野藤堂藩士; 1808 養父の遺跡継嗣、藩郡奉行/司農職; 農政に尽力、大和古市勤番、  
 1860 致仕、晩年に国学; 本居大平門/富樫広蔭門、1847 「伊賀国寺院由来記」編、  
 1857 「続自然生」著、「稿本棗棠家集」「参考伊乱記」「校正兼好法師家集」「桜井茶話」著、  
 「伊賀名所記」編、大平撰「八十浦の玉」下巻入、  
 [石上布留のわさ田の穂の上を吹く秋風にかりがね聞こゆ] (八十浦; 810 雁)、  
 [省斎 (; 号) の通称/別号] 通称; 貞次郎/貞四郎/太郎左衛門/太郎右衛門、  
 別号; やまぶきの舎/棗棠舎 (ていどうしゃ/やまぶきのや)
- B2461 **省斎** (せいさい・小島こじま、名; 慎、忠次の男) 1804-84 81 丹波水上郡佐治生/句読; 1810 長谷部信斎門、  
 儒; 京で猪飼敬所門/帰郷後家塾を開く/1845 柏原藩主織田信貞の招聘; 月次講書を開く、  
 1850 学問所新館創設により儒官; 藩政に参画/屢々藩政改革を進言/1863 側用人、  
 戊辰戦で藩論を勤王に統一; 朝廷警護に当たる、廃藩後は郷里で著述専念、  
 「論語集説」「春秋左氏伝集説」「周易窃疑」「新知識」「曆原録」「月非地球弁」外著多数、  
 [省斎 (; 号) の字/通称] 字; 思之、通称; 友吉/四郎兵衛/忠太、法号; 賢徳
- I2430 **成斎** (せいさい・片岡かたおか、名; 貞興さだおき、定周男) 1806-69 64 代々美濃加納藩准家老、  
 藩士; 1818 (13 歳) 仕官、物頭兼側用人、国学者; 富樫広蔭門、儒者; 世子永井尚典の教導;  
 尚典なおことが藩主となり家老に抜擢される、  
 1868 (慶応4) 鳥羽伏見戦勃発に若年寄の藩主尚服が幕府軍を支持;  
 成斎は新政府に藩主隠居と養父尚典の再相続を願い出る/藩主尚服は謹慎、  
 1869 加納藩総教となり執政役; 病没、「成斎詩歌集」「六論衍義新鈔」著、  
 [成斎 (; 号) の通称] 旗之助/左富/伊左衛門
- 02404 **静斎** (せいさい・高橋たかはし、名; 熙/字; 君雄、) 1808-59 52 陸奥会津の生/伊予松山藩士; 儒者、  
 「閑圃耕筆」20 巻著、1836 加藤善安 (良白) 「柳橋詩話」に入
- I2431 **静斎** (せいさい・宇津木うづき、名; 靖/竣/靖通、昆岳2男) 1809-37 殺害 29 歳 近江彦根藩士;  
 幼少時越前の寺で養育/上京し儒学; 頼山陽・中島棕隠門/大塩平八郎中斎門、長崎留学、  
 1836 中斎宅に寄宿/37 大塩の乱前日に諫言するも容れられず同門大井昌一郎により殺害、  
 「浪迹小藁」著、1832 中斎「大学刮目」訓点入、「洞窟附録抄」に詩2 首入/「答人論学書略」入、  
 [静斎 (; 号) の字/通称/別号] 字; 共甫/東昱とぅい、通称; 友三郎/俵二/辰丸/矩之丞/憲之丞、  
 別号; 静区/春堂/不息
- B2462 **誠斎** (せいさい・向山むこうやま/本姓; 源、名; 篤あつし) 1810-56 47 歳 江戸の幕臣; 奥御右筆/御勘定組頭、  
 1855 (安政2) 新設の箱館奉行支配組頭/蝦夷宗谷に没、鈴木重嶺・星野千之らと交流、  
 新井白石を尊崇し [小白石] と称される、歌人; 家集「軒のしづく」(重嶺撰)、  
 「向山誠斎雑記及雑綴」「氷海紀聞」「東林後記」「烈祖成績論賛」「山靱人交易手続」著、  
 1838 「戊戌雑記」45 「吏徴」50 「特簡録」55 「乙卯雑綴」56 「丙辰雑綴」外著多数、  
 蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858 刊) 入、  
 [若菜のみ摘みて年ふる春日野の野守は老も知らずや有るらん] (大江戸倭歌; 春103)、  
 [誠斎 (; 号) の字/通称/別号] 字; 慧典、通称; 源太夫/源大夫、別号; 偶堂、黄村の養父
- I2432 **静斎** (せいさい・南部なんぶ、名; 忠克) 1815-1860 切腹 46 土佐高岡郡大野見村万秋の郷土/儒者;  
 市川守尚門/江戸の佐藤一斎門、帰郷後私塾を開; 息子甕男・吉村虎太郎・谷干城の師、  
 吉田東洋の安政改革に抜擢され考察役として参加; のち東洋に疎遠にされ切腹、  
 「示弟立志説」訳、  
 [静斎 (; 号) の通称/別号] 通称; 従吾、別号; 従吾軒

- I2433 **誠齋** (せいさい・福田ふくだ、名; 正徳/正福) 1821-70?50? 石見の儒者; 奥平棲遲庵門、上野館林藩校求道館の教授、「対策口真似」「感興詩説叢書」著、  
[誠齋(;)の通称/法号]通称; 常吉、法号; 淳教院専道
- 2476 **精齋** (せいさい・雨森あめのもり、名; 謙、妹尾兼古男) 1822-8261 松江の儒者; 田村寧我門/大阪に游学、篠崎小竹/藤沢東暎門、江戸昌平覺入; 佐藤一齋・安積良齋門/1843帰郷; 私塾養生塾開、藩儒; 藩校修道館教授; 藩侯と世子の侍購、藩主より雨森を賜姓、  
「静嘉独語」「嘉齋叢書」「晏子春秋采考」「読孔叢子」「眞静稿」「中庸小考」「日本政記割記」著、  
[精齋の字/通称/別号]字; 君恭、通称; 謙三郎、別号; 老雨/鶯山/精翁
- I2434 **静齋** (せいさい・横須賀よすか、名; 安枝) 1824-190784 常陸儒者; 水戸藩弘道館教官、江戸で子弟教育、藤野海南の詩社[旧雨者]に入、1850「忠節伝」52「鑑古録」著、  
[静齋(;)の字/通称]字; 叔卿、通称; 安二郎/重兵衛
- B2464 **省齋** (せいさい・河鱒かわぼた、名; 景明/黙、景山男) 1826-8964 上州館林の儒者/父は館林藩儒、1836藩主松平斉厚の転封で一家で石見浜田に移住、儒; 1847肥後の横井小楠門、浜田帰国後藩政に参画、家塾で子弟教育、平戸藩儒楠本碩水と交流、  
廃藩後; 懐旧社を設立; 社長、「丁未打聞」「一得秘録」「省齋経説」著、  
[省齋(;)の通称/別号]通称; 富之丞/退蔵、別号; 黙齋
- I2435 **静齋** (せいさい・岸井きい、名; 孝次) 1826-9368 加賀金沢藩士/画; 森西園門、「狂歌ちから草絵」著、  
[静齋(;)の別号] 松柏生/白髯居士はくぜんこじ/頌白逸士
- B2465 **成齋** (せいさい・重野しげの、名; 安譚やすつぐ、太兵衛男) 1827-191084 薩摩藩士/儒; 藩校造士館に修学、江戸の昌平覺に入; 安積良齋門、造士館訓導に抜擢/事に座し大島に遠流、  
帰藩後薩英戦争の講和に尽力/造士館助教、維新後は修史事業を推進; 近代史学の礎築く、漢詩; 文旧雨社・麗沢社などを起す、1853「禺于日録」、「万国史綱」「成齋文集」著、  
[成齋(;)の字/通称/別号]字; 士徳/子徳、通称; 厚之丞、別号; 隼所/竜泉/未齋
- I2436 **晴齋** (せいさい・大田おた、名; 修文、晴軒男) 1833-9765 大田錦城の孫、儒者; 三河吉田藩出仕、  
維新後は子弟教育/東京に没、「学歩稿」「萤雪余誌」「好晴集」「耳聞目観」「晴齋雑記」、  
「晴齋瑣言」「晴齋私史」「探奇探勝」「白酔余誌」「聞見雑録」著、  
[晴齋(;)の字/通称/別号]字; 翼武、通称; 成之進/成之、別号; 玉海/竹庵/澹淵
- B2466 **省齋** (せいさい・日尾ひお、名; 約/字; 省三) ?-?早世 江末期武州の儒者、日尾荆山の婿養子、  
妻; 荆山女の直なお(1829-97/歌人)、荆山の家学を継承するも早世、  
1850「詩格刊誤」53「太平策」、「形状字林」著
- I2437 **誠齋** (せいさい・松枝まつえだ、名; 政広) ?-? 1879存 羽前西田川郡大泉の和算家; 伏題免許を有す、  
長谷川数学道場の社友、1853「側刀助術」著

生西 (せいさい)	→ 生西(しょうさい、為真入道、歌人)	M 2 1 7 9
生西 (せいさい)	→ 生西(せいさい・しょうさい、社僧/医者)	I 2 4 3 8
生齋 (せいさい・吉田)	→ 貞(ただし・吉田よしだ、藩士/歌人/絵師)	2 7 3 0
正齋 (せいさい・山脇)	→ 正準(まさのり・山脇やまわき、藩士/兵学者)	G 4 0 2 2
正齋 (せいさい・柳田)	→ 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家)	J 2 2 0 6
正齋 (せいさい・黒野)	→ 義方(よしかた・黒野くろの、幕臣/兵学者)	C 4 7 7 2
政載 (せいさい・水沼)	→ 政載(まさのり・水沼みづぬま、国学者/神職)	S 4 0 8 9
斉齋 (せいさい; 剃髪名)	→ 斉貴(なりたけ/なりたか・松平、藩主/鷹狩)	H 3 2 5 1
青齋 (せいさい・五十嵐)	→ 正之(正行まさゆき・五十嵐いがらし、大庄屋/歌)	N 4 0 2 8
青齋 (せいさい・小谷)	→ 時宜(ときよし・小谷おたに、歌人)	U 3 1 4 1
省齋 (せいさい・伊藤)	→ 霞台(かだい・伊藤いとう、儒者)	M 1 5 8 9
省齋 (せいさい・佐々城)	→ 朴安(朴庵ぼくあん・佐々城ささき、医者/本草)	C 3 9 8 5
省齋 (せいさい・鷺田)	→ 寛隆(ひろたか・鷺田わしだ、商家/国学/歌)	G 3 7 2 2
省齋 (せいさい・近藤)	→ 瓶城(へいじょう・近藤こんどう/安藤、儒者)	B 2 7 5 2
省齋 (せいさい・平山)	→ 敬忠(よしただ・平山らやま/黒岡、幕臣/神道)	O 4 7 8 0
葎齋 (せいさい、北尾政演まさのぶ)	→ 京伝(きょうでん・山東)	1 6 3 7
靖齋 (せいさい: 号)	→ 等恵(とうけい/とうえ: 法諱、僧/連歌)	D 3 1 0 2
靖齋 (せいさい・谷藤)	→ 善臣(よしおみ・谷藤、国学・歌)	C 4 7 4 2

靖齋(せいさい・伊藤)	→	武矩(たけのり・伊藤、儒者/詩文)	O 2 6 6 1
靖齋(せいさい・白井)	→	重勝(しげかつ・白井/源/長坂、藩士/儒者)	Q 2 1 8 2
靖齋(せいさい・大久保)	→	要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学)	O 1 5 3 3
靖齋(せいさい・小川)	→	忠篤(ただあつ・小川おがわ、医者/儒/勤王)	P 2 6 1 8
靖齋(せいさい・谷森)	→	善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者)	C 4 7 4 2
晴齋(せいさい・小島)	→	宗真(そうしん・小島こじま、書家)	I 2 5 0 5
惺齋(せいさい・藤原)	→	惺窩(せいか・藤原、儒者)	2 4 0 3
惺齋(せいさい・蜂屋)	→	可敬(よしのり・蜂屋はちや/源、藩士/詩)	F 4 7 8 0
世濟(せいさい・唐橋)	→	君山(くんざん・唐橋からはし、儒医/狂詩)	B 1 7 2 3
清齋(せいさい・富岡)	→	京楽(きょうらく・立亭りゆうてい、人情本)	H 1 6 0 3
清齋(せいさい・湯川)	→	麴洞(げいどう・湯川ゆかわ、儒者)	E 1 8 9 3
清齋(せいさい・河合)	→	元碩(げんせき・河合かわい、医者)	K 1 8 5 3
清齋(せいさい・小川)	→	正方(まさかた・小川おがわ、医者/歌人)	B 4 0 9 5
清齋(せいさい・松下)	→	秋水(しゅうすい・広江ひろえ、商家/詩人)	X 2 1 7 1
清齋(せいさい・内田)	→	美堯(よしたか・内田うちだ、歌人)	L 4 7 7 5
清齋(せいさい・小川)	→	宜(ぎ・小川おがわ、医者/儒者)	T 1 6 6 6
清齋(せいさい・金成)	→	徳雄(のりお・金成かんなり、国学者)	I 3 5 0 6
精齋(せいさい・伊藤)	→	定敬(さだたか・伊藤いとう、藩士/和算家)	I 2 0 3 7
精齋(せいさい・寺崎)	→	梅坡(ばいは・寺崎てらさき、藩儒者)	B 3 6 9 5
精齋(清齋せいさい・沢渡)	→	広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師)	G 3 7 0 3
精齋(せいさい・川村)	→	修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌)	F 3 2 0 7
精齋(せいさい・渡辺)	→	幸嗣(ゆきつぐ・渡辺わたなべ、藩士/歌人)	H 4 6 5 2
静齋(せいさい・萩原)	→	元克(もとえ・萩原/佐藤、国学/教育者)	C 4 4 1 6
静齋(せいさい・介川)	→	通景(みちかげ・介川すげわ、藩士/詩人)	B 4 1 3 1
静齋(せいさい・永井)	→	尚長(なおなが・永井、藩主/詩文)	B 3 2 9 4
静齋(せいさい・油井)	→	牧山(ぼくざん・油井ゆい、藩儒/詩人)	D 3 9 2 8
静齋(せいさい・喜多村)	→	筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆)	C 1 1 0
静齋(せいさい・小林)	→	英一(えいち・静齋、小林、絵師)	B 1 3 9 0
静齋(せいさい)	→	英秀(えいしゅう・静齋/菊川、絵師)	C 1 3 9 1
静齋(せいさい・中野)	→	省我(せいが・中野なかの、郷土史家)	H 2 4 6 5
静齋(せいさい・小島)	→	成齋(せいさい・小島こじま、藩士/書家)	B 2 4 6 0
静齋(せいさい・楊井)	→	盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者)	G 4 4 8 9
静齋(せいさい・松本)	→	英松(英笑えいしょう・松本伸齋、絵師)	D 1 3 0 2
静齋(せいさい・平住)	→	専庵(せんあん・平住ひらずみ、医/儒/本草)	E 2 4 7 9
静齋(せいさい・春化坊)	→	沾山(4世せんざん・内田、社麦、俳人)	F 2 4 5 4
静齋(せいさい・藤井)	→	高久(たかひさ・藤井ふじい/藤原、神職/歌)	H 2 6 9 8
静齋(せいさい・山田)	→	清房(きよふさ・山田やまだ、和算家)	Q 1 6 2 7
静齋(せいさい・新岡)	→	旭宇(きよくう・新岡にいおか、書家)	O 1 6 7 9
静齋(せいさい・富田)	→	虞軒(ぐけん・富田とみた、儒者/詩)	C 1 7 3 6
静齋(せいさい・森田)	→	甫三(甫参ほんさん・森田もりた、医者/詩)	E 3 9 1 6
静齋(せいさい・広瀬)	→	月化(げつか・広瀬ひろせ、商家/俳人)	B 1 8 0 1
静齋(2世せいさい)	→	春坡(しゅんぱ・金谷、商家/月化門俳人)	L 2 1 7 4
静齋(せいさい・山川)	→	正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者)	F 4 0 7 9
静齋(せいさい・富川)	→	玄嶽(げんがく・富川とみがわ、儒者)	I 1 8 2 8
静齋(せいさい・西村)	→	貞堯(さだたか・西村にしむら、歌人)	I 2 0 3 6
静齋(せいさい・北林)	→	大古(たいこ・北林きたばやし、商家/俳人)	G 2 6 4 4
静齋(せいさい・高木)	→	允胤(みつたね・高木たかぎ、和算家)	D 4 1 8 3
静齋(精齋せいさい・毛利)	→	元徳(もとのり・毛利/大江、藩主/歌人)	D 4 4 8 6
静齋(せいさい・中川)	→	恭重(ゆきしげ・中川なかがわ、医者/歌人)	H 4 6 0 3
静齋(せいさい・加須屋)	→	武成(たけなり・加須屋かすや、藩士/国学)	W 2 6 3 8

- 静斎(せいさい・吉田) → 拙藏(せつぞう・吉田よしだ、藩士/儒・蘭学) L 2 4 1 8  
 静斎(せいさい・歌川) → 芳政(よしまさ・歌川うたがわ/三浦、絵師) H 4 7 1 5  
 静斎(せいさい・曾根) → 清風(きよかぜ・曾根そね、医者/歌人) U 1 6 5 5  
 静斎(せいさい・安江) → 正美(まさみ・安江やすえ、文迪/医者/歌) T 4 0 3 3  
 静斎(せいさい・馬島) → 光昭(みつあき・馬島まじま、藩士/歌人) K 4 1 4 9  
 政在(せいざい・西垣) → 露庵(ろあん・西垣にしがき、儒者) 5 2 0 0  
 整斎(せいざい・戸川) → 威佐(かんすけ・しげすけ・戸川とがわ、藩士/儒/書家) R 1 5 1 5  
 成斎(せいざい・菅/菅原) → 孟(たけし・菅原すけわら/菅、医者) O 2 6 3 8  
 成斎(せいざい・春田) → 正靱(まさとも・春田はるた、藩士/国学者) S 4 0 0 1  
 誠斎(せいざい・鍋島) → 直郷(なおさと・鍋島なべしま、藩主/詩歌) B 3 2 2 3  
 誠斎(せいざい・真田) → 幸貫(ゆきつら・真田/松平、藩主/詩歌) 4 6 2 1  
 誠斎(せいざい・堀) → 直格(なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7  
 誠斎(せいざい・土橋) → 友直(ともなお・土橋つちはし/三宅、儒/教育) V 3 1 7 6  
 誠斎(せいざい・坪井) → 信道(しんどう/のぶみち・坪井つばい、蘭医) 2 2 6 5  
 誠斎(せいざい・吉田) → 元策(げんさく・吉田、幕府医官) J 1 8 1 5  
 誠斎(せいざい・前田) → 孝始(たかもと・前田まえだ、藩士/記録) N 2 6 4 0  
 誠斎(せいざい・鈴鹿) → 連胤(つらたね・鈴鹿/中臣/卜部、神職/国学) E 2 9 4 1  
 誠斎(せいざい・梨本;変名) → 実美(さねとみ・三条/転法輪三条、尊攘/歌) L 2 0 0 6  
 盛斎(せいざい・徳川) → 慶勝(よしかつ・徳川/源/松平、藩主) C 4 7 9 1  
 醒斎(せいざい) → 太呂(たいりよ・安楽院、修験僧/俳人) L 2 6 2 0  
 醒斎(葦斎せいざい) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7  
 醒斎(せいざい・森もり) → 枳園(きえん・森もり立之、医者/国学) F 1 6 0 3  
 腥[鯉]斎(せいざい/なまぐさい) → 川柳(5世せんにゅう、緑亭・腥斎佃なまぐさいたづり) 2 4 4 3  
 腥[鯉]斎(せいざい/なまぐさい) → 川柳(6世せんにゅう、5世男・腥斎なまぐさいごまめ) 2 4 4 4  
 倩斎(せいざい・市川) → 梅客(ばいかく・市川/福原、幕臣/儒者) 3 6 8 5  
 誓斎(せいざい・上田) → 元彊(もとたけ・上田うえだ、医者/歌人) C 4 4 8 9  
 B2467 正在(せいざい・小原おほら) ?- ? 俳人;西武門、1657西武「沙金袋」143句入  
 I2438 生西(せいざい・しゅうさい;法諱)?- ? 南北期社僧;筑紫香椎宮の学頭・医者、  
 伝説により身体の部位の順に病名を列挙した実用医術書を著;「五体身分集」著  
 清在(せいざい・喜早) → 清在(きよあり・喜早きそ、神職) N 1 6 0 6  
 清材(せいざい→きよき・宮道/宮路) → 潔興(きよき・宮道/宮路、廷臣/歌) C 1 6 9 5  
 生柴翁(せいざいおう・勝沢) → 一順(いちじゅん・勝沢かつざわ、医者/詩歌) G 1 1 2 4  
 臍斎主人(せいざいしゅじん) → 宣就(のぶなり・岡本おかもと、兵法家) C 3 5 5 8  
 臍斎主人(せいざいしゅじん) → 飯袋子(はんだいす、談義本作者) I 3 6 3 8  
 栖斎叟人(せいざいそうじん) → 栗斎(りつさい・内山う/本源、儒者/俳人) B 4 9 8 9  
 生濟堂(せいざいどう) → 存真(ぞんしん、大河内おおこうち/西山、医者) F 2 5 5 9  
 B2468 清左衛門(せいざえもん・赤松あかまつ)?-? 元禄1688-1704頃京の舌耕士/太平記読に長ず、  
 江戸浅草見付御門脇で「太平記評判秘伝理尽鈔」を読む  
 I2439 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、名;義慰よしのり/よしやす、義苗男) 1729-1813 母;関弥五左衛門女、  
 陸中盛岡藩士;1736藩主南部利視に初謁/47家督継嗣、稻留流砲術の師範、  
 「一火流砲術」著、  
 [清左衛門(通称)の別通称/法号]別通称;清治/覚兵衛、法号;心性院  
 I2440 清左衛門(せいざえもん・浅野あさの、名;貫道、号;兎水)?-? 江後期1818-54頃大阪の文筆家、  
 1824「真言暗誦要文」編  
 I2441 清左衛門(せいざえもん・石原いしはら)?-? 江後期1830-48頃陸奥伊達・信夫2郡の代官、  
 1847「地方明弁大成」著  
 I2442 清左衛門(せいざえもん・高木たかぎ)?-? 江後期幕臣;鳥見/1843代官/58新番、  
 1847「弘化四年震災書」著  
 清左衛門(せいざえもん・人見) → 弁斎(べんさい・人見ひとみ、武芸者) B 2 7 2 2  
 清左衛門(せいざえもん・前田) → 東溪(とうけい・前田/一色、菊叢、藩儒) D 3 1 0 4

清左衛門(せいざえもん・尾池)→ 定安(さだやす・尾池おけ、藩士/連歌) K 2 0 0 1  
 清左衛門(せいざえもん・桑名屋)→ 昨非(さくひ・乾いぬい、商家/俳人) B 2 0 4 7  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守安(もりやす・木俣きまた/橋、藩老/歌) J 4 4 7 5  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守明(もりあき・木俣きまた/橋、藩老/執権) J 4 4 8 1  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守盈(もりみつ・木俣きまた、藩執権/連歌) J 4 4 8 2  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守貞(もりさだ・木俣きまた、藩老/資料収集) J 4 4 8 3  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守将(もりまさ・木俣きまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 6  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守長(もりなが・木俣きまた/橋、藩老/歌) J 4 4 7 7  
 清左衛門(せいざえもん・木俣)→ 守盟(もりちか・木俣きまた/橋、藩老) J 4 4 8 5  
 清左衛門(せいざえもん・遊佐)→ 木斎(ぼくさい・遊佐ゆさ、藩儒/教育者) D 3 9 0 8  
 清左衛門(せいざえもん・土岐)→ 頼長(よりなが・土岐とき、藩世嗣/和学) N 4 7 9 7  
 清左衛門(せいざえもん・山岸)→ 梅塵(ばいじん・山岸、醸造業/俳人) B 3 6 6 4  
 清左衛門(せいざえもん・久田)→ 篤敬(あつり・久田ひさた、藩士/書状) E 1 0 7 7  
 清左衛門(せいざえもん・戸部)→ 一慙斎(いっかんさい・戸部とべ、黄檗僧/史家) G 1 1 8 3  
 清左衛門(せいざえもん・松平)→ 親恭(ちかやす・松平まつだいら、儒者) C 2 8 1 2  
 清左衛門(せいざえもん・榎並)→ 貞富(ていふ・榎並、菓子商/狂歌) B 3 0 6 0  
 清左衛門(せいざえもん・贅川)→ 正興(まさおき・贅川にえかわ、歌人) L 4 0 1 0  
 清左衛門(せいざえもん・伊勢屋)→ 茂野(しげの・勝間田かつまた、国学者) R 2 1 9 0  
 清左衛門(せいざえもん・伊勢屋)→ 記のつかぬ(きのつかぬ、狂歌) J 1 6 1 5  
 清左衛門(せいざえもん・佐野屋)→ 緑泉(りよくせん・中村/中、酒造業/詩人) J 4 9 7 9  
 清左衛門(せいざえもん・古沢)→ 康伯((やすのり・古沢、藩士/槍術家) I 4 5 7 3  
 清左衛門(せいざえもん・前田)→ 玄通(げんつう・前田まえた、医者) L 1 8 4 6  
 清左衛門(せいざえもん・小田)→ 光満(みつまる・小田おだ、国学者) E 4 1 9 2  
 清左衛門(せいざえもん・中山)→ 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0  
 清左衛門(せいざえもん・遠藤)→ 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
 清左衛門(せいざえもん・伊藤)→ 嵐牛(らんぎゅう・伊藤、国学/俳人) B 4 8 7 2  
 清左衛門(せいざえもん・井野)→ 審卿(しんけい・井野/村瀬、藩士/儒/書) O 2 2 0 2  
 清左衛門(せいざえもん・中川)→ 鯉淵(りえん・中川/越智、藩士/儒者) 4 9 3 9  
 清左衛門(せいざえもん・河合)→ 祐之(すけゆき・河合かわい、藩士/記録) H 2 3 2 4  
 清左衛門(せいざえもん・小堀)→ 水翁(すいおう・小堀、藩士/泳術/書) E 2 3 2 0  
 清左衛門(せいざえもん・小坂)→ 呂叟(ろそう・小坂こさか、俳人) C 5 2 0 8  
 清左衛門(せいざえもん・石河)→ 勝延(かつのぶ・石河いしこ、勝栄男/幕臣) T 1 5 6 5  
 清左衛門(せいざえもん・平井)→ 直純(なおずみ・平井ひらい、醸造/歌人) O 3 2 5 2  
 清左衛門(せいざえもん・平瀬)→ 一鷗(いちおう・平瀬ひらせ、藩士/茶人) K 1 1 5 9  
 清左衛門(せいざえもん・石田)→ 畔見(くろみ・石田いしだ、歌人) E 1 7 0 3  
 清左衛門(せいざえもん・山上)→ 光道(てるみち・山上やまがみ、和算家) C 3 0 9 8  
 清左衛門(せいざえもん・小津)→ 長澄(ながすみ・小津おつ/筒井、国学者) L 3 2 4 0  
 清左衛門(せいざえもん・三浦)→ 元住(もとずみ・三浦みうら、藩士/歌人) L 4 4 4 4  
 清左衛門(せいざえもん・久松)→ 貞居(さだおき・久松ひさまつ、藩重臣/歌人) P 2 0 1 9  
 清左衛門(せいざえもん・帆丸屋)→ 好之(よしゆき・桑山くわやま、製造業/郷土史) H 4 7 9 9  
 清左衛門(せいざえもん・尾池)→ 春道(はるみち・尾池おけ、藩士/武術/歌) J 3 6 8 3  
 清左衛門(せいざえもん・野村)→ 健平(たてひら・野村のむら、国学/詩歌) Y 2 6 9 2  
 誠左衛門(清左衛門せいざえもん・加部)→ 誠斎(せいさい・加部かべ、医/儒者) I 2 4 2 5  
 盛左衛門(せいざえもん・遠藤)→ 慶正(よしまさ・遠藤えんどう、歌人/勤王家) L 4 7 7 8  
 西左衛門(せいざえもん・丹波屋:戯作名)→ 確斎(かくさい・武内、儒者) E 1 5 6 8  
 正左衛門(せいざえもん・出浦)→ 清命(きよのり・出浦いでうら、郷土史家) Q 1 6 1 4  
 靖左衛門(せいざえもん・丸山)→ 貝陵(ばいりょう・丸山、儒者) C 3 6 2 5  
 清左衛門尉(せいざえもんじょう・木俣)→ 守勝(もりかつ・木俣、武将/記録) F 4 4 3 2

B2469 正朔(せいさく・竹島たけしま、名;春延はるのぶ、通称;天満屋仁左衛門)?-1778 江戸新吉原妓楼天満屋主人、河東節作詞、俳人・乾什門;師の前号の呉丈襲号、1761乾什追善集・句碑建立に尽力、

1728「水調子」「袖さうし」、31「浮ぶ瀬」32「濡扇」34「いの字扇」37「夜の錦」54「洞房古鑑」、  
「江の島」「絵蓬萊」「有馬筆」著、

[正朔の別号] 竹婦人(；河東節号)/呉丈(俳号；乾仕の前号踏襲)、法号；智光院

正朔(せいさく・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4  
正朔(せいさく・秋元) → 安民(やすたみ・秋元/藤原、藩士/国学者) B 4 5 9 5  
正朔(せいさく・中田) → 正朔(まさもと・中田なかつ/沢潟、神職) R 4 0 1 3  
正朔(せいさく・野矢) → 為政(ためまさ・野矢のや、藩士/国学者) Y 2 6 9 3  
正策(せいさく・物集) → 高世(たかよ・物集もづめ、国学者/歌学) E 2 6 0 3  
正策(正朔せいさく・宮武) → 正策(しょうさく・宮武みやたけ、藩医/漢学) V 2 2 3 2  
正作(せいさく・伊藤) → 正作(まさなり・伊藤、医者/農業研究) F 4 0 4 5  
正察(せいさく・志水) → 正察(しょうさつ・西導寺、僧/俳人) S 2 2 4 2  
青菘道人(せいさどうじん) → 秋台(しゅうだい・浅野屋、晝業/書家) X 2 1 9 8

B2470 清三郎(初世せいさぶろう・中村なかむ、2世中村勘三郎男)?-1743 江戸の歌舞伎役・作者、  
初め中村座の役者；2世中村明石名/若太夫・若衆方、元禄1688-1704中頃作者に転向、  
三升屋兵庫(初世団十郎)・初世中村清五郎と合作、1697(元禄10)「参会名護屋」著、  
1697「兵つわもの根元曾我」99「平清盛美人揃」1700「万年曆稻荷山」02「女鉢木三鱗」外著多数、  
[初世清三郎(；通称)の別通称/号]別通称；明石2世/明石清三郎、俳号；蓮菅  
中村七三郎(母；2世中村勘三郎女)の義弟、2世中村清三郎の父

B2471 清三郎(2世せいさぶろう・中村、初世清三郎男)?-? 江中期元文宝暦1736-57頃歌舞伎作者；合作者、  
江戸各座で藤本斗文・2世津打治兵衛・壕越二三治・中村清九郎らと合作、1757(宝暦7)迄、  
1739「都染薫鉢木」(早川伝四郎と合作)/41「菜華曙曾我」(伝四郎・斗文と)、  
1745「羽衣寿曾我」「飴蝦かざりえび鎧曾我」(伝四郎と)/49「男文字曾我物語」(斗文と)、  
1750「若木梅平之清盛」51「伊豆小袖商売鑑」(2世治兵衛・清九郎と)、  
1752「諸軽奥州黒もろたなおうしゅうぐろ」54「傾城浅草鐘」(二三治と)、  
1754「根元阿国歌舞伎」(斗文と)/55「惶弓勢ありがたしゆんぜい源氏」(治兵衛・二三治と)、  
1756「寿三升曾我」(治兵衛・二三治と)/57「日本塘鶏音曾我にほんづつみとりのねそが」(二三治と)  
[2世清三郎(；通称)の別通称/号]別通称；藤吉/藤橋、俳号；藤橋  
2世中村七三郎の弟？

清三郎(せいさぶろう・津打) → 英子(2世えいし・津打つづ、歌伎作者) C 1 3 8 4  
清三郎(せいさぶろう・伏田) → 景嗣(かげつぐ・香川、歌人) E 1 5 9 7  
清三郎(せいさぶろう・斎藤) → 如備子(にょらいし、斎藤親盛/仮名草子作者) G 3 3 2 3  
清三郎(せいさぶろう・磯野/宮沢) → 欽斎(きんさい・宮沢みやざわ、儒者) I 1 6 9 9  
清三郎(せいさぶろう・宇野/細井) → 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1  
清三郎(せいさぶろう・大滝) → 光憲(みつあきら・大滝/田中、商家/国学) E 4 1 4 8  
清三郎(せいさぶろう・宮崎) → 泰之(やすゆき・宮崎みやざき、幕臣/和学者) G 4 5 8 4  
清三郎(せいさぶろう・木俣) → 守明(もりあき・木俣きまた/橋、藩老/執権) J 4 4 8 1  
清三郎(せいさぶろう・小野) → 正雄(まさお・小野おの/篠屋、商家/歌人) O 4 0 1 5  
清三郎(せいさぶろう・和田) → 重雄(しげお・和田わだ、幕臣/国学者) Q 2 1 6 7  
清三郎(せいさぶろう・佐竹) → 義堯(よしあか・佐竹さたけ/相馬、藩主) E 4 7 1 2  
清三郎(せいさぶろう・金子) → 松洞(しょうどう・金子かねこ、儒者/詩人) R 2 2 5 8  
清三郎(せいさぶろう・上野) → 為成(ためなり・上野うえの/堀、国学者) V 2 6 8 1  
清三郎(せいさぶろう・山吹) → 正直(まさなお・山吹やまぶき/鈴木、藩士/歌) T 4 0 5 3  
清三郎(せいさぶろう・大滝) → 光賢(みつあか・大滝おおたき、商家/国学) I 4 1 3 7  
精三郎(せいさぶろう・青木) → 天壽(てんじゅ・韓かん/青木/中川、書家) D 3 0 7 2  
政三郎(せいさぶろう・吉井/貫名) → 海屋(かいおく・貫名ぬきな、書家/画人) 1 5 9 1  
誠三郎(せいさぶろう・高橋) → 古溪(こけい・高橋たかはし、儒者) M 1 9 2 9  
省三郎(せいさぶろう・堀) → 利照(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2

I2443 盛算(せいさん) ? - ? 安桃期真言宗醍醐寺の僧、  
1574「明智光秀宛の依頼文」；三宝院門跡領知行につき織田信長への執り成し依頼、  
連歌作者；紹巴と「何路百韻」

正三(せいさん・吉田) → 正恭(せいきょう・吉田よしだ、医者/蘭学) H 2 4 9 3  
 正参(せいさん・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1  
 正参(せいさん・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
 清三(せいさん;法諱) → 笑雲(しょううん;道号・清三、臨濟僧) Q 2 2 9 2  
 清算(せいさん;法諱) → 清算(しょうさん;法諱・彦証、真言律僧) J 2 2 1 7  
 省三(せいさん・日尾) → 省斎(せいさい・日尾ひお、儒者) B 2 4 6 6  
 生三(せいさん・青木) → 鳳毛(ほうもう・青木/広瀬、藩儒者) C 3 9 6 0  
 世榮(正榮せいさん・木村) → 世榮(つぐあき・木村きむら、医者/国学) F 2 9 5 9  
 成榮(せいさん・坪井/三田村) → 栗所(栗所りっしょ・三田村/藤原/藤/坪井、儒者/詩) C 4 9 0 3

- D2419 清山(せいざん・清水しみず) ? - ? 江前期安藝倉橋の俳人;貞門系、  
 1663梅盛「早梅集」入、64梅盛「落穂集」入
- Q2459 青山(せいざん;道号・存海;法諱)?-? 江前期;曹洞宗長昌寺僧/歌人、青山大秀と同一?  
 (青山大秀は遠江則心寺9世から相模藤枝の秀廣山長昌寺を開山/1649[慶安2]没)、  
 [いとひにし嵐もけさは音絶えて松もさびしき雪の山里](茂睡[鳥の迹]冬498)
- B2474 西山(せいざん・西山にしやま/修姓;西、名;順泰/順恭、阿比留あびる順益男) 1658-88早世31 医学;父門、  
 父は津島藩医、儒学に志す;西山に改姓、対馬藩儒/書記、1685江戸の木下順庵門、  
 新井白石・室鳩巢と交流、「健甫詩集」著、白石「木門十四家詩集」(1710?刊)入、  
 [西山(;号)の字/通称/別号]字;健甫、通称;健助、別号;蘋洲ひんしゅう
- I2445 静山(せいざん・岡田おかだ、名;信之/字;信民、兼忠男)?-? 江中期享保1716-36頃加賀の儒者、  
 儒;伊藤莘野しんや門、金沢藩に出仕、「静山集」著
- B2475 靖山(せいざん・箕浦みのうら、名;世亮よすけ、佐々木宗固男) 1719-180385 因幡鳥取藩士/儒;佐善礼耕門、  
 医;和田三養門/擊劍;伴柳水軒門、1736藩命で箕浦玄東(藩分知東館池田家侍医)の養子、  
 家職(医者)を継嗣;130石、1756藩校尚徳館創設の際に本藩の儒者に列す;学館奉行に就任、  
 学務を総掌;その功績により1776増禄;2百石、1790隠居、節山せつざんの父、  
 1795安陪恭庵「因幡志」序文、1809(文化6)「尚書典謨てんぼ説」著(油屋仲蔵版)、  
 「大学説」著(没後刊)、  
 [靖山(;号)の幼名/字/通称]幼名;養弥、字;長孺、通称;文蔵/養伯/玄洞げんどう
- I2446 西山(せいざん;号・馬島まじま、名;安栄/字;君用)?-? 伊勢洞津の詩人、1766(明和3)「絃歌余韻」著
- I2447 青山(せいざん・山川やまかわ、名;矩道) 1748-9750 肥後宇土藩士/儒者/詩文、  
 「蠹蛙とあ余録」「文選拾遺」著/「青山遺稿」、  
 [青山(;号)の字/通称]字;子絜けつ、通称;類助
- I2448 静山(せいざん・渡辺わたなべ) ? - ? 1818存 伊予宇和島藩士;大坂留守居役、俳人;魚亮門、  
 1812「壬申紀行」著、  
 [静山(;号)の通称/別号]通称;源太夫、別号;蚯蚓叟きゅういんそう/静幽廬2世
- B2476 静山(せいざん・松浦まつら、名;清きよし、政信男/本姓源) 1760-184182 1771父没;祖父松浦誠信の養嗣子、  
 平戸9代藩主;1775襲封、藩政の改革/学問の振興;藩校維新館を創設・感恩斎(江戸)を開く・  
 楽歳堂(平戸)を開く、藩史の編纂着手/1806致仕、儒学;皆川淇園・朝川善庵・佐藤一斎門、  
 法条流兵法・心形刀流免許、歌文/詩/有職故実精通、オランダ事物に興味、従五下壱岐守、  
 贈従三位、川柳作者;誹風柳多留1805三二篇一六五篇入;四世川柳と対話;「川柳応問集」、  
 「甲子夜話」「寛政紀行」「江東歌集」著、「松浦家世伝」編、1810「常静子劔談」、「敬孝述事」  
 「飛鸞詩藻」「感恩斎詩草」「美弥良久考」「心形刀流目録序辨解」「美祢良久考」外著多数、  
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
 [それとだに見えぬ車の下すだれねたしや人のかざすあふひは]、  
 (大江戸倭歌;雑1991/源氏物語の葵)、  
 [静山(;号)の字/通称/別号/変名/法号]字;小白、通称;英三郎、  
 別号;雪洲/雪州/流水/感恩斎/常静子、  
 変名;松山まつやま・柳水・流水(;狂名)、伊吉(:遊郭名)、法号;豊功院

☆平戸の松浦まつら/まつら家

初代;鎮信しげのぶ 二代;久信ひさのぶ 三代;隆信たかのぶ 四代;鎮信しげのぶ 五代;棟たかし  
 六代;篤信あつのぶ 七代;有信ありのぶ 八代;誠信さねのぶ 九代;清きよし 十代;熙ひろむ 十一代;曜てらす



十二代;詮あきら(最後の藩主)

- I2450 **西山**(せいざん・佐藤さとう、名;教/熙、小林六兵衛10男)1812-68<sup>57</sup> 越後蒲原郡新潟村の儒者、大庄屋松川重基に養育/儒;松川痴堂(重基の弟)門、射術;会津藩士竹崎弓友門、江戸で修学;漢学;成島東学門・軍学;市川一学門、北辺の警備に関心、帰郷;蒲原郡築地村中村浜の佐藤広右衛門の継嗣、1858函館に赴き蝦夷地(樺太)御直場差配方、のち中絶するも御用方となる、奉行の開拓に関する諮に答申;意見七条を建言、1858「開道北征録」、「開道記」「蝦遊小言」、「四書通解」「小学字義」「孟子字義」「西山詩文稿」著、[西山(;号)の字/通称]字;士讓、通称;重之助/広右衛門
- I2451 **静山**(せいざん・河野こう/本姓;越智、名;通亮、通典3男)1815-71<sup>57</sup> 京儒者:春日潜庵門;陽明学修学、晩年は京で後進の指導、筆札を嗜む、「静止山先生臨書」著、[静山(;号)の字/通称]字;子亮、通称;三郎
- 02425 **西山**(せいざん・高橋たかはし、)1818-1876<sup>59</sup> 備後福山の医者、歌人;香川景樹門、藤江の山路機谷(重濟)らと交流、[西山(;号)の名/字/通称/別号]名;正人/狷、字;子潔、通称;寿介、別号;長年齋
- 02442 **西山**(せいざん・原田はらだ、通称;升六)1822-1903<sup>82</sup> 近江滋賀郡の日吉神社祠官/歌人;[鳩のうみ]入
- N2485 **静山**(せいざん・山岡やまおか、名;正視まさみ、正業まさなり男)1829-1855<sup>早世27歳</sup> 旗本百俵2人扶持/幕臣、槍術家;厳しい修行;名人と称される/門弟多数、高橋泥舟の兄、柳川の天下無双の南里紀介と試合;4時間の大試合で引分、門弟の小野鉄太郎(山岡鉄舟)が妹英子の婿養子となり家督継嗣、[静山(;号)の字/通称/法号]字;子巖、通称;紀一郎、法号;清勝院
- 青山(せいざん;道号) → 慈永(じえい;法諱・青山;道号、臨濟僧) B 2 1 1 8  
青山(せいざん・井手) → 氏房(うじふさ・井手いで、藩士/歌) E 1 2 4 8  
青山(せいざん・田中) → 光顕(みつあき・田中たなか/浜田、政治家) J 4 1 4 2  
青山(せいざん・森) → 熊夫(くまお・森もり、医者/国学) E 1 7 5 7  
静山(せいざん;字) → 実導(じつどう;法諱、初め天台のち浄土宗西山派僧) V 2 1 0 0  
静山(せいざん・坂/阪) → 光淳(みつあつ・阪/坂ほん・さか、静山/歌人) D 4 1 0 5  
静山(せいざん・久保) → 信敏(のぶとし・久保くぼ、国学/歌人) I 3 5 2 5  
静山(せいざん・岡田) → 輔幹(すけもと・岡田、藩士/儒者/詩) H 2 3 1 3  
静山(せいざん・檜林) → 栄建(えいけん・檜林ならばやし、医者;種痘) C 1 3 7 0  
静山(せいざん・小倉) → 美孝(よしたか・小倉おぐら/望月、藩士/国学) L 4 7 8 2  
醒山(せいざん・栗原) → 満啓(みつひろ・栗原くりはら、文筆家) E 4 1 7 3  
晴山(せいざん・木島) → 菅麿(すがまろ・木島きじま、歌人) B 2 3 6 5  
生山(せいざん) → 季鷹(すえたか・賀茂、歌人) 2 3 0 6  
性山(せいざん・法諱) → 性山(しょうざん・法諱、天台僧/歌人) U 2 2 9 0  
省山(せいざん) → 慶徳(よしのり・池田いけだ、藩主/歌文) F 4 7 9 7  
西山(せいざん) → 光圀(みつくに・徳川/源、藩主/修史) 4 1 2 5  
西山(せいざん) → 積翠(せきすい・石河いしこ、俳人) D 2 4 6 4  
西山(せいざん・長尾) → 景範(かげのり・長尾、軍学/詩歌) L 1 5 1 7  
西山(せいざん・坂さか) → 仲礼(ちゅうれい・坂、藩士/儒) G 2 8 9 9  
西山(せいざん;号) → 大魯(だいろ;法諱、真宗本願寺派僧) L 2 6 3 6  
西山(せいざん・石河) → 積翠(せきすい・石河いしこ、幕臣/俳人) D 2 4 6 4  
星山(せいざん・尾崎) → 義正(よしまさ・尾崎おさき、和漢学/教育) L 4 7 9 0  
青山陰(せいざんいん) → 弄花(ろうか、俳人) 5 2 2 1  
西山隠士(せいざんいんし) → 上覚(浄覚じょうかく;法諱、真言僧) F 2 2 8 6  
西山隠士(せいざんいんし) → 雅因(がいん、興津、俳人) E 1 5 4 9  
西山隠士(せいざんいんし) → 日貞(にっせい;法諱・善慧院、日蓮僧) F 3 3 3 2  
西山隠侶(せいざんいんりよ) → 光俊(みつとし・藤原、真観) 4 1 2 6  
西山翁(せいざんおう) → 宗因(そういん・西山、連歌/俳諧) 2 5 0 3  
西山外史(せいざんがいし) → 清彦(きよひこ・菊池わさくち/宇野、国学/神職) U 1 6 1 3

西山贗樵(せいざんがんしょう) → 整齋(せいさい・田辺/上毛野、藩儒/記録) B 2 4 5 2  
 西山国師(せいざんこくし) → 証空(しょうくう;法諱、浄土宗西山派祖) G 2 2 2 1  
 正山公(せいざんこう) → 斉義(なりよし・伊達だて、藩主) N 3 2 7 0  
 青山居士(せいざんこじ) → 青荘(せいそう・蒲坂ほさか、漢学者) C 2 4 4 9  
 青山散人(せいざんさんじん) → 智好(ちこう、僧/詩人) E 2 8 1 2  
 西山舎(せいざんしゃ) → 武矩(たけり・小山こやま、藩士/兵法/俳) O 2 6 6 0  
 西山樵翁(せいざんしょうおう) → 長嘯子(ちやうしょうし・木下、武将/歌人) 2 8 2 3  
 西山上人(せいざんしょうにん) → 澄豪(ちやうごう;法諱、天台学僧) I 2 8 3 1  
 西山上人(せいざんしょうにん) → 証空(しょうくう;法諱、浄土宗西山派祖) G 2 2 2 1  
 青山荘(せいざんそう) → 春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒) 2 1 6 0  
 西山長老(せいざんちやうろう) → 承空(しょうくう;法諱、浄土西山派僧/歌) G 2 2 2 3  
 西山亭(せいざんてい) → 可九(かきゅう・西山亭、俳人) Q 1 5 2 6  
 西山堂(せいざんどう) → 保次郎(やすじろう・西山堂、書肆) B 4 5 6 9  
 星山堂(せいざんどう) → 善吉(ぜんきち・永田ながた、絵師/銅版画) M 2 4 0 3  
 青山堂枇杷麿(せいざんどうびわまろ) → 枇杷麿(枇杷丸びわまろ・青山堂、書肆/狂歌) 3 7 3 2  
 西山内府(せいざんないふ) → 満季(みつすえ・洞院とういん/藤原、廷臣/歌) D 4 1 6 0  
 西山暮翁(せいざんぼおう) → 月林(げつりん/がつりん;道号・道皓、臨濟僧) H 1 8 4 1  
 成三楼酒盛(せいさんろうさかもり) → 酒盛(さかもり・成三楼、戯作者) H 2 0 1 3  
 成三楼鳳雨(せいさんろうほうう) → 酒盛(さかもり・成三楼、戯作者) H 2 0 1 3

B2477 清子(せいし・いさぎよきこ、きよいこの命婦)?-? 平中期朱雀院皇女昌子内親王[950-999]家に出仕?  
 小野好古の恋人:路真人清子きよいと同一と考えられる(後撰1332詞書)、歌;後撰1383  
 [斧の柄の朽ちむを知らず君が世の尽きむ限りはうちこゝろみよ]  
 (後撰廿1383;基石の箱の蓋に記す)

監命婦(大和物語に逸話)と同一? → 監命婦(げんのみょうぶ、歌人) C 1 8 9 1

B2478 盛子(せいし・藤原経邦女)?-? 藤原師輔(908-960)の妻、伊尹・兼家の母

P2404 娥子(せいし・すけ・藤原、濟時長女)972-1025<sup>54</sup> 母;源延光女、991皇太子居貞(三条天皇)に入内、  
 1011女御/美貌で天皇の寵愛篤く四男二女を産む、12道長女妍子が中宮となり皇后となる、  
 敦明(小一条院)・敦儀・敦平・師明親王・当子・禊子内親王の母、皇后ながら不遇な生涯;  
 道長の迫害で敦明親王が皇太子となるも辞任、当子内親王が藤原道雅と密通事件などで、  
 皇后ながら不遇生涯を送る/1018(寛仁2)出家/25(万寿2)没、父濟時から伝授の箏の名手、  
 袋草紙;[後拾遺に三条院の御製に云はく;

《心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな》(後拾遺860)の歌は、  
 上科抄に「三条院御心地よろしかりけるひまに月を御覧じて、  
 心細きことども聞えさせ給ひければ皇后宮(娥子)のよませ給へる御歌」と云々、  
 何れの説を用うべきや、ただし皇后宮の御歌に義叶ふなり]

B2479 生子(せいし/なりこ・藤原、梅壺女御、弘徽殿女御、大二条関白藤原教通女)1014-68<sup>55</sup> 母;藤原公任女  
 後朱雀天皇女御;1039入内/47准三宮/1053出家、漢文/歌;1041「弘徽殿女御歌合」主催、  
 勅撰7首;新古(812/1251/1253)/続古(1418)/玉葉(1474/2356)/新拾(379)  
 [あすまでもあるべき身とも思はねばけふひぐらしの声ぞかなしき](続古;哀傷1418)

B2480 清子(せいし/きよこ・上杉うねすぎ、上杉頼重女)?-1342 丹波何鹿郡の生/足利貞氏の妻/尊氏・直義の母、  
 従三位/贈従二位、室町将軍尊氏の生母として重んじられる、出家;古先印元に帰依、  
 歌;風雅集1601、  
 [空にのみ散るばかりにてけふいくか日をふる雪のつもらざるらむ](風雅;1601/冬歌)  
 [清子(;名)の通称/号]通称;錦小路殿/大方禅尼、号;浄妙寺殿雪庭、法号;等持院/果証院

B2481 盛之(せいし・那賀なか) ?-1660? 和泉堺の俳人、  
 堺俳壇最初の撰集「境海草さかぐさ」の編纂に着手;急逝/1660阿知子頭成あきなりが増補完成)、  
 没後;1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [御神楽やもよほす秋の蜚きりぎす](手鑑/神楽歌に「蜚」の曲あり)

B2483 正之(せいし・山中) ?-? 江前期京の俳人、1690言水「新撰都曲」1句入、  
 [早はや今朝けきは牛の息見る冬野哉](都曲;下380)

- B2484 **政之**(せい) ? - ? 江前期姫路の俳人、1692才麿「椎の葉」1句入、  
[名月に何の憎みぞ晴にけり](椎の葉;128/日中空を覆っていた雲は月に憎しみはない)
- B2482 **成之**(せい/しげゆき・池嶋いけしま)?- ?1695前没 和泉堺の俳人;成安門/筆頭弟子、宗匠、  
池嶋成政の従弟、1658-60重興と六句付創作、1671(寛文11)俳諧撰集「塵塚ちりうか」編、  
1657西武「砂金袋」・63成安「埋草」(88句)・67秀政しゅうせい「貝殻集」(196句)・70元順「寛伍集」入、  
1670頭成あきなり「続境海草」・71以仙「落花集」・80「点滴集」・82風黒「高名集」入、  
[冷汁ひやしるや藻に埋うもるゝ貝杓子](高名集;藻は汁の具/貝殻で作った杓子、  
続後撰;1161俊頼/庵崎いさきのこぬみの浜のうつせ貝藻に埋もれて幾世経ぬらむ)  
[成之(;名)の通称/号] 通称;庄右衛門、号;宗今/宗吟(;法名)、
- N2446 **青栴**(せい・越智おち、麦邑男)?- ? 江中期伊予の俳人;1776「花入塚」編、  
1692芭蕉を迎え伊予の彫棠邸で歌仙;芭蕉の発句の懐紙を祖父越智擲瓢が受け伝える、  
青栴は懐紙を父麦邑より受け1770石手寺境内に埋め[花入塚]を建立;  
[芭蕉の発句;うちよりにて花入探れ梅椿]:1776その記念集を編纂
- B2485 **静之**(せい・枝芳軒しほうけん、通称;銭屋長兵衛)?-? 江中後期天明文化1781-1818頃京の書肆、  
六角通鳥丸東入町住、地誌家、1797「南瓢記」著、  
[静之(;号)の別号] 鹿書堂/枝芳軒
- B2486 **青氏**(せい・好文舎) ? - ? 歌舞伎の用語集を編纂:  
1801(享和元)「戯場いはい節用集」著(角書;当世珍宝楽家通語/竹原雲峰画/大坂扇屋利助刊)
- I2453 **青芝**(せい・蝶夢亭) ? - ? 江後期武州比企郡宮前村の俳人・竹二坊門、  
福田連の長老格、「墨直集」「雪之和賀礼」入、加田薬師の俳額に投句、1811「ぬのふくろ」編
- I2454 **成之**(せい・小幡、名;景政)?- ? 播磨姫路藩士/俳人;青蘿門、青二の父、  
1817(文化14)「俳諧百人一句集」編、  
[成之(;号)の別号] 蓮坡堂/連葉/府川亭
- B2487 **誠之**(せい・松浦) ? - ? 大阪小島町の医者の家/儒者;大塩中斎門、  
1837(天保8)大塩の乱には参加しなかったが捕縛され入牢;病死、  
1833中斎「洗心洞劄記」校訂・(1835[天保6]年版の跋)、  
中斎「大学刮目」に訓点入/「答人論学書略」に著述入、  
[誠之(;名)の字/通称]字;千之、通称;貞介
- I2455 **井資**(せい・西にし、別号;五春荘)?-? 江後期摂津の俳人;井眉門、  
1837「もとのしつく」著/53「うめのあめ」編
- 生之(せい・高島/西岡)→ 岑久(みねひさ・西岡、藩士/郷土史家) F 4 1 5 4  
 聖子(せい・藤原) → 皇嘉門院(こうかもんいん、崇徳天皇中宮/歌) 1 9 8 8  
 清子(せい、橘) → 井手尼(いでのおま、平安歌人) E 1 1 1 0  
 清子(せい→きよこ・村尾)→ 余野子(よのこ・鶴殿うどの、涼月、歌人) 4 7 3 1  
 清子(せい・山本) → 清子(きよこ・山本やまもと、大平門歌人) S 1 6 8 2  
 清子(せい・上田) → 喜代子(清子きよこ・上田うねだ、琴波/歌) T 1 6 0 5  
 清子(せい・森) → 清子(せい・森もり/国島、国学/歌人) O 2 4 5 2  
 清之(せい・小寺) → 清之(きよゆき・小寺こでら、神職/国学/歌) H 1 6 5 8  
 清之(せい・中川) → 清之(きよゆき・中川なかがわ、国学者) U 1 6 9 1  
 清史(せい・塩谷) → 清史(きよふみ・塩谷/塩治しおのや、藩士/歌) U 1 6 4 6  
 清志(せい・布/志賀) → 天民(てんみん・志賀しが/布ぬの、医者/蘭学) E 3 0 3 6  
 清熾(せい・堀家) → 清忠(きよただ・堀家ほりけ/吉見、神職/国学) V 1 6 1 8  
 晴子(せい・有馬) → 晴子(はるこ・有馬ありま、藩主妻/歌・琴) J 3 6 6 0  
 齊司(せい・西) → 言直(ことなお・ときなお・西、篆刻家/歌) N 1 9 2 9  
 静子(せい・紀) → 三条町(さんじょうのまち、文徳天后) E 2 0 4 5  
 静氏(せい・大塚) → 観瀾(かんらん・大塚おおつか、藩士/儒者) H 1 5 7 5  
 静氏(せい・賀茂) → 静氏(しずうじ・賀茂/岡本、廷臣/日記) T 2 1 9 8  
 静枝(せい・安井) → 九左衛門(きゅうざえもん・安井やすい、藩士/国学) V 1 6 4 9  
 精之(せい・長嶺) → 将統(まさつぐ・長嶺ながみね、絵師/俳人) D 4 0 9 5  
 盛子(せい・源) → 治部卿(じぶきょう・皇嘉門院) F 2 1 5 8

成子(せい・藤原) → 高倉三位(たかくらのさんみ、後白河天皇妃) L 2 6 8 2  
 成子(勢子せい・堀) → 成子(なりこ・しげこ・堀ほり/蜂須賀、歌人) O 3 2 6 6  
 成之(せい・細川) → 成之(しげゆき・細川/源、武将/歌・連歌) D 2 1 2 6  
 成之(せい・小林/宇野) → 東山(とうざん・宇野、医/儒者) E 3 1 5 4  
 成之(せい・松浦) → 交翠軒(こうすいけん・松浦、儒/幕臣) F 1 9 1 6  
 成之(せい・小谷) → 廉泉(れんせん・小谷こだに、藩儒) B 5 1 2 4  
 成之(せい・日根野) → 対山(たいざん・日根野ひねの/中原、絵師) K 2 6 1 0  
 成之(せい・片山) → 恬斎(てんさい・片山かたやま、藩儒/詩歌) D 3 0 4 7  
 成之(せい・田中) → 成之(しげゆき・田中、藩医/本草家) T 2 1 0 4  
 成之(誠之せい・加藤) → 弘之(ひろゆき・加藤、法学/ドイツ学) D 3 7 5 1  
 成之(せい・大田) → 晴斎(せいさい・大田おおた、儒者) I 2 4 3 6  
 成巳(せい→成己・中村) → 成己(なりみ・中村なかむら、藩士/国学) O 3 2 1 3  
 成資(せい・香西) → 成資(しげすけ・香西/植松、兵学者/軍記) C 2 1 2 6  
 誠之(せい・塩谷) → 箕山(きざん・塩谷しおのや、儒者/幕臣) J 1 6 1 1  
 誠之(せい・幸田) → 誠之(まさゆき・幸田こうだ/藤原、幕臣/儒者) I 4 0 2 3  
 誠之(せい・中井) → 整庵(しゅうあん・中井なかい、心学者) 2 1 4 0  
 誠之(せい・山高) → 信篤(のぶあつ・山高やまたか、藩士/兵法) 3 5 8 9  
 誠之(せい・古屋/慶徳) → 誠之(のぶゆき・慶徳/古屋/中川、神職) D 3 5 6 4  
 誠之(せい・長谷川) → 杏所(きょうしょ・長谷川はせがわ、医者) O 1 6 0 2  
 誠之(せい・小野寺) → 慵斎(ようさい・小野寺おのでら、兵法家) 4 7 9 6  
 誠之(せい・永井) → 隠求(いんきゅう・永井ながい、儒者) I 1 1 4 7  
 誠之(せい・加藤) → 均斎(きんさい・加藤かとう、暦算家) Q 1 6 9 7  
 誠之(せい・岸) → 光(ひかる・頭つむりの、町代/絵師/狂歌) 3 7 0 1  
 誠之(せい・服部) → 素堂(そどう・服部はつとり、農業/儒/教育) K 2 5 2 5  
 盛之(せい・柴村) → 盛之(もりゆき・柴村しばむら、和算家) G 4 4 7 2  
 盛之(せい・稲垣) → 盛之(もりゆき・稲垣いながき、歌人) G 4 4 7 4  
 盛之(せい・草薙) → 盛之(もりゆき・草薙/橘、兵法家) G 4 4 7 5  
 盛之(せい・黒川) → 盛之(もりゆき・黒川くろかわ/藤原、歌人) I 4 4 8 5  
 盛之(せい・高橋) → 盛之(もりゆき・高橋たかはし、庄屋/歌人) K 4 4 4 1  
 盛至(せい・足立) → 梅景(ばいけい・足立あだち、医/語学教師) B 3 6 0 2  
 政子(せい・従三位:隱名、菊葉集入) → 後崇光院(ごすこういん、貞成さだふさ親王) 1 9 3 4  
 政子(せい・井上) → 政子(まさこ・井上いのうえ/菅、商家妻/歌人) N 4 0 3 5  
 政之(せい・丹下) → 政之(まさゆき・丹下たんげ、歌人) Q 4 0 8 6  
 政氏(せい・足利) → 政氏(まさうじ・足利、古河公方、連歌) B 4 0 3 1  
 政嗣(せい・二条) → 政嗣(まさつぐ・二条にじょう/藤原、関白) D 4 0 8 3  
 正之(せい)訓読はすべて → 正之(まさゆき)  
 正子(せい・三浦、男性) → 正子(まさつぐ・三浦/朝比奈あさいな、幕臣) D 4 0 9 3  
 正子(せい・矢部) → 正子(まさこ・矢部やべ、歌人/書) C 4 0 4 6  
 正氏(政氏せい・里村) → 正氏(政氏まさうじ・里村さとむら、武道家) B 4 0 3 2  
 正巳(せい・萩原) → 正巳(まさみ・萩原はぎわら、書家/歌) H 4 0 3 5  
 正枝(せい・林田) → 正枝(まさえ・林田はやしだ、歌人) M 4 0 5 0  
 正視(せいし→まさみ・山岡) → 静山(せいざん・山岡やまおか、旗本/槍術家) N 2 4 8 5  
 正師(せい・広田) → 清魚(きよな・広田ひろた/度会/宇治、神職) V 1 6 0 9  
 正謨(せいし→まさあと・竹腰) → 正美(まさよし・竹腰たけのこし、藩主/詩歌) I 4 0 6 8  
 省子(せい・徳川/一橋/一条) → 美賀子(みかこ・徳川/一条/今出川、將軍室/歌人) J 4 1 8 6  
 西市(せい・跡見) → 重敬(しげよし・跡見あとみ、国学者) N 2 1 1 9

I2456 盛治(せいじ) ? - ? 室町期歌人;1457武家歌合参(正徹・心敬らと)3首入  
 [風さむき山沢水の秋さればくるる田のものは鳴のなく声](武家歌合;九番左10)

B2488 正次(せいじ) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」2句入、  
 1691不角「二葉之松」入(474)、[見にや来んしゃくやくそくの花の友](犬子集;648)

- B2489 **成次**(せいじ・飯田いだ) ? - ? 江前期京の俳人:1645立圃「花月千句」入、  
1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、  
[谷々は滝也富士の雪なだれ](手鑑)
- B2490 **斎治**(さいじ/さいじ・壕越ほりこし)?- ? 歌舞伎作者:1778治助「伊達競阿国戯場」番付、  
並木斎治と同一? → 斎治(才二さいじ・並木、大阪歌舞伎作者) G 2 0 7 1  
齊時(せいじ・北条) → 齊時(としとき・北条/平、武将/歌人) N 3 1 0 0  
正次(せいじ)訓読はすべて → 正次(まさつぐ)  
正字(せいじ/まさたか・岩波/高野/河合) → 曾良(そら・河合/岩波、俳人) 2 5 3 0  
正辞(せいじ・清宮/木村) → 正辞(まさこと・木村/清宮、国学/万葉研究) C 4 0 5 0  
正治(せいじ/まさはる?・稲生) → 恒軒(こうけん・稲生いおう、医者/漢学) I 1 9 5 3  
正治(せいじ・杉田) → 正治(まさはる・杉田すぎた、俳人) G 4 0 4 1  
正治(せいじ・伊地知) → 正治(まさはる・伊地知いち、藩士/兵学) G 4 0 4 5  
正治(せいじ・刀禰) → 正治(まさはる・刀禰とね、荒木田、神職) G 4 0 4 6  
正治(せいじ・稲見) → 正治(まさはる・稲見いなみ、製造業/歌人) N 4 0 7 5  
正治(せいじ・宮沢) → 正治(まさはる・宮沢みやざわ/橘、神職/国学) T 4 0 0 0  
政二(せいじ・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木、藩士/俳人) C 4 0 6 4  
政司(せいじ・川越) → 重熙(しげひろ・川越かわごえ、神職/国学) O 2 1 1 2  
政司(政治せいじ・熊谷) → 直清(なおきよ・熊谷くまがい/平、神職/国学) L 3 2 9 5  
政司(せいじ・中山) → 吉景(吉影よしかげ・中山なかやま、国学者) O 4 7 2 5  
政時(せいじ・柴田) → 政時(まさとき・柴田しばた、神職) Q 4 0 1 4  
政次(せいじ・桜井) → 政次(まさつぐ・桜井さくらい、地誌家) D 4 0 9 0  
政治(せいじ・川喜田) → 政治(まさはる・川喜田かわきた、商家/国学) P 4 0 0 2  
政治(せいじ・坂井) → 政治(まさはる・坂井さかい/藤原、歌人) M 4 0 6 5  
政児(せいじ・肥田) → 為秋(ためあき・肥田ひだ、医者/神職) Z 2 6 1 8  
省二(せいじ・仁木) → 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7  
省治(せいじ・堀) → 友直(ともなお・堀ほり/新田、藩士/儒者) Q 3 1 0 4  
晟時(せいじ・松井) → 晟時(あきとき・松井まつい、藩士/剣術) D 1 0 6 1  
静次(せいじ・曾我) → 簡堂(かんどう、曾我そが、儒者) R 1 5 5 7  
清次(せいじ・菱田) → 毅斎(きさい・菱田ひしだ、藩士/儒者) I 1 6 6 3  
清次(靖爾せいじ・新保) → 正与(まさとも・新保しんぼう/朝妻、国学/神職) Q 4 0 2 9  
清治(せいじ・伊林) → 礼初(ひろもと・伊林いばやし/橘、藩士/歌) H 3 7 5 1  
清治(せいじ・箱石) → 清左衛門(せいざえもん・箱石はこいし、藩士/砲術) I 2 4 3 9  
清治(清司せいじ・佐藤) → 信敏(のぶとし・佐藤ぼさとう、国学者) I 3 5 5 4  
清時(せいじ・北条/平) → 清時(きよとき・北条/大仏/平、武将/歌) D 1 6 4 0  
盛時(せいじ・門崎) → 盛時(もりとき・門崎かんだき、兵学者) F 4 4 8 9  
盛時(せいじ・石井) → 盛時(もりとき・石井いしい、幕臣、記録) F 4 4 9 1  
盛治(せいじ・矢田部) → 盛治(もりはる・矢田部やたべ/橘爪、神職/用水路建設) L 4 4 7 4  
盛次(せいじ・丸田) → 盛次(もりつぐ・丸田まるた、藩士/砲術家) F 4 4 7 4  
盛次(せいじ・竹村) → 盛次(もりつぐ・竹村たけむら、国学者) K 4 4 4 6  
盛次(せいじ・矢田部) → 盛次(もりつぐ・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 5  
清耳庵(せいじあん) → 宣祥(のりよし・長谷川はせがわ、医者) J 3 5 5 7  
清次右衛門(せいじえもん・田村) → 三省(きんせい・田村/酒井、藩士/地質学) M 2 0 4 6  
正治右衛門(せいじえもん・中井) → 武和(たけかず・中井なかい、商家/歌人) Y 2 6 5 0  
青柴垣主人(せいしえんしゅじん) → 巖戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
静思翁(せいしおう、静思亭) → 滄洲(そうしゅう・赤松/大川/舟曳、儒者) B 2 5 8 2
- I2457 **成式**(せいしき・野間のみ、正甫男) 1775-1850 76 母;野間成育女/幕医野間成因の養子;1794家督相続、  
幕府医員/1809法印/29法眼/38致仕、1800「河豚誌」24「疹家食物考」、「茜事鎖録」「産科精義」、  
[成式(;名)の字/通称/号]字;言川、通称;英三郎/玄琢、号;樵溪/竹翁/  
正式(せいしき) → 正式(まさのり・池田いけだ、俳人/狂歌) F 4 0 9 4

正式(せいしき・井上) → 平五郎(へいごろう・井上/橘屋、茶人) 2 7 3 0  
 正識(せいしき・阿部) → 正識(まさつね・阿部あべ、藩主/詩人) E 4 0 1 1  
 正識(せいしき・天野) → 正識(まさつね・天野あまの、幕臣) E 4 0 1 7  
 政識(せいしき・千村) → 景村(かげむら・千村ちむら、歌人) L 1 5 3 7  
 成式(せいしき・高杉) → 寿山(じゅざん・佐々木/高杉、医/藩儒) Y 2 1 8 4  
 清式部(せいしきぶ) → 絵式部(えのしきぶ/えしきぶ、女房/歌人) C 1 3 2 5  
 静思軒(せいしけん) → 蓮阿(れんあ/れんな; 法諱、真宗大谷派僧/歌) B 5 1 4 8

B2491 正志斎(せいしさい・会沢あいざわ、名; 安やすし、恭敬[与平]男) 1782-1863<sup>82</sup> 常陸久慈郡諸沢村の儒者;  
 1791(10歳)藤田幽谷門、水戸藩士、彰考館の写字生/1804諸公子侍読; 藩主徳川斉昭の師、  
 1826彰考館総裁/藩校弘道館を創設; 督学/頭取、藤田東湖と共に尊攘思想を鼓吹、  
 「会沢正志建白書」「正志斎詩稿」「正志斎文稿」「新論」「言志編」「迪彝ていひ篇」「息邪漫録」著、  
 「両眼考」「三眼考」「伯民先生詩集」「欣賞先生文集」、1846「風簷集」63「閉聖漫録」外著多数、  
 [怯者はまづ走りて陣を乱し、勇者は徒いたづらに死して勇を傷そこなふ](新論)

[正志斎(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;市五郎/安吉、字;伯民、通称;恒蔵、  
 別号;憩斎/欣賞斎

生志斎(せいしさい) → 長収(ちやうしゆう・有賀あるが、歌学者) I 2 8 7 3  
 静俟斎(せいしさい) → 鳩巢(きゆうそう・室、幕臣/儒者) 1 6 2 8  
 青侍従(せいじじゆう/あおじじゆう) → 邦正(くにまさ・源みなもと、廷臣/歌人) B 1 7 6 2

B2492 清七(初世せいしち・鶴沢、のち3世鶴沢友次郎) ?-1749 文楽義太夫節の三絃演奏者

B2493 清七(2世せいしち・鶴沢、勝次郎) ?-1840 義太夫節・三絃/大阪の生; 初世清七門、  
 1829二世清七を襲名、3世豊竹巴太夫の相三味線を務める、通称; [笹屋清七]

B2494 清七(3世せいしち・鶴沢、泰吉) ?-1856 義太夫節・三絃; 2世清七門、  
 初め初世鶴沢勝右衛門を名乗る、1842三世清七を襲名、3世竹本長門太夫の相三味線

B2463 清七(4世せいしち・鶴沢、佐吉) ?-1887? 義太夫節・三絃/大阪の生; 2世花沢伊左右衛門門、  
 のち3世清七門、1829大坂御霊社内芝居[本朝廿四孝]初舞台、  
 1836稲荷文楽芝居で鶴屋文駄を名乗る/1857四世清七襲名; 55門人3世勝右衛門に譲渡、  
 後進の指導に専念、通称; [ざこば鶴屋]

清七(せいしち・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者; 経史学) E 3 5 4 0

清七(せいしち・河内屋) → 山水(さんすい・一花堂、俄芸) F 2 0 9 4

清七(せいしち・虻川) → 雪仙(せつせん・虻川あぶかわ、俳人) L 2 4 1 4

清七(せいしち・小佐野) → 豊(ゆたか・小佐野おさの、商家/歌人) G 4 6 0 8

政七(せいしち・深井) → 志道軒(しどうけん・一無堂、講釈師) F 2 1 2 7

清七郎(せいしちろう・小牧) → 徳方(のりかた・小牧、儒者; 経史学) E 3 5 4 0

清七郎(せいしちろう・稲員) → 安則(やすのり・稲員いなかず、大庄屋; 土木事業) C 4 5 6 3

清七郎(せいしちろう・市浦) → 毅斎(きさい・市浦いちうら、藩士/儒者) I 1 6 5 1

清七郎(せいしちろう・三田) → 義勝(よしかつ・三田さんだ、藩儒/詩文) C 4 7 8 6

清七郎(せいしちろう・綿屋) → 銭丸(ぜにまる・一文舎いちもんしゃ、狂歌) L 2 4 4 0

清七郎(せいしちろう・小川) → 長秋(ながあき・小川えおがわ、商家/検事) L 3 2 3 9

正質(せいしつ・武元) → 登々庵(とうとうあん・武元たけもと、儒者/書) O 3 1 5 2

正室(せいしつ・深田) → 明峯(めいほう・深田ふかだ、藩儒者) 4 3 3 5

正室(せいしつ・深田) → 慎斎(しんさい・深田/永原、明峯の養子/藩儒) O 2 2 3 8

成質(せいしつ・半井) → 成質(なりかた・半井なからい、藩医/歌人) O 3 2 1 5

誠室(せいしつ・渋沢) → 宗助(そうすけ・渋沢しぶさわ、藍玉業/養蚕) I 2 5 1 5

清室(せいしつ・片山) → 豊樹(とよき・片山かたやま、神職/国学) U 3 1 7 5

正実(せいじつ/まさざね・伊藤) → 忠兵衛(ちゆうべえ・伊藤、家老/弓術) G 2 8 8 3

正実(せいじつ・高野) → 正実(まさざね・高野たかの、藩士/歌人) Q 4 0 6 8

正実(せいじつ/まさざね・蓮田) → 市五郎(いちごろう・蓮田はすだ、勤王派) G 1 1 1 7

正実(せいじつ/まさざね・林/北向) → 雲竹(うんちく・北向きたむき/野田、書家) D 1 2 9 5

正実(せいじつ・戸沢) → 正実(まさざね・戸沢とざわ/平、藩主) R 4 0 0 2

性実(せいじつ・法諱) → 性実(しょうじつ・法諱、法師/歌人) D 2 2 5 2

成実(せいじつ・荒木田) → 成実(なりざね・荒木田あらかだ、神職/歌) P 3 2 5 6  
 成実(せいじつ・伊達) → 成実(しげざね・伊達だて、武将/記録) R 2 1 0 5  
 成実(せいじつ;法諱) → 成実(じょうじつ;法諱・空外、真言僧) J 2 2 4 6  
 成実(せいじつ・羽黒) → 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野、儒者) B 4 7 3 5  
 政実(せいじつ/まさざね・小倉) → 三省(さんせい・小倉、藩士/儒者;南学) 2 0 5 3  
 政実(せいじつ/まさざね・兼松/山鹿) → 高恒(たかつね・山鹿/兼松/岡/津軽、藩士/兵学) M 2 6 2 9  
 青実(せいじつ・取田) → 青実(はるざね・取田とりた/大久保、国学) K 3 6 4 8  
 盛実(せいじつ・山田) → 盛実(もりざね・山田やまだ、神職/歌人) L 4 4 8 1  
 誠実(せいじつ・佐藤) → 誠実(のぶざね・佐藤さとう、古事類苑) I 3 5 5 7  
 誠実庵(せいじつあん) → 恵見(えけん;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 8 0  
 静室主人(せいしつしゅじん) → 内広(うちひろ・小池、国学/神道) D 1 2 1 1  
 静思亭(せいしつてい、静思翁) → 滄洲(そうしゅう・赤松、儒者) B 2 5 8 2  
 正子内親王(せいしなないしんのう) → 正子内親王(しょうしなないしんのう、前斎院) 2 1 8 5  
 盛子内親王(せいしなないしんのう) → 盛子内親王(もりこしなないしんのう、村上皇女) F 4 4 3 9

B2495 正舎(せいしゃ・幸田こうだ) ? - ? 播磨姫路の梅盛系俳人、狂歌を詠む、  
 1676頃「下主智恵げすのちえ」編、狂歌「鼻笛集」入(5人の作者の1)、1666行風「古今夷曲集」1首入、  
 [真夜中に火事と呼ばはる其の声の入るは寝耳に水よ手桶よ](鼻笛/諺;寝耳に水の入)  
 [藤川をやがて平家の落部者は寝耳に入りし水鳥の音](古今夷曲)

正舎(せいしゃ・鎌田) → 広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0  
 正舎(せいしゃ・椿) → 正舎(まさや・椿つばき、庄屋/国学) Q 4 0 9 6  
 政舎(せいしゃ・渡) → 政舎(まさいえ・渡わたり/平/鳥居、商家/国学) T 4 0 8 7  
 静舎(せいしゃ・しずのや) → 宇万伎(美樹うまさき・加藤、幕臣/国学) 1 2 8 5  
 静舎(せいしゃ・しずのや) → 真国(まくに・石橋、国学者) 4 0 6 8  
 静舎(せいしゃ・しずのや) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学/随筆) C 1 1 0  
 星舎(せいしゃ・ほしのや) → 景之(かげゆき・恵川えがわ、藩士/和算) L 1 5 4 4  
 醒社(せいしゃ・土肥) → 経平(つねひら・土肥/平、藩士/故実家) D 2 9 5 1  
 西舎翁(せいしゃおう) → 淖翁(どうおう・安藤あんどう、医者/教育) U 3 1 0 4  
 清寂(せいじやく;法名) → 資衡(すけひら・柳原/藤原、廷臣/歌人) C 2 3 9 2  
 性寂(せいじやく;字) → 如海(にょかい;法諱・性寂、真言僧) F 3 3 8 5  
 西寂(せいじやく;法名) → 実光(さねみつ・藤原/日野、廷臣/歌人) D 2 0 6 5  
 西寂(せいじやく・横田) → 巖正(いづまさ・横田よこた/上野、藩士/歌) K 1 1 7 7  
 西若(せいじやく;称) → 永成(えいじょう・ようじょう、僧/歌人) 1 3 3 3  
 青蛇蟠雲(せいじやくばんうん) → 正蔭(おおかげ・中臣、歌人/狂歌) C 1 4 7 5  
 正主(せいしゅ・和田) → 正主(まさぬし・和田わだ/橘、商家/国学) L 4 0 8 7  
 正種(せいしゅ・池田) → 正種(まさたね・池田/藤原、豪族/連歌) D 4 0 5 5  
 正種(せいしゅ・北川) → 正種(まさたね・北川きたがわ、藩士/歌人) L 4 0 6 2  
 正種(せいしゅ) → 正種(しょうしゅ、俳人) S 2 2 8 6  
 正守(せいしゅ・庄田) → 正守(まさもり・庄田しょうだ、藩士/歌人) Q 4 0 2 1  
 正守(せいしゅ・横山) → 正守(まさもり・横山よこやま、幕臣/歌) L 4 0 6 1  
 清酒(せいしゅ・金井/岩下) → 花足(かさく・岩下、藩士/弓術/俳人) M 1 5 8 2  
 清種(せいしゅ・鳥居) → 清種(きよたね・鳥居/徳田、絵師) P 1 6 8 6  
 清主(せいしゅ・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ、神職) Q 1 6 0 8  
 成種(せいしゅ・大江) → 成種(しげたね/しげかず・大江、二条家連歌) C 2 1 3 4  
 成種(せいしゅ/しげたね・寺村) → 成範(しげのり・寺村、藩士/国学) S 2 1 1 9  
 政種(せいしゅ/まさたね・荏戸) → 太華(たいか・荏戸のぞき、藩士/藩再建) B 2 6 0 7  
 聖守(せいしゅ;法諱) → 聖守(しょうしゅ;法諱、真言僧) S 2 2 8 5

B2496 静寿(せいじゅ・川崎かわさき) ? - ? 江前期大阪俳人;貞徳門、1638西武「鷹筑波集」入、  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [五月雨は手飼てかひの虎の引く緒をかな](手鑑/長いことをいう、

謡曲[遊行柳];手飼の虎の引綱も長き思ひにならの葉の)

- I2459 **清珠**(せいじゆ;法諱) 1751 - 1824<sup>74</sup> 長州の真宗本願寺派僧、  
上京し修学/宗乗;道念門/外典;南溟・大麓・渭陽・楽軒門、長州厚狭の祐念寺8世住職、  
堂宇修繕・門徒教化に尽力/1807息子清因に住職譲渡/各地に布教、1791「神仏一源記」著、  
「鎮辨非削」「三帖和讃録」「成就文録」「披雲録」「正信偈録」「神道正義篇」「鎮弁裂網篇」外多、  
[清珠(;法諱)の号] 隰州/東洋/楽哉
- I2458 **清壽**(せいじゆ;号、清寿尼/盛寿尼)?-? 江後期江戸浅草の俳人、冷泉派歌人、  
新見内匠頭の祖母、富山藩主前田利保(1800-59)とその母稲(芳心院)などの師、  
1821「草木歌合」判、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[露ふくむ花のあたりは今しばしよきて吹かなん春の朝風](大江戸倭歌;春254/朝花)
- I2460 **青樹**(せいじゆ;号・上山うえやま、名;守古)?-? 江後期文久1861-64頃;陸中盛岡藩士、  
藩主に従い日光・京に赴く;日記多数、「鶯宿扈從日記」「日光拝廟扈從日記」「八戸御使者記」、  
「校合雑記」「新古実事雑集」著
- 正樹(せいじゆ)すべて → 正樹(まさき)
- 正受(せいじゆ/しょうじゆ;法諱) → 聞号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1
- 正寿(せいじゆ・鎌井) → 松石(しょうせき・鎌井かまい、医者/本草家) K 2 2 3 2
- 正寿(せいじゆ・草間) → 宗仙(そうせん・草間くさま、医者) I 2 5 2 8
- 正寿(せいじゆ・神戸) → 正壽(まさひさ・神戸かんべ、神職/国学) P 4 0 1 1
- 正寿(せいじゆ・佐藤) → 正壽(まさひさ・佐藤さとう/藤原、神職/国学) P 4 0 8 7
- 性寿(せいじゆ・松本) → 清(きよし・松本まつもと/源、医者/歌) V 1 6 2 8
- 世寿(せいじゆ・鈴木) → 百年(ひやくねん・鈴木すずき、絵師) E 3 7 7 3
- 世寿(せいじゆ→つくひさ・秦) → 松洲(しょうしゅう・秦はた、藩士/儒者) J 2 2 5 4
- 成樹(せいじゆ・寺村) → 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9
- 成樹(せいじゆ・吉田) → 穠(ひつじ・吉田よしだ/待井、歌人) J 3 7 9 0
- 政樹(せいじゆ・内藤) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1
- 政樹(せいじゆ・西山) → 政樹(まさき・西山/中里、国学者/歌) L 4 0 8 1
- 政壽(せいじゆ・久木) → 政壽(まさひさ・久木ひさき、藩士/国学/歌) G 4 0 5 9
- 政壽(せいじゆ・竹川) → 政壽(まさほぎ・竹川たけがわ、商家/国学者) H 4 0 3 1
- 政壽(せいじゆ・佐分) → 政壽(まさひさ・佐分さぶり/佐分利、藩士/歌) G 4 0 6 3
- 政壽(せいじゆ・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2
- 成壽(せいじゆ→なりひさ/なりのぶ) → 御杖(みつえ・富士谷、国学/歌) 4 1 2 3
- 清寿(せいじゆ;法諱) → 清寿(しょうじゆ;法諱、真言僧) J 2 2 4 9
- 清寿(せいじゆ;法諱) → 清寿(しょうじゆ;法諱、僧/歌人) S 2 2 8 8
- 清寿(せいじゆ、清寿尼) → 扇女(おうぎじよ、せん、膳所蕉門俳人) 1 4 4 5
- 清寿(せいじゆ;名) → 了清(りょうせい;法諱・中川、真言僧/歌) M 4 9 4 1
- 清寿(せいじゆ・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5
- 清樹(せいじゆ→きよき・橘) → 清樹(きよき・橘たちばな、廷臣/歌人) C 1 6 9 4
- 清樹(せいじゆ→きよき・宮道/宮路) → 潔興(きよき・宮道/宮路、廷臣/歌) C 1 6 9 5
- 清樹(せいじゆ・山本) → 清樹(きよしげ・山本やまもと、歌人) V 2 6 5 8
- 清樹(せいじゆ・山田) → 直温(なおほる・山田、儒者) C 3 2 1 6
- 盛受(せいじゆ・堤) → 盛受(もりうけ・堤つみ/福島、神職/国学) K 4 4 6 3
- 盛樹(せいじゆ・杉浦) → 盛樹(しげき・杉浦すぎうら、陪臣/歌人) Z 2 1 0 1
- 躋寿庵(せいじゆあん) → 丈白(じょうはく・岡村おかむら丈山、儒/詩) B 2 2 2 4
- 静寿院(せいじゆいん) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2
- B2497 **正秋**(せいじゅう) ? - ? 伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
[炭焼のなほ色黒し雪の山](犬子集;六1418/雪に対比し一層黒い)
- B2498 **済洲**(せいじゅう・山根やまね、名;通之/道晋、山根小左衛門清蔭男) 1726-55 母方叔父山根華陽の養子、  
萩藩士/藩校明倫館に修学/古文辞学;山県周南門、都講、養父に先立ち没、  
「華陽文集附録」編、「済洲遺稿」、  
[済洲(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;道之進、字;世禄、通称;清禄、別号;竜山



- I2461 **政周**(せいしゅう・土屋つちや) ? - ? 江中期禅学/臨濟僧:白隠慧鶴[1685-1768]門、  
印可を得る、「鼠荊棘」著
- C2400 **正脩**(正修せいしゅう・加藤かとう)?-? 江中期;1793「武徳成業」63巻編
- I2462 **青洲**(せいしゅう・華岡はなおか、名;震ふるう、直道の長男)1760-1835 紀伊那賀郡名手荘西野山村の外科医、  
華岡流の祖、世界初の全身麻酔による乳癌の手術に成功、  
1782上京;まず吉益南涯門;古医方修学/大和見水門;カスバル流外科手術を修学、  
さらに見水の師伊良子道牛の伊良子流外科を修学、長く京住中に医学書・医療器具収集、  
1785帰郷;父直道の開業医を継嗣/麻酔薬「通仙散」を開発;実母於継・妻加恵の協力、  
1802紀州藩主徳川治宝に謁;士分帯刀を許可される、  
1804大和五条の女性に通仙散による乳癌の手術、1813小普請医師格/33奥医師格、  
「青洲医談」著、  
[青洲(;号)の字/通称/別号]字;伯行、通称;雲平、別号;随賢(祖父尚政より続く号)、  
法号;天徳院
- I2463 **西洲**(せいしゅう・下元しもと、名;真清)1765-1830<sup>66</sup> 土佐高岡郡下分村の郷土/書家:高島東陵門、  
須崎村で書を教授;門人多数;鹿持雅澄らの師、「広採雑記」著、  
没後門人達により須崎西夷堂に筆塚が建立、  
[西洲(;号)の通称] 良助
- I2464 **静修**(せいしゅう・沢田さわだ、名;義画、伊尾喜いおき鶴山2男)1814-67<sup>54</sup> 伊予吉田藩の儒者;藩儒の父門、  
沢田家の養嗣子、宇和島藩儒金子恥堂門/江戸安積良斎門/昌平黌で修学;1850昌平黌儒官、  
弘化1644-48頃吉田藩主伊達宗孝の招きで吉田藩校時観堂教官、能書家、  
1852「鶴山遺訓」編、「沢田一詩文稿」著、  
[静修(;号)の通称] 一・一三九いっさく/一作
- I2465 **静修**(せいしゅう・市島いちじま、名;正俊、正光男)1822-45<sup>早世24</sup> 越後下条の商家、書・詩を嗜む、  
「静修館遺稿」著  
[静修(;号)の字/通称]字;士杰けつ、通称;熊太郎
- B2499 **星洲**(せいしゅう・松浦まつら、名;国祐くにすけ、東鶏とうけい男)?-? 江後期大阪松屋町の星占家;父門、  
瓦屋町住/のち京三条室町西に移住/相宅を業とする、1801「家相図説大全」校訂、  
1801「家相図説大全」校/02「辨惑書口訣」07「方角即考」著、「星洲問辨録」「都辺花葉」著、  
「洛陽十二社靈驗記」「風水一家言」「吉野山水記」「和歌独草」「五行真宝」著、  
1831「風水園筆草」著、琴鶴さんかく・茂斎の兄弟、  
[星洲(;号)の字/通称/別号]字;子徳、通称;肥後掾、橘国祐、  
別号;風水園/泉隣/泉隣居/応機庵主
- I2467 **青洲**(せいしゅう・浅香あさか、名;直光/通称;伝一郎、伝四郎男)?-? 江戸後期幕臣;1855御小姓組頭、  
将軍上洛に随い京都警備に当る/御目付/1865清水小普請組支配;67御役御免、  
本草家;江戸の大名旗本らの博物同好会[赭鞭会じゅべんかい]の一員;植物研究、  
前田利保・佐橋節翁・田丸六蔵と交流、歌人;小林歌城門、1838(天保9)「升麻図説」著
- 正秋(せいしゅう・白田) → 正秋(まさあき・白田うすだ/鷺見、国学者) N 4 0 9 6  
 正秋(せいしゅう・菊沢) → 正秋(まさあき・菊沢だきざわ、国学者) P 4 0 2 1  
 正秋(せいしゅう・宮川) → 正秋(まさあき・宮川みやがわ、国学者) S 4 0 9 9  
 正秋(せいしゅう・山本) → 正秋(まさあき・山本やまもと、国学者/歌) T 4 0 5 5  
 正周(せいしゅう・毛利) → 正周(まさかね・毛利もうり/吉井、藩士/華道) T 4 0 1 6  
 正秀(せいしゅう・水田) → 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7  
 正秀(せいしゅう・兵頭) → 正秀(まさひで・兵頭ひょうどう、神職/歌人) S 4 0 1 1  
 正秀(せいしゅう・波多野) → 正秀(まさひで・波多野はたの、神職) G 4 0 6 7  
 正秀(せいしゅう・岩脇) → 正秀(まさひで・岩脇いわわき、藩士/軍学/歌) N 4 0 8 7  
 正修(正脩せいしゅう/まさなお?・堀) → 南湖(なんこ・堀ほり、儒/医者) I 3 2 9 1  
 正修(せいしゅう/まさなお?・小原) → 梅坡(ばいは・小原おぼら、儒者) B 3 6 9 4  
 正修(せいしゅう・山田) → 正修(まさなが・山田、医者/儒者) F 4 0 2 9  
 正修(せいしゅう・加藤) → 正修(まさのぶ・加藤かとう、藩士) F 4 0 7 1  
 正修(せいしゅう/まさおみ・南条/熊沢) → 八郎(はちろう・南条、藩士/記録) E 3 6 9

正修(せいしゅう/まさなお?・河合)→ 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6  
 正修(せいしゅう・笠原/麻野)→ 林曹(りんそう・麻野あさの/笠原、儒者) K 4 9 6 3  
 正修(せいしゅう・吉松) → 文山(ぶんざん・吉松よしまつ、藩儒) F 3 8 4 1  
 正修(せいしゅう・佐野) → 正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0  
 正修(せいしゅう・小幡) → 正修(まさなが・小幡おばた/藤原、幕臣/歌) M 4 0 1 7  
 正修(せいしゅう・井手) → 真棹(まさお・井手いで/西村、藩士、歌人) N 4 0 3 6  
 正修(せいしゅう・大友) → 正文(まさふみ・大友おおとも、医者/歌人) O 4 0 3 6  
 正修(せいしゅう・大林) → 正修(まさなが・大林おおばやし/源、藩士/国学) O 4 0 4 1  
 正修(せいしゅう・太田) → 正直(まさなお・太田おおた、藩家老/歌人) O 4 0 4 9  
 正修(せいしゅう・竹鼻) → 正修(まさなが・竹鼻たけはな、藩家老/歌人) P 4 0 4 9  
 正修(せいしゅう・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6  
 正修(せいしゅう・倉知) → 正修(まさなが・倉知くらち、国学者) P 4 0 4 7  
 正脩(正修せいしゅう・熊沢/南条)→ 正脩(まさなお・南条なんじょう/熊沢、藩士/歌) E 4 0 9 8  
 正脩(せいしゅう・菊地) → 正脩(まさなお・菊地きくち、歌人) M 4 0 3 3  
 正緝(せいしゅう/まさつぐ・中尾)→ 竹厓(ちくかい・中尾なおお、役吏/儒者) C 2 8 8 0  
 西洲(せいしゅう・川口) → 西洲(さいじゅう・川口かわぐち、儒者/詩人) G 2 0 7 3  
 政秋(せいしゅう・豊原) → 政秋(まさあき・豊原とよはら、楽人;笙/歌) 4 0 8 8  
 政秀(せいしゅう・竹川) → 政秀(まさひで・竹川たけがわ、歌人) G 4 0 7 5  
 政秀(せいしゅう・児島) → 政秀(まさひで・児島こじま/三宅、商家/国学) P 4 0 6 5  
 政周(せいしゅう/まさちか・中村/浅野)→ 栗斎(りつさい・浅野/中村、藩士/儒者) B 4 9 9 6  
 生洲(せいしゅう・加藤) → 洞庭(どうてい・加藤かとう、医者) G 3 1 6 3  
 盛州(せいしゅう・森) → 盛州(もりくに・森もり/源、幕臣/歌人) I 4 4 7 4  
 盛秀(せいしゅう・野村) → 盛秀(もりひで・野村/野元、藩士/日記) G 4 4 3 3  
 清秋(せいしゅう・本多、清秋子)→ 忠永(ただなが・本多、藩主/歌学・俳) Q 2 6 3 3  
 清秋(せいしゅう・豊原) → 清秋(きよあき・豊原、楽人/笙) N 1 6 0 1  
 清秋(せいしゅう・石川) → 慎斎(しんさい・石川、儒者/詩人) O 2 2 4 7  
 清秋(せいしゅう・田代) → 清秋(きよあき・田代たしろ、神職/歌人) U 1 6 5 8  
 清修(せいしゅう・大槻) → 如電(じよでん・によでん・大槻おおつき、漢学者) U 2 2 7 2  
 清洲(せいしゅう・戸田) → 忠敏(ただたか・戸田、藩政改革/歌) F 2 6 2 4  
 清洲(せいしゅう・細川) → 広世(ひろよ・細川ほそかわ、医者/書記官) H 3 7 6 9  
 清秀(せいしゅう・松本/竹原)→ 春泉斎(しゅんせんさい・竹原たけはら、絵師) K 2 1 1 7  
 清秀(せいしゅう・太田) → 清秀(きよひで・太田おおた、国学者) T 1 6 8 1  
 清就(せいしゅう・桑原) → 清就(きよなり・桑原くわばら、神職/国学) U 1 6 3 0  
 晴秀(せいしゅう・勸修寺) → 晴右(はれみぎ・勸修寺かじゅうじ、廷臣) H 3 6 1 1  
 性脩(せいしゅう/しょうしゅう;法名)→ 公種(きんたね・小倉おぐら、廷臣/歌人) E 1 6 3 0  
 静修(せいしゅう・姫井) → 桃源(とうげん・姫井ひめい、儒者) D 3 1 4 7  
 静修(せいしゅう・豊島) → 洞斎(とうさい・豊島てしま/としま、医/儒者) E 3 1 3 5  
 静修(せいしゅう・内藤) → 昌盈(まさみつ・内藤ないとう、藩士/随筆) H 4 0 6 6  
 静修(せいしゅう・八木) → 静修(しずさね・八木/鐔木/橘、国学者) U 2 1 0 1  
 静脩(せいしゅう・南) → 恵山(けいざん・南みなみ、儒者) F 1 8 7 0  
 斉脩(斉修せいしゅう・徳川/松平)→ 斉脩(なりのぶ・徳川、藩主/雅楽/詩) H 3 2 9 6

C2402 正重(せいじゅう) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」2句入、  
 [四国より来る春なれや申の年](犬子集;一29/四国猿は日本猿の異称)

D2462 正重(せいじゅう・古妻こづま) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第五青梅脇句入、犬子集の正重と同一?、  
 [やまほとゝぎす弥敷めづらしき客](生玉万句;青梅脇句、  
 発句栄治;青梅や鶯ならで取り肴)

C2403 政重(せいじゅう) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
 [めぐり来る年はひつじの車哉](犬子集;一24/未(羊)の引く車は長閑にめぐる)

C2404 生重(せいじゅう) ? - 1704 浪華の俳優、文人、1704追善集「梓」(:婿如舛編)

- C2407 **盛住**(せいじゅう・鷺傘亭) ? - ? 江中期京の俳人、1772凡董「其雪影そのゆきかげ」1句入、  
 [としの根も洗ふて流せ芹根水せりぬみず] (其雪影; 卷尾418/根元の水で芹と旧年も洗流す)
- 正重(せいじゅう・高島) → 正重(まさしげ・高島、軍記) C 4 0 7 0  
 正重(せいじゅう・川北/津田) → 正重(まさしげ・津田つた/川北、藩士) C 4 0 7 4  
 正重(せいじゅう・山本) → 正重(まさしげ・山本やまと、歌人) C 4 0 7 2  
 正重(せいじゅう・山田) → 正重(まさしげ・山田やまだ、和算家) C 4 0 7 3  
 正重(せいじゅう・武重) → 正重(まさしげ・武重たけしげ/児玉、国学者) L 4 0 8 8  
 正重(せいじゅう・菊池) → 正重(まさしげ・菊池さくち/藤原、神職/国学) P 4 0 2 2  
 正重(せいじゅう・清水) → 正重(まさしげ・清水しみず、藩士/歌人) Q 4 0 0 8  
 正従(せいじゅう・横山) → 正従(まさより・横山よこやま、藩家老/記録) L 4 0 3 1  
 正従(せいじゅう・加藤) → 正従(まさより・加藤かとう、正識男) I 4 0 8 4  
 正柔(せいじゅう・加藤) → 正柔(まさなり・加藤かとう、船問屋/国学) O 4 0 6 9  
 成従(せいじゅう・渡辺) → 成従(しげつぐ・渡辺/渡部、藩士/書家) R 2 1 5 1  
 成従(せいじゅう・鈴木/溝口) → 千谷(せんごく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9  
 政重(せいじゅう・小槻) → 政重(まさしげ・小槻おつき/三善、廷臣; 大夫史) U 4 0 2 4  
 政重(せいじゅう・本多) → 政重(まさしげ・本多/倉橋/直江、藩国老) C 4 0 6 9  
 政重(せいじゅう・井上) → 政重(まさしげ・井上、藩主/宗門改役) C 4 0 7 1  
 政重(せいじゅう・桜井) → 政重(まさしげ・桜井さくらい、神道家) C 4 0 7 8  
 政重(せいじゅう・北村) → 政重(まさしげ・北村きたむら、神職/歌人) P 4 0 3 0  
 政従(せいじゅう・北村) → 政従(まさより・北村きたむら、郷士/茶/歌俳) P 4 0 3 1  
 清重(せいじゅう・鳥居) → 清重(初世きよしげ・鳥居とりい、絵師) D 1 6 2 0  
 清重(せいじゅう・星野) → 清重(きよしげ・星野ほしの/新倉、神職/国学) V 1 6 1 4  
 清充(せいじゅう・水島) → 清充(きよみつ・水島みづしま、神職) Q 1 6 3 5  
 清充(せいじゅう・志賀/谷城) → 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 5  
 静什(せいじゅう; 法諱) → 静什(じょうじゅう; 法諱、天台僧) J 2 2 6 1  
 盛充(せいじゅう・福王) → 盛充(もりみつ・福王ふくおう、能楽師) G 4 4 6 3  
 盛重(せいじゅう・吉田) → 盛重(もりしげ・吉田よしだ、商家/歌人) L 4 4 8 6  
 盛従(せいじゅう・荒井) → 盛従(もりつぐ・荒井あらい、藩士/文筆) F 4 4 7 5  
 星聚閣(せいしゅうかく) → 北天(ほくてん: 法諱、真宗本願寺派僧) D 3 9 7 6  
 静修館(せいしゅうかん) → 臥牛(がぎゅう・赤田、儒者/詩人) B 1 5 3 0  
 星聚館(せいしゅうかん) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
 星聚館(せいしゅうかん) → 応震(おうしん・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 5 5  
 星聚館(せいしゅうかん) → 応立(おうりゅう・円山まるやま/源、絵師) C 1 4 7 2  
 静修軒(せいしゅうけん) → 長元(ながもと・黒田、藩主/儒/歌) G 3 2 0 3  
 清秀軒(せいしゅうけん) → 道雲(どううん・池永、書/篆刻) B 3 1 2 7  
 清修居士(せいしゅうこじ) → 高陽(こうよう・中山なかやま、詩人/絵師) C 1 9 0 0  
 静修斎(せいしゅうさい) → 常山(じょうざん・山寺、藩士/儒/兵学) S 2 2 6 2  
 成修処士(せいしゅうしょし) → 延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳人) C 1 3 1 9  
 斉周蔵(せいしゅうそう) → 周蔵(しゅうそう・斉、歌舞伎作者) X 2 1 8 5  
 斉脩室(せいしゅうのしつ・徳川) → 斉脩室(なりのぶのしつ・徳川、文筆) H 3 2 9 7  
 正聚房(せいしゅうぼう) → 僧純(そうじゆん; 法諱、真宗本願寺派僧) B 2 5 9 9  
 正十郎(せいじゅうろう・桃井) → 正村(まさむら・桃井ももい、藩士/歌人) T 4 0 1 9  
 清十郎(せいじゅうろう・伊勢) → 貞衡(さだひら・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 3 6  
 清十郎(せいじゅうろう・桜木) → 闇斎(がんさい・桜木、儒者/垂加神道) Q 1 6 9 8  
 清十郎(せいじゅうろう・窪田) → 松琵琶(しょうひ・窪田/西川、俳人) B 2 2 3 0  
 清十郎(せいじゅうろう・小田切) → 蔡阜(しんぷ・小田切おだぎり、幕臣/俳人) P 2 2 7 0  
 清十郎(せいじゅうろう・奥田) → 三角(さんかく・奥田おくだ、藩士/儒者) E 2 0 1 9

B2473 **政祝**(せいしゆく; 法諱) 1368 - ? 1436存 尾張名古屋の真言宗宝生院僧; 3世任瑜親王門、  
 のち宝生院4世、権少僧都、「弘法大師伝」「隨身鈔」「醍醐問書」「秘蔵宝鑰私記」「御流記」、  
 1434「十住心論鈔」36「新語修行鈔」「四度口受条目」「肝心鈔政祝四度口決」外著多数

- C2405 **正淑**(せいしゆく・山中やまなか)? - ? 漢学:1662山岡元隣句集「身の楽みのらく千句」漢文序  
 成叔(せいしゆく・出雲路) → 定信(さだのぶ・出雲路いずもじ/春原/斎部、神職/国学) L 2 0 8 6  
 靖叔(せいしゆく;道号) → 徳林(とくりん;法諱・靖叔、臨濟僧) L 3 1 5 8  
 清叔(せいしゆく;道号) → 寿泉(じゆせん;法諱・清叔、臨濟僧) I 2 1 8 9  
 正淑(せいしゆく・関/川越) → 衡山(こうざん・川越かわごえ/関、医者) J 1 9 2 7  
 惺叔(せいしゆく・入江) → 東阿(とうあ・入江いりえ、曆算/軍学者) 3 1 7 0  
 世肅(せいしゆく・坪井屋/木村) → 巽斎(そんさい・木村、商家/博物学) E 2 5 8 3  
 盛淑(せいしゆく・小田切) → 盛淑(もりよし・小田切おだぎり、藩士/儒者) G 4 4 9 0  
 静寿斎(せいじゆさい・松平) → 典則(つねのり・松平まつだいら、藩主/歌人) G 2 9 4 0  
 正述(せいじゆつ・佐久間) → 纘(つづき・佐久間さくま、藩士/和算家) 2 9 9 4  
 清述(せいじゆつ・吉沢) → 聴松(ちようしょう・吉沢、詩人) I 2 8 9 7  
 清寿尼(せいじゆに) → 清寿(せいじゆ、俳人/歌人) I 2 4 5 8
- 02494 **清舜**(せいしゆん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 1237刊[檜葉集]入、  
 [山路落葉、  
 ときはなるこけは風にぞもみぢける木の葉はふきしく山のした道](檜葉;雑882)  
 ☆藤原為道男の三井寺僧[清舜(濟舜)]とは別人か?
- D2407 **政舜**(せいしゆん;法諱) ? - ? 1572存 近江の天台僧;柏原成菩提院住/貴禅寺住、  
 「曼供胎金合法則」「五味義私案立法華教主事」著
- C2406 **正春**(せいしゆん・宮川みやがわ)? - ? 貞門俳人:1660一雪「歌林鋸屑集」59句入
- I2468 **政脩**(せいしゆん・白須しらす)? - ? 江後期旗本/甲斐守、幕臣;1853頃に小姓組番頭、  
 歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [霜とくるあしたの風にほころびて軒端に梅の匂ひ初めぬる](大江戸倭歌;春122)
- 生春(せいしゆん・山科) → 生春(たかはる・山科、廷臣/記録) M 2 6 9 3  
 正俊(せいしゆん・萩原) → 正俊(まさとし・萩原はぎわら、俳人) L 4 0 4 8  
 正俊(せいしゆん・堀田) → 正俊(まさとし・堀田ほった、藩主) E 4 0 4 3  
 正俊(せいしゆん・堀田辺) → 正俊(まさとし・田辺たなべ、歌人) T 4 0 9 9  
 正俊(せいしゆん・川合) → 正俊(まさとし・川合、地誌家) E 4 0 4 4  
 正俊(せいしゆん・石原) → 正俊(まさとし・石原いしはら、正明甥/国学) E 4 0 5 3  
 正春(せいしゆん) → 正春(しょうしゆん、京の俳人) T 2 2 0 3  
 正春(せいしゆん・井田) → 正春(しょうしゆん・井田、俳人) T 2 2 1 9  
 正春(せいしゆん・毛利) → 正春(まさはる・毛利、神職/調査記録) G 4 0 4 3  
 正春(せいしゆん・井上) → 正春(まさはる・井上いのうえ、藩主/老中/歌) N 4 0 3 3  
 政春(せいしゆん;法諱) → 政春(しょうしゆん;法諱、天台僧) J 2 2 6 3  
 政春(せいしゆん) 上記以外すべて → 政春(まさはる)
- 成俊(せいしゆん) → 成俊(じょうしゆん、南北期僧:万葉学者) T 2 2 0 9  
 清俊(せいしゆん・葛西) → 清俊(きよとし・葛西、藩士/儒者/詩文) I 1 6 9 1  
 清俊(せいしゆん・丸山) → 清俊(きよとし・丸山まるやま、郷土史家) P 1 6 9 6  
 清俊(せいしゆん・小原) → 清俊(きよとし・小原おほら、歌人) T 1 6 0 2  
 清春(せいしゆん・藤原) → 清春(きよはる・藤原、廷臣/歌人) D 1 6 5 1  
 清春(せいしゆん・近藤) → 清春(きよはる・近藤こんどう、絵師/赤本) H 1 6 5 2  
 清春(せいしゆん・菱川) → 清春(きよはる・菱川・岩瀬/小野、絵師) Q 1 6 1 7  
 清春(せいしゆん・松宮) → 清春(きよはる・松宮まつみや、藩士/詩歌) V 1 6 2 6  
 盛俊(せいしゆん;法諱) → 盛俊(じょうしゆん;法諱、天台僧) J 2 2 7 1
- D2411 **正純**(せいしゆん;法諱) ? - ? 室町期天台宗園城寺勝蔵坊住僧、  
 連歌作者:宗長と親交、尺八を嗜む、1527宗長と「大永七年正月十九日山何百韻」参加
- C2408 **生順**(せいじゆん) ? - ? 俳人:1662元隣「身の楽千句」四吟百韻入
- C2410 **成淳**(せいじゆん・服部はっとり)? - ? 漢詩、1732坂光淳「和歌山下水わかやましたみず」(撰集)入
- 02450 **誓脩**(せいじゆん;号・儘田まだ、名;さと)?-? 江戸佐久間町の歌人儘田柳軒(重明1728-95)の妻、

歌人;夫門、彦太郎の母

- C2409 正純(せいじゆん/まさずみ:名・堀)?- ? 江中期京の儒者/詩人、大江玄圃と交流、  
1774玄圃編「友詩」校訂、1771「詩文製式」著
- I2472 政順(せいじゆん・玻名城はなぐすく)?- ? 琉球歌人;歌集「昼の錦」著
- I2473 聖純(せいじゆん・倉田くらた)?- ? 陸前仙台の書家、白石片倉家の制度役を務める、  
貨幣に関する書など執筆、1831「報徳孝道訓」、「世宝古伝録」著、  
[聖純(;名)の通称/号]通称;耕之進、号;蠖堂かくどう
- 西順(せいじゆん) → 西順(さいじゆん・如是庵、歌人) 2 0 8 3
- 正準(せいじゆん・吉田) → 正準(まさとし・吉田、藩士/国学者/歌) E 4 0 4 8
- 正準(せいじゆん・山脇) → 正準(まさのり・山脇やまわき、藩士/兵学者) G 4 0 2 2
- 正純(せいじゆん・曲直瀬) → 正純(しょうじゆん・曲直瀬まなせ、医者) J 2 2 6 7
- 正純(せいじゆん・巨勢) → 正純(まさずみ・巨勢こせ/中井/巨/工匠) C 4 0 9 7
- 正純(せいじゆん・浅井) → 策庵(さくあん・浅井あさい、医者) H 2 0 2 1
- 正純(せいじゆん・深田) → 厚斎(こうさい・深田ふかだ、藩士/儒者) G 1 9 3 1
- 正純(せいじゆん・雨宮) → 正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌) L 4 0 5 8
- 正純(せいじゆん・依田) → 正純(まさずみ・依田よだ、国学/歌人) P 4 0 5 2
- 正純(せいじゆん・高橋) → 正純(まさずみ・高橋たかはし、商家/歌人) D 4 0 0 7
- 正純(せいじゆん/まさずみ・東) → 沢瀉((たくしゃ・東ひがし、藩士/儒/尊王) E 2 6 2 2
- 正純(せいじゆん・丸淵) → 正純(まさずみ・丸淵まるふち、医者) D 4 0 0 5
- 正純(せいじゆん・村井) → 正純(まさずみ・村井むらい、儒者/教育) D 4 0 0 6
- 正純(せいじゆん・鎌田) → 正純(まさずみ・鎌田かまた、藩士/日記) D 4 0 0 8
- 正純(せいじゆん・宮永) → 正純(まさずみ・宮永、医者/勤王家) D 4 0 0 9
- 正純(せいじゆん・椿) → 正舎(まさや・椿つばき、庄屋/国学) Q 4 0 9 6
- 正純(せいじゆん;法諱) → 正純(しょうじゆん;法諱、真宗大谷派僧) J 2 2 6 8
- 正順(せいじゆん・田宮) → 正順(まさより・田宮たみや、歌人) U 4 0 0 5
- 正順(せいじゆん・堀田) → 正順(まさあり・堀田ほった、藩主/歌) B 4 0 2 1
- 正順(せいじゆん・増山) → 正賛(まさよし・増山ましま/藤原、藩主) I 4 0 5 4
- 正順(せいじゆん・藪) → 慎庵(しんあん・藪やぶ、藩士/儒者) D 2 2 4 5
- 正順(せいじゆん・清水/大橋) → 訥庵(とつあん・大橋/清水/酒井、儒者/詩) O 3 1 4 1
- 正順(せいじゆん・古高) → 正順(まさのぶ/まさより・古高/枡屋、商家/尊攘) S 4 0 3 7
- 正淳(せいじゆん・古林) → 正淳(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌) S 4 0 3 8
- 正淳(せいじゆん・檜垣/橋村) → 正允(まさとき・橋村/度会、神職/国学) E 4 0 3 8
- 正淳(せいじゆん・井上) → 正香(まさか・井上いのうえ、医者/神職) N 4 0 3 1
- 正巡(せいじゆん・清水) → 櫟洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8
- 正醇(せいじゆん・曾根) → 寸斎(すんさい・曾根そね、藩士/篆刻) H 2 3 2 9
- 生順(せいじゆん・小宅) → 処斎(しよさい・小宅おやけ、藩士/儒者) M 2 2 3 3
- 性遵(せいじゆん;号・安威入道) → 性遵(しょうじゆん;入道号、室町幕臣/連歌) T 2 2 0 5
- 聖遵(せいじゆん;法諱) → 聖遵(しょうじゆん;法諱、僧侶/歌人) T 2 2 0 6
- 政純(せいじゆん・永田) → 政純(まさずみ・永田ながた、藩士/右筆) C 4 0 9 9
- 政純(せいじゆん・田島) → 政純(まさずみ・田島たじま、藩士/兵法家) D 4 0 0 0
- 政純(せいじゆん・永井) → 如瓶子(じよへいし・永井/大江、書家/狂歌) C 2 2 9 5
- 政純(せいじゆん・板垣) → 政純(まさずみ・板垣いたがき/佐々木、国学) N 4 0 6 8
- 政醇(せいじゆん・建部) → 政醇(まさあつ・建部たけべ、藩主/国学者) B 4 0 1 7
- 政醇(せいじゆん・小堀) → 政醇(まさあつ・小堀こぼり/藤原、歌人) M 4 0 1 4
- 政淳(せいじゆん/せいとん・家長) → 韜庵(とうあん・家長いえなが、儒/詩人) 3 1 8 5
- 政順(せいじゆん・並河/高橋) → 濟庵(せいあん・高橋/並河、藩医/詩) H 2 4 2 4
- 清純(せいじゆん・大岡) → 清純(きよすみ・大岡おおおか/源、旗本/歌) V 1 6 6 6
- 清純(せいじゆん・有馬) → 清純(きよすみ・有馬ありま、藩主/歌人) V 1 6 6 8
- 清純(せいじゆん・吉田) → 清純(きよすみ・吉田よしだ、藩士/地誌) P 1 6 7 1
- 清純(せいじゆん・石川) → 清純(きよすみ・石川いしかわ、歌人) P 1 6 7 2

清順(せいじゆん;法号) → 国長(くになが・歌川うたがわ、絵師) D 1 7 0 3  
 清準(せいじゆん・大槻) → 平泉(へいせん・大槻おおつき、藩儒/詩人) 2 7 6 1  
 盛純(せいじゆん/もりずみ・佐原) → 豊山(ほうざん・佐原さわら、儒者/欧州視察) B 3 9 1 6  
 静春院(せいしゆんいん) → 静海(せいかい・戸塚、蘭医/幕府奥医) H 2 4 7 0

I2474 誠所(せいしょ・並河なみかわ/なびかわ、名;永/永崇、儉斎の長男) 1668-1738<sup>71</sup> 山城紀伊郡横大路村の富農、  
 儒者:幼少より京中に住/1691伊藤仁斎の堀川塾入門、99遠江掛川藩儒/1704武蔵川越藩儒  
 ;のち致仕し江戸住、江戸に開塾、儒者の弟並河天民より経世済民思想を学ぶ、  
 歴史・地理・動物・植物・風俗・異聞にまで関心/宝蔵学者の関衡祖や野呂元丈と親交、  
 1723(享保8)幕命で畿内の古文献採訪/26大坂懐徳堂で教授/伊豆三島に私塾仰止館開設、  
 1729(享保14)幕命で畿内地誌編纂の調査;河内・摂津・大和を詳細に調査;  
 友人関祖衡と「日本輿地通誌」を企画編纂;途中で祖衡没;1734(享保19)「五畿内志」完成、  
 調査の過程で数々の延喜式式内社の比定も行う、  
 これら詳細な記述は後の[新編武蔵風土記稿][新編相模風土記稿]等編纂事業に影響多大、  
 上記のほか;1716「伊香保道記」、「擬集古録」、「輿地通志」編、「神路山並自詠」「擬孟字義」  
 「河内国野志」「四書刪正補」「山城志」「大和志」「誠所先生詩稿」「誠所先生和歌集」、  
 「誠所先生集」「並河誠所先生詩歌稿」「五一先生古書搜索記」外編著多数、  
 [誠所(;号)の字/通称/別号]字;宗永/尚永/永父/崇永、通称;五一郎/五市郎、  
 別号;五一居士/知竹/月漢

C2411 星渚(せいしょ・永井ながい/本姓;大江、名;襲吉/襲、正等男) 1761-1818<sup>58</sup> 尾張愛知郡荒井の漢学者、  
 幼時父没/叔父匡紀により養育/1773同郡鳴海の下郷家訪問中に市川鶴鳴門、のち独学、  
 1795家督継嗣/尾張藩国老志水家の臣、1808従弟匡鼎に家督譲渡、一翁と号し著述、  
 「史漢考」「韓非子考」「左国考」「荀孟考」「毛詩存疑」「列子考」「老莊考」「論語考文」、  
 1805「尾張雜書碓氷君徳政記」16「淮南子考」18「星渚先生対問」著、「星渚先生集」/遺稿、  
 [星渚(;号)の字/通称/別号]字;損疾/無咎むきゆう、通称;千太郎/松右衛門、  
 別号;珍斎しんさい/一翁/鷹揚処

I2475 静所(せいしょ・尾芝おしば、名;質、字;文彬) ?-? 播磨の儒者/大和小泉住、詩人、  
 1801「静所詩鈔」1804「一夜百詠」著

C2412 清渚(せいしょ・小浜おばま、名;大海おおみ) 1789-1855<sup>67</sup> 志摩鳥羽の魚問屋の生、伊勢山田に移住、  
 儒;荒木田久老ひさおゆ門、1804江戸の林述斎・山本北山門/京の皆川淇園・北大路竹窓門、  
 1816江戸で私塾を開く/25志摩藩に招聘され藩儒員、藩校尚志館創設を建議/教授、  
 経史に精通/文章・詩歌に長ず、「皇統世次図」著、  
 寺門静軒の師:1850静軒「江頭百詠」序と「静軒居士寿碣誌」著、「樸斎遺稿」、  
 [清渚(;号)の字/通称/別号]字;子洋、通称;樸助ぼくすけ、別号;樸斎

C2413 静処(せいしょ・藤崎ふじさき) ? - ? 漢詩人、1857「梅外鈔」に評語あり

I2476 静処(せいしょ・野呂のろ、名;公翊こうよく、松廬2男) ?-1862 紀伊和歌山藩儒、1861「静処先生遺稿」、  
 [静処(;号)の字/通称]字;鶴章、通称;静吉郎

正緒(せいしょ・長沢) → 正緒(まさお・長沢ながさわ、名主/歌人) R 4 0 2 7

正緒(せいしょ・森) → 正緒(まさお・森もり、国学者/歌人) T 4 0 2 5

正緒(せいしょ・阪) → 正緒(まさお・阪ばん、国学者) S 4 0 0 4

静所(せいしょ・岡) → 蔵治(くらじ・岡おか、藩士/詩人) D 1 7 5 0

静所(せいしょ・呉/五十嵐) → 竹紗(ちくさ・五十嵐/修姓;呉、絵師) D 2 8 0 2

静処(せいしょ・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9

静処(せいしょ・加藤) → 竹窓(ちくそう・加藤かとう、儒者/詩人) D 2 8 3 7

静処(せいしょ・大田) → 英実(ひでさね・大田おおた、藩士/教育者) I 3 7 8 3

静處(せいしょ;号) → 素明(そみょう;道号・衍聡えんそう、黄檗僧) E 2 5 4 1

清渚(せいしょ・藤堂) → 高猷(たかゆき・藤堂とうどう、藩主/歌) N 2 6 6 6

清渚(せいしょ・荒木田) → 麗女(れいじょ・荒木田、歌/物語作者) 5 1 0 2

清渚(せいしょ・山県/村瀬) → 昌樹(まさき・野沢/村瀬/山県、与力/詩歌) C 4 0 2 2

靖所(せいしょ・市河) → 遂庵(すいあん・市河/横井、書家/詩人) 2 3 2 3

省所(せいしょ・安原) → 霖寰(りんかん・安原やすはら、藩儒) K 4 9 0 7

- 正舒(せいじょ・広田) → 助侑(すけなみ・広田ひろた/度会/橋村、神職) J 2 3 0 8  
 成助(せいじょ・賀茂) → 成助(なりすけ・賀茂かも、神職/歌人) H 3 2 4 4  
 清女(せいじょ・内田) → 清女(きよじょ・内田うちだ、歌人) T 1 6 6 2  
 清女(せいじょ・河野) → 清(きよ・河野/宮下、歌人) L 2 0 6 0  
 清女(せいじょ→きよじょ・岩間) → 溶々(ようよう・岩間、俳人/歌?) B 4 7 5 9  
 清恕(せいじょ・行友) → 清恕(きよひろ・行友ゆきとも、神職/国学) V 1 6 6 0  
 静助(せいじょ) → 良瑜(りょうゆ、天台大僧正/歌/連歌) J 4 9 5 4  
 晴助(せいじょ・奈河) → 晴助(はるすけ/初世はるすけ・奈河ながわ/豊ゆたか、歌舞伎作者) 3 6 3 2  
 晴助(2世せいじょ・奈河) → 晴助(はるすけ/2世はるすけ・奈河ながわ/豊ゆたか、歌舞伎作者) G 3 6 4 4  
 成助(せいじょ) → 成助(じょうじょ、真言僧) J 2 2 7 5  
 政助(せいじょ・加藤) → 均斎(きんさい・加藤かとう、暦算家) Q 1 6 9 7  
 政女(せいじょ・井上) → 北明(ほくめい・葛飾かつしか/井上、絵師) D 3 9 9 6  
 政恕(せいじょ・竹川) → 政恕(まさひろ・竹川たけがわ、国学/歌人) M 4 0 5 3  
 性如(せいじょ; 初法諱/臨濟僧) → 道如(どうじょ; 法諱・石雲; 道号、黄檗僧) F 3 1 2 5
- C2415 性照(せいじょう; 法諱) ? - ? 鎌倉後期歌人、  
 1263(弘長3)為家(融覚)勸進「住吉社歌合」左方入(阿仏尼らと参加)、  
 [たづねばや遠里小野の朝がすみ花の香しき春風ぞ吹く](住吉歌合; 十番左19)
- C2416 盛承(せいじょう) ? - ? 連歌師、1449時述催; 忍誓「広柏ひろかき千句」連衆
- C2417 政昌(せいじょう) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子えのこ集」9句入、  
 [日のかほや今朝あかねさす申の年](犬子集; 一20/日の茜と猿の顔を掛る)
- C2418 清勝(せいじょう・山口やまぐち、通称; 九郎兵衛/別号; 自足子) ?-? 江前期大阪の俳人: 令徳門、  
 のち立圃門/宗因に随う、1671「井蛙集」編、1673西鶴? 「哥仙大坂俳諧師」、  
 1673西鶴「生玉万句」神送百韻発句入、76西鶴「古今誹諧師手鑑」入、81賀子「山海集」入、  
 [迷ひけりいかな親仁おやちも呼子鳥](山海集; 左21、子故の闇、  
 後撰; 1102藤原兼輔; 人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな)
- C2496 清章(せいじょう・尾崎おさき) ? - ? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第一年玉百韻発句入、  
 [年玉や牛の角文字ゆがみ文字](生玉万句; 年玉発句/寛文13(1673)年は丑の年、  
 徒然草62段; 延政門院悦子内親王の後嵯峨上皇の院に言づてしての歌;  
 ふたつ文字牛の角文字直すぐな文字歪ゆがみ文字とぞ君は覚ゆる、  
 [こ・い・し・くの意]、ここの句は単に丑の年と生玉のいくをを掛る)
- C2419 正相(せいじょう/まさすけ・浦田うらた) ?-? 俳人、1679「杉の村立(わすれ貝)」序/編者?
- C2420 正勝(せいじょう) ? - ? 江前期金沢の俳人、  
 1683友琴編「金沢五吟」連句の発句入(友琴・柳糸・一風・一烟と)
- C2421 清昌(せいじょう) ? - ? 江前期京の俳人、  
 1690言水「新撰都曲」4句97-100/92助叟「俳諧鉦始ちよなははじめ」入、  
 [思はずよ泉に残す琴の爪](都曲; 98/泉が潺々せんせんと奏でる訳)
- C2422 政勝(せいじょう) ? - ? 江前期京の俳人、1702轍士「花見車」1句入、  
 [けちけちと火をうつ音や麻のはな](花見車; 146/夕餉の火打石の音と灰白い麻の花)  
 ☆1670下河辺長流[林葉累塵集]入の歌人[伊藤政勝まさかつ]と同一か? → U 4 0 0 8
- C2423 正昌(せいじょう・西川にしかわ、如見男、正休の兄) ?-? 暦算家、1719如見「長崎夜話草」刊行を援助
- 2486 世昌(せいじょう・蔡さい) ? - ? 琉球久米村の詩人/1758清国北京国子監の官生、  
 学制改革を建議; 「官生騒動」の端緒/尚温王は改革断行、潘相はんそう「琉球入学見聞録」に詩入
- I2477 世昭(せいじょう・源みなもと) ? - ? 江後期京の儒者: 池大雅と交流、  
 1787(天明7)「皇都名勝詩集」92「日本詩鈔」97「白詩選」1801「日本文鈔」編、  
 「雲山癡仙集」編、「糜可録」著、  
 [世昭(; 名)の字/号]字; 君哲、号; 五雲/堯夫
- I2478 成章(せいじょう・田村たむら) ? - ? 江後期下野栃木の俳人、1809「都岐雪」編  
 [成章(; 号)の通称/別号]通称; 栄助、別号; 不裁庵
- I2479 霽松(せいじょう・桜井さくらい、名; 安処) 1804-86 83 江後期常陸水戸の儒者、「五常之理」著、

- [霽松(；号)の字/通称/別号]字;子善、通称;善太郎/瓢三、別号;一芳
- 12480 **正璋**(せいしょう・須田すだ、一之男)?-? 江後期信州伊那の俳人;  
1831父一之追善集「花七草」編
- 12481 **星照**(せいしょう・小林こばやし、名;源三郎)?-? 江後期近江中野の狂歌作者:上州藤岡に住、  
1836(天保7)狂歌会主催(:浅草庵黒川春村に判を依頼)、1837「雲錦集」著、  
[星照(；号)の別号] 青葎庵/鶴星堂
- 12482 **清賞**(せいしょう・石川いしかわ、名;明德、鯉淵因長2男) 1800-67獄死68 石川敦善の養嗣子、  
常陸水戸藩士、1834出仕/50弘道館訓導/61弘道館教授頭取代、  
1864藩主弟松平昭訓の神位を奉じ水戸入城を試み市川三左衛門らに拒否;城中祖廟に納、  
以後禁固の身;獄中に病死、「京都土産」「詩文用字例」著、  
[清賞(；号)の字/通称/法号]字;仲峻、通称;吉次郎、法号;醒来院
- 性照(せいしょう、沙彌) → 康頼(やすより・平、鬼界島流罪/歌人) D 4 5 6 1  
 性紹(せいしょう;字) → 仵遍(せんべん;法諱・性紹、真言僧) N 2 4 7 2  
 青樵(せいしょう・畑中) → 青霞(せいか・畑中はたなか、藩士/詩文) H 2 4 5 4  
 青墻(せいしょう・田上) → 実禎(さねただ・田上たがみ、藩士/国学) O 2 0 7 8  
 青松(せいしょう・松井) → 元絢(げんけん・松井まつい、医者/古医法) I 1 8 5 7  
 青嶂(せいしょう・服戸) → 保泰(やすひろ・服戸ふくと、国学者) G 4 5 5 1  
 静照(せいしょう→じょうしょう) → 無象(むぞう;道号・静照;法諱、臨濟僧) 4 2 8 3  
 静照(静昭/浄昭せいしょう→じょうしょう) → 清昭(しょうしょう;法諱、天台僧/歌) T 2 2 2 1  
 静勝(せいしょう/じょうしょう;法名) → 公衡(きんひら・西園寺、廷臣/歌) E 1 6 6 1  
 西笑(せいしょう;道号) → 承分(じょうたい;法諱・西笑、臨濟僧/詩文) U 2 2 0 8  
 西樵(せいしょう・山口) → 鳴鶴(めいかく・山口やまくち、儒者/詩人) 4 3 0 9  
 盛勝(せいしょう・もりかつ・坂口) → 坂阿(はんな、早歌) I 3 6 8 3  
 清成(せいしょう/せいじょう) → 清成(しょうじょう、社僧/歌人) N 2 1 7 0  
 清尚(せいしょう・観世) → 鏡之丞(初世てつじょう・観世、能楽師) C 3 0 5 8  
 清承(せいしょう・竹内) → 清承(きよつぐ・竹内たけうち、藩士/暦学者) P 1 6 9 0  
 清章(せいしょう・上杉) → 清章(きよあき・上杉うすぎ、商家/歌人) Q 1 6 2 9  
 清章(せいしょう・浜島) → 清章(きよあき・浜島ろはまじま/高橋、廷臣) V 1 6 0 2  
 清彰(せいしょう・津久井) → 飄斎(ひょうさい・平塚、幕臣/俳人/狂詩) F 3 7 2 4  
 清昌(せいしょう・石谷) → 清昌(きよまさ・石谷いしがや、幕臣/奉行) Q 1 6 3 2  
 清将(せいしょう・高田) → 清将(きよまさ・高田たかた、藩士/歌人) Q 1 6 3 3  
 清商(せいしょう・岩間) → 十竹(じっちく・岩間いわま、修験僧/俳人) U 2 1 9 2  
 清祥(せいしょう・大槻) → 西磐(西盤せいばん・大槻、儒者/西洋史) J 2 4 4 5  
 清照(せいしょう・岡見) → 清照(きよてる・岡見、歌人) T 1 6 1 2  
 晴勝(せいしょう・佐久目) → 晴勝(はるかつ・佐久目さくめ/度会、神職) G 3 6 1 8  
 晴勝(せいしょう・大館) → 晴勝(はるかつ・大館おおだち、連歌/国学) G 3 6 1 9  
 正勝(せいしょう・真宗僧) → 正勝(しょうしょう、照台寺) T 2 2 3 0  
 正勝(せいしょう)訓はすべて → 正勝(まさかつ)
- 正祥(せいしょう・浅井/今木) → 一政(かずまさ・浅井あさい、藩士) M 1 5 4 8  
 正詳(せいしょう・有房) → 正詳(たださだ・有房ありふさ、歌人) V 2 6 3 1  
 正升(せいしょう→まさのり・松平) → 天府(てんぷ・葆光斎、藩主/俳人) E 3 0 1 7  
 正章(せいしょう/まさあきら・安原) → 貞室(ていしつ・安原、俳人) 3 0 0 5  
 正章(せいしょう・小林) → 正章(まさあき・小林、藩士/地誌編纂) 4 0 9 7  
 正章(せいしょう・朝岡) → 正章(まさあき・朝岡あさおか、儒者/歌/俳) B 4 0 0 5  
 正章(せいしょう・田中) → 正章(まさあき・田中たなか/佐伯、廷臣/歌) Q 4 0 5 7  
 正章(せいしょう・戸川) → 正章(まさあき・戸川とがわ、藩士/国学) R 4 0 0 1  
 正璋(せいしょう・芝) → 和麿(かづまる・芝/菊池、国学者) U 1 5 7 4  
 正尚(せいしょう・中川) → 正尚(まさひさ・中川なかがわ、兵学者) G 4 0 5 5  
 正尚(せいしょう・笠折) → 正尚(まさひさ・笠折、御師/俳人) G 4 0 5 6  
 正尚(せいしょう・齋木) → 巖(いわお・齋木さいき/藤原、神職/国学) K 1 1 2 8



正竦(せいしゅう・城戸) → 正竦(まさたか・城戸きど、庄屋/国学/歌) P 4 0 2 0  
 正方(せいしゅう・本多) → 正昭(まさあき・本多ほんだ、幕臣/歌人) U 4 0 1 9  
 正韶(せいしゅう/まさつぐ・池田) → 東籬亭菊人(とうりていきくひと、池田、官人/読本) 3 1 2 7  
 正韶(せいしゅう/まさつぐ/まさあき・深田) → 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌学) B 1 9 2 5  
 正韶(せいしゅう/まさつぐ・深田) → 香実(こうじつ・深田ふかだ、藩士/儒/歌) B 1 9 2 5  
 正韶(せいしゅう・並木) → 栗水(りつすい・並木なみき、儒者/私塾) C 4 9 0 5  
 正邵(せいしゅう・和田) → 一江(いっこう・和田わだ、儒者) H 1 1 0 7  
 正紹(せいしゅう・曲直瀬まなせ) → 玄朔(げんさく・曲直瀬/河崎、医者) J 1 8 1 4  
 正紹(せいしゅう・取田) → 正紹(まさつぐ・取田/橋、藩士/武家故実) D 4 0 9 6  
 正紹(せいしゅう・熊野) → 正紹(まさつぐ・熊野くまの、漢学/地誌家) D 4 0 9 2  
 正照(せいしゅう・高木) → 正照(まさてる・高木たかぎ、俳人) E 4 0 2 5  
 正照(せいしゅう・加藤) → 順庵(じゅんあん・加藤かとう、医者) 2 1 9 8  
 世昌(せいしゅう・沢渡) → 広繁(ひろしげ・沢渡さわたり/紀、絵師) G 3 7 0 3  
 世昌(せいしゅう・岡) → 熊嶽(ゆうがく・岡おか、絵師) B 4 6 0 4  
 世章(せいしゅう・上杉) → 治憲(はるのり・上杉/秋月、鷹山、藩主/儒者) G 3 6 7 1  
 成章(せいしゅう・山田) → 成章(なりあき・山田やまだ、藩士/歌人) P 3 2 2 0  
 世章(せいしゅう・鳥山) → 松岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人) 2 3 9 6  
 成章(せいしゅう・柴田) → 風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書) 3 8 6 8  
 成章(せいしゅう・太田) → 翠陰(すいん・太田おおた、儒者/藩士) 2 3 2 5  
 成章(せいしゅう・小河) → 立所(りつしょ・小河/小川おがわ、儒者) C 4 9 0 2  
 成章(せいしゅう・富士谷) → 成章(なりあきら・富士谷/藤谷、国学) 3 2 2 7  
 成章(せいしゅう・関島) → 成章(なりあきら・関島、故事伝説) H 3 2 0 3  
 成章(せいしゅう・石川/関藤) → 藤陰(とういん・関藤せきとう/せきふじ、儒者) B 3 1 0 7  
 成章(せいしゅう・石川) → 成章(しげあき・石川いしかわ、幕臣/日記) B 2 1 7 9  
 成章(せいしゅう・垣塚) → 東臯(とうこう・垣塚かきづか、藩士/職制) D 3 1 8 9  
 成章(せいしゅう・穂積) → 半二(はんじ・近松、浄瑠璃作者) 3 6 4 3  
 成章(せいしゅう・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医/儒/詩) K 1 6 6 1  
 成章(せいしゅう・江尻) → 莠松(おうしょう・江尻えじり、儒者/詩文) C 1 4 1 4  
 成章(せいしゅう・武谷) → 成章(しげあき・武谷たけや、医者/詩人) Q 2 1 4 6  
 成章(せいしゅう・岸) → 岱(たい・岸きし、岸岱、絵師) 2 6 0 0  
 成章(せいしゅう・松井) → 元絢(げんけん・松井まつい、医者/古医法) I 1 8 5 7  
 成章(せいしゅう・植田) → 玄筋(げんせつ・植田、儒者/垂加神道) E 1 8 3 1  
 成章(せいしゅう・中沢) → 律斎(りつさい・中沢なかざわ、藩儒/詩人) B 4 9 9 3  
 成章(せいしゅう・満生) → 大麓(だいろく・満生みつお、儒者) L 2 6 3 9  
 成章(せいしゅう・今井) → 柳荘(りゅうそう・今井まい、代官/俳人) F 4 9 0 3  
 成章(せいしゅう・塩路) → 貢(みつぐ・塩路しおじ/物部、薬/医/国学) D 4 1 3 0  
 成章(せいしゅう・稲次) → 成章(しげあき・稲次いなつぐ/端山、藩士/国学) N 2 1 4 2  
 成章(せいしゅう・松岡/松) → 玄達(げんたつ・松岡、儒医/本草) C 1 8 6 1  
 成章(せいしゅう・大村) → 桐陽(とうよう/どうよう・大村、藩士/儒者) H 3 1 9 0  
 成章(せいしゅう・黒田) → 成章(なりあき・黒田くろだ、庄屋/国学/歌) M 3 2 0 5  
 成章(せいしゅう・武田) → 成章(しげあや・武田たけだ、幕臣/兵学者) Q 2 1 5 7  
 成章(せいしゅう・川喜田) → 成章(なりあき・川喜田かわきた/村木、商家/国学) L 3 2 7 0  
 成章(せいしゅう・岡本) → 成章(なりあき・岡本おかもと、儒・国学/教育) L 3 2 4 9  
 成章(せいしゅう・橋本) → 守雄(もりお・橋本はしもと/林、藩士/歌/絵師) K 4 4 9 8  
 成章(せいしゅう・松橋) → 成章(なりあき・松橋まつはし/源、国学者) O 3 2 9 1  
 成昌(せいしゅう/なりまさ・中林) → 竹洞(ちくどう・中林なかばやし、絵師/詩歌) D 2 8 6 0  
 成勝(せいしゅう・野田) → 成勝(しげかつ・野田のだ、幕臣/歌) Q 2 1 8 1  
 政昌(せいしゅう・本多) → 政昌(まさよし・本多ほんだ、藩士) I 4 0 5 0  
 政昌(せいしゅう・石神) → 政昌(まさよし・石神いしがみ/藤原、国学/歌) N 4 0 5 7  
 政章(せいしゅう・安井) → 政章(まさあき・安井、藩士/槍術) B 4 0 0 4

- 政章(せいしょう・安井) → 燕石(えんせき・日柳くさなぎ、詩人/勤王) B 1 3 8 1  
 政章(せいしょう・鹿兒島) → 政章(まさあや・鹿兒島かごしま、国学者) O 4 0 7 2  
 政彰(せいしょう・関) → 政彰(まさあき・関せき、藩士/歌人) Q 4 0 4 0  
 政昭(せいしょう・浅井) → 政昭(まさあき・浅井あさい、藩士/儒者) B 4 0 0 8  
 政照(せいしょう・北尾) → 政照(まさてる・北尾きたお、絵師) E 4 0 2 3  
 政勝(せいしょう)すべて → 政勝(まさかつ)  
 聖勝(せいしょう;法諱) → 聖勝(しょうしょう;法諱、真言僧/歌人) T 2 2 2 5  
 聖承(せいしょう;法諱) → 聖承(しょうしょう;法諱、僧;法眼/歌人) T 2 2 2 9  
 靚粧(せいしょう) → 秋叢園(しゅうそうえん、本草家;朝顔研究) X 2 1 9 4  
 盛昌(せいしょう・森田) → 盛昌(もりまさ・森田、藩士/随筆家) G 4 4 5 1  
 盛昌(せいしょう・伊集院) → 盛昌(もりまさ・伊集院いじゅういん/阪元、藩士) J 4 4 1 8  
 盛章(せいしょう・猿渡) → 盛章(もりあきら・猿渡さわり、神職/歌人) F 4 4 0 8  
 盛章(せいしょう・服部) → 盛章(もりあき・服部はつとり、歌人) L 4 4 0 2  
 盛章(せいしょう・堤) → 盛章(もりあき・堤つみ/高田、神職/国学) K 4 4 6 2  
 盛章(せいしょう・平久間) → 盛章(もりあき・平久間ひらくま、狂歌/国学) L 4 4 1 4  
 盛章(せいしょう・畠山) → 盛章(もりあき・畠山はたけやま、神職/歌人) L 4 4 0 1  
 C2425 盛常(せいじょう) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、  
 1633重頼「犬子えのこ集」1句入;285、  
 [花は木の根にかへりてや桜草さくらぐさ](犬子集;一285/諺;花は根に帰り鳥は古巢に帰る)  
 C2480 政仍(せいじょう・まさなお?・まさより?・木村きむら)?-? 江前期上方の俳人、  
 1673西鶴「生玉万句」第八唐辛子脇句/郭公脇句/歳暮発句等入、  
 [田楽にちるくつつさめの露](生玉万句;唐辛子脇句/豆腐田楽/くつつさめ;くしゃみ、  
 発句政長まさなが;鼻に入るやくれなみ句ふ唐がらし)  
 [難波渦浦うら一巡ひとめぐりや歳の暮](歳暮発句)  
 C2426 青城(せいじょう・山本やまもと、名;義方/精義きよよし) 1718-9275 山本勘助の後裔、代々越後長岡藩家老、  
 儒者;高野栄軒門/古学に傾倒/江戸の伊藤竹里・伊藤東所門、藩主牧野家系譜を修訂、  
 1755自邸に書堂建設;藩校設立の気運を醸成/藩主6代に暦仕;50年間藩政を総理、  
 歌人;冷泉為泰門、槍・弓を嗜む、  
 「玩辞聚要」「周易安俟録」「政要纂言」「長岡古邑談」「関言余集」著、  
 [青城(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;左伝次、字;子直、通称;勘右衛門、別号;老迂斎  
 I2483 栖城(せいじょう;法諱、俗姓;大坪) 1793-186169 肥前諫早の真宗本願寺派僧;小江の金光寺に出家、  
 1818(文政元)本山学林に修学/諸宗を遊学、筑前の曇竜門;宗学の研鑽/若狭妙寿寺住、  
 1831司教;本山安居で副講を勤める/1854(安政元)肥前教宗寺住職;勸学職を受、  
 1855年預;学林の学生を統督、「本典弘化録」「往生要集義例」「本典聴記」「雑糅録」著、  
 1846「阿弥陀経聴記」56「安楽集聴記」著、「教行信証六要鈔前越記」外著多数、  
 [栖城(;法諱)の諡号] 易行院  
 C2427 青城(せいじょう・青木あおき、名;苾、弘安こうあん男) 1823-186947 越後中蒲原郡曾野木村の儒者:  
 大阪の藤沢南畷門/その塾長を務める、のち江戸の藤森弘庵門;川田甕江と勉学、病み帰郷、  
 亀田町に開塾/1869越後村松藩の招聘;藩儒として出仕、海嶠かいきょうの兄、「青城遺稿」、  
 [青城(;号)の字/通称/別号]字;邦光/吉夫、通称;三之丞、別号;蘭村、  
 K2498 清乘(7世せいじょう・後藤ごとう、6世男)?-? 江後期江戸の装剣金工師後藤権兵衛清乗家7代、  
 1836父の6世清乗徳方(1801-36)を継嗣、歌;1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [篝火かがりびも今はしらけてかへるなり月や鶴船の名残なるらん](大江戸倭歌:夏569)、  
 [風さゆる霜夜の竹のさらさらになぐらの雀夢もむすばじ](大江戸倭歌:冬1339)、  
 [清乗7世(;号)の名/通称/別号]名;春光、通称;清五郎(代々称)、別号;雪心斎春椿  
 青城(せいじょう・細川) → 興文(おきり・細川/源、藩主/詩人) 1 4 7 6  
 青常(せいじょう、青侍従) → 邦正(くにまさ・源みなもと、廷臣/歌人) B 1 7 6 2  
 青条(せいじょう・貴志) → 沾永(せんえい・貴志きし、俳人) E 2 4 9 0  
 清上(せいじょう・大戸) → 清上(きよかみ・大戸おおへ/阿倍/良枝宿禰、唐楽) H 1 6 1 2  
 清成(せいじょう) → 清成(しょうじょう、社僧/歌人) T 2 2 3 3

清常(せいじょう・川口) → 清常(きよつね・川口いかぐち、藩士/歌人) T 1 6 9 7  
 性乗(せいじょう→しょうじょう) → 仲孝(なかたか・下間しもつ、真宗僧/能役者) D 3 2 9 9  
 政常(せいじょう/まさつね・小河) → 逸斎(いつさい・小河おがわ、藩士/詩) H 1 1 1 9  
 政常(せいじょう・小本) → 政常(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学) O 4 0 2 2  
 政常(せいじょう・中東) → 政常(まさつね・中東なかひがし、国学者) R 4 0 1 6  
 政浄(せいじょう・木内) → 惺堂(せいどう・木内きうち、儒者/詩人) J 2 4 3 2  
 正仍(せいじょう・森脇) → 正仍(まさより・森脇もりわき/香川、藩士/国学) T 4 0 2 8  
 正条(せいじょう・安原) → 正條(正条まさえだ・安原やすはら/佐伯、国学/歌) T 4 0 3 5  
 正常(せいじょう・藤原) → 正常(まさつね・藤原ふじわら、神職) E 4 0 0 5  
 正常(せいじょう/まさつね・谷口/尾池) → 薰陵(くんにょう・尾池おいけ/谷口、医者) D 1 7 6 7  
 正常(せいじょう・渋川) → 清右衛門(せいえもん・柏原屋/渋川、書肆) 2 4 7 2  
 正常(せいじょう・柳田) → 正常(まさつね・柳田やなぎだ、歌人) M 4 0 6 8  
 正常(せいじょう・内山) → 正常(まさつね・内山うちやま/藤原、藩士/歌) N 4 0 9 9  
 正常(せいじょう・行弘) → 正常(まさつね・行弘ゆきひろ/中原、国学者) T 4 0 6 6  
 正縄(せいじょう・山本) → 正縄(まさただ・山本やまと/源、藩士/歌) L 4 0 9 3  
 正縄(せいじょう・鷹巣) → 正縄(まさつな・鷹巣たかす/藤原、藩士/歌) Q 4 0 7 6  
 正縄(せいじょう・由井) → 正縄(まさなわ・由井ゆい/金子、国学/歌) T 4 0 6 1  
 青松庵(せいしょうあん) → 立志(6世りゅうし・関、俳人) E 4 9 4 6  
 青松院(せいしょういん) → 禅元(ぜんげん; 法諱、社僧) M 2 4 2 3  
 静照院(せいしょういん) → 忠雄(ただお/ただかつ/ただたか・小笠原、藩主/故実) P 2 6 2 1  
 清浄院(せいじょういん) → 淡雲(たんうん; 法諱・佩石; 字、真宗僧) T 2 6 1 6  
 清浄院(せいじょういん) → 高本(たかもと・京極きょうごく、幕臣) N 2 6 3 9  
 清浄恵(せいじょうえ) → 皇嘉門院(こうかもんいん、崇徳天皇中宮/歌) 1 9 8 8  
 清浄園(せいじょうえん) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0  
 成章館(せいしょうかん) → 庸行(つねゆき・黒田くろだ、絵師/往来物) E 2 9 1 9  
 成章館主人(せいしょうかんしゅじん) → 東溟(とうめい・野口、儒者/開塾/尊攘) H 3 1 3 7  
 清浄観(せいじょうかん) → 九条院(くじょういん、呈子、皇后/歌人) 1 7 4 9  
 成章館主人(せいしょうかんしゅじん) → 東溟(とうめい・野口、儒者) H 3 1 3 7  
 青松軒(せいしょうけん) → 宗円(そうえん・木原きはら、俳人) 2 5 7 1  
 青松軒(せいしょうけん) → 宗臣(むねしげ・桑折こおり、藩家老、歌/俳) B 4 2 4 2  
 青松軒(せいしょうけん) → 椿山(ちんざん・椿つばき、幕臣/兵学/絵師) K 2 8 7 4  
 青松軒(せいしょうけん) → 保定(やすさだ・栗原くりはら/源/長坂、国学/歌) F 4 5 8 7  
 静勝軒(せいしょうけん) → 持資(もちすけ・太田/源、道灌/武将/歌人) 4 4 0 7  
 静嘯軒(せいしょうけん) → 親輔(ちかすけ・宮庄みやしょう、藩家老/歌) B 2 8 0 3  
 清嘯軒(せいしょうけん) → 蘭溪(らんけい・伊藤いとう、儒者) B 4 8 9 0  
 清浄軒(せいじょうけん) → 玄黄斎(げんこうさい・森もり/山中、画工/詩歌) I 1 8 0 0  
 清浄光院(せいじょうこういん) → 長恵(ちやうえ; 法諱・智生房、真言僧/声明) H 2 8 3 4  
 清浄金剛(せいじょうこんごう) → 守脱(しゅだつ; 法諱・大宝、天台僧) U 2 1 5 1  
 清浄金剛(せいじょうこんごう) → 宥祥(ゆうしょう; 法諱・妙浄、真言僧) C 4 6 4 5  
 静勝斎(せいしょうさい) → 利濟(としただ・南部なんぶ、藩主) M 3 1 7 2  
 棲浄斎(せいじょうさい; 号) → 誓鑑(せいがい; 法諱、真宗本願寺派僧) H 2 4 7 3  
 青松子(せいしょうし; 号) → 林篁(りんこう、真宗僧/俳人) K 4 9 2 4  
 盛少将(せいしょうしょう) → 盛少将(さかりのしょうしょう、三条院女房/歌人) H 2 0 1 4  
 成章堂(せいしょうどう) → 屏山(へいざん・水足みづたり/水、藩儒) 2 7 3 8  
 成象堂(せいしょうどう) → 有貞(ありさだ・藤岡ふじおか、算学/測量) F 1 0 3 4  
 清賞堂(せいしょうどう) → 華雄(かゆう・清賞堂、絵師) F 1 5 8 8

- 2410 清少納言(せいしょうなごん、清原元輔女)966?-1025?60? 平安中期女房歌人、  
 974父周防守に伴われ周防に下向、帰京後;981橘則光の室、982則長を出産、  
 986父は肥後守となる/季通を出産?/993離婚、  
 一条天皇中宮藤原定子の女房;随筆「枕草子」執筆、定子没後宮仕を終止、

藤原棟世と再婚;小馬命婦こまのみようぶを出産、歌人;家集「清少納言集」、  
勅撰14首;後拾遺(939/1155)詞花(265/316)千載(961/967/1206)続後撰(843)以下、  
金葉Ⅲ三奏本423/玄々集・菟玖波集(1句)入

[夜をこめて鳥のそら音ははかるともよにあふさかの関はゆるさじ](後拾939/枕129段)

清少納言入道(せいしょうなごんにゅうどう)→良賢(よしかた・清原きよはら、廷臣/漢学者) C 4 7 6 2

C2428 清少納言女(せいしょうなごんのむすめ)?-? 平安期歌人、小馬命婦と同一か?、新拾遺1454

[白妙の光にまがふ色みてや紐とく花をかねて知るらん](新拾;釈教1454/法花経序品)

→ 小馬命婦(こまのみようぶ、彰子女房、歌人) N 1 9 6 9

清松白石人家(せいしょうはくせきじんか)→高陽(こうよう・中山、詩/絵師) C 1 9 0 0

清浄法(せいじょうほう;法名)→西華門院(さいかもんいん、後二条天皇母/歌) H 2 4 8 1

成乗坊(せいじょうぼう) → 義源(ぎげん;法諱、天台学僧) K 1 6 3 3

清浄本然禪師(せいじょうほんねんぜんじ)→宗渭(そうい;法諱・清巖;道号、臨濟僧) F 2 5 9 6

清浄林院(せいじょうりんいん)→光映(こうえい;法諱・竹林坊、天台僧) H 1 9 5 7

静嘯廬(せいじょうろ) → 鹿門(ろくもん、松島屋、俳人) B 5 2 1 4

青樵老人(せいじょうろうじん)→秋水(しゅうすい・長尾ながお、遍歴/詩人) H 2 1 7 7

I2484 政植(せいしよく・まさたね・石川いしかわ)?-? 談義本作者;1759「魂胆惣勘定」編/序

世植(せいしよく・関口) → 雪翁(せつおう・関口せきぐち/関、儒者) K 2 4 7 4

正職(せいしよく・丹波) → 正職(まさもと・丹波たんば、連歌作者) H 4 0 8 5

正職(せいしよく・杉浦) → 正職(まさもと・杉浦すぎうら、幕臣/琴曲) H 4 0 9 0

斉稷(せいしよく・池田) → 斉稷(なりとし・池田いけだ、藩主/歌人) K 3 2 3 5

成職(せいしよく・祝部) → 成職(なりより/-もと・祝部はふりべ、神職/歌) I 3 2 4 4

清渚山人(せいしよさんじん) → 安海(やすみ・沖おき/源、商家/国学/歌) D 4 5 0 1

清処士(せいしよし) → 芝山(しざん、大高坂おたかさか、藩儒/南学) D 2 1 7 1

性助親王(せいじよしのう→しょうじよ-)→性助法親王(しょうじよほつしんのう、歌) N 2 1 9 7

清書此主(せいしよのこれぬし)→此主(これぬし・清書、籠屋/狂歌) G 1 9 6 3

性助法親王(せいじよほつしんのう) → 性助法親王(しょうじよほつしんのう) N 2 1 9 3

清四郎(せいしろう・林) → 知風(ちふう・林はやし、俳人) F 2 8 2 8

清四郎(せいしろう・横田) → 何求(可及かきゅう・横田、儒者) H 1 5 2 3

清四郎(せいしろう・横田) → 俊晴(としはる・横田、可求男/藩士/儒者) N 3 1 4 1

清四郎(せいしろう・小津) → 長親(ながちか・小津おづ、道円/商業/歌) E 3 2 2 7

清四郎(せいしろう・二宮) → 精白(せいはいく・二宮にのみや、酒造家/歌) O 4 3 6

I2485 清二郎(清次郎せいじろう・川本かわもと、幸民2男)?-? 洋学者/清一の弟、1864開成所教授手伝、

1866開成所英学教授、維新後;陸軍一等教授/1871文部中教授、1867「相馬略」訳

清次郎(せいじろう・村越) → 道伴(道半どうはん・村越むらこし、幕臣) G 3 1 9 7

清次郎(せいじろう・中川) → 顕忠(あきただ・中川、藩家老/記録) D 1 0 4 9

清次郎(せいじろう・藤原/川辺) → 橋亭(きつてい・川辺かわべ、藩士/漢学者) L 1 6 5 0

清次郎(せいじろう・赤松/芦田) → 小三郎(こさぶろう・赤松/源、兵学者) M 1 9 5 5

清次郎(せいじろう・坂原) → 定敬(さだよし・坂原/都筑、幕臣) K 2 0 3 0

清次郎(せいじろう・神谷) → 為政(ためまさ・神谷かみや、国学者/詩歌) S 2 6 7 8

清次郎(せいじろう・伊勢屋) → 重雪(じゅうせつ・重井しげい、俳人) H 2 1 8 9

清次郎(せいじろう・勝川) → 春扇(しゅんせん・勝川かつかわ、絵師) K 2 1 1 3

清次郎(せいじろう・根津) → 正路(まさみち・根津ねづ、国学者) H 4 0 5 2

清次郎(せいじろう・鈴木) → 鳴門(めいもん・鈴木すずき、藩の絵師) 4 3 4 2

清次郎(せいじろう・小川) → 成信(しげのぶ・小川おがわ/石井、国学者) R 2 1 9 9

清次郎(せいじろう・早川) → 随勝(よりかつ・早川はやかわ、藩士/記録) I 4 7 5 2

晴次郎(せいじろう・吉川/桜居) → 業知(なりとも・吉川よしかわ/桜居、藩士/歌) J 3 2 9 3

政治郎(せいじろう・高松) → 千尋(ちひろ・高松たかまつ/高塚、神職/国学) M 2 8 8 0

政次郎(せいじろう/まさじろう・横山) → 政和(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆) B 4 0 8 1

政次郎(せいじろう/まさじろう・周) → 文次右衛門(ぶんじえもん・周しゅ、通詞) F 3 8 6 0

政次郎(せいじろう・内藤) → 政次郎(まさじろう・内藤、藩士/和算家) C 4 0 8 0

- 政次郎(せいじろう・佐藤/福地) → 政次郎(政二郎まさじろう・福地、藩士/砲術家) C 4 0 8 1  
 政次郎(せいじろう・寺門) → 先行(せんこう・寺門てらかど、藩士/儒者) M 2 4 2 7  
 政次郎(政二郎せいじろう・細井) → 寧利(やすとし・細井、和算家) E 4 5 0 2  
 政次郎(せいじろう・篠沢) → 隆壽(たかひさ・篠沢しのざわ/前田、里正/歌) X 2 6 4 6  
 政次郎(せいじろう・三浦) → 芳政(よしまさ・歌川うたがわ/三浦、絵師) H 4 7 1 5  
 政次郎(せいじろう・今村) → 玉豊(たまよ・今村いまむら、絵師/歌人) V 2 6 7 1  
 政次郎(せいじろう・玉井) → 抱季(ほうき・玉井たまゐ、歌人) G 3 9 2 7
- 02471 清信(せいしん;法諱、法印大僧都の信家男/本姓;藤原)?-? 鎌倉期;興福寺僧、権律師/歌人、  
 父信家・叔父重信(共に興福寺僧/檜葉集入)、1233道家邸群参の一人(明月記)、  
 [菊苑僧正(範円?)庚申講のついでに依恋遁世の心を、  
 つらかりし人こそいまはうれしけれまことのみちのしるべと思へば](檜葉;恋490)
- I2486 晴眞(せいしん;法諱) ? - ? 平安後期の僧、大原別所に蟄居、  
 蟄居中の諷吟百首;1187慈円これに和し百首;「厭離(おんり)百首」(;慈円「拾玉集」入)
- I2487 清真(せいしん;名・池部いけべ、通称;良)?-? 江後期京の和算家;建部賢弘門、家塾小壮堂を開、  
 門弟教育;神谷保貞の師、1430「開承算法」著
- C2429 栖心(せいしん) ? - ? 連歌師、1516宗碩庵「十花千句」連衆
- I2488 誓眞(せいしん・川村かわむら、名;正秀)?- ? 1577存 武家故実家伊勢貞孝の家臣、故実家、  
 「川村誓眞聞書」著
- C2430 正信(せいしん/まさのぶ・川崎かわさき)?- ? 江前期京の俳人、  
 1633重頼「犬子集」19句入/63「五条之百句」入、1677益翁(以仙)「難波千句」入、  
 1678西鶴「物種集」入/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [師走たち正月きたる小袖かな](犬子集;一23/経ちと裁ち・来たと着たるを掛る)
- I2489 政信(せいしん/まさのぶ・苜類屋)?- ? 京の商家/俳人;貞室門、  
 1655貞徳「紅梅千句」56貞室「玉海集」入/76西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [餘よの花に是これや増しての翁草](手鑑/翁草;菊の異名/発心集;ましての翁に言い掛る)
- C2431 清親(せいしん) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」4句入、  
 [ぬく人をぬくは実みのなき蔓つね哉](犬子集;一284/ぬくはだます/実は誠実を掛る)
- C2432 盛親(せいしん) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」3句入、  
 [鶯は梅の木立の目貫ぬきかな](犬子集;小太刀の柄の飾り金具に見立てる)
- I2490 正心(せいしん・真幸まさき、名;忠次) 1608-7465 薩摩の書家/1635常陸水戸藩に書で出仕;300石、  
 1663剃髪、1650「三国筆海全書」、「詩歌巻」著、「瀟湘八景」「八景詩歌」書、  
 [正心(;号)の通称/別号]通称;七衛門、  
 別号;正心齋/正真齋/筆海/三国筆海堂さんごくひっかいどう
- C2433 生信(せいしん・村上むらかみ) ? - ? 貞門俳人、1658梅盛「鸚鵡集」106句入
- E2413 成親(せいしん・神田かんだ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
 [沖の石にてしめる六先](物種集/前句;いつまでも爰こは躡にらぬ舟遊び、  
 六先;双六で先をとり外六地へ附ける?)
- Q2463 誠心(せいしん;法諱/法師)?- ? 江前期;京の歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
 [灯の消ゆるならひも身にぞしる嵐ひまなき世にしすまへば](麓の塵;雑660)
- C2434 正信(せいしん) ? - ? 丹後宮津の俳人、1691江水「百人一句」目録入  
 犬子集入集の京の正信と同一?
- C2435 青岑(せいしん・田川たがわ、修姓;田)?-? 江中期和泉堺の儒者;各地遊歴、  
 1733「桂苑権儲(けいえんいつちよ)」著
- I2491 政心(せいしん・河原かわはら、政安男) 1762-? 陸奥会津藩士/武術家、京の吉田家入門;  
 卜部神道・小笠原礼法を修得、1801江戸で小笠原流を更に修学、砲術;伊予里順門、  
 1803(享和3)家督嗣;会津藩砲術師範、祭事奉行兼普請奉行、  
 「砲家年曆志」「小笠原長時葬地考」著、小笠原流礼書蒐集;6百余巻、  
 [政心(;名)の通称] 勝太郎/善左衛門
- C2436 清慎(せいしん・岡田おかだ) ? - ? 昌平坂学問所史局員、1828「記録解題」編参加
- I2492 制心(せいしん;法諱) ? - 1866 尾張津島の真宗大谷派成信坊住職、寮司;

1844高倉学寮で講義;擬講/1859嗣講となる、1861罷免、「方丈塵壺」「私淑篇」編、  
1845「入出二門偈要註」51「最要鈔要註」56「行卷帰命御字訓聞記」61「阿弥陀経要註」著、  
「愚禿鈔群疑決」「最要鈔講義」「三経往生文類要訣」「入阿毘達磨論記」外著多数、  
[制心(;法諱)の号]号;可弁、諡号;正定院

F2496 盛振(せいしん・毛もう/安良城あらかぎ、13代盛有4男) 1824-? 代々琉球王の側近役;親雲上、首里住、  
[盛振(;名)の幼名/別名]幼名;真牛、別名;寵栄

- 正辰(せいしん・岡村) → 正辰(まさとき・岡村、俳人) E 4 0 3 2  
 正辰(せいしん・古川) → 古松軒(こしょうけん・古河/古川、医/地誌) 1 9 3 3  
 正辰(せいしん・浦上) → 正辰(まさとき・浦上うらかみ/藤原/乗松、藩士/歌) O 4 0 0 3  
 正辰(せいしん・興津) → 正辰(まさひで・興津おきつ、藩士/国学者) O 4 0 6 0  
 正辰(せいしん・永田) → 正辰(まさとき・永田ながた/藤原、藩士/歌) R 4 0 2 3  
 正心(せいしん・長谷川) → 昭道(あきみち・長谷川、藩士/勤王派) D 1 0 9 6  
 正新(せいしん・三熊) → 花顛(かてん・三熊/密熊みくま、絵師/俳) C 1 5 5 8  
 正進(せいしん・戸沢/本多) → 忠貫(ただつら・本多/戸沢、藩主/詩) P 2 6 9 1  
 正真(せいしん・鈴木) → 周水(しゅうすい・鈴木すずき、書家) X 2 1 6 7  
 正真(せいしん・橋村) → 正並(まさなみ・橋村はしむら/度会/中山、神職) R 4 0 6 1  
 正伸(せいしん・山岸) → 正伸(まさのぶ・山岸やまぎし/平、陪臣/歌) T 4 0 4 2  
 正紳(せいしん・磯部) → 正紳(まさのぶ・磯部いそべ、神職/歌人) N 4 0 6 6  
 正信(せいしん) 訓読はすべて → 正信(まさのぶ)  
 正臣(せいしん) すべて → 正臣(まさおみ)  
 正親(せいしん) すべて → 正親(まさちか)  
 正岑(せいしん) すべて → 正岑(まさみね)  
 正身(せいしん・橋村) → 正身(まさのぶ・橋村/度会、神職/神典) F 4 0 6 9  
 正謹(せいしん・稲葉) → 正謹(まさのぶ・稲葉いなば、藩主/記録) F 4 0 7 2  
 政岑(せいしん・榊原) → 政岑(まさみね・榊原さかきばら、城主/豪遊) H 4 0 7 3  
 政辰(せいしん・寺沢) → 友斎(ゆうさい・寺沢てらさわ、書家) B 4 6 7 1  
 政辰(せいしん・鈴木) → 政辰(まさとき・鈴木すずき、和算家) L 4 0 3 3  
 政辰(せいしん・清水) → 政辰(まさとき・清水、歌人) E 4 0 3 3  
 政辰(せいしん・仙石) → 政辰(まさとき・仙石、藩主) E 4 0 3 5  
 政辰(せいしん・榊原) → 政邦(まさくに・榊原/源、藩主/歌人) C 4 0 3 7  
 政辰(せいしん・浅井) → 政辰(まさとき・浅井、藩士/俳人) E 4 0 3 7  
 政辰(せいしん・新山) → 忠(ちゅう・新山にいやま、藩士/儒者/詩人) F 2 8 7 1  
 政臣(せいしん・川喜田) → 政臣(まさおみ・川喜田かわきた/清水、商家/国学) P 4 0 0 1  
 政身(せいしん・名島) → 政方(まさみち・名島/北川/村主/秦/度会、医/国学) H 4 0 5 3  
 政信(せいしん) すべて → 政信(まさのぶ)  
 生親(せいしん・藤田) → 子徳(しとく・藤田ふじた、藩士/和算家) V 2 1 3 4  
 性心(性真せいしん;法諱) → 性心(性真しょうしん;法諱、浄土鎮西流藤田派祖) J 2 2 9 4  
 性心(せいしん;法諱) → 性心(しょうしん;法諱、真言学僧) J 2 2 9 5  
 性深(せいしん→しょうじん;字) → 玄広(げんこう;法諱・字;性深、真言僧) I 1 8 7 3  
 性信(せいしん;法諱) → 性信(しょうしん;法諱、真宗僧;親鸞門) J 2 2 9 3  
 西津(せいしん・堀内) → 匡平(まさひら・堀内、庄屋/国学/勤王) G 4 0 8 5  
 斉信(せいしん・藤原) → 斉信(なりのぶ・藤原、廷臣/詩歌) H 3 2 9 2  
 斉信(せいしん・二条) → 斉信(なりのぶ・二条、左大臣) H 3 2 9 5  
 成信(せいしん・藤原) → 安成(やすなり・藤原ふじわら、廷臣/詩歌人) C 4 5 4 4  
 成信(せいしん・狩野) → 成信(しげのぶ・狩野、肥後狩野家絵師) R 2 1 9 4  
 成信(せいしん・荒井/勝田) → 半斎(はんさい・勝田、幕臣/儒/詩) H 3 6 6 6  
 成信(せいしん・長沢/栗山) → 潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業) 2 4 3 7  
 成信(せいしん・小川) → 成信(しげのぶ・小川おがわ/石井、国学者) R 2 1 9 9  
 成信(せいしん・興野) → 成信(なりのぶ・興野おきの、藩士/歌人) L 3 2 5 1  
 成信(せいしん・堀田) → 成信(なりのぶ・堀田ほった、医者/歌人) O 3 2 6 5

成深(せいしん;法諱) → 成深(じょうじん;法諱、鎌倉期歌人) W 2 2 2 6  
 成身(せいしん・宮崎) → 栗軒(りっけん・宮崎みやざき、幕臣/儒者) B 4 9 7 5  
 成親(せいしん・藤原) → 成親(成近なりちか・藤原ふじわら、廷臣/歌) H 3 2 6 0  
 成親(せいしん・藤原) → 成親(なりちか・藤原ふじわら、権大納言) E 3 2 1 6  
 成親(せいしん・中村) → 西里(せいり・中村なかむら、藩儒/教育) D 2 4 1 0  
 成親(せいしん・鷹見) → 成親(なりちか・鷹見たかみ、本陣経営/歌) N 3 2 7 5  
 成岑(せいしん・野間/野) → 玄琢(げんたく・野間のま/修姓;野、医者) K 1 8 9 4  
 誠心(せいしん・鍋島) → 茂延(しげのぶ・鍋島なべしま、藩家老/歌人) R 2 1 9 8  
 盛信(せいしん・吉川) → 盛信(もりのぶ・吉川よしかわ、絵師) G 4 4 1 7  
 盛信(せいしん・大森) → 盛信(もりのぶ・大森おおもり、歌人) M 4 4 0 2  
 盛信(せいしん・葦名) → 盛信(もりのぶ・葦名あしな、邑主/歌人) G 4 4 1 8  
 盛信(せいしん・淀川) → 盛信(もりのぶ・淀川よどがわ、国学者) G 4 4 2 0  
 盛信(せいしん・大平) → 盛信(もりのぶ・大平おおひら/大井、幕臣/国学) J 4 4 5 5  
 盛辰(せいしん・関) → 盛辰(もりとき・関せき、藩士/国学者/歌) K 4 4 1 6  
 盛親(せいしん・僧都) → 盛親(じょうしん・仁和寺僧都/能書) W 2 2 4 3  
 盛親(せいしん・楊梅) → 盛親(もりちか・楊梅やまもも/藤原、廷臣/歌) F 4 4 6 9  
 盛親(せいしん・長宗我部) → 盛親(もりちか・長宗[曾]我部ちようそかべ、武将/城主) F 4 4 7 1  
 潮真(せいしん・横井) → 玄同(げんどう・横井よこい、医者) L 1 8 8 9  
 清親(せいしん・日置) → 清親(きよちか・日置へき、友禅染画工) P 1 6 8 9  
 清臣(せいしん・高橋) → 清臣(きよおみ・高橋たかはし/穴井、神職/尊攘) U 1 6 6 6  
 清臣(せいしん・大沢) → 清臣(すがおみ・大沢おおさわ、神道家) F 2 3 8 2  
 清臣(せいしん・前野) → 清臣(きよおみ・前野まえの/竹中、国学/歌) V 1 6 2 0  
 清臣(せいしん・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、真澄男/歌人) T 1 6 6 9  
 清臣(せいしん・山下) → 清臣(きよおみ・山下やました、国学者/歌人) V 1 6 5 3  
 清臣(せいしん・近藤) → 清臣(きよおみ・近藤こんどう/小林、国学/歌) U 1 6 3 7  
 清真(せいしん・坂内) → 須賀美(すがみ;号・坂内ばんない、神職) F 2 3 8 9  
 清真(せいしん・田村) → 清真(きよざね・田村たむら、国学者) U 1 6 5 9  
 清信(せいしん・羽鳥) → 清信(きよのぶ・羽鳥、歌人) T 1 6 1 6  
 清辰(せいしん・上西) → 清辰(きよとき・上西うえにし/藤原、藩士/国学) T 1 6 6 1  
 静真(せいしん/じょうしん、法号) → 為家(ためいえ・藤原、歌学) 2 6 5 5  
 静慎(せいしん・越智おち/越えつ) → 高崧(こうすう・越智/修姓;越、眼科医) J 1 9 9 8  
 整信(せいしん・土持) → 整信(なりおみ・土持ひもち、庄屋/民政) O 3 2 5 0  
 聖心(せいしん;法諱) → 聖心(しょうしん;法諱・仏巖房、真言僧) J 2 2 9 2  
 聖信(せいしん;法諱) → 聖信(しょうしん;法諱、法師/歌人) V 2 2 9 8  
 棲眞(せいしん・小泉) → 棲眞窩(せいしんか・小泉こいずみ、医者/詩) I 2 4 9 4  
 棲心(せいしん;号) → 僧音(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0

G2492 成人(せいじん) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」19句入

[子に漕がせ古跡を語る春の明あけ](万国燕;381)

I2493 青人(せいじん・三步庭;号)? - ? 江中期豊前黒崎の俳人:石中庵石蘭門、  
石蘭の筑紫俳壇に正風導入の活動に参加/石蘭編年刊句集「梅の会」入集、1792「みの虫」編

清人(せいじん・紀) → 清人(きよひと・紀朝臣、漢学/歌) D 1 6 5 3  
 清人(せいじん・菅原) → 清人(きよひと・菅原すがわら、廷臣/詩) Q 1 6 2 1  
 正人(せいじん/まさひと・下坂/江馬) → 天江(てんこう・江馬えま、医者/詩人) D 3 0 4 6  
 成尋(せいじん) → 成尋(じょうじん;法諱、天台僧/歌人/入宋) T 2 2 6 2  
 清晨庵夢香(せいしんあんむこう) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1  
 清信院(せいしんいん) → 宗将側室(むねのぶのしつ・徳川/吉田、藩主母/歌) E 4 2 0 4  
 成尋母(せいじんのはは) → 成尋阿闍梨母(じょうじんあざりのはは、源俊賢女/歌人) T 2 2 6 3  
 誠心院徒祐(せいしんいんしゅうゆう) → 蘭台(らんだい、誠心院、真宗僧/俳人) C 4 8 9 2  
 誠心院右大臣(せいしんいんのうだいじん) → 実顕(さねあき・三条/転法輪三条/藤原、右大臣/日記) K 2 0 6 8  
 棲心院内大臣(せいしんいんのないだいじん) → 内実(うちざね・一条、歌人) 1 2 7 2

- 性眞円智禅師(せいしんえんちぜんじ;諡号)→ 中諦(ちゅうたい;法諱・観中;道号、臨濟僧) 2 8 1 8
- I2494 棲眞窩(せいしんか・小泉こいずみ、名;益/字;虚直/通称;見庵/別号;棲眞) 1671-1743 73 松阪の医者、  
儒・詩文に通ず、1703「包桑録」編、「棲眞窩集」、垣斎(えんさい)の父/五林(ごりん)(棲眞(せ)の祖父  
蛻塵軒(せいでんけん) → 貞秀(さだひで・蒲生/藤原/和田、豪族/歌・連歌) G 2 0 1 1
- 清慎公(せいしんこう;諡号)→ 実頼(さねより・藤原、廷臣/歌人/故実) 2 0 4 6
- I2495 清慎公女(せいしんこうのむすめ、藤原実頼[900-970]女)?-? 平安前期歌人;玉葉1512、  
[なく涙空にもなどか降らざらむ雨雲はれぬものを思へば](玉葉集;十一恋1512)、  
[清慎公実頼女]は3人/そのうち、②実頼女(源高明室)と考えられる  
→ 実頼女(さねよりのむすめ、歌人)② D 2 0 7 8
- 栖心斎(せいしんさい) → 僧音(そうおん;法諱、真宗本願寺派学僧) G 2 5 4 0
- 成心斎(せいしんさい・じょうしんさい;入道号)→ 秀元(ひでもと・大河内、武将/記録) D 3 7 9 7
- 正心斎(正真斎せいしんさい)→ 正心(せいしん・真幸まさき、書家) I 2 4 9 0
- 正心斎(せいしんさい) → 敦直(あつなお・藤木、神職/書家) C 1 0 7 1
- 正心斎(せいしんさい) → 朝風(あさかぜ・堤つみ/源、幕臣/国学者) 1 0 4 6
- 清慎斎(せいしんさい) → 隆棟(たかむね・大河平おこひら、藩士/国学) N 2 6 3 3
- 性信親王(せいしんしんのう) → 性信親王(しょうしんしんのう、三条の皇子、真言仁和寺門跡) K 2 2 1 0
- 誠仁親王(せいしんしんのう) → 誠仁親王(さねひとしんのう、正親町皇子) D 2 0 5 1
- 棲眞(せいしん) → 五林(ごりん・小泉、棲眞窩の孫/医/詩) O 1 9 0 4
- 棲神叟(せいしんそう) → 行応(ぎょうおう;道号・玄節、臨濟僧) N 1 6 3 5
- 静心尼(せいしんに) → 綱(つな・梶かじ、綱女、国学者) F 2 9 5 3
- 生津麿(せいしんまろ・堀尾) → 生津麿(ふつまろ・堀尾ほりお、国学者) D 3 8 4 1
- E2466 井水(いすい) ? - ? 江前期安藝広島の俳人;  
1694休計「俳諧難波置火燵」入、95?清流「住吉物語」/96涼兔「皮籠摺」入、  
1702白雪「三河小町」入
- C2437 生水(いすい) ? - ? 摂津住吉郡島村の俳人;1706「津の玉川」編、  
1691賀子「蓮実」1句入、  
[飛び飛びて石に顔うつ蛙かほ哉](蓮実;161)
- C2438 性水(いすい) ? - ? 大坂の俳人、1691賀子「蓮実」1句入、  
[あけぼのや箒はうき隙ひまある庭の雪](蓮実;402)
- C2439 精酔(せいすい・雲泉軒うんせんけん、蘆鐘子の男)?-? 尾張の俳人、父の師の横船(蘭秀)遠忌に追善集編、  
1728(享保13)横船追善「続年矢俳諧集」共編(:冬央と)、冬央「俳諧古渡集」入集
- G2435 井炊(いすい、金屋平右衛門)?-? 江前中期安藝広島蕉門系俳人;  
1705支考「三日歌仙」入、1706支考「東山万句」涼兔「潮とろみ」入
- I2496 西水(いすい・菊池きくち、名;武健)?-? 江中期の医者;馬医、  
「医馬色脉篇」著/「医方三方集」校訂、  
[西水(;号)の通称/別号]通称;菊健、別号;西水軒
- 正帥(いすい・雲井) → 正帥(まさのり・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 4
- 正誰(いすい・雨森) → 正誰(まさただ・雨森あめのもり、代官/歌人) N 4 0 2 1
- 正穂(いすい・塚本) → 正穂(まさほ・塚本つかもと、宿駅/国学) Q 4 0 9 3
- 性水(いすい・和田) → 安清(やすきよ・和田わだ、藩家老/詩文) B 4 5 2 7
- 政水(いすい・中村) → 得斎(とくさい・中村、藩士/儒者) K 3 1 7 4
- 斉水(いすい・都沢) → 徹(とおる・都沢みやこざわ、儒者) I 3 1 8 0
- 聖垂(いすい・梅山) → 独文(どくもん・方炳ほうへい、黄檗僧) L 3 1 4 9
- 西水(いすい・新保) → 正与(まさとも・新保しんぼう/朝妻、国学/神職) Q 4 0 2 9
- 西随(いすい・早川) → 西随(さいずい・早川はやかわ、俳人) 2 0 8 9
- 清瑞(いすい・本庄) → 市山(しざん・本庄/塩足、庄屋/俳人) D 2 1 7 2
- 聖瑞(いすい;法諱) → 聖瑞(しょうずい;法諱・一曇;道号、臨濟僧/文筆) T 2 2 6 8
- 清水居(いすいきよ) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3
- 西水軒(いすいけん) → 西水(いすい・菊池きくち、馬医) I 2 4 9 6
- 成遂軒(いすいけん) → 重威(しげのり・佐竹さたけ/中原、書博士/歌) O 2 1 5 3



- 醒醉軒(せいすいけん) → 賞七(粧七しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2  
清水舎(せいすいしゃ) → 賞七(粧七しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2  
生醒道人(せいすいどうじん) → 京水(きょうすい・池田いけだ、医者) O 1 6 1 3  
E2401 正嵩(せいそう) ? - ? 江前期上方の俳人、  
1673西鶴「生玉万句」第一神春発句入、  
[いでや此の世に生玉や神の春](神春発句)  
清崇(せいそう→きよたか・大槻) → 磐溪(ばんけい・大槻、儒/洋学者) 3 6 4 0  
清崇院(せいそういん) → 康定(やすさだ・松平/前田、藩主/歌人) 4 5 2 3  
成数堂(せいすうどう) → 修敬(しゅうけい・竹内、和算家) X 2 1 0 1  
I2497 勢助(せいすけ・松藤まつぶじ) ? - ? 江後期筑前の暦算家:小出兼政門、  
和田流円理学暦法の伝授を受、「側円周極秘解」伝  
N2499 清助(せいすけ・朝見あさみ) 1818- 1894 77 尾張春日井郡の生/印場村の庄屋、  
和漢学;朝見安彦門、書に長ず  
清助(せいすけ・新国/杉原) → 親清(ちかきよ・杉原、武将/合戦記) 2 8 7 8  
清助(清介せいすけ/きよすけ?・足立) → 稲直(いなお・足立あだち、国学/書) D 1 1 1 0  
清助(清甫/清介せいすけ・大高坂) → 芝山(しざん、大高坂おおかさか、藩儒/南学) D 2 1 7 1  
清助(せいすけ・岡田) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6  
清助(せいすけ・大隈) → 言道(ことみち・大隈、商家/歌人) 1 9 3 8  
清助(せいすけ・松岡) → 辰方(ときかた・松岡/丹比/酒井、故実家) J 3 1 0 4  
清助(せいすけ・中里) → 常嶽(つねおか・中里なかざと、商家/歌人) B 2 9 7 8  
清助(せいすけ・山口) → 鳴鶴(めいかく・山口やまぐち、儒者/詩人) 4 3 0 9  
清助(せいすけ・石塚) → 三昧(さんまい・石塚いしづか、書家) E 2 0 7 2  
清助(せいすけ・那須) → 賢直(よしなお・那須なす、藩士/絵師/歌) O 4 7 0 9  
清介(せいすけ・宮田) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5  
清介(せいすけ・原) → 松洲(しょうしゅう・原/大泉、儒者/藩士) S 2 2 9 3  
正助(せいすけ・豊) → 正助(しょうすけ・豊ゆたか、浄瑠璃作者) T 2 2 7 2  
政助(政輔せいすけ・奈河) → 政橋(せいきつ/せいさち・奈河ながわ、歌舞伎作者) 2 4 9 9  
誠助(せいすけ・団井) → 忠毅(ただよし・団井まるい、藩士/国学) Z 2 6 6 6  
C2440 世清(せいせい・斐はい) ?- ? 隋の使節/708. 4月小野妹子に伴われ来日/9月帰国(;書紀)  
C2441 正成(せいせい・中井) ? - ? 防州俳人、1669季吟「150番誹諧発句合」参、  
狂歌;1666行風「古今夷曲集」7首入  
N2444 青々(せいせい) ? - ? 備後福山の俳人;1727木而「藪の井」入  
I2498 声々(せいせい・松本まつもと、別号;秋山下) ?-1777 下総佐倉の医者/俳人、1777「秋の声」編  
I2499 声々(せいせい) ? - ? 京の俳人;島原連、1777蕪村「夜半楽」1句入、  
[凧に引くや夕がすみたつ処々ところどころ](夜半楽;53/凧揚げは子供の春の遊び)  
J2400 生々(せいせい・上田うえだ、名;元冲、檜林宗博2男) 1813-7563 母;伊東所女の篤(毛登)、京の生、  
幼時に両親に死別/外祖父伊藤東所に養育、上田元孝の養嗣子、儒(伊藤家家学);東所門、  
医;元孝門、養父元孝の跡を継承;聖護院宮の侍医、法橋/法眼、  
「説詩小言」「不句語」「素霊註解」「随園絶句抄」「平安猶及録」著、  
[生々(;号)の字/別号]字;大贏(だいえい、別号;一串居士/法自然庵  
C2442 青々(せいせい・竹内たけうち、玄々一げんげんいち男) ?-? 江戸京橋西鍛冶町の俳人、  
盲目の父に代りに執筆;1816玄々一「俳家奇人談」刊序、32玄々一「続俳家奇人談」刊  
N2481 正声(せいせい・植村うゑむら) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[野に山にしぐるる蟬の声すなりもみづる秋やちかづきぬらん]、  
(大江戸倭歌;夏591/蟬声秋近)  
N2484 正正(せいせい・三井みつ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[吹く風に鳴く音も澄みて聞ゆなり月おもしろき庭のまつむし]、  
(大江戸倭歌;秋794/月前虫)  
J2401 政世(せいせい・服部はつとり) ? - ? 儒者/詩文;1864中根東里「東里外集」編/65重刊  
済政(せいせい・源) → 済政(なりまさ・源、箏/蹴鞠/歌人) I 3 2 1 2

成清(静清せいせい) → 成清(静清じょうしょう) N 2 1 7 8  
 成政(せいせい・細川) → 成政(なりまさ・細川ほそかわ、俳人) K 3 2 0 9  
 成政(せいせい・安岡) → 成政(なりまさ・安岡わやすおか、神職/歌人) P 3 2 1 5  
 清々(せいせい・浅野) → 譲(ゆずる・浅野あさの、医者/歌人) G 4 6 0 6  
 清成(せいせい) → 清成(しょうじょう、平安期社僧/歌人) N 2 1 7 0  
 清成(せいせい・竹田/内藤) → 清成(きよなり・内藤、幕臣/日記) Q 1 6 0 6  
 清成(せいせい・上木) → 清成(きよなり・上木うわぎ、酒造業/国学) Q 1 6 0 7  
 清生(せいせい→きよなり・喜早) → 清主(きよぬし・喜早きそ/度会、神職/国典) Q 1 6 0 8  
 清生(せいせい・杉原/御巫/福井/秦) → 清生(きよなり・御巫みかんなぎ、神職/詩歌) P 1 6 6 2  
 清生(せいせい・今井) → 惟恭(いきよう・今井、藩士/歌) J 1 1 5 2  
 清生(せいせい・木場) → 清生(きよふ/きよお・木場こは、藩士/歌人) U 1 6 3 3  
 清世(せいせい・富和) → 清世(きよつぐ・富和とみわ、国学者/歌) U 1 6 8 7  
 清静(せいせい・前田) → 斉広(なりなが・前田まただ、藩主/謡曲) H 3 2 8 8  
 晴星(せいせい) → 水国(すいこく・雲津、俳人) 2 3 5 4  
 静性(せいせい) → 静性(じょうしょう; 法諱、天台僧) J 2 2 8 5  
 静清(せいせい; 法名) → 為和(ためかず・冷泉[上冷泉]、廷臣/歌人) 2 6 5 7  
 生々(せいせい) → 千那(せんな; 号、明式、本願寺派僧、俳人) 2 4 3 6  
 生々(せいせい・瑞馬) → 常庸(じょうよう・山口、俳人/戯作者) B 2 2 8 9  
 生成(せいせい・万年堂) → 生成(いきなり・万年堂、狂歌師) F 1 1 1 9  
 生静(せいせい・紀/山科) → 生静(たかきよ・山科やましの、紀、廷臣/記録) L 2 6 8 0  
 正生(せいせい・津田) → 正生(まさなり・津田つだ、商家/地誌家) F 4 0 4 0  
 正生(せいせい・跡部/武田) → 正生(まさなり・武田/跡部、藩士/天狗党) 4 0 1 6  
 正成(せいせい・楠木) → 正成(まさしげ・楠木、後醍醐天皇の武将) C 4 0 6 7  
 正成(せいせい・服部) → 正成(まさなり・服部半蔵、武将; 伝説化) K 4 0 9 6  
 正成(せいせい・成瀬) → 正成(まさなり・成瀬、武将/家老/城主) F 4 0 3 8  
 正成(せいせい・針谷) → 夕雲(せきうん・針谷はりがや、剣術家) J 2 4 9 3  
 正成(せいせい・山中) → 善右衛門(ぜんえもん・鴻池、商家/俳人) L 2 4 7 5  
 正成(せいせい・沢田) → 由健(ゆうけん・沢田さわだ、俳人) B 4 6 4 0  
 正成(せいせい・岡本) → 花亭(かてい・岡本おかもと、幕臣/詩人) C 1 5 5 7  
 正政(せいせい・津江) → 四谷庵月良(よつやあんつきよし; 号、幕臣/狂歌) I 4 7 1 6  
 正誠(せいせい・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師) H 3 1 1 1  
 正誠(せいせい・中田) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3  
 正誠(せいせい・田中) → 春回(しゅんかい・田中、藩儒/医者) Z 2 1 5 2  
 正誠(せいせい・山地) → 蕉窓(しょうそう・山地、山路、儒者/詩) T 2 2 9 9  
 正誠(せいせい・多々羅) → 正誠(まさのぶ・多々羅たたら、医者/歌人) Q 4 0 6 2  
 正征(せいせい・北川/栗生) → 正征(まさゆき・北川/栗生あお、藩士/国学) M 4 0 9 6  
 正世(せいせい・河崎) → 正世(まさよ・河崎かわさき、神職/国学者) P 4 0 0 5  
 正精(せいせい・阿部) → 正精(まさきよ・阿部あべ、藩主/書画/歌) L 4 0 5 9  
 正精(せいせい・野村) → 蛙水(あすい・野村のむら、藩侍医/歌人) I 1 0 2 6  
 正清(せいせい) すべて → 正清(まさきよ)  
 正晴(せいせい・寺田) → 正晴(まさはる・寺田てらだ、書肆) G 4 0 4 0  
 正晴(せいせい・田中) → 正晴(まさはる・田中たなか、国学者/歌人) Q 4 0 5 8  
 正晴(せいせい・山本) → 正晴(まさはる・山本やまもと、商家/歌人) T 4 0 5 7  
 正静(せいせい・保科) → 正静(まさやす・保科ほしな、幕臣/記録) I 4 0 0 3  
 正静(せいせい・鈴鹿) → 正静(まさしず・鈴鹿すずか、廷臣/故実家) Q 4 0 3 7  
 正静(せいせい・椿) → 正静(まさしず・椿つばき、神職/国学/歌) Q 4 0 9 7  
 正靖(せいせい/まさのぶ・村尾) → 嘉陵(かりよう・村尾、幕臣/紀行文) P 1 5 7 3  
 正聖(せいせい・宮) → 栗園(りつえん・宮みや、神職/国学者) B 4 9 5 8  
 正盛(せいせい) すべて → 正盛(まさもり)

政世(せいせい/まさよ・服部) → 甫庵(ほあん・服部はつとり、医者) 3 9 0 4  
 政成(せいせい・源) → 政成(まさしげ・源、廷臣/歌人) C 4 0 6 5  
 政成(せいせい・内藤) → 政成(まさしげ・内藤ないとう/井伊、藩主) L 4 0 9 0  
 政成(せいせい・千村) → 政成(まさなり・千村ちむら、歌人) Q 4 0 9 0  
 政成(せいせい・宮脇) → 政成(まさなり・宮脇みやわき、郡代/詩歌人) T 4 0 0 4  
 政誠(せいせい・細川) → 政誠(まさなり・細川/源、室町幕臣/歌) F 4 0 3 6  
 政声(せいせい・靱山/久米) → 駿公(しゅんこう・久米/靱山、藩士) M 2 1 8 0  
 征成(せいせい・滝川) → 征成(ゆきしげ・滝川たきがわ、藩士) E 4 6 5 1  
 世誠(せいせい・田中) → 散木(さんぼく・田中たなか、藩士/儒者) G 2 0 1 6  
 盛正(せいせい・生島) → 盛正(もりまさ・生島いくしま、歌人) I 4 4 8 3  
 盛正(せいせい・富樫) → 盛正(もりまさ・富樫とがし、藩医/国学) K 4 4 6 8  
 盛清(せいせい・源) → 盛清(もりきよ・源、廷臣/歌人) F 4 4 3 5  
 盛清(せいせい・菊地) → 良仙(りょうせん・菊地さくち、医者) I 4 9 5 6  
 盛征(せいせい・河内) → 盛征(もりゆき・河内かわうち、藩士/国学者) G 4 4 7 8  
 盛征(せいせい・中島) → 盛征(もりゆき・中島なかじま、商家/歌人) K 4 4 7 8  
 青々(せいせい・砂山) → 抱亭五清(ほうていごせい、絵師) C 3 9 3 6  
 青生(せいせい・市川) → 東谿(とうけい・市川、商家/絵師) D 3 1 1 5  
 声々(せいせい) → 祐阿(ゆうあ・時雨庵、商家/俳人) 4 6 5 0  
 斉政(せいせい・中尾) → 斉政(なりまさ・中尾なかお、和算家) I 3 2 1 5  
 斉政(せいせい・池田) → 斉政(なりまさ・池田、藩主/日記) I 3 2 1 6  
 惺々(せいせい・川合) → 清丸(きよまる・川合かわい、神職/思想家) T 1 5 9 6  
 醒世(せいせい) → 京伝(きょうでん・山東、黄・洒本) 1 6 3 7  
 井井(せいせい、俳名) → 一斎(いっさい・井筒、歌舞伎作者) C 1 1 7 9  
 性盛(せいせい;法諱) → 性盛(しょうせい/しょうじょう;法諱、真言僧) K 2 2 2 5  
 誠清(せいせい→のぶきよ・雨森) → 芳洲(ほうしゅう・雨森あめのもり、朝鮮外交/詩文) 3 9 5 6  
 誠政(せいせい・鈴木) → 誠(まこと・日下くさか、和算家) 4 0 7 8  
 菁々(せいせい・鈴木) → 其一(きいつ・鈴木すずき、絵師) E 1 6 9 5  
 萋々(せいせい・那須) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4  
 青々庵(せいせいあん) → 鳳原(ほうげん・杉本、俳人) F 3 9 0 9  
 霽々庵(せいせいあん) → 鷺眠(ろみん・後藤ごとう、俳人) C 5 2 4 3  
 清世一閑人(せいせいいつかんじん) → 南海(なんかい・近藤こんどう、儒者) I 3 2 6 2  
 清世逸人(せいせいいつじん) → 立軒(りっけん・増田ますだ、儒者/著述) B 4 9 7 2  
 清世逸民(せいせいいつみん) → 長温(ひさよし・鈴木すずき、商家/俳・歌人) J 3 7 9 7  
 青々園蕪坊(せいせいえんぶぼう) → 蕪坊(ぶぼう・青々園、狂歌) D 3 8 7 1  
 清々翁(せいせいおう・貝原) → 和軒(わけん・貝原かいばら、儒者/詩文) 5 3 2 0  
 清々翁(せいせいおう・川島) → 栗斎(りつさい・川島かわしま、儒者) B 4 9 9 0  
 晴々翁(せいせいおう) → 白玉(はくぎよく、正親町公通、神道、狂歌) 3 6 0 8  
 正々館(せいせいかん) → 永年(ながとし・高木たかぎ、伊勢神道家) E 3 2 8 2  
 青々観(せいせいかん) → 可兮(かけい・蔭山かげやま、俳人) K 1 5 7 0  
 星晴観(せいせいかん) → 素弓(そきゅう・関田せきた、俳人/紀行文) J 2 5 4 1  
 C2443 惺々晧斎(せいせいぎょうさい) ? - ? 絵師、1845-71「釈迦八相倭之庫」画、-85「同・続編」画  
 生々斎(せいせいさい) → 宗栄(そうえい・久田ひさだ;初世、茶人) B 2 5 6 6  
 醒々斎(せいせいさい) → 京伝(きょうでん・山東、戯作者) 1 6 3 7  
 萋々斎(せいせいさい) → 資礼(すけひろ・那須/藤原/佐竹、幕臣) C 2 3 6 4  
 青々斎(せいせいさい) → 光琳(こうりん・尾形おがた、絵師) C 1 9 0 8  
 清々斎(せいせいさい) → 義透(よしとく・今宮いまみや、藩家老/記録) D 4 7 7 4  
 惺々斎(せいせいさい) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5  
 惺々子(せいせいし・藤原) → 惺齋(せいさ・藤原、儒者) 2 4 0 3  
 惺々子(せいせいし;号) → 瑞巖(ずいがん;道号・宗頊、臨濟僧) E 2 3 3 0  
 贅世子(せいせいし) → 維則(これのり・西田、儒者/白話翻訳) O 1 9 6 9

生々舎(せいせいしゃ) → 都良(とりよう・生々舎、俳人) R 3 1 9 2  
 清清舎(せいせいしゃ) → 雪窓(せつそう・五弓ごきゆう久文、国学/儒) E 2 4 5 1  
 青々処(せいせいしょ) → 卓池(たくち・鶴田、俳人) E 2 6 2 8  
 青々処(2世せいせいしょ) → 流芝(りゅうし・鈴木すずき、卓池門俳人) E 4 9 4 8  
 生々瑞馬(せいせいずいま) → 常庸(じょうよう・山口、俳人/戯作者) B 2 2 8 9  
 青々卓池(せいせいたくち) → 卓池(たくち・鶴田つるた、紺屋/俳人) E 2 6 2 8  
 井々堂(せいせいどう) → 懋斎(ぼうさい・人見/小野/野/藤田、儒者/藩士) 3 9 8 9  
 井井堂(せいせいどう) → 一斎(いっさい・井筒、歌舞伎作者) C 1 1 7 9  
 青々堂(せいせいどう) → 白亀(はつき・平尾ひらお、商業/俳人) F 3 6 1 0  
 静正堂(せいせいどう) → 盛恭(せいきよう・秋山あきやま、藩儒者) H 2 4 9 2  
 生々堂(せいせいどう) → 琴溪(きんけい・中神なががみ、医者) Q 1 6 8 2  
 箐青堂(せいせいどう→しょうせいどう) → 晋流(晋柳しんりゅう・藤井/近藤、商家/俳人) 2 2 9 1  
 清静堂(せいせいどう) → 逸斎(いっさい・高倉、藩士/考証) H 1 1 1 5  
 青々林(せいせいりん) → 家熙(いえひろ・近衛、廷臣/書画) 1 1 5 9  
 生々廬(せいせいいる) → 常庸(じょうよう・山口、俳人/戯作者) B 2 2 8 9  
 晴々楼(せいせいろう) → 茂佐彦(もさひこ・三条/長山、絵師、狂歌) B 4 4 1 9

C2444 聖碩(せいせき・ト部うらべ、寿命院、兼長男)?-? 室町・安桃期律僧、歌人;公家月次歌会出詠、袖中抄書写

清石(せいせき・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0  
 正碩(せいせき・野村) → 素臺(そだい・野村のむら、藩医/俳人) K 2 5 7 0  
 正析(せいせき・勝部) → 青魚(せいぎよ・勝部/勝、医者/儒/俳人) B 2 4 0 1  
 正積(せいせき・曾我部) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2  
 正績(世績せいせき・中島) → 竜橋(りゅうきょう・中島なかじま、藩士/儒者) D 4 9 3 6  
 世碩(せいせき・山田) → 静里(せいり・山田やまだ、商家/儒/歌) J 2 4 7 6  
 成績(せいせき・武藤) → 吉紀(よしり・武藤むとう、藩儒者/侍講) F 4 7 8 7  
 青石洞(せいせきどう) → 振洋(しんよう・上甲じょうこう、藩儒/教育) Q 2 2 0 1

C2445 誠拙(せいせつ;道号・周樗しゅうちよ;法諱、伊予の鍛冶職堀田平左衛門男)1745-182076 父は生前に没、母;於七(於安)、伊予宇和郡の生/1751(7歳)臨濟宗仏海寺の靈印不昧門;出家、武蔵永田宝林寺の月船禅慧門/峨山慈棹に参禅/東山周朝門;嗣法、1814円覚寺189世住持;同寺の宗旨復興;円覚寺を統率、歌:香川景樹門、1815「誠拙禅師歌集」、「誠拙禅師語録」「大用国師詩歌集」「大用国師日記」著、「忘路集」「虚行実記」「臨濟密鈔」「正法眼」著、「雲門関」編、[誠拙周樗の号]号;無用道人/不顧/碧照、諡号;大用国師

J2402 清節(せいせつ・村上むらかみ、名;彦、随憲3男)1838-64処刑27歳 上州佐位郡境町の儒者;安井息軒門;経史修学、兵書に通ず、勤王派;志士と奔走/1863幕吏に捕縛;64処刑、宗俊の弟、「睡余録」「家言録」著、「清節遺稿」、[清節(;号)の通称/別号]通称;俊平、別号;点狂生/九洞山人/牛背学人、法号;義光院、変名;桜山五郎

青節(せいせつ・上里) → 済(わたる・上里こうざと、神職/国学) 5 3 8 3  
 清拙(せいせつ;道号) → 正澄(しょうちよう;法諱、清拙、渡来临濟僧) U 2 2 2 4  
 靖節(せいせつ・小田島) → 允武(まさたけ・小田島おだじま、書肆/国学) O 4 0 1 2  
 聖説(せいせつ、法名) → 忠説(ただとき・日下部、連歌) F 2 6 3 6  
 晴雪(せいせつ・成瀬) → 当職(まさもと・成瀬なるせ、藩士/詩人) H 4 0 9 5  
 靖節先生(せいせつせんせい) → 鹿城(ろくじょう・華岡はなおか、医者/清洲の弟) 5 2 9 4  
 晴雪窓(せいせつそう) → 徳風(とくふう・富田、儒/国学者) L 3 1 3 3  
 清拙道人(せいせつどうじん) → 小溪(しょうけい;道号・紹怱、臨濟僧) I 2 2 1 5  
 晴雪楼(せいせつろう) → 尚賢(なおかた・猪瀬いのせ、書家/歌/俳人) 3 2 9 9  
 晴雪楼(せいせつろう) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3  
 晴雪楼(せいせつろう) → 三溪(さんけい・菊池、幕府儒官/随筆) 2 0 5 0

02489 晴専(せいせん;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、

歌人;1237刊[檜葉集]入、

[さらに又ふゆごもれとやちる花の雪とふりしくみよしのの山](檜葉;雑783)

- J2403 靖泉(せいせん・柳川やながわ) ? - ? 江前期京小川通中立売上ルの医者;養寿院道作門、大准后医/法橋、「方円心法鍼科發揮」著
- J2405 青千(せいせん・景山がげやま/初姓;田中、名;光躬) 1711-7969 美作勝山の俳人:淡々門/文台を受領、堂上家より潦湖斎号を受、勝山俳壇の隆昌に貢献、1767「其垣」編/「文塚集」著、「蛙経」著、[青千(;号)の字/別号]字;成行、別号;芦卿/螻蛄才/柳々人/愛紫/潦湖斎らうこさい
- C2446 清泉(せいせん) ? - ? 江中期江戸の俳人;宗匠/其角座点者、1752「江戸十余歌仙」入・1754竹翁「童の的」評点句入
- J2406 青銭(せいせん) ? - ? 加賀金沢の俳人;1776樗良「誹諧月の夜」1句入、[鳴かてよきに霜の衣に鹿の声](月の夜;163/霜の衣は霜の一面に降りている状態)
- C2447 星川(せいせん・本庄/本莊ほんじょう、守正の長男) 1774or86-1846or58 筑後上妻郡山内村の儒者、儒;17歳の時高山茂太郎畏斎門/1809江戸の古賀精里門;昌平饗寮長/1814帰郷;川崎塾を創設/名声高し;筑後久留米藩の浪人格/1822久留米藩儒員/37藩校明善堂助教、朱子学を教授;実学を奨励;農業生産発展に尽力、「星川在江文集」「星溪在江詩稿」「川崎堂詩集」「東行日記」「青山茶話」「会輔堂記」著、「防火狂議」「学制私議」著、「輔導規範」編、外著多数、[星川(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;直太郎、名;一兼/一謙/謙、字;撫き/孟撫、通称;一郎/斉一郎、別号;星溪/熊溪ゆうけい/鈍窩/吾憂也斎/礼憂也斎れいゆうやさい
- J2407 清泉(せいせん・中なか、名;豹、勝村昌方3男) 1783-184765 讃岐丸亀藩士の生/儒者;藩儒渡辺柳斎門、江戸の尾藤二州・古賀精里門/昌平饗舎長、帰国;中家の養子、藩儒、1813馬廻役兼藩校正明館助教/教授・表儒者・使番役を歴任/1830側儒者「清泉詩文集」「論語集説」「易経本義集説」著、[清泉(号)の字/通称]字;文蔚ぶんうつ、通称;主膳
- J2409 清泉(せいせん・上林かんばやし、名;景命、金森台州男) 1801-7070 美濃藩士の家の生/初め僧;園城寺入、還俗;朝倉帯刀と称し桂宮家に出仕、1828上林牛加の養嗣子、宇治茶師、熊谷直好と交流、1858白川福泉坊に隠居、家系図を整備/絵画彫刻を嗜む、茶の枯木を以て宇治人形を創作、1837「嘉木志」、「東海道見聞記」「茶の昔話絵図」著、[清泉(;号)の通称/別号]通称;朝倉帯刀(;一時)/牛加(;養父を継承)、別号;楽只軒
- 正宣(せいせん/まさのぶ・香田) → 朋水(ほうすい・香田こうだ、俳人) B 3 9 8 6
- 正宣(せいせん・山川) → 正宣(まさのぶ・山川やまかわ、商家/国学者) F 4 0 7 9
- 正宣(せいせん・桜井) → 房光(ふさみつ・桜井さくらい、国学/勤王/) I 3 8 3 0
- 正宣(せいせん・村田) → 正宣(まさのぶ・村田むらた/検本、藩士/国学) T 4 0 1 1
- 正占(せいせん・片岡) → 正占(まさうら・片岡かたおか/平田、国学/神道) O 4 0 8 5
- 正線(せいせん・沢田) → 蚕臥(さんが・沢田さわだ、俳人) L 2 0 8 6
- 政宣(せいせん・明智) → 政宣(まさのぶ・明智あけち/源、幕臣/連歌) F 4 0 5 1
- 政宣(せいせん・中川) → 政宣(正宣まさのぶ・中川、弓術家) F 4 0 5 7
- 政宣(せいせん・橋本) → 政宣(まさのぶ・橋本はしもと/藤原、国学者) R 4 0 7 5
- 性潜(せいせん→しょうせん・竜溪) → 竜溪(りゅうけい・性潜、黄檗僧) H 4 9 2 1
- 性仙(せいせん;法諱) → 道空(導空どうくう;字・性仙、浄土僧) C 3 1 9 5
- 西川(せいせん/さいせん;道号) → 宗恂(そうじゆん;法諱・西川、臨濟僧) H 2 5 8 8
- 清千(せいせん・大原) → 山清(さんせい、大原おおはら、神職) M 2 0 4 5
- 清占(せいせん・岡村) → 不卜(ふぼく・岡村おかむら、俳人) D 3 8 7 2
- 清先(せいせん・小寺) → 清先(きよさき・小寺、国学者) D 1 6 1 5
- 清川(せいせん・七条) → 文堂(ぶんどう・七条/藤原、医者/歌) G 3 8 3 0
- 晴川(たけのぶ・狩野) → 養信(おさのぶ/たけのぶ・狩野かのう、絵師/歌) D 1 4 7 2
- 清泉(せいせん・石原) → 蒙(もう・石原いしはら、医者) 4 4 3 9
- 清宣(せいせん・花輪) → 伝兵衛(でんべえ・花輪はなわ、和算家) E 3 0 2 2
- 清宣(せいせん・賀茂) → 清宣(きよのぶ・賀茂/岡本、神職/歌人) D 1 6 4 8
- 清宣(せいせん/きよのぶ・越智/松平) → 清武(きよたけ・松平/越智、藩主) P 1 6 8 2

- 清宣(せいせん・鎮西ちんぜい) → 靱の屋(もみのや、鎮西清宣きよのぶ、神職/国学) E 4 4 9 6  
 清詮(せいせん・大平) → 俊治(としはる・大平おだいら/藤原、神職/歌) U 3 1 5 1  
 齊宣(せいせん・島津) → 齊宣(なりぬぶ・島津しまづ、藩主/詩歌) H 3 2 9 4  
 聖詮(せいせん;法諱) → 聖詮(しょうせん;法諱、華嚴僧) K 2 2 3 6  
 J2410 成全(せいぜん・じょうぜん;法諱) ? - ? 平安末鎌倉期の僧;阿闍梨、歌人;  
 1191若宮社歌合参加(顕昭判)、  
 [鶯にそまたつことも忘られて我も谷より出でぬべきかな](若宮歌合;九番右18)  
 正全(せいぜん) → 正全(しょうぜん、歌人) K 2 2 4 1  
 正前(せいぜん・野田) → 千藤(ちもと・野田のだ/岩神/波多/秦、国学) N 2 8 2 8  
 正善(せいぜん;号) → 正善(しょうぜん;号、連歌師) K 2 2 4 2  
 正善(せいぜん・茂木) → 義範(よしのみ・茂木もてぎ/源/小田、武将/連歌) F 4 7 7 8  
 正善(せいぜん・湯浅) → 正善(しょうぜん;法諱・湯浅、沙弥/歌人) V 2 2 5 8  
 正善(せいぜん・稲葉) → 正善(まさよし・稲葉いなば/大岡、藩主) N 4 0 7 4  
 正善(せいぜん・丸岡) → 正善(まさよし・丸岡まるおか/久米、神職/国学) S 4 0 7 9  
 政善(せいぜん・中村) → 政善(まさよし・中村なかむら、酒造業/歌人) M 4 0 0 3  
 成善(せいぜん・木本) → 成善(なりよし・木本きもと、藩士/神道家) L 3 2 8 2  
 性善(せいぜん;法諱) → 性善(しょうぜん;法諱・洞泉、真言僧) K 2 2 4 3  
 性善(せいぜん;法諱) → 性禅(しょうぜん;法諱・深勝房、華嚴僧) T 2 2 9 0  
 性禅((せいぜん;号) → 性禅(しょうぜん;号・藤村ふじむら、平曲家) K 2 2 4 6  
 清全(せいぜん・田所) → 出羽(でわ・田所たどころ、神職) D 3 0 0 7  
 静然(せいぜん;法諱) → 静然(じょうねん;法諱・戒光房、天台学僧) L 2 2 3 4  
 聖然(せいぜん;法諱) → 聖然(しょうねん;法諱、三論僧) L 2 2 3 1  
 聖禅(せいぜん;法諱) → 聖禅(しょうぜん;法諱、華嚴僧) K 2 2 3 9  
 誓禅(せいぜん) → 慧鑑(えがい・誓禅、真宗本願寺派僧) D 1 3 5 4  
 清潜庵(せいせんあん) → 治邦(はるくに・竹野、天文家/詩人) G 3 6 3 1  
 晴川院(せいせんいん) → 養信(おさのぶ・狩野かのう、幕府奥絵師/歌) D 1 4 7 2  
 性善院(せいぜんいん;法号) → 性善院(しょうぜんいん)  
 清線館(せいせんかん) → 廬朝(ろちよう・水野/源/水、幕臣/絵師/俳人) C 5 2 1 3  
 清川組(せいせんぐみ) → 清川組(きよかわぐみ;組連、雑俳/取次) H 1 6 2 1  
 井扇子(せいせんし) → 嘉敦(よしあつ・荒井あらい、神社研究) C 4 7 1 0  
 清泉亭(せいせんてい) → 美隆(よししたか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9  
 清泉堂(せいせんどう) → 録山(ろくざん・松田/源、銅版画師) 5 2 8 6  
 青蟾堂(せいせんどう) → 仙化(せんか・仙花せんか・青蟾堂、俳人) E 2 4 9 7  
 清素(せいそ・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5  
 C2448 清宗(せいそう) ? - ? 江前期俳人、1678二葉子「江戸通り町」発句入  
 C2478 成艸(せいそう) ? - ? 江前期俳人、1691不角「二葉之松」入(396)  
 C2449 青莊(せいそう・蒲坂はさか、名;円) 1775-183460 伊予西条藩士;致仕/江戸住;幕府賄方として出仕、  
 漢学者;井上四朗門/のち松崎観海門;宋学を修学、「韓非子纂聞」「韓非子諸註提要」著、  
 「大学考」「国語考」「孟子考」「戦国策考」「晏子孫音補正」「墨子呂覽畢校補正」著、  
 「荀子謝校補正」「修文斎漫録」「修文斎十書」著、  
 [青莊(;号)の字/通称/別号]字;行方、通称;内蔵助/松沢金三郎、  
 別号;松阜/修文斎しゅうもんさい/修門斎/支散人/青山居士  
 C2450 醒窓(せいそう・恒遠ねとほ、名;和、景勝3男) 1803-6563 母;樽、豊前上毛郡薬師村の儒者;広瀬淡窓門、  
 長崎の高島秋帆家に寄寓;清人江芸閣と交流、1824帰郷;家塾自遠館(のち蔵春園)を開く、  
 1849肥前平戸藩主松浦曜の招聘で平戸で教育/1859上洛;西本願寺で書を講ず、  
 萩藩主毛利敬親の招聘;病で辞退、詩人、「醒窓文集」「学庸解」/1847・55刊「遠帆楼詩集」著、  
 [醒窓(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;和市、字;子遠/眞卿、通称;頼母たのも、  
 別号;求溪/轟谷/櫟川/遠帆楼  
 02414 正徳(せいとう・佐久間さくま、) 1825-188359 下総香取郡の医者、国学;伊能穎則ひでのり門  
 青窓(せいそう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) F 4 0 8 2

晴窓(霽窓せいそう) → 湖十(7世こじゅう、木髪3世/俳人) C 1 9 8 8  
 成相(せいそう・寺村) → 成相(しげみ・寺村てらむら、藩士/歌人) S 2 1 7 3  
 正相(せいそう・浦田) → 正相(せいしょう/まさすけ・浦田、俳人) C 2 4 1 9  
 正相(せいそう・服部) → 豊山(ほうざん・服部はつとり、藩士/儒者) B 3 9 0 7  
 正相(せいそう・今村) → 正相(まさすけ・今村/源、藩士/兵法家) C 4 0 9 0  
 正宗(せいそう→しょうじゅう;道号)→ 龍統(りゅうとう;法諱・正宗;道号、臨濟僧/詩文) 4 9 1 1  
 正宗(せいそう・まさむね・成田/稲葉)→ 蚕水(さんすい・稲葉/成田、医者) E 2 0 4 3  
 霽荘(西荘せいそう) → 篁園(こうえん・野村のむら、儒者/詩人) 1 9 7 8  
 斉荘(せいそう・徳川/松平/田安)→ 斉荘(なりたか・徳川、藩主/紀行) H 3 2 4 8  
 斉宗(せいそう・伊達) → 斉宗(なりむね・伊達だて、藩主/歌人) I 3 2 3 0  
 盛宗(せいそう・大国) → 盛宗(もりむね・大国/荒木田、神職/国学) G 4 4 6 6  
 清相(せいそう・大岡) → 清相(きよすけ・大岡おおおか、幕臣) J 1 6 1 7  
 清相(せいそう・美代) → 清相(きよすけ・美代みしろ、藩士/歌人) V 1 6 3 5  
 清相(せいそう・田中) → 清相(きよすけ・田中、和算家) P 1 6 7 0  
 清叟(せいそう・黒田) → 清綱(きよつな・黒田くろだ/源、藩士/歌人) U 1 6 2 7  
 清爽(せいそう・岡村) → 御蔭(みかげ・岡村、神職/歌人) H 4 1 4 1  
 静窓(せいそう・片山) → 金弥(きんや・片山かたやま、天文暦学者) R 1 6 9 3  
 聖聡(せいそう) → 聖聡(しょうそう;法諱、浄土僧) T 2 2 9 7

J2411 清蔵(せいぞう・布屋ぬのや) ? - ? 江後期大阪亀井町の文筆家、  
 1809「懐中雑書さいわひ袋」著

J2412 誠蔵(せいぞう・皆川みながわ、名;善、河原辰男)?-? 江後期京の儒者;皆川篁斎[1762-1819]の養嗣:  
 篁斎の5人の子は皆夭逝/養子も早世のため誠蔵が嗣となり家学を継承、丹波亀山藩儒、  
 「投壺礼肆儀」著、誠蔵(;通称)の字;子継

D2420 清蔵(せいぞう・船越ふなこし、孟正男)1805-6258 長門清末藩(長府新田藩)藩士、儒;藩校育英館入、  
 豊後の帆足万里・広瀬淡窓門、長崎で蘭学修学/1837江戸で開業/38蝦夷視察;国防開発主唱、  
 1842京で開塾;尊攘主唱/帰国;長門府中藩儒臣;萩明倫館などで教授、  
 萩からの帰途美祿絵堂で急死;毒殺説あり、「夷情憶測」「有造危言」「睡余録」「井蛙録」著、  
 [清蔵(;通称)の名/別通称/号/変名]幼名;宇吉/名;守愚(もりみ、別通称;清造、  
 号;豊浦/豊浦山樵、変名;小出勝雄

勢三(せいぞう・福田) → 籠松軒(ちようしょうけん・福田、歌舞伎作者) I 2 8 9 9  
 清三(せいぞう・大隈) → 言志(ことゆき・大隈おおくま、商家/歌人) Q 1 9 5 1  
 清三(せいぞう・木下) → 正賢(まさかた・木下きのした、商家/歌人) P 4 0 1 2  
 清三(せいぞう・倉科) → 希言(まれこと・倉科くらしな、歌人) P 4 0 4 6  
 清造(せいぞう・佐々木) → 吉雄(よしお・佐々木ささき、国学/歌人) M 4 7 9 9  
 清蔵(清三せいぞう・西尾/芝田)→ 温(はる・芝田/西尾にしお、儒者) F 3 6 9 4  
 清蔵(清三せいぞう・大隈/大熊)→ 言足(ことたり・大隈/大熊、商家/歌人) N 1 9 2 6  
 清蔵(せいぞう・永原/深田)→ 慎斎(しんさい・深田/永原、藩儒) O 2 2 3 8  
 清蔵(清造せいぞう・並木/金沢)→ 吾輔(ごすけ・金沢・並木、歌舞伎作者) D 1 9 0 5  
 清蔵(せいぞう・酉水すがい/原田)→ 東岳(とうがく・原田、藩士/儒者) C 3 1 1 7  
 清蔵(せいぞう・濱松) → 歌国(うたくに・濱松、歌舞伎作者/随筆) 1 2 6 7  
 清蔵(せいぞう・宮田) → 五溪(ごけい・宮田みやた、藩儒/詩人) G 1 9 6 5  
 清蔵(せいぞう・峰村) → 白斎(はくさい・峰村みねむら、農業/俳人) D 3 6 0 8  
 清蔵(せいぞう・大石) → 千秋((ちあき・大石おおいし、国学者/歌) B 2 8 0 1  
 清蔵(せいぞう・伊勢屋/勝間田)→ 茂野(しげの・勝間田かつまた、国学者) R 2 1 9 0  
 清蔵(せいぞう・衣八えはち?/釜屋)→ 時成(ときなり・若井、戯作者) J 3 1 6 6  
 清蔵(せいぞう・入江) → 石亭(せきてい・入江いりえ、書家/鑑定家) K 2 4 4 0  
 清蔵(せいぞう・中川) → 久恒(ひさつね・中川なかがわ、藩主/和学) K 3 7 3 5  
 清蔵(せいぞう・安達) → 清風(せいふう・安達あだち、藩士/砲術家) E 2 4 4 3  
 精蔵(せいぞう・古賀) → 竹堂(ちくどう・古賀こが、藩儒/教育) D 2 8 6 4  
 精蔵(せいぞう・鷺田) → 光時(みつとき・鷺田わした、金工) E 4 1 0 0

- 精蔵(せいぞう・山田) → 清壽(きよひさ・山田やまだ、医者/国学者) V 1 6 5 5  
 静蔵(せいぞう・石井) → 夏海(なつみ・石井いひ、絵師/狂歌) G 3 2 7 3  
 政蔵(せいぞう・安藤) → 冠里(かんり・安藤あんど、藩主/老中/俳) E 1 5 2 0  
 政蔵(せいぞう・桜井) → 雪鮮(せつせん・桜井さくらい、幕臣/絵師) L 2 4 1 3  
 政蔵(せいぞう・三島) → 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌家) I 4 0 3 0  
 政蔵(せいぞう・中村) → 良広(よしひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌) G 4 7 6 9  
 旌蔵(せいぞう・青木) → 鳳毛(ほうもう・青木/広瀬、藩儒者) C 3 9 6 0  
 盛増(せいぞう;法諱) → 盛増(じょうぞう;法諱、社僧) K 2 2 6 6  
 誠蔵(せいぞう・松崎) → 発(あきら・松崎まつさき、藩士/歌人) I 1 0 4 5  
 誠蔵(せいぞう・宮原) → 景賢(かげかた・宮原みやはら、国学/歌人) V 1 5 8 7  
 贅叟(ぜいそう) → 敬所(けいしよ・猪飼いかい、儒者) 1 8 7 3
- J2413 青叢庵(せいそうあん) ? - ? 江後期三河の俳人:卓池門?、西三河連中、  
 天保1830-44頃「狂俳叢書二篇」編
- 星霜庵(初世せいそうあん) → 白頭(はくとう、俳人) D 3 6 6 7  
 星霜庵(2世せいそうあん) → 畔李(はんにり・南部信房、藩主、俳人) I 3 6 6 0  
 清操院(せいそういん) → 岸子(きしこ・春日かすが/漢城、国学/歌) T 1 6 9 2  
 正宗大暁禪師(せいそうだいぎょうぜんじ→しょうしゅう) → 峰翁(ほうおう;道号・祖一、臨濟僧) 3 9 2 2  
 青葱堂(せいそうどう) → 冬圃(とうほ・青葱堂、商家/俳人/隨筆) H 3 1 1 3
- C2452 青艸堂岫人(せいそうどうしゅうじん) ? - ? 江中期大阪の雑俳点者、1756?「田刈笠」評入、  
 1757律中「耳勝手」入
- 齊荘室(せいそうのしつ・徳川) → 齊荘室(なりたかのしつ・徳川、日記) H 3 2 5 0
- C2453 正則(せいそく) ? - ? 江前期京喜田村の俳人、  
 1690言水「新撰都曲みやこぶり」「やぶれはゝき」入、  
 [春雨は四季を顕あらはす始はじめかな](都曲;409/四季展開の最初の現象)
- J2408 正側(せいそく・山川やまかわ) ? - ? 江後期;歌人、撰津池田の酒造業山川家の一族?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [一声にすぎの林のほととぎす山田の原に誰か聞くらん](大江戸倭歌;夏444/郭公一声)
- 正則(せいそく・福島) → 正則(まさのり・福島、武将/藩主/連歌) F 4 0 9 2  
 正則(せいそく・稲葉) → 正則(まさのり・稲葉いなば、藩主/幕政) F 4 0 9 7  
 正則(せいそく・中西) → 正則(まさのり・中西なかにし、和算家) F 4 0 9 6  
 正則(せいそく・松田) → 正則(まさのり・松田まつだ、和算家) G 4 0 0 0  
 正則(せいそく・太田) → 正則(まさのり・太田、幕臣) G 4 0 0 1  
 正則(せいそく・清水) → 正則(まさのり・清水しみず、兵学者) G 4 0 2 1  
 正則(せいそく・木村) → 正則(まさのり・木村きむら、藩士/歌人) P 4 0 1 8  
 正則(せいそく・進藤) → 正則(まさのり・進藤しんどう、神職/国学) Q 4 0 2 8  
 正則(せいそく・矢吹) → 正則(まさのり・矢吹やぶき/日笠、藩士/史家) T 4 0 3 2  
 正足(せいそく・黒田) → 正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌) D 4 0 6 8  
 正足(せいそく・酒居) → 正足(まさたり・酒居さかい、国学/歌人) Q 4 0 0 0  
 正足(せいそく・田代) → 正足(まさたり・田代たしろ/藤原、国学/歌) Q 4 0 0 1  
 政則(せいそく・赤松) → 政則(まさのり・赤松/本姓;源、武将/歌) F 4 0 9 0  
 清足(せいそく・田中) → 浄足(清足きよたり・田中、博士/詩人) D 1 6 3 4  
 清足(せいそく・賀茂) → 清足(きよたり・賀茂/岡本、神職) P 1 6 8 8  
 清足(せいそく・浅井/菊地) → 清足(きよたり・浅井あさい/菊地、庄屋/歌) T 1 6 3 9  
 清則(せいそく・岩井) → 笠沢(りゅうたく・岩井いわい/源、儒者) F 4 9 1 3  
 正統(せいぞく・跡部) → 臨谷(りんこく・跡部あとべ、藩士/稲作研究) K 4 9 2 6  
 正統(せいぞく・小原) → 千座(ちくら・小原おほら/立石、神職/歌) M 2 8 1 9  
 正統大宗禪師(せいぞくたいそうぜんじ) → 春浦(しゅんぼ;道号・宗熙;法諱、臨濟僧) L 2 1 8 6  
 正統大祖禪師(せいぞくたいそぜんじ) → 宗光(宗亨そうこう;法諱、臨濟僧) B 2 5 3 6  
 清素軒(せいそけん・廬) → 草拙(そうせつ・廬ろ、漢学/天文家) C 2 5 3 5
- C2455 正村(せいそん・浅井あさい) ? - 1711? 江前期和泉堺の俳人;貞門から談林に移る、



1656(明暦2)より俳書に入/宝永1704-11頃点者として活動、  
 1681「堺絹」94「青旦」1711「正村年賀」編、  
 1660頭成あきなり「境海草さかいぐさ」82風黒「高名集」入、91不角「若みどり」(西村名)入、  
 [鬼灯ほほつきや娘の好む玉の枝](高名集;外苞を剥いた鬼灯を数個割竹に挟み玩ぶもの)、  
 [正村(;号)の通称/別号]通称;長兵衛、別号;一鳥軒/東籬翁/胎下丸、法名;道寿

C2456 **青邨**(せいそん・広瀬ひろせ、名;範治、矢野安徳[安教]男)1819-8466 豊前下毛郡真坂村土田の人、  
 儒者;広瀬淡窓の咸宜園入門/1851師の養子/塾生指導;55咸宜園2代塾主、  
 広瀬旭荘の男林外に咸宜園を譲渡、1862豊後府内藩賓師に就任;藩校遊焉館の学政を督す、  
 林外・旭荘と三広瀬の鼎足教育と称さる、維新後京都府典事/のち東京牛込に東宜園開塾、  
 詩/書画を嗜む、「青邨日記」「撰西六家詩評」/評論「文章私稿」著、  
 [青邨(;号)の字/別号]字;世叔、別号;東宜園とうぎえん、諡号;文通先生

生存(せいそん・国分) → 高広(たかひろ・国分こくぶん、和算家) N 2 6 1 0  
 正存(せいそん・池田) → 正存(まさあり・池田/藤原、豪族/連歌/古典) B 4 0 2 0  
 正巽(せいそん・原田) → 靱山(てんざん・原田、漢学) D 3 0 6 2  
 正村(せいそん・蒲) → 正村(まさむら・蒲がま/長谷川、神職/国学) O 4 0 9 8  
 正村(せいそん・桃井) → 正村(まさむら・桃井ももい、藩士/歌人) T 4 0 1 9  
 正尊(せいそん・中村) → 忠亨(ちゅうてい・中村、藩士/儒者) G 2 8 6 4  
 政村(せいそん・北条) → 政村(まさむら・北条ほうじょう、執権/歌人) H 4 0 7 9  
 斉村(せいそん・伊達) → 斉村(なりむら・伊達だて、藩主/詩人) I 3 2 3 1  
 斉村(せいそん・多田) → 麦洲(ばくしゅう・多田ただ、医者/俳人) D 3 6 3 1  
 清尊(せいそん;法諱) → 清尊(しょうそん;法諱、天台園城寺僧) K 2 2 6 7  
 静存(せいそん;名) → 蓮阿(れんあ/れんな;法諱、真宗大谷派僧/歌) B 5 1 4 8

J2414 **成尊**(せいぞん・じょうそん;法諱、号;小野僧都、延命麻呂男)1012-7463 真言僧;小野の仁海門;出家、  
 1039伝法灌頂を受/曼荼羅寺を付嘱、1065頃愛染王法を修し尊仁親王の即位を祈祷、  
 後三条天皇として即位後;1069権律師/71東寺長者・権少僧都/72東寺法務、  
 「無明記」「観心月輪記」「心月輪記」「三密随聞記」「指帰一言鈔」「伝法灌頂訣疑鈔」外著多数

聖尊親王(せいそんしんのう) → 聖尊法親王(しょうそんほっしんのう、真言僧/歌人) U 2 2 0 6  
 精太(せいた・西郷) → 員著(かずあき・西郷さいごう、藩士/歌人) U 1 5 7 2  
 正兌(せいだ・檜垣/橋村) → 正兌(まさとき・橋村/度会、神職/国学) E 4 0 3 8  
 斉泰(せいたい・前田) → 斉泰(なりやす・前田、藩主/謡曲/狂歌) E 4 0 3 8  
 政泰(せいたい・大竹) → 政泰(まさやす・大竹おおたけ/平、神職/国学) O 4 0 3 4  
 清太(せいたい・大島) → 藍涯(らんがい・大島おおしま、儒;藩校助教) B 4 8 6 6

J2415 **静台**(せいたい・金谷かなや/本姓;源、名;尚)1721-5737 上州の儒者;細井平洲門、江戸で講説、  
 「静台遺稿」、  
 [静台(;号)の字/通称]字;子徳、通称;六右衛門

J2460 **成大**(せいたい・間瀬ませ) ? - ? 江後期;歌人、幕臣?、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[ありて世のはてのうければ人みなのをしむを時と花や散るらん](大江戸倭歌;春299)

正代(せいたい・高野瀬たかのせ) → 道廿(どうかん・高瀬、俳人) C 3 1 3 6  
 正代(せいたい・橋村) → 正代(まさよ・橋村はしむら/度会、神職/国学) R 4 0 6 4  
 正大(せいたい・牧) → 東海(とうかい・牧/橋、儒者/兵学/歌) B 3 1 9 1  
 成大(せいたい・江沢) → 養樹(ようじゅ・江沢えざわ/中島、医者) B 4 7 0 8  
 世大(せいたい・巽) → 遜斎(そんさい・巽たつみ、儒者) F 2 5 4 3  
 西台(せいたい・吉岡) → 安致(やすむね・吉岡よしおか、藩士) D 4 5 2 1  
 清泰院(せいたいいん) → 大姫(おおひめ・前田まえだ/松平/徳川、歌人) E 1 4 1 2

J2416 **青苔園**(せいたいえん) ? - ? 江後期大阪の魚商、海産物を絵入で記述:  
 1837「海川諸魚掌中市鑒」/49「魚貝能毒物品図考」著

西台藤侯(せいたいとうこう) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3  
 制多迦(せいたか・東南院) → 東南院制多迦(とうなんいんのせいたか、童/歌) X 3 1 2 8  
 正卓(せいたく・藤田) → 万樹(ばんじゅ・藤田ふじた、文筆家) H 3 6 9 1

正宅(せいたく・鎌田) → 広海(ひろみ・鎌田かまた/藤原、神職/国学) I 3 7 4 0  
 清濁庵(せいだくあん) → 超波(ちようは・清水、俳人) J 2 8 6 6  
 清沢上人(せいたくしょうにん) → 兼縁(けんえん; 法諱、真宗僧/蓮如男) H 1 8 9 5  
 西鐙廬舎(せいたくのや) → 完和(さだかず・清水しみず/中島、藩士/歌) O 2 0 6 0  
 正達(せいたつ・黒田) → 正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌) D 4 0 6 8  
 政達(せいたつ・浅井) → 政達(まさみち・浅井あさい/藤原、歌人) M 4 0 0 9  
 静達(せいたつ・山本) → 君清(くんせい・山本やまもと、医者) B 1 7 2 3  
 盛達(せいたつ/もりしげ・武藤) → 知足斎(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7  
 清大夫(せいだゆう・小島) → 礼重(敬重よししげ・小島/児島、藩士) D 4 7 6 2  
 清太夫(せいだゆう・土師) → 正庸(まさつね・土師はじ、書家/藩士) E 4 0 0 4  
 清太夫(せいだゆう・中西) → 信慶(のぶよし・中西/秦、神道/国学) D 3 5 8 4  
 清太夫(せいだゆう・戸田) → 勝武(かつたけ・戸田とだ、藩士) N 1 5 5 1  
 清太夫(せいだゆう・田中) → 桐江(とうこう・田中/田、儒者/詩人) D 3 1 7 2  
 清太夫(せいだゆう・甲斐) → 岷谷(みんこく・甲斐かい、儒者/詩人) G 4 1 8 1  
 清太夫(せいだゆう・森) → 光福(みつとみ・森もり、藩の儒者) E 4 1 0 4  
 清太夫(せいだゆう・松平) → 正喬(まさたか・松平/伊藤、庄屋/記録) D 4 0 2 1  
 清太夫(せいだゆう・竹原) → 惟貞(これさだ・竹原たけはら、藩士/故実家) O 1 9 3 1  
 清太夫(せいだゆう・鈴木) → 直徳(なおり・鈴木すずき、藩士/歌人) N 3 2 5 2  
 清太夫(せいだゆう・早川) → 文明(ふみあき・早川はやかわ、国学/歌人) D 3 8 7 9  
 清太夫(せいだゆう・井村) → 木菘(ぼくおう・井村、俳人) C 3 9 9 3  
 清太夫(せいだゆう・杉村) → 宗友(むねとも・杉村すざむら、神職/俳人) B 4 2 9 2  
 清太夫(せいだゆう・野城) → 白成(もとなり・野城のしろ、国学者) V 2 2 4 0  
 清太郎(せいたろう・敦賀屋) → 嘉三(かぞう・敦賀屋つるがや、薬種商/談義本作者) M 1 5 7 6  
 清太郎(せいたろう・伊勢屋) → 繁門(しげかど・壺星楼/大垣、狂歌) Q 2 1 8 4  
 清太郎(せいたろう・松下) → 葵岡(きこう・松下/葛山、幕臣/儒者) I 1 6 6 2  
 清太郎(せいたろう・岡田) → 清(きよし・岡田おかだ、藩士/国学/地誌) H 1 6 4 0  
 清太郎(せいたろう・木俣) → 守貞(もりさだ・木俣きまた、藩老/資料収集) J 4 4 8 3  
 清太郎(せいたろう・樋口) → 種実(たねみ・たねざね・樋口ひぐち、商家/国学) S 2 6 0 7  
 清太郎(せいたろう・芥川) → 丹丘(たんきゅう・芥川、儒者/華音) I 2 6 0 5  
 清太郎(せいたろう・角田すみだ) → 国貞(くにさだ・歌川うたがわ、絵師) B 1 7 5 0  
 清太郎(せいたろう・山本) → 晴海(はるみ・山本やまもと、砲術家) G 3 6 9 1  
 清太郎(せいたろう・竹内) → 保徳(やすのり・竹内たけうち、幕臣/外交) C 4 5 6 7  
 清太郎(せいたろう・西郷) → 員著(かずあき・西郷さいごう、藩士/歌人) U 1 5 7 2  
 清太郎(せいたろう・田辺) → 芳綱(よしつな・歌川うたがわ/田辺、絵師) E 4 7 7 2  
 清太郎(せいたろう・武知) → 方獲(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6  
 清太郎(せいたろう・鈴木) → 貞寧(さだやす・鈴木すずき、国学/歌人) O 2 0 7 2  
 清太郎(せいたろう・玉井) → 春枝(はるすえ・はるしげ・玉井たまい、神道/国学) K 3 6 4 3  
 静太郎(せいたろう・山内) → 繁憲(しげのり・山内やまうち、商家/国学/神職) Z 2 1 9 4  
 静太郎(せいたろう・南部) → 麿男(みかお・南部なんぶ、勤王家) H 4 1 3 9  
 政太郎(せいたろう・福島) → 水樹(すいじゅ・福島ふくしま、俳人) E 2 3 6 4  
 政太郎(せいたろう・森もり) → 敬典(たかのり・森もり/源、幕臣/歌人) U 2 6 2 5  
 政太郎(せいたろう・小林) → 長義(ながよし・小林こばやし、国学者) M 3 2 1 2  
 盛太郎(せいたろう・中島) → 米華(べいか・中島なかじま、藩士/儒者) 2 7 1 5  
 盛太郎(せいたろう・浅井) → 政紀(まさのり・浅井あさい、藩士/歌人) N 4 0 1 0  
 盛太郎(せいたろう・櫛淵) → 重之(しげゆき・櫛淵くしぶち、国学者/歌) O 2 1 2 9

J2417 正旦(せいたん: 通称・林はやし)?- ? 江前期伊勢医者: 按摩術を医学的見地から見直す、1648「導引体要」著

B2472 晴潭(せいたん・舟橋ふなはし、名; 徴)?-? 早世 江後期武蔵の儒者; 安積良斎・梁川星巖門、武州忍藩士山田家の臣/下総関宿藩に出仕、詩; 大窪詩仏門、「豁如軒詩集」「游豆記述」1854頃成島柳北邸に出入(硯北日録入)、

- [晴潭の字/通称/別号]字;秋月、通称;八三郎、別号;豁如軒かつじょけん
- C2457 **世潭**(せいたん・中村なかむら/旧姓;服部)1755-1834<sup>80</sup> 江中後期儒者;中村備門;養子/土佐藩の教授、私塾桃李館を開く、鹿持雅澄(1791-1858)の師、世潭(;名)の通称;隆蔵  
 正但(せいたん・有田) → 正但(まさただ・有田ありた/石井、医者/歌) N 4 0 2 5  
 正端(せいたん・小野) → 損庵(そんあん・小野おの、藩士/儒/詩文) B 2 5 4 4  
 清潭(せいたん・竹内) → 貞基(さだもと・竹内たけのうち/山本、航海術) J 2 0 9 4  
 聖誕(せいたん・高梨) → 紅葉(こうよう・高梨たかなし/高、儒者/詩) L 1 9 4 9  
 政坦(せいたん・松島) → 北渚(ほくしょ・松島まつしま、儒/医者) D 3 9 4 5  
 性湛(せいたん→しょうたん;法諱) → 月心(げっしん;道号・性湛、臨濟僧) H 1 8 1 1  
 清談林主人(せいだんりんしゅじん) → 晩得(ばんとく・佐藤、俳人/隨筆) I 3 6 4 4
- C2461 **棲智**(せいち;道号・慧開えかい;法諱)?-1775 曹洞僧;天産靈苗門;法嗣、但馬大聖庵3世、師の行業を撰す、「但馬州大聖菴開山天産老和尚行業」「普照国師並門下諸師尺牘」編
- J2418 **星池**(せいち・伊勢屋幾次郎)?- ? 安永天明期1772-89頃江戸豪商/十八大通の1
- J2419 **星池**(せいち・秦はた、名;其馨)1763-1823<sup>61</sup> 江後期江戸の書家;松平平陵門、肥前長崎で清人胡兆新門、楷書・行書に長ず、大窪詩仏・菊池五山と交流、1814「清風帖」1813-21「和漢対照書札」書、「崎陽雜記」「渾筆眞證」「崎館書論」著、外書多数、[星池(;号)の字/通称/別号]字;子馨しけい、通称;源蔵、別号;菊如斎
- J2420 **精知**(せいち・広田ひろた)1828 - 1886<sup>59</sup> 江戸の俳人;為山門、信州長野に移住、1863信濃飯田で貸本業/版下書きも兼業、俳諧の指導・普及に尽力、維新後1872東京帰京、1859「絵入発句集」「とくさかり」編、外著多数、[精知(;号)の別号]はる雄(;初号)/四時庵/語石庵  
 正知(せいち・村山) → 正知(まさとも・村山むらやま、剣術家) E 4 0 6 7  
 正知(せいち・有馬/岸) → 正知(まさとも・岸/有馬、神道/国学/歌) E 4 0 7 1  
 正致(せいち・中根) → 正朝(まさとも・中根なかね、幕臣/神道/歌) U 4 0 1 7  
 正致(せいち・岩田) → 涼菴(りょうと・岩田/神風館3世、俳人) 4 9 2 1  
 政知(せいち・足利) → 政知(まさとも・足利/堀越公方、武将) E 4 0 6 3  
 政知(せいち・関屋) → 政知(まさとも・関屋せきや、藩士/記録) E 4 0 6 8  
 政知(せいち・田中) → 政知(まさとも・田中たなか、藩士/歌) L 4 0 6 7  
 政致(せいち・河田) → 政致(まさむね・河田かわだ、藩士/歌人) H 4 0 7 8  
 政智(せいち・東) → 政隆(まさたか・東あずま、藩士/歌) N 4 0 1 8  
 政智(せいち・東/南部) → 政智(まさとも・南部なんぶ/東あずま、家老/歌) E 4 0 7 5  
 成知(しせいち・松本/佐藤) → 麟趾(りんし・佐藤/松本、儒者) K 4 9 3 9  
 性智(せいち;法諱) → 性智(しょうち;法諱、大徳寺臨濟僧) U 2 2 1 2  
 清稚(せいち・冷泉/天野) → 御民(みたま・天野あまの/藤原/冷泉、藩士) B 4 1 0 2  
 清痴(せいち;号) → 宗興(しゅうこう;法諱、真宗本願寺派僧) X 2 1 2 2  
 清痴(せいち・黒沢) → 道毅(みちたけ・黒沢くろさわ、神職/国学) J 4 1 0 2  
 清癡(せいち;号) → 淡雲(たんうん;法諱・佩石;字、真宗僧) T 2 6 1 6  
 清癡(せいち) → 大麓(だいりく・松浦、医者/詩人) C 2 6 4 2  
 静知(せいち・岸) → 静知(しずとも・岸さし、藩士/国学者) O 2 1 2 1
- C2458 **棲遅庵**(せいちあん・奥平おくだいら/本姓;源、名;定時、定恒男)1769-1850<sup>82</sup> 江戸桑名藩別邸の生、伊勢桑名藩士/1773桑名移住/74句詠;佐々木齋門/83儒者;市川如柳門、1790父と江戸へ、板倉震斎・日原坦斎と交流/1793上総の稲葉黙齋門・闇齋学派、桑名藩の文学兼侍詠:1810病で致仕、1823藩主奥平忠堯移封に伴い武州忍に移住、晩年は江戸住、1792「東聞録」、「性論諸説」「道学旨訣淵源説」「道学標的講義筆記」著、「総遊話録」編/「礪川遺書・拾遺」「奥平近藤二先生筆記」、1846「奥平先生大学講義」著、[棲遅庵(;号)の通称/別号]通称;剛次郎/幸次郎、別号;玄甫/玄圃、法号;棲遅院  
 清池院(せいちいん) → 匡(くくに・松平まつだいら、藩主室/歌人) E 1 7 5 2
- J2421 **世竹**(せいちく・金森かなもり、分字男)?-? 江後期文化文政1804-30頃陸中一関の俳人、才良の孫/3代続き白居系俳人、1807「もとの露」10「双飛集」編、「霜の蜂」・夢南「茶すり小木こぎ」・「みかさねの滝」・「うきみのかつら」などに入集、

[世竹(；号)の通称/別号]通称;利三郎、別号;此君亭しくんてい

J2422 井竹(せいちく・服部はつとり、花屋庵の妻)?-? 江後期大阪の俳人;井眉門、  
花屋庵(菅沼奇淵[1765-1834]か?)と結婚、1857「なゝふししふ」編、  
[井竹(；号)の別号]井竹女/九華(花)庵

栖竹(棲竹せいちく) → 和長(かづなが・東坊城ひがしほうじょう/菅原、廷臣/詩歌) 1 5 1 8  
井竹女(せいちくじょ) → 井竹(せいちく・服部、花屋庵の妻/俳人) J 2 4 2 2  
静竹窓(せいちくそう) → 菊子(きくし、俳人) 1 6 9 6  
成智心院(せいちしんいん) → 尊常法親王(そんじょうほつしんのう、一乗院僧) F 2 5 5 6  
青池堂(せいちどう) → 春水(初世しゅんすい・馬場ばば、書家) K 2 1 0 2

J2423 西疇(せいちゅう・饒田にぎた、地誌家熊野正紹まさつぐ[怡斎]男)1772-1833<sup>62</sup> 肥前長崎の儒者;  
桜木闇斎ざんさい門;崎門学/1817長崎聖堂助教、  
1820頃幕臣筒井政憲の命で「長崎名勝図絵」編(補助者;野口文竜渚義・画家打橋竹雲、  
未完のままの稿本を1931長崎史談会が翻刻)、  
1807「海魚考」、「算法提要」、「荀子性悪論」、「先聖名字辨」、「読晋歴史」、「西疇耘筆」著、  
[西疇(；号)の名/字/通称/別号]名;喩義あつし/斎信、字;君饒/君曉/強明、通称;顕蔵/謙蔵、  
別号;養斎/実斎、養子;新斎

C2460 西疇(せいちゅう・萩原はぎわら、名;裕、楽亭の長男)1829-98<sup>70</sup> 幼時に父没/江戸の儒者;叔父緑野門、  
経学・文章に長ず/1854(26歳)緑野没後に家職を継承;子弟教育、  
嘉永1848-54頃洋学;林洞海・杉田成卿門、1868伊予今治藩に招聘され儒官;学制改革、  
藩政に参与;多くの献策、のち陸軍省・修史局歴任/学習院の教師;子弟教育、  
白石「読史余論」校、1853「石桂堂詩集」編、「岸本昌識詩文稿」編、1862「猷替録」著、  
[西疇(；号)の字/通称]字;好問/公寛/子寛、通称;英助、萩原大麓の孫

清忠(せいちゅう・佐伯) → 清忠(きよただ・佐伯さえき、廷臣/歌人) D 1 6 2 9  
清忠(せいちゅう・堀家) → 清忠(きよただ・堀家ほりけ/吉見、神職/国学) V 1 6 1 8  
正忠(せいちゅう・富岡) → 正忠(まさただ・富岡/藤原、藩士/国学/歌) D 4 0 5 3  
正忠(せいちゅう・加藤) → 正忠(まさただ・加藤かとう、歌人) M 4 0 2 0  
正忠(せいちゅう・大坊) → 正忠(まさただ・大坊たいぼう/山崎、藩士) Q 4 0 6 4  
正忠(せいちゅう・堀内) → 正忠(まさただ・堀内ほりうち、名主/和漢学) S 4 0 4 5  
正忠(せいちゅう・野口) → 正忠(まさただ・野口のぐち、商家/歌人) R 4 0 4 7  
正中(せいちゅう・松崎) → 正中(まさなか・松崎まつぎき、歌人) M 4 0 4 9  
正中(せいちゅう・千葉) → 正中(まさなか・千葉ちば/田中、庄屋/林業/歌) Q 4 0 8 9  
正中(せいちゅう・中守) → 正中(まさなか・中守なかもり、商家/歌人) R 4 0 2 0  
正仲(せいちゅう)すべて → 正仲(まさなか)  
正沖(せいちゅう・布川) → 正沖(正興まさおき・布川ぬのかわ、商家/歌) R 4 0 4 4  
正柱(せいちゅう・竹川) → 正柱(まさはし・竹川たけがわ、商家/国学) Q 4 0 7 8  
正燾(せいちゅう)→まさてる・河田/大橋) → 陶庵(とうあん・大橋おおはし/河田、儒者) 3 1 8 9  
世忠(せいちゅう・橋) → 世忠(よただ・橋たちばな、廷臣/歌人) I 4 7 1 5  
成忠(せいちゅう・寺村) → 成樹(しげき・寺村てらむら、藩士/歌文) Q 2 1 8 9  
成忠(せいちゅう・今井) → 成忠(しげただ・今井いまい、代官/国学者) N 2 1 4 3  
成忠(せいちゅう・佐々木) → 成忠(しげただ・佐々木ささき/木下、国学/神職) O 2 1 5 0  
晟忠(せいちゅう・山本) → 晟忠(あきただ・山本やまと/藤原、神職/国学) I 1 0 7 3  
政仲(せいちゅう・五辻/源) → 政仲(まさなか・五辻いつつじ/源、廷臣/歌) F 4 0 0 8  
政忠(せいちゅう)すべて → 政忠(まさただ)  
精中(せいちゅう・千) → 宗室(8世そうしつ・千せん、茶人/裏千家11世) H 2 5 6 8  
盛忠(せいちゅう・沢田) → 盛忠(もりただ・沢田さわだ/小川、藩士) F 4 4 6 3  
誠中(せいちゅう・岩田) → 幸通(ゆきみち・岩田いわた、幕臣/和算家) F 4 6 6 9  
誠仲(せいちゅう・高橋) → 竹之介(竹之助たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8  
聖忠(せいちゅう;法諱) → 聖忠(しょうちゅう;法諱、真言僧/歌人) U 2 2 1 9  
靖中庵(せいちゅうあん) → 桃溪(とうけい・丹羽/丹、絵師) D 3 1 1 4  
宣忠院(せいちゅういん;諡) → 慧鑑(えがい;法諱、真宗大谷派僧) D 1 3 5 5

- 清中亭叔親(せいちゅうていしゅくしん)→叔親(しゅくしん・清中亭、煙草屋) Y 2 1 6 8  
 成著(せいちよ・牧野) → 成著(しげあきら・牧野/田口、幕臣/文筆家) Q 2 1 5 3
- 02472 晴澄(せいちょう;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;興福寺?僧/法眼、  
 歌人;1237刊[檜葉集]2首入、  
 [なげく事侍りけるとしのすゑごろに、  
 うき事のさながらつもる年なれどわかれはなほぞかなしかりける](檜葉;雑877)
- J2424 清超(せいちょう) ? - ? 明応1492-1501頃越前真言宗豊原寺西方院の僧、  
 西方院には宗祇・兼載らが来訪、連歌作者;新撰菟玖波集3句入
- C2462 清長(せいちょう;号、森もり、通称;小左衛門)?-? 江前期遠州浜松の俳人;立圃りゅうほ門、  
 1662(寛文2)頃宗因が門人玖也と来訪;連句、63杉本勾当左一の追悼集編纂、  
 1663「誹諧忍草」編(:杉本勾当追悼)、71「新独吟集」入
- C2463 盛澄(せいちょう) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」3句入、  
 [山姫やまひめのわたくし物か遅桜をそざくら](犬子集;-458/人目に触れない女神の秘蔵品)
- C2489 正長(せいちょう/まさなが?・岩井いはい)?-? 和泉堺の住人、  
 狂歌;1666行風「古今夷曲集」2首入;4・803、  
 [庭訓の往来よりも道遠き旅ならばせよいとほしき子に](古今夷曲集:九803)、  
 (可愛い子には机上の教科書よりも旅をさせよ)
- C2464 正長(せいちょう/まさなが・島本しまもと、通称;七左衛門/初号;正伯)?-? 美濃/京の俳人;初め貞門西武門、  
 1657西武「沙金袋」360句入:最多、1676西鶴「俳諧師手鑑」入(正伯名)、1678頃談林の高政門、  
 1679高政「誹諧中庸姿つねのすがた」独吟歌仙入/1681信徳「七百五十韻」参加、  
 [色もなし松はもとより板天神](中庸姿;独吟歌仙発句)、  
 (板天神;板面に天神像を作り付けた簡略な家庭内の神像/ごこちない物の喩え)
- J2425 晴朝(せいちょう) 1686 - ? 1775(90歳)存 絵師、俳人:祇徳門、師に絵の指導、  
 武蔵騎西の同門俳人福島水樹宅に寄宿、1753「桃帘とうれん」67「狂歌画讃集」編、  
 「誹諧桃の酒はやし」著、1775「ともみどり」画、  
 [晴朝(;号)の別号] 得牛/榎側庵かそくあん
- 晴朝(せいちょう・結城) → 晴朝(はるとも・結城ゆうき、武将/城主) G 3 6 6 1  
 盛長(せいちょう) すべて → 盛長(もりなが)  
 盛徴(せいちょう) → 盛徴(もりずみ・堤/荒木田、神職/国学) F 4 4 5 2  
 正澄(せいちょう) → 正澄(しょうちよう・清拙;道号、臨濟僧) O 2 1 6 5  
 正澄(せいちょう・名取) → 正澄(まさずみ・名取なり、藩士/兵法家) C 4 0 9 8  
 正澄(せいちょう/まさずみ・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医:外科) F 1 8 9 8  
 正澄(せいちょう・宮城) → 正澄(まさずみ・宮城みやぎ/源、歌人) D 4 0 0 3  
 正澄(せいちょう・竜斎) → 正澄(まさずみ・竜斎りゅうさい;号/絵師) D 4 0 0 4  
 正澄(せいちょう・江藤) → 正澄(まさずみ・江藤/上野、藩士/国学) D 4 0 1 0  
 正澄(せいちょう・松沢) → 正澄(まさずみ・松沢まつざわ、国学) S 4 0 6 6  
 正長(せいちょう・井上) → 正長(まさなが・井上いのうえ、藩主/記録) F 4 0 2 4  
 正長(せいちょう/まさなが・寺尾) → 東海(とうかい・寺尾、儒者;音韻) B 3 1 8 8  
 正長(せいちょう・長坂/中根) → 正長(まさつね・中根/長坂、幕臣) E 4 0 1 0  
 正長(せいちょう・小笠原) → 正長(まさなが・小笠原、武将/故実家) F 4 0 1 5  
 正長(せいちょう・九里) → 正長(まさなが・九里くのり、藩士/歌) F 4 0 1 9  
 正長(せいちょう・橋村) → 正長(まさなが・橋村はむら/度会、神職/歌) R 4 0 7 0  
 正長(せいちょう・鈴木) → 正長(まさなが・鈴木、藩家老/農政) F 4 0 3 2  
 正長(せいちょう・進藤) → 正長(まさなが・進藤、幕臣) F 4 0 3 5  
 正長(せいちょう・薬師寺) → 寿軒(じゅけん、薬師寺やくしじ、医者) Y 2 1 7 4  
 正長(せいちょう・島津) → 正長(まさなが・島津しまづ、国学/歌人) Q 4 0 1 7  
 正張(せいちょう・幡垣) → 正張(まさはる・幡垣はたがき/平、神職/歌) R 4 0 7 7  
 正超(せいちょう・堀) → 景山(けいざん・堀ほり/修姓;屈、儒者/医) 1 8 5 7  
 正朝(せいちょう/まさとも・山田) → 麟嶼(りんしょ・山田/菅原/菅、幕臣/儒) K 4 9 4 3  
 正朝(せいちょう・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほった、藩主/茶道) S 4 0 4 3

正朝(せいちょう・中根) → 正朝(まさとも・中根なかね、幕臣/神道/歌) U 4 0 1 7  
 正朝(せいちょう・新見) → 正朝(まさとも・新見しんみ/源/小栗、幕臣/随筆) E 4 0 6 9  
 正朝(せいちょう・高木) → 正朝(まさとも・高木たかぎ、弓術家) E 4 0 7 7  
 正朝(せいちょう・戸田) → 正朝(まさとも・戸田とだ/藤原、歌人) M 4 0 8 4  
 正朝(せいちょう・景安) → 正朝(まさとも・景安かげやす/檜原、神職/国学) O 4 0 7 9  
 正暢(せいちょう・荘司) → 正暢(まさのぶ・荘司しょうじ、国学者) Q 4 0 2 2  
 政長(せいちょう・源) → 政長(まさなが・源みなもと、廷臣/歌人) F 4 0 1 2  
 政長(せいちょう・北条) → 政長(まさなが・北条/平、武将/歌人) F 4 0 1 3  
 政長(せいちょう・畠山) → 政長(まさなが・畠山/源、管領/連歌) F 4 0 1 7  
 政長(せいちょう・中村) → 政長(まさなが・中村なかむら、能役者) F 4 0 1 8  
 政長(せいちょう・本多) → 政長(まさなが・本多ほんだ、藩士/藩政) F 4 0 2 1  
 政長(せいちょう・平子) → 政長(まさなが・平子ひらこ、地誌家/俳人) F 4 0 2 2  
 政長(せいちょう・岡部) → 政長(まさなが・岡部/賀茂、藩士/歌/真淵の養父) F 4 0 2 5  
 政朝(せいちょう・小峯) → 政朝(まさとも・小峯/結城/白川/藤原、武将/連歌) E 4 0 6 4  
 政朝(せいちょう・石川/石河) → 政朝(まさとも・石河いしこ、町奉行/御定書) E 4 0 7 3  
 政朝(せいちょう・土屋) → 政朝(まさとも・土屋つちや、洋学者:物理) E 4 0 8 0  
 斉長(せいちょう・藤) → 斉長(まさなが・藤とう、神職/藩士) F 4 0 3 1  
 成朝(せいちょう・高階) → 成朝(なりとも・高階たかしな、廷臣/歌人) H 3 2 7 7  
 性激(せいちょう;法諱) → 性激(しょうちよう;法諱・靈潭;字、浄土僧) K 2 2 9 0  
 聖澄(せいちょう→しょうちよう) → 月溪(げつけい・聖澄、臨濟僧/詩文) G 1 8 9 8  
 清長(せいちょう)訓はすべて → 清長(きよなが)  
 清昶(せいちょう・越村) → 德基(とくき・越村こしむら、蘭医/蘭語) K 3 1 5 6  
 清澄(せいちょう・藤原、丹後掾) → 七郎左衛門(しちろうざえもん・杉山、浄瑠璃太夫) E 2 1 6 9  
 清澄(せいちょう・石川) → 眞清(ますみ・石川いしかわ/源、商家/国学) J 4 0 2 8  
 清聴(せいちょう・笠因) → 清雄(すなお・笠因かさより、神職/歌人) F 2 3 8 0  
 清徹(せいちょう・薬師神) → 守清(もりきよ・薬師神やくしじん、神職/国学) L 4 4 7 6  
 精長(清長せいちょう・河辺) → 精長(きよなが・河辺かわべ、神職) Q 1 6 0 4  
 静澄(せいちょう;法諱) → 静澄(じょうちよう;法諱、天台僧/歌人) U 2 2 3 3  
 清朝軒(せいちょうけん) → 清重(きよしげ・鳥居、絵師) D 1 6 2 0  
 青蔦亭(せいちょうてい) → 泉晁(せんちよう・貞斎ていさい、絵師) G 2 4 3 9

- C2465 正直(せいちよく・鈴木すずき、通称;平野屋重兵衛)?-? 江前期京の俳人;貞徳門、  
 1633重頼「犬子えのこ集」55句入、63重徳「続独吟集」入、  
 [今朝いはひ去年こそのはすやのし肴さかな](犬子集;一14、  
 新年の今朝は師走に引延ばした熨斗肴[鮑]で祝い去年の苦勞の皺をのぼす)
- C2466 政直(せいちよく) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子集」8句入、  
 [花いくさ仏もするや三具足みつぐそく](犬子集;一396、  
 仏前の花瓶・燭台・香炉の三つの武具で花枝を打合う戦に出かけるという喩え)
- 正直(せいちよく) → 正直(まさなお、狂歌) E 4 0 9 9  
 正直(せいちよく・古妻) → 正直(まさなお・古妻こつま、俳人) L 4 0 4 9  
 正直(せいちよく・三宅) → 正直(まさなお・三宅、藩士/記録) F 4 0 0 1  
 正直(せいちよく・吉田) → 正直(まさなお・吉田、神道家) F 4 0 0 2  
 正直(せいちよく;字) → 宗覚(そうかく;法諱、真言僧) G 2 5 5 8  
 正直(せいちよく・小野) → 素秋(そしゅう・小野おの、庄屋/俳人) D 2 5 8 2  
 正直(せいちよく・毛利) → 正直(まさなお・毛利、藩士/戯作者) F 4 0 0 3  
 正直(せいちよく・一条) → 正直(まさなお/まなお・一条、藩士/天文) F 4 0 0 5  
 正直(せいちよく・高橋) → 正直(まさなお・高橋、医者/歌) F 4 0 7 8  
 正直(せいちよく・清水) → 樗洲(れきしゅう・清水、儒/武術/故実) 5 1 7 8  
 正直(せいちよく・古川) → 正直(まさなお・古川ふるかわ、歌人) M 4 0 5 6  
 正直(せいちよく・長谷川) → 正直(まさなお・長谷川はせかわ、旗本;鎗奉行) M 4 0 7 2  
 正直(せいちよく・長谷川) → 正直(まさなお・長谷川、旗本/能登守/歌) M 4 0 7 9

- 正直(せいちよく・赤坐) → 正直(まさなお・赤坐あかざ、藩士) N 4 0 0 4  
 正直(せいちよく・木原) → 正直(まさなお・木原きはら、庄屋/儒者) P 4 0 1 4  
 正直(せいちよく・伊東) → 正直(まさなお・伊東いとう、藩士/歌人) N 4 0 3 9  
 正直(せいちよく・太田) → 正直(まさなお・太田おた、藩家老/歌人) O 4 0 4 9  
 正直(せいちよく・佐野) → 正直(まさなお・佐野さの、藩士/儒・国学/歌) P 4 0 8 9  
 正直(せいちよく→まさなお・鍋島) → 誠(まこと・鍋島なべしま/松平/龍造寺、国学) Q 4 0 0 3  
 正直(せいちよく・山吹) → 正直(まさなお・山吹やまぶき/鈴木、藩士/歌) T 4 0 5 3  
 正直(せいちよく・西城戸) → 正直(まさなお・西城戸にしきど、神職/国学) R 4 0 3 7  
 生直(せいちよく・山科) → 生直(たかなお・山科、廷臣/記録) M 2 6 5 5  
 生直(せいちよく・藤木) → 生直(なりなお・藤木、書家) H 3 2 8 4  
 斉直(せいちよく・鍋島) → 斉直(なりなお・鍋島なべしま、藩主) K 3 2 3 8  
 斉直室(せいちよくしつ・鍋島) → 斉直室(なりなおのしつ・鍋島なべしま、歌人) K 3 2 3 9  
 政直(せいちよく/まさなお・浅井) → 凶南(となん・浅井、医者/詩文) O 3 1 5 6  
 政直(せいちよく・鈴木) → 政直(まさなお・鈴木すずき、歌人) M 4 0 2 3  
 政直(せいちよく・村井) → 政直(まさなお・村井むらい、国学者) P 4 0 7 0  
 政直(せいちよく・都筑) → 政直(まさなお・都筑つぎ、幕臣) Q 4 0 9 2  
 政直(せいちよく・松葉) → 政直(まさなお・松葉まつば、国学者/歌) S 4 0 7 2  
 清直(せいちよく/きよなお・戸部) → 一慙斎(いっかんさい・戸部とべ、黄檗僧/史家) G 1 1 8 3  
 清直(せいちよく・内藤/井上) → 清直(きよなお・井上いのうえ、幕臣/奉行) Q 1 6 0 2  
 清直(せいちよく・杉原/御巫) → 清直(きよなお・御巫みかんなぎ、神職/歌) D 1 6 4 3  
 清直(せいちよく・貝塚) → 清直(きよなお・貝塚かいづか/平、国学/歌) T 1 6 9 0  
 清直(せいちよく・細貝) → 清直(きよなお・細貝ほそがい、国学/藩学校) V 1 6 1 5  
 盛直(せいちよく・倉光/中山) → 静安(せいあん・中山なかやま、医・儒者) H 2 4 1 6  
 瀬一郎(せいちろう・秋山) → 好頼(よしより・秋山あきやま/源、藩士/歌) L 4 7 1 4  
 C2467 政陳(せいちん) ? - ? 江前期俳人、1676蝶々子「当世男」入  
 正陳(せいちん・堀田) → 正陳(まさのぶ・堀田/紀、藩主/若年寄) F 4 0 6 7  
 正陳(せいちん・真野) → 正陳(まさつら・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 9  
 正陳(せいちん・梶川) → 正陳(まさのぶ・梶川かじかわ、藩士/国学) O 4 0 8 1  
 正鎮(せいちん・丸山) → 拳石(けんせき・丸山まるやま、医者) K 1 8 4 8  
 正珍(せいちん・山田) → 凶南(となん・山田、幕府医官/漢学者) O 3 1 5 9  
 正珍(せいちん・角館) → 子章(ししょう・角館かくのだて、儒者) T 2 1 7 7  
 正珍(せいちん・橋村) → 正珍(まさつら・橋村はしむら/度会、神職) R 4 0 6 8  
 正珍(せいちん・杉木) → 正珍(まさつら・杉木すぎき/秦、神職/歌人) U 4 0 0 2  
 世逸(せいつ・藤田) → 丹岳(たんがく・藤田ふじた、医者/儒者) T 2 6 2 6  
 成通(せいつう・彦坂) → 範善(のりよし・彦坂ひこさか/田中、藩士/和算) G 3 5 3 3  
 斉通(せいつう・二条) → 斉通(なりみち・二条にじょう、廷臣) I 3 2 2 4  
 清通(せいつう・河野) → 界浦(かいほ・河野、儒者;音韻学) H 1 5 2 0  
 清通(せいつう・五島) → 清通(清道きよみち・五島、増田、同心/戯作) Q 1 6 3 4  
 清通(せいつう・阿野) → 清通(きよみち・阿野あの/越智、歌人) T 1 6 1 8  
 清通(せいつう・川崎) → 多豆雄(たずお・川崎かわさき/高原、神職/国学) W 2 6 6 0  
 靖通(せいつう・宇津木) → 静斎(せいさい・宇津木うつぎ、儒者) I 2 4 3 1  
 聖通(せいつう;法諱) → 聖通(しょうつう;法諱、真言僧) K 2 2 9 6  
 正通(せいつう)すべて → 正通(まさみち)  
 政通(せいつう)すべて → 政通(まさみち)  
 性通(せいつう;字) → 靈波(れいは;法諱・性通、華嚴僧) 5 1 6 1  
 G2493 正定(せいてい/まささだ・伊勢村いせむら)?-? 大阪俳人・重頼系、伊勢村重安の縁者?、  
 狂歌:1666行風「古今夷曲集」7首入、1673西鶴「生玉万句」第六相撲発句入、  
 [そちとなら油煙ゆえんとも身をなしはてむ思ふすぶりの住み飽いた世に](古今夷曲集;九)  
 (墨・油煙は硯の縁語)  
 C2468 正禎(せいてい/まさただ;名・古林ふるぼやし、号;調神子/見宜堂)?-? 江前期医者;

古林見宜[1579-1657]の甥、  
1705「医家大業要覧」11「難経或問」、「調合所之銘」

J2426 靖亭(せいてい・若林わかばやし、友章男)1798-1867 70 江後期陸前仙台藩士、1820小姓、  
儒詩;桜田虎門・志村五城・大槻平泉門、1829郡奉行/町奉行/55江戸番頭/大番頭に進む;  
謹厳剛直にゆえ上司の不興を買い三度罷免、致仕後学を講ず、友之の父、  
「皇朝名臣伝賛」「靖亭鈔録」「接戦之機」「正説群記」「武具要説」「柳村詩文集」著、  
1822「経世談」35「改政談」著/42「逸史鈔録」編/53「海防秘策」58「海防叢書」60「桂林一枝」著、  
「浣花堂抄録」「皇朝義僕伝碑」「水府実記」「弊帚続編」「復讐仰渡書」「抄録」編、  
「仙台諸家絶句」編;(1912孫の今泉篁洲編「仙台風藻」に所収)、外編著多数、  
[靖亭(;)号)の名/字/通称/別号]名;鴻/友輔ともすけ、字;鵠之/済美、  
通称;亀吉/三郎左衛門/修理、別号;柳村りゅうそん/浣花堂

N2487 誠定(せいてい・堀越ほりこし) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[一筋にたつる煙や白妙の雪にまがはぬ峰の炭竈](大江戸倭歌;冬1313)

正貞(せいてい・久保)	→	正貞(まささだ・久保くぼ、幕臣/書記)	C 4 0 5 4
正貞(せいてい・曲直瀬)	→	正貞(しょうてい・曲直瀬まなせ/越智、医者/歌)	K 2 2 9 9
正貞(せいてい・明石)	→	正貞(まささだ・明石あかし、和学者)	N 4 0 0 7
正貞(せいてい・原田)	→	正貞(まささだ・原田はらだ、医者/詩人)	R 4 0 9 9
正貞(せいてい・行弘)	→	正貞(まささだ・行弘ゆきひろ/中原、神職/国学)	T 4 0 6 4
正貞(せいてい・吉村)	→	正貞(まささだ・吉村よしむら、庄屋/歌人)	T 4 0 7 3
正禎(せいてい・二宮)	→	正禎(まさただ・二宮にのみや、医者/国学)	L 4 0 8 0
正禎(せいてい・まささだ・松田)	→	自然齋(じねんさい・松田/松、儒者)	V 2 1 3 9
正定(せいてい・黒田)	→	正足(まさたり・黒田/源、藩士/詩歌)	D 4 0 6 8
政定(せいてい)	→	政定(まささだ、信徳門俳人)	C 4 0 5 5
政定(せいてい・裏多/浦田)	→	政定(まささだ・裏多/浦田、神職)	C 4 0 5 3
政定(せいてい)	→	政定(まささだ、信徳門俳人)	C 4 0 5 5
世貞(せいてい・福住)	→	世貞(つぐさだ・福住ふくずみ、商家/歌)	G 2 9 2 5
世禎(せいてい・蓮沼)	→	景祥(かげよし・蓮沼はすぬま、藩士/学問興隆)	L 1 5 4 7
世禎(せいてい・樋口)	→	蘭腕(らんえん・樋口ひぐち、藩士/新田開発)	B 4 8 5 8
世鼎(せいてい・対馬)	→	留雲(りゅううん・対馬つしま、詩人)	C 4 9 8 1
斉定(せいてい・上杉)	→	斉憲(なりのり・上杉うえすぎ、藩主/歌)	K 3 2 2 9
清禎(せいてい・大槻)	→	西磐(せいばん・大槻、儒者/西洋史)	J 2 4 4 5
晴貞(せいてい・藤川)	→	冬斎(とうさい・藤川、儒者)	E 3 1 3 0
清貞(せいてい・きよさだ・伊藤/西山)	→	玄道(げんどう・西山にしやま、医者)	L 1 8 9 0
清貞(せいてい・中野)	→	清貞(きよさだ・中野なかの/藤原、歌人)	S 1 6 9 7
清貞(せいてい・高田)	→	清貞(きよさだ・高田たかた、藩士/国学)	U 1 6 6 3
清貞(せいてい・丸尾)	→	清貞(きよさだ・丸尾まるお、医者/歌人)	V 1 6 3 0
清定(せいてい・福島)	→	清定(きよさだ・福島ふくしま、藩士/歌人)	V 1 6 1 0
盛貞(せいてい・有沢)	→	盛貞(もりさだ・有沢ありさわ、藩士/軍学者)	F 4 4 4 0
贅亭(ぜいてい)	→	成美(せいび・夏目、俳人)	2 4 1 2
贅亭(ぜいてい)	→	諫圃(かんぼ・米津/夏目、成美男、俳)	R 1 5 6 3
誠諦院(せいていいん→じょうていいん)	→	日善(にちぜん;法諱、日蓮僧)	C 3 3 6 3
誠諦院(せいていいん→じょうていいん)	→	日証(にっしょう・栄境、日蓮僧)	E 3 3 2 5
聖諦院(せいていいん)	→	高陳(高延たかのぶ・藤堂、藩主/歌人)	D 2 6 4 1
贅亭主人諫圃(ぜいていしゅじんかんぼ)	→	成美(せいび・夏目)	2 4 1 2
聖諦廓然禅師(せいていろぜんぜんじ)	→	北禅(ほくぜん;道号・禅秀;法諱、臨濟僧)	D 3 9 5 9
正迪(せいてき・横山)	→	政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家)	G 4 0 0 3
正迪(せいてき・西島)	→	正迪(まさみち・西島にしじま、蘭学者)	H 4 0 5 1
正迪(せいてき・松田)	→	正迪(まさみち・松田まつだ、国学者/歌)	S 4 0 6 9
正的(せいてき・板津)	→	正的(しょうてき・板津いたづ、検校/連歌)	L 2 2 0 4



盛的(せいてき・高橋) → 盛的(もりただ・高橋たかはし、絵師/歌人) K 4 4 4 0  
 正鉄(せいてつ・井上) → 正鉄(まさかね・井上/富田/安東、神道家) C 4 0 1 7  
 正哲(せいてつ・桐山) → 正哲(しょうてつ・桐山きりやま、藩医/本草/蘭学) U 2 2 7 9  
 斉典(せいてん・松平) → 斉典(なりつね・松平まつだいら、藩主/紀行) H 3 2 6 5  
 正典(せいてん→まさつね・浅井) → 篤太郎(とくたろう・浅井あさい、漢方医) T 3 1 0 0  
 正典(せいてん・新見) → 正典(まさのり・新見しんみ/源、幕臣/漢学) G 4 0 3 3  
 正典(せいてん・松浦) → 正典(まさのり・松浦まつうら/沢近、神職/歌) S 4 0 6 2  
 正典(せいてん・久貝) → 正典(まさのり・久貝くがい、幕臣/歌人) G 4 0 2 3  
 正典(せいてん/まさのり・太田/河原) → 雄蔵(ゆうぞう・太田/河原、棋士) D 4 6 3 3  
 政典(正典せいてん・田代) → 政典(正典まさのり・田代たしろ、藩家老) G 4 0 1 1  
 政典(せいてん・広瀬) → 蒙斎(もうさい・広瀬、儒者/藩政参与) 4 4 5 3  
 政典(せいてん・山田) → 政平(まさひら・山田やまだ、藩士/神職) M 4 0 9 2  
 政典(せいてん・今井) → 政典(まさのり・今井いまい、歌人) N 4 0 7 9  
 盛天(せいてん・法諱) → 盛天(しょうてん:法諱、学僧/国学者) U 2 2 9 2  
 聖典(せいてん・菅野) → 白華(はくか・菅野すげの、儒者) C 3 6 8 1  
 性天(せいてん:道号) → 性天(しょうてん:道号・含虚:法諱、臨濟僧) L 2 2 0 6  
 性天(せいてん:道号) → 性天(しょうてん:道号・智円:法諱/曹洞僧) L 2 2 0 7

J2427 盛典(せいでん:法諱・音利房;字、俗姓;新槇) 1663-1747 85 武州埼玉郡上種足村の真言僧、  
 1683加納光照寺の光栄門/1688上京;本山智積院で修行、  
 1698武蔵足立郡日出谷村知足院の住寺/1717加須竜宮寺住持/19下野大聖院28世、  
 智山派における悉曇学第一人者と称される、1694「読書諳心編」97「悉曇字記指南鈔」、  
 1702「足立坂東観音霊験記」14「韻鏡易解改正」32「印判秘決集」34「倭語連声集」  
 1740「籛籛ほき口伝初心鈔」44「伊呂波童蒙抄」、「籛籛或問追加」、「阿弥陀如来出現記」外著多

清田(せいでん・島田) → 清田(きよた・島田/嶋田、廷臣/漢学) P 1 6 7 9  
 青甸(せいでん・江村) → 毅庵(きあん・江村えむら、藩士/儒者) I 1 6 4 2  
 聖伝(せいでん→しょうでん;法諱) → 性愚(しょうぐ;字・聖伝;法諱、浄土僧) I 2 2 1 2  
 青簞舎都真(せいてんしゃとしん) → 都真(としん・青簞舎、狂歌作者) O 3 1 2 3  
 青天白日舎主人(せいてんはくじつしゃしゅじん) → 保泰(やすひろ・服戸ふくど、国学) G 4 5 5 1  
 青天白日楼主人(せいてんはくじつろうしゅじん) → 精庵(せいあん・蒲生、医/儒者) H 2 4 3 1  
 政都(せいと・藤原) → 政都(まさくに・藤原/片藤、藩士) C 4 0 3 9  
 政登(せいと・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9  
 正登(せいと・新見) → 正登(まささだ・新見しんみ、幕臣/記録) C 4 0 5 6

J2428 青奴(せいど) ? - ? 江中期相模豊田の俳人;鳥酔門、  
 1739「俳諧相模川」著

正度(せいど・雲井) → 正篤(まさあつ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 3  
 正度(せいど・佐伯) → 正度(まさのり・佐伯さえき、神職/国学) P 4 0 7 9  
 政度(せいど/まさのり・高田) → 清兵衛(せいべえ・高田たかだ/堺屋、書肆) J 2 4 5 7

02496 清透(せいとう、しょうとう:法諱) ? - ? 南北期;僧/沙弥、歌人、  
 歌人;1375頃細川家(頼之)奉納[大山祇神社百首和歌]出詠、  
 [春ごとに今年ばかりと思ふ身の猶ながらへて又をしむかな](大山祇百首;16/暮春)、  
 [もろともに夜寒になりぬ雁がねのきこゆる空の秋の初風](同:38初雁)

C2470 正棟(せいとう、しょうとう) ? - ? 戦国期連歌作者、1508?肖柏「池田千句」連衆参加  
 正董(せいとう→まさただ・橋村) → 久老(ひさおゆ・荒木田/度会、神職/国学) 3 7 0 5  
 正棟(せいとう/まさむね・大中臣) → 彦演(いちえん/いつえん;法諱、廷臣/真言僧) G 1 1 0 5  
 正燾(せいとう/まさてる・河田) → 陶庵(とうあん・大橋、儒者) 3 1 8 9  
 正桃(せいとう→しょうとう:法諱) → 大洞(大投だいとう;道号・正桃、曹洞僧) K 2 6 7 9  
 正冬(せいとう・樋口) → 正冬(まさふゆ・樋口ひぐち、与力/歌人) L 4 0 6 8  
 正冬(せいとう・橋村) → 正冬(まさふゆ・橋村はしむら/度会、神職/歌) R 4 0 7 3  
 正統(せいとう・馬場) → 錦江(きんこう・馬場、幕臣/俳諧/和算) D 1 6 9 7  
 正統(せいとう・丹羽) → 正庸(まさつね・丹羽にわ、陪臣/国学) R 4 0 3 4

- 政筒(せいとう・新田) → 政固(まさこ・新田につた、政筒、郷土史家) C 4 0 4 8  
 政藤(せいとう・安東) → 政藤(まさふじ・安東あんど、室町幕臣) H 4 0 2 2  
 性瑠(せいとう→しょうとう・木庵:道号) → 木庵(もくあん・性瑠、黄檗僧) 4 4 6 4  
 青塘(せいとう・土井) → 董盈(ただみつ・土井とい、国学・歌人) Y 2 6 3 7  
 清稻(せいとう・尾張連) → 清稻(きよいね・尾張連、古記録収集) G 1 6 5 2  
 清島(せいとう・本居) → 清島(きよしま・本居もとお、国学者/歌) D 1 6 2 2  
 清藤(せいとう・上杉) → 清藤(きよふじ・上杉/藤原、廷臣/連歌) Q 1 6 2 8  
 聖統(せいとう:法諱) → 聖統(しょうとう:法諱、僧/歌人) R 2 2 5 2  
 成藤(せいとう)すべて → 成藤(なりふじ)
- J2430 青洞(せいどう) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、  
 [菜の花の畦うねうち残すながめ哉](あら野;卷二/春の田園風景)
- J2431 星堂(せいどう・泉川いづみかわ、名;世寧)1768-1844 77 讃岐高松の儒者/詩人、のち大内郡三本松住、  
 寛政1789-1801頃京で医学を修学/帰郷後開塾;漢学を教授、詩画を嗜む、「星翁花月吟」著、  
 [星堂(;号)の通称/別号]通称;良弼(りょうすけ/良輔、別号;草廬/迷花/星翁)
- J2432 惺堂(せいどう・木内きうち、名;政浄、善兵衛政信4男)1825-54 30 信州南佐久郡下県村の旧家の生、  
 青年期江戸で儒/経学;亀田綾瀬門/儒詩;梁川星巖・大沼枕山門、書;巻菱湖門、帰郷;教育、  
 「惺堂先生遺稿」、  
 [惺堂(;号)の字/通称/別号]字;清卿、通称;七助/豊吉、別号;一堂、
- 齋堂(せいどう・平塚) → 飄齋(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4  
 清堂(せいどう;号) → 観尊(かんそん;法諱・清堂、真言僧/歌) R 1 5 2 8  
 青棠(せいどう・菅) → 長成(ちようせい・菅、俳人) J 2 8 1 5  
 静堂(せいどう・椿) → 月杵(げつしよ・椿つばき、俳人) H 1 8 0 9  
 静堂(せいどう・鍋田) → 三善(みつよし・鍋田なべた、藩士/儒者) F 4 1 2 1  
 正同(せいどう・増山) → 正同(まさとも・増山ますやま/永井、藩主) S 4 0 5 9  
 正道(せいどう/まさみち・勝野) → 台山(たいざん・勝野かつの、勤王家) K 2 6 0 9  
 正道(せいどう・新居) → 正道(まさみち・新居にい、神職/国学者) H 4 0 5 9  
 正道(せいどう・松平) → 正道(正路まさみち・松平/源、藩主) L 4 0 9 1  
 正道(せいどう・清岡) → 正道(まさみち・清岡きよおか、郷土/国学/勤王) P 4 0 3 4  
 正道(せいどう・三浦) → 正道(まさみち・三浦みうら/藤原、神職/歌) S 4 0 8 3  
 正道(せいどう・楠原) → 正道(まさみち・楠原くすはら、国学/歌人) P 4 0 3 9  
 成道(せいどう・半井) → 瑞寿(ずいじゆ・半井なからい/和気、医;典薬頭) E 2 3 6 6  
 成道(せいどう・馬場) → 成道(なりみち・馬場ばば、藩士/神職) O 3 2 3 1  
 成道(せいどう・門司) → 成道(なりみち・門司もじ、神職/国学者) P 3 2 0 5  
 性堂(せいどう:道号) → 性堂(しょうどう:道号・慧泉、臨濟僧) L 2 2 1 8  
 盛道(せいどう・遠山/猿渡) → 盛道(もりみち・猿渡さわたり/遠山、神職) G 4 4 5 7  
 盛道(せいどう・橋爪) → 盛道(もりみち・橋爪はしづめ、藩士/儒者) G 4 4 6 0  
 誠道(せいどう・原) → 誠道(のぶみち・原はら、藩士/国学) J 3 5 7 0  
 誠堂(せいどう・徳川) → 茂承(もちつぐ・徳川/松平/源、藩主) I 4 4 6 2  
 誠堂(せいどう・松田) → 蓼水(りょうすい・松田まつた、藩儒/勤王派) I 4 9 3 3  
 誠堂(せいどう・蜂須賀) → 茂韶(もちあき・蜂須賀はちすか、藩主/政治) K 4 4 9 9  
 成等院(せいとういん・北村) → 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学・歌学者) D 2 4 1 1  
 西洞隠士(せいとういんし) → 良経(よしつね・九条/藤原、撰政/歌人) 4 7 1 6  
 青灯火(せいとうか) → 祇川(ぎせん・青灯火、俳人) F 1 6 6 6  
 青道館(せいどうかん) → 文水(ぶんすい・中村なかわら、俳人) F 3 8 8 3  
 青塘居(青塔居せいとうきよ) → 蚊丈(ぶんじやう・山下やました、神職/俳人) F 3 8 7 9  
 征東大將軍宮(せいとうだいしょうぐんのみや) → 宗良親王(むねながしんのう、天台僧/南朝/歌人) 4 2 0 8  
 齊東野人(せいとうやじん) → 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者) 4 3 3 2  
 齋堂野夫(せいどうやふ) → 飄齋(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4
- C2471 井徳(せいとく) ? - ? 江前期京の俳人、1690言水「新撰都曲」入、  
 [送火に物言もごしかはる広野かな](都曲;下339/広野を擬人化)

世徳(せいとく・枝吉) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、儒者/勤王派) Q 2 2 0 2  
 世徳(せいとく・堀田) → 広居(こうきよ・堀田ほった、医/儒者) I 1 9 3 0  
 世徳(せいとく・松川) → 東山(とうざん・松川まつかわ、儒者) E 3 1 5 5  
 世徳(せいとく・伊沢) → 世徳(つぐのり・伊沢いざわ、医者/詩歌人) F 2 9 1 9  
 世篤(せいとく・関口) → 黄山(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) G 1 9 3 4  
 世篤(せいとく・日比野/水谷) → 民彦(たみひこ・水谷、商家/国学) S 2 6 2 8  
 正徳(せいとく/まさのり・巨勢/中井) → 卓軒(たくけん・巨勢こせ/中井/巨、儒者) E 2 6 2 0  
 正徳(せいとく・村上) → 正徳(まさのり・村上むらかみ、医者) G 4 0 2 0  
 正徳(せいとく・志田) → 正徳(まさのり・志田しだ、藩士/郷土史家) G 4 0 1 5  
 正徳(せいとく・清水) → 正徳(まさのり・清水、兎園社友) G 4 0 1 9  
 正徳(せいとく・彦坂) → 正徳(まさのり・彦坂ひこさか/源、幕臣/歌) M 4 0 1 3  
 正徳(せいとく・橋本) → 正徳(まさのり・橋本はしもと、歌人) M 4 0 2 9  
 正徳(せいとく・福田) → 誠斎(せいさい・福田、儒者/藩校教授) I 2 4 3 3  
 正徳(せいとく・村岡) → 正徳(まさのり・村岡むらおか、商家/尊攘家) T 4 0 0 7  
 正篤(せいとく→まさひろ・堀田) → 正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中) I 4 0 6 7  
 正篤(せいとく・島田) → 正篤(まさあつ・島田しまだ、歌人) M 4 0 0 5  
 正篤(せいとく・宇佐美) → 正篤(まさあつ・宇佐美うさみ、歌人) N 4 0 8 9  
 正篤(せいとく・雲井) → 正篤(まさあつ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 3  
 正督(せいとく・馬場) → 蔡々(しんしん・馬場、幕臣/俳人) E 2 2 7 0  
 正督(せいとく・石毛) → 正督(まさよし・石毛いしげ、神職/国学) N 4 0 5 9  
 成徳(せいとく→しげのり・馬場/吉田) → 長淑(長叔ちようしゅく・吉田、蘭医) F 2 8 9 6  
 成徳(せいとく・檜山) → 坦斎(たんさい・檜山ひやま、書画鑑定/花押) T 2 6 5 3  
 成徳(せいとく・松本) → 成徳(しげのり・松本まつもと、商家/詩) S 2 1 0 7  
 成徳(せいとく・桑原) → 成徳(しげのり・桑原くわばら、藩士/詩) S 2 1 1 6  
 成徳(せいとく・吉田) → 長淑(ちようしゅく・吉田/馬場、蘭医) F 2 8 9 6  
 政徳(せいとく/まさのり・田鎖/根城) → 恭斎(きようさい・根市ねいち、藩士/儒者) N 1 6 7 9  
 政徳(せいとく/まさのり・堀) → 達之助(たつのすけ・堀ほり、通事/英語) G 2 6 2 5  
 政徳(せいとく・田中) → 政徳(まさのり・田中、名主/文学/暦算) G 4 0 0 9  
 政徳(せいとく・天野) → 政徳(まさのり・天野/藤原、幕臣/歌人) G 4 0 1 2  
 政徳(せいとく・長川) → 政徳(まさのり・長川ながかわ/高杉、漢学者) G 4 0 2 9  
 政徳(せいとく・今田) → 政徳(まさのり・今田いまだ/岡、文人) N 4 0 8 0  
 政徳(せいとく・大原) → 政徳(まさのり・大原おおはら/野中、廷臣/歌) O 4 0 4 4  
 政徳(せいとく・八木田) → 政徳(まさのり・八木田やきた、藩士/詩歌俳) T 4 0 2 9  
 政徳(せいとく・横田) → 政徳(まさのり・横田よこた、商家/歌人) T 4 0 6 6  
 政恵(せいとく・新井あらい) → 政恵(まさのり・新井あらい/井村、歌人) N 4 0 2 4  
 盛徳(せいとく・藤原) → 盛徳(もりのり・藤原ふじわら、廷臣/歌人) G 4 4 2 2  
 盛徳(せいとく・間) → 重新(じゅうしん・間はざま、商家/天文家) X 2 1 6 5  
 盛徳(せいとく・長山) → 菱涯(りょうがい・長山ながやま、文筆家) G 4 9 8 4  
 盛徳(せいとく・服部) → 盛徳(もりのり・服部はっとり、国学) L 4 4 0 3  
 盛徳(せいとく・山下) → 盛徳(もりのり・山下やました、藩士/国学) L 4 4 7 9  
 青特(せいとく・山本) → 亀成(かめなり・山本、俳人/画) B 1 6 3 5  
 清篤(せいとく・糠沢) → 清篤(きよあつ・糠沢ぬかざわ、商家/歌人) U 1 6 9 8  
 静篤(せいとく・高橋) → 竜斎(りゅうさい・高橋たかはし、見聞記蒐集) E 4 9 0 8  
 成徳院(せいとくいん;法号) → 斉熙(なりひろ・毛利、藩主/俗謡作) I 3 2 0 7  
 誠徳院(せいとくいん;法号) → 高允(たかさわ・藤堂とうどう、藩主/教育) L 2 6 9 3  
 誠徳院(せいとくいん;法号) → 忠孝(ただひら・鳥居とりい、藩主/歌) U 2 6 1 9  
 政徳院(せいとくいん;法号) → 宗村(むねむら・伊達だて、藩主/歌人) C 4 2 5 7  
 政徳院(せいとくいん;法号) → 順承(ゆきつぐ・津軽つがる、藩主/歌・俳人) G 4 6 7 1  
 清徳院(せいとくいん;法号) → 千代子(ちよこ・松平/井伊、藩主室) N 2 8 5 5  
 靖徳院(せいとくいん;法号) → 豊雍(とよちか・山内やまのうち、藩主/歌) R 3 1 2 6

靖徳院(せいとくいん;法号)→ 貞幹(さだもと・牧野、藩主/写生) J 2 0 9 2  
 静徳院(せいとくいん;号) → 峯子(みねこ・松平、定信室/歌人) F 4 1 4 5  
 清得舎(せいとくしゃ) → 富天(富天ふてん・浦川、俳人) D 3 8 4 8  
 性激(せいとん) → 性激(しょうとん・高泉;道号、黄檗僧) P 2 1 5 7  
 正敦(せいとん・堀田/伊達)→ 正敦(まさあつ・堀田/紀/伊達、藩主/歌) B 4 0 1 5  
 正敦(せいとん・吉田) → 臥龍(がりよう・吉田よしだ、藩士/漢学者) P 1 5 7 5  
 正敦(せいとん・成瀬) → 正敦(まさあつ・成瀬なるせ、藩士/記録) B 4 0 1 8  
 正敦(せいとん・井上) → 正敦(まさあつ・井上いのうえ、藩主/歌) N 4 0 3 0  
 正惇(せいとん・古林) → 正惇(まさあつ・古林ふるばやし/高松、医者/歌) S 4 0 3 8  
 政惇(せいとん・家長) → 韜庵(とうあん・家長いえなが、詩人) 3 1 8 5  
 政敦(せいとん・恒岡) → 政敦(まさあつ・恒岡つねおか、藩士/歌人) B 4 0 1 4  
 斉敦(せいとん・一橋) → 斉敦(なりあつ・一橋ひとつばし、廷臣) H 3 2 0 8

J2434 世南(せいなん・高橋たかはし、名;茂正)1789-1831<sup>43</sup> 父は信濃上田藩士;1791(3歳)京屋敷留守居役、父に随行し京住/1808父を継嗣し上田藩士;09脱藩/尾張名古屋に住、1810京に戻り俳人:士朗・羅城門/のち梅室門、大坂・近江土山等に住/晩年京に戻る、1811「一夜二可仙」編/12「新十家発句集」来相らいと共編、14「不作可集」26「陳情集」著、1840「幻華集」著、「加茂の芥葉」「五庵の記」「みあき」「芳藻集」著、「ふないち集」編 [世南(;号)の通称/別号]通称;源三、

別号;幻華/幻華叟/六轡ろくひ/信陽除史(吏)/世南居士/蟻園/阿里園

霽南(せいなん・祝田/河野)→ 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

西南院覚家(せいなんいんのかくけ)→ 覚家(かくけ、法相僧/歌人) B 1 5 4 2

西南院法印(せいなんいんのほういん)→ 実勝(じっしょう;法諱、真言醍醐寺座主)U 2 1 7 8

02493 西南院龍壽(せいなんいんのりゅうじゅ)??-? 鎌倉期;興福寺西南院の童/歌人、1237刊[檜葉集]入、  
 [本寺別院歌合といふ事し侍りけるに、

ながむればしぐれのそめぬこずゑまで秋の色ある峰の松風] (檜葉;雑850)

西南居(せいなんきよ・今田)→ 五雲(ごうん・今田いまだ、俳人) L 1 9 7 0

西南宮鶏馬(せんなんぐうけいま)→ 東北斎飲居(とうほくさいいんきよ、狂歌) C 3 0 5 6

成南軒(せいなんけん) → 常如(じょうによ;号・光晴;法諱/東本願寺15世、俳人) B 2 2 0 8

世南居士(せいなんこじ) → 世南(せいなん・高橋たかはし、俳人) J 2 4 3 4

聖楠舎(せいなんしゃ) → 世傑(せいけつ・日下くさか/孔/森、儒/詩) B 2 4 1 7

省二(せいに・仁木) → 充長(みつなが・仁木につき、歌学者) E 4 1 1 7

J2435 清如(せいによ・舜澄房しゅんちやうぼう)??-? 江中期真言宗豊山派僧、1768「灌頂手鑑」著

静如(せいによ/じょうによ;法名)→ 忠親(ただちか・中山/藤原、廷臣/故実) 2 6 2 6

清如堂(せいにようどう) → 信政(のぶまさ・津軽、藩主/兵学/諸芸) D 3 5 2 9

成仁(せいにん→ふさひと・親王)→ 後土御門天皇(ごちのみかどてんのう、応仁乱/歌人) D 1 9 3 7

成仁(せいにん・牧野/羽黒)→ 養潜(ようせん・羽黒はぐろ/牧野、儒者) B 4 7 3 5

正任(せいにん;法名) → 正任(まさとう・相良さがら/藤原、武将/連歌) E 4 0 2 7

正任(せいにん/まさとう・荒木田)→ 久守(ひさもり・荒木田/橋村・宇治、神職/国学) C 3 7 0 7

正任(せいにん・井上) → 正任(まさとう・井上いのうえ、藩主) L 4 0 2 1

正任(せいにん・大塚) → 正任(まさとう・大塚おおつか、俳人) L 4 0 4 7

正任(せいにん・渡辺) → 正任(まさとう・渡辺、国学者/歌人) T 4 0 8 3

正任(せいにん・長塩) → 慈庵(じあん・長塩ながしお、奇書収集家) B 2 1 0 2

正任(せいにん/まさとう・隅屋)→ 臥熊(がゆう・隅屋すみや、製鉄業/俳人) S 1 5 1 8

政任(せいにん/まさとう・小川)→ 風麦(ふうばく・小川おがわ、藩士/俳人) 3 8 9 8

斉忍(せいにん;法諱) → 和甫(わほ;道号・斉忍;法諱、臨濟僧) 5 3 5 9

J2436 濟仁親王(せいにんしんのう、名;脩道、有栖川宮織仁親王11男)1797-1847<sup>51</sup> 真言僧/1801勸修寺を継嗣、1807深仁法親王の附弟;仁和寺に移る、08光格天皇の猶子/09親王宣下;仁和寺で出家、1810一品、「濟仁親王御日記」著、  
 [濟仁親王(;法諱)の幼名/通称]幼名;誠宮、通称;不壊身院御室

誠仁親王(せいにしんのう) → 誠仁親王(さねひとしんのう、陽光院、歌人) D 2 0 5 1  
 正仁親王(せいにしんのう) → 正仁親王(ただひとしんのう・有栖川宮、歌人) Q 2 6 6 3  
 性仁親王(せいにしんのう) → 性仁親王(しょうにしんのう、真言仁和寺僧) B 2 2 1 1  
 C2473 正任法師(せいじんほうし) ? - ? 連歌、1495兼載「あしたの雲」に大内政弘追悼歌入  
 静仁法親王(せいじんぽつしんのう) → 静仁法親王(じょうじんぽつしんのう、天台僧/歌) B 2 2 1 3  
 世寧(せいねい/せいね・山瀬/市河) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8  
 世寧(せいねい・泉川) → 星堂(せいどう・泉川いづみかわ、儒者/詩人) J 2 4 3 1  
 正寧(せいねい・阿部) → 正寧(まさやす・阿部あべ、藩主/歌) L 4 0 9 6  
 清寧(政寧/正寧せいねい・鈴木) → 半山(はんざん・鈴木すずき、儒者) H 3 6 7 9  
 正念(せいねん;法諱) → 正念(しょうねん;法諱・大休;道号、渡来臨濟僧) B 2 2 1 4  
 清寧(せいねい・梅津) → 月橋(げつきょう・梅津うめつ、藩士/画) G 1 8 9 5  
 清年(せいねん・田村) → 清年(きよとし・田村たむら、神職) P 1 6 9 7  
 清年(せいねん・高田) → 清年(きよとし・高田たかた、商家/国学者) U 1 6 6 4  
 清年(せいねん・福住) → 清年(きよとし・福住ふくずみ、国学者) V 1 6 1 1  
 靖年(せいねん・山上) → 雪山(せつざん・山上やまがみ/松下、藩士/国学) O 2 4 5 6  
 静念(せいねん;法諱) → 静念(じょうねん;法諱、僧/歌人) L 2 2 3 3  
 静然(せいねん;法諱) → 静然(じょうねん;法諱・戒光房、天台学僧) L 2 2 3 4  
 聖然(せいねん;法諱) → 聖然(しょうねん;法諱、三論僧) L 2 2 3 1  
 盛年(せいねん・森山) → 盛年(もりとし・森山もりやま、幕臣/歌人) I 4 4 9 8  
 盛稔(せいねん・勝間田) → 盛稔(もりとし・勝間田かつまた、藩士/歌人) F 4 4 9 5  
 正納(せいのう・杉谷) → 正納(まさのり・杉谷すぎたに、俳人/歌人) F 4 0 9 5  
 正能(せいのう・池田) → 正能(まさよし・池田/藤原、豪族/連歌) I 4 0 4 2  
 正能(せいのう・幸) → 正能(まさよし・幸こう、能楽師;小鼓) I 4 0 4 3  
 正能(せいのう/まさよし・蜂須賀) → 綱通(つなみち・蜂須賀/源、藩主/歌) B 2 9 3 3  
 聖農(せいのう・源) → 南畝(なんぼ・吉田、儒者/詩人) J 3 2 4 3  
 清之丞(せいのじょう・植田) → 桂南(けいなん・植田うねだ、儒者/故実) E 1 8 7 6  
 清之丞(せいのじょう・八木) → 為茂(ためしげ・八木やぎ、藩士/和学) 2 7 0 3  
 清之丞(せいのじょう・高田) → 清兵衛(せいべえ・高田たかた/堺屋、書肆) J 2 4 5 7  
 清之丞(せいのじょう・菅野) → 千秋(ちあき・菅野すがの/菅原、藩士/国学/神職) M 2 8 7 0  
 清之進(せいのしん・田中) → 小右衛門(こえもん・田中/松宮、藩士/兵・農学) L 1 9 7 3  
 清之進(せいのしん・山本) → 直寛(なおひろ・山本やまと、医者/歌人) P 3 2 2 3  
 政之進(せいのしん・中山) → 水枝(みづえ・中山なかやま、藩士/国学/歌) J 4 1 9 3  
 誠之進(せいのしん・藤田) → 東湖(とうこ・藤田、儒者/藩士/尊攘論) 3 1 0 8  
 成之進(せいのしん・大田) → 晴斎(せいさい・大田おた、儒者) I 2 4 3 6  
 勢之進(せいのしん・小堀) → 明根(あきね・小堀こほり/村瀬、藩士/神職/歌) H 1 0 4 9  
 井之助(せいのすけ・松屋) → 安澄(やすずみ・平野ひらの、絵師) B 4 5 7 7  
 清之助(せいのすけ・鎌田) → 桂洲(けいしゅう・鎌田かまた、藩医:外科) F 1 8 9 8  
 清之助(せいのすけ・宮脇) → 臯畝(こうぼ・宮脇みやわき、俳人) L 1 9 1 8  
 清之助(せいのすけ・藤村) → 秀賀(しゅうが・鶴亭かくてい、戯作者) G 2 1 9 6  
 清之助(誠之助せいのすけ・石川;変名) → 慎太郎(しんたろう・中岡、勤王) 2 2 5 9  
 整之助(せいのすけ・山内) → 豊章(とよあき・山内やまのうち/やまうち、藩士/神職) W 3 1 8 0  
 誠之助(誠之介せいのすけ・菌田) → 守宣(もりのぶ・菌田/荒木田、神職/国学) G 4 4 2 1  
 誠之允(せいのすけ・中田) → 平山(へいざん・中田、藩士/儒者/詩) 2 7 4 3  
 省之介(せいのすけ・堀) → 利熙(としひろ・堀ほり、幕臣/海防・交渉) N 3 1 6 2  
 辭之助(せいのすけ・佐伯/田上/緒方) → 洪庵(こうあん・緒方、蘭医/教育) 1 9 6 9

C2485 清播(せいば;法諱・心田しんでん;道号) 1375-1447 73 淡路の臨濟僧;1388建仁寺大統院の柏庭清祖門、  
 得度/のち嗣法、学芸;惟肖得巖門、伊勢正興寺・山城宝幢寺住、1441建仁寺157世、  
 1447南禅寺161世、詩文に長ず;「聴雨詩集」「聴雨外集」「心田詩藁」「春耕集」「焦尾集」、  
 「焦尾帚」「江西一節集」「心田和尚語録」「心田播禅師疏」著、  
 賢良「畠山匠作亭詩歌」詩入(没後1448[文安5]成立)、

[桐葉曾知封弟情 至今雨露共恩榮 高枝涼月蒼蒼好 要聽來儀雙鳳鳴]、  
[匠作亭詩歌;13/落梧新月/対するは正徹の歌]、  
[心田清播の号] 聴雨[叟]/春耕/松花老人/松岡/謙齋

- C2474 **井波**(せいは、別号;杉谷堂、浪化3世)?-? 越中井波?の俳人・祇徳門、  
1764「橋中仙」共編/序・65「橋中仙第二篇」共編/序(丹波屋利兵衛板)、  
1768「根白艸ねじろぐさ」編(;芭蕉伝授の作法心得・北越諸家の四季発句など)
- C2476 **西陂**(西坡せいは/せいひ・沢村さわむら、名;邁)1800-5960 代々肥後熊本藩士;穿鑿頭/高瀬町奉行、  
儒者;1826江戸の佐藤一斎の塾で修学、帰藩後;藩校時習館助教、  
「逆天余唾」「蘇堂日譜」「蘇堂日誌」「西陂先生謾録」著、  
[西陂(;号)の字/通称]字;子寛/士寛/伯党、通称;武左衛門/宮門
- J2438 **青坡**(せいは・箕田みのた) ? - ? 江後期江戸の俳人、  
1810「庚午歳旦春興」35「鶉笛集」編、  
[青坡(;号)の通称/別号]通称;十右衛門、別号;如雪庵4世
- |            |   |                      |           |
|------------|---|----------------------|-----------|
| 正巴(せいは)    | → | 正白(せいはく・昨非庵、俳人)      | C 2 4 7 5 |
| 西坡(せいは・和気) | → | 西坡(さいは・和気/石見屋、俳人)    | N 2 0 0 2 |
| 西坡(せいは・竹内) | → | 玄洞(げんどう・竹内たけのうち、蘭方医) | L 1 8 9 5 |
| 西坡(せいは・柴田) | → | 洞元(どうげん・柴田しばた、医者/国学) | D 3 1 6 2 |
| 静波(せいは・三森) | → | 幹雄(みきお・三森みつり、俳人)     | 4 1 6 8   |
| 静波(せいは・三森) | → | 幹雄(みきお・三森みつり、俳人)     | 4 1 6 8   |
| 青坡(せいは・楊井) | → | 盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者) | G 4 4 8 9 |
| 清稗(せいは・水沢) | → | 清稗(きよね・水沢みづさわ、神職/国学) | V 1 6 3 6 |
| 西馬(せいば)すべて | → | 西馬(さいば)              |           |
| 精馬(せいば・福岡) | → | 孝済(たかひ・福岡、教育家)       | M 2 6 8 7 |
- C2477 **清倍**(せいはい・秋月堂) ? - ? 江前期河内若江郡八尾の俳人;雑俳、  
1703(元禄16)「誹諧日本国にほんこく」編(古文字屋市兵衛版;平野良弘の古風に共鳴し編纂)  
同地の秋月堂孤龍と同門?
- |             |   |                     |           |
|-------------|---|---------------------|-----------|
| 清倍(せいはい・鳥居) | → | 清倍(初世きよます・鳥居とりい、絵師) | D 1 6 5 9 |
| 清倍(せいはい・鳥居) | → | 清倍(2世きよます・鳥居とりい、絵師) | D 1 6 6 0 |
- C2479 **生白**(せいはいく・野々口ののぐち、号;鏡山きょうざん、立圃男)?-? 京の人形細工屋、俳人;父門、  
1670「立圃追善集」編
- C2481 **生白**(せいはいく・しょうはく・虚室きょしつ)?-? 医者、禅/仏教全般に通ず、  
1761「猿法語さるほうご」著(自序・奥書/庶民対象に宗派を越え広く仏教的宗教観を教示)
- J2439 **青白**(せいはいく) ? - ? 伊勢の俳人;1773几董「明鳥」1句入、  
[恋こめて妹いもが手伝ふ粽ちまきかな](明鳥;155/屈原の霊を弔うため姉が粽を結う話、  
ここは妹が心を籠めて手伝う;男への思い)
- C2475 **正白**(せいはいく・昨非庵さくひあん、別号;正巴せいはい) ?-? 呉服屋大丸の下村家一族、春坡の叔父、  
俳人;1776頃蕪村門/のち几董門、  
1776几董「続明鳥」17句/77蕪村「夜半楽」/82蕪村「花鳥篇」入、80几董「きくの宿」序、  
[花白き躑躅つじや蝶の色かろし](続明鳥;甲181/白花を軽々と飛ぶ蝶に見立てる)
- C2482 **清柏**(せいはいく・西田にしだ) ? - ? 江後期国学者、1803「雅俗言葉海」
- J2440 **清柏**(せいはいく・松井まつい/本姓;平、蠅翁の長男)?-? 江後期医者、儒;佐野山陰(1751-1818)門、  
医:山脇道作門、「投方即事辨」著、  
[清柏(;通称)の別通称] 采女
- J2441 **正伯**(せいはいく・藤田ふじた) ? - ? 江後期弘化1844-48頃生存、越後蒲原郡巻の医者、  
詩・書を嗜む、「疱瘡紀原論并治方」著、  
[正伯(;通称)の号] 霞洞
- 0436 **精白**(せいはいく・二宮にのみや、通称;精四郎)1840-1929長寿90歳 伊予風早郡の酒造家・歌人
- |              |   |                        |           |
|--------------|---|------------------------|-----------|
| 正伯(せいはいく・島本) | → | 正長(せいちょう・島本しまもと、俳人)    | C 2 4 6 4 |
| 正伯(せいはいく・丹羽) | → | 正伯(昌伯しょうはく・丹羽にわ、医者/本草) | B 2 2 2 1 |
| 正伯(せいはいく・河津) | → | 祐篤(すけあつ・河津かわづ/松井、医者)   | I 2 3 2 9 |

- 正博(せいはいく・内藤) → 正博(まさひろ・内藤ないとう/藤原、幕臣?/歌) L 4 0 7 3  
 正博(せいはいく・沢) → 正博(まさひろ:名・沢さわ、兵法家) G 4 0 9 8  
 正博(せいはいく・小野) → 正博(まさひろ・小野おの、商家/歌人) O 4 0 1 6  
 正博(せいはいく/まさひろ・朝岡) → 柳昌(りゅうしょう・朝岡あさおか、藩士/儒者) E 4 9 6 8  
 正博(せいはいく・甲斐庄) → 正博(まさひろ・甲斐庄かいのしょう/橘/楠木、旗本/歌) M 4 0 7 6  
 生白(せいはいく→しょうはいく、伊勢蕉門・雷枝門) → 熙近(ひろちか・竜りゅう/竜野、神仏道/俳人) G 3 7 3 4  
 成白(せいはいく・賀島) → 兵介(ひょうすけ・賀島、藩士/建議;配流) F 3 7 2 8  
 青白(せいはいく・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8  
 清白(せいはいく・平井) → 樗堂(ちようどう・平井ひらい、藩士/詩人) K 2 8 4 4  
 C2483 静波軒春海(せいはいけんしゅんかい) ?- ? 俄にわかの名手、1848淀川「古今二和歌集」付録入  
 青白翁(せいはいくおう) → 我黒(がこく・中尾、俳人) C 1 5 0 3  
 青白斎(せいはいくさい) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2  
 青白子(せいはいくし) → 玄武坊(げんぶぼう・神谷かみや/水野、俳人) C 1 8 9 9  
 J2442 生白堂(せいはいくどう、通称;戸倉屋喜兵衛) ?- ? 江中期江戸書肆;屋号生白堂の主人、江前期創業、  
 店は貞享元禄1684-1704頃は江戸青物町・正徳安永1711-81頃は日本橋南3丁目、  
 のち新右衛門まちに移転、1764「百五十番句合」編  
 生白堂(せいはいくどう、生白) → 得庵(とくあん・菅かん/菅原、医/儒者) K 3 1 4 1  
 生白堂(せいはいくどう) → 行風(こうふう・生白堂/朝倉、狂歌) B 1 9 8 9  
 生白堂(せいはいくどう) → 歎之(かたし・生白堂、俳人) G 1 5 3 3  
 青白堂(せいはいくどう) → 蘆舟(ろしゅう・深江ふかえ、絵師) B 5 2 6 5  
 青麦堂(せいばくどう) → 常仙(じょうせん・志村しむら、俳人) T 2 2 9 3  
 青白楼(せいはいくろう) → 楚由(そゆう・鳥井とりい、商家/俳人) K 2 5 4 7  
 齊馬雪(せいばせつ) → 馬雪(ばせつ・齊、歌伎作者) E 3 6 7 1  
 清八(せいはいち・中村) → 竹香斎(ちくこうさい・中村、藩士/詩文) C 2 8 9 9  
 清八(せいはいち・桜井) → 重遠(しげとお・谷、秦山、神道/儒・南学) 2 1 1 3  
 清八(せいはいち・長沢) → 正緒(まさお・長沢ながさわ、名主/歌人) R 4 0 2 7  
 清八郎(せいはいちろう・柴田) → 汶嶺(ぶんれい・柴田/芝田/柴、書家/漢学) G 3 8 8 1  
 清八郎(せいはいちろう・水野) → 正信(まさのぶ・水野みずの、陪臣/国学者) F 4 0 8 2  
 清八郎(せいはいちろう・金井) → 久成(ひさなり・伊藤いとう/丸山、国学/国事) L 3 7 1 2  
 清八郎(せいはいちろう・服部) → 邦照(邦輝くにてる・服部はっとり、藩士) E 1 7 4 4  
 政八郎(せいはいちろう・中村) → 滄浪亭(そうろうてい・中村、藩士/儒者/武芸) D 2 5 2 8  
 政発(せいはいつ・加藤) → 大忒(だいてい・加藤、藩家老/儒者) B 2 6 9 7  
 清葩亭(せいはいてい) → 利謹(としのり・南部なんぶ、有職故実/歌) N 3 1 3 2  
 J2443 勢範(せいはん、俗姓;麻績おみ) 836-905 70 平安前期伊勢出身の華厳僧;東大寺住;899講師、  
 902已講の勞により権律師/904律師、「破誤抄」「維摩經注釈」著  
 J2444 清範(せいはん・しょうはん;法諱、俗姓;大和) 962-999 播州の法相僧;興福寺守朝門/真興門;奥義を究明、  
 京の清水寺住;学僧とし法相を講ず、999(長徳3)維摩講師/1000已講の勞により権律師、  
 説教の名手、984「五心義略記」著、「諸寺縁起集」編/「般若理趣分経注」著、  
 説話・伝説化され文殊の化身と称される;今昔物語・古事談入、  
 [清範(法諱)の通称] 清水律師/清水寺上綱  
 C2484 静範(せいはん) ?- ? 平安後期の僧/歌人、  
 1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」右方入(紀伊入道素意[藤原重経]判)、  
 [秋風のみすのまとほし吹きくればてなれし扇ゆくへしられず](千世君歌合;一番右)  
 C2486 性繁(せいはん) ?- ? 戦国期連歌作者、1508?肖柏亭「池田千句」連衆  
 C2487 星飯(せいはん) ?- ? 江中期俳人;鳥酔門、1752師に随行し奥羽旅行、  
 1756師に随行し大坂へ/80大磯嶋立庵に芭蕉句碑建立  
 正繁(せいはん) → 正繁(まさしげ、連歌作者) C 4 0 6 8  
 正伴(せいはん・吉井) → 正伴(まさとも・吉井/田坂屋、地主/神道) E 4 0 7 2  
 正般(せいはん・松平) → 玄駁(げんき・松平まつだいら、藩老/俳人) E 1 8 0 4  
 正汎(せいはん・石原) → 文樵(ぶんしょう・石原いしはら、俳人) F 3 8 7 5

正範(せいはん・菅沼)	→	正範(まさのり・菅沼すがぬま、幕臣/国学)	Q 4 0 3 4
正範(せいはん・内藤)	→	正範(まさのり・内藤、幕臣/歌人)	G 4 0 0 4
正範(せいはん・遠藤)	→	正範(まさのり・遠藤えんどう、神職)	O 4 0 0 5
正範(せいはん・渡)	→	正元(まさもと・渡わたり/田中、洋学/官僚)	T 4 0 8 8
性繁(せいはん・しょうはん; 法号)	→	正盛(まさもり・池田/藤原、豪族/連歌)	H 4 0 9 8
西幡(せいはん・長谷川)	→	寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育)	F 3 7 8 8
成範(せいはん・藤原)	→	成範(しげのり・藤原、廷臣/歌人)	C 2 1 7 8
成範(せいはん; 法諱)	→	成範(じょうはん; 法諱、真言僧)	B 2 2 3 1
成範(せいはん・寺村)	→	成範(しげのり・寺村、藩士/国学)	S 2 1 1 9
政範(せいはん・千秋/藤原)	→	政範(まさのり・千秋せんしゅう、武士/歌人)	F 4 0 8 9
政胖(せいはん・竹川)	→	竹斎(ちくさい・竹川たけがわ、商家/殖産家)	D 2 8 0 6
清範(せいはん; 法諱)	→	乗専(じょうせん; 法諱、真宗僧)	T 2 2 9 2
清播(せいはん・心田)	→	清播(せい・心田しんでん、臨濟僧)	C 2 4 8 5
静範(せいはん; 法諱)	→	静範(じょうはん; 法諱、天台僧)	L 2 2 4 5
製阪(せいはん・河尻)	→	春之(はるの・河尻かわじり、幕臣)	3 6 3 4
聖範(せいはん)	→	聖範(しょうはん; 法諱、真言/華嚴僧)	L 2 2 4 2

J2445 **西磐**(西盤せいばん・大槻おおつき、清臣男) 1818-5740 陸前仙台儒者; 江戸昌平覺に修学、西洋事情精通、世界各国史・世界地理を紹介; 海防論を主唱、1842「ト那把盧の紀略」53「講暇遊録」著、1855「遠西紀略」、「西洋新史」「西磐詩文稿」「外蕃年表」「晃山紀勝」「蕉陰書屋存稿」著、「秩父行記」「報志録」著/「大槻西磐雜録」「西洋年表」編、外編著多数、大槻平泉の甥、[西磐(;号)の名/字/通称/別号]名; 清祥/清禎/禎、字; 瑞卿、通称; 恒輔、別号; 蕉陰

正妃(せいひ、村上天皇正妃) → 按察御息所(あぜちのみやすどころ、在衡女) B 1 0 2 1

生彼(せいひ・清蓮社) → 原澄(げんちよう; 法諱、浄土僧) L 1 8 3 9

J2446 **正美**(せいび・豊島とよしま、名; 慎)?-? 江中期伊勢の和算家; 関流を修学・天文家、法令明和1751-72頃江戸住、「算通」「探原算法」「独断」著、[正美(;字)の通称/号]通称; 永田平助、号; 雲淵 豊島之辰と同一? → 之辰(ゆきたつ・豊島とよしま) E 4 6 7 9

2412 **成美**(せいび・夏目なつめ、包嘉、宗成[一雨]男) 1749-181668 江戸蔵前札差、幼児期父の実家伊藤家で養育される、1764(16歳)家督継嗣、66痛風発病; 右足不自由、家業には精励し家運隆盛; 富裕な札差となる、俳人; 父門、1763(15歳)「猪武者」初出(良治号)/64改号成美、蓼太・白雄らと交流、流派に属さず[俳諧独行の旅人]と自称、一茶を終始庇護、古書に精通、句日記を継続、1773馬卵「双猿路談」入、1779「糶汰瓶」編/「杉はしら句藻」、80「むかしきれ」編、1782「句藻あかつき」/84「鷓鴣帖甲辰春興」/86「俳諧一陽集」/88「一夜流行」編、1789「谷風草」「浅草」編、1790「厚薄集」、93「随斎句藻」、「随斎諧話」/「七部集纂攷」著、「はらはら傘」、文集「四山藁」、1804「夜あられの記」14「成美等発句帖」/16「成美家集」著、「続成美家集」「随斎諧話」著; 外編著多数、晩年は江戸本所の多田の森辺に隠棲、追善集; 3周忌「三霜」/13回忌「あられ供養」、[ささやかば曇りもぞする春の月](成美家集)、[起きや起きや舌もつれして春の雨]、(成美家集/少壮より足不自由・老いて中風; 家人も呼べない老残を自嘲)、[成美の通称/別号] 通称; 5代目井筒屋八郎右衛門/隠居後; 儀右衛門、別号; 良治(;初号)/八良治・別号; 修行庵・随斎・不随斎・贅亭・万齡・卅齡坊・大必山人・四山道人・風雲社法林庵・無辺法界俳士、法号; 等覚院

父; 宗成 → 一雨(いちう・夏目宗成、俳人) C 1 1 4 4

息も俳人 → 包壽(ほうじゅう・夏目包好) B 3 9 3 1

→ 諫圃(かんぼ・米津よねづ/夏目包徳) R 1 5 6 3

→ 包昌(ほうしょう・夏目) B 3 9 7 1

C2488 **井眉**(せいび・岡おか) 1760 - 183778 江中後期大坂心齋橋筋周防町の俳人; 二柳/奇淵門、



「華鳥文庫」「俳諧名華集」「正月日記」「華津勝地抄」「轡むし」編、1802「誹諧七部集注解」著、1811「俳諧四季文集初篇」15「俳諧四季類題集」27「俳諧拾葉集」編、31「誹諧月並発句集」著、  
[井眉(；号)の別号] 井眉庵/五春荘

J2447 濟美(せいび・武田たけだ) ? - ? 江中期長崎の和算家:入江東阿門、  
1749「闡微算法」/98「何来算法」、井手孝典・川本蓋臣の師、  
[濟美(；名)の字/通称/号]字;子世、通称;惕四郎てきろう/要四郎、号;青谿

濟美(せいび・桜田)	→	簡齋(かんさい・桜田、儒者/勤王派)	Q 1 5 6 1
誠美(せいび・源)	→	誠美(しげよし・源、曆算家)	T 2 1 1 3
誠美(せいび・奥田)	→	橘園(きつえん・奥田おくだ、儒者)	L 1 6 4 1
誠美(せいび・檜崎)	→	誠美(のぶよし・檜崎ならさき/磯部、歌人)	J 3 5 4 4
世美(せいび・万波まんなみ)	→	俊休(としやす・万波、儒者)	O 3 1 0 0
世美(せいび・木村)	→	高敦(たかあつ・木村毅齋、幕臣/巷談研究)	C 2 6 4 9
世美(せいび・加藤)	→	霞石(かせき・加藤かとう、医者/儒詩人)	M 1 5 6 7
世美(せいび・北原)	→	泰里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画)	Q 2 2 0 4
世美(せいび・北山)	→	橘庵(きつあん・北山きたやま、医/儒者)	F 1 6 8 8
世美(せいび・朝枝)	→	玖珂(きゅうか・朝枝あさえだ/晁、藩士/儒者)	G 1 6 3 7
世美(せいび・石崎)	→	融濟(ゆうせい・石崎いしざき、絵師)	D 4 6 0 0
世美(せいび・毛利)	→	治親(はるちか・毛利もうり、藩主/歌)	J 3 6 5 7
世美(せいび・伊沢)	→	世美(つぐよし・伊沢いざわ、藩医/歌人)	F 2 9 2 0
正美(せいび・富永)	→	正翼(まさしげ・富永とみなが、医者/詩文)	C 4 0 7 6
正美(せいび・富岡)	→	正忠(まさただ・富岡とみおか、藩士/国学/歌)	D 4 0 5 3
正美(せいび・内藤)	→	正美(まさよし・内藤/藤原、歌人)	I 4 0 7 1
正美(せいび・竹腰)	→	正美(まさよし・竹腰たけのこし、藩主/詩歌)	I 4 0 6 8
正美(せいび・内田)	→	正美(まさよし・内田うちだ、藩士/歌人)	N 4 0 9 8
正美(せいび・安江)	→	正美(まさみ・安江やすえ、文迪/医者/歌)	T 4 0 3 3
正美(せいび・前島)	→	正美(まさみ・前島まえじま/源、名主/国学)	S 4 0 5 1
正備(せいび・杉本)	→	吏舩(りこう・杉本すぎもと、神職/俳人)	B 4 9 0 0
成美(せいび・和気)	→	成美(なりよし・和気わけ、医者/詩)	I 3 2 4 0
成美(せいび・水本)	→	成美(なりよし・水本みずもと、儒者)	I 3 2 4 1
成美(せいび・井伊)	→	仁山(じんさん・井伊いい、藩士/詩人)	O 2 2 6 5
成美(せいび・福田/木下)	→	梅庵(ばいあん・木下きのした、医/狂詩)	3 6 5 0
成美(せいび・宮崎)	→	畏齋(いさい・宮崎みやざき、幕臣/儒者)	F 1 1 4 6
成美(せいび・岩瀬)	→	六齋(ろくさい・岩瀬いわせ、撚糸業/狂歌)	5 2 8 2
成美(せいび・吉田)	→	為幸(ためゆき・吉田よしだ、藩士/和算家)	S 2 6 8 6
成美(せいび・上田)	→	成美(なりよし・上田うえだ、藩士/歌人)	L 3 2 2 7
成美(せいび・佐伯)	→	成美(しげよし・佐伯さえき、藩士/国学)	O 2 1 4 9
成美(せいび・清水)	→	成美(なりよし・清水しみず、国学/詩人)	N 3 2 2 9
政美(せいび・高橋)	→	梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩)	B 3 6 4 7
政美(せいび・岡部)	→	政美(まさよし・岡部おかべ、神職/俳人)	O 4 0 5 9
政備(せいび・渥美)	→	政備(まさとも・渥美あつみ、歌人)	M 4 0 4 0
盛美(せいび・山中)	→	盛美(もりよし・山中やまなか、幕臣)	G 4 4 9 1
盛美(せいび・細田)	→	盛美(もりよし・細田ほそだ、歌人)	I 4 4 9 1
井眉庵(せいびあん)	→	井眉(せいび・岡、俳人)	C 2 4 8 8
清弥庵(せいびあん)	→	氷川(ひょうせん・池田いけだ、農業/儒者)	F 3 7 3 0
清美軒(せいびけん)	→	路友(ろゆう・平賀屋、書肆/俳人)	C 5 2 4 7
正弼(せいひつ・岡田)	→	輔幹(すけもと・岡田、藩士/儒者/詩)	H 2 3 1 3
正弼(せいひつ・服部)	→	正弼(まさすけ・服部はつとり/長沼、家老/歌)	R 4 0 7 9
正弼(せいひつ・前島)	→	正弼(まさみ・前島まえじま/源、名主/国学)	S 4 0 5 0
成尾堂(せいびどう)	→	素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者)	2 5 2 2

02448 晴姫(せいひめ・はるひめ松平まつだいら、岡山藩主池田治政5女) 1782-1845 64 母;側室(上田家出身)、

江戸生、堀直温(1781-1812)の妹、讃岐高松藩主松平頼儀の継室、書家/歌人、法号;円浄院

精姫(せいひめ・有栖川宮、精宮あきのみや)→ 韶子(あきこ/つなこ・有馬、歌) D 1 0 3 4  
生姫(せいひめ・伊達) → 嫩子(とんこ・池田/伊達、歌人) M 3 1 3 7  
正表(せいひょう・乗松) → 正表(まさあき・乗松のりまつ、藩士/歌人) R 4 0 5 4  
清凭(せいひょう・鎮西) → 清凭(きよてる・鎮西ちんぜい、神職/国学) S 1 6 5 0  
青標(せいひょう・偃松軒えんしょうけん)→ 秀堅(ひでかた・石田いしだ、神職/茶人) L 3 7 1 9  
盛標(せいひょう・木崎) → 盛標(もりすえ・木崎、藩士/軍師/産業図) F 4 4 4 9  
政苗(せいびょう/まさなえ・山田)→ 螻堂(かくどう・山田、儒者/詩) H 1 5 3 5  
盛苗(せいびょう・稲次) → 盛苗(もりなえ・稲次いなつぐ/有馬、家老) J 4 4 3 0  
清苗(せいびょう・水沢) → 清苗(きよなえ・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 9  
正彬(せいひん・竹石) → 正彬(まさあき・竹石たけいし、歌人) M 4 0 3 1  
政彬(せいひん・皆川) → 政彬(まさあき・皆川みながわ/藤原、幕臣/歌) L 4 0 6 5  
盛彬(せいひん・中原) → 盛彬(もりあき・中原/中、国学者/天文) F 4 4 0 5  
盛彬(せいひん/もりあき?・友安)→ 三冬(みふゆ・友安ともやす、儒者/国学/歌) F 4 1 7 8  
盛品(せいひん・淀川) → 盛品(もりただ・淀川よどがわ、藩士/民俗調査) F 4 4 6 2  
清浜(せいひん・鎮西) → 清浜(きよはま・鎮西ちんぜい、神職/歌人) U 1 6 7 5  
斉彬(せいひん・島津) → 斉彬(なりあきら・島津しまづ、藩主/歌) H 3 2 0 5  
斉敏(せいびん・藤原) → 斉敏(ただとし・藤原、廷臣/歌合主催) F 2 6 3 7  
斉敏(せいびん・池田) → 斉敏(なりとし・池田/島津、藩主/日記) H 3 2 7 4  
正敏(せいびん・堤つつみ) → 正敏(まさとし・堤つつみ、儒者/禅学) E 4 0 5 5  
正敏(せいびん・木崎) → 正敏(まさとし・木崎、酒造業/歌/連歌) E 4 0 4 6  
正敏(せいびん・安原) → 正敏(まさとし・安原やすはら/河本、商家/歌) T 4 0 3 7  
正敏(せいびん・仙田) → 正敏(まさとし・仙田せんだ、藩士/勤王派) E 4 0 5 1  
政敏(せいびん/まさとし・富田/名越)→ 范斎(はんさい・名越なごや、藩士/儒) H 3 6 6 7  
政敏(せいびん/まさとし・小沢)→ 蘭江(らんこう・小沢おざわ、和算家) C 4 8 0 3  
政敏(せいびん・小島) → 政敏(まさとし・小島こじま、地役人/国学) P 4 0 5 9  
政敏(せいびん・近藤) → 政敏(まさとし・近藤こんどう/浅野、馬術/国学) P 4 0 7 7  
盛敏(せいびん・友安) → 盛敏(もりとし・友安ともやす、藩士/国学者) K 4 4 7 4  
清敏(せいびん・水沢) → 清敏(きよとし・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 8  
井眉庵(せいびあん) → 井眉(せいび・岡おか、俳人) C 2 4 8 8

- J2448 **青昧**(せいふ) ? - ? 江中期俳人、1772几董「其雪影」3句入、  
[小豆餅あづきもち売りそゝくれし暑さ哉](其雪影;286/売りそこなうほど暑い;食欲不振)
- C2491 **青夫**(せいふ) ? - ? 江中期俳人、1776俳諧作法書「鷹の白尾」編
- J2449 **清夫**(せいふ・佐久間さくま、通称;瓜屋忠七、義天居士)?-1794 撰津兵庫の俳人;1782蕪村「花鳥篇」入、  
[郎等らうどうの居所嬉し花のもと](花鳥篇;64/離散した元家臣の居所判明;花下に集う)
- C2490 **星布**(せいふ・榎本えのもと、榎本徳尚女)1732-1814<sup>83</sup> 武蔵八王子の生/1747母と死別、  
継母仙朝(鳥酔門俳人)の感化で俳人;鳥酔門/師没後は白雄門、格調高い清新な句風、  
津戸平六郎信親を婿に迎える、歳旦の摺物を毎年上梓、1755頃改号;星布、1770夫没、  
白雄の允許で1788松原庵(鳥酔の号)2世を称す、1791剃髪、1793「星布尼句集」(喚之編)、  
1797「奥羽紀行」「七とせの秋」「みどりの松」/99「都鳥」「仮題 松の花」/1800「ふぐるま」編、  
1800芭蕉句碑建立;01記念集「蝶の日かげ」刊、息子喚之(1800母より先に没)も白雄門俳人、  
1811傘寿記念「春山集」著、  
[秋風や白き卒塔婆の夢に入る](星布尼句集/師白雄追悼の句)、  
[人恋し雪の朝けをたゞひとり](星布尼句集/病中吟/朝けは朝明けの略)  
[星布(;号)の別号]別号;芝江(;初号)/糸明窓/松原庵2世、法号;松原庵  
☆松原庵2世;白雄と不和の鳥明が熊沢元雨ごう(鳥酔2世)に継がせ正統とし問題化、  
のち星布は松原庵3世とされる
- J2450 **青敷**(せいふ・別号;閑遊亭/層巒窟そうらんくつ)?-? 江後期美濃の俳人;傘狂門、  
1809(文化6)師傘狂17回忌追善集「追善苔寂集」編
- C2492 **星譜**(せいふ・河角かすみ) ? - ? 江後期大坂鯉座の俳人;奇淵門、

芭蕉終焉の地藏堂前花屋付近に住した奇淵の跡を継嗣;花市会[花屋裏年中行事]を継承、  
1817(文化14)「花市はなのいち」編、

[星譜(;)号)の通称/別号]通称;土佐屋吉兵衛、別号;花屋裏/七杉堂

J2451 青芙(せいふ・中井なかい、通称;半兵衛)?-? 江後期遠江の俳人;卓池門、  
1834(天保5)「豆の葉集」40「とこしか」編

正富(せいふ)すべて → 正富(まさとみ)  
正夫(せいふ・原) → 元寅(もとのぶ・原はら、藩士/詩人) D 4 4 7 1  
正扶(せいふ・雲井) → 正扶(まさすけ・雲井くもい、国学者) P 4 0 4 2  
正附(せいふ→まさます・堀田) → 正陳(まさのぶ・堀田/紀、藩主/若年寄) F 4 0 6 7  
正敷(せいふ・大原) → 正敷(まさのぶ・大原おほはら/源、国学/歌) O 4 0 4 2  
盛府(せいふ、俳名) → 市松(いちまつ・初世佐野川、歌伎役者) D 1 1 6 4  
盛阜(せいふ・富沢) → 盛阜(もりおか・富沢とみざわ/木村、藩士/歌) K 4 4 7 1  
盛富(せいふ・山元) → 荘兵衛(そうべえ・山元、植林/樟の研究) I 2 5 8 4  
清夫(せいふ・紀) → 竹堂(ちくどう・紀、絵師) D 2 8 6 1  
清富(せいふ・中野/御巫) → 清富(きよとみ・御巫みかんなぎ、神職) P 1 6 9 8  
清敷(せいふ・堀家) → 清敷(きよのぶ・堀家ほりけ、神職/国学) V 1 6 1 9  
静夫(せいふ・竹村) → 東野(とうや・竹村、儒者/藩校教授) H 3 1 5 2  
静夫(せいふ・柏淵) → 静夫(しずお・柏淵かしづら、里正/儒・国学) N 2 1 9 9  
成夫(せいふ・阿部) → 椋亭(りょうてい・阿部あべ、庄屋/儒者) J 4 9 0 0  
成孚(せいふ・宇都宮) → 孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6  
成富(せいふ・鈴木) → 成富(なりとみ・鈴木、神社見聞記) H 3 2 7 5  
成富(せいふ・大村/大邨) → 成富(しげとみ・大村/大邨おおむら、古銭研究) R 2 1 7 3  
政父(せいふ・新田) → 政固(まさこ・新田につた、政筒、郷土史家) C 4 0 4 8  
政布(せいふ→まさのぶ?・山本) → 参九郎(さんくろう・山本やまもと/源、歌人) N 2 0 4 9  
政孚(せいふ・河村) → 政孚(まさちか・河村かわむら、蔵書) D 4 0 7 4  
政富(せいふ・堀家) → 政富(まさとみ・堀家ほりけ、神職/国学者) M 4 0 9 1  
政圃(せいふ/まさかま・田代) → 簡窩(かんか・田代たしろ、家老/儒者) Q 1 5 0 2

C2493 正武(せいぶ) ? - ? 江前期京の俳人;季吟門、

1695「此大橋このおほし」編、1702賀子「花見車」入、

[よい酒は東方朔とうほうさくよ若ふびす](花見車;132/良酒は長寿だよと夷顔の主人が言う、  
前漢東方朔は西王母の仙桃を盗み九千歳;謡曲西王母/若夷は元日朝販売の恵比寿の札)

正武(せいぶ)訓はすべて → 正武(まさたけ)  
清武(せいぶ・松平) → 清武(きよたけ・松平/越智おち、藩主) P 1 6 8 2  
清武(せいぶ・土居) → 清武(きよたけ・土居どい、藩士/文筆家) P 1 6 8 3  
西武(せいぶ) → 西武(さいむ・山本、京俳人) 2 0 0 7  
政武(せいぶ・駒井) → 政武(まさたけ・駒井、武将) D 4 0 3 1  
政武(せいぶ・平塚/磯野) → 政武(まさたけ・磯野/源/平塚、幕臣/歌) D 4 0 3 5  
政武(せいぶ・百瀬) → 政武(まさたけ・百瀬ももせ、薬商/歌人) T 4 0 1 8  
政武(せいぶ/まさたけ・藤井) → 見隆(けんりゅう・藤井ふじい、医者) M 1 8 8 0  
政武(せいぶ/まさたけ・松平/本多) → 忠国(ただくに・本多ほんだ、藩主) P 2 6 4 4  
政武(せいぶ・北川) → 政武(まさたけ・北川きたがわ、国学者/画) D 4 0 4 2

C2494 清風(せいふう・鈴木すずき、道西男) 1651-1721 71 羽前村山郡尾花沢の紅花商;問屋島田屋主人、  
商用で江戸・上方を往来/俳人;初め信徳門(談林系)/のち1685芭蕉に接近;嵐雪らと交流、  
1689細道の旅の芭蕉を歓待、晩年は俳諧から離れ中央俳壇とも疎遠となる、  
1681「おくれ双六」85「稲筵」86「誹諧飛登津(一ツ)橋」編、  
1679高政「誹諧中庸姿」独吟歌仙入、1691「元禄百人一句」入、  
[何三夕さんせき火箸とふたり冬籠り](中庸姿つねのすがた;独吟歌仙発句)  
[清風(;)号)の通称/別号]通称;島田屋八右衛門、別号;残月軒/幻華叟、法号;釈道祐

J2452 清楓(せいふう・長ちよう、名;公勲) 1716-1774 59 山城伏見の儒者/朱竹画に長ず、  
1773「岡山客吟稿」、「買山詩鈔」「胸中墨竹譜」著、

[清楓(；号)の字/通称]字；禹功、通称；宗仁

J2453 **清風**(せいふう/きよかぜ・福住ふくずみ、長瀬宗敏男)1778-1848 71 信州飯田の売薬・貸本業福住喜三郎養子、福住家を継承、飯田藩御用達/町年寄、祖父長瀬素人・父宗敏が澄月・夢宅門歌人で幼時より歌・俳諧に親炙、歌；1805服部菅雄門、国学；植松茂岳・森広主門、新古今集に心酔/伊那歌壇の中心、北原稻雄・松尾多勢子の師、松年(1799-1856/歌人)の父、「新古今をられぬ水」著、1846(弘化3)中津川で秀矩・馬風・市岡殷政いげまさ・初枝らと歌会唱和、「福住清風遺稿」(「伊勢物語後釈」「土佐日記新釈」「むつの花」「夕月夜」「呼子鳥」等)、[うちそよくゆふへの風の萩はあれと暁かたの鳴の羽搔](中津川実相院にて)、[清風(；号)の幼名/名/通称/別号]幼名；米吉よねきち、名；貞直、通称；佐六けろく/喜三郎、別号；梅門/松老/徐崖/笹の屋/笹垣ささき清風、法号；蟠松院

C2495 **清風**(せいふう・村田むらた、別名；順次/将之、光賢男)1783-1855 73 長州萩藩士、藩校明倫館で修学、1808手廻組/小姓役/1810右筆役・密用方/1819家督嗣/38藩の財政改革に着手/軍制改革、1844辞職/55周布政之助の要請で江戸方御内用参与；就任直後病死、歌・国学に通ず、「東海道紀行歌文」「月波楼集」「野鶴小栖集」「清風存意」「清風余音」/1806-55「清風詩集」、1824「清風日記」50「清土談」/54「嘉永寅七年日記」「浦賀防禦事」外著多数、「松斎遺文」、[清風(；名)の字/通称/号]字；子則/穆夫、通称；亀之助/新左衛門/四郎次/四郎左衛門/織部、号；松斎/嘯雨/東陽/梅堂/静翁/炎々翁/三隅山荘主者/月波楼/懷徳書楼/野鶴小栖主人、再生翁/恍惚翁

H2402 **清風**(せいふう・北村きたむら/本姓；坂上)？-？ 江後期；和泉堺の国学者；本居大平門、大平撰「八十浦の玉」下巻；長歌入、[神代より千万年の今の世に大国魂といはふもろ人](八十浦；1085短歌、拝大己貴命之神像作歌并短歌)

J2454 **清風**(せいふう・坂尾/阪尾さかお、幽栖ゆうせい男)1808-45 38 出羽庄内藩の儒者；白井重勝門/文章に長ず、兵書・刀槍・馬術を修得、1831庄内藩校致道館助教/典学/40舎長兼任、諸公子の侍講、祖父宗吾の興した郷土記録の収集・筆写事業を父と共に継承；「大泉叢誌」を編纂刊行、[清風(；号)の字/通称/別号]字；穆卿ぼくけい、通称；六郎、別号；観水

J2433 **静風**(せいふう・市兼いちかね/本姓；源)？-1860 石見津和野藩士；亀井矩賢・茲尚藩主2代に出仕、歌；牧村光清・大国隆正門、「椿園集」著/「源静風家集」編、[静風(；名)の通称/号]通称；軍三郎、号；椿園

N2494 **静風**(せいふう・) ？ - ？ 江後期；歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、姓不詳；該当者多数のため特定できず、[かき絶えて音せぬ人やつまごとの爪はじきしてわれをいむらん](大江戸倭；恋1616)[秋山のさつをの笛にはかるとも知らでや鹿の鳴きかはすらん](同；雑1959/鹿笛)

E2443 **清風**(せいふう・安達あだち、辰三郎[昇]男)1835-84 50 因幡鳥取藩士、儒；京の巖垣家に修学、1854江戸の昌平黌入学/55水戸の会沢正志斎門/神発流砲術を修得、帰郷；砲術教授、1862京留守居役；勤王家と交流/藩政改革を申請、1875岡山住；78勝北郡長；北日本原開拓、1855-57「安達秀文所蔵文書」、「安達清風日記」「安達清風金蘭簿」「安達清風遺稿」著、[清風(；名)の幼名/初名/字/通称/号]幼名；和太郎、初名；忠貫、字；子孝、通称；清蔵/志津馬/清一郎、号；竹堂/竹処/宅広

清風(せいふう・広瀬)	→	台山(たいざん・広瀬、藩士/画/詩歌)	K 2 6 0 7
清風(せいふう・三枝さいぐさ/土屋)	→	斐子(あやこ・三枝/土屋、歌人)	C 1 0 7 6
清風(せいふう・高原)	→	東郊(とうこう・高原、儒者/詩)	D 3 1 8 8
清風(せいふう・秋山)	→	白賁堂(はくびどう・秋山/鈴木、藩儒)	D 3 6 8 4
清風(せいふう・大鐘)	→	義鳴(よしなり・大鐘おおかね、藩士/歌文)	F 4 7 4 2
清風(せいふう・長松ながまつ)	→	日扇(にっせん；法諱、日蓮僧)	3 3 0 7
清風(せいふう・大塚)	→	清風(きよかぜ・大塚おおつか、藩士/歌人)	T 1 6 7 7
清風(せいふう・横山)	→	秀世(ひでよ・横山よこやま、国学者/歌)	I 3 7 3 1
清風(せいふう・小塚)	→	秀得(ひでのり・小塚/山本、藩士/殖産)	D 3 7 6 4
清風(せいふう・中野)	→	清風(きよとお・中野、国学者)	P 1 6 9 5

清風(せいふう・池袋) → 清風(きよかぜ・池袋いけぶくろ、教育/歌人) T 1 6 4 3  
 清風(せいふう・高子) → 大士(おおこと・高子たかこ/土佐、神職/国学) D 1 4 9 4  
 清風(せいふう・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6  
 清風(せいふう・先光) → 清風(きよかぜ・先光さきみつ、神職/歌人) U 1 6 4 1  
 清風(せいふう・高塩) → 清風(きよかぜ・高塩たかしお、神職/国学) U 1 6 6 1  
 清風(せいふう・曾根) → 清風(きよかぜ・曾根そね、医者/歌人) U 1 6 5 5  
 清風(せいふう・深淵) → 龍観(りょうかん・深淵ふかぶち/畠山、真言僧/歌) M 4 9 2 5  
 西風(せいふう・波多野) → 西風(にしかぜ・波多野はだの、商人/俳人) 3 3 1 9  
 正風(せいふう・高崎) → 親義(ちかよし・高崎、歌人) C 2 8 2 3  
 正風(せいふう・檜垣/橋村) → 正允(まさとき・橋村/度会、神職/国学) E 4 0 3 8  
 正風(せいふう・渡辺) → 樵山(しょうざん・渡辺わたなべ、藩儒) S 2 2 5 6  
 正風(せいふう・湯本) → 武彦(たけひこ・湯本ゆもと、藩士/儒者) 2 7 2 3  
 正封(せいふう・隅屋) → 杉葉(さんよう・隅屋、製鉄業/俳人) M 2 0 8 2  
 正封(せいふう→まさよし・浅井) → 貞庵(ていあん・浅井あさい、医者) 3 0 2 6  
 政風(せいふう・内田) → 政風(まさかぜ・内田うちだ、藩士/記録) B 4 0 8 3  
 青楓(せいふう・荷田) → 信言(のぶこと・荷田/羽倉、神職/詩) B 3 5 4 1  
 青楓(せいふう・富田) → 愛(あい・富田とみた/奥村、歌人) I 1 0 0 1  
 静風(せいふう・市兼/源) → 静風(しずかぜ・市兼、椿園、歌人) U 2 1 0 0  
 清風庵(せいふうあん) → 五来(ごらい・福田ふくだ、商家/俳人) F 1 9 9 2  
 清風園(せいふうえん) → 竹亭(ちくてい、俳人) D 2 8 4 8  
 清風居(せいふうきよ) → 忠憲(ただのり・本多、国学/故実/歌/俳) F 2 6 6 3  
 清風居(せいふうきよ) → 五来(ごらい・福田ふくだ、商家/俳人) F 1 9 9 2  
 清風軒(せいふうけん) → 次郎(じろう・松岡まつおか/那須、家老/儒) N 2 2 0 6  
 清風軒(せいふうけん) → 立愿(りゅうげん・難波なんば/篠野、医者) D 4 9 6 7  
 清風軒(せいふうけん・玉桂) → 欽治(ながはる・多胡たこ、国学/歌) N 3 2 6 9  
 清風軒(せいふうけん) → 業忠(なりただ・吉田よしだ、歌人) P 3 2 3 2  
 青楓軒(せいふうけん) → 古道(こどう・村井道静、医/俳人/地誌) D 1 9 4 1  
 清風舎(せいふうしゃ) → 三橋(さんきょう・甘棠舎、俳人) M 2 0 0 3  
 清風舎(せいふうしゃ) → 木長(ぼくちよう・津坂/津阪、藩士/俳人) D 3 9 7 3  
 清風自来軒(せいふうじらいけん) → 業忠(なりただ・吉田よしだ、歌人) P 3 2 3 2

J2455 清風大人(せいふうたいじん、煎茶亭せんちやてい) ?-? 伊勢の狂歌作者、1840「興歌雅筵集」編

清風亭(せいふうてい・伊左子) → 伊左子(いさこ・清風亭/白銀、狂歌) F 1 1 4 8  
 清風堂(せいふうどう) → 穀堂(こくどう・古賀、藩士/儒者/詩人) C 1 8 3 9  
 清風堂(せいふうどう) → 渭虹(渭江いこう、土肥、藩士/俳人) F 1 1 4 3  
 清風堂(せいふうどう) → 槐陰(かいいん・岡崎おかざき、儒者) I 1 5 3 7  
 正風堂(せいふうどう/しょうふうどう) → 魚淵(なぶち・佐藤/吉村信胤、医/俳人) G 3 2 8 4  
 正風堂(せいふうどう/しょうふうどう) → 山暁(さんぎょう・川村かわむら、俳人) E 2 0 2 2  
 清風明月楼主人(せいふうめいげつろうしゅじん) → 浩斎(こうさい・長崎、医/詩) I 1 9 9 4  
 清風楼主人(せいふうろうしゅじん) → 梅宇(ばいう・塩尻しおじり、儒者) 3 6 5 9  
 生腐園(せいふえん) → 維民(これたみ・新渡戸にとべ、藩士/兵学) O 1 9 4 8  
 正福(せいふく・久保寺) → 正福(まさとみ・久保寺、幕臣/和算家) E 4 0 5 8  
 正福(せいふく・今大路) → 暘谷(ようこく・今大路いまおじ、医; 典薬頭) 4 7 8 4  
 正福(せいふく・福田) → 誠斎(せいさい・福田、儒者/藩校教授) I 2 4 3 3  
 正福(せいふく・松元) → 正福(まさとみ・松元まつもと/塙、医者) S 4 0 7 4  
 正副(せいふく・則武) → 正副(まさすけ・則武のりたけ/平、歌人) R 4 0 5 5  
 清富(せいふく・御巫) → 清富(きよとみ・御巫みかななぎ/中野、神職) P 1 6 9 8  
 清富(せいふく・長谷川) → 清富(きよとみ・長谷川はせがわ、旗本歌人) T 1 6 2 0  
 清服(せいふく・入江) → 済民(さいみん・入江いりえ、藩士/詩文) H 2 0 0 5  
 清復(せいふく・大槻) → 文彦(ふみひこ・大槻おおつき、国学/辞書) I 3 8 0 6  
 静復(せいふく・楠本) → 端山(たんざん・楠本、藩士/儒者) I 2 6 2 1

- 清福道人(せいふくどうじん) → 琴山(きんざん・村井/邨井、医者/詩文) J 1 6 0 1  
 正稜(せいりょう・犬塚) → 正稜(まさしげ・犬塚いぬづか、歌人) N 4 0 7 6  
 星布尼(せいふに、榎本徳尚男) → 星布(せいふ・榎本、俳人) C 2 4 9 0  
 J2456 成文(せいぶん) ? - ? 江中期俳人;1783維駒これま「五車反古」4句入、  
 [晴天に暮てまもなし朧月](五車反古;巻首91/春先の好天に夕霞がかかる)  
 成文(せいぶん・福田) → 少室(しょうしつ・福田ふくだ/田、藩士/儒) J 2 2 4 4  
 成文(せいぶん・富士谷) → 元広(もとひろ・富士谷/藤原、藩士/国学) E 4 4 1 7  
 成文(せいぶん・牧野) → 竹所(ちくしょ・牧野まさの、幕臣/詩人) D 2 8 1 8  
 成文(せいぶん・吉田) → 佐登子(さとこ・大倉おおくら/吉田、詩/絵師) O 2 0 1 2  
 成文(せいぶん・横山) → 清暉(せいき・横山よこやま、絵師) O 2 4 4 3  
 正文(せいぶん・田中) → 正文(まさふみ・田中/平、官人/歌人) H 4 0 2 6  
 正文(せいぶん・今村) → 正文(まさふみ・今村いまむら、藩士/歌人) N 4 0 8 3  
 正文(せいぶん・松尾) → 正文(まさふみ・松尾まつお、歌人) S 4 0 6 4  
 正文(せいぶん・大友) → 正文(まさふみ・大友おおとも、医者/歌人) O 4 0 3 6  
 正文(せいぶん・河村) → 正文(まさふみ・河村かわむら、国学) P 4 0 0 9  
 正文(せいぶん・国重) → 正文(まさふみ・国重くにしげ、藩老/国学) P 4 0 4 0  
 斉文(せいぶん → さも・新漢) → 斉文(さも・新漢いままのあや、伎楽伝承) F 2 0 6 8  
 世文(せいぶん・長) → 梅外(ばいがい・長/長谷、詩人/尊攘派) 3 6 8 4  
 世文(せいぶん・奥田) → 容安斎(ようあんさい・奥田おくだ、医者/詩文) 4 7 6 1  
 世文(せいぶん・竜) → 鏡湖(きょうこ・竜りゅう、儒者/詩) N 1 6 6 8  
 世文(せいぶん・桃井) → 翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩) 2 3 2 0  
 世文(せいぶん・田中) → 世文(つぐふみ・田中たなか、医者) F 2 9 9 2  
 成文斎(せいぶんさい・狩野) → 永徳(2世えいとく・狩野、絵師) D 1 3 2 4  
 星文堂(せいぶんどう) → 弘篤(ひろあつ・浅野あさの、藤屋弥兵衛、書肆) F 3 7 5 2  
 盛文堂(せいぶんどう) → 弥兵衛(やへい・前川まえかわ、書肆) E 4 5 0 3  
 静文堂(せいぶんどう) → 琴溪(きんけい・劉、儒者/詩) D 1 6 9 4  
 盛乗(せいへい・もりもち・中安) → 弦斎(げんさい・中安なかやす、藩士/家老) J 1 8 0 6  
 世平(せいへい・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2  
 政平(せいへい・賀茂) → 政平(まさひら・賀茂かも、神職/歌人) G 4 0 8 2  
 政平(せいへい・源) → 政平(まさひら・源みなもと、歌人) M 4 0 8 6  
 政平(せいへい/まさひら・土肥) → 黙翁(もくおう・土肥どひ、儒者/講説業) 4 4 7 1  
 政平(せいへい/まさひら・黒瀬) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2  
 勢平(せいへい・近藤) → 国昌(くにまさ・近藤こんどう、国学者) E 1 7 1 9  
 正平(せいへい) 音はすべて → 正平(しょうへい)  
 訓はすべて → 正平(まさひら)  
 正並(せいへい・万沢) → 正並(まさなみ・万澤まんざわ、藩士/歌人) S 4 0 8 1  
 正並(せいへい・橋村) → 正並(まさなみ・橋村はしむら/度会/中山、神職) R 4 0 6 1  
 正乗(せいへい・芳村) → 正乗(まさもち・芳村よしむら/大中臣、神道) T 4 0 7 4  
 清平(せいへい・尾池) → 春道(はるみち・尾池おいけ、藩士/武術/歌) J 3 6 8 3  
 清平(せいへい・高島) → 清平(きよひら・高島たかしま、藩士) U 1 6 6 3  
 清平(せいへい・山根) → 清平(きよひら・山根やまね、神職/国学) V 1 6 5 7  
 清平(せいへい・吉松) → 萬齡(かづなが・吉松よしまつ、藩士/国学) W 1 5 1 6  
 精平(せいへい・矢沢) → 精平(きよひら・矢沢やざわ、陪臣/歌人) V 1 6 4 8  
 2413 清兵衛(せいべえ・岡おか、重俊) ?-1687? 金平浄瑠璃作者/江戸舌耕士の祖、  
 1655「にしきど合戦」58「宇治の姫切」、「金平生捕論」「坂田金平論」「頼光跡目論」著  
 J2457 清兵衛(せいべえ・高田たかだ、名;政度まさのり/政慶) ?-? 大阪の書肆、1748「西国筋道中記」、  
 1750「広益字典節用集」58「袖中節用集」編/61「栄花百人一首」、85「女要福寿台」編、外多数、  
 [清兵衛(;通称)の別通称/屋号]別通称;清之丞/嘉平治、屋号;堺屋/境  
 J2458 清兵衛(せいべえ・靱山もみやま) 1753-1822 70 上野沼田の農業/俳人、寺子屋を開き子女教育、  
 「利根村づくし」著、

[清兵衛(;通称)の号] 其風/一扇/千秋庵

J2459 清兵衛(せいべえ・新井/荒井あらい)?-?

江後期1848-60頃上州中之条の代官、

「道二どりに先生御高札道話」を重刻し領民に頒布、「かくあるべし」補填

- 清兵衛(せいべえ・加藤/黒田) → 一成(かずなり・黒田くろだ、武将/藩士) M 1 5 3 4  
清兵衛(せいべえ・大橋) → 重長(しげなが・大橋おおはし、武将/記録) R 2 1 8 1  
清兵衛(せいべえ・井上) → 政重(まさしげ・井上、藩主/宗門改役) C 4 0 7 1  
清兵衛(せいべえ・鯛屋/榎並/永田) → 貞柳(ていりゅう・油煙齋/鯛屋、商家/狂歌) 3 0 0 9  
清兵衛(せいべえ・西田) → 久任(ひさとう・西田にしだ、連歌/俳人) B 3 7 4 5  
清兵衛(せいべえ・関東屋) → 蘭室(らんしつ・藤村ふじむら、茶人) C 4 8 4 3  
清兵衛(せいべえ・鑪屋いろりや) → 清狂(せいきやう・西村にしむら、絵師) H 2 4 8 9  
清兵衛(せいべえ・入江) → 樵風(しょうふう・入江、製塩業/俳人) B 2 2 3 7  
清兵衛(せいべえ・多賀谷) → 経貞(つねさだ・多賀谷たがや、和算家) C 2 9 1 2  
清兵衛(せいべえ・相良) → ト山(ぼくざん・相良さがら、儒者/詩人) D 3 9 2 3  
清兵衛(せいべえ・黒柳) → 召波(しょうは・黒柳くろやなぎ/柳、詩/俳人) B 2 2 1 8  
清兵衛(せいべえ・大和屋) → 生重(きちやう; 俳名、大和屋甚兵衛、歌舞伎役者) F 1 6 8 5  
清兵衛(せいべえ・伊達屋) → 布席(ふせき・鴈来庵/伊達屋、商家/俳人) C 3 8 9 3  
清兵衛(せいべえ・阿座見) → 俊次(としつぐ・阿座見あざみ、和算家) M 3 1 8 5  
清兵衛(せいべえ・万屋) → 松葉軒(しょうようけん、書肆) B 2 2 9 0  
清兵衛(せいべえ・平野屋/松濤まつなみ) → 芙蓉花(ふようか・一本亭、狂歌/俳人) E 3 8 5 3  
清兵衛(せいべえ・小津) → 長正(ながまさ・小津おつ、道生/商家/歌) L 3 2 4 1  
清兵衛(せいべえ・小津) → 長親(ながちか・小津おつ、道円/道生男/商業/歌) E 3 2 2 7  
清兵衛(せいべえ・深井) → 松齋(しょうさい・深井/深、藩士/儒/兵学) I 2 2 9 6  
清兵衛(せいべえ・遠藤) → 俳狂(はいきやう・遠藤えんどう、藩士/俳人) 3 6 9 9  
清兵衛(せいべえ・杉山) → 正義(まさよし・杉山、藩士/漢学; 易学) I 4 0 4 9  
清兵衛(せいべえ・杉山) → 正仲(まさなか・杉山、正義男/藩士/儒) F 4 0 1 0  
清兵衛(せいべえ・荒井) → 顕道(あきみち・荒井、幕臣/代官) F 1 0 8 2  
清兵衛(せいべえ・山代屋) → 路宅(ろたく・山代屋、商家/俳人) C 5 2 0 9  
清兵衛(せいべえ・岩崎) → 美隆(よしとか・岩崎いわさき、里正/歌人) E 4 7 0 9  
清兵衛(せいべえ・内田) → 風月庵眉住(ふうげつあんまゆずみ、狂歌作者) 3 8 5 0  
清兵衛(せいべえ・山崎) → 關齋(あんさい・山崎やまさき、垂加流神道) 1 0 3 7  
清兵衛(せいべえ・阿部) → 松園(しょうえん・阿部あべ、藩士/儒者) F 2 2 5 4  
清兵衛(せいべえ・濱松) → 歌国(うたくに・濱松、歌伎作者/随筆) 1 2 6 7  
清兵衛(せいべえ・黒柳) → 維駒(これこま・黒柳くろやなぎ、俳人) E 1 9 1 7  
清兵衛(せいべえ・那波屋/春名) → 忠成(ただなり・春名はるな、読本作者) F 2 6 4 9  
清兵衛(せいべえ・鈴木) → 雅之(まさゆき・鈴木/穂積、国学/歌人) I 4 0 3 8  
清兵衛(せいべえ・川村) → 修就(ながたか・川村かわむら、幕臣/奉行/歌) F 3 2 0 7  
清兵衛(せいべえ・池辺) → 宗民(むねたみ・池辺いけべ、国学/歌) D 4 2 6 5  
清兵衛(せいべえ・宇治) → 光寧(みつやす・宇治、歌人) I 4 1 1 5  
清兵衛(せいべえ・高島) → 清矣(きよなり・高島たかしま/一井、藩士) U 1 6 6 2  
清兵衛(せいべえ・吉松) → 増春(ますはる・吉松よしまつ、藩士/和漢学) T 4 0 7 1  
清兵衛(せいべえ・太田) → 清秀(きよひで・太田おた、国学者) T 1 6 8 1  
清兵衛(せいべえ・北郷) → 資知(すけとも・北郷きたごう、藩士/国学) I 2 3 3 9  
清兵衛(せいべえ・関) → 道守(みちもり・関せき、国学者) J 4 1 4 1  
清兵衛(せいべえ・俵屋) → 順宣(よりのぶ・横田よこた、書肆/尊攘) P 4 7 9 7  
清兵衛(せいべえ・椿) → 正舎(まさや・椿つばき、庄屋/国学) Q 4 0 9 6  
清兵衛(清辺せいべえ・布川) → 正沖(正興まさおき・布川ぬのかわ、商家/歌) R 4 0 4 4  
精兵衛(せいべえ・大菅) → 圭(けい・大菅おおすが、国学/詩人) 1 8 0 0  
精兵衛(せいべえ・原/勝田) → 五岳(ごがく・勝田/原、藩士/儒者/医) L 1 9 9 2  
政兵衛(せいべえ・吉田) → 左夕(させき・吉田、俳人) N 2 0 0 0  
政兵衛(せいべえ・熊谷) → 一澄(かずみ・熊谷くまがい、藩士/歌人) U 1 5 5 3

棲碧(せいへき・牧まき) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
 栖碧散人(せいへきさんじん) → 澄叟(ちよういく;法諱・天章;道号、臨濟僧) H 2 8 2 3  
 棲碧山人(せいへきさんじん) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
 棲碧楼(せいへきろう) → 詩牛(しぎゅう・牧まき、詩人) Q 2 1 1 3  
 清別(せいべつ・沖) → 清別(きよわか・沖おき/大野/三上/和氣、藩士/歌) T 1 6 8 0

J2461 政遍(せいへん;法諱・字;宥俊(ゆうしゅん) 1534-1614<sup>81</sup> 越中の真言僧;増福院良運門/伝法灌頂を受、  
 安祥寺流・中院流を究める;豊臣秀吉・徳川家康に厚遇、1592宝性院兼安祥寺の門主、  
 1606(慶長11)高野山の事務検校、1612以後屢々駿府に参候;家康のため真言論議実施、  
 法印、「青巖寺并検校支配帖」著

成遍(せいへん;法諱) → 成遍(じょうへん;法諱、法師/歌人) K 2 2 1 7  
 成遍(せいへん→じょうへん) → 元瑜(げんゆ;法諱・字;大式、真言僧) M 1 8 5 5  
 静遍(せいへん;法諱) → 静遍(じょうへん;法諱、真言僧) L 2 2 5 8  
 盛弁(せいべん;法諱) → 盛弁(じょうべん;法諱、法師/歌人) W 2 2 1 9  
 聖弁(せいべん→しょうべん) → 慧観(えかん;法諱・聖弁、浄土僧) D 1 3 5 6  
 静遍院(せいへんいん→じょうへんいん) → 公意(こうい;法諱、天台僧/連歌) H 1 9 2 9  
 性遍房(せいへんぼう→しょうへんぼう) → 玄仙(げんせん;法諱、真言僧) K 1 8 5 8

02449 成保(せいほ・しげやす・松本まつもと、) 1777-1853<sup>77</sup> 陸奥(陸前)遠田郡富永村休塚邑主に仕出/国学者

02451 西浦(せいほ・三宅みやけ、) 1786-1857<sup>72</sup> 備中浅口郡西之浦の富商の生/絵師、  
 長崎で伊い孚九(いほきゅう)の画法を修得/野呂介石門;山水画、  
 [西浦(;)号)の名/字/通称/別号]名;高哲、字;稚由、通称;辰蔵、別号;看雲楼

世輔(せいほ) → 樊世輔(はんせいほ、通詞/詩文) I 3 6 2 8  
 世輔(せいほ・岩淵/蘆野) → 東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3  
 正輔(せいほ・藤原) → 正輔(まさすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌) C 4 0 8 5  
 正輔(せいほ・為永) → 春水(しゅんすい・為永、人情本) 2 1 6 1  
 正輔(せいほ・大田) → 豊年(とよし・大田おた、医者/国学者) R 3 1 3 5  
 正輔(せいほ・松本) → 董斎(とうさい・松本まつもと、書家) E 3 1 3 1  
 正輔(せいほ・大堀) → 正輔(まさすけ・大堀おほぼり/源、藩士/歌) O 4 0 4 5  
 正甫(せいほ・日比) → 正甫(まさとし・日比ひび、歌人) T 4 0 9 5  
 正甫(せいほ・前田) → 正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主) E 4 0 4 5  
 正甫(せいほ・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほった、藩主/茶道) S 4 0 4 3  
 正甫(せいほ・日比・北峯) → 正甫(まさとし・日比ひび/北峯、歌/俳人) H 4 0 8 9  
 正甫(正輔せいほ・星川) → 正甫(まさとし・星川/鴨沢、藩士/地誌家) E 4 0 4 9  
 正甫(せいほ・寺田) → 正甫(まさとし・寺田てらだ、歌人) M 4 0 4 7  
 正甫(せいほ・橋村) → 正甫(まさなみ・橋村はしむら/度会/村山、神職) R 4 0 7 1  
 正甫(せいほ・野原) → 正甫(まさよし・野原のはら/宮沢、商家/歌) R 4 0 5 1  
 正補(せいほ・林田) → 正補(まさすけ・林田はやしだ、歌人) M 4 0 5 2  
 正保(せいほ・矢野川) → 正保(まさやす・矢野川やのがわ、医者) I 4 0 1 3  
 正保(せいほ→まさやす・小堀) → 宗中(そうちゅう・小堀こぼり/源、幕臣/茶人) B 2 5 8 6  
 正保(せいほ・三宅) → 正保(まさやす・三宅みやけ、神職/国学/歌) S 4 0 8 7  
 政保(せいほ) → 政保(まさやす、神職/連歌) L 4 0 1 3  
 成甫(せいほ・木田) → 省(せい・木田きだ、儒者) H 2 4 0 9  
 成輔(せいほ;名) → 尊眞親王(そんしんしんのう、青蓮院門跡) F 2 5 6 0  
 誠甫(せいほ・河合) → 菊泉(きくせん・河合かわい、藩士/儒者) I 1 6 4 6  
 誠甫(せいほ・小川) → 泰山(たいざん・小川おがわ、漢学/折衷学) B 2 6 4 6  
 誠甫(せいほ・長岡) → 意丹(いたん・長岡ながおか、医者/歌人) E 1 1 6 9  
 誠甫(せいほ・米津/隠岐) → 茱軒(しゅけん・隠岐おき/米津、与力/詩人) I 2 1 6 5  
 誠甫(せいほ・小川) → 守中(もりなか・小川/藤原、蘭医/雅楽) G 4 4 0 6  
 盛輔(せいほ・須田) → 盛輔(もりすけ・須田すだ、幕臣/国学) K 4 4 1 2  
 青甫(せいほ・加藤) → 正国(まさくに・加藤かとう、国学/歌人) O 4 0 6 7  
 青浦(せいほ・山本) → 簡斎(かんさい・山本/館たち、医者/本草) Q 1 5 7 0



清甫(せいほ・滝)	→	無量(むりよう;号・滝たき、儒者)	D 4 2 2 7
清浦(せいほ・大津)	→	清浦(きょうら・大津おつ、国学者)	T 1 6 7 6
清保(せいほ・久保)	→	清保(きよやす・久保くぼ、国学者)	U 1 6 2 1
精浦(せいほ・永井)	→	五十槻(いつき・永井ながい、神職)	K 1 1 5 0
晴浦(せいほ・根来)	→	喜内(きない・根来ねごろ、幕臣/記録)	L 1 6 7 0
省輔(せいほ;法諱・仁英)	→	仁英(にんえい:道号・省輔、臨濟僧)	G 3 3 1 7
静甫(せいほ・奥村)	→	尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村、藩士/儒/歌)	C 3 2 0 2
静甫(せいほ・春田)	→	永年(ながとし・春田はるた、具足師/故実)	3 2 1 2
静甫(せいほ・永井)	→	如瓶子(じよへいし・永井/大江、書家/狂歌)	C 2 2 9 5
静甫(せいほ・河瀬)	→	太宰(ださい・河瀬/戸田、儒/勤王家)	O 2 6 9 2
静甫(せいほ・中島)	→	盛征(もりゆき・中島なかじま、商家/歌人)	K 4 4 7 8
聖謨(せいぼ・内藤/川路)	→	聖謨(としあきら・川路、幕臣/詩歌)	M 3 1 0 2
聖謨(せいぼ・武田)	→	梅菴(ばいりゅう・武田/篠田、儒者)	C 3 6 2 0
聖謨(せいぼ・宗像)	→	蘆屋(ろおく・宗像むなかた、書家)	5 2 4 9
井圃庵(せいほあん)	→	眉山(びざん・松本まつもと、俳人)	C 3 7 3 2
正甫院(せいほいん)	→	正甫(まさとし・前田/松平/菅原、藩主)	E 4 0 4 5

J2462 **成宝**(せいほう;法諱・通称;峰僧正、藤原惟方男)1159-1227 69 真言僧;1166勸修寺の雅宝門;出家、1179三会の講師/83権律師;雅宝の委嘱を受け勸修寺9世、1199元興寺別当/法隆寺別当、東大寺・大安寺別当/1221東寺46世長者/高野山座主/大僧正、晩年;高野山西谷来迎院隱棲、聖衆に勸修寺流を授与、1201(建仁元)「建仁灌頂記」、「結縁灌頂三昧耶戒私記胎藏」著

C2497 **栖鳳**(せいほう) ? - ? 俳人、1787定雅「椿花文集」編

J2463 **正峯**(せいほう・串原くしはら/遠山/永井)?-? 和算家;本多利明門;高弟、最上徳内と同門、1782「隠題解」-92「夷諺俗話」著、  
[正峯(;名)の別名/通称]別名;永峯/景岡/鶴岡、通称;右仲

02408 **栖鳳**(せいほう・三輪みわ、旧姓:原)1843-1901 59 信濃伊那郡の歌人;上京し高島式部門、帰郷し三浦元規と新古今風の歌を詠じた[風越歌会]を発起;篠田保・松井直寛が参加、赤羽剛たけし・安藤伊佐子(安東菊子の孫/欽一郎女)らが会員に加わる、  
[栖鳳(;名)の通称/号]通称;八郎、号;錦香亭 O 2 4 0 8

西峯(せいほう)	→	見林(けんりん・松下、儒・医者)	D 1 8 2 6
西峰(せいほう・青木)	→	周弼(周祐しゅうすけ・青木あおき、蘭医)	H 2 1 8 2
成方(せいほう・野田)	→	成方(しげかた・野田、鶺鴒、幕臣/俳人/地誌)	C 2 1 0 5
政方(せいほう・名島)	→	政方(まさみち・名島、医/国学)	H 4 0 5 3
政方(せいほう/まさかた・喜多村)	→	間雲(かんうん・喜多村/津軽、家老/兵学)	P 1 5 9 6
政方(せいほう・村井)	→	政方(まさかた・村井むらい、越前屋久右衛門、商/歌学)	T 4 0 0 6
政方(せいほう・村山)	→	政方(まさかた・村山むらやま、国学者/歌)	T 4 0 1 3
政方(せいほう・滝田/小堀)	→	政方(まさみち・小堀、1700-75、幕臣奉行)	H 4 0 4 1
政方(せいほう・小堀)	→	政方(まさみち・小堀、1742-1803、藩主)	H 4 0 4 4
政方(・関藤)	→	政方(まさみち・関せき/関藤、医/国学/歌)	4 0 0 6
政方(せいほう・中村)	→	闇指(あんし・中村なかむら、藩士/俳人)	C 1 0 3 7
政方(せいほう・浅羽)	→	筈之助(はずのすけ・浅羽あさば、砲術家)	E 3 6 6 7
政方(せいほう・小室)	→	政方(まさかた・小室こむろ、藩士/歌人)	P 4 0 6 4
政方(せいほう・名島)	→	政方(まさみち・名島/北川/村主/秦/度会、医/国学)	H 4 0 5 3
政方(せいほう・橋本)	→	政方(まさみち・橋本、奉行所与力)	B 4 0 9 2
政邦(せいほう・榊原)	→	政邦(まさくに・榊原/源、藩主/歌人)	C 4 0 3 7
政豊(せいほう・山名)	→	政豊(まさとよ・山名/源、武将)	E 4 0 8 2
政豊(せいほう・松井)	→	政豊(まさとよ・松井まつい、医者/歌人)	E 4 0 8 5
政豊(せいほう・川喜田)	→	政豊(まさとよ・川喜田かわきた、商家/国学)	P 4 0 0 0
政峯(せいほう・立川)	→	政峯(まさみね・立川たちかわ、歌人)	Q 4 0 8 3
盛方(成方せいほう・藤原)	→	盛方(もりかた・藤原ふじむら、廷臣/歌人)	4 4 2 6
盛方(せいほう・柴村)	→	盛方(もりみち・柴村しばむら、幕臣/随筆)	G 4 4 5 8

盛宝(成宝せいほう・中嶋/鈴木)→才兵衛(さいべえ・鈴木/中嶋、幕臣/儒)H 2 0 0 4  
 整峰(整方せいほう・殿村)→整方(まさかた・殿村とのむら/山上、商家/国学)R 4 0 0 8  
 青峰(せいほう・井田)→敬之(たかゆき・井田いだ、書家/篆刻)E 2 6 6 8  
 青峯(せいほう・佐々木)→眞足(またり・佐々木、能役者/歌人)J 4 0 5 8  
 清方(せいほう・金原)→清方(きよかた・金原きんばら、神職/歌人)O 1 6 7 2  
 清邦(せいほう/きよくに・金子)→得処(とくしょ・金子かねこ、儒者)K 3 1 9 5  
 清芳(せいほう・池袋)→清芳(きよよし・池袋いけぶくろ、国学/歌人)T 1 6 4 5  
 清龐(せいほう・鹿子田)→清龐(きよたか・鹿子田かのこた、藩士/国学)P 1 6 8 0  
 晴峰(せいほう・県)→琴梧(きんご、県あがた、儒者)Q 1 6 8 7  
 静方(せいほう・春山)→弟彦(おとひこ・春山はるやま/安曇、国学)E 1 4 0 6  
 世宝(せいほう・鼎)→春嶽(しゅんがく・鼎かなえ、絵師/篆刻)Y 2 1 5 9  
 世方(せいほう・荒木)→千洲(せんしゅう・荒木あらき、鑑定家)M 2 4 4 6  
 正方(せいほう)すべて→正方(まさかた/まさよし)  
 正芳(まさよし・平元)→正芳(まさよし・平元ひらもと、藩祐筆/歌)S 4 0 1 5  
 正芳(せいほう・杉本)→正芳(まさよし・杉本すぎもと、歌人)Q 4 0 3 5  
 正芳(せいほう・野田)→正芳(まさよし・野田のだ、商家/歌人)I 4 0 6 6  
 正芳(せいほう・水野)→正芳(まさよし・水野みずの、藩士/国学/歌)S 4 0 9 3  
 正芳(正方せいほう・山田)→宗円(そうえん・山田やまだ、幕府医官)G 2 5 3 2  
 正芳(せいほう/まさよし・木村)→魯石(ろせき・木村きむら、商家/俳人)5 2 0 5  
 正邦(せいほう・丹羽/稲葉)→正邦(まさくに・稲葉/丹羽、藩主/歌人)C 4 0 4 1  
 正邦(せいほう・中根)→正邦(まさくに・中根なかね/平、歌人)M 4 0 1 5  
 正邦(せいほう・小津)→正邦(まさくに・小津おづ/寺田、商家/国学)O 4 0 1 3  
 正邦(せいほう・西村)→正邦(まさくに・西村にしむら/源、官人/歌人)R 4 0 3 9  
 正邦(せいほう・三宅)→正邦(まさくに・三宅みやけ、幕臣/国学)S 4 0 8 5  
 正豊(せいほう・橘)→正豊(まさとよ・橘たちばな、廷臣/兵学者)E 4 0 8 3  
 正豊(せいほう・県)→正豊(まさとよ・県あがた/藤原、神職/国学)N 4 0 0 8  
 正峰(せいほう・法名)→正峯(まさみね・雨宮あめのみや/源、幕臣/歌)L 4 0 5 8  
 正峰(せいほう/まさみね・加藤)→巨橙(きょとう・加藤かとう、俳人)P 1 6 9 3  
 征方(せいほう・津軽)→寧親(やすちか・津軽つがる、藩主/俳人)G 4 5 2 7  
 星峯(せいほう)→長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者)D 3 2 1 7  
 棲鳳(せいほう・毛利)→斉広(なりとお・毛利、藩主/文筆)H 3 2 7 1  
 正望(せいほう・神戸)→正望(まさもち・神戸かんべ、軍記作者)H 4 0 8 1  
 正望(せいほう/まさもち・桑原)→桂叢(けいそう・桑原くわばら、絵師)G 1 8 2 8  
 正房(せいほう・中村)→正房(まさふさ・中村なかむら、歌人)M 4 0 2 6  
 正房(せいほう・葛西)→正房(まさふさ・葛西かさい、国学者)O 4 0 7 4  
 正房(せいほう・飯田)→正房(まさふさ・飯田いいた/源、神職/国学)N 4 0 5 0  
 正懋(せいほう・山口)→剛斎(こうさい/ごうさい・山口、藩儒者)B 1 9 1 5  
 正懋(せいほう・岡部)→平次郎(へいじろう・岡部、儒/詩/狂歌)2 7 5 5  
 正房(せいほう)すべて→正房(まさふさ)  
 成房(せいほう・二階堂)→成房(しげふさ・二階堂にかいどう/藤原、幕臣/歌)a 2 1 3 2  
 成房(せいほう・市江)→鳳造(ほうぞう・市江いちえ、藩士/陶工)G 3 9 4 2  
 世懋(せいほう・市橋)→長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者)D 3 2 1 7  
 青房(せいほう→あおふさ)→員九(いんく・児島、俳人)D 1 1 2 1  
 清房(せいほう・飯尾)→清房(きよふさ・飯尾いとお、武士/歌人)Q 1 6 2 6  
 清房(せいほう・飯尾)→清房(きよふさ・松木、神道家)H 1 6 5 6  
 清房(せいほう・山田)→清房(きよふさ・山田やまだ、和算家)Q 1 6 2 7  
 清房(せいほう/きよふさ・坊門)→信雅(のぶまさ・藤原/坊門、廷臣/歌人)D 3 5 2 5  
 清房(せいほう/きよふさ・竹田)→近江(初世おしみ・竹田、浄瑠璃)1 4 0 8  
 清房(せいほう・宮沢)→清房(きよふさ・宮沢みやざわ、神職/国学)T 1 6 4 6  
 清房(せいほう・三好)→清房(きよふさ・三好みよし、藩士;重臣)V 1 6 3 3

- 政房(せいぼう・榊原) → 政房(まさふさ・榊原/源、藩主/歌人) H 4 0 0 9  
 政房(せいぼう・奥村) → 政房(まさふさ・奥村おくむら、絵師) H 4 0 1 2  
 政房(せいぼう・亀岡) → 宗山(そうざん・亀岡かめおか、幕臣/記録) C 2 5 7 3  
 征房(せいぼう・脇/水上) → 征房(まさふさ・水上/水/脇、藩士/歌人) H 4 0 1 6  
 盛房(せいぼう) すべて → 盛房(もりふさ)  
 盛方院(せいほういん) → 浄友(じょうゆう・吉田よしだ、幕府医官) L 2 2 7 7  
 盛方院(せいほういん) → 浄快(じょうかい・坂さか/吉田、医僧) H 2 2 6 8  
 盛方院(せいほういん) → 浄秀(じょうしゅう・坂さか、医僧) J 2 2 5 9  
 盛方院(せいほういん) → 浄孝(じょうこう・坂、浄秀男/医僧) I 2 2 8 0  
 棲鳳園(せいほうえん) → 竜洲(りゅうしゅう・高木たかぎ、詩人) E 4 9 5 8  
 青峰斎(せいほうさい) → 酔月(すいげつ、紅梅堂、雑俳点者) 2 3 4 8  
 西峯山人(せいほうさんじん) → 見林(けんりん・松下、儒・医者) D 1 8 2 6  
 清芳亭長(せいほうていちょう) → 平角(へいかく・平野ひらの、商人/俳人) 2 7 1 6  
 征休(せいぼう・高野) → 高全(こうぜん・高野たかの、医者;小児科) K 1 9 2 6  
 正朴(せいぼく・菅原) → 洞斎(とうさい・菅原、絵師/鑑定家) E 3 1 2 2  
 正睦(せいぼく・橋村/荒木田) → 久守(ひさもり・荒木田、神職/国学) C 3 7 0 7  
 正睦(せいぼく・堀田) → 正睦(まさよし・堀田/紀、藩主/老中) I 4 0 6 7  
 正樸(せいぼく・堀) → 蒙窩(もうか・堀ほり/菅原、藩儒/文筆家) 4 4 4 7  
 清墨庵(せいぼくあん) → 月讖(げつしん・安達あだち、俳人/教育) N 1 8 5 6  
 西木子(せいぼくし・栗山) → 大膳(だいぜん・栗山、藩家老/黒田騒動) K 2 6 5 0  
 正本(せいほん/まさもと?・皆川) → 葵園(きえん・皆川みながわ、儒者) I 1 6 4 3  
 正本(せいほん・井出) → 正本(まさもと・井出いで/藤原、幕臣/歌) L 4 0 7 0  
 政本(せいほん・津田) → 政本(まさもと・津田つだ、藩家老) H 4 0 9 4  
 聖梵(せいぼん) → 聖梵(しょうぼん、天台僧/東大寺僧、歌) B 2 2 6 4  
 02411 正磨(せいま・菊池きくち、号;立慶) 1763-1838 76 陸奥(陸中)和賀郡の国学者  
 醒磨(せいまろ・物部/鈴木) → 醒磨(さめまろ/すがまる・鈴木/物部、藩士/歌) O 2 0 7 3  
 C2498 正満(せいまん) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、  
 1633重頼「犬子えのこ集」1句入;639、  
 [千種ちぐさあれど先づ一はつの花野哉](犬子集;三639/花野の中で一八いちほつが一番)  
 正満(せいまん・曲淵) → 正満(まさみつ・曲淵まがりぶち、幕臣/和学) S 4 0 5 3  
 正満(せいまん・勝野) → 正満(まさみつ・勝野かつの、国学者) O 4 0 9 0  
 生万(せいまん・千秋) → 棟参(むねちか・千秋ちあき/服部、商/国学) D 4 2 9 8  
 清万(せいまん・谷頭) → 溟南(めいなん・谷頭やがしら、藩士、儒者) 4 3 3 2  
 清満(せいまん・鳥居) → 清満(初世きよみつ・鳥居、絵師) D 1 6 6 5  
 清満(せいまん・鳥居) → 清満(2世きよみつ・鳥居清峯きよみね、絵師) D 1 6 6 6  
 政満(せいまん・石井) → 三庵(さんあん・石井いひ、藩の侍医) L 2 0 7 5  
 静妙子(静妙子せいみょうし) → 三洲(さんしゅう・長ちよう/長谷、儒者/尊攘) F 2 0 8 6  
 02446 惺民(せいみん・松浦まつうら、) 1818-1896 79 阿波那賀郡の国学者;足代弘訓門  
 齊民(せいみん・松平) → 頼常(よりつね・松平/徳川、藩主/学問) J 4 7 0 8  
 靖民(せいみん・八田) → 華陽(かよう・八田はつた、儒者) P 1 5 5 8  
 聖民(せいみん・稲毛) → 屋山(おくざん・稲毛いなげ、篆刻家) B 1 4 0 8  
 政民(せいみん・福島) → 政民(まさたみ・福島ふくしま、農業/文筆家) D 4 0 6 6  
 政民(せいみん・大竹) → 政文(正文まさふみ・大竹、藩士/神道学者) H 4 0 2 5  
 正民(政民せいみん・沼田) → 月斎(げっさい・沼田ぬまた、藩士/絵師) H 1 8 0 5  
 正民(せいみん・堀田) → 正民(まさたみ・堀田/紀、藩主/画) D 4 0 6 4  
 世民(せいみん・北原) → 秦里(しんり・北原きたはら、藩士/詩/画) Q 2 2 0 4  
 世民(せいみん・松下) → 筑陰(ちくいん・松下まつした、藩士/儒者) C 2 8 5 1  
 世民(せいみん・桂川) → 甫周(ほしゅう・桂川かつらがわ/4世、幕府蘭医) E 3 9 2 2  
 清民(せいみん・石川) → 清民(きよたみ・石川、国学;万葉集研究) D 1 6 3 3  
 清民(せいみん/きよたみ・伊藤) → 圭介(けいすけ・伊藤、医者/植物学者) 1 8 7 9

- 清民(せいみん・蒲) → 清民(きよたみ・蒲がま、商家/国学) T 1 6 9 4  
清民(せいみん・里見) → 清民(きよたみ・里見さとみ、神職/国学) U 1 6 4 3  
誠民(せいみん・野田) → 誠民(のぶたみ・野田のだ、千足男/歌人) J 3 5 5 5  
醒眠(せいみん・高橋) → 竜斎(りゅうさい・高橋たかはし、見聞記蒐集) E 4 9 0 8  
Q2462 惺夢(せいむ・号、尼) ? - ? 江前期;歌人/1682河瀬菅雄[麓の塵]2首入、  
[置きわびぬあはれ身にしむ秋風にいくたびはらふ袖の夕露](麓の塵;秋205)  
正務(せいむ・横地) → 楚山(そざん・横地、医者/儒者) J 2 5 7 4  
青夢(せいむ) → 寥和(初世りょうわ・大場、俳人) J 4 9 6 6  
清夢(せいむ・十時) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2  
清夢軒(せいむけん) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2  
C2499 清明(せいめい・安倍あべ、保名男) 921-1005 85 平安前中期の陰陽家・天文博士;保憲門、  
よく識神を使いあらゆる事を未然に知覚していたという;大鏡などに説話入/伝説化、  
「金烏玉兔集」「占事略決」著  
D2400 盛命(せいめい・識名しきな、本姓;伊野波/毛) 1651-1715 65 琉球政治家/15歳で出仕;5代の国王に仕う、  
清国への進貢正使/薩摩にも三度使す/1702三司官(;11年間)、  
和学:おもろさうしの改訂/「混効験集」、1700「思出草」著、  
[盛命(;名)の字/通称/唐名/号]字;思五良うみぐら、  
通称;福地親雲上ペークミ-/富盛親方うゑかた/識名親方、唐名;起竜、号;瑞雲  
J2464 誠明(せいめい・松下まつした) ? - ? 江戸後期歌人、  
1838(天保9)「扶桑和歌名所集覧」編(5巻5冊/山名50音順;所在地・例歌など)  
正名(せいめい・三宅) → 石庵(せきあん・三宅みやげ、儒者/詩/俳人) D 2 4 3 1  
正名(せいめい・松元) → 正名(まさな・松元まつもと/橋、書家) E 4 0 9 1  
正名(せいめい・松原) → 正名(まさな・松原/源、藩士/詩/随筆) E 4 0 9 2  
正名(せいめい・矢島) → 正名(まさな・矢島、藩士/国学) E 4 0 9 3  
正名(せいめい・福田) → 正名(まさな・葦園、狂歌作者) E 4 0 9 4  
正名(せいめい・服部) → 正名(まさな・服部、家老/歌人) R 4 0 8 0  
正名(せいめい・水野) → 正名(まさな・水野、藩士/中老) E 4 0 9 5  
正名(せいめい・前田) → 正名(まさな・前田、蘭学;英語) E 4 0 9 6  
正名(せいめい→まさな;俳号) → 東菑(とうし、俳人) E 3 1 7 4  
正名(せいめい・森) → 横谷(おうこく・森もり、藩士/儒者) C 1 4 1 1  
正明(せいめい)すべて → 正明(まさあきorまさあきらorまさのぶorまさみち)  
正命(せいめい→まさのぶ・大田原/稲葉) → 正親(まさちか・稲葉/大田原、藩主) D 4 0 7 3  
正命(せいめい・奥) → 正命(まさのぶ・奥おく、医者/歌人) O 4 0 6 1  
正命(まさみち・真野) → 正命(まさみち・真野まの、幕臣/和学者) S 4 0 4 8  
西銘(正銘せいめい・鴨井) → 熊山(ゆうざん・鴨井かもい、儒者/詩文) C 4 6 0 1  
西溟(せいめい・服部) → 壺仙(こせん・服部はつとり、商家/詩人) M 1 9 9 8  
政名(せいめい・新免/宮本) → 武蔵(むさし・宮本/新免、武芸者/書画) 4 2 5 5  
政名(せいめい・松田) → 政名(まさな・松田/藤原、藩士/馬術家) E 4 0 8 9  
政名(せいめい・八木田) → 桃水(とうすい・八木田、藩士/事蹟研究) F 3 1 7 9  
政明(せいめい・鹿児島) → 政明(まさあき・鹿児島かごしま、国学・歌) 4 0 9 5  
政明(せいめい・川喜田) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0  
政明(せいめい・大鳥居) → 政明(まさあき・大鳥居おおとり、藩士/歌) O 4 0 3 7  
政明(せいめい・鶴川) → 麓文(そぶん・鶴川うかわ、俳人/季語研究) E 2 5 3 1  
生明(せいめい・狩野) → 探幽(たんゆう・狩野、絵師) I 2 6 6 1  
世明(せいめい・脇坂/桃) → 西河(せいか・桃井/桃もも、藩儒/詩) 2 4 7 9  
斉名(せいめい・田口/紀) → 斉名(ただな・まさな・紀、漢学者・詩人) 2 6 2 8  
清名(せいめい・野山) → 清名(きよな・野山のやま、神職/歌人) T 1 6 3 6  
清名(せいめい・早川) → 清名(きよな・早川はやかわ/井内、藩士/国学) V 1 6 0 3  
清明(せいめい・ト田) → 清明(きよあき・ト田しめだ、国学者) U 1 6 4 9  
清命(せいめい・出浦) → 清命(きよのり・出浦いでうら、郷土史家) Q 1 6 1 4

誠明(せいめい・多田) → 誠明(ともあき・多田ただ、藩士/儒者) P 3 1 1 1  
 盛明(せいめい・佐久間) → 太華(大華たいか・佐久間、藩士/儒者) B 2 6 0 6  
 盛明(せいめい) → 盛明(もりあき・姓不詳、俳人) I 4 4 6 1  
 盛明親王(せいめいしんのう) → 盛明親王(もりあきらしんのう、歌人) F 4 4 0 7  
 世茂(せいも・井上/足立) → 長篤(ちようしゅん、足立あだち、産科医) I 2 8 8 6  
 清茂(せいも・岡本/賀茂) → 清茂(きよしげ・岡本/賀茂/中大路、神職/故実) H 1 6 4 1  
 清茂(せいも・飯田) → 清茂(きよしげ・飯田いいた、幕臣/歌人) T 2 6 0 6  
 正茂(せいも・堀田) → 正高(まさたか・堀田/紀、藩主/本草家) D 4 0 1 8  
 正茂(せいも・蒲) → 正茂(まさもち・蒲がま、国学/者) O 4 0 9 7  
 政茂(せいも・野村) → 政茂(まさしげ・野村のむら、和算家) C 4 0 7 5  
 盛茂((せいも・若林/尾崎) → 三良(さぶろう・尾崎おさき/若林、勤王家) L 2 0 5 1  
 成孟(せいもう・高木) → 東陽(とうよう・高木、儒者/詩文) H 3 1 7 9  
 静黙(せいもく・岡田) → 華陽(かよう・岡田おかだ、医者/詩) P 1 5 6 0  
 静黙堂(せいもくどう) → 良範(りょうはん・山田やまだ、役人/歌人) J 4 9 2 6

J2465 青門(せいもん・山田やまだ、名; 淹えん/長爾) 1815-67<sup>53</sup> 周防岩国藩士/儒者: 玉乃九華門、詩に長ず、藩主吉川経幹に才を認められ参政拔擢; 藩政の枢機に関わる/藩校養老館創建に尽力、「錦川志」著、

[青門(;号)の字/通称]字; 子雅、通称; 城太郎/府生

正門(せいもん・森) → 正門(まさかど・森、藩士/和算/三角関数) C 4 0 1 5  
 性聞(せいもん→しょうもん; 法諱) → 独言(どくごん・性聞、黄檗僧) K 3 1 7 1  
 清門(せいもん・三輪田) → 米山(べいざん・三輪田みわた、神職/書家) 2 7 4 5

D2401 青野(せいや) ? - ? 俳人、1763「月あかり」馬来と共編、津田養と同一?

青野(せいや・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓; 田、医者/俳人) 4 7 5 3  
 西野(せいや・市河) → 寛斎(かんさい・市河/河、詩人) 1 5 4 8  
 西野(せいや・藤井) → 維濟(これなり・藤井ふじい/藤原、国学者) O 1 9 6 3  
 西野(せいや・萱生) → 由章(よりふみ・萱生かよう/紀、国学者/歌) J 4 7 7 2  
 西也(せいや・芦谷) → 西也(さいや・芦谷あしたに、俳人) E 2 0 8 7  
 正也(せいや・高根) → 正也(まさなり・高根たかね、修験奉行/尊攘) Q 4 0 6 7  
 正也(せいや・近藤) → 正也(まさなり・近藤こんどう/藤原、剣術/歌) M 4 0 7 3  
 正也(せいや・中村) → 正也(まさや・中村なかむら、藩陪臣/歌人) R 4 0 1 7  
 正也(せいや・西原) → 正也(まさなり・西原にしはら、国学/歌人) R 4 0 3 8  
 青野(せいや・津田/田) → 養(よう・津田つだ/修姓; 田、医者/俳人) 4 7 5 3  
 清也(せいや・倉沢) → 清也(きよなり・倉沢くらさわ、庄屋/国学/神職) U 1 6 2 2  
 静也(せいや・泉) → 家胤(いえたね・泉いずみ、易/国学/神職) J 1 1 9 2  
 静野(清野せいや・荒井) → 静野(清野しずの・荒井、国学者/教育) U 2 1 0 5  
 政弥(せいや→まさみつ・小堀) → 政方(まさみち・小堀こほり、藩主) H 4 0 4 4  
 誠哉(せいや・松尾) → 誠(まこと・松尾まつお、農商/国学) S 4 0 6 3  
 西野居(せいやきよ/にしのか?) → 正名(まさな・松原/源、藩士/詩/隨筆) E 4 0 9 2  
 製菓山人(せいやくさんじん) → 月篷(げつぼう・賀藤かとう、藩士/文筆家) H 1 8 3 8  
 正論(せいゆん・行弘) → 正論(まさのり・行弘ゆきひろ/中原、国学者) T 4 0 6 5  
 性瑜(せいゆ; 法諱) → 性瑜(しょうゆ; 法諱、真言律僧) B 2 2 7 4  
 成瑜(せいゆ; 法諱) → 成瑜(じょうゆ; 法諱、僧/歌人) B 2 2 7 5  
 聖愈(せいゆ・野見) → 嶺南(れいなん・野見のみ、医者/郷土史家) 5 1 5 8  
 盛唯(せいゆい/もりただ・池辺) → 鶴林(かくりん・池辺いけべ、藩士/儒者) K 1 5 6 1

D2402 正友(せいゆう/まさとも・杉木すざき、政春男、望一もいちの弟) 1597-1678<sup>82</sup> 伊勢山田神職/俳人; 俳諧転者、兄望一もいち収集の作品を整理刊行; 初期伊勢俳壇の興隆に寄与、1666家集「正友千句」著、「伊勢俳諧長帳」編、「伊勢俳諧新発句」編、1667「俳諧小相撲」点者の1、「神法楽集」編、1633重頼「犬子集」8句入、1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 [年明けてひらかぬ梅や古暦ふるごよみ] (犬子集; 一26/暦代わりの梅が咲かない)、  
 [正友(;名)の通称] 久右衛門

D2403 正友(せいゆう/まさとも・遠藤えんどう、通称;伝兵衛)?-? 江戸俳人;1675西山宗因招待の松亭興行に参加、1675「江戸談林三百韻」(松意と両吟)、75「談林十百韻」参加、杉木正友と混同されがち、[ながむれば供籠ともやりつゞく峰の松](談林十百韻;第一5、前句;駕籠かき過ぐるあとの山風、駕籠を大名行列に松並を供侍の槍に見立てる)

J2466 世猷(せいゆう・神野じんの、服部法眼2男)1772-1853<sup>82</sup> 名古屋藩士/儒;細井平洲門、1797神野貞右衛門の嗣子、大番/細工頭/水野代官歴任/1834(天保5)勘定奉行、1842藩主徳川斉荘の寵臣佐枝将監に逆らい辞職/のち藩主慶勝の代に前功を賞される、1832「大学簡解」、「紀平洲先生年譜」「巡按日記」「松篁吟艸」「人君孝儉大意」著、「道千乗之國章衍解」著、[世猷(;名)の字/通称/号]字;文徽、通称;左衛門/十蔵/半十郎/順蔵、号;半洲/松篁軒

N2497 正遊(せいゆう・中川ながわ、通称;信濃)?-? 江後期;美作英多郡林野郷荒木田村の林野神社神主、歌人;衣川長秋・飯田秀雄・本居大平門、1857-8大沢深臣「巨勢総社千首」入、[滝姫の神のくりだす早滝の滝つ白絲見れどあかぬかも](巨勢総社千首、備前児島郡早滝比咩の社に詣でて詠)

- |                        |                            |           |
|------------------------|----------------------------|-----------|
| 西友(せいゆう→さいゆう・山本)→      | 西友(さいゆう・山本、談林俳人)           | B 2 0 1 1 |
| 正右(せいゆう・阿部)→           | 正右(まさすけ・阿部あべ、藩主/老中)        | M 4 0 9 4 |
| 正由(せいゆう・宮川・宮河)→        | 松堅(しょうけん・宮川正行、俳人)          | 2 1 7 4   |
| 正由(せいゆう・奥宮)→           | 慥斎(ぞうさい・奥宮、藩士/和漢/教育)       | B 2 5 5 8 |
| 正祐(せいゆう・松本)→           | 董斎(とうさい・松本、書家/俳)           | E 3 1 3 1 |
| 正裕(せいゆう・山吹)→           | 正直(まさなお・山吹やまぶき/鈴木、藩士/歌)    | T 4 0 5 3 |
| 正優(せいゆう→まさかつ/まさやす・小堀)→ | 宗中(そうちゅう・小堀/源、幕臣/茶人)       | B 2 5 8 6 |
| 正雄(せいゆう)すべて→           | 正雄(まさお)                    |           |
| 正猷(せいゆう・天野)→           | 正識(まさつね・天野あまの、幕臣)          | E 4 0 1 7 |
| 政右(せいゆう・浅井)→           | 政右(まさすけ・浅井あさい、藩士/歌人)       | C 4 0 8 8 |
| 政由(せいゆう・成田/植崎)→        | 九八郎(くはちろう・植崎、幕臣/上書)        | D 1 7 3 8 |
| 政祐(せいゆう・榊原)→           | 政祐(まさすけ・榊原さかきばら/源、藩主)      | C 4 0 9 1 |
| 政友(せいゆう・住友)→           | 政友(まさとも・住友すみとも、商家/涅槃僧)     | E 4 0 6 6 |
| 政友(せいゆう・堀)→            | 政友(まさとも・堀ほり、和算家)           | 4 0 7 9   |
| 政友(せいゆう・河村)→           | 政友(まさとも・河村かわむら、国学者/歌人)     | P 4 0 0 7 |
| 政邑(せいゆう・浅村)→           | 政邑(まさむら・浅村あさむら/藤原、藩士/歌)    | N 4 0 1 3 |
| 政雄(せいゆう・小野)→           | 政雄(まさお・小野おの、藩士/歌人)         | O 4 0 1 7 |
| 政雄(せいゆう・内海)→           | 政雄(まさお・内海わつつみ、神職/国学者)      | O 4 0 0 0 |
| 成裕(せいゆう/なりひろ?・佐藤)→     | 中陵(ちゅうりょう・佐藤、本草家)          | G 2 8 9 8 |
| 成裕(せいゆう→しげやす・沢田)→      | 名垂(なたり・なたる・沢田、藩士/国学)       | 3 2 2 3   |
| 成裕(せいゆう・森脇/玉乃)→        | 九華(きゅうか・玉乃たまの/森脇、藩士/儒者)    | I 1 6 7 0 |
| 成雄(せいゆう)→              | 成雄(せいおう;法諱・字;行性、真言僧)       | H 2 4 4 8 |
| 成雄(せいゆう・渡辺)→           | 成雄(しげお・渡辺わたなべ、神職/国学・歌)     | a 2 1 1 4 |
| 斉裕(せいゆう・蜂須賀)→          | 斉裕(なりひろ・蜂須賀、藩主/歌人)         | I 3 2 0 8 |
| 盛有(せいゆう・福王)→           | 盛有(もりあり・福王/長束、能楽師/記録)      | F 4 4 1 2 |
| 盛宥(せいゆう・森山)→           | 孝盛(たかもり・森山、幕臣/国学)          | D 2 6 9 1 |
| 盛雄(せいゆう/もりお・畑中)→       | 荷澤(かたく・畑中はたなか/はたけなか、藩儒/詩歌) | C 1 5 3 2 |
| 盛雄(せいゆう・堤)→            | 盛雄(もりたけ・堤つつみ/荒木田、神職/国学)    | K 4 4 6 5 |
| 聖融(せいゆう;法諱)→           | 聖融(しょうゆう;法諱、真言僧)           | L 2 2 7 4 |
| 清友(せいゆう・橘)→            | 清友(浄友きよとも・橘たちばな、廷臣)        | D 1 6 4 1 |
| 清友(せいゆう・滝沢)→           | 馬琴(ばきん・曲亭きょくてい、読本作者)       | 3 6 0 7   |
| 清友(せいゆう・青山)→           | 清友(きよとも・青木あおき、俳人)          | P 1 6 9 9 |
| 清友(せいゆう・田中)→           | 五英(ごえい・田中たなか、書家)           | L 1 9 7 1 |
| 清雄(せいゆう・土生)→           | 清雄(きよお・土生ぶ/三浦、藩士/国学)       | T 1 6 8 9 |
| 清雄(せいゆう・川原塚)→          | 清雄(きよお・川原塚かわらづか、国学者)       | H 1 6 0 8 |
| 清雄(せいゆう・水野)→           | 清雄(きよお・水野みずの、国学者)          | O 1 6 6 2 |

清雄(せいゆう・加藤)	→	李充(りじゅう・加藤かとう、国学/俳人)	B 4 9 2 2
清雄(せいゆう・金子)	→	昌良(まさよし・金子かねこ、和算家)	I 4 0 7 4
清雄(せいゆう・笠因)	→	清雄(すがお・笠因かさより、神職/歌人)	F 2 3 8 0
清雄(せいゆう・松室)	→	清雄(きよお・松室まつむろ/秦、宮人/国学)	S 1 6 8 3
清雄(せいゆう・潮田)	→	為久(ためひさ・潮田うしおだ、藩士/歌人)	V 2 6 8 4
清雄(せいゆう・江竜)	→	清雄(すがお・江竜えたつ/八木、歌人)	I 2 3 1 3
清雄(せいゆう・大槻)	→	清雄(きよお・大槻おおつき、大肝入/俳/歌)	T 1 6 7 9
清雄(せいゆう・柳田)	→	清雄(すがお・柳田やなぎだ、里正/国学者)	J 2 3 3 3
清熊(せいゆう・松本)	→	弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘)	F 4 5 1 0
清幽(静幽せいゆう・富永)	→	莘陽(しんよう・富永/長深/神墨、陽明学)	2 2 9 0
晴右(せいゆう・勸修寺)	→	晴右(はれみぎ・勸修寺かじゅうじ、廷臣)	H 3 6 1 1
晴雄(せいゆう・昌木)	→	晴雄(はるお・昌木まさき/杉山、医/尊皇)	K 3 6 8 0
静雄(せいゆう・小口)	→	静雄(しずお・小口おぐち/源、国学)	N 2 1 6 4
静雄(せいゆう・鈴木)	→	静雄(しずお・鈴木すずき、国学者)	Z 2 1 2 2
清幽庵(せいゆうあん)	→	有隣(ゆうりん・大久保、藩家老/俳人)	E 4 6 1 2
誠有軒(せいゆうけん)	→	青谷(せいこく・宮崎/宮、藩士/儒者/画)	I 2 4 1 4
清友舎(せいゆうしゃ)	→	抛遠(きよえん・無為亭、俳人)	H 1 6 0 6
生有亭(せいゆうてい・那波)	→	宜大(ぎだい、吉川/那波、商業/俳人)	F 1 6 7 3
静幽堂(せいゆうどう)	→	三善(みつよし・鍋田なべた、藩士/儒者)	F 4 1 2 1
政友入道(せいゆうにゅうどう)	→	正朝(まさとも・新見しんみ/源/小栗、幕臣/随筆)	E 4 0 6 9
政由女(せいゆうのむすめ・宮川)	→	政由女(まさよしのむすめ・宮川みやがわ、松堅の娘/俳人)	I 4 0 7 8
静幽廬(2世せいゆうろ)	→	静山(せいざん・渡辺わたなべ、藩士/俳人)	I 2 4 4 8

J2467 **静誉**(せいよ、じょうよ;法諱) ? - ? 1105存 山城小野の真言宗曼荼羅寺の僧;1105範俊門、伝法灌頂を受/近江石山住/のち山城相楽郡光明山で小野流静誉方(光明山流)を興す、「入曼荼羅鈔」「小野赤諸」「入壇鈔」「瑜祇経立印記」著、[静誉(;法諱)の通称] 小野阿闍梨/越前阿闍梨

D2404 **清誉**(せいよ;法諱、号;芳溪/芳公)?-? 京の浄土宗誓願寺不断光院の僧/長老、連歌作者:1547「何路百韻」参加/49近衛植家発句の千句連歌参加;第三百韻の発句を詠む、1557弘治三年正月千句参加、1562島津貴久の招聘で薩摩鹿兒島不断光院を開山、同地鹿兒島で樺山玄佐(善久)・上井覚兼らに連歌指導、1564石山千句参加、1573幽斎「大覚寺千句」参;百韻発句、1574再度鹿兒島下向;島津義久「何船百韻」脇句詠、1581紹巴「天正九年四月一日何木百韻」外連歌多数

D2405 **誓誉**(せいよ;法諱、号;海欽)?-? 武蔵川崎の浄土僧、文筆家、1757「泉州信田白狐伝」60「安倍仲麿入唐記」、「勸化五衰殿」著

正与(せいよ・菊池)	→	正古(まさひさ・菊池きくち、医者/教育)	G 4 0 6 2
正与(せいよ・新保)	→	正与(まさとも・新保しんぼう/朝妻、国学/神職)	Q 4 0 2 9
正誉(せいよ・永井)	→	正誉(まさしげ・永井ながい、歌人)	R 4 0 2 1
声誉(せいよ;法名)	→	亮全(りょうぜん・加藤かとう、浄土僧/歌人)	M 4 9 0 6
清誉(せいよ;法諱)	→	清誉(しょうよ;法諱、天台園城寺僧)	B 2 2 8 1
清誉(せいよ・竹田)	→	定珪(じょうけい・竹田/藤原、医者)	I 2 2 2 7
聖誉(せいよ;法名)	→	貞安(ていあん・退魯、浄土僧)	3 0 2 2
聖誉(せいよ;法名)	→	慶順(けいじゆん;法諱、浄土僧)	G 1 8 0 6
聖阿(せいあ・常蓮社)	→	祐倫(ゆうりん;法諱、浄土僧)	E 4 6 1 3
聖與(せいよ・菅野)	→	白華(はくか・菅野すげの、儒者)	C 3 6 8 1
勢誉(せいよ・真蓮社)	→	愚底(ぐてい;法諱、浄土僧)	C 1 7 4 8
成誉(せいよ;法名)	→	蓮阿(れんあ;法諱、浄土僧)	5 1 8 7
成誉(せいよ;法名)	→	大玄(だいげん;法諱、浄土僧/戒律)	J 2 6 9 0
盛誉(せいよ;法諱)	→	盛誉(じょうよ;法諱・明智;字/華嚴僧)	L 2 2 7 8
盛誉(せいよ;号)	→	盛誉(じょうよ;号、社僧/古典/連歌)	B 2 2 8 3
霽誉(せいよ・白蓮社)	→	鸞山(らんざん、浄土僧)	C 4 8 3 2

- D2406 青陽(せいよう) ? - ? 連歌、1475「因幡千句」連衆
- J2468 青容(青蓉せいよう・荒巻あらまき、名;景春、屋号;佐渡屋)1753-1811<sup>59</sup> 豊後杵築の商家佐渡屋の主人、俳人;一幹の影響で俳諧を嗜む/のち蝶夢門、「俳諧一幹老人句集」編、[青容(青蓉;号)の幼名/通称/屋号]幼名;次吉/直蔵、通称;政右衛門、法号;松林青容日真
- J2469 青洋(せいよう・桂かつら、本姓;藤原)1787-1860<sup>74</sup> 京新町蛸薬師南の絹布商、画;岸駒門/四条派の絵師;人物・花鳥に長ず、狂歌;初代雛丸門、狂歌:「嵐山百題歌」、1829(文政12)「狂歌都名物集」著/1838(天保9)歌集「さかの山づと」著、「つきせぬ宿」著、[青洋(;号)の名/字/通称/号]名;有彰ありあき、字;吉哉、通称;藤左衛門、別号;青洋/玉兔園澄丸/寸美丸/含水園
- J2470 清庸(せいよう、岩田/磐田いわた)?-? 撰津麻田藩士/和算家:福田復・泉[理軒]兄弟門、1836「算学速成」41「窺望心計示蒙」47「順天堂算譜」55「算法利息速成」編、1857-8「算法日用利息速成」編、「貫道斎日用算略」著、[青庸(;名)の通称/号]通称;七平、号;貫斎
- 正容(せいよう・松平/保科)→ 正容(まさかた・松平/保科、藩主/歌) B 4 0 8 7
- 正容(せいよう・木村) → 正容(まさかた・木村きむら、幕臣/歌人) B 4 0 9 3
- 正容(せいよう・藤井) → 茂権(もつゐ・藤井ふじい、俳人) B 4 4 8 1
- 正容(せいよう・三橋) → 正容(まさやす・三橋みつはし、国学) S 4 0 9 6
- 正陽(せいよう・川口/渋川)→ 正陽(まさてる・渋川/川口、幕臣) E 4 0 2 4
- 正陽(せいよう・原) → 正陽(まさあき・原はら、藩士、国学) R 4 0 9 4
- 正陽(せいよう・広田) → 正陽(まさひろ・広田ひろた/度会/中須、神職/絵師) S 4 0 2 1
- 正揚(せいよう・河/上河) → 淇水(きすい・上河うかみ/河、心学者) B 1 6 3 0
- 正庸(せいよう・土師) → 正庸(まさつね・土師はじ、書家/藩士) E 4 0 0 4
- 正庸(せいよう・山高/今大路)→ 正庸(まさつね・今大路/橋/曲直瀬、典薬頭) E 4 0 1 3
- 正庸(せいよう・長野) → 士扱(したく・長野ながの、和算家) U 2 1 2 3
- 正庸(せいよう・高橋) → 竹之介(たけのすけ・高橋、勤王派) T 2 6 8 8
- 正庸(せいよう・笥) → 正庸(まさつね・笥かけい/平、歌人) M 4 0 6 0
- 正庸(せいよう・岡田) → 正期(まさとき・岡田おかだ/大橋、商家/歌) O 4 0 5 6
- 正庸(せいよう・毛山) → 正庸(まさゆき・毛山けやま/松浦、神職/歌) P 4 0 5 6
- 正庸(せいよう・丹羽) → 正庸(まさつね・丹羽にわ、陪臣/国学) R 4 0 3 4
- 正養(せいよう・越智/石河)→ 正養(まさかひ・石河いしこ/越智、藩士/国学) B 4 0 6 6
- 正養(せいよう・山口) → 正養(まさかひ・山口やまぐち、漢学者) T 4 0 4 4
- 政要(せいよう・七里) → 長行(ながゆき・七里しちり/源、藩士/国学) K 3 2 1 5
- 政陽(せいよう・内藤) → 政陽(まさあき・内藤、藩主/詩人) 4 0 9 6
- 政陽(せいよう・江繫) → 政陽(まさおき・江繫えつき、藩士/和漢学) B 4 0 5 5
- 政養(せいよう・小原/新井)→ 抱義(かねよし・新井、幕臣/白石著書目録) P 1 5 0 8
- 政養(せいよう・佐藤) → 政養(まさやす・佐藤さとう、蘭学/測量) I 4 0 1 0
- 政養(せいよう・佐分) → 政養(まさかひ・佐分さぶり、藩士/歌) B 4 0 6 7
- 政養(せいよう・羽太) → 政養(まさやす・羽太はぶと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6
- 政養(せいよう・三嶋) → 政養(まさきよ・三嶋みしま/藤原/夏目、旗本/歌) L 4 0 9 2
- 政養(せいよう・池田) → 政養(まさよし・池田いけだ、藩主) M 4 0 8 3
- 政雍(せいよう・池田) → 政雍(まさやす・池田いけだ、藩士/代官) N 4 0 5 3
- 政庸(せいよう・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9
- 成庸(せいよう・小島) → 成庸(なりつね・小島おぼた、国学者) L 3 2 4 2
- 成楊(せいよう・松沢) → 老泉(ろうせん・松沢まつざわ、書肆/典籍研究) 5 2 3 5
- 盛庸(せいよう・矢野) → 盛庸(もりつね・矢野やの、歌人) M 4 4 0 0
- 盛庸(せいよう・牛島) → 盛庸(もりつね・牛島うじま、和算家) F 4 4 8 0
- 盛庸(せいよう→もりつね・太田)→ 万里(ばんり・太田おおた、俳人) I 3 6 6 3
- 盛庸(せいよう・藤本) → 箕山(きざん・藤本ふじもと/島山・笠原、古筆鑑定/色道) 1 6 1 3
- 西羊(せいよう) → 西羊(さいよう・梧桐亭/養老庵、俳人) B 2 0 1 2
- 西洋(せいよう・松下) → 筑陰(ちくいん・松下、儒者) C 2 8 5 1



- 星陽(せいよう;字) → 日紹(日韶にっしょう・竜華院、日蓮僧) E 3 3 1 7  
 星陽(せいよう・吉田) → 修房(のぶふさ・吉田よしだ、医者/歌人) K 3 5 3 6  
 青羊(せいよう・正木) → 竜眠(竜珉りゅうみん・正木まさき、商/書家) F 4 9 7 4  
 青洋(せいよう・林) → 峨山(がざん・林はやし、神職/案内記) L 1 5 7 3  
 青陽(せいよう・那波) → 山斎(さんさい・那波なば、医者/儒) M 2 0 2 3  
 清庸(せいよう・小山) → 清庸(きよのぶ・小山こやま/忌部/安倍、国学) U 1 6 3 2  
 晴陽(せいよう/はるあきら・石野/佐々木) → 一陽(かずあき・佐々木、幕臣/歌) M 1 5 0 3  
 正養院(せいよういん) → 政養(まさやす・羽太はふと、幕臣/箱館奉行) I 4 0 0 6  
 青陽館(せいようかん) → 梅世(うめよ・青陽館/石黒、狂歌) D 1 2 4 5  
 生葉軒瓊山(せいようけんけいざん) → 氏継(うじつぐ・森/道体どうたい、和算家) C 1 2 4 7  
 青陽斎(せいようさい) → 蘆国(あしくに・浅山、絵師) C 1 0 2 8  
 青陽斎(青楊斎せいようさい) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
 青陽斎(青楊斎せいようさい) → 休柳(きゅうりゅう・池上いけがみ、紙業/絵師) M 1 6 9 7  
 J2471 青葉子(せいようし) ? - ? 江前期俳;調和門、1683調和「俳諧題林一句」18句入  
 清容舎(せいようしゃ) → 東瓦(とうが・山本、醸造業/俳人) B 3 1 7 5  
 青陽舎(せいようしゃ) → 三朝(さんちょう・高橋たかはし、俳人) M 2 0 6 2  
 青陽舎(せいようしゃ) → 寿暁(じゅぎょう、青陽舎、嘶家) I 2 1 5 5  
 靖雍先生(せいようせんせい) → 石秋(せきしゅう・劉りゅう/合谷ごうや、儒者) D 2 4 5 2  
 青陽堂(せいようどう) → 杏雨(きょうう・山崎やまさき、藩医/俳人) C 1 6 1 9  
 正翼(せいよく・富永) → 正翼(まささげ・富永とみなが、医者/詩文) C 4 0 7 6  
 正翼(せいよく→まささげ・浅井) → 紫山(しざん・浅井あさい、藩医者/詩・書) T 2 1 5 9  
 齊世親王(せいよしのう/はるとき) → 齊世親王(ときよしのう、仁和寺僧) K 3 1 3 3  
 2414 青蘿(せいら・松岡まつおか/武[竹]沢たげざわ/栗本、松岡門太夫男) 1740-9152 江戸の生、  
 姫路藩士武沢喜太夫の養子、1745(6歳)で家督嗣/姫路藩士;江戸詰、  
 俳人:1752玄武坊門、55藩の勘定人、1762(20歳)不品行で藩を追放;浪人;諸国遍歴、  
 1767播磨加古川に結庵、1768東州和尚に参禅;剃髪、真剣に俳諧修行;  
 1772樗良を迎え骨書ほねがき所収の両吟七卷、1787上京し几董・暁台と交流、  
 1790二条家御会に招聘;中興俳諧宗匠の職服を受、  
 1785「蛸壺塚集」「讃州金比羅山藝州厳島詣の記」編、87「都六歌仙」、88「をのゝちくさ」編、  
 「長月の夜」編/「骨書ほねがき」「青蘿発句集」著、  
 1776几董「続明烏」2句/83維駒「五車反古」1句入、  
 追善集;「水の月」「散花塚」、玉屑・布舟・員武の師、  
 [戸口より人影さしぬ秋の暮れ](青蘿発句集入/続明烏;531/夕陽の中の一瞬の不安)、  
 [青蘿の通称/別号]通称;鍋五郎、  
 別号;山李坊令茶/三梨坊/三眺庵/幽松庵/栗庵/栗の本/齒松庵/香松庵、法号;妙浄日悟  
 星羅(せいら) → 里之(さとゆき・柳沢やなぎざわ、藩主/俳人) K 2 0 5 7  
 正頼(せいらい) → 正頼(しょうらい、歌人) L 2 2 8 7  
 正頼(せいらい・瓦林) → 正頼(政頼まさより・瓦林・河原林/平、武将/連歌) I 4 0 8 0  
 正頼(せいらい・久野) → 正頼(まさより・久野くの、藩士/歌人) I 4 0 8 5  
 成頼(せいらい・藤原) → 成頼(しげより/なりより・藤原、廷臣/平家作者?) D 2 1 3 9  
 青来(せいらい・青木) → 木米(もくべい・青木あおき、陶工) B 4 4 1 0  
 青羅園(せいらえん) → 有長(ありなが・岡村おかわら/源、藩士/歌) H 1 0 3 4  
 青蘿館(せいらかん) → 東江(とうこう・沢田/平/源、書家/詩) 3 1 1 0  
 E2436 声楽(せいらく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(64)  
 [明日までは暇いとも申さん宿の弥陀](二葉之松;64/前句;灯を吹き消せば目に欲のなき)  
 清楽(せいらく・蒼松亭) → 蒼松亭清楽(そうしょうていせいらく、狂歌) C 2 5 1 1  
 彰楽院(せいらくいん) → 彰子(せいこ・松平まっだいら/伊達、藩主室/歌) O 2 4 4 7  
 青羅堂(せいらどう) → 二丘(にきゅう・半沢はんざわ、豪農/俳人) G 3 8 8  
 D2408 西櫛(せいらん・野村のむら/本姓;丹治比たじひ、名;忠誨/世業) 1764-182764 伊勢の儒者:奥田三角門、  
 長良願齋門/のち京の伊藤東所門、1786(天明6)伊勢津藩主藤堂高嶷に出仕;江戸随従、

1789侍読/1808一身田の専修寺門主の師範;山門に上り講義、  
 1820藩校有造館設立され講官・典籍、21伊賀学館で教授/22有造館文学曹長に就任、  
 久米川流香道に長じ藩主藤堂高崐に伝授、「西巒詩文集」「西巒高刪」著、  
 [西巒(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;松之丞、字;大受、通称;木工蔵(むくぞう)、  
 別号;不測庵/雲閑居/遜庵/為己齋

J2472 **青藍**(せいらん・内山うちやま、名;高基/冠)?-? 磐城平藩士/儒者、江戸大塚住、  
 1847「詩語碎金」49「統詩語碎金」編、  
 [青藍の字/通称]字;子良、通称;助太郎

青藍(せいらん、俳名) → 魚彦(なひこ・楫取、国学/歌人) 3 2 2 4  
 青嵐(せいらん・山田) → 重興(しげおき・山田、商家/郷士/漢学) a 2 1 0 3  
 青鸞(せいらん・小泉) → 檀山(だんざん・小泉/木村、神職/儒/画) I 2 6 7 9  
 青鸞(せいらん・山本) → 比呂伎(ひろき・山本やまもと、和漢学/神職) M 3 7 2 4  
 清覧(せいらん・興津) → 清覧(きよみ・興津おきつ、幕臣/国学者) T 1 6 8 5  
 静瀾(せいらん・明石) → 博高(ひろあきら・明石あかし、医者/殖産家) L 3 7 9 4  
 棲鸞(せいらん) → 時行(ときゆき・名越なごや/なごえ、民俗研究) K 3 1 2 9  
 正覧(せいらん/まさみ・服部) → 日記(にっき・服部はつとり、日記随筆) D 3 3 7 9  
 西蘭(西鸞せいらん) → 里女(さとじよ・武藤むとう/宮内、商家/歌人) P 2 0 5 5  
 西巒(せいらん・片桐) → 源一(げんいち・片桐かたぎり、歌人) H 1 8 7 0  
 青藍戸(せいらんこ、俳人) → 玉沾(ぎよせん、郡上城主/俳) H 1 6 2 5  
 青藍戸(せいらんこ、俳人) → 頼錦(よりかね・金森かなもり、藩主/歌/俳) I 4 7 5 7  
 井蘭台(せいらんだい) → 蘭台(らんだい・井上、儒/詩文) C 4 8 9 1

D2409 **正利**(せいり・竜松りゅうまつ) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」3句入、  
 [鶯の経よみうつや花の輪りん](犬子集;一191/法華経と経読鳥[鶯]が花の輪で鳴く;  
 花の輪に読経の時鳴らす鈴りを掛る)

J2473 **青梨**(せいり;号) ? - ? 江中期享保1716-36頃加賀金沢の俳人、  
 廬元坊編の支考七回忌追善集「謂江話」入集、「金沢犀川短歌行」著

J2474 **青鯉**(せいり・慶五庵) ? - ? 江後期摂津?の俳人、寛政7(1795)「寛七集」「寛八集」編、  
 「寛政八年秋帖」「寛政九年歳旦」「寛政十二年庚申春帖」「寛政浪速帖」編、1801「時鳥」編、  
 [青鯉(;号)の別号]慶五庵/柿園/青流洞  
 慶五庵貞居(「浪速帖」編者)と同一か? 慶五庵法策(1657-1725)との関係は?

2415 **精里**(せいり・古賀こが、名;樸すなお、佐賀藩士古賀忠能男/本姓;劉) 1750-1817 68 肥前佐賀の儒者、  
 藩主鍋島直茂の命で1774上京;陽明学修学/のち朱子学を信奉/79帰郷;学問と藩政に参与、  
 1781藩校弘道館設立;教授、91江戸で昌平覺聖堂で講義/96幕府儒官;寛政三博士の1、  
 詩文/書を嗜む、「精里詩文集」「精里全書」「精里筆語」「精里詩文集」「四書集釈」「後師録」著、  
 「軟莎偶語」「題画詩抄」「帰臥亭詩鈔」「経済文録」、「精里先生集」「古賀精里先生詩集」外多数、  
 [精里(;号)の字/通称/別号]字;淳風、通称;弥助やけ、別号;復原楼

D2410 **西里**(せいり・中村なかむら、名;成毅/成親、中村世潭の養子)?-? 江後期高知の儒者;江戸古賀精里門、  
 帰藩;土佐藩校教授館の教授、家塾を開き子弟教育、「西里詩文集」著、  
 [西里(;号)の通称]十次郎

J2475 **西里**(せいり・野口のぐち、名;景張) 1779-1851 73 阿波徳島の医者;京の有持桂里門;嵯峨王府の医員、  
 儒;程朱学修得/唐宋詩を研究、1845「詩規」、「痘科鍵鑰匙とうかげんやくし」、「西里遺稿」、  
 [西里(;号)の字/通称]字;方祖、通称;左門

J2476 **静里**(せいり・山田やまだ、仲敬なかたか長男) 1785-1862 78 越後柏崎の商家[山甚]6代目;薬種業等、  
 儒;原松洲門(弟半仙と)/歌;千種有功門、茶人;松村宗悦に私淑、京大徳寺大綱和尚と交流、  
 1817大肝煎、父が支援する原松洲の息子脩斎を昌平覺に修学させる、  
 貞心尼の理解者;木求庵を建設、  
 1824(40歳)家業を弟半仙(重世げよ1787-1860/山甚7代目)に譲渡;隠居、  
 柏崎を領す伊勢桑名藩から士席に列し永世50石を下賜、重秋(1809-66/山甚8代目)の父、  
 「宝篋山竹林記」著、  
 [静里(;号)の名/通称/別号]初名;世碩/名;重弘しげひろ、通称;甚次郎、別号;方寸翁

- J2477 **成里**(せいり・吉田よしだ) ? - ? 江後期尾張の俳人:列根門、  
1851「十府かみ布」編、「ししはもり」著
- J2478 **正履**(せいり・勝田かつた、名;準、鹿谷2男)?-? 江後期信濃高島藩儒;1849(嘉永2)家督継嗣、  
1864藩校長善館の儒学師範、1857「諏訪事跡考」、「亦園随筆」「一枝堂随筆」著、  
[正履(;号)の通称/別号]通称;九一郎、別号;華陵
- 西里(せいり・山口) → 西里(さいり・山口やまぐち、儒者/教育) P 2 0 7 0  
 正利(せいり・中西) → 正則(まさのり・中西なかにし、和算家) F 4 0 9 6  
 正利(せいり・渡辺) → 正利(まさとし・渡辺わたなべ、農業/地誌) E 4 0 5 4  
 正利(せいり・井上) → 正利(まさとし・井上いのうえ、藩主/歌人) N 4 0 3 2  
 正利(せいり・加藤) → 正利(まさとし・加藤かとう、幕臣/国学者) O 4 0 6 8  
 正履(せいり・西尾) → 正履(まさのぶ・西尾にしお、国学者) R 4 0 3 6  
 政利(せいり・佐野) → 政利(まさとし・佐野さの/長屋、神職/国学) P 4 0 9 2  
 青荔(せいり・荒木) → 素履(もとふむ・荒木あらか、国学/歌) J 4 4 1 1  
 清里(せいり) → 竹戸(ちくこ、俳人) C 2 8 9 5  
 菁里(せいり・三木) → 幹斎(かんさい・三木みき、詩/書/俳諧) Q 1 5 7 1  
 世履(せいり・桂/玉乃) → 五竜(ごりゅう・玉乃たまの/枝えだ/桂かつら、儒者) N 1 9 9 6  
 成理(せいり・木本) → 成理(なりまさ・木本きもと、神道/軍学) I 3 2 1 4  
 成利(せいり・清水) → 成利(なりとし・清水しみず/志水、国学/歌) N 3 2 2 8  
 盛履(せいり/もりふみ・中山) → 菁菴(せいが・中山なかやま、医・藩儒) 2 4 8 5  
 正立(せいりつ・滝/橋村) → 正立(まさたつ・橋村/本姓;度会、神職) D 4 0 5 4  
 正立(せいりつ・今西) → 正立斎(しょうりつさい・今西、神職/医者/詩) B 2 2 9 4  
 正立(せいりつ・北村) → 正立(せいりゅう・まさたつ・北村、国学/歌人) D 2 4 1 1  
 成立(せいりつ・高橋) → 石霞(せつか・高橋/和田、商家/経済) K 2 4 7 6  
 青葎庵(せいりつあん) → 星照(せいしょう・小林こばやし、狂歌作者) I 2 4 8 1  
 正立斎(せいりつさい・今西) → 正立斎(しょうりつさい・今西、神職/医者) B 2 2 9 4  
 精理堂(せいりどう・村上) → 正徳(まさのり・村上むらかみ、医者) G 4 0 2 0
- D2411 **正立**(せいりゅう・まさたつ・北村きたむら、名;秀次、季吟2男)1652-1702<sup>51</sup> 国学者・歌人;父門、湖春の弟、  
父が江戸に出た後に京新玉津島に留まり歌学を教授、のち江戸移住、季任すえとの父、  
「向南家集」著、  
[正立(;字)の通称/号]通称;権三郎/源之丞、号;成等院、法号;成等院正立日覚居士
- F2430 **井柳**(せいりゅう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(227)  
[木綿着て世の為に織る綾錦](二葉之松;227)
- D2412 **青流**(せいりゅう) ? - ? 加賀宮腰の俳人、1690北枝「卯辰集」入、  
[はなすゝまねけば喰らふ野馬のうま哉](卯辰集;上三372/穂が風に揺れて馬をも招く)
- G2494 **井竜**(せいりゅう) ? - ? 京の俳人・淡々門、1728柳岡「万国燕」26句入
- D2413 **青流**(せいりゅう) ? - ? 江後期川柳作者、  
1851「群燕会狂句合」共催(緑亭川柳「柳風群燕」入)
- 02435 **政隆**(せいりゅう・仲尾次なかおじ、姓;字)1810-71<sup>62</sup> 琉球の官吏、代々運送・貿易に従事、  
財力あり諸役職歴任/那覇総横目/1850(41歳)今帰仁間切なきじまざり仲尾次の地頭、  
代々浄土真宗信者/政隆が下級士族や遊女などに禁制の真宗を布教:1853密告され発覚、  
八重山へ無期流刑、配所に息子と2人の供が同行;旅妻を娶り持ち船で商売に従事;  
私財で宮良橋架橋、官民の赦免嘆願書が王府に提出;赦免され配流11年那覇に帰郷、  
「配流日記」著、
- J2480 **青流**(せいりゅう・市川いしかわ、名;皞)1824-? 江後期武士;岩瀬忠震の家臣;1855露国使節応接に随行、  
忠震蟄居後は浪人、文久遣欧使節副使松平康直の従者として渡欧、維新後;文部省出仕、  
我が国図書館開設に尽力、1861「雅俗漢語訳解」63「尾蠅欧行漫録」、「遣欧使節航海日録」著、  
[青流(;通称)の別通称/号]別通称;渡、号;買山/央坡
- 青流(せいりゅう;初号) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4  
 清流(せいりゅう・速水はやみ) → 常忠(つねただ・速水/山田、故実家/歌) C 2 9 4 4  
 清流(せいりゅう・出川) → 清流(すがる・出川いしかわ、歌人) L 2 3 4 2

- 清流(せいらゆう・小川) → 清流(すがる・小川おがわ、藩士/国学) I 2 3 1 5  
 青柳(せいらゆう)すべて → 青柳(あおやぎ)  
 清隆(せいらゆう・水沢) → 清隆(きよたか・水沢みずさわ、神職/国学) V 1 6 3 7  
 正立(せいらゆう・鈴木) → 東海(とうかい・鈴木、蘭医:眼科/詩) B 3 1 9 6  
 正隆(せいらゆう・磯田) → 正隆(まさたか・磯田いそだ、歌人) L 4 0 5 7  
 正隆(せいらゆう・村山) → 正隆(まさたか・村山むらやま、歌人) M 4 0 3 4  
 正隆(せいらゆう・飯田) → 正隆(まさたか・飯田いいた、神職/歌) N 4 0 4 7  
 正竜(せいらゆう/まさたつ・石河) → 確太郎(かくたろう・石河いしかわ、蘭学者) K 1 5 2 0  
 正竜(せいらゆう/まさたつ・堀) → 孤山(こざん・堀ほり、儒・医者) M 1 9 5 7  
 正柳(正立せいらゆう・蘆川) → 桂洲(けいしゅう・蘆川あしかわ、医/儒者/詩) E 1 8 7 3  
 世竜(せいらゆう・高野) → 陸沈亭(りくちんてい・高野たかの、医者/藩士) 4 9 8 0  
 政隆(せいらゆう・東) → 政隆(まさたか・東あずま、藩士/歌) N 4 0 1 8  
 制竜(せいらゆう;法諱) → 唯浄(ゆいじょう;法諱、真宗本願寺派僧) 4 6 3 7  
 盛竜(せいらゆう・林) → 盛竜軒(せいらゆうけん・林はやし、地誌家) J 2 4 8 1  
 盛隆(せいらゆう・藤原) → 盛隆(もりたか・藤原ふじわら、廷臣) F 4 4 5 4  
 盛隆(せいらゆう・白土) → 盛隆(もりたか・白土しらつち、藩士) F 4 4 5 8  
 盛隆(せいらゆう・黒川) → 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9  
 青竜院宮(せいらゆういんのみや) → 慈道法親王(じどうほつしんのう、歌人) F 2 1 2 9  
 栖竜閣(棲竜閣せいらゆうかく) → 義根(よしね・足利/源/平嶋、詩人) F 4 7 4 9
- D2414 青竜軒(せいらゆうけん・赤松あかまつ、原昌元)?? 17ct末、江戸太平記読み講釈師  
 J2481 盛竜軒(せいらゆうけん・林はやし、名;盛竜)?? 江中期享保1716-36頃美作苦田郡津山町の地誌家、  
 1717刊「美作鬢鏡」著(;最初的美作地誌)
- 青柳軒(せいらゆうけん) → 章(あきら・中原/葛巻、歌人) E 1 0 1 7  
 青竜軒(せいらゆうけん) → 友斎(ゆうさい・松山、俳人) G 4 6 2 7  
 青竜軒(せいらゆうけん) → 清漪(2世きよみつ・鳥居、清峯、絵師) D 1 6 6 6  
 正流斎(せいらゆうさい) → 南窓(なんそう・田辺、講釈師) J 3 2 2 5  
 青柳散人(せいらゆうさんじん) → 単朴(たんぼく・伊藤、医/談義本作者) 2 6 9 7  
 星流舎(せいらゆうしゃ) → 貞石(ていせき、星流舎、狂歌) B 3 0 3 5  
 青柳舎(せいらゆうしゃ) → 里水(りすい・柳沢やなぎさわ、俳人) B 4 9 2 8  
 青柳舎(せいらゆうしゃ) → 吉一(よしかず・丸山まるやま、藩士/歌人) P 4 7 2 7  
 青竜舎(せいらゆうしゃ) → 正文(まさふみ・松尾まつお、歌人) S 4 0 6 4  
 清流亭(せいらゆうてい) → 楚諾(そだく・大原おほはら、郡代/俳人) C 2 5 3 0  
 清流亭(せいらゆうてい) → 西江(さいこう・山本嘉兵衛妻/狂歌) G 2 0 6 8  
 青竜堂(せいらゆうどう) → 知愛(ともなる・岡見おかみ、藩士/地誌) Q 3 1 1 0  
 清流洞(4世せいらゆうどう) → 祇杖(ぎじょう・稲津、俳人) K 1 6 9 6  
 静慮(せいらよ) → 述明(のぶあき・江沢/松崎、歌人/和算) 3 5 7 9  
 静慮庵(せいらよあん) → 慈隆(じりゅう;法諱/洛山、天台僧/藩政参加) U 2 2 8 9
- J2482 西陵(せいらいりょう・菅沼すがぬま/阮、名;攀髯、東郭とうかく男)?? 江中期大阪の儒者;父門、子弟教育、  
 1749「鳴鳳集」、「玉屋たまのや集」著、  
 [西陵(;号)の字/通称/別号]字;子登、通称;文治郎、別号;玉屋山人
- D2415 青陵(せいらいりょう・海保かいぼ、名;皐鶴、角田市左衛門男)1755-181763 丹後宮津儒;宇佐美瀧水しんかい門、  
 古文辞派の儒学を修得/経世家、家督を弟に譲り曾祖父の本姓海保に復す、浪人;江戸開塾、  
 営利・商業など経済を重視、尾張藩・郡上藩で講説、浪人学者として自由を謳歌、「経済録」、  
 「富貴談」「稽古談」「万屋談」「海保談」「海保独語」「海保儀平書」「海保青陵先生文集」外多数、  
 [学問と云は古へのことに詳しきばかりのことにてはなき也、  
 今日唯今のことに詳しきがよき学問といふもの也](1813稽古談)  
 [青陵(;号)の字/通称/法号]字;万和、通称;儀平、法号;随応専順信士
- D2416 成亮(せいらいりょう・野田のだ、重秀男)1755-183581 日向佐土原城下の安宮寺住の修験僧、  
 代々佐土原藩主島津家の金峰山代参の家;成亮の入峯は37度・奥駈18度の大先達、  
 1812-18(文化9-文政元)藩主許可を得て九峰修行の旅、俳諧;蓼太門、茶・立花を嗜む、

天流の柔術・棒術・弓道の免許を有す、「日本九峰修行日記」著、

[成亮(；名)の通称/号]通称；泉光院、号；揚柳軒一葉、

- J2483 **世量**(せりょう・中川ながわ) ? - ? 江後期伊予の医者/大坂尾上町住、  
1832刊「医轍」著、「異々至大」「奇々至大」「外科擧要げからんよう」「内科正権」「制薬便覧」著、  
[世量(；名)の字/号]字；量平、号；大年/大年堂/石鹿

- J2484 **成梁**(せりょう・島川しまかわ/二見ふたみ) 1838-88 51 陸中巖手郡志家村の国学者、盛岡住、  
「琴の舎成梁島川十郎自筆鉛湯元村日記」著、

[成梁(；名)の通称/号]通称；波之助/十郎/竹介、号；桂園/琴の舎このや

晴良(せりょう・二条)	→	晴良(はれよし・二条、廷臣/歌人)	H 3 6 1 3
清良(せりょう・長野)	→	清良(きよよし・長野、国学/万葉研究)	D 1 6 7 0
清良(せりょう・松平)	→	忠弘(ただひろ・松平まつだいら、藩主)	Q 2 6 6 7
清良(せりょう・遠藤)	→	清良(きよよし・遠藤えんどう、僧/神職/歌)	T 1 6 6 4
清良(せりょう・奈島)	→	清良(きよよし・奈島なじま、神職/国学)	U 1 6 8 9
清亮(せりょう・作並)	→	鳳泉(ほうせん・作並さくなみ、藩儒者)	F 3 9 3 5
成良(せりょう・中御門)	→	尚良(ひさよし・中御門なかみかど、廷臣/連歌)	C 3 7 1 5
正亮(性亮せりょう)	→	正亮(性亮しょうりょう；法諱、律宗学僧)	L 2 2 9 4
正亮(せりょう・堀田)	→	正亮(まさすけ・堀田/紀、藩主/老中/詩歌)	C 4 0 9 2
正亮(せりょう・村山)	→	正亮(まさすけ・村山むらやま、剣術家)	C 4 0 9 3
正亮(せりょう・堀)	→	蘭沢(らんたく・堀ほり/屈、儒者)	C 4 8 9 6
正亮(せりょう・安枝)	→	蘇民(そみん・安枝やすえ、儒者)	K 2 5 4 2
正良(せりょう・永井)	→	正良(まさよし・永井ながい、藩士/記録)	I 4 0 4 6
正良(せりょう・室田)	→	正良(まさよし・室田むろた、幕臣/軍学)	I 4 0 5 5
世亮(せりょう・箕浦)	→	靖山(せいざん・箕浦みのうら/佐々木、藩士/儒者)	B 2 4 7 5
世良(せりょう・阿部)	→	良山(りょうざん・阿部あべ、篆刻家)	H 4 9 7 4
政良(せりょう・下村)	→	政良(まさよし・下村しもむら、暦算家)	I 4 0 7 3
政良(せりょう・片桐)	→	政良(まさよし・片桐かたぎり/源、国学者)	O 4 0 8 6
盛良(せりょう・楊井)	→	盛良(もりよし・楊井やない、藩士/儒者)	G 4 4 8 9
盛良(せりょう・長井)	→	盛良(もりよし・長井ながい、名主/神職)	K 4 4 8 5
盛僚(せりょう・久保倉)	→	路草(ろそう・久保倉くぼくら、神職/俳人)	C 5 2 0 7
誠量院(せりょういん)	→	倫忠(のりただ・黒田/樽井、藩士/故実)	E 3 5 9 6
清涼院(せりょういん)	→	宗箇(そうこ・上田うえだ、家老/茶人)	H 2 5 2 0
青了閣(せりょうかく)	→	六枳(ろくし；号・眞恵；法諱、大谷派僧/俳人)	5 2 8 9
井梁貫成(せりょうかんせい)	→	井梁貫成(いやなつらなり、狂歌作者)	I 1 1 7 5
清涼井(せりょうせい)	→	蘇来(そらい・清涼井、読本)	E 2 5 4 4
清涼亭(せりょうてい)	→	小簾菅伎(こすのすがき、御簾師/狂歌)	G 1 9 6 2

- G2430 **静了尼**(せりょうに) ? - ? 浅草の真宗大谷派報恩寺の後室、歌；冷泉家門、  
1798刊石野広通「霞関集」入、

[咲くほどを待つは千歳ちとせの心地して花にあだなる春の一時](霞関；春155)

清涼房(せりょうぼう) → 玄昭(玄照げんしょう；法諱、天台僧) J 1 8 9 1

- B2555 **清林**(せりりん) ? - ? 室町期僧；連歌作者、

1466(寛正7)心敬宗祇と「賦何人」4句入、

[朝霧や市場の方かたを隔つらん](賦何人；初裏1/霧で朝市の村は見えぬ声だけ聞える、  
前句；量阿；人の声する村のはるけさ)

- D2417 **正隣**(せりりん) ? - ? 江戸俳；立圃門、

1668?「巳己巳己にしき」親信らと共編、1663「尾蠅集」入

- J2485 **生林**(せりりん) ? - ? 俳人；1689「あら野」2句入、

[菊の名は忘れたれども植ゑにけり](あら野；昨冬根分し名忘却/時節ゆえ先ず植ゑる)

正倫(せりりん・多古) → 正倫(まさとも・多古たこ、俳人) L 4 0 5 1

正倫(せりりん・阿部) → 正倫(まさとも・阿部あべ、藩主/歌人) E 4 0 7 4

正倫(せいりん・永原/深田)→ 慎齋(しんさい・深田/永原、藩儒) O 2 2 3 8  
 正倫(せいりん・横浜) → 正倫(まさやす・横浜よこはま、藩士/文筆家) I 4 0 0 5  
 正倫(せいりん・桐山) → 正哲(しょうてつ・桐山きりやま、藩医/本草/蘭学) U 2 2 7 9  
 正隣(せいりん;字・久須見)→ 宣尹(のぶただ・久須見くずみ、神道/医) B 3 5 8 2  
 正隣(せいりん・倉八) → 隣(となる・倉八くらはち/梶原、神職/歌人) V 3 1 0 8  
 正鄰(せいりん・神村) → 正鄰(まさちか・神村かみむら、国学/神道家) D 4 0 7 5  
 政隣(政憐せいりん・斎藤)→ 政隣(政憐まさちか・斎藤/藤原、神職) D 4 0 8 0  
 政隣(正隣せいりん・津田)→ 政隣(まさちか・津田つだ、藩士/記録) D 4 0 7 7  
 成隣(せいりん・佐藤) → 鼎栄(ていえい・佐藤さとう、国学/歌人) F 3 0 1 0  
 清隣(せいりん・有吉) → 文英(ふみひで・有吉ありよし、医者/歌) H 3 8 9 6  
 清倫(せいりん・松平) → 清倫(きよとも・松平まつだいら/源、旗本/歌) T 1 6 2 9  
 静林(せいりん;法諱) → 静林(じょうりん;法諱・水竹軒、僧/歌人) L 2 2 9 9  
 盛倫(せいりん・葦名) → 盛倫(もりとも・葦名あしな、邑主/国学) J 4 4 0 8  
 盛倫(せいりん・杉) → 盛倫(しげとも・杉すぎ、藩士/国学) O 2 1 6 3  
 盛隣(せいりん・矢田部) → 盛隣(もりちか・矢田部やたべ、神職/国学) L 4 4 7 3  
 精林院(せいりんいん) → はしき子(はしきこ・松平まつだいら/永石、藩主妻/歌) K 3 6 8 1  
 青林亭(せいりんてい) → 錦八(きんぱち、書肆/嘶本作者) E 1 6 5 7  
 青林堂(せいりんどう、書肆)→ 春水(しゅんすい・為永、人情本) 2 1 6 1  
 星臨堂(せいりんどう) → 同庵(どうあん・大塚おつか、蘭学/医者) 3 1 9 3  
 静林堂(せいりんどう) → 憲貞(のりさだ・藤田/小松原、武道家) E 3 5 5 7

D2418 生黎(せいらい) ? - ? 俳人、1675重安「糸屑」後序

J2486 正礼(成礼せいらい・稻次いなづぐ/修姓;稻)1730-9869 筑後久留米藩士;多年江戸詰、詩文に長ず、  
 茶道・俳諧;川上不白門、曆算:山路之徽門、「万国地理図説」「明和六年己丑彗星図説」著、  
 [正礼(;名)の別名/通称/号]別名;成興/正興せいきょう、通称;縫殿ぬい、号;竹処/志筌庵宗干

正令(せいらい・山路) → 正令(まさのり・山路やまぢ、歌人) U 4 0 0 7  
 正令(せいらい・戸沢) → 正令(まさのり・戸沢、藩主、歌人) G 4 0 2 4  
 正令(せいらい・保岡) → 川荘(せんそう・保岡やすおか、藩儒者) G 2 4 2 7  
 正令(せいらい・橋村) → 正令(まさのり・橋村はしむら/度会、神職/和漢学/書) R 4 0 7 2  
 正令(せいらい・須田) → 正令(まさのり・須田すだ、藩士/国学/歌) Q 4 0 3 0  
 正令(せいらい・小浦) → 広名(ひろな・小浦こうら、藩士/国学/歌) J 3 7 5 2  
 正令(せいらい・安原) → 正令(まさよし・安原やすはら、商家/歌人) T 4 0 3 6  
 正礼(せいらい/まさひろ・服部)→ 日記(にっき・服部はっとり、日記随筆) D 3 3 7 9  
 正礼(せいらい・菊池) → 寛司(かんじ・菊池、藩士/文筆) Q 1 5 8 8  
 正麗(せいらい・近藤) → 清石(きよし・近藤こんどう、藩士/国学) P 1 6 6 0  
 正麗(せいらい・牛丸) → 重明(しげあき・牛丸うしまる、藩士/詩人) Q 2 1 4 9  
 正麗(せいらい・藤井) → 正麗(まさよし・藤井ふじい、商家/町役) S 4 0 2 7  
 正麗(せいらい・秋元) → 芳樹(よしき・大橋おおはし/秋元、教育/神職) L 4 7 9 9  
 政礼(せいらい・本多) → 政礼(まさのり・本多ほんだ、藩士/記録) G 4 0 1 4  
 政礼(せいらい・横山) → 政礼(まさのり・横山/山、藩士/文筆家) G 4 0 0 3  
 政礼(せいらい・水野/村井)→ 政礼(まさのり・村井/水野、廷臣/勤王家) G 4 0 3 2  
 西嶺(せいらい・小林) → 西岳(せいがく・小林こばやし、藩儒) 2 4 9 0  
 斉礼(せいらい・一橋) → 斉礼(なりなり・一橋、廷臣) I 3 2 0 0  
 青黎(せいらい・村瀬) → 太乙(たいいつ/たいおつ・村瀬、藩士/儒者) B 2 6 0 3  
 世霊(せいらい・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7 3  
 成麗(せいらい・西池) → 成麗(なりあきら・西池にいけ、神職) H 3 2 0 6  
 清令(せいらい・賀茂) → 清令(きよのり・賀茂/岡本、神職/日記) Q 1 6 1 3  
 清嶺(せいらい・前沢) → 万重(よろづえ・前沢まえざわ、国学者) P 4 7 0 5  
 清穰(せいらい・坪内) → 清穰(きよよし・坪内つぼうち、藩士/国学) U 1 6 7 9  
 星舩(せいらい・梅辻) → 希烈(まれつら・梅辻/生源寺/祝部、神職) K 4 0 2 5  
 盛令(せいらい・田中) → 盛令(もりのり・田中たなか/丸山、藩士/歌) K 4 4 3 2

誠嶺院(せいれいいん/じょうれいいん)→ 日竟(につきよう;法諱・実等、日蓮僧) D 3 3 8 3  
 青藜閣(せいれいかく) → 伊八(2世いはち・北沢/須原屋、書肆) 1 1 5 6  
 青藜閣(せいれいかく) → 黄石(こうせき・岡野おかの、藩儒臣/詩人) K 1 9 0 8  
 蜻蛉館(2世せいれいかん) → 花丸(はなまる・春光園・優々館、戯作/狂歌) F 3 6 4 9  
 成烈(せいれつ・三橋) → 成烈(なりてる・三橋/藤原/篠田、幕臣歌) H 3 2 6 7  
 清列(せいれつ・青木) → 清列(きよつら・青木あおき、藩士/文筆家) P 1 6 9 1  
 栖蓮(せいれん;法名) → 成通(なりみち・藤原、歌人) 3 2 2 9  
 清廉(せいれん・肝付/小松)→ 帯刀((たてわき・小松、家老/国事/日記) R 2 6 7 3  
 清廉(せいれん・賀古) → 清廉(きよかど・賀古かこ、藩士/文筆家) O 1 6 7 3  
 清連(せいれん・大槻) → 清連(きよつら・大槻おつぎ、藩士/兵法家) P 1 6 9 2  
 正連(せいれん・奥村) → 正連(まさつら・奥村おくむら/大村、歌人) O 4 0 6 3  
 正廉(せいれん・石黒) → 通玄(つうげん・石黒、医/本草家) 2 9 3 3  
 正廉(せいれん・猪木) → 正廉(まさやす・猪木いのき/渡辺、里正/歌) N 4 0 4 5  
 政連(せいれん・藤原) → 政連(まさつら・藤原ふじわら、歌人) E 4 0 1 8  
 静蓮院(せいれんいん→じょうれんいん)→ 良助法親王(りょうじよほつしんのう、天台僧) I 4 9 1 9  
 青蓮院泰謹(せいれんいんたいじん→しょうれんいん)→ 泰謹(たいじん;法諱、天台僧/連歌) B 2 6 6 5  
 清激子(せいれんし) → 玉洲(ぎょくしゅう・桑山/桑そう、絵師) D 1 6 0 2  
 星蓮社暁誉(せいれんしゃぎょうよ)→ 源栄(げんえい;法諱・暁誉、浄土僧) H 1 8 8 6  
 清蓮社香誉(せいれんしゃかうよ)→ 蒼山(きざん;法諱、浄土僧) K 1 6 5 5  
 盛蓮社成阿(せいれんしゃじょうあ)→ 了実(りょうじつ;法諱、浄土宗第六祖) H 4 9 7 6  
 青蓮社忍誉(せいれんしゃにんよ)→ 亮徹(りょうてつ;法諱、浄土僧) L 4 9 5 5  
 西蓮社了誉(せいれんしゃりょうよ)→ 聖岡(しょうがい;法諱、浄土僧/宗学) Q 2 2 9 6  
 青蓮尼(せいれんに) → 青蓮尼(しょうれんに、女房/出家/歌人) U 2 2 3 1  
 成蓮房(せいれんぼう→じょうれんぼう)→ 兼意(けんい;法諱・成蓮房、真言僧) H 1 8 6 5

- D2421 **誠廬**(せいりゅう・依田よだ、名;処安) 1689-1744<sup>56</sup> 讃岐高松の儒者;江戸で林鳳岡門、書に長ず、  
 1716常陸水戸藩に出仕、1729彰考館総裁、1718「撰関大臣考」35「左伝序諺解」、「誠廬集」著、  
 [誠廬(;)号)の字/通称/別号]字;徐行/徐卿、通称;喜左衛門、別号;竹雲  
 D2422 **醒廬**(せいりゅう・万波まんなみ、名;俊誠としのぶ/俊成、俊休としやす男) 1762-1843<sup>82</sup> 備前岡山の儒者;藩校修学、  
 江戸昌平黌で修学/那波魯銅門、岡山藩校教授/閑谷学校教授、経学・文章に秀づ、書/歌人、  
 「醒廬詩文集」「漢文逸話集」「甲戌漫采」「醒廬和歌集」「南遊記」、茅山の兄、俊諒としあきの父、  
 [醒廬(;)号)の字/通称/別号]字;伯信、通称;甚太郎、別号;復堂  
 D2423 **静廬**(せいりゅう・北きた、名;慎吾ちかのぶ、初姓;鈴木) 1765/6-1848<sup>84/83?</sup> 江戸割烹金春屋鈴木家の出身、  
 屋根方(屋根葺)棟梁の北家を相続、家業の傍ら和漢の書を読破、国学;山岡浚明まつあけ門、  
 歌人、狂歌;元木網社中、晩年は貧窮、「四海比事」「独楽考」「六家集地名」「電菴呵筆」著、  
 「静廬俗考」著、1810「もとの雫」編、「静廬俗考目録」「静廬雑抄」「蝴蝶の夢」「俗語類訳」著、  
 「不忌丙午考」/1845「梅園日記」著、外編著多数、  
 [静廬(;)号)の幼名/字/通称/別号]幼名;定次郎、字;有和、通称;三左衛門/三右衛門、  
 別号;北村静廬/梅園/四当書屋/尚友亭、屋号;屋根屋  
 狂名;網破損針金あみのはそんはりがね2世、法号;高岳院

正路(せいりゅう)すべて → 正路(まさみち)  
 正路(せいりゅう・本庄) → 宗敬(そうけい・本庄ほんじょう/藤原、茶人) G 2 5 9 6  
 正路(せいりゅう・和田) → 烏江(うこう・和田、藩士/儒者/書家) C 1 2 1 8  
 正路(せいりゅう・浅井) → 南溟(なんめい・浅井あさい、医者) J 3 2 5 8  
 正路(せいりゅう・奥宮) → 暁峰(ぎょうほう・奥宮おくみや、儒/書家) I 1 6 8 2  
 正路(せいりゅう・田井) → 正路(まさみち・田井たい、儒/連歌/歌人) Q 4 0 4 4  
 正路(せいりゅう・山中) → 敬叟(けいそう・山中やまなか、医者/砲術書) G 1 8 3 1  
 正路(せいりゅう・鈴鹿) → 正路(まさみち・鈴鹿すずか、雑掌/歌人) Q 4 0 3 8  
 正路(せいりゅう・丸山) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3  
 正路(せいりゅう・津江) → 四谷庵月良(よつやあんつきよし;号、幕臣/狂歌) I 4 7 1 6  
 静廬(せいりゅう) → 読耕斎(どっこうさい・林、儒者) O 3 1 4 8

静廬(せいりゅう・伊島)	→	重枝(しげえ・伊島いじま/直江/伊藤、庄屋/勘定奉行)	N 2 1 2 5
青蘆(せいりゅう)	→	米仲(べいちゅう・岡田、俳人)	2 7 7 1
星廬(せいりゅう)	→	千引(ちびき・大石、歌人)	2 8 1 6
清廬(せいりゅう)	→	高門(たかかど・大館、国学)	C 2 6 6 4
清廬(せいりゅう)	→	素蛾(そが・瓊舎たまのや、狂歌作者)	J 2 5 3 4
正路(せいりゅう) すべて	→	正路(まさみち)	
青蘆庵(せいりゅうあん)	→	野渡(やと・野村、俳人)	D 4 5 8 4
正郎(せいりゅう・磯野)	→	正郎(まさお・磯野いその、歌人/禅学)	N 4 0 6 3
正老(せいりゅう・高宮)	→	正路(まさみち・高宮たかみや、国学/歌人)	Q 4 0 7 4
誠朗(せいりゅう・多田)	→	守保(もりやす・多田ただ、藩家老/武芸)	G 4 4 7 0
青朗(せいりゅう・清水)	→	柴山(さいざん・清水しみず、和算家)	G 2 0 6 9
清老(せいりゅう・柳下)	→	清老(きよとし・柳下やなぎした、歌人)	U 1 6 6 9
清滝(せいりゅう・安井)	→	息軒(そっけん・安井、儒者)	2 5 2 5
青蘆玉(せいりゅうぎよく)	→	米仲(べいちゅう・岡田、俳人)	2 7 7 1

02444 **清六**(せいりゅう・二見ふたみ/島川しまかわ) 1826-90<sup>65</sup> 陸中盛岡の南部藩士、神職;駒形神社宮司、  
[清六(;名)の号]瀬継らいつけ/蘆園、島川(二見)成梁(国学者)と同族?

西六(せいりゅうく→さいりゅうく・山本)	→	善右衛門(ぜんえもん・鴻池、商人/俳人)	L 2 4 7 5
正六(せいりゅうく・吹原)	→	政之助(まさのすけ・吹原ふきはら、国学)	S 4 0 2 3
清六(せいりゅうく・水野)	→	忠福(ただよし・水野、幕臣/神宮記録)	R 2 6 2 7
清六(せいりゅうく・佐野)	→	郷成(くになり・佐野との、国学者)	D 1 7 0 5
清六(せいりゅうく・矢野)	→	直道(なおみち・矢野やの、国学者)	P 3 2 1 2
清禄(世禄せいりゅうく・山根)	→	済洲(せいしゅう・山根やまね、藩士/儒者)	B 2 4 9 8
誠六郎(せいりゅうくろく・安達/藤原)	→	顕盛(あきもり・藤原/安達、幕臣/歌)	1 0 8 7
清六郎(せいりゅうくろく・中川)	→	顕忠(あきただ・中川、藩家老/日記)	D 1 0 4 9
西鷺軒(せいりゅうけん)	→	橋泉(きょうせん、禅僧、浮世草子作家)	G 1 6 9 6
正論(せいりゅうん・栗屋)	→	正論(まさとき・栗屋あわや、藩士/弓術家)	E 4 0 3 6

D2424 **静話**(せいわ・静観房じょうかんぼう) ?- ? 心学、1750素及「怪談登志男」編(浮草子)

政和(せいわ/まさかず・吉田/瓜生)	→	金鷲(金峨きんが・梅亭、戯作者)	D 1 6 8 3
政和(せいわ/まさかず・仙石)	→	政和(まさかず・仙石、幕臣)	B 4 0 7 6
政和(せいわ/まさかず・水野)	→	政和(まさかず・水野、鋳物師/天文)	B 4 0 7 7
政和(せいわ/まさかず・本多)	→	政和(まさかず・本多、藩士/記録)	B 4 0 7 9
政和(せいわ/まさかず・長田おさだ)	→	鶴夫(たづお・長田おさだ、国学/歌)	B 2 6 4 4
政和(せいわ/まさかず・村内)	→	敬所(けいしょ・村内むらうち、書家/詩人)	G 1 8 0 8
政和(せいわ・横山)	→	政和(まさかず・横山よこやま、藩家老/文筆)	B 4 0 8 1
政和(せいわ・鎌田)	→	政和(まさかず・鎌田かまた、陪臣/国学者)	O 4 0 9 6
政和(せいわ→まさかず・六郷)	→	正殷(まさただ・六郷ろくごう、藩主/歌)	M 4 0 8 1
政和(せいわ・近藤)	→	政和(まさかず・近藤こんどう、医者/国学)	P 4 0 7 6
政和(せいわ・美甘)	→	政和(まさとも・美甘みかも、神職/国学)	S 4 0 9 0
正和(せいわ/まさかず・高田)	→	円乗(えんじょう・高田たかた/狩野、絵師)	F 1 3 0 1
正和(せいわ・松平)	→	正和(まさとも・松平まつだいら、藩主/歌)	L 4 0 9 7
正和(せいわ・小堀)	→	正和(まさかず・小堀こぼり、茶道/歌)	M 4 0 6 6
正和(せいわ・河村)	→	正和(まさかず・河村かわむら、医者/国学)	P 4 0 0 8
正和(せいわ・坂井)	→	正和(まさかず・坂井さかい/美濃部、藩士/儒・国学)	P 4 0 9 7
世和(せいわ・葉室)	→	黄華(こうか・葉室はむら、藩儒)	H 1 9 7 9
盛和(せいわ/もりがず・原)	→	武太夫(ぶたゆう・原、幕臣/音曲/狂歌)	D 3 8 1 7
清和院君(せいわいんのみ)	→	せかるの君(清和院君せかいのみ)	D 2 4 3 0

D2425 **清和天皇**(せいわてんのう、惟仁これひと、称;水尾帝、文徳天皇4皇子) 850-880<sup>31</sup> 母;藤原明子(良房女)、  
異母兄に惟喬・惟条・惟彦親王、母方祖父藤原良房の後見で兄を退け生後8ヶ月で皇太子、  
858(9歳)父崩御し即位;幼少のため外祖父藤原良房が実権把握、  
866伴善男らの応天門炎上の変発生/良房が摂政;漢学を奨励、876退位;陽成天皇即位、



仏道に帰依;879(元慶3)落飾/法諱;素真、畿内巡幸;880(元慶4)丹波水尾で絶食苦行;  
粟田の円覚寺に崩御、子孫の多くが臣籍降下;後世に武門の棟梁となる清和源氏の祖、  
女御;藤原高子/藤原多美子/藤原佳珠子/源厳子、陽成天皇・貞純親王らの父

西湾(せいわん・亀田) → 敦(あつし・亀田、商家/儒/詩) E 1 0 6 5

西湾(せいわん・幸田) → 光隆(みつたか・幸田こうだ/度会、神職) D 4 1 7 4

西湾(せいわん・和田/林) → 天山(てんざん・和田/小林/林、詩人) D 3 0 5 9

青湾(せいわん・大枝) → 流芳(りゅうほう・大枝/大江/巖、香道家・煎茶) F 4 9 6 3

青椀(青湾せいわん・田能村) → 直入(ちよくにゅう・田能村たのむら、絵師) K 2 8 3 2

世胤(せいん・田中) → 梅溪(ばいけい・鍋木/田中、絵師) B 3 6 0 3

J2404 是雲(ぜうん・若泉わかいづみ) ? - ? 江後期;歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[短夜も老のねざめを慰むる扇やねやのつまとなるらん](大江戸倭歌;夏626/閨中扇)

[足柄の八重山高くのぼりても同じ雲みに見ゆる富士のね](同;雑1665)

D2426 是亦道人(ぜえきどうじん) ? - ? 漢学、1830「桜精伝奇」著(歌舞伎を白話小説化)

D2427 是英(ぜえい;法諱・傑翁けつおう・けつとう;道号、諡号;仏慧禅師) ?-1378 臨濟僧;之庵道貫門、

1333甲斐心経寺住持/49長谷寺・52宝福寺開山、出羽資福寺住寺/57相模大慶寺住寺、

1363浄智寺住寺/71円覚寺38世/75大慶寺方外庵退隱、「金波海」「松泉録」著

是亦庵(ぜえきあん;号) → 桃源(とうげん;道号・瑞仙、臨濟僧/詩) D 3 1 3 8

D2428 是円(ぜえん・二階堂にかいどう、姓;中原/名;章賢あきかた/のりかた、章継男) ?-? 武将、明法家;父門、

章任あきとうの弟/真恵の兄、1291衛門少志/92右衛門尉/建武新政府雑訴決断所交名に列す、  
新政府解体後足利尊氏に出仕;諮問により「建武式目」立案(;弟真恵・日野藤範・玄恵と)、

一度出家;後醍醐天皇の勅命で還俗/のち再出家(法名;道昭)、「是円抄」著、

1350玄慧「建武式・新加制式二十一条」共編、

世雄(せおう;字) → 日性(にっしょう;法諱・円智院、日蓮僧) E 3 3 1 9

世雄院(せおういん) → 日逢(にっほう;法諱・世雄院、日蓮僧) F 3 3 5 9

J2487 是翁(ぜおう・福王ふくおう) ? - ? 江後期播磨の心学者;

1793-94播磨三木郡南僧尾村に典学舎を設立;心学道話を開講、1827京の柴田鳩翁を招聘、  
心学普及に尽力、1828「播州三木孝子行状記」著、

[是翁(;号)の通称] 弥左衛門

是翁(ぜおう・真野) → 安通(安道やすみち・真野まの、武家故実) D 4 5 0 7

瀬織(せおり・河田) → 安尚(やすひさ・河田かわだ、藩士/歌人) C 4 5 7 5

世華(せか・竜) → 玉淵(ぎょくえん・竜りゅう、藩士/儒者/画) I 1 6 9 3

是海(せかい;字) → 徹周(てっしゅう;法諱・専信院、真宗/時宗僧) C 3 0 4 2

世外庵(せがいあん) → 井左(せいさ・浅野あさの、俳人) I 2 4 1 5

D2429 世外子(せがいし、姓名不詳) ?- ? 江中期歌、1709歌学「名所部類篇」、47刊「和歌組題集」

D2430 せかみの君(清和院君せかいのみみ、是忠親王[光孝天皇皇子;857-922]女?) ?-? 平前期歌人、

後撰集1197(宇多法皇の寵愛を得るがのち衰えて里より贈る歌)、

[逢ふ事の年ぎりしぬるなげ木には身のかずならぬ物にぞ有りける](後撰;雑1197)、

(年切りは樹木が年より実がならないこと/投げ木は投込んで焚く薪)、

(投げ木と歎き・実が数成らぬと数ならぬ身を掛る)

瀬川(せがわ;出仕名) → 余野子(よのこ・鵜殿うどの/村尾、歌人) 4 7 3 1

世幹(せかん・山下) → 西涯(せいがい・山下やました、儒者/教育) H 2 4 7 2

世簡(せかん・杉野) → 駁華(ばくか・杉野すぎの、医者/料理) C 3 6 8 0

世煥(せかん・小栗) → 常山(じょうざん・小栗おぐり/平、儒者) J 2 2 3 5

J2488 是観(せかん;号) ? - ? 室町中期連歌僧、宗祇・肖柏と一座、

「宗祇是観等何船百韻」/1475「是観宗珍等何山百韻」/85「仏陀寺法楽何人百韻」参加、

1489「一覚是観等百韻」参加、

J2489 是岩(せがん) ? - ? 江中期京の俳人;几董門、

1782蕪村「花鳥篇」3句・83維駒「五車反古」1句入、

[夜桜に鼻ふるうを追ふ礫つぶてかな](花鳥篇;32/花やぐ心と不吉な声:投げられた小石)

02419 積(せき・勝屋しょうや、旧姓; 静間しずま) 1819-9072 周防山口の国学者; 萩藩士 静間三積みさか門、  
[積(;名)の初名/通称/号]初名;敏、通称;小四郎、号;酒仏/朴斎/蟠竜/独叟山房

積(せき・坂井) → 東派(とうは・坂井さかい、藩儒/詩文) G 3 1 8 9

積(せき・鈴木) → 鳴門(めいもん・鈴木すずき、藩の絵師) 4 3 4 2

積(せき・宮原) → 積(つむる・宮原みやはら/荒武、藩士/歌人) F 2 9 7 7

績(せき・倉田) → 績(いさお・倉田、儒者) F 1 1 4 7

績(せき・佐々木/那波) → 網川(もうせん・那波なば/佐々木、儒者) I 4 4 6 0

績(せき・小西) → 松江(しょうこう・小西こにし、商家/詩人) I 2 2 7 6

碩(せき・原田/昌谷) → 精溪(せいけい・昌谷さかや/原田、藩儒) B 2 4 1 4

碩(せき・新宮) → 涼庭(りょうてい・新宮しんぐう、蘭医) I 4 9 9 9

碩(せき・武久) → 季平(すえひら・武久たけひさ/松岡、藩士/歌) I 2 3 7 5

碩(せき・倉根) → 是明(これあき・倉根くらね、藩士/教育/詩歌) Q 1 9 6 6

籍(せき・大島) → 芙蓉(ふよう・高こう/大島、篆刻家) E 3 8 4 7

せき(・小山) → 関月尼(かんげつに・小山こやま、歌人/諸芸) U 1 5 6 4

世宜(せぎ・鷹羽) → 雲涼(うんそう・鷹羽たかの、藩士/詩人) B 1 2 8 6

J2490 夕庵(せきあん・中沢なかざわ、通称; 道可、甚七郎重綱男) ?-? 江前期岩代二本松藩士の家の生/浪人、  
磐城棚倉藩主内藤式信に出仕、厚・亦助またすけの弟、1692「三選集」著

D2431 石庵(せきあん・三宅みやげ、名; 正名まさな、道悦2男) 1665-173066 京三条の富家(父は儒者)の生、  
儒者; 浅見綱斎門(弟の三宅観瀾と修学)、のち江戸で修学/1697(元禄10)帰京、  
讃岐金比羅の俳人木村寸木に招聘; 4年間滞留/1701大坂で開塾; 安土町に多松堂創設、  
平野の含翠堂に出講、1724尼崎町に創建された懐徳堂の初代学主、顔真卿風の書家、  
歌/俳諧を嗜む、1713「藤樹先生書簡雑著」編/18「医事傍観」著、「諸物雑記」著、  
「論孟首章講義」「万年先生詩稿」著/「三宅石庵書」書、春楼の父、  
[石庵(;号)の字/通称/別号]字; 実父、通称; 新次郎、別号; 万年/泉石

D2432 昔安(せきあん・伊藤いとう) ? - ? 江中期俳人、  
1734「蕉翁おくの細道(東大図書館本)」筆

J2491 碩庵(せきあん・鎌田かまた、名; 大三郎/昌長まさなが) 1768-183972 京の医者、両替町姉小路北住、  
歌人; 前波黙軒・小沢蘆庵門、法橋、晩年烏丸押小路南に移住/最晩年大坂中之島住、  
「結夏随筆」、「任衛脈説」「婦人臟躁説医叢採入」著、  
[碩庵(;通称)の字/号]字; 孟場/孟揚、号; 履端斎/履端軒/壺中庵/復斎、  
法号; 釈浄覚/潜竜院

D2433 石庵(せきあん・田辺たなべ・初姓; 村瀬) 1781-185676 尾張藩士田辺次郎太夫貞斎の養子、儒; 秦滄浪門、  
昌平黌教授出役を命ぜられ甲府徴典館学頭に就任、江戸下谷住、勿庵・蓮舟(太一)の父、  
「元二家文粹」「皇朝六家文粹」「古今文談」「宋学士文粹」「王陽明文粹」「史漢合解」著、  
「清名家外伝」、1805「詩楚諺解」25「続唐宋八大家文読本」37「震川文科」編、外編著多数、  
[石庵(;号)の名/字/通称/別号]名; 海輔/海輔、字; 季徳、通称; 晋二郎/新次郎、  
別号; 旭斎

夕庵(せきあん・横山) → 長知(ながちか・横山、武将/藩重臣) E 3 2 2 6

夕庵(せきあん・九里) → 正長(まさなが・九里くのり、藩士/歌研究) F 4 0 1 9

石庵(せきあん・鶴飼) → 石斎(せきさい・鶴飼/鶴、儒者/史学) D 2 4 4 7

石菴(せきあん; 号) → 仏海(ぶつかい; 道号・慈舟; 法諱、曹洞僧) H 3 8 3 2

石隠(せきいん、石隠老人) → 台麓(たいろく・鳥羽とば、絵師) L 2 6 3 8

石陰(せきいん・中西) → 久受(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) B 3 7 3 8

昔尹(せきいん・保井) → 昔尹(ひさただ・保井/渋川、幕臣/天文家) B 3 7 2 8

惜陰(せきいん・中山) → 利質(としただ・中山、幕臣; 正成研究) M 3 1 7 3

惜陰(せきいん・北尾) → 墨香(ぼっこう・北尾またお、書肆/書家) E 3 9 6 6

惜陰館(せきいんかん) → 義逸(よしはや・坂上さかがみ、医者/歌人) N 4 7 1 8

石隠居廬良(せきいんきよろりょう) → 綾山(りょうざん・黒田くろだ、絵師) E 4 9 2 2

惜陰堂(せきいんどう・中山) → 愛親(なるちか・中山、大納言) I 3 2 4 5

惜陰楼(せきいんろう) → 藍梁(らんりょう・関せき、儒者/詩人) D 4 8 2 7

- D2434 **夕鳥**(せきう・深江ふかえ) ? - ? 江前期大阪の俳人;宗因門、  
1678友雪「大坂檀林桜千句」/80「大坂十歌仙各盞」/82春林「俳諧百人一句難波色紙」入、  
[分別や薄花桜散つてのち](難波色紙;69/薄紅の桜は色褪せ易く情薄く移り気の譬え)
- H2403 **積羽**(せきう) ? - ? 江中期江戸俳人/宗因座沾涼側点者、  
1757竹翁「童の的」8点句入
- J2492 **赤羽**(せきう) ? - ? 江中期京の俳人;蕪村門、1773几董「明鳥」入、  
[したぬ間にまはりし舟や夕霞](明鳥;236/入港した舟が霞の中に出ていく)  
赤羽(せきう・服/服部) → 南郭(なんかく・服部はっとり、儒/詩歌) 3 2 3 1  
夕有(せきう、俳人) → 夕有(せきゆう) D 2 4 9 0
- J2493 **夕雲**(せきうん・針谷はりがや、名;正成)1593-166270 剣術家;小笠原源信斎門;新陰流、  
40歳頃江戸駒込竜光寺の虚白和尚に参禅;無住心剣流(夕雲流)を創案;その祖となる、  
終生浪人;紀州徳川家の内証扶持を受けていたか?、  
晩年は江戸八丁堀住;門人2千8百人;小田切一雲・田方能種ら、「夕雲流剣術書前集」著、  
[夕雲(;号)の通称] 五郎兵衛/五郎右衛門  
石雲(せきうん;道号・道如)→道如(どうじよ;法諱・石雲;道号、黄檗僧) F 3 1 2 5  
石雲(せきうん;道号・融仙)→融仙(ゆうせん;法諱・石雲;道号、曹洞僧) D 4 6 1 9  
石蘊(せきうん・永田) → 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1  
石雲庵(せきうんあん) → 海寿(かいじゆ・無量庵、俳人) I 1 5 6 9  
石英(せきえい・長谷川/小田切)→一雲(いちうん・小田切おだぎり、剣術家) F 1 1 9 9  
関衛(せきえい・新庄) → 久直(ひさなお・新庄しんじょう、藩士/国学) J 3 7 8 7
- J2494 **石燕**(せきえん・山崎やまざき、名;興虎、重郎左衛門2男)1709-8577 上野群馬郡長尾村北牧の儒者;  
下仁田の高橋道斎門/江戸の井上金峨門/漢学・詩文、狩野派絵画を修学;人物画に長ず、  
「石燕一家言」「蒙求標題」著、養嗣;菓子商重郎、  
[石燕(;号)の字/通称/別号]字;子虎、通称;源蔵、別号;君山/吾川/臥雲亭、  
法号;心操石燕居士
- D2435 **石燕**(せきえん・鳥山とりやま/修姓;鳥、名;豊房、本姓;佐野)1712-8877 代々幕府の御坊主の家、  
浮世絵師;狩野玉燕門;拭きぼかしの彩色刷を工夫/江戸根津住;町絵師として活躍、  
俳人;1773歳旦帳「柳の巷」挿画・句入、1774「石燕画譜」75「生花百枝折」76「百鬼夜行」画、  
1777「水滸画潜覧」78「比事比肩」79「続百鬼」84「百器徒然袋」「通俗画図勢勇談」画、外多数、  
恋川春町・喜多川歌麿・栄松斎長喜・志水燕十らの師、  
[鳥山石燕(;号)の通称/別号]通称;十蔵、別号;船月堂/霊陵堂/玉樹軒/月窓/梧柳庵、  
法号;画照院  
石園(せきえん;号) → 閑号(もんごう;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 2 1  
石園(せきえん) → 年平(としひら・飯田、歌人) N 3 1 5 8  
石園(せきえん・中村) → 宜文(よしふみ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 0  
槭園(せきえん・江邨) → 磊堂(らいどう・江邨えむら/田中、藩医) 4 8 8 7
- 2416 **関雄**(せきお・藤原ふじわら、通称;東山進士、真夏男)805-85349 平安前期廷臣;825文章生/834任官、  
839正六位/下野守・勘解由判官・刑部少年輔・諸陵頭歴任/治部少輔じぶのしょう兼斎院長官、  
従五下、詩歌人・書;草書に長ず;南池院・雲林院の壁書制作、  
鼓・琴を嗜み淳名上皇より秘譜を下賜、閑居を好み東山に住、  
古今集2首;282/291、経国1首入、  
[奥山の岩垣もみぢ散りぬべし照る日の光みる時なくて](古今;282/山里の籠り詠む)
- 2453 **夕翁**(せきおう、了安寺) ? - ? 江前期大坂の了安寺住僧/俳人、  
1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
[来て見るや釈迦はやり梅阿弥陀笠](手鑑/[釈迦は遣やり弥陀は導く]のもじり)
- J2495 **昔桜**(せきおう・一松ひとつまつ/修姓;松、本姓;淡海)1653-172573 近江高島郡の儒者、高島藩儒、  
1686(貞享3)常陸水戸彰考館吏員;大日本史編纂に参加、  
1686「播州曾根天満宮廟記」/94(元禄7)「浄鑑院法事記」著、  
[昔桜(;号)の名/字/通称/別号]名;拙忠/拙、字;伯道/十竹/士存、通称;又之進、  
別号;夜雨村

- 石王(せきおう・唐院) → 唐院石王(とういんのせきおう、童/歌) X 3 1 3 0  
 石翁(せきおう・真崎) → 季顯(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集) F 2 3 3 4  
 石翁(せきおう・東) → 縁信(よりのぶ・東とう/石野/平、国学者) J 4 7 4 0
- B2405 石屋(せきおく;道号・真梁しんりょう;法諱、伊集院忠国11男)1345-1423 79 薩摩日置伊集院の曹洞僧;  
 1350(6歳)伊集院の広濟寺で出家/1359(15歳)京の南禅寺蒙山智明門、1371諸国行脚、  
 丹波の永沢(よたけ)寺の通幻寂靈門;法嗣、1394島津元久の招聘で薩摩の福昌寺を開山、  
 日置の妙園寺・長門大寧寺・周防泰雲寺などを開山  
 碩憶(せきおく;法諱・獅林)→ 獅林(しりん;道号・碩憶、臨濟僧) N 2 2 0 0
- J2496 夕可(せきか) ? - ? 美濃の俳人;1698「続猿蓑」1句入、  
 [味喰みそ部屋のほひに肥ゆる三つ葉哉(続猿蓑;下)]
- J2497 碩果(石窩せきか・中井なかい、名;曾縮、竹山男)1771-1840 70 大阪儒者;家学・父門/天満で子弟教育、  
 兄蕉園の没後;懷徳堂教授、「箴集(しゅう)」「左伝私説」「校定盤庚篇」、「中井碩果文稿」、  
 [碩果(;号)の字/通称/別号]字;士反、通称;七郎、別号;石窩/抑楼  
 碩果(せきか・林) → 春勝(はるかつ・林、鷲峰、羅山男/儒者) 3 6 3 0  
 碩果(せきか・樋口、好古/知足齋)→ 碩果翁(せつかう・樋口、藩士/儒詩/国学) E 2 4 0 9  
 石霞(せきか・高橋) → 石霞(せつか・高橋たかはし/和田、商家/財政) K 2 4 7 6
- J2498 惜我(せきが・中野なかの/本姓平、名;義都よしくに/よしさと、瀬左衛門義信男)1728-98 71 岩代会津神道家、  
 初め藤樹学修学/神道;佐瀬常職(つねより)・吉川從門(よしかど)門/兵法・刀術・居合・射術に通ず、  
 一時医を開業/1783(天明3)会津藩に招聘;弓術師範/84卜部神道の教授、  
 藩主松平容敬の侍講、のち見禰山社司、1798(寛政10)没、「義都文集」「会津文集」著、  
 「神政要略」「諺草」「高額夜話」「田村道の記」「那須温泉道記」「平隠孝尊興辨」「夜鶴想子」、  
 「大和訓麓道分」「盆山記」「北郷鄙土産憐民政要」、1769「藤衣」74「後之藤衣」外著多数、  
 [惜我(;号)の幼名/通称/別号]幼名;半三郎、通称;理八郎/作左衛門、神号;隠孝靈社
- D2436 石牙(せきが・安田やすだ/早川はやかわ、名;永)1733-97 65 早川は母方姓、甲斐山梨郡小原村の医者、  
 江戸の井上玄高門/京の賀川玄迪門、俳人;蘭更門/重厚と交流、  
 1792(寛政4)悪代官を貶謫をする60余村の農民騒動の所謂田安榘問題に上訴文を起草;  
 信濃伊那郡木下箕輪の庄の笠原善兵衛方に隠棲;医業の傍ら俳諧指導;客死、  
 60余村の農民は毎年その命日に6名ずつ代表者が香花を供す;のち許され故郷に建碑、  
 「落葉庵詠草」「差出磯弁偽」「茶事要覧」著、1790「ちとりつか」編、  
 追善集「こし裳」(13回忌)、[秋の風貧に心のほこるかな]、  
 [石牙(;号)の字/通称/別号]字;寧夫、通称;多善/多膳、別号;落葉庵/黄楊門/甘棠、  
 法号;潤光石牙居士  
 石臥(せきが・長沼) → 采女(うねめ・長沼ながぬま、武士/和学者) E 1 2 8 2  
 夕可庵(せきかあん、長谷川馬光) → 素丸(そまる・2世其日庵きじつあん) 2 5 2 9  
 夕可庵(せきかあん) → 白芹(はつきん・関根、5世其日庵/俳人) F 3 6 1 6  
 石介(せきかい) → 石介(せつかい、俳人) E 2 4 0 8  
 石介(せきかい・岡本/岡) → 稚川(ちせん、岡本/岡、藩士/儒/詩人) E 2 8 5 6
- D2473 席外(せきがい) ? - ? 江前期俳人;1691不角「若みどり」入、  
 [吹き懸くる鏡に弱る息の勢(せ)](若みどり/前句;まはりてつらしわが三重の帯)  
 (許されぬ恋に瘦せ衰えて化粧する鏡の曇りを拭う息も弱い/三重の帯は瘦せた姿の象徴)
- D2437 尺艾(せきがい・淀名和、別号;其日庵)?-1819 下総の俳人;諸国遍歴後に大坂久宝寺端東に住、  
 芝蘭(芝嵐)門、1781(天明元)「芭蕉翁古式の俳諧」84「しらぬひ六歌仙」「雪の道」編、  
 1784「天満宮奉納百韻」/86「月花塚」90「其美知能久」92「なにはの春」98「なにはの月」編、  
 1799「花月集」1808「新月集」13「俳諧難波物語」編
- D2438 石外(せきがい・紀/中野) ? - ? 江後期京の俳人、  
 1847「俳諧嵐山集」編(:去来150回忌追善)、42「馬耶之集」編/47・49「嵐山集」編、  
 1850「芭蕉翁手鑿」編/51「なにはさうし」著/52「あしふえ集」編、「穂わたとり」編、  
 [石外(;号)の別号] 水雲舎/落柿舎(らくししゃ)  
 夕可庵(せきかあん) → 素丸(初世そまる・長谷川馬光、俳人) 2 5 2 9  
 碩果園(せきかえん) → 牛鳴(ぎゅうめい・菅すが/田中、儒者;詩) M 1 6 9 3

- 夕佳園(せきかえん) → 鏡水(きやうすい・日根野ひねの、藩士/儒者) J 1 6 1 3  
碩果翁(せきかおう・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口、儒詩/国学) E 2 4 0 9  
隻岳(せきがく・佐々木) → 眞足(またり・佐々木、能役者/歌人) J 4 0 5 8  
汐花亭(せきかてい) → 白図(白兔はくと・仁木[二木]、俳人) D 3 6 6 4  
夕佳楼(せきからう) → 知足斎(ちそくさい・武藤むとう、儒/国学者) E 2 8 6 7  
石澗(せきかん;道号・亮珉) → 亮珉(りやうみん;法諱・石澗、臨濟僧) J 4 9 5 2  
籍侃(せきかん・山崎) → 籍侃(よりただ・山崎やまさき、藩士) I 4 7 9 7  
赤巖(せきがん;号) → 聞随(もんずい;法諱、真宗本願寺派僧) I 4 4 6 5  
石巖(せきがん・間部) → 詮実(あきざね・間部まなぶ、藩主/隨筆) G 1 0 5 8  
夕顔(石巖せきがん・伊藤) → 祐胤(すけたね・伊藤いとう、藩医/儒者) G 2 3 4 3  
夕顔巷(せきがんこう) → 羅山(らざん・林はやし、幕府儒官祖;幕政) 4 8 0 2  
石巖山人(せきがんさんじん) → 恒丸(つねまる・今泉いまいずみ、俳人) D 2 9 8 0  
石亀(せきき・吉井) → 石亀(せつき・吉井よし、俳人) N 2 4 4 7  
石義庵(せきぎあん・磯崎) → 種栄(たねひで・磯崎いそざき、本陣勤務/歌) V 2 6 6 4
- D2439 石菊(夕菊せききく) ? - ? 江戸の俳人:蕉門/1687芭蕉「伊賀餞別」入、  
1693酒堂「俳諧深川」(杉風発句の6吟歌仙参加;6句)・1694「炭俵」2句「続猿蓑」1句入、  
[雪あられ心のかはる寒さ哉](夕菊名/続猿蓑;卷下/寒さに違いあり)  
石牛(せきぎゅう;号) → 献甫(けんぽ;道号・光璞;法諱、臨濟僧) M 1 8 2 2  
石牛(せきぎゅう・上代) → 敏政(としまさ・上代かみしろ、歌人) U 3 1 8 1  
夕休庵(せきぎゅうあん) → 休庵(くわんせきぎゅうあん・山口、武将/記録) M 1 6 2 3
- D2440 石居(せきぎよ・兼松かねまつ、名;誠、兼松図書久庸3男) 1810-77 68 母;服部玄良女、陸奥弘前津軽藩士、  
代々江戸藩邸詰、儒者;昌平覺に修学;古賀侗庵・佐藤一斎門、和学;成島司直・屋代弘賢門、  
蘭学も修学、天保1830-44頃江戸邸藩学教授/督学、維新後;青森に東奥義塾創設;子弟教育、  
1856「津軽藩祖略記」編、「津軽藩討南北紀略」編、「討南紀略」「弘前往来」「磯菜」著、  
「閑筆話柄」「喪服私議」「続輯国史序」著、  
[石居(;号)の字/通称/別号]字;成言、通称;列三郎/三郎、別号;晚甘亭
- J2499 石居(せきぎよ・木村きむら、名;孔陽)?-1838 大阪堀江の商家、初世木村兼葭堂異斎そんさいの養子、  
詩文/画;殊に墨梅画に長ず、古器を愛す/煎茶;売茶翁(月海元昭)遺愛の茶器を愛用、  
1813(文化10)「癸酉九月展観目録」/23「売茶翁茶器図」「遊外翁茶器三十三品図」著、  
「石居印説」著、  
[石居(;号)の字/通称/別号]字;世輝、通称;吉右衛門、別号;兼葭堂けんかどう2世  
屋号;坪井屋
- 石居(せきぎよ・那波) → 蕉臆(しょうおそく・那波なば、漢学者/詩歌) K 2 2 5 3  
石橋(せききょう・鈴木) → 石橋(せつきょう・鈴木すずき、農商/儒者) E 2 4 1 4  
石橋亭(せききょうてい/しゃつきょうてい) → 英子(えいし・石橋亭、俳人) B 1 3 4 5
- D2441 石玉(せきぎよく) ? - ? 江戸住俳人、1691賀子「蓮実」入、  
[羽はに積る雪に雲落あがなや水の鴨](蓮実;404/雪の重さで沈みそう)  
積玉圃(せきぎよくほ) → 喜兵衛(きへい・河内屋かわちや・柳原、書肆) L 1 6 8 7  
赤愚(せきぐ・利井) → 鮮妙(せんみょう;法諱・利井かがい、真宗僧) N 2 4 1 4
- K2400 碩溪(せきけい・正司しょうじ、名;考祺) 1793-1857 65 肥前有田の商家の生;商才に長け蓄財、  
1828有田大火に私財を投じ復興に尽力、天保1830-44頃江戸遊学;儒学/兵学を修学、  
安積良斎・佐藤一斎・大窪詩仏と交流、有田の邸内に祠堂を建立;子弟教育、  
山野開墾;作物生産を奨励/佐賀藩の財政再建に協力/大村・平戸両藩で兵学講義、  
「豹皮録」「家職要道」、1833「経済問答秘録」45「武家七徳」56「天明録」著  
[碩溪(;号)の字/通称/別号]字;子寿、通称;庄治、別号;南鳩なんけつ/南馱なんどう  
石兮(せきけい・佐野、俳・1801芭蕉翁七書:編) → 篤老(とくろう・飯田) L 3 1 6 2  
石溪(せきけい・井上) → 石溪(せつけい・井上いのうえ、儒学/兵学) K 2 4 8 4  
石溪(せきけい) → 石溪(せつけい、蘭学者) E 2 4 1 8
- K2401 石鯨(初世せきけい・梨花庵)?- ? 江中期大阪の俳人:富天門、1763「ちかひがさ」編、  
[石鯨(初世;号)の別号]梨花庵/吞空齋

- K2402 **石鯨**(2世せきげい・岡村おかむら)?- ? 大阪の俳人:初世石鯨門/江戸住;沾山3世門、  
1796「丙辰桜花帖」編、  
[石鯨(2世;号)の別号] 梨花庵2世/南花坊  
石鯨(せきげい・中村/内田)→ 沾山(4世せんざん・内田/中村、俳人) F 2 4 5 4  
石猊(せきげい・井口) → 榴荘(りゅうそう・井口いぐち、大庄屋/教育) F 4 9 0 4  
石桂堂(せきけいどう) → 緑野(りよくや・萩原はざむら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2  
積慶堂徳孤子(せきけいどうとくこし) → 好阿(こうあ・静観房、談義本) 1 9 6 3
- D2442 **尺彦**(せきげん・龍鼻館) ? - ? 近江今津宿に住、語学、1835「仮名遣節用集」  
赤県老人(せきけんろうじん) → 皆可(かいか、俳人/談義本) E 1 5 3 4
- D2443 **夕湖**(せきこ・太田おた、巴静の兄)?-1703 美濃の俳人、1703巴静「草枕」(夕湖への追善集)
- D2444 **石湖**(せきこ・李り) ? - ? 1655朝鮮通信使(正使;李明彬)の製述官として来日、  
1706「耕斎先生(菊池耕斎)全集」序(菊池武雅編)  
石鼓(せきこ・大岩) → 勝長(かつなが・大岩、藩士/国学者) N 1 5 6 3  
石鼓(せきこ・前川) → 虚舟(きょしゅう・前川まにかわ、篆刻家) P 1 6 6 5  
尺五(せきご・松永) → 昌三(しょうぞう・松永、貞徳男/儒者) 2 2 5 8  
**尺五学派の三庵**(せきごがくはのさんあん) ;松永昌三[尺五]門の三人の傑出した[庵]の付く儒学者  
→ 順庵(じゅんあん・木下) 1621-98 2 1 5 4  
→ 省庵(せいあん・安東) 1622-1701 2 4 0 2  
→ 遯菴(とんあん・宇都宮) 1633-1709 3 1 6 8
- N2454 **夕虹**(せきこう) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(252)
- K2403 **石口**(せきこう) ? - ? 伊賀上野の俳人;1672宗房(芭蕉)「貝おほひ」入、  
1691「猿蓑」1句入、  
[霞より見える雲のかしら哉](猿蓑;四/霞が薄れ雲の頭が現れる)
- D2445 **積興**(せきこう・かざおき・尾崎おさき/本姓;伴/大伴、初名;継忠、正殖男) 1747-1827 81歳 廷臣;  
京極宮(桂宮)諸大夫/大和守/玄蕃頭/1787縫殿頭/1825従三位、兄興じげおきの孫、  
故実家;禁裏の儀礼・典故に精通、書に造詣深い、「江次第秘抄」「入木抄」「大伴宿禰隨筆」、  
「直垂部類」「執筆法集解」「修学院御幸供奉色目」「冠抄」/1811「大伴積興口伝」著、外編著多、  
積高(せきこう→かざたか・尾藤)→水竹(すいちく・尾藤びと、儒者/幕臣) 2 3 8 0  
石香(せきこう・木俣) → 守易(もりやす・木俣きたまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9  
石候(せきこう・福田) → 和夫(にぎお・福田ふた、国学/神職) H 3 3 3 3  
石鼓館(せきこかん) → 虚舟(きょしゅう・前川まにかわ、篆刻家) P 1 6 6 5  
石克(せきこく) → 克(かつ・石川いしかわ、詩人) G 1 5 0 8  
積古齋(せきこさい) → 泉壽(せんじゅ・中川ながわ、古銭学者) M 2 4 4 5  
尺五堂(せきごどう) → 昌三(しょうぞう・松永、尺五、儒者) 2 2 5 8  
惜古藉室(せきこしゃいつ) → 玄鶴(げんかく・大野おの、医者/地誌) I 1 8 2 7  
惜古文室主人(せきこぶんしつしゅじん) → 玄鶴(げんかく・大野、医者/地誌) I 1 8 2 7
- D2447 **石齋**(せきさい・鵜飼うかい/修姓;鵜、名;信之/方正、真元男) 1615-64 50 江戸儒者;那波活所門;程朱学、  
史学に通達、撰津尼崎藩儒/1658致仕、京で講説、山崎闇斎・毛利貞齋と並称、「杜詩集注」著、  
「運氣論句解」「自省録」、1659「柴田記」/61「明清閩記」「国姓爺忠義伝」/62「本朝編年小史」、  
1663「古文真宝後集諺解大成」補校、「四書存疑考異」「淮南鴻烈解点」著、  
妻;湯本幸勝女、鍊齋・称齋の父、  
[石齋(;号)の字/別号]字;子直、別号;石庵/心耕子、諡号;貞節先生
- D2448 **石齋**(せきさい・黒沢くろさわ/安部・安倍、与村弘宣2男) 1612-78 67 伊勢山田の生/1625(14歳)出奔、  
江戸住;幕臣黒沢某の家に寄食;黒沢を名乗る/儒;林羅山門、林道春の推薦で松江藩儒、  
名を安部三右衛門弘忠と改姓/禄千石、「就道正語」「成医談」「茶事記」「本朝列女伝」著、  
「和歌権与集」、地誌「雲陽誌」「懐橘談」「雲州風土記」「雲木に侯年譜」「外浜金屑集」、  
「石竹叢」「人馬無勞集」「就道正語」「飼林翹楚」外著多数、黒沢長顕ながあき・長尚の父、  
[石齋(;号)の名/字/通称/別号]名;弘忠、字;有隣、通称;次郎/伊勢次郎/三右衛門、  
別号;玉峰/節香堂
- D2449 **石齋**(せきさい・高石たかい、通称;高石屋長右衛門/別号;独長庵)?-? 江前期和泉堺の糸割符商人、

堺十人惣年寄高石宗岸の一族、俳人：宗因門/西鶴門、  
 1678「誹諧珍重集」編(；西鶴との両吟百韻など入)、西鶴大矢数に一座、  
 1676西鶴「古今俳諧師手鑑」/79西治「二葉集」/82「俳諧百人一句難波色紙」入、  
 [釈迦如来死一倍や敲鉦たいきかね](手鑑/珍重集/難波色紙75、敲鉦；仏名唱える時の敲き鉦、  
 死一倍；親が死ぬば倍で返済する条件で借りる高利悪所金、  
 釈迦入滅を種に信者から遊興費を敲き出す破戒坊主)

K2404 鵲齋(せきさい・原田はらだ、名；敬/有則、仁左衛門3男) 1763-1827 65 越後蒲原郡国上村の庄屋の生、  
 医者、狭川子陽の塾で修学；同門の良寛と親交；詩歌の応答、国上村真木山の里正、  
 「鵲齋歌稿」「鵲齋詩稿」「鵲齋誹諧集」「三吟一把藁」著、  
 [鵲齋(；号)の幼名/通称/別号]幼名；常七、通称；宗四郎、別号；十畝園主人/薪山/木夫、  
 法名；道明

D2450 石齋(せきさい・村瀬むらせ、栲亭男) ?-? 京の儒者；父門、  
 1806「蘇東坡絶句」編(田能村竹田校、父栲亭序)

K2405 石齋(せきさい・上田うへだ、名；和英) ?-? 江後期甲斐の篆刻家、江戸谷中天王寺門前に住、  
 1827(文政10)「石齋集古印譜」著  
 [石齋(；号)の字/通称/別号]字；文吉、通称；八十吉やそきち、別号；

K2406 續齋(せきさい・柳沢やなぎさわ、名；範) ?-? 江後期越後長岡藩医、儒詩；九州の亀井昭陽[1773-1836]門、  
 博覧を以て知られる、1849「續齋剩言」、「病間雑記」「傷寒論驂」著、  
 [續齋(；号)の字/別号]字；物先、別号；霧雨山人

K2407 石齋(せきさい・土肥どひ/初姓；田村、名；実匡) 1827-1900 74 土肥鹿鳴の後裔、江戸儒者；塩谷宕陰門、  
 1854(安政元/28歳)因幡鳥取藩土肥権右衛門の養子、1855藩の江戸学門所に出仕、  
 1856家督継嗣、62鳥取帰国後；御側役/格式諸奉行、尊攘派、1867太政官に出仕、  
 維新後は山梨県令/元老院議官、「佳麗館記」「坂本大炊伝」著、「鳥取藩史」第一期編纂参加、  
 [石齋(；号)の字/通称]字；子正、通称；晋三/謙蔵

石齋(せきさい・石井)	→	夏海(なつみ・石井いひ、絵師/狂歌)	G 3 2 7 3
石齋(せきさい・小津)	→	長澄(ながすみ・小津おづ/筒井、国学者)	L 3 2 4 0
石齋(せきさい・小野)	→	述信(のぶぢね・小野おの、藩士/心学)	H 3 5 6 0
石齋(せきさい・高橋)	→	豊珪(とよあき・高橋たかはし、剣術/書家)	V 3 1 6 5
石齋(せきさい・萩原)	→	久敬(ひさたか・萩原はざむら、国学者)	K 3 7 6 1
石齋(せきさい・宮川)	→	孟弼(たけすけ・宮川みやがわ、和算/国学)	O 2 6 4 1
夕齋(せきさい・庄田)	→	正守(まさもり・庄田しょうだ、藩士/歌人)	Q 4 0 2 1
赤齋(せきさい・唐崎)	→	常陸介(ひたちのすけ・唐崎、神職/尊王)	C 3 7 6 1
雪柴下(せきさいか)	→	白推(はくすい・米屋、俳人)	D 3 6 3 9

K2408 尺山(せきざん・松永まつなが、貞徳の末裔) ?-? 京の俳人、桐淵貞山(1672-1749)の師

K2409 赤山(せきざん・高橋たかはし、名；亘) ?-1853 上州赤城山麓に生/信濃須坂藩士；真当流柔術家、  
 1839以前に須坂移住；藩の柔術取立に就任、俳人；天山門、門定番/足軽小頭歴任/1850無役、  
 柔術のほか俳諧・折方・謡曲を教授、1849「誹諧百世草」、「かつらかげ」著、  
 [赤山(；号)の通称/別号]通称；一ヶ介、別号；木菟舎

石山(せきざん・小泉)	→	清庵(せいあん・小泉おがた、藩医)	H 2 4 1 9
石山(せきざん)	→	石山人(せきざんじん、戯作者/狂歌)	K 2 4 1 0
積山(せきざん・津田)	→	玄仙(げんせん・田村/津田、医者)	K 1 8 6 2
積山翁(せきざんおうん)	→	成善(なりよし・木本きもと、藩士/神道家)	L 3 2 8 2
石山居(せきざんきよ・渡辺)	→	頑石(がんせき・渡辺わたなべ、詩文)	R 1 5 1 9

K2410 石山人(せきざんじん) ?-? 江中期江戸の戯作者/狂歌作者、  
 1786「産婦元氣」/87「是氣儘作種」「世之中諸事天文」/88「酒宴哉天怪会合」著、  
 [石山人(；号)の別号]石山/物蒙堂礼

石山断流閣(せきざんだんりゅうかく)	→	耕石(こうせき・中西なかにし、絵師)	K 1 9 1 0
石山房(せきざんぼう・渡辺)	→	頑石(がんせき・渡辺、詩人)	R 1 5 1 9

D2451 石矢(せきし・矢部やべ) ?-? 駿河沼津の俳人、行脚中の秋瓜が沼津で詠句、  
 1737(元文2)撰集「雨の日数」共編；秋瓜の詠を発句に石矢亭で西奴(鳥酔)らと短歌行催

- 赤子(せきし) → 東順(とうじゅん・竹下/榎本、俳人) F 3 1 0 9  
 赤子(せきし・巢見) → 来山(らいざん・巢見すみ、絵師) 4 8 4 7  
 汐子(せきし・飯田) → 汐子(しおこ・飯田いだ/白岩、国学/歌) N 2 1 1 3  
 籍之(せきし・木原) → 桑宅(そうたく・木原きはら、儒者/藩士) K 2 5 3 7  
 績子(せきし・中山) → 績子(いさこ・中山なかやま、女房/日記) F 1 1 4 9  
 赤邇(せきじ・可部) → 赤邇(あかじ・可部かべ、医/国学者) G 1 0 4 0
- F2411 石室(せきしつ;道号・善玖ぜんきゅう;法諱)1294-1389長寿96歳 筑前姪浜の臨濟僧、  
 1318入元;保寧寺古林清茂門、印可を受;1339-46頃帰国、五山文学者、  
 瑞光寺・康德寺の開山、諸寺歴住/天竜寺8世/建長寺43世/円覚寺39世、  
 建長寺に金竜庵を開く/平林寺の開山、  
 「古先禪師語録」編/「石室善玖和尚語録」著、  
 [石室善玖の諡号] 直指見性(じきしけんしょう)禪師
- K2411 夕室(せきしつ・藤とう、別号;雷叟)?-? 江前期:1679蒲生氏郷の武功顕彰;「劍光録」著  
 K2412 石室(せきしつ・福ふく、名;世謙)?-? 江中期和泉岸和田の儒者、1780「石室詩鈔」著、  
 [石室(;号)の字/別号]字;益夫、別号;観瀾/紫山
- K2413 石室(せきしつ・山口やまぐち/本姓;慶徳)1772-181746 伊勢度会篆刻家/八日市場住、法帖模刻に長ず、  
 雲水僧として諸国遊歴、「蘇氏印略摹刻」「字源九弁」著、小俣蟻庵の師、  
 [石室(;号)の名/字/別号]名;奎/常正/金吾、字;煥章、別号;他山楼/梶子し園/藤岡
- 石室(せきしつ;号) → 克讓(こくじょう;法諱、真宗僧/詩歌俳) C 1 9 3 6  
 石室舎(せきしつしゃ) → 象子(きさこ・河合かわい/山中、国学/歌人) T 1 6 9 9  
 場子内親王(せきしなしいんのう) → 場子内親王(場子ちようし・とうしなしいんのう) I 2 8 6 0  
 関路鬼木(せきぢのきぼく/関路古槐/関路老槐) → 良基(よしもと・二条/藤原、撰関/歌・連歌) 4 7 2 9  
 石車(せきしや;道号) → 戒輓(かいげん;法諱・石車、黄檗僧) I 1 5 5 7
- K2414 赤主(せきしゅ) ?-? 大阪雑俳人;1757律中「耳勝手」入  
 赤守(せきしゅ・福谷) → 水竹(すいちく・福谷、俳人) E 2 3 8 3  
 石主(せきしゅ → いわぬし・船曳) → 磐主(いわぬし・船曳ふなびき、神職/国学) B 1 1 8 4
- K2415 石寿(せきじゅ・武蔵むさし、名;吉辰/吉恵、武蔵義陳男)1766-1860長寿95 一時加藤姓(母方姓)、  
 1791家督嗣、旗本幕臣;甲府勤番/1818新御番;江戸牛込に住、1825致仕、  
 還暦後;本草・博物学に専念;特に貝類を研究;江戸の博物研究会[楮鞭会]の主要な一員、  
 「石寿多識篇」「貝譜群分品彙」「介殻稀品撰」「皇朝介品譜」「白蝶化蝶譜」「皇朝化蝶譜」、  
 「増補魚譜」「石器考」「増補菌譜」「続化蝶美苑」著、1830「風鳥暗呼類」画、昆虫標本作製、  
 1834-43「目八譜」著(991種の貝類収録図鑑/服部雪斎画/貝=目十八/15巻)外著多数、  
 [石寿(;号)の字/通称/別号]字;矩甫、通称;斧次郎/孫左衛門、  
 別号;竹石/玩珂亭/翫珂亭/翫珂翁/貝翁はいおう、法号;異功院
- 石樹(せきじゅ・山田/久米) → 千壽(ちほぎ・燕栗園えんりつえん2世、書肆/狂歌) F 2 8 3 7  
 石寿庵(せきじゅあん) → 暮四(ぼし・石井、俳人) E 3 9 1 9
- G2425 夕舟(せきしゅう) ?-? 備後三原俳人;1729兎城「門鳴子」入、  
 1730三原丈羽亭で里紅(廬元坊)を迎え交流、[梅咲や窓に夜着干す門徒寺](藤の首途入)
- D2452 石秋(せきしゅう・劉りゅう、本姓;合谷ごうや、名;翫しよ)1796-186974 豊後玖珠郡戸畑村の酒造業、  
 儒者;日田の広瀬淡窓門;淡窓十哲の1、1830-44頃戸畑村平川で開塾;子弟教育、  
 1845上京;講説業/63近江西大路藩に出仕/64京学問所講師/66丹波園部藩儒に招聘、  
 「晃山勝概」著/「海内詩媒編」「夜雨寮筆記」編、1850淡窓「懷旧楼筆記」欄外評入、  
 1851・66「緑芋村莊詩鈔」著、  
 [石秋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;儀作、字;君鳳、通称;左膳/尋四郎/三吉/君平、  
 別号;石舟/竹所/緑芋村莊/雲城、諡号;靖雍先生
- 赤洲(せきしゅう・横溝) → 藿里(かくり・横溝よこみぞ、儒者) K 1 5 5 7  
 石州(せきしゅう・片桐) → 貞昌(さだまさ・片桐かたぎり、藩主/茶人) J 2 0 6 6  
 石州(せきしゅう・松平) → 貴強(たかます・松平まつだいら、幕臣/紀行) N 2 6 2 4  
 石舟(せきしゅう・鈴木) → 文台(ぶんたい・鈴木すずき、漢学者/教育) G 3 8 1 2



- 石舟斎(せきしゅうさい) → 宗巖(むねよし・柳生、剣術家) C 4 2 0 2  
石寿観(せきじゅかん) → 秀国(しゅうこく・壽ことぶき、俳人) H 2 1 3 9  
石寿堂(3世せきじゅどう) → 市楓(しふう・松原まつばら、俳人) V 2 1 5 1  
石楯(せきじゆん) → 元義(もとよし・平賀、平尾/興津/犬丸、地誌/歌人) 4 4 2 4
- 02412 **せき女**(せきじよ・熊谷くまがい) 1805-3733 陸奥仙台藩士熊谷士彦の妻、国学者  
赤女(せきじよ・林) → しげ子(しげこ・林はやし、歌人) I 2 1 3 7
- D2453 **跡松**(せきしょう) ? - ? 江前期加賀鶴来の俳人、1690北枝「卯辰集」1句入、  
[這ひ出いでて落葉にねまる蛙かはづかな](卯辰集;上四466/ねまるはすわる意)
- K2416 **石牀**(石床せきしょう・三村みむら、名;璞/聴璞、立堅[可親]3男) 1730-6132 信濃木曾福島の医者、  
若年に尾張名古屋で儒;松平君山門/江戸で大内熊耳門、京で医学;山脇東洋門、  
帰郷;山村良由の侍医(父を継嗣)/傍ら文を教授、木曾山中の薬草採取;薬草園を開く、  
薬草の栽培と改良に尽力、1756兄の立珉没;家督を継嗣、研究のため江戸滞在中没、  
「石床漫筆」「木曾薬譜」「唐詩擢材てきさい」「明詩擢材」/1754「唐詩選類材」55「吉蘇産物」著、  
[石牀(;号)の字/通称]字;季崐、通称;親益/道益
- K2417 **石樵**(せきしょう・中西なかし、名;万、兼伴男) 1733-180775 河内茨田郡大窪村の人/尾張藩士;  
兄を継嗣;大坂藩邸の奉行、儒;中井塾庵門、剣術・刻印に通ず、「石樵印譜」著/「石樵遺稿」、  
[石樵(;号)の字/通称]字;公世、通称;与一右衛門、衛まる・融とおるの父
- K2420 **赤松**(せきしょう・安西あんざい、名;愛) 1809-7668 讃岐高松の書画鑑定家;収蔵品多数、  
1865(慶応元)「赤松居展観図録」著、  
[赤松(;号)の通称/別号]通称;孫四郎、別号;謙堂  
積小(せきしょう・児玉) → 尚高(ひさたか・児玉/秦、神職/国学者) B 3 7 2 6
- D2454 **赤城**(せきじょう・岡井おかい、名;孝卿/鼎/鷲だい、嵯州男)?-1803 讃岐高松藩儒;家学/林家に修学、  
1763家督、76記録所総裁/99江戸藩邸西城学館総裁、詩・書画を嗜む、「詩疑」、  
「嵯州遺稿」刊/1792「孟子集注正誤」97「按行日記」、  
[赤城(;号)の字/通称]字;伯和/伯鼎、通称;文次郎/郡太夫
- D2455 **石城**(赤城せきじょう・岡野おかの、河合正春男) 1745-183086 信濃松代藩士岡野和素の養嗣子、  
家督継嗣/藩士;2百石、金奉行/目附役を歴任、儒者;藩儒菊池南陽門;程朱学修学・  
のち徂徠学に転向、公務の傍ら藩校で教授/城中で経書講義/私塾翠篁館でも教授、  
「礼記纂説」「詩経纂説」「石城詩文集」「経済管蠡」「孔子家語纂説」「尚書纂説」著、  
「論語微補義」「翠篁館漫筆」外著多数、  
[石城(;号)の名/字/通称]名;融/元韶、字;叔儀、通称;内蔵太くらた/陽之助
- D2456 **石丈**(せきじょう・鳥山とりやま)? - ? 漢学・白話学者、1784「忠義水滸伝抄」訳、  
1790「通俗忠義水滸伝拾遺」共著
- K2418 **赤城**(せきじょう・猿山さやま、名;周之/通称左膳、叡麓男) 1761-180646 江戸の書家、  
「錦百人一首」著、竜池の弟
- D2457 **赤城**(せきじょう・清水しみず、名;正徳/煥、謙山男) 1766-184883 上州並榎村出身の儒者/兵学者、  
1774(9歳)父に従い江戸に/儒;冢田大峯門/実学を重視し講説業/天文暦算;本田利明門、  
長沼流兵学;和合猶水・島田正修門/砲術;斎藤庄兵衛門/剣法・槍術も修得、述斎門、  
兵学附属の砲術を創始/諸藩から招聘;教授/終生仕官はしなかった、水戸藩儒者と交流、  
「淡庵詩抄」「淡庵漫録」「火砲要録」「武備大意」「兵要録發揮」「兵要録講義」「迂評鈴録」、  
「孫子解」「呉子解」「司馬法解」「先人遺著」、1803「西洋火攻神器説」14「赤城余波」外著多数、  
1825馬琴「兎園小説」入;兎園社友12名の1、  
[赤城(;号)の字/通称/別号]字;章卿/俊平、通称;俊蔵、  
別号;淡庵/虚舟/正気堂/文煥/藍斎/遯庵とんあん/屠竜居士、法号;正当赤城居士
- D2458 **赤城**(せきじょう・関せき、名;龔、権兵衛男) 1766-180843 上州沼田の荒物商清水屋の生;  
商用で江戸へ行き商用せず書籍購入/江戸住;漢学の勉学をし一家を成す;入門者多数、  
兵学を修学;筑後柳川・久留米・筑前福岡諸藩に出仕、1789幕臣青島俊蔵に随い蝦夷調査、  
1793「蝦夷風土記」、  
「雲遊前録」/1801「雲遊後録」著、04「越前国誌」補填、「懐風館漫録」著、  
「中山紀行」「乘遊日記」「極越紀行」「赤城先生詩集」「赤城集」外著多数、  
[赤城(;号)の字/通称/別号]字;子敬、通称;文太郎/吉十郎、別号;懐風館主人

- K2419 **赤城**(せきじょう・井田いだ/旧姓;長尾、名;竜)1768-1842<sup>75</sup> 武蔵の儒者、  
「学記発蒙」「観風集」「修道訓」「真学法語」、1787「石経大学解」94「創業垂統」著、  
1825「和漢連珠朗詠」32「難養南柯夢」外著多数、  
[赤城(;号)の字/通称/別号]字;雲卿、通称;定七郎、別号;愚直翁/退耕处子、法号:南柯院
- D2459 **赤城**(せきじょう・大沢おおさわ、名;賚)1777-1865<sup>89</sup> 武蔵川越藩儒、儒;黒沢雉岡門/語学研究、  
1828「五十字母省文全図」29「韻鏡発輝種字」42「韻鏡発輝」44「韻鏡発輝易索」外著多数、  
本居宣長の「字音仮名用格」を非難;1844?「字音仮字用格弁誤」著(1886刊)、  
[赤城(;号)の字/通称/法号]字;四海、通称;権之助ごんのすけ、法号;良智赤城
- D2460 **石上**(せきじょう・樹下じゅげ、姓;梶原かじわら)?-? 1830頃没 羽前山形藩士;江戸在勤で鍛冶橋御門辺住、  
浄瑠璃作者/のち黄表紙(1782-1809)作者/画;鳥山石燕風の絵、式亭三馬・楚満人等と親交、  
1782浄瑠璃「七草若菜功なくさわかさのいさおし」、90黄表紙「人間万事西行猫さいぎょうがねこ」、  
1793「万福長者伝」1806「怪談怖史記」、画;1805「昔話桃太郎伝」09「奇談立山記」、外著作多、  
[樹下石上(;号)の通称/別号]通称;五郎兵衛、  
別号;市中山人(;浄瑠璃号)/樹下山人/石上山人/百齋(;画号)/久信/百齋久信
- K2421 **赤城**(せきじょう・長沢ながさわ、名;茂昭、赤水長男)1820-68戦死<sup>49</sup> 越後長岡藩士、  
馬術:江戸十河団次門、調息流馭法を藩内に伝承、  
慶応初1865頃;天下動揺時に密かに岩代会津藩動静を探る、  
河井継之助の執政により御馬屋御番役より藩校崇徳館の教授に抜擢、  
勤王を建議するが容れられず;戊辰戦争で会津で戦死、「踐跡録」著、  
[赤城(;号)の字/通称]字;伯明、通称;金太郎
- K2422 **赤城**(せきじょう・斎藤さいとう、名;三政)1824-86<sup>63</sup> 越後三島郡与板町商家に生/儒;江戸の佐藤一斎門、  
帰郷後;青槐書院を創建;門天指導/維新後;与板藩校正徳館の中教授、「青槐書院雑誌」編、  
[赤城(;号)の字/通称]字;守信、通称;三郎
- D2461 **石丈**(せきじょう・重田しげた、採茶庵さいだあん八世)?-? 俳人;7世杉卿門
- |                    |   |                        |           |
|--------------------|---|------------------------|-----------|
| 赤城(せきじょう・役)        | → | 義観(ぎかん・島田、修験僧)         | J 1 6 8 9 |
| 赤城(せきじょう・高山)       | → | 正之(まさゆき・高山彦九郎、勤王家)     | I 4 0 2 7 |
| 赤城(せきじょう・福井)       | → | 松山(しょうざん・福井/佐藤、儒者/兵法)  | J 2 2 2 2 |
| 赤城(せきじょう・三上)       | → | 松亭(しょうてい・三上みかみ、医者/詩人)  | U 2 2 0 0 |
| 赤城(せきじょう・今井)       | → | 兼庭(かねにわ・今井いまい、和算家)     | O 1 5 8 0 |
| 赤城(せきじょう・喜多)       | → | 金宝(かねみち・喜多きた、酒造業/歌人)   | U 1 5 4 7 |
| 石城(せきじょう・児島)       | → | 長年(ながとし・児島こじま、篆刻/日記)   | 3 2 1 3   |
| 石城(せきじょう)          | → | 是真(ぜじん;法諱・遵教、日蓮僧/歌)    | K 2 4 6 1 |
| 石城(せきじょう・尾崎)       | → | 貞幹(さだみき・尾崎おさき、藩士/国学/画) | O 2 0 0 8 |
| 赤城翁(せきじょうおう)       | → | 徂徠(そらい・荻生おぎゅう、儒;古文辞学)  | 2 5 3 1   |
| 赤松閣鬼望(せきしょうかくきぼう)  | → | 徹斎(てっさい・平瀬ひらせ、書肆/各種編纂) | C 3 0 3 0 |
| 積小館(せきしょうかん)       | → | 蒙所(もうしょ・新興におう、書家)      | 4 4 5 5   |
| 石丈山(せきじょうざん)       | → | 丈山(じょうざん・石川)           | 2 1 8 0   |
| 石上山人(せきじょうさんじん)    | → | 石上(せきじょう・樹下じゅげ、黄表・浄作)  | D 2 4 6 0 |
| 石城山人(せきじょうさんじん)    | → | 朝喬(ともたか・津軽、藩奉行/雑俳)     | P 3 1 6 4 |
| 赤城子(せきじょうし)        | → | 一九(2世いっく・十返舎、戯作者)      | B 1 1 3 7 |
| 石菖窓(せきしょうそう)       | → | 荏丹(そうたん、高柳/鈴木、医者/俳人)   | C 2 5 4 8 |
| 赤松亭秀成(せきしょうていひでなり) | → | 日出成(ひでなり・赤松[亭]、狂歌/絵師)  | D 3 7 5 0 |
| 赤蕭堂(せきしょうどう)       | → | 正邦(まさくに・伊吹いぶき/源、藩士/歌人) | N 4 0 4 3 |
| 積書堂(せきしょどう)        | → | 光英(こうえい・積書堂、歌人)        | B 1 9 0 0 |
| 碩岑(せきしん;道号)        | → | 見髓(けんずい;法諱・碩岑、曹洞僧)     | K 1 8 2 3 |
| 積信(せきしん・武藤)        | → | 積信(かずのぶ・武藤むとう、藩士/歌人)   | V 1 5 8 8 |
| 石心子度民(せきしんしどみん)    | → | 常辰(つねとき・久志本/度会、神職/医者)  | C 2 9 6 3 |
- D2463 **赤水**(せきすい・長久保ながくぼ/修姓;長、貞道男)1717-1801<sup>85</sup> 常陸多賀郡赤浜の庄屋、農業を営む、  
学問;彰考館総裁名越南溪門/天文・地理に秀でる、長崎など諸国游学、  
1768学問の功績により水戸藩郷士格、77藩主徳川治保の侍講;江戸住/82馬廻組/近習番、

1786隠居格:91致仕、彰考館の大日本史地理誌編纂にも参加、1760「東奥紀行」著、  
1768「清槎唱和集」/74「天文星象図解」「天象管闕鈔」/1791「五常図解」「逢原筆記」、  
1792「北越七奇」「礼記王制地理図説」「大日本史地理志稿」「関西海道考」「関東海道考」、  
「諸国産物記」「赤水雑録」「赤水文草」「赤水余稿」「赤水日本地図」外著多数、  
[赤水(；号)の名/字/通称/別号]名;守道/玄珠げんじゅ、字;伯義/子玉、  
通称;源五兵衛/源兵衛、別号;松月亭、法号;智徳院

- D2464 積翠(せきすい・石河いし、名;貞義、貞英男) 1738-1803 66 幕臣;父継嗣;禄4千5百石、  
1762寄合火事場見廻/64鉄砲組/71致仕;家督を養子貞通に譲渡;西山と号し俳諧に専念、  
俳人;東柳窓燕志門/1764桃隣2世門、芭蕉百回忌に鮫洲泊船寺に泊船堂の建立に尽瘁、  
芭蕉の資料考証に貢献、1775「松の鶴」90「葛松原評」/93「去来抄評」「芭蕉俳書三部評」著、  
1795「俳諧面問答」著、「芭蕉句選年考」著、「野晒紀行翠園抄」注、  
「積翠園俳談抄」「積翠園雑集」「俳諧附合問答」「雑談抄」外著多数、  
[初鷄や今羽にはたく去年の塵]、  
[積翠(；号)の通称/別号]通称;右膳、別号;積翠庵/積翠園/雨簾/西山(；致仕後の号)
- K2423 赤水(せきすい、井上いのうえ/修姓;井、名;正臣) ?-? 堺の儒者;大坂含翠堂・懐徳堂の講師、  
含翠堂では七名家の1、1743「文識附録診解」、  
[赤水(；号)の字/通称/別号]字;投轄、通称;退蔵/左平、  
別号;鎖平さへい/翠堂主人/懐徳舎人/援卿散人
- K2424 赤水(せきすい・大畑おおはた、名;九齡、黙翁[1703-1775]男) ?-? 播磨明石藩士;大坂勤務、  
儒者・詩;中井竹山門/混沌社友、  
[赤水(；号)の字] 字;寿正
- K2425 赤水(せきすい・五島ごとう、名;恵迪/必賀) 1752-1810 59 播州佐用郡新宿医者;大阪天満金屋で開業、  
儒者/詩文に長ず/能書、1788「医事客難」95「赤水先生文稿」97「論藪」1810「赤水余稿」、  
[赤水(；号)の字/通称]字;文敏/之辞、通称;一彦/逸蔵/逸玄、必由・必賀・必与の父
- K2426 赤水(せきすい・長沢ながさわ、名;茂泰) ?-? 1833存 越後長岡藩士/関口流柔術;江戸西尾源左衛門門、  
柔術を子弟に教育、1833(天保4)藩主牧野忠雅の命で飢饉実態を視察;1833「北枕」著、  
[赤水(；号)の通称/別号]通称;時弥、別号;無形庵、赤城せきじょうの父
- K2427 赤水(せきすい・高橋たかはし、名;祐、秋山3男) 1767-1848 82 阿波徳島の医者/上京;医を修学、  
儒;皆川淇園門、徳島で医業/子弟教育、再上京し天文暦学;猪飼敬所門、  
1741「赤水文抄」47「古今学話」著、  
[赤水(；号)の字/通称]字;子信、通称;竜朔
- K2428 積水(せきすい・中島/中嶋なかじま、名;高寛) 1770-1846 77 陸中盛岡藩儒;山本北山門、藩校明義堂助教、  
「東晡録」「神鼎廟外記」/1820-43「中嶋積水自筆日記」著、  
[積水(；号)の字/通称]字;尚卿/尚々、通称;良平、法号;積水伏竜居士
- K2429 石水(せきすい・中なか、名;謹) 1775-1843 69 江戸の書家、「角田川詣」書  
[石水(；号)の通称/別号]通称;与兵衛、別号;永林堂、法号;中道院
- K2430 赤水(せきすい・矢橋やはし、名;竜) ?-? 江後期美濃赤坂の詩人・江村北海門、兄徹も詩人、  
文化1804-18頃没、「赤水遺稿」、  
[赤水(；号)の字/通称/別号]字;子淵、通称;辰二郎、別号;竹雪廬
- K2431 碩水(せきすい) ?-? 陸前志田郡古川の俳人、「不二煙集」入、  
1832「そのしほり」47「常夏草」著、50「みつあかり」55「東西集四」61「かなへ集」編、  
「いはひべ集」「梅見かてら」編
- N2498 積翠(せきすい・赤沢あかさわ) 1792-1837 46 陸奥陸中盛岡の国学者、  
[積翠(；号)の名/通称/別号]名;敬吉、通称;平左衛門、別号;松徳
- D2465 碩水(せきすい・楠本くすもと、名;孚嘉、祇伴男) 1832-1916 85 肥前針尾島の生/端山の弟、  
儒者;広瀬淡窓・佐藤一斎・草場佩川・月田蒙斎門、肥前平戸藩校維新館助教/教授、  
崎門きもん学派(闇斎派朱子学)の儒者、維新後;大学少博士、  
1881(明治14)兄端山と郷里長崎針尾島に鳳鳴書院を開設、  
「崎門文献録」著(崎門学脈系譜入)、「聖学要録」「碩水文草」著、  
[碩水(；号)の字/通称/別号]字;古甫、通称;謙三郎、別号;天逸

兄 → 端山(たんざん・楠本くすもと、藩士/崎門学派) I 2 6 2 1  
 石水(せきすい・前田) → 葉庵(ようあん・前田、藩儒/医者) 4 7 5 5  
 石水(せきすい・川喜田) → 政明(まさあき・川喜田かわきた、歌人) B 4 0 1 0  
 石水(せきすい・黒木) → 貞中(さだなか・黒木くろぎ、藩士/軍法) J 2 0 0 2  
 積翠(せきすい;号) → 蘭山(らんざん:道号・正隆しょうりゅう:法諱、臨濟僧) C 4 8 2 9  
 積翠(せきすい・松本) → 寒緑(かんろく、松本まつもと、藩士/儒者) R 1 5 9 0  
 積翠(せきすい・竹内) → 無因斎(むいんさい・竹内たけうち、儒者) 4 2 2 1  
 積翠(せきすい・香川) → 景達(かげとう・香川かがわ、藩士/国学者) U 1 5 1 1  
 積翠(せきすい・木村) → 芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌) M 4 7 4 1  
 積水(せきすい、風鑑斎) → 風鑑斎積水(ふうかんさいせきすい・華道家) 3 8 4 0  
 積水(せきすい・松井) → 昌胤(まさたね・松井まつい、藩医) D 4 0 5 8  
 積水(せきすい・黒部) → 重徳(しげのり・黒部くろべ、国学/歌人) O 2 1 3 6

K2432 石随(せきずい、別号;花光寺)?-? 江中期老岐武生水村の文筆家、

1731(享保16)「竹馬善友集」著

積翠庵(せきすいあん) → 積翠(せきすい・石河いしこ、幕臣/俳人) D 2 4 6 4  
 積翠庵(せきすいあん) → 宗悦(そうえつ・松村まつむら、茶人/歌人) G 2 5 2 8  
 石水隠史(せきすい隠し) → 蟻斎(あきさい・勝村かつむら、儒者) J 1 5 8 3  
 積翠園(せきすいえん、積翠庵) → 積翠(せきすい・石河) D 2 4 6 4  
 積翠軒(せきすいけん) → 秀員(ひでかず・妻屋つまや、可雪、歌人) C 3 7 9 1  
 積翠軒(せきすいけん) → 春及(しゅんきゆう・片岡、農業/文筆/歌) Z 2 1 6 1  
 石穂舎(せきすいしゃ) → 景経(かげつね・村尾むらお、神職/国学) U 1 5 9 9  
 積翠堂(せきすいどう) → 泰庵(たいあん・服部はつとり、医者) J 2 6 0 3  
 積翠道人(せきすいどうじん) → 金水(きんすい・松亭しょうてい、人情/読本) 1 6 6 3  
 積翠楼(せきすいろう) → 大湫(たいしゅう・南宮なんぐう/井上、儒者) B 2 6 5 3  
 赤須真人(せきすしんじん:号) → 猛火(もうか;法諱、真宗僧/書・詩) 4 4 4 8

K2433 夕静(せきせい・岸きし、別号;積清/秋可亭)?-? 江中期宝暦明和1751-72頃讃岐丸亀の俳人、

菅公8百50年忌菅廟奉賛に讃岐・阿波・伊予を巡拝/1753(宝暦3)上京;風状門、  
 「四国紀行」編、「菅の風」著

積靖(せきせい・藤田) → 百城(ひやくじょう・藤田、医者/詩人) E 3 7 5 8  
 石積(せきせき・境部) → 石積(磐積いわつみ・境部/坂合部、廷臣) E 1 1 5 7  
 石々翁(せきせきおう) → 練石(れんせき、福田、俳人) B 5 1 2 3

C2469 尺切(せきせつ) ?-? 江前期俳人、1687一昌「丁卯ていぼう集」入、

「行く船や帆に吹き矯たむる風の月」(丁卯集;風月)

隻箭(せきせん;道号) → 蘭桂(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧) D 4 8 3 3  
 石川(せきせん・梅本) → 薫(かおる・梅本うめもと、経師/歌・俳人) T 1 5 7 9  
 石泉(せきせん;道号) → 元澄(げんちよう:法諱・石泉、黄檗僧) L 1 8 3 4  
 石泉(せきせん;号) → 僧叡(そうえい、真宗本願寺派僧) G 2 5 2 0  
 石泉(せきせん・青山) → 雲隣(うんりん・青山あおやま、絵師) E 1 2 1 2  
 石泉(せきせん・大久保) → 忠寛(ただひろ・大久保おおくぼ、一翁、幕臣) U 2 6 3 9  
 石仙(せきせん・玉楮) → 斯行(これゆき・玉楮たまがじ、彫刻師) R 1 9 0 1  
 隻箭(せきせん;道号) → 蘭桂(らんけい;道号・正香しょうこう;法諱、黄檗僧) D 4 8 3 3  
 石前(せきぜん) → 石前(いわさき・檜前舎人ひのくまのとねり、防人) B 1 1 9 7  
 石膳(せきぜん・杉江) → 安誼(やすよし・杉江すぎえ、歌人) G 4 5 0 3  
 積善(せきぜん・高階) → 積善(もりよし・高階たかしな、廷臣/詩人) G 4 4 8 0  
 積善(せきぜん・中井) → 竹山(ちくざん・中井なかい、儒者/詩文) 2 8 0 9  
 積善(せきぜん・山本) → 眉山(びざん・山本、農家/儒者) C 3 7 3 1  
 積善(せきぜん・橋本) → 守善(もりよし・橋本はしもと、和算家) G 4 4 9 2  
 積善(せきぜん・花房) → 雷嶽(らいがく・花房はなぶさ、藩士/儒者) 4 8 2 6  
 石泉院(せきせんいん) → 忠性(ちゅうしょう;法諱、天台僧/歌人) G 2 8 3 1  
 赤川隠士(せきせんいんし) → 溟北(めいほく・円山/小池、藩士/儒者) 4 3 3 7

- 石川漁者(せきせんぎょしゃ) → 利諄(としあつ・田中たなか、歌人) V 3 1 5 1  
積善堂(せきぜんどう) → 思亭(してい・丹羽、儒者) V 2 1 1 8  
積善堂(せきぜんどう) → 伯民(はくみん・南部なんぶ、医者) D 3 6 9 5  
D2466 尺素(せきそ・沢さわ) ? - ? 江中期越後新発田の俳人、  
1763(宝暦13)支考追善集「十論会集」編  
D2467 石草(せきそう) ? - ? 俳人、1692团水「くやみ草」入  
D2468 尺草(せきそう) ? - ? 俳人、1696岩翁「若葉合」入  
尺艸と同一? → 尺艸(しゃくそう、江戸俳人) W 2 1 0 4  
K2434 石漱(せきそう) ? - ? 江中期大阪の俳人、1773几董「明鳥」1句入、  
[動かぬばとんとうごかぬ柳かな](明鳥;225/春の無風)  
石霜(せきそう;道号) → 竜菴(りゅうしょう;法諱・石霜、臨濟僧) E 4 9 6 7  
石叟(せきそう・上野) → 片石(へんせき・上野うえの、藩士/俳人) B 2 7 3 2  
石叟(せきそう;道号) → 徹周(てっしゅう;法諱・石叟、曹洞僧) C 3 0 4 1  
石叟(せきそう・宇都宮) → 孚(たかし・宇都宮うつのみや、国学/歌人) V 2 6 7 6  
石窓(せきそう;号) → 雲室(うんしつ;号、真宗僧/絵師) B 1 2 1 6  
石窓(せきそう;号) → 願海(がんかい、天台僧/千日回峰) Q 1 5 0 7  
石窓(せきそう・大館) → 信郷(のぶさと・大館おおだち、国学者) H 3 5 7 0  
石巢(せきそう・高久) → 霧崖(あいがい・高久たかく、絵師) D 1 0 1 7  
赤草(せきそう・赤松) → 大庾(だいゆ・赤松あかまつ/大川、儒者) C 2 6 2 5  
石霜庵(せきそうあん) → 祇空(ぎくう・稲津、俳人) 1 6 9 4  
石霜庵(せきそうあん) → 芳室(ほうしつ・稲津/祇空弟、俳人) B 3 9 2 5  
石霜庵(2世せきそうあん) → 紀逸(初世きいつ・慶、祇空門俳人) 1 6 0 1  
夕巢庵(せきそうあん) → 古岳(こがく;道号・宗亘そうごう;法諱、臨濟僧) L 1 9 8 8  
雪蒼下(せきそうか) → 白推(はくすい・米屋、俳人) D 3 6 3 9  
積藻亭(せきそうてい) → 古江(ここう・寺田、俳人) M 1 9 4 0  
K2435 石倉堂(せきそうどう・杉岡すぎおか、通称;河内屋長兵衛)?-? 江後期大阪の書肆(屋号;石倉堂)、  
心齋橋筋博労町北入に住、1833「飯百珍伝」/37「復仇武蔵鏡」著  
石足(せきそく・石川) → 石足(いそたり・石川いしかわ、廷臣/詩人) B 1 1 0 7  
石足(せきそく・門部) → 石足(いそたり・門部かどべ、万葉歌人) B 1 1 0 8  
石足(せきそく・加藤) → 磯足(いそたり・加藤、国学者/歌) B 1 1 0 9  
赤村(せきそん・木村) → 松陵(しょうりょう・木村、儒者/藩政) L 2 2 9 5  
石埭(せきたい・徳弘とくひろ) → 孝蔵(こうぞう・徳弘、藩士/絵/砲術) K 1 9 3 7  
K2436 石台(せきだい・伊藤いとう、名;蝦/祐実すげね、莘野しんや男)?-1789 京の儒者;父莘野門、  
加賀藩老臣本多政行に出仕/のち加賀藩主前田重教に出仕;藩儒、  
「石台詩草」著、「石台遺文」、  
[石台(;号)の字/通称]字;純夫、通称;将曹/淳八郎  
K2437 石台(せきだい・北岡きたおか、名;政)?-? 讃岐丸亀藩士、詩人、1847「鼓腹集」編、  
[石台(;号)の字] 子正  
石台(せきだい・奥村) → 尚寛(なおのぶ/なおひろ・奥村おくむら、藩年寄/歌) C 3 2 0 2  
石沢(せきたく;道号) → 柏州(はくしゅう;法諱・石沢、臨濟僧) D 3 6 2 7  
石潭(せきたん・牧) → 匡直(まさなお・牧まさき、石潭/儒者/歌人) S 4 0 5 4  
石潭(せきたん・和田) → 昌孝(まさたか・和田わだ、藩士/詩歌人) T 4 0 7 6  
K2438 石痴(せきち・成瀬なるせ/初姓;横瀬) 1839-95 57 長崎奉行組下遠見番成瀬広助の養子;家督嗣、  
1866家督を弟に譲渡、彫刻家/南画;春徳寺の鉄翁禅師門、歌;中島広足門/詩;谷口藍田門、  
武技・碁・将棋・茶を嗜む、「鉄翁印譜」著、  
[石痴(;号)の通称/別号]通称;久米之進/来三郎/藤平ふじひら、別号;米城  
石竹舎(せきちくしゃ) → 古風(ひさかぜ・冷泉/荘原、医者/国学) 3 7 9 2  
D2469 石柱(せきちゅう・吉川) ? - ? 江前期俳人;晩山門、  
1692「俳諧猿物語」著(;夢助「山獺」を批判)  
石中庵(せきちゅうあん) → 石蘭(せきらん・石中庵、俳人) H 2 4 9 5

- 石仲子(せきちゆうし) → 守範(しゅはん・山下、絵師/俳人) J 2 1 0 0  
石中堂(せきちゆうどう) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人) 4 8 0 6  
石中堂(せきちゆうどう) → 斑象(2世はんぞう、俳人) I 3 6 3 3  
石中堂(せきちゆうどう) → 斑象(3世はんぞう、俳人) I 3 6 3 4  
石中堂方鳩(せきちゆうどうほうきゆう) → 斑象(二世・はんぞう) I 3 6 3 4  
D2470 石腸(せきちよう) ? - ? 俳人/江戸座宗匠、1745湖十2世「江戸廿歌仙」独吟歌仙入  
D2471 夕兆(せきちよう) ? - ? 越中井波の俳人・浪化門、浪化一門の集団の1、  
1698浪化「己卯集」百韻入、1699「浪化日記」一門百韻入  
石潮(せきちよう) → 長翠(ちようすい・常世田とこよだ、俳人) J 2 8 0 9  
石腸(せきちよう・森) → 良敬(りようけい・森もり、藩絵師) M 4 9 3 1  
瀬吉郎(せきちろう・三円) → 資之(すけゆき・樺山かばやま、藩士/勤王) B 2 3 0 1  
石枕(せきちん・小田島) → 翠鳩(すい・小田島/安孫子、書肆/詩) E 2 3 0 5  
D2472 是吉(ぜきつ) ? - ? 江前期京の俳人、1633重頼「犬子えの集」2句入、  
[雲水くもみづのそり橋なれや三日みかの月](犬子集;五1198/水に映る雲と月)  
D2474 石亭(せきてい・木内きのうち、拾井平左衛門男) 1724-1808<sup>85</sup> 母;みせ/母実家近江素封家木内家の養子、  
近江下坂下の生/本草学;京の津島恒之進如蘭門、幼時より奇石蒐集;家蔵数千種、  
考古品評会を催;愛石家として有名、「百石図」「奇石産志」「竜玉記」「鏃石伝記」「干腹録」著、  
「化石の四説」「諸国産石誌」/1773-1801「雲根志」1794「雲根志別本」、「石亭石譜」外著多数、  
[石亭(;号)の名/通称]名;重暁、通称;幾六/小繁、近江八幡商人伴能弘(伝兵衛7代)の兄、  
K2439 石亭(せきてい・藤江ふじえ、名;秀しゅう、勝乗長男) 1739-1813<sup>75</sup> 代々淡路洲本城代稲田家の銃卒、  
儒者;中道斎・仲野安雄門、1798設立の阿波藩洲本学問所の教官/儒;1827加藤景範入門、  
俳人、宝暦1751-64頃「俳諧矛の流」編、  
[石亭(;号)の字/通称]字;子文、通称;斧助  
K2440 石亭(せきてい・入江いりえ、小山信房男) 1766-1839<sup>74</sup> 大阪の生/入江昌喜の養嗣子、  
小山儀ただし(伯鳳)の弟、国学者/能書家/歌人、古書画の筆跡鑑定家、篠崎小竹と交流、  
「韻譜帖」編、  
[石亭(;号)の名/字/通称/法号]名;寿喜ひさよし、字;季鶴、通称;五郎兵衛/清蔵、法号;長敬  
K2441 石鼎(せきてい・末広すえひろ) ? - ? 江後期伊予宇和島の俳人、  
篆刻;大阪の蝸堂石鹿道人門、1843(天保14)「藪つはきしう」編、  
[石鼎(;号)の通称/別号]通称;伊作、別号;安間窟  
石鼎(せきてい・田中) → 年嵐(としたね・田中たなか、商家/国学者) V 3 1 4 9  
石亭(せきてい・竹本) → 正興(まさおき・竹本たけもと、幕臣/絵師) Q 4 0 8 1  
関亭(せきてい) → 野洲良(安良やすら・関岡せきおか/榛原/梅原、能楽装束/歌学) D 4 5 6 3  
碩鼎(せきてい・;法諱) → 湖心(こしん;道号・碩鼎;法諱、臨濟僧) M 1 9 8 2  
碩亭(せきてい・十時) → 梅厓(ばいがい・十時とき、儒者/書画) 3 6 8 2  
K2442 石天(せきてん;道号・童麟どうりん;法諱)?-1825 肥前の曹洞僧;万仞道坦の侍者、  
美濃大垣全昌寺/長門訂心寺/伊予法竜寺/長門功山寺などに住、肥前に帰住し隠遁、  
「永溪山開堂語録」著、「三休老人生死辨」編  
石天(せきてん;法諱) → 補準(ほじゆん;道号・石天、曹洞僧) E 3 9 2 6  
石巔(せきてん・柴野/柴) → 栗山(りつざん・柴野、幕府儒官/異学の禁) 4 9 0 3  
石巔(石巔せきてん・西山) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0  
G2494 碩田(せきてん) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」7句入  
K2443 石田(せきてん・村上むらかみ、名;駘/豊章)?-? 江後期大坂油町三丁目の篆刻家、  
1772「集古印篆」著/97「近江名所図会」編/1800「算藪かな付」03「播磨名所巡覧図会」著、  
[石田(;号)の字/通称/別号]字;白鞭/自鞭、通称;九兵衛、別号;徴古堂  
D2475 石田(せきてん・秦はた) ? - ? 地誌;1804「播州名所巡覧図絵」著  
D2476 夕田(せきてん・千原ちばら、幸右衛門鎮知男) 1830-94<sup>65</sup> 豊後日田郡豆田町の豪商丸屋の生、  
儒;1843(14歳)広瀬淡窓の咸宜園かんぎえんに入門/詩人、画;木下逸雲門/蘭の画に長ず、能書、  
1846淡窓「懐旧樓筆記」評、1864弟種二郎花溪に家督を譲渡/64慈眼寺奥の古城に隠棲、  
古文書蒐集/書家として活動/一時牧場経営、

[夕田(；号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;幸治郎、名;鎮誠しげあき、字;明卿、

通称;太郎兵衛/藤右衛門、別号;真古人/放浪子/自適齋/自墮落散人、法号;釈夕田

碩田(せきでん・後藤) → 眞守(まもり・後藤/枚岡、国学者/神職) K 4 0 1 3

石顛道人(せきてんどうじん) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0

石田農夫(せきでんのうふ) → 香村(こうそん・遠藤・猪狩、絵師/詩) K 1 9 4 1

石頭(せきとう;字) → 慈観(じかん;法諱、天台僧) P 2 1 9 3

石東(せきとう・石垣) → 東平(はるひら・石垣いしがき、藩士/画/歌) J 3 6 7 0

夕塘(せきとう・加藤) → 清孝(きよたか・加藤かとう、医者/歌人) T 1 6 8 7

D2477 夕道(せきとう・長谷川はせがわ、通称;孫助)?-1723(享保8) 尾張名古屋本町の書肆風月堂2世、  
俳人・芭蕉門、1687(貞享4)芭蕉が訪問;店頭で芭蕉[雪見にころぶ]の句の吟、  
1697荷兮「橋守」入、89「あら野」1句入、没後1775暁台「熱田三謠僊」入集、  
[傘からかさに齒朶じかゝりけりえ方はうだな](あら野;二/新年吉兆方角に釣る注連の神棚)

D2478 石堂(せきどう) ? - ? 江後期俳人;梅室門、

1851梅室の代理で7世花の本宗匠免許受取に二条家に赴く

碩堂(せきどう;字) → 日覚(にちがく;法諱・受妙院、日蓮僧) B 3 3 0 4

赤構園(せきとうえん) → 斐之(あやゆき・吉島よしじま、商家/国学) I 1 0 5 6

赤構舎(せきとうしゃ) → 安純(やすずみ・牧野まさの、医者/神職) G 4 5 6 2

石洞陳人(せきどうちんじん) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書) D 1 2 7 3

積徳(せきとく・中井) → 履軒(りけん・中井なかい、漢学者) 4 9 0 1

積徳(せきとく・関島) → 良載(よしり・関島せきじま、医者/歌人) N 4 7 5 7

積徳園(せきとくえん) → 竹斎(ちくさい・竹川、商家/殖産家) D 2 8 0 6

積徳堂(せきとくどう) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2

愨内(せきない・内田) → 久苞(ひさび・内田うちだ、歌人) I 3 7 6 2

石南(せきなん・楡村/河野) → 鉄兜(てつとう・河野、医/儒/詩歌) C 3 0 5 7

石楠斎(せきなんさい、石楠亭) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3

昔男精舎(せきなんじょうしゃ) → 可為(よしため・宇喜多/藤原・豊臣、絵師) L 4 7 7 1

石入(せきにゅう・池田) → 輝澄(てるずみ・池田いけだ、藩主/日記) C 3 0 7 7

G2406 関野(せきの) ? - ? 江中期伊勢亀山城主女房/老女、

歌;石野広通「霞関集」入、

[春来ぬと待たるる花のそれならで峰につれなく残る白雪](霞関;春46/残雪)

関井(せきのい) → 烏頂(うちよう・井口いぐち、商家/俳人) D 1 2 1 4

石坡(せきは・巢見) → 来山(らいざん・巢見すみ、絵師) 4 8 4 7

D2479 石馬(せきば) ? - ? 俳人;1778白馬秘蔵「三冊子」を借用書写;石馬本

石坡道人(せきはどうじん) → 水石(すいせき・壬生みぶ、与力/篆刻家) 2 3 7 6

錫範(せきはん→しゃくはん・中西) → 嗣興(つぐおき・中西/荒木田/幸福、神職/本草) 2 9 6 8

D2480 夕扉(せきひ・船橋ふなばし) ? - ? 江前期大阪の俳人;小西来山門/宗因門、

妻も俳人、1681来山編「大坂八五十韻おおさかはちごじゅういん」入(8人で五十韻;

夕扉と来山・快用・江水・和尹・白水・如要・正察)、

1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[年忘れ噂もつらしひろはれ子](難波色紙;44/一家眷属や友人達との年忘れ会、

席上忘れ難いおのが素性を噂されつらい)

石美眞志(せきびしんし) → 龜山(きざん・五車亭、幕臣/狂歌) K 1 6 6 0

D2491 夕扉妻(せきひのつま・船橋ふなばし)?- ? 江前期大阪の俳人;宗因門、

1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、

[君が代に縫い上げやせん糸はじめ](難波色紙;76/縫上;子の成長を考え予め長く仕立てる、

正月の裁縫始めに子の成長を願い着物の桁や丈を長く仕立てる)

石瓢子(せきひょうし・橋村) → 正環(まさあきら・橋村はむら/中山、和漢学) R 4 0 6 6

2411 碩布(せきふ・川村かわむら、名;文久、金左衛門宗孝の長男)1750-1843長寿94歳 母;其水、妹;几秋、  
代々武州入間郡毛呂郷馬場村の名主/質屋・酒造業の豪商、俳人:1781(天明元)頃白雄門、  
春秋庵4世継嗣、1793「しら雄く集」編、[春秋稿]に家族で入集;1824「春秋稿八篇」編、

「布鬼圃」「碩布句集」著/「故人名家六百題」「俳諧八翁発句集」編、梅の俳画を嗜む、  
逸淵・太魯・青荷・有柳の師、碩布追善集;「碩布三回忌」「霜花集」「碩布発句集」、  
[碩布(;)号]の通称/別号]通称;金助/金左衛門/七郎兵衛/七郎平、

別号:磊庭らいてい/六氣所/六氣庵/樞寮きよりゅう/蓬首/梅翁/春秋庵4世/河庵/可庵

- K2444 **錫夫**(せきぶ;字・山本やまもと、名;篤慶、亡羊2男)1809-6456 京医者/本草家;兄夭折のため家督継嗣、  
天文・数学にも精通、「本草紀聞」「本草通串図証」「広紀元録」「採葉記」「過庭紀聞」「蘭品」、  
「大和本草記聞」「山本篤慶採葉記」「用葉須知積義」「榕室抄叢」「六十六州産物録」著、  
「錫夫抄録」、「物産叢書」編、1850「竹米行」(弟達と共著)、51「雑字大全」54「回禄記数」著、  
1854「嘉永甲寅六月地震記」58「野山草木紀聞」外著多数、復一またがず(鴻堂)の父、  
[錫夫(字)の別字/通称/号]初字;仲錫、通称;沈三郎しんざぶろう、号;榕室ようしつ、  
秀夫しゅうふ・章夫しょうふ・農夫のうふの兄

石夫(せきふ・青根) → 九江(きゅうこう・青根あおね、絵師) M 1 6 5 4

碩夫(せきふ・鳥山) → 芝軒(しげん・鳥山とりやま、書家/詩人) D 2 1 4 5

赤膚(せきふ・渡辺) → 彦九郎(ひくろう・渡辺わたなべ/源、藩士/儒/勤王) M 3 7 3 7

- E2406 **夕風**(せきふう・多古たこ) ? - ? 江前期上方の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
[脇差の縁ふちは瀬となる飛鳥川](物種集/縁;脇刺の柄の鏝際に嵌める金具、  
前句;言葉約束替る赤銅あかがね/金具-赤銅/替る-瀬となる飛鳥川)

- K2445 **夕楓**(せきふう) ? - ? 尾張の俳人;1689「あら野」1句入、  
[桜咲く里を眠ねぶりに通りけり](あら野;七/乗物で居眠り;後で聞き残念)

汐風(せきふう・海辺/山東) → 鶏告(けいこう・山東、戯作/狂歌/画) E 1 8 5 3

- D2481 **石文**(せきぶん) ? - ? 連歌:1508?肖柏「池田千句」連衆

碩分(せきぶん;法諱) → 別伝(べつでん;道号・宗分、曹洞のち臨濟僧) B 2 7 0 1

関平(せきへい・井上) → 篤好(あつよし・井上いのうえ、神道家) E 1 0 9 5

石平道人(せきへいどうじん) → 正三(しょうさん・鈴木/穂積、禅僧/仮名草子) S 2 2 4 7

石癖頑夫(せきへきがんぶ) → 季頭(すえあき・真崎まさき、藩士/記録収集) F 2 3 3 4

石別子(せきべつし) → 月尋(げつじん・藤岡ふじおか、俳/歌/浮世草子) B 1 8 0 8

- D2482 **夕歩**(せきほ) ? - ? 大和土佐の俳人:「やぶれはゝき」入、  
1690順水「破曉集」/言水「新撰都曲みやこぶり」入/91不角「二葉之松」2句入  
[仲良きは花たちばなの隣哉](新撰都曲;下381)

- D2483 **石浦**(せきほ・中島なかじま/中浦、名;僊/恒久/尚)?-? 江後期加賀石川郡宮腰の医者、  
儒;金沢藩儒村瀬克忠門/1781頃金沢藩執政前田孝友の儒臣、1792藩校明倫堂助教、  
「儒者談義」「人間世教問答」「論語集正」/1788「君道大学要解」91「大学講説」「中庸講説」、  
1809「格心論」、「論語追正説」著、  
[石浦(;)号]の字/通称]字;子成/子羽/士久、通称;半助

- K2446 **石圃**(せきほ・岡野おかの/修姓;岡、名;亨/享とおる)?-? 江後期文政1818-30頃伊勢久居の絵師、  
京の烏丸夷川上町住、清人李漁の[芥子園画伝]によって粉本の布置を初めて実施、  
「石圃山人印譜」「石圃百名山譜」「石圃娛観集」「石圃画訣」、  
[石圃(;)号]の字/別号]字;元震、別号;雲津うんしん

石甫(せきほ・萩野/孔平) → 復堂(ふくどう・萩野、藩士/医/儒) B 3 8 5 9

石補(せきほ・岡田) → 閑林(かんりん・岡田おかだ、絵師) R 1 5 8 3

碩甫(せきほ・鈴木) → 清右衛門(せいえもん・鈴木/穂積、藩士/兵学者) H 2 4 4 4

- D2484 **石峰**(せきほう・橋たちばな、名;道一)?-? 江後期絵師、1788「唐詩選画本」初篇書画

- K2447 **石峰**(石峰せきほう) ? - ? 江戸後期大阪絵師;樹下石上門?、歌麿風美人画、  
1808「三遠瓶花之図」画、  
読本の挿絵の石田石峰(玉山)と同一? → 玉山(ぎょくざん・石田、絵師) D 1 6 0 1

- K2448 **石峰**(せきほう・恩田おんだ、名;方)?-? 江戸後期三河吉田の絵師;書画に長ず、  
1845「新書画展観録」編、  
[石峰(;)号]の字/通称]字;大矩、通称;吉作

- K2449 **赤峰**(せきほう・脇田わきた/修姓;田)?-1808 江戸神田明神下の書家;子弟教育、  
1790「赤峯書則」著/96「草書法要」編、「赤峰詩稿」「学書一隅」「掃素館書則」著、



「赤峰草書千字文」「赤峰先生千字文」「明月帖」「浩々帖」書、  
[赤峰(；号)の字/通称]字；和卿、通称；郷右衛門

- K2450 **赤報**(せきほう・御牧みまき、名；篤好/通称；重次郎、直斎男)1773-1833<sup>61</sup> 大阪の儒者；父門；闇齋学、1819(文政2)日向佐土原藩の儒学師範に登用、藩校学習館創設に尽力；初代教主、剣・槍・拳術など武芸に長ず、「近思録講義」著、健次郎の養父
- 石峰(せきほう・石田) → 玉山(ぎょくざん・石田いしだ、絵師) D 1 6 0 1  
積峰(せきほう；字) → 慶善(けいぜん：法諱、積峰、浄土僧) G 1 8 2 5  
尺木氏(せきぼくし) → 古堂(こどう・松本、儒者/勤王) D 1 9 4 3  
尺木堂(せきぼくどう) → 公石(こうせき・尺木堂、俳人) B 1 9 5 3  
石浦堂(せきぼどう) → 遊機(ゆうき・一如軒、俳人) B 4 6 1 1
- D2485 **石民**(せきみん) ? - ? 近江膳所の俳人；  
1704、2、24自宅内で藤丈草が没(1704魯九「幻之庵」筆)
- E2404 **夕夢**(せきむ) ? - ? 江前期上方の俳人  
1673西鶴「生玉万句」第九衛ちどり発句入、  
[鋪嶋(しま)や生玉の池友衛(ともちどり)](衛発句/鋪嶋；敷島)
- D2486 **石文**(せきもん) ? - ? 連歌、1519「池田千句」入
- D2487 **石門**(せきもん・桜井さくらい、名；茁さつ、東門男)1799-1850<sup>52</sup> 但馬出石藩儒；父門(；家学)、石泉の兄、赤穂の赤松滄洲・襄南門、藩校弘道館助教/1826政争で父塾居のため解職、藩主支族仙石弥三郎家の財政再建に派遣され功績、帰藩後勘定奉行；藩内政争のため福井藩に仕官/出石藩の政変で帰藩；学館教授役、勘定奉行頭取兼任、督学として藩の学制を総掌；子弟教育、「石語」「石門集」「石門漫筆」「石門一夜百首」、「赤穂土産」「大塩騒動記」「但馬人物紀略」「談苑」「毛詩学断」「割鶏小録」「恢復秘策」外著多、[石門(；号)の字/通称/諡号]字；伯蘭、通称；一太郎/(隠居号)；一棹(いっとう)、諡号；憲昭
- 石門(せきもん；道号) → 海龍(かいりゅう；法諱・石門、黄檗僧) J 1 5 1 2  
石門(せきもん・柳園) → 柳園石門(りゅうえんせきもん、狂歌作者) D 4 9 0 5  
石門(せきもん・柏淵) → 有儀(ありのり・柏淵(かしづち)/加藤、武芸家) F 1 0 6 1  
石門(せきもん・中西) → 融(とのおる・中西(なか)にし、藩士/書家) I 3 1 7 9  
石門(せきもん・丸山) → 蔚明(もちあき・丸山、藩士/文運興隆) B 4 4 2 7  
関屋巢兆(せきやそうちよう) → 巢兆(そうちよう・建部(たけべ)、俳人) 2 5 1 7
- D2488 **跡有**(せきゆう) ? - ? 江前期俳人、1677高政「後集総合千百韵」入
- D2489 **夕幽**(せきゆう) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」2句入、  
[駕籠(かご)はあれど散らぬ花踏む月夜哉](蓮実；184/落花のごとき月光を踏んで歩く)
- D2490 **尺有**(せきゆう・せきう) ? - ? 俳人；雑俳、  
1703かざり藁・千枚分銅・蓬萊山・-18万石船などに入
- K2451 **石友**(せきゆう) ? - ? 江中期俳人；春夜楼連、1776几董「続明烏」3句入、  
[窓の月恋する猫の影法師](続明烏；148/窓の障子に移る雄猫の影：雌猫は家の内?)
- 石有(せきゆう・中野) → 宗知(むねとも・中野(なか)の/高木、大庄屋/歌人) E 4 2 0 9
- G2491 **是急**(せきゆう・山本) ? - ? 長州萩俳人；重頼門、1664「佐夜中山集」入、  
1670元順「寛伍集」入、1666狂歌；「古今夷曲集」2首入
- 是久(せきゆう・坂上) → 是久(これひさ・坂上(さか)がみ、儒者) O 1 9 7 8  
石融法印(せきゆうほういん) → 景忠(かげただ・佐久間、兵法家) K 1 5 9 7
- D2492 **昔陽**(せきよう・古屋ふるや、名；鬲かく/れき、安親男)1734-1806<sup>73</sup> 肥後熊本の儒者；秋山玉山門/徂徠学、江戸で徂徠学(古注疏)を教授/1790会津藩に出仕/98兄愛実斎(あいじつさい)の嗣；熊本藩儒、「古教法解」「古学変考」「詩世本古義」「詩説」「紫陽詩文稿」「紫陽漫筆」「紫陽雑録」、[昔陽(；号)の字/通称/別号]字；公款(こうかん)、通称；十二郎(じゅうじろう)/重次郎、別号；紫陽/紫源/紫溟/紫溟陳人、法号；菁巖院、雅望・与清の師
- D2493 **石陽**(せきよう・野田(の)だ、名；長裕/孝彝)1776-1827<sup>52</sup> 伊予松山藩士；大小姓、儒者；徂徠学を信奉、寛政異学の禁にも信念を曲げず著作に専念、「五経纂註」「伊予古蹟志」「学庸纂注」、「孔伝志略」「学則纂註」「学則集解」「学則附録」「儀礼纂註」「周礼纂註」「弁名附説」外著多数、[石陽(；号)の字/通称/別号]字；梁穎(りょうえい)/叔友、通称；吉右衛門/宇太郎、別号；靈星閣

- 石要(せきよう;画号) → 歌麿(うたまる・喜多川、絵師) 1 2 7 0  
 石羊(せきよう・横井) → 鉄叟(てつそう・横井、藩士/国事) C 3 0 5 5  
 世恭(せきよう・江田) → 世恭(せいきよう・ながやす・江田、国学/歌) H 2 4 9 0  
 世教(せきよう・斎藤) → 鑿江(らんこう・斎藤さいとう、商家/儒者) C 4 8 0 5  
 02441 是教(せきよう・初瀬はつせ) ? - 1876 出羽(羽後)由利郡の国学者、  
 [是教(;名?)の号]竹林/月霽げつせい  
 是境(せきよう;字) → 日称(にっしょう;法諱・観道院、日蓮僧) E 3 3 2 8  
 是教(せきよう;法名) → 継業(つぐなり・小亀こがめ、国学者) F 2 9 6 7  
 夕陽庵(せきようあん・道寸) → 以春(いしゅん・八丈、連歌/俳人) C 1 1 3 0  
 夕陽庵(せきようあん) → 水月(すいげつ;号、僧/歌人) E 2 3 4 1  
 夕陽観(せきようかん) → 角上(かくじょう、三上、僧/俳人) B 1 5 5 9  
 夕陽亭(せきようてい、夕陽楼) → 文兆(ぶんちよう・岩下、俳人) G 3 8 2 1  
 石鷹亭(せきようてい) → 春近(はるちか・初川はつかわ、商家/国学) K 3 6 6 2  
 D2494 石瀬(せきらい・草野くさの、名;正) ?-1861 代々肥後宇土藩士、儒;熊本藩校教授辛島塩井門、  
 経史を修学、江戸昌平黌で研鑽/佐藤一斎門、帰藩;藩校温知館教授/学事の振興に尽力、  
 晩年;江戸で諸藩の学士と易伝を講習/拳法・撃剣を嗜む、  
 「四書証義」「桂源遺事」「石瀬漫録」著、  
 [石瀬(;号)の字/通称]字;子範、通称;団助  
 H2495 石蘭(せきらん・石中庵) ? - 1805 相模小田原の生/駿河沼津藩士;沼津移住、  
 俳人;六華庵乙児門、1789頃沼津藩士を致仕、近江義仲寺住;七世無名庵主沂風のもと剃髪、  
 俳;蝶夢門;1789-90「しぐれ会」の句集編集上梓に協力、沂風に同行し九州行脚;  
 筑前芦屋に結庵、正風俳諧の復興に尽力、1795-97「梅の会」編、  
 没後門弟松原一萍のより追善集刊、  
 [石蘭(;号)の通称/別号]通称;陶すえ秀宇ひでたか(;九州移住後)、別号;石中庵/一萍、  
 法号;石中庵秀宇石蘭居士  
 石蘭(せきらん;法諱) → 香外(こうがい;道号・石蘭、曹洞僧) H 1 9 8 7  
 石巒(せきらん) → 寒翠(かんすい・稲垣いながき、儒者) R 1 5 1 3  
 石狸子(せきりし) → 通識(みちさと・三木みき、郷土史家) B 4 1 5 6  
 D2495 石流(せきりゅう・若林わかばやし) ?- ? 京西六条魚店の俳人、1689言水「前後園」入、  
 1690言水「新撰都曲みやこぶり」4句入、  
 [陵みささぎの梅かぐ幣ぬさの使かな](都曲;344/幣の使=荷前のさきの使/御陵の梅香を嗅ぐ)  
 K2452 夕流(せきりゅう・三橋みつはし、名;弘増) 1684-1767<sup>84</sup> 常陸水戸藩士/1697(元禄10)進士、1751致仕、  
 「雨夜伽」「小里巡」/1756「田間復讐記事」著、  
 [夕流(;号)の通称] 半六/平八  
 D2496 尺龍(せきりゅう・吉沢よしざわ、名;好謙たかあき、鍛冶職彦右衛門男) 1710-77<sup>68</sup> 信州佐久岩村田の人、  
 母方の祖父吉沢金右衛門の養子;金融業を継承したが学問を好み寺子屋を開く、  
 江戸で国学;加藤宇万伎門/俳諧;心祇・涼袋門、帰郷後;郷土史研究/俚語の蒐集・考証、  
 雑俳点者/俳諧社中を結社、1737「うつぼふね」、42「四鄰譚藪」44「信陽雑誌」54「古飛塚」編、  
 1760「風俗陀羅尼」、73「信濃地名考」「春興つき夜の花」/77「もとかしは」、「片歌かもかね」  
 [尺龍(;号)の字/通称/別号]字;恭之、通称;半五郎/清右衛門、  
 別号;鶏山/鶏籠山人/水篤庵すいあん/凌雲堂/郡山/卯花窓/雲蔵居  
 石榴園(せきりゅうえん・ざくろえん) → 琵琶彦(びわひこ・便々館、加藤保右、商人/狂歌) 3 7 3 1  
 石竜軒(せきりゅうけん) → 高福(たかよし・三井、商家;財閥の礎) N 2 6 7 7  
 K2453 石龍子(赤竜子せきりゅうし・逸見、名;相繫/相明) ?-1808or1812? 撰津池田の相法家:観相学、  
 江戸芝三島町住、法眼、相法を伝授、1778「相法天中卷神心論」校訂、  
 1798「太上感応篇倭註」著/1806「神相全編正義」注、  
 [石龍子(;号)の字/別号]字;泊節、別号;松斎  
 D2497 石梁(せきりょう・岡島おかじま・修姓;岳、河野四郎兵衛直次男) 1666-1709<sup>44</sup> 加賀金沢儒者;木下順庵門、  
 經術を修学、1696帰郷;加賀金沢藩儒、詩賦に長ず、書画を嗜む、「石梁詩集」著、  
 [石梁(;号)の名/字/通称]名;達、字;仲通、通称;忠四郎

2417 **石梁**(せきりょう・樺島かばしま/修姓;樺、三右衛門4男)1754-182774 筑後久留米藩士:侍読、儒;宮原南陸門、1784江戸で細井平洲門/折衷学を主唱、藩校明善堂教授/詩文に長ず、歌;白蓉軒桂谿門、柴野栗山・古賀精里・菅茶山・頼春水・高山彦九郎と交流、孝継の父、1782「遊肥唱和舂」、「東征日記」著/1816「石梁遊草」著、17「平洲先生尺牘」編、1818「石梁戊寅西帰日記」/18・25「石梁文集」、1826「久留米志」、「赤松系譜」「関左草」著、「雨行記」「東山草」「読思録」「攬眺余草」「雑録」「困米法」「壬申春の記」「伯夷伝国字解」著、「往来芝」「痴人夢話」「雨夜閑談」外著多、1827(文政10)筑後川の撰文「三堰碑」が絶筆、[石梁(;号)の名/字/通称/別号]名;公礼きみひろ、字;世儀、通称;勇吉/勇七、別号;石梁山/万年

K2454 **赤陵**(せきりょう・樋口ひぐち、名;質)?-1878 越後糸魚川藩儒・経史に通ず/詩文に長ず、1869(明治2)藩校明道館創設に際し教授;藩学の礎に尽力/公議人を務む、「葵峻詩草」「赤陵文稿」著、[赤陵(;号)の字/通称/別号]字;伯義、通称;儀左衛門、別号;葵陵

石良(せきりょう・北村) → 恵乗(えじょう;法名、歌/連歌) T 1 3 9 4  
 石梁(せきりょう・岡島[1784-1858]) → 正義(まさよし・岡島/佐野、藩士/地歴) I 4 0 6 4  
 石梁(せきりょう・植田) → 義方(よしかた・植田/高須、商家/歌・俳) C 4 7 6 9  
 石漁(せきりょう・黒川) → 通侃(みちきよ・黒川くろかわ、庄屋/国学) J 4 1 0 1  
 夕蓼(せきりょう) → 一蝶(いちぢょう・英はなぶさ、絵師) C 1 1 0 8  
 石梁山(せきりょうざん) → 石梁(せきりょう・樺島かばしま/樺、藩儒/詩) 2 4 1 7  
 石林(せきりん・石川) → 信栄(のぶひで・石川いしかわ、国学者) H 3 5 3 4  
 石林(せきりん) → 円玖(円久えんきゅう・竹田、僧/連歌人) E 1 3 5 5  
 石楼(せきろう・鎌田) → 景岡(かげおか・鎌田かまた、藩士/国学) U 1 5 3 4  
 石鹿(せきろく・中川) → 世量(せりょう・中川なかがわ、医者) J 2 4 8 3  
 世鈞(せきん・後藤) → 芝山(しざん・後藤ごとう、藩儒/詩人) 2 1 2 0  
 是琴(せきん・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師) H 3 1 1 1

K2455 **是空**(ぜくう;法諱) 1671 - 172858 京の真宗大谷派西林寺住職、初期学寮の講者、1701十疑論・02正信偈私記・往生要集など講ず、「正信偈私記補闕鈔」著

K2456 **是空**(ぜくう・森崎もりさき) ? - 1878 尾張藩広敷詰の官吏;中年に致仕、尾張熱田で書法を児童に教育、俳人;小沢さゝを門;のち宗匠、「巖尾集」「古帷子」著、[是空(;号)の通称/別号]通称;幸左衛門、

別号;梅谷/梅谷庵/古児/巴仙/雀の宿主/蘇生坊、法号;是空居士  
 是空(ぜくう;法名) → 氏成(うじなり・水無瀬、廷臣/歌人) 1 2 4 5  
 是空(ぜくう;号) → 回隆(かいりゅう;法諱・是空、浄土宗西山派僧) J 1 5 1 1  
 是空道人(ぜくうどうじん) → 晁斎(ぎょうさい・河鍋かわなべ、絵師) N 1 6 8 5  
 世勲(せくん・佐々木/那波) → 網川(もうせん・那波なば/佐々木、儒者) I 4 4 6 0  
 世敬(せけい・神吉) → 東郭(とうかく・神吉かんき、藩士/儒・医者) C 3 1 1 4  
 世経(せけい・宮原) → 桑州(そうしゅう・宮原、藩儒/兵法/説話集) H 2 5 8 2  
 世馨(せけい・細井) → 平洲(へいしゅう・細井、農家/儒者/詩) 2 7 0 2

D2498 **是計**(せけい) ? - ? 大阪の俳人;之道門?、1690之道「あめ子」6句入、[野原哉しばし名に呼ぶ花薄はなすすき](あめ子;197追善/花薄という名のあなたを偲ぶ)

是経(せけい・堀家) → 是経(これつね・堀家ほりけ、神職/国学) R 1 9 2 8  
 世傑(せけつ・林/新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2  
 世憲(せけん・浜田) → 杏堂(きょうどう・浜田/名和、医者/絵師) D 1 6 4 5  
 世謙(せけん・赤城) → 彩霞(さいか・赤城あかぎ、儒者) G 2 0 5 6  
 世彦(せげん;字・白石) → 長忠(ながただ・白石、和算家) E 3 2 1 5  
 世元(せげん・田中/佐々木) → 琴台(きんだい・佐々木、漢学/詩人) E 1 6 2 3  
 是顕(せけん・堀江) → 顕斎(けんさい・堀江、名主/地誌) I 1 8 9 9  
 世祐(せこ・松前/蠣崎) → 波響(はきょう・蠣崎かさざき、藩家老/絵師) C 3 6 4 6  
 世興(せこう・林) → 伯英(はくえい・林はやし、儒者) C 3 6 6 3  
 世行(せこう・芳野) → 桜陰(おういん・芳野よしの、儒者) C 1 4 0 6

- 世弘(せこう・塩谷) → 宕陰(とういん・塩谷しおのや、儒官/詩人) 3 1 0 3  
 世孝(せこう・鈴木) → 星海(せいかい・鈴木、天文/易学家) H 2 4 6 9  
 世衡(せこう・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井ふじい、医/詩文) K 2 8 4 2  
 世衡(せこう・安田/山県) → 璣(たまき・山県、儒者) S 2 6 2 3  
 世綱(せこう・今城) → 峴山(けんざん・今城いまき、儒者) E 1 8 8 7  
 世璜(せこう・尾池) → 松湾(しょうわん・尾池おひけ、藩医/儒/詩) M 2 2 1 4
- K2457 是幸(せこう) ? - ? 俳人;1689「あら野」1句入、  
 [はつ雪に戸明けぬ留守の庵かな](あら野;一/初雪を共に楽しむために訪れたのに残念)  
 是香(せこう・田中) → 是香(よしか・田中たなか、国学/歌) K 4 7 4 6  
 是香(せこう・六人部) → 是香(よしか・六人部むとべ、国学・神道) 4 7 0 4  
 是光(せこう・曲直瀬) → 是盛(よしもり・曲直瀬まなせ/和氣/六人部、是香男/医/勤王) H 4 7 7 1  
 是広(せこう・佐伯) → 高広(たかひろ・国分、和算) N 2 6 1 0  
 是好(せこう・望月) → 木筋(ぼくせつ/もくせつ・望月、医者/俳人) D 3 9 5 7  
 是好(せこう) → 三津五郎(4世みつごろう・坂東、歌舞伎役者) D 4 1 4 0  
 是綱(せこう・菅原) → 是綱(これつな・菅原、廷臣/漢学/詩人) O 1 9 5 3  
 是好斎(せこうさい) → 知亮(ともすけ・茂木もてぎ、藩士/歌/俳人) P 3 1 6 0  
 世克(せこく・宇野/細井) → 中台(ちゅうだい・細井/宇野、儒者) G 2 8 6 1  
 是斎(せさい) → 兼如(けんよ・猪苗代いなわしろ、連歌師) C 1 8 8 7  
 是斎(せさい・上田) → 宗箇(そうこ・上田うえだ、家老/茶人) H 2 5 2 0  
 瀬左衛門(せざえもん・落合) → 重郷(しげさと・落合、剣術家/郷土史家) C 2 1 2 1
- G2458 瀬崎(せさき;女房名) ? - ? 江中期;松平加賀宰相家(前田家)の女房、  
 1798刊石野広通「霞関集」入、  
 [中垣を吹きこす風に誘われてこなたの軒も匂ふたち花](霞関;夏267/隣家盧橘)  
 世續(せさん・三浦) → 乾斎(けんさい・三浦みづら、医者/詩人) I 1 8 9 1
- K2458 是山(ぜざん・石原いしはら、初名;八十八やそはち) ?-? 江後期甲斐甲府柳町の造酒業、棋士;安井仙覚門、  
 四段/将棋も堪能、1823「囲碁妙石集」編  
 是三(ぜさん・土屋) → 林紅(りんこう・土屋つちや、俳人) K 4 9 2 3  
 是三(ぜさん・玉井/遠藤) → 高環(たかわり・遠藤/玉井、藩士/測量) M 2 6 8 0  
 是三(ぜさん・清岡) → 里三郎(りさぶろう・清岡/菅原、国学者) B 4 9 1 0  
 世子(せい;敬称) → 世阿彌(ぜあみ、名;元清、能楽役/作者) 2 4 0 1  
 是之(せい・野村) → 忍介(にんすけ/おしすけ・野村のむら/折田、藩士/軍人/詩歌) H 3 3 3 2  
 宣旨(せい) すべて → 宣旨(せんじ)  
 諲子(せし/しし・藤原) → 四条中宮(しじょうちゅうぐう) E 2 1 1 4  
 世寿(せじゅう・鈴木) → 百年(ひゃくねん・鈴木すずき、絵師) E 3 7 7 3  
 世寿(せじゅう→つぐひさ・秦) → 松洲(しょうしゅう・秦はた、藩士/儒者) J 2 2 5 4  
 世孺(せじゅう・山本) → 亡羊(ぼうやう・山本やまと、医者/本草家) C 3 9 6 5  
 世脩(せしゅう・滝) → 清壑(せいがく・滝たき、絵師) H 2 4 8 0  
 是什坊(せじゅうぼう) → 傘狂(さんきやう・大野おおの、俳人) E 2 0 2 1  
 世叔(せしゆく・矢野/広瀬) → 青邨(せいそん・広瀬/矢野、漢学者) C 2 4 5 6  
 世昌(せしやう・谷井) → 敬英(のりひで・谷井、医/儒者) F 3 5 5 7  
 世昌(せしやう・安井) → 玉洲(ぎよくしゅう・安井やすい、漢学者) P 1 6 0 7  
 世章(せしやう・鳥山) → 松岳(すうがく・鳥山とりやま、儒/詩人) 2 3 9 6
- Q2465 世仍(せじやう・つぐより?・森もり) ?-? 江前期;上方の歌人;  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]8首入、  
 [時のまにわが世の中もかはる身の遠きゆくへをいかがさだめん](林葉累塵;雑1137)
- K2459 是性(ぜしやう;法諱) ? - ? 鎌倉後期の僧;法師/地下連歌師;花下、  
 菟玖波集;1句/発句2060、  
 [春そ見る白きは滝の糸さくら](菟玖波;発句2060/地主の花下にて)
- K2460 是勝(ぜしやう・植松うえまつ/初姓;中村) 1790-1862 73 上総山辺郡真亀村の和算家、江戸の日下誠門、  
 1827「六学指南」著刊行を企画するも資金不足、1831和田寧(日下誠門弟)に入門、

「豁術起源秘卷」編、古川包教・猪野道教の師、

[是勝(；名)の字/通称/号]字；子敬、通称；勝次郎/勝蔵/栄三郎、号；五瀬ごらい

是生(ぜしやう；字) → 日出(にっしつ；法諱・一乗院、日蓮僧) E 3 3 1 0

是昌(ぜしやう・二宮) → 是昌(こゑまさ；通称・二宮にのみや、兵法家) O 1 9 8 1

是勝(ぜしやう・隅田) → 是勝(こゑかつ・隅田、宇佐見流兵法家) O 1 9 2 2

是尚(ぜしやう・山本) → 友我(ゆうが・山本やまと/狩野、絵師) 4 6 9 3

是常(ぜじやう・緒方) → 是常(こゑつね・緒方おがた、神職/国学) Q 1 9 4 6

是勝院(ぜしやういん) → 日慈(にちじ；法諱、鷲山院、日蓮僧) C 3 3 0 3

是称院贈内大臣(ぜしやういんぞうないだいじん) → 守光(もりみつ・広橋/藤原/町、贈内大臣/故実) G 4 4 6 1

是聖房(ぜしやうぼう；号) → 日蓮(にちれん；法諱、日蓮宗開祖) 3 3 0 4

世晋(せしん・揚/上野) → 弘斎(こうさい・揚あげ/上野あげ、藩士/国学) I 1 9 9 5

世仁(せじん/つぐひと) → 後宇多天皇(ごうだてんのう、歌人) B 1 9 6 5

D2499 是真(ぜしん・柴田しばた、名；順蔵、市五郎男) 1807-9185 父は宮彫師、江戸両国橋町の絵師、  
1817(文化14)古満寛哉門；蒔絵を修得/1822鈴木南嶺門；円山四条派画法修得、  
1830上京；岡本豊彦門；2年間画業修業、詩歌；頼山陽・穂井田忠友・香川景樹門、  
維新後は漆芸家第一人者として活躍；1890(明治23)帝室技芸員、  
1834「狂歌尋蹤集」画/53「狂歌戯場百首初会」「狂歌本朝二十四孝」「七夕朗詠集」画、  
1865「四季のながめ」67「俳諧歌広幡集」画、「花くらべ」「ふくへねはんの図」画、  
[是真(；号)の幼名/字/別号]幼名；亀太郎、字；儻然せんねん、  
別号；令哉/対柳居/古満、法号；弘道院

K2461 是真(ぜしん；法諱・遵教じゆんきやう；字、俗姓；鈴木) 1795-187278 陸奥(磐城)岩城郡の日蓮僧；  
岩城郡片寄村本行寺日遵門；出家、のち伊豆玉沢境修成院の日桓門、  
江戸押上の最教寺住職/伊豆伊東の妙照寺住職、歌人、「日祥家集」「山家塵」「雑書」著、  
[是真(；法諱)の別法諱/号]別法諱；日祥/桓頂、号；境徐院/智禅院/此徑[経]庵/石庵

是心(ぜしん；字) → 快存(かいぞん；法諱・是心、真言僧/歌) I 1 5 9 0

是心(ぜしん；字) → 日如(にちよ；法諱・本光院、日蓮僧) D 3 3 0 3

是心(ぜしん；字) → 日相(にっそう；法諱・久成院、日蓮僧) E 3 3 8 6

是心(ぜしん；法名) → 証賢(しょうけん；法諱・浄華坊、浄土僧) I 2 2 3 9

是心院(ぜしんいん) → 師良(もろよし・二条、関白左大臣/歌) I 4 4 1 2

是心院(ぜしんいん；号) → 雲集(うんしゅう；法諱、真宗大谷派僧) D 1 2 8 0

K2462 是心軒(初世ぜしんけん・一露、姓；能勢/溝口) 1734-178047 下総葛飾華道家、旗本の家を弟に譲渡、  
上京；中流軒宣流門、のち松月堂古流を創始；是心軒を称す、上方・尾張・伊勢・甲州を行脚、  
流派の普及に尽力/1778法眼、「生花秘伝鈔」「古流生花十三箇条」「古流生花図絵」著、  
「松月堂古流生花伝書」/1774「甲陽生花百瓶図」78「古流生花四季百瓶図」外著多数、  
[是心軒初世(；号)の名/別号]名；定体、別号；一露いちろ/丹溪/葛飾山人/松月堂是心軒

K2463 是心軒(4世・一翁[翁]いちやう、姓；柏木/本姓；源/名；憲正のりまさ) 1800-6667 近江彦根の医者、  
京住；小野門跡(真言宗善通寺派本山随心院)の侍医；法眼、  
華道；聞蛙堂荻洲(；松月堂古流2世是心軒門)門、是心軒4世を継承、  
国学・歌・歌謡も修学、「松月古流生花改生出生伝」校訂、  
[是心軒4世(；号)の通称/別号]通称；良造(；初称)/了達、  
別号；一翁いちやう/一翁いちやう/楽山/白鶴年

世瑞(せすい・佐野) → 琴壑(きんがく・佐野さの、藩士/儒者) I 1 6 9 5

Q2460 是誰(ぜすい；法諱、) ? - ? 江前期；日蓮宗僧、歌人、

1688浅井忠能[難波捨草]数首入、

[すまの海士おのが物とやながむらんしほ汲む袖になるる月影](難波捨草；658/海辺月)

俳人池田是誰これたれとは別人？

K2464 是水(ぜすい・荒木あらかき、名；維時、屋号；綿屋、山三郎浄悦男) 1657-171357 伊勢松坂の書家/絵師、  
佐々木志津磨門；大字に長ず、一時加賀金沢に住、1704「字符忘筌集」、「盤石序」「千字文」、  
「初学筆法鈔」「五体千字文」「内閣字府忘筌集諺解」著、  
[是水(；号)の字/通称/別号]字；蔵六、通称；山三郎、別号；陸沈洞/信的齋/白醉軒/道庵、

- 02454 **是誰**(ぜすい・安田やすだ、通称;対馬)1701-8584 江中期;京の鍛冶職;禁裏御用の鍛冶師、茶人;武者小路千家流3世千宗守(静斎)門、煎茶道の売茶翁(いさおう)(月海元昭)に参禅、国学・歌;武者小路実陰(1661-1738)門、高遊外・天龍寺桂州宗嫩に参禅、亀田窮楽・松木淡々と交流、1785(天明5)没
- G2497 **是水**(ぜすい・島しま、山是庵、島得器の孫)?-? 江後期;江戸本所の俳人;古得器側点者、1848沾山7世「俳諧鱗(はいかいけい)」26句入  
[うつくしい娘の供の反そりかへり](武玉川初篇/俳諧鱗213入/美人のお供の丁稚も鼻高)
- 是誰(ぜすい・是水・池田)→ 是誰(これたれ・池田、貞門俳人) E 1 9 2 9  
 是誰(ぜすい・瀬下せしも) → 是誰(これたれ・瀬下、貞門俳人) B 1 9 1 7  
 是誰(ぜすい) → 是誰(これたれ、俳人:暁台門) O 1 9 4 9  
 是誰(ぜすい・大野) → 泰珠(やすよし・大野おの、釣月/藩老/歌) F 4 5 1 7  
 是誰(ぜすい・有馬) → 守居(もりい・有馬ありま、藩家老/国学) J 4 4 1 2  
 是水(ぜすい・小原おはら) → 鉄心(てっしん・小原、藩士/儒詩/兵学) C 3 0 4 8  
 是水(ぜすい・出目) → 素久(もとひさ・出目でめ、能面師) D 4 4 9 9  
 是水(ぜすい・大條) → 道直(みちなお・大條おおた、藩士/奉行) J 4 1 5 7  
 是水叟(ぜすいそう・多仁田)→ 菊亮(きくりょう、是水叟、読本作者) K 1 6 2 8  
 是正(ぜせい・高垣) → 是正(これまさ・高垣たかがき、国学/歌人) O 1 9 8 2  
 是正(ぜせい・泉竜亭) → 是正(これまさ・泉竜亭せんりゅうてい、戯作者) P 1 9 6 6  
 是成(ぜせい・和久) → 半左衛門(はんざえもん・和久わく、藩士/書家) H 3 6 7 0  
 是盛(ぜせい・曲直瀬) → 是盛(よしもり・曲直瀬まなせ/和氣/六人部、医/勤王) H 4 7 7 1  
 是姓斎(ぜせいさい) → 貫魚(つらな・守住もりずみ/庄野、藩絵師) E 2 9 4 2  
 世碩(せせき・山田) → 静里(せいり・山田やまだ、商家/儒/歌) J 2 4 7 6
- I2452 **是々堂**(ぜぜどう・沢井さわい)? - ? 江後期遠江浜松の俳人、1809「かたみのうきす」編、  
[是々堂(;号)の通称/別号]通称;佐助、別号;知白
- 膳所烈士(ぜぜれっし) → 言足(のぶたり・阿閉あべ)を参照 H 3 5 0 4  
 是善(ぜぜん・菅原) → 是善(これよし・菅原すがわら、廷臣/漢学者) E 1 9 5 7  
 瀬蔵(せぞう・島川) → 成一(なりかず・島川しまかわ、国学/神職) N 3 2 3 3  
 是則(ぜそく・井上/小林)→ 蒲溪(ほけい・小林/源/井上、医者) E 3 9 1 1  
 世尊(せそん・河田/溪) → 百年(ひゃくねん・溪たに/河田、儒者/兵学) E 3 7 7 2  
 世尊寺阿闍梨(せそんじのあじり)→ 仁俊(にんしゅん;法諱、天台僧) G 3 3 4 6  
 世尊寺行能女(せそんじゆきよしのむすめ)→ 行能女(ゆきよしのむすめ・世尊寺、歌) F 4 6 9 8  
 是村(ぜそん・町口) → 是村(これむら・町口/坂上、廷臣/明法家) O 1 9 9 0  
 是大(ぜだい・市川) → 叶(かのう・市川いちかわ、考証家) P 1 5 1 4  
 世代軒(せだいけん) → 一鳳軒(いっぽうけん・西沢、歌舞伎作者) 1 1 2 6  
 世達(せたつ・谷口) → 月窓(げつそう・谷口/修姓;谷、絵師) H 1 8 1 8  
 世達(せたつ・関) → 思亮(しりょう・関せき、藩士/書家) D 2 2 2 2
- E2400 **是湛**(ぜたん;法諱・靈空:字、佐久間義道男)1678-176184 尾張の浄土宗西山派僧;  
伊勢大林寺で出家、桑名浄土寺に移住/1735(享保20)京の本山禅林寺54世住職、1745信行庵に退隱、  
1721「本願辨述抄」、「西山上人伝報恩鈔」、「西山伝書」、「正選曆代記」、「無量寿経略箋附録」著
- 是胆斎(ぜたんさい・工藤) → 野松(やしゅう・工藤どう、藩士/俳人) 4 5 7 0  
 是知(ぜち・牧) → 義比(よしとも・牧まき/藤原、官人/記録) F 4 7 0 2  
 是著(ぜちやく・長岡/米田)→ 是著(これあき・米田こめだ、藩士/儒/詩) O 1 9 0 5  
 世忠(せちゅう・橘) → 世忠(よただ・橘たちばな、廷臣/歌人) I 4 7 1 5  
 是中(ぜちゅう・渡) → 為興(ためおき・渡わたり、歌人) 2 7 4 9  
 是忠(ぜちゅう・菅原) → 是忠(これただ・菅原すがわら、官人/歌人) E 1 9 2 6  
 世長(せちよう・高辻) → 胤長(たねなが・高辻たかつじ、廷臣/記録) R 2 6 8 9  
 世張(せちよう・後藤) → 松陰(しょういん・後藤ごとう、儒者/詩人) F 2 2 2 0  
 世張(せちよう・小野) → 機(き・小野おの、絵師/書) T 1 6 7 1
- 02438 **節**(せつ・西村にしむら/本姓;橘、)1682-1757 京の国学者/石見浜田藩出仕、

[節(;名)の字/号]字;清定、号;菊溪

節(せつ/たかし?・今村)	→ 一鷗(いちおう・今村いまむら、医者)	G 1 1 0 8
節(せつ・人見)	→ 鶴山(かくざん・人見ひとみ、幕臣/儒詩)	B 1 5 4 9
節(せつ・青木)	→ 葵園(きえん・青木あおき、儒者)	J 1 6 7 0
節(せつ・田中)	→ 清溪(せいけい・田中たなか/田、医者/詩人)	2 4 0 7
節(せつ・奥平)	→ 正安(まさやす・奥平おくだいら、藩士/儒者)	I 4 0 0 4
節(せつ・大野)	→ 定子(さだむねこ・大野/井上/榎本、歌人)	J 2 0 8 7
節(せつ・大野)	→ 幸英(ゆきひで・大野おの、医者/国学)	G 4 6 6 8
節(せつ・上田)	→ 善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒)	L 2 4 8 0
節(せつ・大塚)	→ 常樹(つねき・大塚おつか/司、神職/藩士)	F 2 9 3 9
拙(せつ・一松/淡海)	→ 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者)	J 2 4 9 5
雪(せつ;一字名)	→ 実隆(さねたか・三条西、歌/古典学)	2 0 4 0

J2437 切阿(せつあ;法諱) ? - ? 南北期時宗僧;京四条金蓮寺派時衆か?、  
連歌;菟玖波集;1句入、  
[まくらにあくる山里の雲](菟玖;1230/前句;ひま見ゆるかきはうちをも隠さぬに)  
次の3人の切阿あり;いずれか不明、

①高宮切阿弥陀仏(?-1361);「浄阿上人縁起」入

②切阿弥陀仏(?-1365)

③切阿;歌人;1387(至徳4)浄阿上人(五代)奉納「高田明神百首和歌」に1首入;

[昔こそなほ忍ばるれしきたへの枕に句ふ軒の橋](高田百首;28/橋薫枕)

K2465 拙庵(せつあん・千村ちむら、名;真之)?-? 江前期江戸の医者/漢学に通ず、  
1688(元禄元)「小児養生録」97「衆方規矩備考大成」著、  
[拙庵(;号)の別号] 杏庵

K2466 雪庵(せつあん・松尾まつお、名;保世、維則男)1773-1839<sup>67</sup> 代々播州竜野藩医/1776(4歳)父死別、  
医;和田蘭溪門/痘科;池田家に入門、文化1804-18頃に竜野藩侍医、詩賦・書に長ず、  
「雪庵詩草」「古今方輟」著、  
[雪庵(;号)の字/通称/諡号]字;畏天、通称;玄長、諡号;文靖先生

E2402 節庵(せつあん・安東あんど、名;守礼、多賀権三男)1785-1835<sup>51</sup> 安東弼山(省庵五世の孫)の養嗣子、  
筑後柳川藩儒;初め養父弼山門/のち熊本藩儒高木紫溟門、1824柳川藩校伝習館教授、  
用人小姓格、「瞰蔗堂詩鈔」「安東節庵草稿」「闕里雜抄」「野詩」「野作」「崇岳伝語」外著多数、  
[節庵(;号)の字/通称]字;子和、通称;助四郎

K2467 渌庵(せつあん・木村きむら、名;雅寿、周安の長男)1791-1837<sup>47</sup> 代々備後府中医者/儒;1805菅茶山門、  
上京し畑橋洲門、頼山陽・柏木如亭・武元登々庵と交流、帰郷後医業;痘瘡流行に献身的治療、  
1831私塾学半書院開設;子弟教育/没後は弟雅宝が家業を継嗣、五弓久文の師、  
「楓窓詩文集」「楓窓詠草」「楓窓偶筆」「趨庭問余」/1829「視痘指掌図解」外著多数、  
[渌庵(;号)の字/通称/別号]字;鶴卿、通称;鶴太郎/考安、別号;楓窓、  
法号;智徳軒考安居士

K2468 節庵(せつあん・志賀しが、名;孝思)1802-1850<sup>49</sup> 紀伊和歌山の儒者;外舅の山本楽所門、  
折衷学修学、和歌山藩藩校学習館の督学、「所聞録」「論語補解辯証」著/「講習余吟」編、  
1842「和読便蒙」著/44「続講習余吟」編、  
[節庵(;号)の字/通称/別号]字;子則、通称;楠二郎、別号;南岡

E2403 節庵(せつあん・宮原みやはら、名;竜/忠竜、渡橋貞兵衛3男)1806-85<sup>80</sup> 備後尾道の儒者、詩;頼山陽門、  
江戸の昌平黌に修学、遠祖小早川隆景の臣宮原弥三郎に因み宮原を名乗る、詩・書に長ず、  
京御池車屋町に開塾、各地を行脚;弘化1844-48頃陸前仙台の斎藤竹堂家に寄寓、  
「宮原節庵書」書/「栗邨先生詩稿」著、「節庵遺稿」、  
[節庵(;号)の字/通称/別号]字;子淵/士淵、通称;謙蔵、別号;潜叟/易安/易庵/栗村/池南

K2469 節庵(せつあん・武居/武井たけい、吉田鷺湖が男)1807-? 信濃高島藩士武居家の養子、高島藩士、  
儒;菊池五山・大窪詩仏門、諸国歴遊/1832(26歳)帰郷;伯父武居見龍宅に滞在、  
のち江戸芝将監橋に住、梁川星巖・塩田随斎と交流、1842「節庵初集」、67「諏訪八勝図詩」編、  
「養浩堂詩集」「養浩堂雜集」「春秋百吟」「声画漫録」「耳目筆記」著、

[節庵(；号)の名/字/通称/別号]名；恭/享/亨、字；安卿/元卿、通称；蘭之助[輔]/精一郎、  
別号；雪庵/雪菴/養浩堂

雪庵(せつあん；道号・宗圭)→ 宗圭(そうけい；法諱・雪庵、臨濟僧) G 2 5 9 2  
雪庵(せつあん；道号) → 素潤(そじゆん；法諱・雪庵、禪僧/書家) J 2 5 8 9  
雪庵(せつあん；号) → 機外(きがい；道号・坦道；法諱、曹洞僧) 1 6 8 5  
雪庵(せつあん・衣笠) → 明親(あきちか・衣笠さねがさ、藩医/詩歌) D 1 0 5 1  
雪庵(せつあん・武居) → 節庵(せつあん・武居/吉田、藩士/詩人) K 2 4 6 9  
雪庵(節庵/拙庵せつあん・成川)→ 眞棹(まさお・成川なるかわ、医者/歌人) R 4 0 3 0  
節庵(せつあん；道号) → 良筠(りょういん；法諱・節庵；道号、曹洞僧) G 4 9 2 4  
節庵(せつあん・森田) → 節斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8  
節庵(せつあん・山本) → 致美(むねよし・山本やまと、医者) C 4 2 9 1  
拙庵(せつあん・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4  
拙菴(せつあん；号) → 諦滯(たいじゆ；法諱・明堂；字、真言僧) K 2 6 1 5  
渌庵(せつあん/ちようあん・土井)→ 聾牙(ごうが・土井どい、藩儒) E 1 9 9 0  
哲庵(せつあん→ていあん・石原)→ 哲庵(ていあん・石原/石、医者/詩人) 3 0 2 3  
節一(せついち/よいち?・小室)→ 元貞(げんてい・小室こむろ、医者/俳人) L 1 8 6 0  
雪衣堂(せついでう) → 歌城(うたき・小林おばやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6  
雪衣狂夫(せついきやうぶ) → 歌城(うたき・小林おばやし、幕臣/国学者) 1 2 6 6

K2470 節宇(せつう・亀山かめやま、名；敬佐) 1822-9978 播磨の儒者；姫路藩校好古堂に修学/のち助教、  
1850江戸昌平黌に修学；佐藤一斎門/53藩主の近侍、1855藩校好古堂教授/61大目付兼任、  
1873松原八幡神社祠官、「節宇文集」著、  
[節宇(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；美和、字；由之、通称；雲平/源五右衛門、  
別号；曳庵えいあん

K2471 節右衛門(せつえもん・茂しげ) 1733- ? 1788存 長崎阿蘭陀オランダ通詞；1744稽古通詞、  
1762小通詞末席/66小通詞並、1775-76(安永4・5) ツェンペリーと親交；  
商館長の江戸行に息子伝之進と随行/2度の年番小通詞を経て1786江戸小通詞、  
1788勤続45年の功績により息子伝之進が稽古通詞に就任、1779「和蘭本草志」訳

拙園(せつえん・山村) → 良祺(たかのり・山村、藩代官/儒/教育) M 2 6 7 8  
雪園(せつえん・土屋) → 秀世(ひでよ・土屋つちや/川上、役人/国学) K 3 7 2 0  
雪縁斎(せつえんさい) → 一好(いっこう・雪縁斎、狂歌) C 1 1 7 5  
雪燕舎(せつえんしゃ) → 雁空(がんくう・関せき、俳人) Q 1 5 2 8  
節夫(せつお・佐久間) → 華邨(かそん・佐久間さくま、儒者/詩人) M 1 5 8 6  
節夫(せつお・安井/市野)→ 天籟(てんらい・市野/安井、藩士/儒者) E 3 0 5 5  
節夫(せつお・矢部) → 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文獻調査) B 4 2 9 0  
節夫(せつお・柳田) → 正斎(しょうさい・柳田やなぎだ、書家) J 2 2 0 6  
節夫(せつお・木原) → 老谷(ろうこく・木原きはら/柴沼、儒者) 5 2 2 8

K2472 節翁(せつおう・大浦おおうら、初姓；宮川みやがわ、名；倫之) ?-1743 大浦成勝の養嗣子；対馬藩士、  
1687家督を継嗣；藩家老、88藩主に随従し江戸、久留米藩との境界・竹島帰属問題に当る、  
1740退隠、「享保日記」著、  
[節翁(；号)の通称/法号]通称；忠左衛門、法号；謙徳院

K2473 雪翁(せつおう・森もり、名；守次/常次) ?-1711 岩代会津藩士、藤田祐詮の兄、  
1710「会津孝子伝」、「雪翁漫筆」、「雪翁病談」、「会津続忠孝伝附会津続々忠孝伝」、「小平瀉」著、  
[雪翁(；号)の通称/別号]通称；与兵衛、別号；雪斎

K2474 雪翁(せつおう・関口せきぐち/修姓；関、名；世植、巴城男) 1751-183484 越後十日市の儒者、  
美作津山藩主松平康致(康哉)の招聘で津山藩儒員、晩年帰郷；書画・詩を嗜む、  
1827刊「関氏余稿」著、  
[雪翁(；号)の字/通称/法号]字；子卿、通称；完二/多仲/恒之進、法号；臨川院

K2475 節翁(せつおう・佐橋さばせ、名；佳依、左源太佳孝男) ?-? 江後期天保弘化1830-48頃江戸高田の幕臣、  
1839西丸新御番組頭、1845致仕、盆栽を愛好/和漢植物を栽培；博物家、  
富山藩主前田利保主唱の博物研究会[赭鞭会]の一員、



1835「珍卉図説」38「升麻図説」47「柿品」著、

[節翁(；号)の通称/別号]通称；兵三郎、別号；四季園

N2490 雪鶯(せつおう；法諱) ? - ? 江後期；僧/歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[我が袖に涙の雨のしぐるるは思ひの雲のはれぬなるらん](大江戸倭歌；恋1444/思恋)

雪翁(濞翁せつおう・中井) → 竹山(ちくざん・中井、儒者/詩文) 2 8 0 9  
雪翁(せつおう・天野) → 恥堂(ちどう・天野、儒者/詩) F 2 8 0 1  
雪翁(せつおう・田中) → 桐江(とうこう・田中、儒/詩人) D 3 1 7 2  
雪翁(せつおう・松平) → 治郷(はるさと・松平、藩主/茶道) G 3 6 3 8  
雪翁(せつおう・越智) → 雲夢(うんむ・越智、幕府医/儒者) E 1 2 0 6  
雪翁(せつおう・太田) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5  
雪翁(せつおう・小村) → 滋治(しげはる・小村こむら、藩士/国学者) O 2 1 4 3  
雪翁(せつおう・観月庵) → 宗葩(そうは・比喜田ひきた、歌人) L 2 5 0 9  
拙翁(せつおう) → 猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌) B 1 1 9 3  
拙翁(せつおう・齋藤) → 拙堂(せつどう・齋藤、儒者/藩学/詩歌) 2 4 2 1  
拙翁(せつおう・小石) → 元瑞(げんずい・小石こいし、医者/詩文) E 1 8 2 2  
拙翁(せつおう・小川) → 丹下(たんげ・小川おがわ、藩家老) T 2 6 3 0  
節翁(せつおう・森田) → 節斎(せつさい・森田もりた、儒者/尊攘論) 2 4 1 8  
節翁(せつおう・伊東) → 祐栄(すけひで・伊東いとう、藩士/歌人) L 2 3 3 1  
舌翁(せつおう・松平) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9  
雪屋(せつおく・小西) → 業広(なりひろ・小西こにし、国学者/歌) M 3 2 1 0  
雪屋(せつおく・幸田) → 光融(みつなが・幸田こうだ/度会、神職/国学) J 4 1 0 7  
雪屋(せつおく・佐々木) → 景欽(かげよし・佐々木ささき/香川、歌人) U 1 5 6 9  
雪屋人(せつおくじん) → 月巢(げつそう、山村、俳人) B 1 8 1 2  
雪音廬(せつおんろ) → 月守(つきもり・神田かんだ、俳人) 2 9 6 3

E2405 節窩(せつか・黒沢くろさわ、名；順) 1683-1748 66 越後村上の儒者、榊原家の世臣；儒者の講筵に陪侍、  
主君転封により姫路・越後高田に移住/高田藩史監；藩政式目改革に参画、程朱学、  
伊藤仁斎の学風に反論書を著す、家塾を開き子弟教育、「活童伝」「生活集」「辨朱陸辨」、  
「異説略辨疑問」「辨鶯湖辨」「朱陸再辨」「報讐伝聞録」「易説便蒙」「節窩作法」外著多数、  
[節窩(；号)の通称/別号]通称；六郎/弥六郎、別号；活澁(活発)童子

E2407 雪華(せつか) ? - ? 洒落本絵師；1798谷峨「傾城買筋道」「中街艶談」画

K2476 石霞(せつか・高橋たかはし/初姓和田、名；興孝) 1808-83 76 安藝竹原の人；1821古着商高橋家を継嗣、  
屋号；忠海屋/村の宿老を務める、藩に経済政策を建言/のち広島綿座頭取、1863隠居、  
隠居後も藩財政・農兵に関する建白書提出、易・書画を嗜む・医にも関心、「便農集丹方」著、  
[石霞(；号)の字/通称]字；成立、通称；平八郎/半右衛門

K2477 雪柯(せつか・松田まつだ、名；元修、元兆もとよし男/本姓；秦) 1823-81 59 伊勢度会の神官、  
儒；猪飼敬所・齋藤拙堂門、書；中西伯圭・貫名海屋門、家塾を開く、1871皇太神宮主典、  
「雪柯屑玉」「殷氏述筆法」著/1854「日光山行記」61「公家勅使見聞記」著、  
[雪柯(；号)の幼名/字/通称/別号]幼名；慶太郎、字；公静/子踐、  
通称；縫殿ぬい/左近/玖一郎/九一郎くいちろう、  
別号；澹所たんしょ/聊得軒りょうとくさい/五芝主人/巳千之斎せんしさい/鉄舟/紫芝堂/山田逸農

碩果(せつか・中井) → 碩果(石窩せきか・中井なかい、儒者) J 2 4 9 7  
碩果(せつか・樋口) → 碩果翁(せつかおう・樋口ひぐち好古、藩士/儒者) E 2 4 0 9  
拙窩(せつか・賀/田) → 玩鷗(がんおう・太田おた、儒者/詩人) G 1 5 1 4  
雪荷(せつか・吉田) → 重勝(しげかつ・吉田よしだ、弓術家) Q 2 1 8 0  
雪下庵(せつかあん) → 武然(ぶねん・望月もちづき、書家/俳人) D 3 8 6 0

E2408 石介(せつかい) ? - ? 俳人、1735「木葉漬」孟遠と共編

石介(せつかい・岡本/岡) → 稚川(ちせん、岡本/岡、藩士/儒/詩人) E 2 8 5 6  
節外(せつかい；道号) → 万貞(ばんてい；法諱・節外、曹洞僧) I 3 6 4 1  
節外(せつかい・松本) → 定良(さだよし・松本まつもと、槍術家) K 2 0 2 5  
雪崖(せつかい・黒神) → 直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学) B 3 2 6 4

絶外(ぜつがい;字) → 大我(たいが/だいが;法諱・絶外、浄土僧) B 2 6 1 0  
 雪介精舎(せつかいしょうしゃ) → 仏庵(仏菴ぶつあん・中村、書家) D 3 8 2 4  
 絶海祖船((ぜつがいそせん) → 祖船(そせん;法諱・絶海・道号、曹洞僧) K 2 5 0 1  
 絶海中津(ぜつがいちゅうしん) → 中津(ちゅうしん;法諱・絶海;道号、臨濟僧/詩) 2 8 1 7  
 雪外楼(せつがいろう) → 柳条(りゅうじょう・織田おだ、柳居門俳人) E 4 9 6 9  
 雪下園(せつかえん) → 鳴門(めいもん・井川、絵師/書家) 4 3 4 0  
 雪瓜園(せつかえん) → 耳徳(じとく・力石、俳人) F 2 1 3 1  
 雪花園(せつかえん) → 貞信(初世さだのぶ・長谷川はせがわ、絵師) F 2 0 4 3

E2409 碩果翁(せつかかう・樋口ひぐち、名;好古よしひさ/よしふる、又右衛門男) 1750-1826 77 はじめ浪人、  
 1774尾張藩勘定方並手代/尾張藩士;99地方吟味役頭取;農政に功績/大代官、  
 勘定吟味役頭取/書物奉行/1818中奥番頭26、邦古くにひさの兄、儒/詩人、国学;宣長門、  
 「張州名勝鉛槧記」「濃州名勝鉛槧記」「江州名勝鉛槧記」「濃陽徇行記」「名古屋府城志」、  
 「濃陽徇行記」「郡村徇行記」、「明律詳解」「碩果翁集」「碩果翁別集」「知足齋詩稿」著、  
 [碩果翁(碩果;字)の別字/通称/号]別字;信夫、通称;貞次郎/又兵衛、  
 号;知足齋/遅日軒/膝好古

絶学(ぜつがく;道号) → 了為(りょうい;法諱・絶学、曹洞僧) G 4 9 1 8  
 絶学(ぜつがく;号) → 妙怡(みょうい;法諱・悦叟、臨濟僧) G 4 1 1 1  
 雪花齋(せつかさい・丸山) → 閑山(かんざん・丸山まるやま、藩士/絵師) V 1 5 8 1  
 雪花亭(せつかてい) → 北洲(ほくしゅう・春好齋、絵師) D 3 9 4 0  
 雪華道人(せつかどうじん) → 桐江(とうこう・田中、儒者) D 3 1 7 2

K2478 雪花坊(せつかぼう) ? - ? 江中期北越の雑俳点者、1767「折句道しるべ」編  
 雪果坊(せつかぼう) → 風五(楓吳ふうご・小林、商家/俳人) 3 8 5 7  
 雪花楼(せつかろう) → 北英(ほくえい・春梅齋しゅんばいさい、絵師) C 3 9 9 1  
 石華老人(せつかろうじん) → 白癡(はくち;法諱・雪心;道号、曹洞僧) D 3 6 5 7

K2479 雪館(せつかん・桜井さくらい/修姓;桜、名;館) 1715-90 76 常陸の絵師:江戸で雪舟流修得;一家を成す、  
 1774(安永3)「画則」編、  
 [雪館(;号)の字/別号]字;常翁、別号;山興/雪志/桂月、法号;春台院

E2410 雪館(せつかん・桜井さくらい、通称;新九郎)?-? 加賀藩刀剣師:俳人・希因門、梅室(1769-1852)父

E2411 雪巖(せつがん;号・実順じつじゅん;法諱)?-? 1777存 武蔵足立郡宮本の天台僧;江戸寛永寺で修学、  
 詩;服部南郭・高野蘭亭門、寛延明和初年1748-64頃上方・河内・摂津・伊勢を遊歴、  
 京滞在中に天台から真宗に改宗、1768江戸定住;還俗/のち越後粟生津村に住;子弟教育、  
 1758「勢陽風雅初編」編/60「唐詩訳説」61「浄土百詠」著/61「白雪余歌」67「詩海錦帆」編、  
 1768「閑居放言」著/70「詩門一覽初篇」74「唐詩礎」編、「唐詩結網」「七律詩海」著/外編著多、  
 [雪巖(;号)の字/別号]字;覚道/珍成、別号;玩世道人(がんぜどうじん、茲堂(しどう/げんどう))

E2412 雪巖(せつがん・野本のもと、医者全庵男) 1761-1834 74 母;村城梅庵女、豊前宇佐郡白岩村の生、  
 儒者;原田東岳・倉成竜渚門/1782上京遊学;赤松滄洲・松本愚山門、  
 帰郷;1786私塾遷喬舎を開設/88中津藩儒見習/89藩校設立を献策;90進脩館創建;教授、  
 師の倉成竜渚を助けて藩校運営の当る、1823江戸に招かれ藩主奥平昌高の侍読/27帰国、  
 1831致仕、「国史略」「雪巖詩文集」著、  
 [雪巖(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;新吉、名;晃/晃光、字;謙卿、  
 通称;元良/亮右衛門、別号;橘齋、

K2480 拙巖(せつがん;法諱・号;全癡ぜんち/百癡道人) 1791-1860 70 豊前真宗本願寺派僧;同国長久寺道隠門、  
 宗乗を研鑽、肥前長崎光源寺住/平戸藩主松浦源熙の招聘で平戸光明寺に転住/1854司教、  
 没後1891勸学職を追贈、「真宗断疑辨」「二種深信聞記」「国家繁昌記」「雪朝茶話」、  
 「浄土和讃撰釈」「真宗関節義」「真宗要義論」「末代章柳川録」外著多数

N2447 石亀(積亀せつき;俳号・吉井よい、名;計暁、足立久兵衛末久男) 1680-1746 67 安藝広島和田屋の生、  
 安藝竹原の吉井正盛(俳号;梅睡)の養嗣/吉井家5代目を継嗣;本米屋半二郎を名乗る、  
 竹原の塩浜主、俳人;壺天門、壺天・風律らが自邸来訪;一座す、  
 [潤わしき冬咲く梅の藪の許](三ッ物発句)、「青柳や」「鶯や」などの句あり

雪暉(せつき・松原) → 貴速(たかはや・松原まつばら/山県、藩士/神職/俳人) Z 2 6 6 2

- 節義(せつぎ・桜井) → 節義(ともよし・桜井、和算家) Q 3 1 9 8  
 雪鬼窟(せつきくつ) → 見風(けんぷう・河合、俳人) C 1 8 9 7
- K2481 雪弓(せつきゅう) ? - ? 但馬出石の俳人;1776几董「続明鳥」1句入、  
 [すゝき吹く中にも立てりをみなへし](続明鳥;500)  
 雪丘(せつきゅう・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7  
 説久(せつきゅう・町尻) → 説久(かねひさ・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) V 1 5 7 1  
 拙牛(せつきゅう・玉虫) → 暢茂(のぶしげ・玉虫たまむし、兵法家) B 3 5 5 8
- K2482 雪居(せつきよ) ? - ? 江中期俳人;1782蕪村「花鳥篇」2句入、  
 1783維駒「五車反古」2句入、  
 [花に寝て月におどろく木陰哉](花鳥篇;花桜帖31)
- K2483 雪居(せつきよ・神保じんぼう、名;親道ちかみち、要造男)1809-9183 上州群馬郡金古の国学者、  
 初め漢学;安中文瑛門/国学;橋守部門、橋本直阿香と交流、書画・詩・俳諧・歌を嗜む、  
 私塾を開設;郷党に教授/門下生は300余名、「雪居随筆」「雪居漫筆」著、  
 [雪居(;号)の通称/別号]通称;要造(;父を継承)、別号;梅守園、法号;梅守院  
 石居(せつきよ・兼松) → 石居(せききよ・兼松、儒者) D 2 4 4 0  
 石居(せつきよ・木村、2世兼葭堂)→石居(せききよ・木村、商家/茶器) J 2 4 9 9  
 雪居(せつきよ・高木) → 秀真(ひでざね・高木、藩士/歌人) D 3 7 0 6
- E2414 石橋(せつきょう・鈴木すずき、名;之徳これのり/至徳、自称男)1754-181562 下野鹿沼の富裕な農商家の生、  
 儒;1777江戸で林家塾入門/湯島聖堂仰高門日講の講授を務める/帰郷後麗沢之舎開塾、  
 門弟を教導/宇都宮藩に招聘され学政に参与/貧民の子弟に教育援助/救荒に私財投与、  
 易学精通、蒲生君平の師、1782「伊香保紀行」、「石橋偶筆」「石橋詩稿」「石橋文集」、  
 「三余漫筆」「焉支学圃」「紀異編」「左伝凡例考」「三孝子之紀事」「周易象義」外著多数、  
 [石橋(;号)の字/通称/別号]字;沢民、通称;四郎兵衛、別号;麗沢之舎/閑翁、養子;之綱  
 妻;磯子 → 栄寿(えいじゅ・鈴木、歌人/1777-1850) U 1 3 1 3  
 石橋(せつきょう・千葉) → 春耕(しゅんこう・千葉、俳人) J 2 1 6 4  
 雪暁(せつきょう・広江) → 永貞(ながさだ・広江ひろえ、和算家) D 3 2 7 0  
 石橋庵(せつきょうあん) → 真酔(ますい・石橋庵いしばしあん、戯作) I 4 0 9 2  
 石橋亭(せつきょうてい/しゅつきょうてい)→ 英子(えいし・石橋亭、俳人) B 1 3 4 5  
 石橋隣(せつきょうりん) → 春耕(しゅんこう・千葉ちば、俳人) J 2 1 6 4
- 02424 雪旭(せつきよく・平井ひらい、名;正親)1806-8580 備後福山本町の紺屋、宿老格、  
 絵師;狩野派を修学;山水・花鳥・人物など下絵粉本を多く制作、雪正(俳人/風流人)の父、  
 [雪旭(;号)の通称/雅号]通称;本右衛門/平蔵(改称)、雅号;永進斎雪旭
- E2415 雪溪(せつげい・山口やまぐち、名;宗雪)1644-173289 京の絵師;長谷川左近門、雪舟等楊・牧谿に私淑、  
 桃山期の花鳥図等を範とし一家を成す、「雪溪画譜」「楓桜図屏風」「瀟湘八景図屏風」画、  
 [雪溪(;号)の別号]別号;梅庵/白隠、法号;海誉白印雪溪居士
- E2416 雪溪(せつげい・佐善さぜん/さよし?、本姓;源・佐竹、藩士佐善元武男)1656-1745長寿90 母;宮城孝庸女、  
 因幡鳥取藩士、上京;儒;経史宮木孝紹門、諸国遊歴/松平伊賀守に出仕;  
 辞し1698(元禄11)江戸下谷に開塾、子弟教育、  
 1716-44頃伊勢津藩6代藩主藤堂高治に認められ招聘、;津藩の儒臣/支藩久居藩兼任、  
 門弟;平松楽斎・堀直詮ら多数、松溪(1704-1773)の養父、礼耕の伯父  
 「下谷集」(門弟への書翰集)著、「雪洞集」「論語講義」「茶喫物語」「藤堂忠勤録」著、  
 「雪溪先生雑話」「日光道の記」著、「佐善遺文集」、  
 [世の中はただ何となく住むぞ善き心一つをすなほにはして]、  
 [雪溪(;号)の名/字/通称]名;元恭もとやす、小字;二郎三郎/通称;新九郎
- E2484 雪溪(せつげい・高木たかぎ、別号;泰軒たいけん)?-? 歌人;久世げ通夏みちなつ[1670-1747]門、風客、  
 1739芥川寸艸「武陽飛鳥山十二景詩歌」入、1798刊広通「霞関集」入、  
 [はるばるとむかふもあかず武蔵野のすゑにちゝぶの山も続きて](飛鳥山;秩父遠影)、  
 [春日さす峰に残らぬこぞの雪なほ谷陰に見るも寒けし](霞関;春47)  
 ☆飛鳥山十二景 → 榴岡(りゅうこう・林はやし) D 4 9 7 8
- E2417 雪溪(せつげい・井狩いかり、名;総)?-1766 撰津天王寺村の儒者、大坂南船場塩町に開塾、

- 子弟教育、1760「用字格弁正」、「荒陵筆録」「左伝三事考」「世事通考」著、  
[雪溪(；号)の字/通称/別号]字；季群、通称；彦三郎、別号；醉墨主人
- K2484 **石溪**(せつせい・井上のうえ、名；儀備、宜中男)1689-1772<sup>84</sup> 福井藩士；1722致仕、  
江戸で漢学者；平野玄中門、昌平學で修学、武田流兵法・宝蔵院中村流槍術を得意、  
1756「姉妹復讐記」61「星槎奇談」訳、  
[石溪(；号)の字/諡号]字；子文、諡号；胡安先生
- 雪溪(せつせい) → 賢江(けんこう；道号・祥啓、絵師/臨濟僧) I 1 8 6 3  
 雪溪(せつせい・斯波) → 義輝(よしまさ・斯波しば、武将/歌人) G 4 7 9 6  
 雪溪(せつせい・柳川) → 震沢(しんたく・柳川、平庵、儒者) 2 2 5 7  
 雪溪(初世せつせい) → 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1  
 雪溪(2世せつせい) → 紫山(しざん・宋、楠本、紫石男/絵師) D 2 1 7 3  
 雪溪(せつせい・山本) → 直(ただし・山本やまもと、国学者/歌人) 2 7 2 2  
 雪溪(せつせい・近藤) → 玄瑞(げんずい・近藤こんどう、医者) K 1 8 3 3  
 雪溪(せつせい・相沢) → 尢(おけら・相沢あざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7  
 雪卿(雪溪せつせい・ゆきさと・宇都宮) → 黙霖(もくりん・宇都宮うつのみや、真宗僧/勤王) J 4 4 0 0  
 石兮(せつせい) → 篤老(とくろう・飯田、医/俳人) L 3 1 6 2  
 石溪(せつせい・志村) → 蒙庵(もうあん・志村、儒者/詩人) 4 4 4 1  
 碩溪(せつせい・正司) → 碩溪(せきけい・正司、儒者) K 2 4 0 0  
 雪溪(せつせい・大谷) → 実徳(さねのり・大谷おおたに、勤王過激派) O 2 0 1 3  
 雪溪釣叟(せつせいちようそう) → 震沢(しんたく・柳川やながわ、儒者) 2 2 5 7  
 石柱堂(せきけいどう) → 緑野(りよくや・萩原はざわら、儒/講説/詩) J 4 9 8 2  
 雪螢寮(せつせいりょう) → 三車(さんしゃ・雪螢寮、俳人) M 2 0 3 4  
 雪月書堂(せつげつしどう) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師) D 2 8 5 4  
 雪月楼(せつげつろう) → 竹田(ちくでん・田能村たのむら、儒/詩/絵師) D 2 8 5 4
- E2419 **雪軒**(せつけん・大井おおい、名；守静)?? 江前期17ct後半の摂津大坂の儒者、1678「孔聖生卒考」、  
「蟻亭閑言」「蟻亭摭言せきげん」「蟻亭独断」「童問字訳」「訳言拾遺」「夏山雑録」外著多数、  
[雪軒(；号)の字/別号]字；篤甫とくすけ、別号；汶山(ぶんざん)/蟻亭(ぎてい)/蟻遊亭主人
- E2420 **節軒**(せつけん・浅井あさい、名；雍、杏庵[澄年]男)1821-62<sup>42</sup> 尾張熱田の医者；父門、伊勢に遊学、  
儒；斎藤拙堂門/詩文に長ず、帰郷後家業の医を継嗣/儒も指導、尾張藩士；用人支配に就任、  
二人扶持を給される、「聖賢伝」「孝友録」「日耕録」「忠義録」「公羊伝補解」「穀梁伝補解」著、  
[節軒(；号)の字/通称]字；穆卿ぼくけい、通称；益太郎
- K2485 **拙軒**(せつけん・村山むらやま、名；徳淳、塩田順庵2男)1832-93<sup>62</sup> 幕府医官村山自伯の養嗣；幕府医官、  
米国艦隊浦賀来航時に「米舶紀事」を著、1860(万延元)村垣範正・小栗忠順の遣米使に随行、  
帰国後；1861奥外科見習、維新後；医学館・文部・大蔵・内務省に出仕、「奉使日録」著、  
[拙軒(；号)の字/別号]字；大樸、別号；伯元
- 雪軒(せつけん；号) → 南源(なんげん；道号・恭薫、臨濟僧) I 3 2 8 9  
 節軒(せつけん・八谷) → 梅顛(ばいてん・八谷やたがい、藩士/詩文) B 3 6 8 6  
 拙言(せつげん) → 拙言(せつごん、俳人) E 2 4 2 6  
 赤県老人(せつけんろうじん) → 皆阿(かいあ・柳堤居、俳人/滑稽本) 1 5 8 6
- N2495 **節子**(せつこ・足立あだち、石川伊兵衛2女)1804-86<sup>83</sup> 但馬生野の町人の生；歌人、  
足立萬蔵と結婚、
- 02439 **節子**(せつこ・根来ねごろ、)1827-1894<sup>68</sup> 陸奥仙台の和漢学・歌人；佐藤直翁ちよくおう門
- 02445 **節子**(せつこ・保科ほしな、伊達宗紀7女)1840-1905<sup>66</sup> 伊予宇和島藩主の娘/江戸生、  
上総飯野藩10代(最後)藩主保科正益まさありの妻、  
歌人；海野遊翁・秋園古香門、歌集「柞はは露」著
- 雪子(せつこ・井岡/武谷) → 築女(らくじよ・武谷たけくに/井岡、歌人) D 4 8 5 2
- K2486 **雪湖**(せつこ・加藤かとう、名；利直、絵師南峰の長男)1840-75<sup>36</sup> 陸前登米の生；仙台の筆墨商店員、  
俳人；一止・杉芽門、帰郷後；卵啼門で研鑽、「しんせき集」編、  
[雪湖(；号)の通称/別号]通称；円吉/想治郎、別号；輝白亭静翁
- 拙古(せつこ) → 尚斎(しょうさい・奥田、儒者) S 2 2 3 1

- 夕湖(せつこ) → 夕湖(せきこ・太田、俳人) D 2 4 4 3  
石湖(せつこ) → 石湖(せきこ・李) D 2 4 4 4  
石鼓(せつこ) → 勝長(かつなが・大岩、藩士/国学者) N 1 5 6 3  
雪湖(初世せつこ) → 紫石(しせき・宋そう、楠木、絵師) E 2 1 3 1  
雪湖(2世せつこ) → 紫山(しざん・宋、楠本/南、紫石男/絵師) D 2 1 7 3  
雪湖(せつこ・久野) → 繁山(はんざん・久野くの/源、医者/詩画) H 3 6 7 8
- E2421 拙文(せつごう、前号;拙候)? - ? 俳人;其角門、1697其角「末若葉」第三独吟歌仙入、  
[柏木を猿が餅なる若葉哉](末若葉;73歌仙発句/猿が餅は錢と品物の即座のやりとり)  
(柏の葉を近所に分けるとすぐに柏餅を貰ったor柏葉は次の若葉まで待って交代する意)
- K2487 拙候(せつごう) ? - ? 大阪の俳人;1698「続猿蓑」4句入、  
[踏みまたぐ土堤どの切れ目や露の塔](続猿蓑;下)
- K2488 雪江(せつごう・人見ひとみ/修姓;野、桃原とうげん男/本姓;小野) 1687-1759<sup>73</sup> 幕臣儒官、1731家督継嗣、  
1749致仕、51祖父著「竹洞全集」後集を編纂、「王徳広運録」、「雪江先生詩文集」著、  
[雪江(;号)の名/字/通称/別号]名;活/活実/美在、字;行察、通称;帯刀/又兵衛/又七郎、  
別号;黙斎/大椿/白峰/知在、諡号;靖安、美至のりゆき・璣邑きゆうの父
- E2422 雪貢(せつごう・最上もがみ) ? - ? 江後期加賀金沢の商家/俳人;初世眉山門、  
1824「後無射集」編、  
[雪貢(;号)の通称/屋号]通称;庄兵衛/昌兵衛、屋号;佐賀野屋
- K2489 雪貢(せつごう・小野田おのだ、名;知尚) 1767-1840<sup>74</sup> 備前岡山瀬尾町の町吏;父の跡継承、  
俳人;任地齋朝伍門;松後裏書の文台を授与される、1830(天保元)「春興さゝれ石」著、  
[雪貢(;初号)の通称/別号]通称;善介、別号;雪江/暁松舎
- E2423 雪江(せつごう・関せき、名;思敬、思亮男) 1827-77<sup>51</sup> 父早世;関金蔵の養子、儒/書;祖父克明と金蔵門、  
のち会津藩主加須屋弘蔵門、隸書に長ず/詩人、祖父克明かつあき・父思亮共に常陸土浦藩士、  
1837(11歳)土浦藩に出仕;関家代々の精勤により藩主土屋彦直が跡継嗣を許可、  
1867江戸下谷に家塾雪香楼を開き皇漢筆道を教授/維新後に府下有数の家塾となる、  
「雪香楼詩鈔」「雪香楼詩文稿」「雪香楼詩稿」「弘化乙巳吟稿こうかいしぎんこう」「皇朝詩史百韻」著、  
「如蘭吟社詩集」著/1850「六書十体考」編/1850美成「提醒紀談」序・校/53「名家墨林」著  
[雪江(;号)の字/通称/別号]字;鉄卿、通称;鉄蔵/忠蔵、別号;弘道/雪香楼
- 雪江(せつごう・崇永) → 氏頼(うじより・六角/源・佐々木、歌/連歌) 1 2 5 9  
雪江(せつごう) → 尊俊(そんしゅん、雪江せつごう、僧/歌人) E 2 5 8 8  
雪江(せつごう;道号) → 宗深(そうしん・しゅうじん;法諱・雪江;道号、臨濟僧) C 2 5 1 7  
雪江(せつごう;道号) → 真棹(しんと;法諱・雪江、黄檗僧) P 2 2 4 6  
雪江(せつごう・中根) → 雪江(ゆきえ・中根、藩士/国学) E 4 6 3 3  
雪江(せつごう・小野田) → 雪貢(せつごう・小野田、町吏/俳人) K 2 4 8 9  
雪江(せつごう・中根) → 雪江(ゆきえ/せつごう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3  
雪香(せつごう・木谷) → 忠英(ただひで・木谷きたに、和算家/歌) Q 2 6 6 1  
雪香(せつごう・山本) → 友左坊(ゆうさぼう・山本やまと、俳人) B 4 6 8 4  
雪香(せつごう・松岡) → 操(みさお・松岡まつおか、医/漢学者) K 4 1 5 4  
雪篁(せつごう・下野) → 遠明(とのおき・下野しもの、藩士/攘夷論) I 3 1 5 7  
雪航(せつごう・三井) → 隆斎(りゅうさい・三井、医者/詩人) E 4 9 0 5  
雪航(せつごう・手塚) → 律蔵(りつぞう・手塚てつか、洋学者/訳書) C 4 9 1 0  
雪航(せつごう・掛山) → 徳謙(のりかね・掛山かけやま、藩士/国学) H 3 5 8 9  
浙江(せつごう・箱島) → 閑鵞(かなが・箱島、俳人) G 1 5 1 5  
積興(せつごう) → 積興(せきこう・尾崎、故実家) D 2 4 4 5  
節香(せつごう;道号) → 徳忠(とくちゅう;法諱・節香;道号、曹洞僧) L 3 1 2 2  
節香(せつごう・六人部) → 節香(ときか・六人部むとべ、神職/和学) W 3 1 6 4  
節公(せつごう・松平) → 頼常(よりつね・松平/徳川、藩主/学問) J 4 7 0 8  
石口(せつごう) → 石口(せきこう、俳人) K 2 4 0 3  
石香(せつごう・木俣) → 守易(もりやす・木俣きたまた/橋、藩老/楽焼) J 4 4 7 9  
石珏(せつごう・守拙軒) → 利満(としみつ・中村なかむら、藩士/彫刻/歌) V 3 1 9 2

- 石候(せっこう・福田) → 和夫(にぎお・福田ふくだ、国学/神職) H 3 3 3 3  
 雪江院(せっこういん) → 吉英(よしふさ・小出こいで、藩主/和学) M 4 7 7 2  
 雪香園(せっこうえん) → 友左坊(ゆうさぼう・山本やまもと、俳人) B 4 6 8 4  
 雪耕軒(せっこうけん;号) → 亮珉(りょうみん;法諱・石澗せきかん;道号、臨濟僧) J 4 9 5 2  
 雪坑齋(せっこうさい、読本作者) → 辰宣(ときのぶ・北尾きたお、絵師) J 3 1 7 2  
 雪香齋(せっこうさい) → 盤谷(初世ばんこく・志水しみず、俳人) H 3 6 6 2  
 雪香齋(せっこうさい) → 尾谷(初世びこく・千足、盤谷門俳人) 3 7 5 4  
 石香齋(せっこうさい) → 柳湾(りゅうわん・館たち/小山、役人/詩人) F 4 9 9 3  
 折肱齋(せっこうさい) → 竜貞(りゅうてい・立野たつの、古医方医者) F 4 9 2 6  
 節香齋(せっこうさい) → 英秀(えいしゅう・静齋せいさい、菊川、絵師) C 1 3 9 1  
 雪江崇永(せっこうすうえい;臨濟僧名) → 氏頼(うじより・六角/佐々木、武将連歌) 1 2 5 9
- E2425 **雪岡禪師**(せっこうぜんじ・真乘院)?-? 国学者、京と江戸派との仲介者、  
 香川景樹・小川布淑のぶしの作品を加藤千蔭に送る(;1802筆のさが、雅俗弁答)  
 節孝先生(せっこうせんじょう;諡号) → 橋隧(きつゐ・早野はやの、儒者/講説/詩) I 1 6 6 5  
 節香堂(せっこうどう) → 石齋(せきさい・黒沢/安部/与村、藩儒) D 2 4 4 8  
 雪香楼(せっこうろう) → 雪江(せっこう・関せき、儒者/書家) E 2 4 2 3
- K2490 **拙谷**(せつこく・矢尾板やいた、名;伯章、法橋矢尾板玄柏男) 1640-1705<sup>66</sup> 羽前米沢の医者;父門、  
 医・儒;京の野間三竹[静軒]門、1669米沢藩主上杉綱憲の近習;儒医を兼任/江戸定府、  
 上杉謙信・景勝の年譜編纂に従事;米沢で完成、1697藩命で私邸聖堂を改築;藩学問所創設、  
 その運営を託され尽力/綱憲を継嗣した吉憲の近習医となる、  
 1680「拙谷矢先生詩集」95「謙信年譜」1703「景勝年譜」著、  
 [拙谷(:号)の通称/別号]通称;伯松/玄春/三印、別号;大痴軒主人  
 雪国(せつこく) → 雪斗(せつと・万花庵[坊]、俳人) E 2 4 6 2  
 石谷(せつこく・町田) → 久成(ひさなり・町田まちだ/藤原、藩士/官僚/儒/僧) L 3 7 0 1  
 齋谷(せつこく・吉田) → 長淑(ちやうしゆく・吉田/馬場、蘭医) F 2 8 9 6  
 石根(せつこん・榎倉) → 石根(いね・榎倉えのくら、神職/国学/歌) K 1 1 0 1
- E2426 **拙言**(せつごん) ? - ? 俳人、1666「阿波千句」百韻入  
 雪簑(せつさ・河辺) → 長量(ながかず・河辺/大中臣/三室戸、歌人) D 3 2 4 0  
 雪簑庵(せつさあん) → 梅峨(ばいが・雪簑庵、俳人) 3 6 8 0
- E2428 **拙齋**(せつさい・岡部おかべ、名;玄又、宗清男) 1593-1655<sup>63</sup> 播磨網干の儒者;菅玄同(藤原惺窩門)門、  
 朱子学を修学/1640常陸水戸藩祖徳川頼房に出仕;儒臣、  
 1642頼房男頼重の讃岐高松藩主赴任に随従;高松藩儒として活動、  
 「拙齋医学發明記」「拙齋詩集」「拙齋雜記」「拙齋小集」「播磨巡記」著、  
 [拙齋(:号)の通称/別号]通称;忠平、別号;雪齋
- E2431 **雪柴**(せつさい・由比/由井ゆい/小坂井/池村)?-? 江戸神田鍛冶屋町の町与力、  
 俳人・宗因門:江戸談林の1、「談林十百韻」110句入、1678「鱗形うろこが」編(;俳論書)、  
 1700佐倉笑種「続古今誹手鑑ぞくこんはいてかがみ」入、  
 [世俗せぞく眠むりをさますうぐひす](談林十百韻;冒頭百韻の脇句、  
 前句宗因[梅翁]の発句;されば爰ここに談林の木あり梅の花)、  
 [雪柴(:号)の通称] 庄左衛門/彦太夫
- E2429 **拙齋**(せつさい・矢野やの、名;義道、政信男) 1662-1732<sup>71</sup> 伊予西条儒者;1679(18歳)上京;闇齋学信奉、  
 浅見綱齋・佐藤峯松軒と研鑽を深める/江戸で講説業/1691甲斐府中藩主徳川綱重に出仕、  
 將軍綱吉の侍講、上州高崎藩に招聘され藩儒/1701辞職、致仕後変名で市中の人々を教育、  
 「補導小補」「児訓集」「我転勢余」著、容齋の父、  
 [拙齋(:号)の通称/変名]通称;理平、変名;山中久右衛門
- E2434 **雪齋**(初世せつさい・大塚/根本ねもと、珍重庵) 1721-94<sup>74</sup> 江戸新吉原太田屋主人、俳人:乾什門、  
 江戸乾什座点者/晩年の乾什を引取り世話、1759乾什追善「毛登濃美津もとのみづ」編、  
 1776「夏冬」、「二季鳥俳諧」著、1754竹翁「誹諧童の的」評点句入
- E2427 **藍齋**(せつさい・櫛原いちいはら、名;篤好) 1723-1800<sup>78</sup> 美濃垂井の儒者;久米訂齋門、学舎明倫堂を開設、  
 垂井の聖堂と称される、「聖像記」「孟子師説」「顔淵克己章三工夫説」「白根塚を築の序」著、

[菴齋(；号)の通称] 主佐/修助

- K2491 節齋(せつさい・草野くさの、名；益、別号；益翁)?-? 江中期宝暦1751-64頃豊後の医者；村井玄竹門、戸田旭山と交流、1752刊「医家名数」著
- K2492 雪齋(せつさい・藤沢ふじさわ/修姓；藤、名；周、南川の長男)1731-179868 佐渡の医者：1747(17歳)父と江戸の入江南溟門、上京し吉益東洞・山脇東洋門、菰野藩出仕となった父に随い伊勢住/老母のため帰郷し医を開業、傍ら儒学を研鑽、佐渡奉行石野広通に登用、「佐渡志」「雪齋漫録」「藍川詩稿」「為学成式」「大学私考」著、[雪齋(；号)の通称/別号]通称；子山、別号；藍川らんせん
- K2493 拙齋(せつさい・松田まつだ、名；長恭/字；宗養)1732-9160歳 江戸の儒者、「春秋左氏通」「中庸通」「尚書通」撰
- E2430 拙齋(せつさい・西山にしやま/本姓；坂本、名；正、恕玄男)1735-9864 備中鴨方の医者；父門、1750大阪で医；古林見宜門/儒；岡白駒・那波魯堂門/宋学修学、1773帰郷；欽塾を開設；教育、朱子学を奉ず；寛政改革では異学の禁を上申；採用、歌；澄月・滝口蔵山門、澄門4高足の1、菅茶山・頼山春水と交流/六如(慈周)らと詩窮社を結社、「拙齋詩文集」「拙齋和歌集」、「汗漫日記」「汗漫遊記」「芳野紀行」「甲午遊戯島記」「讃岐紀行」「遊山紀行」「課間閑話」、「鰐語」「玉芙蓉和歌」「西湖十八景和歌」「小春のすさみ」「西遊万株雪」「水煎豆腐湯」、「拙齋詩歌稿」「鹵遊録ろゆうろく」/1779「遊松山記」90「孝子長吉伝」99刊「閑窓瑣言」外著多数、[拙齋(；号)の幼名/字/別号]幼名；友吉/見利/思義、字；子雅/士雅、別号；石巔/石巔/緑天/雪堂/至楽居/華岳/匡廬/坂下菟麻呂/山陽逸民
- N2453 雪齋(2世せつさい・大塚/根本、珍重庵2世)?-? 江中期江戸俳人；父初世門、新吉原太田屋主人
- K2494 雪齋(せつさい・月岡つきおか/本名；木田、名；秀栄、月岡雪鼎[木田昌信]長男)?-1839 大阪の絵師；父門/吉村周山門、風俗人物画に長ず/大坂堀江住、のち江戸に移住(；浮世絵師伝)、1787「和漢名家画繡」画、[月岡雪齋(；号)の字]太素、雪溪の兄
- K2495 雪才(3世せつさい・2世白眼台)?-? 江後期江戸の俳人；2世雪才門、1795「雪才追善集」編/98「春の旅」編
- K2496 拙齋(せつさい・藤沢ふじさわ、名；峻、雪齋男)1782-185473 佐渡の医者；父より家学[医]を受く、諸師に就き蘭学修学、天保1830-44頃帰郷；医を開業、「相川八勝詩」著、[拙齋(；号)の字/別号]字；明卿、別号；海嶼かいしよ
- E2432 拙齋(せつさい・大野おおの/本姓；紀、名；鼎、売薬業大野弥次兵衛男)1772-183059 富山医者；藩医門、京に遊学；大典禅師門、1812富山藩儒/12江戸昌平饗で古賀精里門、「清儉堂遺稿」、[拙齋(；号)の字/通称]字；元竜/国宝、通称；十郎
- E2433 拙齋(せつさい・青山あおやま、延子のぶゆき/字；子世、延彝のぶつね男)1776-184368 水戸藩儒；立原翠軒門、彰考館総裁/弘道館頭取、大日本史編纂参加、「皇朝史略」編/「文苑遺談」「東藩文献志」著、「詞林摘英」「四家文範」「修史始衍」著、「維揚詩集」編、「拙齋集」「拙齋隨筆」「拙齋文集」著、[拙齋(；号)の通称/別号]通称；量介、別号；雲竜、延光のぶみつの父
- K2497 雪哉(雪齋せつさい・森田もりた)?-? 撰津伊丹の俳人、1802(享和2)「除元吟」/文化文政(1804-30)頃「名月篇」編、「発句集」評、[雪哉(；号)の別号]玉馬峯/必弾居/鷺貫
- K2499 拙齋(せつさい・鶴飼うかい、名；知信、鶴飼真教2男)1798-1859斬罪62 叔父水戸藩士鶴飼知益の養子、水戸藩士；京で攘夷を主唱し活動、1858水戸密勅事件発露；59斬罪、「蛙の声」著、1858「茅根及び僧月照に贈る書」著、[拙齋(；号)の字/通称/別号]字；子熊、通称；菊三郎/吉左衛門、別号；聒翁かつおう/聒齋/広邦、法号；儀全居士
- E2435 雪齋(2世せつさい・珍重庵、東曲/呉丈、初世雪齋男)?-? 江後期18-19ct俳人；父初世雪齋門、2世乾什の師
- L2400 雪齋(せつさい・尾本おもと/本姓；大江、名；鑿、弘[修助]男)1804?-? 越後の儒者；父・祖父門、1823父没；右筆を継承、篆刻に長ず、竜淵の孫、「続北沼魚戯」著、[雪齋(；号)の字/通称]字；子興、通称；太郎太
- L2401 雪齋(せつさい・大庭おおば、名；景德/通称；恣、大庭景平[仲悦]男)1806-7368 大庭崇守[寿庵]の養子、佐賀藩士、蘭学；島本竜嘯門/医学；長崎のシーボルト門/中天游門/のち緒方洪庵門、

1851佐賀藩初代蘭学寮教導、1856好生館教導方頭取;65致仕、蘭語に長ず;多くの翻訳、1855-56「訳和蘭文語」訳/65「民間格致問答」訳、「遠西医療手引」訳/「算学算法基原或問」著

- L2402 **雪齋**(せつさい;号・服部はっとり) 1807-? 1882存 絵師;写生画、1849「本草綱目啓蒙図譜」画、1854「朝顔三十六花撰」61「華鳥譜」67「英語箋階梯」画、「柑橘譜」「植物写生図」外画多数
- 2418 **節齋**(せつさい・森田もりた、名;益すむ、医者森田文庵男) 1811-68 58歳 大和五条の儒者; 1825上京・猪狩敬所門、1828頼山陽門/29江戸昌平黌入学、京で開塾;尊攘論主唱; 吉田松陰らを輩出、姫路藩招聘を辞退/1861倉敷で教授、妻;小倉琴子きに(漢学者)、 安井息軒・頼三樹三郎・梅田雲浜らと交流、幕府追及を受け紀州に逃亡/維新後;没、 「節齋文集」「節齋文録」「竹窓三稿」「竹窓余稿」、 「消閑一戯」「太史公序賛蠡測」、1851「桑梓景賢録」64「節齋与鉄兜尺牘」外著多数、 [節齋(;号)の通称/別号]通称;謙蔵、別号;節翁/節庵/愚庵 妻; → 無絃女史(むげんじょし、小倉無絃/詩文) 4 2 2 9
- L2403 **節齋**(せつさい・富田とみた、定礼/礼彦いやひに、定徴さだあきら男) 1811-77 67 1842飛騨高山代官所地役人頭取、 国学;田中大秀門/漢学;赤田章齋門、1868(慶応4)高山県判事、山岡鉄舟の師、詩歌人、 1869(明治2)梅村騒動で一揆参加者の助命を願い割腹;一命をとりとめる;77(明治10)没、 1854「官材図会」67「白檮園詩抄初編」著、「三郡沿革」「詩歌集」「富田礼彦咏史いし歌集」、 「富田礼彦社中詠藻」「富田節齋詩稿」「十八社考」「斐太後風土記」著、 富田道彦・綾子の父、大池妙子の祖父、 [節齋(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;小藤太、字;和卿、通称;稻太/稻田、 別号;白檮園/南東与可楼主人、諡・神号;五十白檮弥桑枝彦大人
- L2404 **節齋**(せつさい・佐藤さとう、名;登) ?- ? 江戸期武蔵川越藩儒/詩人、 「玉藻詩集」「節齋詩稿」著
- L2405 **雪彩**(せつさい・松露庵) ?- ? 江後期江戸の俳人、「松露庵雪彩点印帳」著
- |              |                           |           |
|--------------|---------------------------|-----------|
| 雪齋(せつさい;号)   | → 太原(たいげん;道号・崇孚そうふ、臨濟僧)   | J 2 6 8 7 |
| 雪齋(せつさい・菅原)  | → 豊直(とよなお・菅原すがわら、神職)      | R 3 1 3 6 |
| 雪齋(せつさい・岡部)  | → 拙齋(せつさい・岡部、藩儒/詩人)       | E 2 4 2 8 |
| 雪齋(せつさい・森)   | → 雪翁(せつおう・森もり、藩士/文筆家)     | K 2 4 7 3 |
| 雪齋(せつさい・淀川)  | → 盛品(もりただ・淀川よどがわ、藩士/民俗調査) | F 4 4 6 2 |
| 雪齋(せつさい・横沢)  | → 兵庫(ひょうご・横沢よこざわ/柴内、家老/画) | F 3 7 2 3 |
| 雪齋(せつさい・増山)  | → 正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画)   | B 4 0 9 0 |
| 雪齋(せつさい・佐藤)  | → 牧山(ぼくざん・佐藤さとう、漢学者/教育)   | D 3 9 3 0 |
| 雪齋(せつさい・藤原)  | → 宗衡(むねひら・藤原ふじわら、国学者)     | E 4 2 2 1 |
| 雪齋(せつさい・村山)  | → 保信(やすのぶ・村山/村、商業/和算家)    | C 4 5 6 1 |
| 節齋(せつさい・橋本)  | → 伯寿(はくじゅ・橋本、蘭医)          | D 3 6 2 1 |
| 節齋(せつさい・鈴木)  | → 常明(つねあき・鈴木、蘭医/国学)       | B 2 9 5 4 |
| 節齋(せつさい・江村)  | → 訥齋(とつさい・江村えむら、儒者)       | O 3 1 4 9 |
| 節齋(せつさい・皆川)  | → 淇園(きえん・皆川みながわ、儒者)       | 1 6 0 4   |
| 節齋(せつさい・田中)  | → 清溪(せいけい・田中たなか/田、医者/詩人)  | 2 4 0 7   |
| 節齋(せつさい・矢部)  | → 致知(むねとも・矢部/近藤、藩士/古文献調査) | B 4 2 9 0 |
| 節齋(せつさい・原田)  | → 優游(ゆうゆう・原田はらだ、医者/詩文)    | D 4 6 9 4 |
| 節齋(せつさい・森もり) | → 枳園(きえん・森もり立之、医者/国学)     | F 1 6 0 3 |
| 節齋(せつさい・師岡)  | → 正胤(まさたね・師岡もろおか、国学者/神道)  | D 4 0 6 2 |
| 節齋(せつさい・南部)  | → 利剛(としひさ・南部なんぶ、藩主/国学/歌)  | T 3 1 7 7 |
| 節齋(せつさい・竹内)  | → 啓(ひらく・竹内たけうち/小川、医者/尊王)  | K 3 7 1 7 |
| 節齋(せつさい・宮脇)  | → 政成(まさなり・宮脇みやわき、郡代/詩歌人)  | T 4 0 0 4 |
| 渌齋(せつさい・藤堂)  | → 光寛(みつひろ・藤堂/多羅尾、家老/詩歌)   | E 4 1 7 0 |
| 拙齋(せつさい・新納)  | → 忠元(ただもと・新納にいり、武将/歌・連歌)  | F 2 6 9 3 |
| 拙齋(せつさい・間宮)  | → 升芳(のりよし・間宮、国学/歌)        | G 3 5 3 0 |
| 拙齋(せつさい・大久保) | → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学)    | O 1 5 3 3 |
| 拙齋(せつさい・大塚)  | → 観瀾(かんらん・大塚おおつか、藩士/儒者)   | H 1 5 7 5 |



拙齋(せつさい・長谷川)	→	敬(けい・長谷川はせがわ、藩士/尊攘論)	F 1 8 2 0
拙齋(せつさい・岡宗)	→	泰純(たいじゆん・岡宗おかむね、医者)	K 2 6 3 0
拙齋(せつさい・工藤)	→	他山(たざん・工藤/古川、藩士/儒者)	E 2 6 6 0
拙齋(せつさい・玉虫)	→	誼茂(よしげ・玉虫たまむし、藩士/儒者)	D 4 7 6 8
拙齋主人(せつさいしゆじん)	→	潜鋒(せんぼう・栗山/長沢、儒者/修史事業)	2 4 3 7
撰西陳人(せつさいちんじん)	→	篋志(けいし・岡田おかだ、地誌家)	F 1 8 8 3
雪柴亭(せつさいてい)	→	猪来(ちよらい・服部、俳人)	K 2 8 4 6
雪莎翁(せつさおう)	→	普求(ふきゅう・山本、俳人)	B 3 8 3 9
拙作堂(せつさくどう)	→	金水(きんすい・松亭、読本・人情作家)	1 6 6 3
説三郎(せつさぶろう・本多)	→	忠升(ただたか・本多ほんた、藩主/儒/詩歌)	F 2 6 2 3
雪棧(せつざん;号)	→	白嶺(はくれい;法諱・雪棧、真宗僧)	E 3 6 1 4
雪参(せつざん・北島)	→	雪山(せつざん・北島きたじま、書家/儒者)	E 2 4 3 7

E2437 **雪山**(せつざん・北島きたじま、名;三立/三、宗宅男)1636-9762 肥後熊本の医家の生、幼少時長崎で生活/書;明人兪立徳門;文徴明の筆法を修学、儒;陽明学、熊本藩に出仕、致仕し江戸で林鷲峯・木下順庵・人見ト幽と交流、晩年は独自の書風を樹立/長崎に没、「雪山墨跡」書、中嶼とも称したか?、  
[雪山(;号)の字/別号]字;隆、別号;花隠/雪参/花谿子/蘭隠立/烏巖雪山/蘭畹、法号;一道雪山

N2448 **雪山**(せつざん・平井ひらい)1735-179763歳 江中期備後福山の俳人;「青幣」著、  
[白芥子や蝶の消え込む夕間暮](辞世)

L2406 **節山**(せつざん・箕浦みのうら、名;徳胤、靖山男)1750-183687 因幡鳥取藩士/儒(家学);父門、易学;河田東岡門、1775学館詰、90(寛政2)家督継嗣、学館奉行、94寄合組/96世子側役、1800分知東館池田仲雅の附人/1805(文化2)用人役/09辞職、15致仕、「対人論易書」著、  
[節山(;号)の幼名/字/通称]幼名;松太郎、字;恒夫、通称;東蔵/太冲

02456 **雪山**(せつざん・山上まがみ、旧姓;松下)1813-9179 近江水口藩士;勘定役、国学者、  
[雪山(;号)の通称/号]通称;助右衛門/官蔵、号;靖年

E2439 **節山**(せつざん・桃もも/桃井、侍医杉貞庵2男)1832-7544 1849出雲松江藩儒桃井[桃]翠庵の養子、儒;養父門/田村寧我・雨森精齋門/1854江戸で佐藤一斎・安積良斎・正滝精溪・安井息軒門、1865松江藩校修道館助教、熊本の横井小楠と交流;尊王を主唱;海防の要を説く、歌学;千家尊孫たかひこ門、1869修道館教授:和漢学教授、  
廃藩後は松江義塾教授/島根県歴史編修御用掛、教員伝習校監事、1875(明治8)没、1862「出雲私史」67「藩祖直政公御事蹟」著、「修道三論」「三学或問」「贅言」著、「修道館祭神説」「肥後聞見録」「為学論」「服膺孝語」外著多数、  
[節山(;号)の幼名/名/字/通称/別号]幼名;勝蔵、名;好裕よしひろ、字;君紳、通称;硯七/文之助、別号;修斎/静遠処

E2438 **節山**(せつざん・赤沼あかぬま、名;恭/利恭、字;子愿)?-? 江戸末期漢学者、「滄水浮瓢録」  
[節山の別号] 二峯庵/柳外庵/炭瓢斎

節山(せつざん/節山人)	→	勝明(かつあき・板倉いたくら、藩主/儒者)	C 1 5 3 9
節山(せつざん・浅野)	→	長訓(ながみち・浅野あさの、茂長/藩主)	K 3 2 8 0
拙山(せつざん・眞誠院)	→	政通(まさみち・鷹司、撰政太政大臣/歌学)	H 4 0 5 0
雪山(せつざん)	→	解記(げき・佐藤、和算家)	G 1 8 8 6
雪山(せつざん)	→	等琳(3世とうりん・堤つみ、絵師)	I 3 1 4 2
雪山(せつざん)	→	猗蘭(いらん・本多忠統、藩主/詩歌)	B 1 1 9 3
雪山(せつざん)	→	僧鎔(そうよう;法諱、真宗本願寺派僧)	J 2 5 0 8
雪山(せつざん)	→	覚郎(かくろう・園木そのき、兵学者)	K 1 5 6 3
雪山(せつざん)	→	簡(かん・塚原つかはら、和算家)	P 1 5 8 9
雪山(せつざん)	→	珉和(みんわ・合川あいかわ、絵師)	H 4 1 2 6
雪山(せつざん;号)	→	堅卓(けんたく;法諱・慧巖、浄土僧)	K 1 8 9 3
雪山居士(せつざんこじ)	→	直民(なおたみ・黒神くろかみ、神職/国学)	B 3 2 6 4
雪山浄白(せつざんじょうはく)	→	嵐雪妻(らんせつつま、服部烈女/俳人)	C 4 8 8 2

- E2441 **雪芝**(せつし・広岡ひろおか、名;保俊)1670-1711<sup>42</sup> 伊賀上野の酒造業山田屋主人、俳人;芭蕉晩年門、土芳・猿蓑の従弟、1695土芳蓑虫庵「雪五歌仙」催/序;「雪の五歌仙」入、1694「炭俵」1句/95「有磯海」/98「続猿蓑」5句入、  
[伏見かと菜種の上の桃の花](続猿蓑;下/山城街道菜島の彼方に桃花;あそこが伏見か)  
[雪芝(;号)の通称/別号/屋号]通称;七郎右衛門、別号;野松亭、屋号;山田屋
- 雪子(せつし;道号) → 元鶴(げんかく;法諱・雪子、黄檗僧) I 1 8 2 3  
 雪志(せつし) → 立志(7世りゅうし、俳人) E 4 9 4 7  
 雪志(せつし・桜井) → 雪館(せつかん・桜井さくらい/桜、絵師) K 2 4 7 9  
 雪枝(せつし・梅川) → 東南(とうなん・梅川、絵師) G 3 1 8 3  
 説之(せつし・天野) → 恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人) F 2 8 0 1  
 説字(せつじ・山屋) → 勝秀(かつひで・山屋やまや、藩士/和漢学) N 1 5 8 0  
 節次(せつじ・岩本) → 正謙(まさかた・岩本いわもと、藩士/歌人) N 4 0 8 6  
 撰事院(せつじいん) → 日秀(にっしゅう;法諱・菊苗、日蓮僧) E 3 3 0 7  
 雪子洞(せつしどう) → 一洞(いちどう、雪子洞、狂歌) D 1 1 5 8  
 雪守(せつしゅ) → 杜涼(とりよう、行脚僧/俳人) R 3 1 9 4
- E2442 **撰受**(せつじゅ) ? - ? 江前期の僧侶、俳人、1690賀子「あめ子」1句入、  
[渋柿も次第に色の付きにけり](あめ子;202)
- 雪樹(せつじゅ・中村) → 雪樹(ゆきき・中村なかむら、藩士/国学) H 4 6 0 5
- N2471 **拙脩**(せつしゅう・津阪/津坂つさか、名;邦達/達、東陽男/本姓;菅原) ?-? 伊勢の儒者;父門、諸国遊歴、詩人、書齋を稽古精舎と称す、1814「全唐詩題苑」21「三野風雅」著、31「聴訟彙案」校訂、  
[拙脩(;号)の字/通称]字;有功、通称;貫之進
- 雪舟(せつしゅう;道号) → 等楊(とうよう;法諱・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1  
 雪秀(せつしゅう・長谷川) → 雪旦(せつたん・長谷川/後藤、絵師) E 2 4 5 4  
 雪岫(せつしゅう;道号) → 瑞秀(ずいしゅう;法諱・雪岫、臨濟僧) E 2 3 6 7  
 雪洲(雪州せつしゅう・松浦) → 静山(せいざん・松浦まつら、藩主/儒/詩歌) B 2 4 7 6  
 拙修(せつしゅう・木村) → 愚山(ぐざん・木村きむら、藩士/儒者) C 1 7 0 5  
 拙修(せつしゅう・中西) → 忠蔵(ちゅうぞう・中西なかにし/長崎、出版) L 2 8 7 0  
 拙舟(せつしゅう・中根) → 雪江(ゆきえ/せつこう・中根、藩士/国事) E 4 6 3 3  
 撰衆(せつしゅう;法諱) → 光沢(こうたく;法諱・広如、西本願寺20世) K 1 9 5 0
- L2407 **雪住**(せつじゅう・玉塵園) ? - ? 茶番芸;1852「茶番今様風流」二編編(一編は金鷲)
- 雪重(せつじゅう・今村) → 雪重(ゆきしげ・今村いまむら、村役/歌) G 4 6 5 7  
 絶宗(せつしゅう;法諱) → 無学(むがく;道号・絶宗;法諱、曹洞僧) 4 2 3 1  
 拙修主人(せつしゅうしゅじん) → 柳浪(りゅうろう・松崎まつさき、儒者/外交) F 4 9 8 9  
 拙宗等楊(せつしゅうとうよう;号) → 等楊(とうよう;法諱・雪舟、臨濟僧/水墨画) H 3 1 7 1
- L2408 **雪俊**(せつしゅん、幼名;長麿) ?- ? 京の絵師;安井門跡の侍童、「日張山青蓮寺縁起」画
- N2463 **雪曙**(せつしよ) ? - ? 江前期の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
[百姓も藁で作った物でなし](広原海/前句;横柄なやつ横柄なやつ)、  
(切り捨て御免の武士への怒り/一寸の虫にも五分の魂)
- 拙処(せつしよ・榊原) → 守典(もりり・榊原さかきばら/上田、儒者) G 4 4 2 5  
 雪女(せつじよ) → 雪女(ゆきじよ、俳人) E 4 6 5 3  
 雪女(せつじよ→ゆきじよ・木津屋/三好) → 正慶尼(しょうけいに、書画/故実/歌) I 2 2 3 0
- L2409 **雪簾**(せつしやう・落柿舎) ? - ?(1861-64頃没) 京下嵯峨の俳人、1823「残の菊」53「東西集」編
- I2469 **雪樵**(せつしやう・杉谷すぎたに、名;敬時、行直男)1827-95<sup>69</sup> 肥後熊本坪井裏鳥町絵師;御用絵師の父門、  
矢野良敬門/雪谷派の支流矢野派に属す、熊本藩御用絵師;1856松井章之江戸参府に随行、  
「道中風景巻」「一日亭春秋真景図屏風」「恵比寿図」「山水図」外画多数
- 雪蕉(せつしやう・小泉) → 友賢(ともかた・小泉こいずみ、医者/地誌) P 3 1 2 9  
 雪松(せつしやう;号) → 天嶺(てんれい;道号・性空;法諱、臨濟僧) E 3 0 6 0  
 雪松(せつしやう) → 雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧) L 2 4 1 7  
 雪象(せつしやう→せつぞう) → 雪象(せつぞう・公鮮、真宗本願寺派僧) L 2 4 1 7  
 雪樵(せつしやう;号) → 景菴(けいい;法諱・蘭坡らんぱ、臨濟僧) 1 8 6 4

- L2410 **雪城**(せつじょう・中沢なかざわ/修姓; 沢、名; 俊卿、俊福男) 1810-66<sup>57</sup> 越後長岡書家/藩校崇徳館修学、1836江戸の巻菱湖門; 菱湖門下四天王の1/江戸両国薬研堀住、1857「三体筆陣雋語」書、1857「書法往来」、「沢俊卿法帖」書/「三体詩七絶序」「集義帖」「三体論書帖」著、[雪城(;号)の字/通称/別号]字; 子国/士国、通称; 行蔵、別号; 雪生、法号; 寿康院
- 雪城(せつじょう・飯田) → 恭雄(たかお・飯田いいだ、神職/国学) V 2 6 5 7
- 摂政家丹後(せつしょうけのたんど) → 丹後(たんど・宜秋門院、歌人) I 2 6 0 7
- 摂政家堀河(せつしょうけのほりかわ) → 堀河(ほりかわ・摂政家せつしょうけ、歌人) E 3 9 8 1
- 摂政家参河(せつしょうけのみかわ) → 三河(みかわ・法性寺入道前関白家、仲正女)
- 雪松軒(せつしょうけん) → 龜石(きせき・寺島てらしま、俳人) L 1 6 0 9
- 雪蕉斎(せつしょうさい) → 重信(2世しげのぶ・柳川やながわ、絵師) C 2 1 7 5
- 啜松斎(せつしょうさい) → 祐之(すけゆき・河津かわづ/船橋、医者/歌) I 2 3 2 8
- 摂政前右大臣(せつしょうさきのうだいじん/-けみぎのおいもうちぎみ) → 兼実(かねざね・藤原/九条) 1 5 2 9
- 摂政前太政大臣(せつしょうさきのだいじょうだいじん; 続後撰) → 兼経(かねつね・近衛このえ) C 1 5 8 7
- 摂政前太政大臣(せつしょうさきのだいじょうだいじん; 続拾遺) → 兼平(かねひら・鷹司) D 1 5 0 0
- 摂政左大臣(せつしょうさだいじん/-ひだりのおいもうちぎみ) → 忠通(ただみち・藤原) 2 6 3 3
- 雲松舎(せつしょうしゃ) → 中彦(なかひこ・太田おた/丸山、藩医/歌) L 3 2 4 5
- 摂政太政大臣(せつしょうだいじょうだいじん; 新古今集) → 良経(よしのぶ・九条/藤原/後京極) 4 7 1 6
- 摂政太政大臣(せつしょうだいじょうだいじん; 新後拾遺) → 良基(よしもと・二条、歌/連歌) 4 7 2 9
- L2411 **雪岑**(せつしん; 道号・梵壺/梵金ぼんきん; 法諱、通称; 峯長老) ?-1663 臨濟僧; 汝雪法叔門/嗣法、相国寺・南禅寺で修学、聯句; 1627-28「漢和聯句」;(光勝慶純らと)
- B2425 **珣心**(せつしん) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、[ふりまじる雪に霰あられやさねき綿](犬子集; 六1413/実生綿は種子の交った木綿綿)
- L2412 **摂信**(せつしん・華園はなぞの、鷹司政通2男) 1808-77<sup>70</sup> 堯揚の養子、1810(3歳)京の真宗興正寺入; 真浄尼に養育される/1818得度、義兄摂生の嗣、法眼/興正寺住職、大僧都/権僧正、1829僧正、幕末期に勤王家として活動/1868諸宗同徳会盟を結成; 真言・浄土・時宗と共に邪教禁止を請願/キリスト教伝播予防を企図/華族従五、1876本願寺より独立; 興正寺を本山とし管長となる、「尊き御法」書、[摂信(;法諱)の幼名/字/号/通称]幼名; 準君/準丸、字; 本寂、号; 大慶喜心院、通称; 摂信上人
- 節信(せつしん・藤原) → 節信(としのぶ・藤原、廷臣/歌人) N 3 1 2 8
- 節信(せつしん・ときのぶ・喜多村) → 筠庭(いんてい・喜多村、国学) C 1 1 0 6
- 説心(雪心せつしん; 道号) → 慈宣(じせん; 法諱・説心; 道号、臨濟僧) U 2 1 2 0
- 雪心(せつしん; 道号) → 白癡(はくち; 法諱・雪心、曹洞僧) D 3 6 5 7
- 雪臣(せつしん・垣本) → 雪臣(ゆきおみ・垣本かきもと/菅原、歌/画) E 4 6 3 7
- 雪信(せつしん・渡辺、絵師) → 智角(知角ちかく・興柳堂、俳人/絵師) 2 8 8 4
- 接心院内大臣(せつしんいんないだいじん → 棲心院-) → 内実(うちざね・一条、歌) 1 2 7 2
- 雪真斎(せつしんさい) → 銀岱(ぎんたい・久保田/中野、俳人) R 1 6 3 8
- 雪心斎春椿(せつしんさいしゅんちん) → 清乗(7世せいじょう・後藤、金工/歌) K 2 4 9 8
- E2444 **雪水**(せつすい) ? - ? 俳人、1691北枝「卯辰集」1句入、[灯心とうしんをゆりこむ夜半よはの礎きぬたかな]、(卯辰集; 三398/礎の震動が灯心を皿に揺り入れそう)
- E2445 **雪水**(せつすい・一貫舎) ? - ? 美濃の俳人; 雑俳、1754(宝暦4)「子日衣」撰
- 雪水(せつすい・能美) → 隆庵(りゅうあん・能美のうみ、医者/藩医) C 4 9 6 9
- 雪吹庵(せつすいあん) → 文晔(ぶんぎょう・藁井、真宗僧/俳人) F 3 8 0 4
- E2446 **雪成**(初世せつせい・露竹舎、花や市兵衛男) ?-1817 江戸下谷竹町二丁目の書肆星運堂の主人; 初代花屋久次郎(略称; 花久)、俳人; 3世湖十門/谷素外門、1768「俳諧鱗はいかいけい」初/二篇編、1806「青楼草紙」、1765呉陵軒可有編「誹風柳多留」初篇-1773八篇の版元; 刊行、73退隠、[露竹舎雪成(;号)の別号] 再馬さいば(;初号)/芙蓉散人/染跡園
- 雪成(2世せつせい) → 菅裏(かみり、2代花屋久次郎、書肆/俳) E 1 5 2 1
- 雪成(3世せつせい) → 菅子(かみし、菅裏男/書肆/川柳作者) S 1 5 5 2

雪生(せつせい・中沢/沢) → 雪城(せつじょう・中沢なかざわ/沢、書家) L 2 4 1 0  
拙静(せつせい・大地) → 文室(あやよし・大地おおち、藩士/詩/書) F 1 0 1 7  
節世(せつせい・平沢) → 了佐(りょうさ・古筆こひつ、鑑定家/俳) H 4 9 5 6  
絶清(ぜつせい;初道号) → 宗渭(そうい;法諱・太清;道号、臨濟僧) 2 5 5 2  
雪星観(せつせいかん) → 沙羅(しやら・堀田ほった、幕臣/俳人) G 2 1 5 6  
雪静斎(せつせいさい・大岡) → 春卜(しゅんぼく・大岡/藤原/狩野、絵師) K 2 1 4 9  
雪成舎(せつせいしゃ) → 菅裏(かんり、書肆、俳人) E 1 5 2 1  
撰生堂(せつせいどう・岡本) → 一抱(いっぽう・岡本おかもと、医者/浄作) H 1 1 8 5  
撰生堂(せつせいどう・緒方) → 惟勝(維勝これかつ・緒方おがた、医者) O 1 9 2 3  
拙誠堂(せつせいどう) → 況斎(きょうさい・岡本保孝、儒/国学者) I 1 6 7 9  
拙誠堂(せつせいどう) → 千金(ちかね・名倉なくら、国学者) N 2 8 1 0  
節青堂(せつせいどう) → 正秀(まさひで/せいしゅう・水田、商家/俳人) 4 0 1 7  
雪青洞(せつせいどう) → 寒翠(かんすい・稲垣いながき、儒者) R 1 5 1 3  
截石(せつせき・雲谷) → 任斎(じんさい・雲谷うんや/水野/兵藤、藩士/和漢学) E 2 2 2 3  
節折(せつせつ・前斎宮) → 節折(折節よおり・前斎宮さきのさいぐう、歌) B 4 7 6 9  
雪々庵(せつせつあん) → 松見(しょうけん・神谷かみや、茶人/儒者) I 2 2 4 7  
拙々斎(せつせつさい) → 鳳岡(ほうこう・林、幕府儒官/大学頭) 3 9 5 3  
啜々斎(せつせつさい) → 眞弓(まゆみ・森本もりもと、商家/国学/歌) P 4 0 3 5  
舌々子(せつせつし) → 四山(しざん・松平まつだいら、藩主/俳人) D 2 1 7 9

- E2447 **雪川**(せつせん・艸々庵そうそうあん) ?-? 江中期大阪?の俳人・淡々・富天・羅人らと交流、  
1720(享保5)「雪中旅中句集」著/43(寛保3)「熱田日記」編、富天「棗亀」(;文入)
- E2448 **雪川**(せつせん・松平まつだいら、名;衍親のぶちか、松江藩主宗衍[南海]男) 1753-1803<sup>51</sup> 治郷[不昧]の弟、  
出雲藩主の子/兄を助け藩政に参画;兄の参勤交代に屢々同行、俳人・2世旨原門、  
吉野・木曾・甲州を旅、1788「黄唐紙」編/89「十三仏」「三喰十二歌仙」著/94「其一葉」編、  
1796「雪まろめ」著、「為楽庵雪川句集/文集」「帰洞子」「恵飛良歌仙」著  
[雪川(;号)の幼名/別号]幼名;駒次郎/三助、別号;為楽庵/雲間/澄水居/帰洞子/仙亭
- L2413 **雪鮮**(せつせん・桜井さくらい、名;絢、雪館の甥/養嗣) 1762-1804<sup>43</sup> 幕臣;幕府大番同心、  
のち学問所下番、絵師;桜花を愛す;市橋長昭の命で花譜の模写、茶を嗜む、  
「花譜」/1804「続花譜」画、  
[雪鮮(;号)の字/通称/法号]字;孟素、通称;政蔵、法号;謙讓院
- L2414 **雪仙**(せつせん・蛇川あぶか、通称;清七) ?-?(1804-18頃没) 羽後秋田川口村の俳人/絵・書に長ず、  
1807「有の儘」画/12「筆花芳叢」著
- 雪髯(せつぜん・高木) → 秀真(ひでざね・高木、藩士/歌人) D 3 7 0 6  
撰善院(せつぜんいん) → 善空(ぜんくう;号・慧篤;法諱、浄土僧) M 2 4 1 0  
雪扇子(せつせんし;俳号) → 継政(つぐまさ・池田いけだ、藩主/歌人) 2 9 8 5  
雪穿舎(せつせんしゃ) → 山幸(さんこう・雪穿舎、俳人) M 2 0 1 5
- L2415 **雪窓**(せつそう) ? - ? 江前期俳人;1698「続猿蓑」1句入、  
[昼寝して花にせはしき胡蝶哉](続猿蓑;下/荘子;胡蝶の夢から花に寝る蝶は歌語)
- E2449 **雪窓**(せつそう) ? - ? 狂歌;1746「狂歌月の鏡」編
- L2416 **雪窓**(せつそう・山田やまだ) 1775- 1826 安藝広島の俳人、「雪窓紀行」著、1828「雪窓遺稿」
- E2451 **雪窓**(せつそう・五弓ごきゅう、名;久文ひさぶみ、久範男/本姓;藤原) 1823-86<sup>64</sup> 備後芦田郡府中市村の人、  
代々同地の八幡宮宮司、幼時より漢学修学/国学;小寺清之門、儒学;1839後藤松陰門、  
広瀬旭荘門/1841斎藤拙堂門/さらに昌平黌入学/下総飯沼弘経寺で教授、  
福山藩主阿部正弘の招聘で福山藩校誠之館の教官、1868神社取調/甘南備社祠官、  
太政官修史局勤務、1849「事実文篇」編、「鶯溪逸事」「景賢録」「雪窓清話」「晚香館史論」、  
「迂樵迂言」「迂黙筆語」「三備史料」「晚香館詠草」「晚香館詠草」「晚香館叢書」外著多数、  
[雪窓(;号)の字/通称/別号]字;士憲、通称;豊太郎、  
別号;迂樵/清清舎/陶癖/偏愛菊道人/晚香山人
- 雪窓(雪窓せつそう;道号) → 宗崖(そうがい;法諱・雪窓、臨濟僧) H 2 5 3 9  
雪窓(せつそう・菊田) → 子孝(しこう・菊田きくた、藩士/俳人) T 2 1 3 5

雪窓(せつそう)	→	眠牛(3世?めんぎゅう・増田、俳人)	4 3 5 3
雪窓(せつそう→雲窓)	→	格三(かくぞう・金内かねうち、儒者)	K 1 5 1 8
雪窓(せつそう;号)	→	円我(えんが;法諱、俗姓;森井、真言僧;詩文)U 1 3 0 0	
雪荘(せつそう・新保)	→	磐根(いね・新保しんぼう、国学者)	K 1 1 3 4
雪叟(せつそう)	→	釣雪叟(ちようせつそう、漢学)	J 2 8 2 6
雪叟(せつそう・宮崎)	→	鉄幹(かねと・宮崎みやざき、藩士/歌人)	V 1 5 8 6
雪巢(せつそう)	→	知可良(ちから・吉川きつかわ、俳人)	C 2 8 2 8
雪巢(せつそう)	→	不転(普天ふてん、俳人)	D 3 8 4 9
雪巢(せつそう)	→	知可良(ちから・吉川きつかわ、修験者/俳人)	C 2 8 2 8
拙窓(せつそう)	→	直繩(なおなわ・佐和、藩士/文筆)	B 3 2 9 6
拙叟(せつそう)	→	恒久(つねひさ・組屋くみや、国学者)	D 2 9 4 1
拙巢(せつそう・頼)	→	春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人)	2 1 6 0
節叟(せつそう・岡田)	→	南涯(なんがい・岡田、儒者/講説)	I 3 2 6 7

L2417 **雪象**(せつぞう;法諱・字;公鮮)?-1841 越中西砺波郡石堤の真宗本願寺派長光寺13世住職、宗学;父門、詩;護円・詩仏門、閑雲詩社を創立、1832-41本山に招聘され上京;各地布教活動、1841藩主の命で帰国;越中没、「閑雲詩史」「清浄閣詩鈔」「照惑秘鏡」「宗体門随聞記」外著多、[雪象の号] 東林/如須弥斎/雪松/公谷

L2418 **拙藏**(せつぞう・吉田よしだ、名;俊章、理左衛門男)1826-8762 越前大野藩士、儒;1841内山良隆よしとか門、1844藩に出仕/46藩校明倫館助教補/48藩主土井利忠に随い江戸出府、安井息軒・塩谷岩陰門、蘭学;杉田成卿・伊東玄朴門、1855帰藩;蘭学授業師、1856幕府の蝦夷地開拓計画に応じ藩船大野丸船長として蝦夷へ航海、維新後は少参事、郡書記を歴任/廢藩後は学区取締・郡吏として教育に尽力、「北蝦夷地開拓始末書」著、[拙藏(;通称)の幼名/字/別通称/号]幼名;吉太郎/字;子明、別通称;内藏太郎/欽次郎、号;静斎、法号;文忠院

L2419 **撰藏**(せつぞう・有馬ありま) ? - ? 江後期蘭方医;緒方洪庵[1810-63]門、「牛痘新書」訳

02416 **拙三**(せつぞう・志津野しづの、)1822-8665 豊前小倉藩士;馬廻、国学者、第2次長州戦争で赤心隊を組織;長州萩への徹底抗戦主張/京都留守居役、征韓論で韓国渡航企画;発覚投獄/赦免;西南戦争に呼応;失敗、晩年撰津住吉神社の禰宜、[拙三(;通称)の名/号]名;範興、号;錦陵

E2452 **節藏**(せつぞう・手塚てつか/初姓;大築、大築弥市男)1842-8645歳 下総佐倉藩士、蘭学・英学;1856佐倉藩洋学者手塚律藏門/61手塚律藏の養子、妻;大槻盤溪3女の雪、英書より本格的翻訳1862「彼理日本紀行」共訳、67「野戦兵囊」訳、のち仙台藩に招聘/維新後大築姓に戻る;司法省勤務、[節藏(;名)の幼名/別名/号]幼名;寅三郎/別名;拙藏(;後名)、号;秋水

節藏(せつぞう・岡田) → 南涯(なんがい・岡田、儒者/講説) I 3 2 6 7

節藏(せつぞう・田村) → 筋堂(せつどう・田村たむら、故実家) L 2 4 3 4

節藏(せつぞう・村井) → 則民(のりたみ・村井むらい、儒/藩学教授) K 3 5 1 2

拙藏(せつぞう・武居) → 用拙(ようせつ・武居たけい、儒者/教育) B 4 7 3 2

拙囉豚知己陳人(せつそうとんちちんじん、戲号)→淑蔭(よしかげ・井上、国学) 4 7 0 5

2420 **雪村**(せつそん;道号・友梅ゆうばい;法諱、俗姓;一宮)1290-134657 越後白鳥臨濟僧;一山一寧門;僧童、叡山・建仁寺に修学/1307(18歳)入元;諸師に参禅;日元関係悪化のため囚獄流謫/大赦、長安南山の翠微寺住持;一寧の嗣香し法嗣/皇帝から禅師号を贈与、1329(元徳元)帰国、諸寺住持;開山/臨濟建仁寺30世、五山文学;偈頌文学を紹介、1313詩偈「岷峨集」著、「雪村和尚語録」「雪村和尚類稿」「宝覚真空禅師類藁」「宝覚真空禅師偈頌」著、[雪村友梅の号] 幻空/宝覚真空禅師

E2453 **雪村**(せつそん;道号・周継しゅうけい;法諱、俗姓;田村/佐竹)1504-1589?86? 常陸太田の禅僧(臨濟?)、絵師;周文・雪舟に私淑/中国院体宋元画を修学;独自の画風を確立、1542会津に移住、蘆名家の知遇を得る/1573(天正元)磐城三春の福聚寺住/のち雪村庵に隠棲、「風濤図」「松鷹図」「玉潤八景図」「群猿図屏風」「八仙人図」「山水図」画、「説門弟資」著、

[雪村周継の通称/号]通称;平蔵、

号;鶴船/鶴仙/鶴仙老/巖水/如圭/水孚、中居斎/舟居斎/俣籥けんやく斎

雪村(雪邨せつそん;道号)→ 道香(どうこう;法諱・雪村、黄檗僧) E 3 1 0 3

L2420 雪袋(せつたい・後藤/大聖寺屋、押野屋市兵衛長男)1818-8669 加賀金沢の商家の生/後藤家を継嗣、  
のち大聖寺屋ミツ方に婿入、商業を好まず俳人・梅室門、上方を行脚/淇亭の句空庵を継承、  
1856「卯辰四歌仙」63「聞かばや」、「かやつり草」「北日和」「三日月三吟」「蘭更句集」著、  
「樗庵麦水発句集」編、「秋風集」「句空庵随筆」「続句空日記」著、  
[雪袋(;号)の通称/別号]通称;治兵衛/次兵衛、

別号;悠平/遊平/由平/葵園舎/睦月庵/句空庵、

E2454 雪旦(せつたん・長谷川はせがわ/本姓;後藤、名;宗秀)1778-184366 江戸下谷三枚橋の彫刻大工、  
町絵師;長谷川雪嶺門、1818肥前唐津藩主小笠原長昌に随従し唐津藩絵師/1829法橋、  
1834-6斎藤月岑「江戸名所図会」の挿画で名声、名所絵を多数描く/法眼、長谷川雪堤の父、  
1798「狂歌三陀羅かすみ」1827「江戸名所花暦」31「北国一覽写」40「嵯峨八景」外画多数、  
[長谷川雪旦(;号)の通称/別号]通称;茂右衛門/長之助、

別号;長谷川雪秀/一陽庵/巖岳斎/岳斎/五楽(ごらく;俳号)

L2421 雪潭(せつたん・加藤かとう、名;義智)?-1864 常陸水戸藩士/絵師、1838進仕、  
徳川斉昭(烈公)の命で「追鳥狩絵巻物」を画く、  
[雪潭(;号)の通称]彦太郎

L2422 雪潭(せつたん;道号・紹璞しょうぼく;法諱、俗姓;吉田)1801-7373 紀伊牟婁郡太田村の臨濟僧:  
1810(10歳)同郡大泰寺桐岳門;出家、諸師參禅後美濃慈恩寺棠林門;印可を受、  
1847美濃正眼寺住持、67禅師合を受/壮烈な禅風により[雷雪潭]と称、「雪潭和尚語録」、  
[雪潭紹璞の号] 霧隠軒/眞如明覚禅師

雪潭(せつたん;道号・豊玉)→ 豊玉(ほうぎょく;法諱・雪潭、臨濟僧) 3 9 4 6

雪潭(せつたん・印牧) → 直道(なおみち・印牧かねまさ、儒者/詩) C 3 2 5 5

雪池(せつち・福沢) → 諭吉(ゆきち・福沢、藩士/幕臣/思想家) E 4 6 8 1

啜茶翁(せつちやおう) → 探元(たんげん・木村/平、絵師) T 2 6 4 0

E2455 雪中(せつちゅう・日下くさか、名;明)1768-183366 越中高岡の菓種業/代々町年寄、俳諧・雑俳を嗜む、  
狂歌も好む、寺崎鷗洲(いしゅう)と交流、1826「狐の茶袋」第二篇編、「高陵風雅後集」著、  
[雪中(;号)の字/通称/別号]字;子明、通称;茶木屋権兵衛、

別号;越の雪中/六々亭/下明/成雅

拙忠(せつちゅう・一松/淡海)→ 昔桜(せきおう・一松ひとつまつ/松/淡海、儒者) J 2 4 9 5

雪中庵(せつちゅうあん・初世) → 嵐雪(らんせつ・服部、俳人) 4 8 0 6 1654-1707

雪中庵(せつちゅうあん・二世) → 吏登(りとう・桜井、俳人) 4 9 0 4 1681-1755

雪中庵(せつちゅうあん・三世) → 蓼太(りょうた・大島、俳人) 4 9 2 0 1718-1787

雪中庵(せつちゅうあん・四世) → 完来(かんらい・大島、俳人) 1 5 5 5 1748-1817

雪中庵(せつちゅうあん・五世) → 対山(たいざん・大島、俳人) K 2 6 0 8 1787-1843

雪中庵(せつちゅうあん・六世) → 椎陰(すいん・山口、俳人) 2 3 2 6 ?-1874

雪中庵(せつちゅうあん・七世) → 鳳洲(ほうしゅう・村井、俳人) B 3 9 5 5 1814-1874

雪中庵(せつちゅうあん・八世) → 梅年(ばいねん・原田/服部、俳人) B 3 6 9 3 1826-1905

雪中庵(せつちゅうあん・九世) → 雀志(じゃくし・斎藤、俳人) G 2 1 2 7 1841-1908

雪中庵(せつちゅうあん・出島) → 天山(てんざん・出島、俳人) D 3 0 5 8 1776-1842

雪中庵(せつちゅうあん・奥) → 猛雅(たけまさ・奥おく、藩士/砲術家) W 2 6 3 4

雪中花(せつちゅうか) → 大睡(だいすい・岸、商人/俳人) B 2 6 7 1

雪忠雅(せつちゅうが) → 雪忠雅(ゆきちゅうが;号、姓;星、歌人) E 4 6 8 8

雪花堂(せつちゅうどう) → 大睡(だいすい・岸、商人/俳人) B 2 6 7 1

N2449 雪頂(せつちよう・通称;世並屋茂平)?-? 安藝広島の俳人;和切門?、1831鳳郎「いはひ草」入、  
1841和切「養花集」入、軸「夜半翁画図写」(鳴峰画)、[下駄提て汐ふむ路や荻の声](養花集)

02430 雪潮(せつちよう・常田つねだ、) ? - 1842 若狭大飯郡高浜の元興寺14世、歌人

雪釣(せつちよう;号) → 大乘(だいじよう;法諱・三玄;字、曹洞僧) K 2 6 3 8

雪頂(せつちよう・藤井) → 春蔭(はるかげ・藤井ふじい、旅館業/国学) K 3 6 7 4

雪朝庵(せつちょうあん;号) → 昌隠(昌胤しやういん・里村[;南家]、連歌宗匠) F 2 2 1 4  
 雪朝庵(せつちょうあん) → 如備子(にらひし、斎藤親盛/仮名草子作者) G 3 3 2 3  
 雪朝斎(せつちょうさい) → 清(きよし・渡辺わたなべ/周溪、絵師/故実) V 1 6 6 5  
 雪朝舎(せつちょうしゃ) → 莎笠(さりりゅう、俳人) L 2 0 6 6

E2458 撰津(せつ・二条太皇太后宮にじやうたいこうたいごうぐう、陸奥守藤原実宗女)?-? 平安後期女房歌人、

1077頃禎子[禎子]内親王(白河天皇皇女)家に出仕、  
 のち二条太皇太后宮令子内親王(白河天皇皇女)家女房、  
 1094高陽院七番歌合・1102堀河院艶書合・1118-19内大臣忠通歌合など参加、  
 家集「撰津集」、寂超「後葉集」(59)/続詞花集/雲葉集入、  
 勅撰14首;金葉(49/193/285/541)詞花(37)新勅(357/537/1024)続後撰(643)玉(2718)以下、  
 [散りつもる庭をぞ見まし桜花風よりさきに尋ねざりせば]、

(金葉;49/風の吹く直前の花盛を見た喜び)

[後拾遺のいできたりける時(1086) 二条の大きおほいきさき(太皇太后)の宮に奉りける、  
 なほすべきことありて申しいでける時に仰せごとにてよみてつかはしける、

尋ねつつかきあつめずはことのはもおのがちりぢりくちやしなまし](続詞花;745)、

[二条太皇太后宮撰津(;女房名)の通称]

斎院撰津/前斎院の撰津/皇后宮撰津/禎子内親王家撰津/斎院の津の君  
 禎子内親王家撰津(新勅撰)

撰津(せつ・伊東) → 武明(たけあき・伊東/鈴木、国学/剣術) O 2 6 2 2  
 撰津(せつ・藤島) → 宗順(むねのぶ・藤島、神職/歌人) C 4 2 1 4  
 撰津(せつ・新免) → 則直(のりなお・新免しんめん、神職/歌人) H 3 5 0 8  
 撰津(せつ・井上) → 頼武(よりたけ・井上いとうえ、神職/歌人) L 4 7 3 7  
 撰津(せつ・木村) → 芳衡(よしひら・木村きむら/堀江、藩士/歌) M 4 7 4 1  
 撰津(せつ・佐伯) → 惟明(これあき・佐伯さえき、神職/国学) Q 1 9 8 6  
 撰津(せつ・民上) → 良寛(よしひろ・民上たみのえ、神職/国学) N 4 7 8 9  
 撰津(せつ・布喜川) → 親英(ちかひで・布喜川ふきがわ/永井、庄屋/歌) D 2 8 5 3  
 撰津三郎(せつさぶろう) → 兼昌(かねまさ・源みなもと、廷臣/歌人) 1 5 7 4  
 撰津守(せつのかみ・坂井) → 村盛(むらもり・坂井さかい、武将/連歌) D 4 2 2 3  
 撰津守(せつのかみ・松平) → 義行(よしゆき・松平/徳川、藩主/和漢学) H 4 7 8 8  
 撰津守(せつのかみ・喜入) → 忠統(ただつぐ・喜入きいれ、武将/家老/歌) W 2 6 7 1  
 撰津守(せつのかみ・齋藤) → 三友(みつとも・齋藤さいとう、幕臣/国学) J 4 1 1 7  
 撰津守(せつのかみ・木村) → 芥舟(かいしゅう・木村喜毅、幕臣/提督) I 1 5 7 2  
 撰津守(せつのかみ) → 信郷(のぶさと・荷田/羽倉、神職/国学) B 3 5 5 4  
 撰津守(せつのかみ・山本) → 忠告(ただのり/ただつぐ・山本/加賀美、神職) Q 2 6 4 2  
 撰津守(せつのかみ・中西) → 久受(ひさつぐ・中西/大中臣、神職/歌) B 3 7 3 8  
 撰津守(せつのかみ・杉浦) → 菅満(すがまる・杉浦さざうら、国満男/神職) L 2 3 0 9  
 撰津守(せつのかみ・松平) → 義建(よしたつ・松平/高須、藩主/歌) K 4 7 5 0  
 撰津守(せつのかみ・堀田) → 正教(まさあつ・堀田/紀/伊達、藩主/歌) B 4 0 1 5  
 撰津守(せつのかみ・宮原) → 義直(よしなお・宮原みやはら、旗本/高家/歌) K 4 7 5 8  
 撰津守(せつのかみ・伊高) → 重躬(しげみ・伊高いだけ/田部、神職/歌) N 2 1 3 1  
 撰津守(せつのかみ・溝口) → 直静(ちよくせい・溝口みぞぐち、幕臣/歌人) L 2 8 6 8  
 撰津守(せつのかみ・中島) → 多頼(おおより・中島なかじま、神職/歌人) D 1 4 8 0  
 撰津守(せつのかみ・井上) → 長盈(ながみつ・井上いとうえ/名越、神職) L 3 2 0 6  
 撰津守(せつのかみ・伊藤) → 道信(みちのぶ・伊藤いとう、神職/国学) L 4 1 1 7  
 撰津守(せつのかみ・大江) → 知言(ともこと・大江おおえ、神職/歌人) U 3 1 4 8  
 撰津守(せつのかみ・野間) → 頼之(よりゆき・野間のみ、陪臣/歌人) O 4 7 4 7  
 撰津守(せつのかみ・津守) → 国美(くによし・津守つもり、神職/歌学) D 1 7 3 6  
 撰津守(せつのかみ・菊池) → 安統(やすつぐ・菊池きくち/常磐井、神職/国学) F 4 5 8 3  
 撰津守(せつのかみ・山田) → 盛実(もりざね・山田やまだ、神職/歌人) L 4 4 8 1  
 撰津正(せつしょう・小森) → 義貞(よしさだ・小森こもり、和算家) K 4 7 3 7

- 撰津正(せつしょう・林) → 茂樹(しげき・林はやし、神職/国学者) Z 2 1 7 2  
撰津僧都(せつそうず) → 源運(げんうん;法諱、真言僧) H 1 8 7 9  
撰津親秀(せつちかひで) → 親秀(ちかひで・藤原ふじわら、武家/連歌) B 2 8 6 9  
撰津法眼(せつほうげん) → 源賢(げんけん、天台僧/歌人) B 1 8 6 6  
撰津法眼(せつほうげん) → 広出(こうしゅつ・頭井あきらい、歌人) J 1 9 5 7
- E2456 雪庭(せつてい;道号・春積しゅんせき;法諱)?-? 1624存 武蔵の曹洞僧;竜室義門門/法嗣、  
武蔵大里郡久下村の東竹院4世、1624(寛永元)「東竹院記」著
- E2457 雪鼎(せつてい;号・恵美;法諱、別号;玉幹)?-? 江中期享保1716-36頃京の真宗大谷派円徳寺住職、  
詩人、画・法帖・銅器を蒐集、江村北海と交流、「空華庵集」著
- E2459 雪汀(せつてい・樋口ひぐち、栄清男/本姓;菅原) 1688-1777 90 父は相模小田原藩士、江戸京橋に生、  
儒者;林鳳谷門、1705(18歳)小田原藩士;20人扶持/のち父を継嗣;2百石、  
歴史・系譜の学に長ず、1764「国朝大業広記」、「大久保総譜」著、  
[雪汀(;号)の名/字/通称/諡号]名;栄芳/仰、字;子用、通称;弥門、諡号;頃誉は先生
- E2460 雪鼎(せつてい・月岡つきおか/本名;木田、名;正信) 1710-86 77 近江日野の絵師;高田敬輔門、  
西川祐信の画風を慕う/宝暦1751-64頃大阪の町絵師として活躍;肉筆美人画に長ず/法眼、  
月岡派を形成/狂歌を嗜む、雪斎・雪溪(共に絵師)の父/岡田玉山・墨江武禅・蔀関月の師、  
1755「絵本和歌園」60「絵本百将全伝」61「絵本菊の水」64「絵本武者競」72「絵本千歳春」画、  
「女艶姿大鑑」「女大らく」「和漢名家画繡」「女庭訓御所文庫」「滑稽雌黄」「扶桑画譜」外面多、  
[月岡雪鼎(;号)の字/通称/別号]字;大溪、通称;馬淵丹下、  
別号;信天翁/桃漪/露仁斎/錦童
- L2423 雪亭(せつてい・片岡かたおか、随古斎ずいこさい)?-? 江中後期;天明寛政1781-1801頃大阪の狂歌作者、  
鳥路観貞峨(紀海音)・歌縁斎貞堂の門流に属す/一派の門弟多数を率る、  
1794「大源山八幡宮奉納夷曲集」編/96「狂歌知音百人一首」編
- L2424 節亭(せつてい・松山まつやま、名;庶)?-? 江後期近江大津丸屋町の儒者/詩文・書画に長ず、  
1814(文化11)刊「節亭詩」著、  
[節亭(;号)の字/通称]字;公民/渚人、通称;吟蔵
- L2425 雪亭(せつてい・山本やまもと、名;恒) 1808-84 77 佐渡の町年寄山本子温の孫、佐渡新町の棋士、  
碁;井上因碩門/2段、書・琴も嗜む、「雪亭棋譜」「雪亭小稿」「老圃私言」著、  
[雪亭(;号)の字/通称/別号]字;士徳、通称;半右衛門、別号;辰斎しんさい/均斎/二楽/長嘯軒
- E2461 雪堤(せつてい・長谷川はせがわ、長谷川雪旦長男/本姓後藤) 1813(or1819)-82 70-64 江戸下谷三枚橋生、  
絵師;父雪旦門、のち御徒町に転居、名所画を得意、1831「日光山一覽」38「東都歳事記」画、  
1839「声曲類纂」/40「嵯峨八景」(;父と)/45「調布玉川画図」/54中路定俊「成田名所図会」画、  
1867「日蓮大士真実伝」画、「つれづれの友」外面多数、  
[長谷川雪堤(;号)の名/別号]名;宗一、別号;長谷川雪汀/松斎/巖松斎/梅紅
- 雪艇(せつてい・菱川) → 清春(きよはる・菱川、絵師) Q 1 6 1 7  
雪庭(せつてい・坂内) → 山雲子(さんうんし、坂内直頼、国学/歌) E 2 0 1 2  
雪汀(せつてい・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
雪汀(せつてい・桂山) → 彩巖(さいがん・桂山かつらやま、幕府儒官) 2 0 0 2  
雪亭(せつてい・五味) → 可都里(かつり・五味ごみ、俳人) C 1 5 5 6  
雪汀園(せつてい・えん) → 忠成(ただしげ・山根やまね、藩士/俳人) P 2 6 5 9  
雪蹄苑(せつてい・えん) → 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、国学者/狂歌) E 4 2 1 9  
節亭琴驢(せつてい・きんろ) → 山鳥(さんちやう・岡おか、戯作者) E 2 0 5 7  
雪庭諮道禅師(せつてい・しどうぜんじ) → 諮道(しどう・石村いしむら、僧/歌人) N 2 1 3 5  
雪暎舎(せつてい・しゃ) → 木然(2世もくねん・雪暎舎、俳人) B 4 4 0 7  
雪泥処士(せつてい・しよし) → 鴻斎(こうさい・石川いしかわ、儒者/詩/画) J 1 9 0 8
- G2498 雪点(せつてん) ? - ? 京の俳人;淡々門、1728柳岡「万国燕」31句入、  
[夜よと云ふ夜岩に戸はなし神楽歌](万国燕;31/岩戸隠れの神楽)
- 雪典(せつてん・桂) → 宗信(むねのぶ・桂かつら、絵師) C 4 2 1 3
- L2426 雪淀(せつてん) ? - ? 俳人、1744頃百万に「八題集」編纂を進言  
接伝(せつてん・臼井) → 接伝(しょうてん・臼井うすい/平、神職) L 2 2 1 0



- E2462 **雪斗**(せつと・万花庵/万花坊、別号;雪国)?-? 江中期宝暦1751-64頃の雪門俳人:蓼太門、  
1753「金平百韻」編・序
- L2427 **節度**(せつど・中万字屋) ? - ? 江後期江戸新吉原妓楼中万字屋の主人/俳人、  
酒井抱一と交流、1826「百羽かき」編(;遊女玉菊の追善集)  
雪奴(せつど→せつぬ) → 荏丹(そたん、高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
- N2464 **雪島**(せつとう) ? - ? 俳人;1703不角「広原海枕つみ」入、  
[労瘵(ろうがい)の閨(みや)あのを牛梁(うしむね)うばりは落ちまい歎(なげ)か](広原海/病の娘は天井の太い梁さえ不安)
- E2463 **雪凍**(せつとう) ? - ? 俳人、1716風葉「江戸筏」天巻第四独吟歌仙入、  
[明けゆけばあづまからげの千鳥哉](江戸筏;109天巻第四歌仙発句)、  
(あづまからげは着物の裾を帯に挟む姿/夜中中飲み明かした酔漢の比喩)
- L2428 **雪刀**(せつとう・池田いけだ) ? - ? 江中期筑後善導寺村の俳人:野坡門、  
承德711-16頃筑紫行脚の野坡を迎え屢々連句、1717「百曲」編、  
善導寺内に師野坡の追善碑を木而・市山らと建立
- L2429 **雪堂**(せつどう;道号) ? - 1695 尾張名古屋の臨濟宗白林寺7世住寺:  
1684尾張知多郡篠島に配流、1688「尾張篠島記」著、「心意気の説」著
- L2430 **雪堂**(せつどう・黒沢くろさわ、名;惟直、雉岡ちこうの末男) 1758-1824 67 武蔵児玉の儒者:父門、  
田安家侍読;父の後を継ぐ、1793幕命で朝士に準ず/江戸昌平覺番員の長に抜擢;  
学制の整備に功績、1805(文化2)「司林祇役志」著、  
[雪堂(;号)の字/通称]字;正甫(まさすけ)、通称;正助
- L2431 **雪堂**(せつどう・笠家かさや/笠りゅう、逸志男)?-? 江後期寛政1789-1801頃江戸の俳人:存義門、  
1796父逸志50回忌追善集「俳諧追善集」編、「雪堂点取帳」評
- E2464 **拙堂**(せつどう) ? - ? 俳人、1812白雄「俳諧寂栞」補説刊
- 2421 **拙堂**(せつどう・斎藤さいとう、名;正謙、増村作蔵正修[如山]2男) 1799-1867 69 父が津藩士斎藤家継嗣、  
江戸柳原の伊勢津藩邸に生/儒;父門/昌平覺入学;古賀精里門、1819藩校有造館儒員試補、  
右筆格/津住;藩主侍講/禄2百石、1841郡奉行/44藩校督学、藩校拡充に尽力:経政家的活動、  
武技鍛錬・蘭学・医学にも配慮/詩歌に長ず、1859茶磨山荘に退隠、門弟は文靖先生と諡す、  
1830・35「拙堂文話」31「救荒事宜」37「土道要論」43「海防策」51「月瀬記勝」54「余滴甲集」、  
「拙堂文集」「拙堂歌集」「拙堂詩話」「拙堂兵話」「京華游録」「作文楷梯」「韓蘇集」外著多数、  
[拙堂(;号)の字/通称/別号]字;有終、通称;徳蔵、別号;鉄研/拙翁、諡号;文靖先生
- L2432 **節堂**(せつどう・十河そごう、名;樵) 1799-1868 70 讃岐の篆刻家、大坂長堀の北街に移住;篆刻業、  
書・琴に長ず、晩年は高松に帰る、1842「大日本古印史」編、  
[節堂(;号)の字/通称/別号]字;山民/温卿、通称;恭平/龔平(きょうへい)/鈍作、  
別号;拙堂/王蘇山人/四竹/飯山/驍庵(かくあん)/鉄心心史/今時狂生/不求主人
- L2495 **雪堂**(せつどう・堀内ほりうち) ? - ? 江後期歌人、医/歌;清水浜臣門、幕臣?、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[ほととぎすをりあはれにも聞ゆなり棟(たけ)あふかつ散るむらさめの空]、  
(大江戸倭歌;夏462/雨中郭公)、  
[もののふのいさめる駒に声かけてやとうつ鞭のたけくも有るかな](同;雑1811)
- L2433 **節堂**(せつどう・小林こばやし、名;巖) 1816-38 早世 23 江戸の儒者:藤森弘庵・安積良斎門、  
「尚友軒遺稿」著、  
[節堂(;号)の字/通称]字;魯瞻、通称;寿作/恭四郎
- L2434 **節堂**(せつどう・田村たむら、名;敬則)?-? 江後期江戸下谷御徒町の故実家、  
「鳥目之記」「装束図説」「弓馬故実撮記」「年賀之次第」「産所胎衣納道具之次第」著、  
[節堂(;号)の通称/別号]通称;節蔵、別号;如雪堂
- 雪堂(せつどう) → 拾翠(しゅうすい、俳人) H 2 1 7 3
- 雪堂(せつどう・石塚) → 確齋(かくさい・石塚いづか、儒者/地理) H 1 5 2 6
- 雪堂(せつどう・志村) → 無倫(むりん・志村、俳人) D 4 2 2 8
- 雪堂(せつどう・松下) → 為運(ためゆき・松下まつした、藩士/和学) Z 2 6 5 6
- 雪堂(せつどう・能美) → 洞庵(とうあん・能美のうみ、医者) 3 1 8 3
- 雪堂(せつどう・明石庵) → 白牛(はくぎゅう・明石庵、医者/俳人) C 3 6 9 3

- 雪堂(せつどう・木村) → 逸志(いし・木村・笠家、俳人) B 1 1 4 3  
 雪堂(せつどう・轍) → 心祇(しんぎ・轍、俳人) D 2 2 7 6  
 雪堂(せつどう) → 無倫(むりん・志村しむら、僧/俳人) D 4 2 2 8  
 雪堂(せつどう・敬阿弥) → 靖(やすし・藤井ふじい雪堂/木村、絵師) G 4 5 5 2  
 雪堂(せつどう・西山) → 拙斎(せつさい・西山/坂本、医儒/詩歌) E 2 4 3 0  
 雪堂(せつどう・疋田) → 松塘(しょうとう・疋田/藤原、藩家老/詩) R 2 2 5 5  
 雪堂(せつどう・山田) → 方雄(まさお・山田やまだ/源、神職/歌人) T 4 0 4 7  
 雪洞(せつどう) → 寒翠(かんすい・稲垣いながき、儒者) R 1 5 1 3  
 雪洞(せつどう) → 蕪村(ぶそん・与謝・谷口、俳人/絵師) 3 8 1 1  
 説堂(せつどう;道名) → 言国(ときくに・山科/藤原、廷臣/歌人) J 3 1 1 3  
 説道(せつどう・勸修寺) → 政房(まさふさ・万里小路、廷臣/記録) H 4 0 1 5  
 拙堂(せつどう、;黄檗僧) → 紫笛(してき・如雲舎じょうんしゃ、狂歌) F 2 1 2 1  
 拙堂(せつどう・三宅) → 济美(みちよし・三宅みやけ、幕臣/詩文) C 4 1 8 6  
 拙堂(せつどう・大久保) → 要(かなめ・大久保おおくぼ、藩士/兵学) O 1 5 3 3  
 節堂(せつどう・高橋) → 以一(ゆきかず・いつ・高橋、商家/俳人) E 4 6 3 9  
 雪燈下(せつとうか・河合) → 見風(けんぷう・河合かわい、俳人/歌) C 1 8 9 7  
 節頭斎(節東斎せつとうさい) → 有儘(ゆうじん・東条とうじょう、藩士/俳人) C 4 6 7 8  
 拙道人(せつどうじん・小代) → 布水(ふすい・小代こしろ、藩士/儒詩) C 3 8 8 2
- N2440 拙堂法師(せつどうほうし) ? - ? 狂歌;1785刊「後万載集」1句入、  
 [福德の宝と思へのらむすこいつも親父にもらふ目の玉](後万載;748/放蕩なる男子へ)
- 節篤(せつとく・六人部) → 筋篤(ときあつ・六人部むとべ/室谷、神職/歌) W 3 1 6 3  
 雪登斎(せつとさい) → 近儔(ちかとも・松平、藩主/俳人) B 2 8 3 4  
 雪任子(せつにんし・湯浅) → 得之(とくし・湯浅ゆあさ、和算家) K 3 1 8 1  
 雪奴(せつぬ・高柳) → 荏丹(そうたん、高柳/鈴木、医者/俳人) C 2 5 4 8
- L2435 雪年(せつねん・戸川とがわ) ? - ? 江後期江戸牛込富士見馬場の俳人、  
 1860(万延元)「ふじみ集」編、  
 [雪年(;号)の通称/別号]通称;祐右蔵ゆうざう、別号;白梅園
- 節之進(せつのしん・竹村) → 東野(とうや・竹村、儒者/藩校教授) H 3 1 5 2  
 節之進(せつのしん・林) → 陸夫(みちお・林はやし、国学/歌人/軍人) K 4 1 1 4
- E2465 雪馬(せつば・尋跡斎じんせきさい/尋雪斎)?-? 江後期文化1804-18頃大阪の絵師、  
 読本滑稽本の挿画、1806鬼武「癡漢三人伝」画/1808万亀「久智野石文くちのいしぶみ」画
- 雪白主人(せつぱくしゅじん) → 友左坊(ゆうさぼう・山本やまもと、俳人) B 4 6 8 4  
 雪盤道無(せつばんどうむ) → 端愿(たんげん;道号・元珠;法諱、曹洞/黄檗/真言僧) T 2 6 3 8  
 雪尾(せつび、大夢庵) → 毛越(もうおつ、俳人) 4 4 4 5  
 説夫(せつふ・遠藤) → 大倉(だいそう・遠藤、医者/詩歌) K 2 6 5 6  
 雪父(せつぷ) → 釣雪叟(ちようせつそう、漢学) J 2 8 2 6  
 雪芙蓉道人(せつふようどうじん) → 雲山(うんざん・山崎やまさき、絵師/書) D 1 2 7 3  
 雪聞(せつぶん) → 雪聞(せつもん;法諱、曹洞僧) L 2 4 3 9  
 雪平(せつへい・永井) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井、神職/国学) B 2 4 3 4  
 雪屏(石屏せつぺい・飯島) → 文常(ふみつね・飯島いじま、絵師:菊の絵) D 3 8 9 0  
 節平(せつへい・石原) → 馬年(ばねん・石原いしはら、藩士/俳人) F 3 6 5 2  
 節甫(せつぷ・西村) → 馬曹(ばそう・西村にしむら、歌人) E 3 6 7 6
- L2436 雪峯(せつぼう・永井ながい、通称;大次郎)1781-1848 68 大坂尼崎町二丁目の絵師、  
 1813「万家人名録」画
- L2437 雪峰(せつぼう・佐々木ささき、名;鏗こう)1810-73 64 美作勝田郡吉野の儒者;津山藩に出仕;  
 10数年で致仕、帰郷;育英舎を開き教授;門弟多数、文・書に長ず、  
 森田節斎・山田方谷と交流、「還読書屋文抄」「出処論」著、  
 [雪峰(;号)の字/通称]字;曾瑟、通称;裕四郎
- L2438 雪篷(せつぼう・林はやし、名;陳、毛川2男)1821-99 79 漢学者;維新後に越前勝山藩権大参事、  
 「蝶戯余花楼之詞」書、

[雪篷(；号)の字/通称/法号]字；希通きは、通称；慎助、法号；寒江院

雪峰(せつぼう・岸) → 岸礼(がくれい；号、絵師) R 1 5 8 6  
説方(せつぼう/ときかた・藤原) → 頼佐(よりすけ・藤原ふじわら、廷臣/歌人) I 4 7 7 5  
説房(せつぼう・上杉) → 説房(ときふさ・上杉・藤原、武将/歌人) J 3 1 9 6  
説望(せつぼう・町尻) → 説望(かねもち・町尻まちじり/藤原、廷臣/神道) V 1 5 7 2  
雪坊(せつぼう；号) → 桑巖(そうごん；字・恵実；法諱、真宗本願寺派僧) H 2 5 3 3  
絶峰(絶方せつぼう；道号) → 祖斎(そさい；素斎そちよう；法諱・絶峰、曹洞僧) K 2 5 0 6  
雪篷楼主人(せつぼうろうしゅじん) → 漁隠(ぎょいん・大井おおい、藩士/文筆) N 1 6 1 0  
雪木庵(せつぼくあん) → 宿成(やどなり・雪木庵、狂歌) D 4 5 8 7  
雪木庵宿成(せつぼくあんやどなり、雪木宿成) → 宿成(やどなり・雪木庵、宿屋/狂歌) D 4 5 8 7  
雪本(せつほん・永井) → 精古(せいこ/あきひさ/きよひさ・永井、神職/国学) B 2 4 3 4

N2488 屑麿(せつまる・田中たなか) ? - ? 江後期；歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[うれしさを袖につつみて見る度に思ひぞまさる水茎の跡](大江戸倭；恋1397/見書恋)

雪万(せつまん) → 雁空(がんくう・関せき、俳人) Q 1 5 2 8  
雪鳴(せつめい・天野) → 恥堂(ちどう・天野あまの、儒者/詩人) F 2 8 0 1  
雪明窓(せつめいそう) → 羊素(ようそ・鈴木すずき、俳人) B 4 7 4 1

L2439 雪聞(せつもん；法諱) ? - ? 江中期近江今津村の曹洞宗曹沢寺の住持、  
今津村は加賀藩前田家の領地；曹沢寺は前田利家妻の芳春院の寄進、  
1690「曹沢寺縁起」/1703(元禄16)「曹沢寺雪聞書状等」著

E2467 雪門(せつもん・答坊) ? - 1776 仙台の俳人；雁岩の友人、  
1778三回忌追善集「封の儘ふうのまま」(；門人秋来[堀越宣治のぶはる]編)

雪門(せつもん；道号・元亨) → 元亨(げんこう；法諱・雪門、黄檗僧) I 1 8 7 4  
撰門(せつもん；法諱) → 善筑(ぜんちく・竹尾/源/斎藤、浄土僧/故実) G 2 4 3 3  
雪友(せつゆう・片桐) → 致知(ゆきとも・片桐かたぎり、商家/歌人) G 4 6 7 4  
雪雄(せつゆう) → 梅室(ばいしつ・桜井、研刀職/俳人) 3 6 0 4  
雪雄(2世せつゆう) → 普川(ふせん、俳人) D 3 8 0 5  
雪友庵(せつゆうあん) → 元宝(もととみ・齋藤さいとう、藩士/国学者) K 4 4 0 5  
雪遙(せつよう・松本) → 明友(あきとも・松本まつとも/源、藩士/歌) I 1 0 4 8  
薛羅館(せつらかん) → 重三郎(じゅうざぶろう・蔦屋、書肆、狂歌) 2 1 4 2  
設楽堂(せつらくどう、しだらどう) → 乙州(おとくに・川合、俳人) 1 4 8 9  
雪瀾(雪蘭せつらん・平野/大串) → 元善(もとよし・大串おおぐし/平野、儒者) E 4 4 7 0  
雪蘭居(せつらんきょ) → 支明(しめい・先住、俳人) F 2 1 8 4  
歎醜陳人(せつりちんじん) → 繁(しげる・小枝さえだ、露木、幕臣/読本作者) D 2 1 4 1  
歎醜間士(せつりかんし) → 繁(しげる・小枝さえだ、露木、幕臣/読本作者) D 2 1 4 1  
雪柳庵(せつりゅうあん) → 文和(ぶんわ・雪柳庵、俳人) G 3 8 8 7  
雪柳舎(せつりゅうしゃ、雪柳人) → 完来(かんらい・大島・富増、藩士/俳人) 1 5 5 5  
雪旅(せつりょ・増山) → 正賢(まさかた・増山ましま、藩主/書画) B 4 0 9 0

E2469 切臨(せつりん・一華堂) 1609 - 1680 72 京の時宗僧；1607頃七丞道場の一華堂乗阿門、  
和学者；乗阿から古今集・源氏物語を受講、1615「藤川百抄」著、「伊勢物語集註」編、  
1650「源義弁引抄」57「大和物語首書」58「源氏綱目」、「一遍上人安心集」一華抄著、  
「女庭訓往来」編/「和歌秘伝抄」一花堂読曲清濁「時宗安心大要」念仏往生要決著外多、  
[一華堂切臨(；号)の別号] 持阿上人

雪林(せつりん・三宅) → 澹庵(たんあん・三宅、藩士/儒者/歌人) H 2 6 8 7  
雪林亭(せつりんてい) → 義路(よしみち・服部はっとり、藩士/歌人) O 4 7 5 5  
雪嶺(せつれい・半井/和氣) → 卜養(ぼくよう・半井、宗松卜養、医/俳) 3 9 6 7  
雪嶺(せつれい・永瑾) → 永瑾(えいきん；法諱・雪嶺；道号、臨濟僧/詩) 1 3 2 1  
薛荔園(せつれいえん) → 錦江(きんこう・徳田とくだ、藩士/儒者) J 1 6 1 2  
薛荔園(せつれいえん) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師/俳人) H 3 1 1 1  
雪嶺庵(せつれいあん) → 鷲白(ろはく・黒岩くろいわ、宿経営/俳人) C 5 2 3 4

- E2470 **雪廬**(せつろ・花園) ? - ? 奥州岩城の俳人;  
1669風虎催「百番俳諧発句合」左方に参加;玖也判  
雪廬(せつろ・河北) → 藤茂(ふじげ・河北かわきた/度会、師職/国学) I 3 8 0 8
- E2471 **雪楼**(せつろう・山宮やまみや/さんぐう、名;維深/惟深これみ) ?-? 江前期江戸の儒者;室鳩巢門、  
京の三宅尚斎門、崎門きもん学を修学、説辞・国学・歌に長ず/江戸帰郷;開塾、  
享保1716-36頃羽後亀田藩に出仕、儒臣となる、のち武蔵川越藩・上野高崎藩にも出仕、  
「雪楼文集」「感興詩解」「八朝紀聞」「行余雜稿」「忠精筆記」「思積筆記」「殷有三仁章講義」、  
「歳之名残」著/1733「皇統授受図」著/1743「日本八朝紀聞」編/48「和韓筆談薰風編」編、  
[雪楼(;号)の字/通称/別号]字;仲淵/源允、通称;官兵衛、別号;翠漪/翠猗い/黙養
- E2472 **雪楼**(せつろう・中島なかじま、名;漁) 1745-1825<sup>81</sup> 代々丹波亀山藩儒、  
儒;高木竜洲/岡白駒・那波魯堂門、京で講説業、  
亀山半主松平信岑に招聘され藩校の学務を執る;藩主五代の侍講を兼ねる、  
禄百石;「史徴」校訂の功で50石加賜、詩人/音楽・仏典にも精通、  
1799「史徴」校訂/1800「雪楼詩鈔」、「雪楼集」著、  
[雪楼(;号)の字/通称]字;潜叟、通称;僊太夫/仙太夫
- N2455 **雪和**(せつわ) ? - ? 俳人;1691不角「二葉之松」入(80)
- 02420 **是伝**(せでん;法諱) 1787 - 1866<sup>80</sup> 陸奥南岩手郡米内村の真宗大谷派本誓寺25世、  
国学;陸奥の三輪家入門、紫波郡彦部村松田にあった寺祖是信の墓を米内村三ッ割に移す  
世徳(せとく・枝吉) → 神陽(しんよう・枝吉えだよし、儒者/勤王派) Q 2 2 0 2  
世徳(せとく・松川) → 東山(とうざん・松川まつかわ、儒者) E 3 1 5 5  
世篤(せとく・関口) → 黄山(こうざん・関口せきぐち、儒者/書家) G 1 9 3 4  
消奈王(せなのおう/消奈公せなのきみ/しょうなの) → 行文(ぎょうもん・消奈君、万葉歌/詩人) C 1 6 8 6  
瀬戸之助(せとのすけ・中島) → 通軒(つうけん・中島なかじま、儒者) 2 9 2 6
- L2440 **銭丸**(ぜにまる・一文舎いちもんしゃ、通称;綿屋清七郎、姓;木村) ?-? 文化1804-18頃大阪道頓堀相合橋住、  
狂歌:河丸門/蛙目連、1814「狂歌富士賛」編、「岩屋村紅葉紀行」「多田院屏風岩紀行」著  
銭屋金埒(ぜにやきんらち) → 金埒(きんらち・馬場、両替商/狂歌) E 1 6 9 0  
是然(ぜねん;字) → 日春(にっしゅん;法諱・中道院、日蓮僧) E 3 3 1 3  
世璠(せはん・片山) → 兼山(けんざん・片山かたやま、儒者/経学) 1 8 1 5  
世美(せび・木村) → 高敦(たかあつ・木村毅斎、幕臣/巷談研究) C 2 6 4 9  
是非庵(ぜひあん) → 舎螯(しゃごう・是非庵、俳人) W 2 1 2 8  
是非庵(ぜひあん・淀川) → 盛品(もりただ・淀川よどがわ、藩士/民俗調査) F 4 4 6 2  
是非庵平什(ぜひあんへいじゅう) → 紀逸(きいつ・3世きいつ・巻、俳人) 1 6 7 3  
是非斎(ぜひさい) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5  
瀬兵衛(せひょうえ・永田) → 政純(まさずみ・永田ながた、藩士/右筆) C 4 0 9 9  
瀬兵衛(せひょうえ・白崎) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7  
瀬兵衛(せひょうえ・星野) → 地口有武(ぢぐちのありたけ、旗本/狂歌) D 2 8 4 4  
瀬兵衛(せひょうえ・谷) → 左中(さちゅう・谷たに、幕臣) K 2 0 4 6  
瀬兵衛(せひょうえ・石川) → 篤記(あつき・石川いしかわ、国学者) E 1 0 5 4  
瀬兵衛(せひょうえ・中里) → 黙堂(もくどう・中里なかざと、篆刻家) B 4 4 0 6  
瀬兵衛(せひょうえ・北条/伊勢) → 小湊(しょうすう・北条/伊勢、藩士/詩) K 2 2 1 7  
世敏(せびん・毛利) → 元徳(もとりのり・毛利/大江、藩主/歌人) D 4 4 8 6  
世父(せふ・斎藤) → 大雅(たいが・斎藤さいとう、藩士/儒者) J 2 6 4 0  
是風(ぜふう・長谷川) → 敬(けい・長谷川はせがわ、藩士/尊攘論) F 1 8 2 0  
是福庵(ぜふくあん) → 茂作彦(もさひこ・三条/長山、絵師/狂歌) B 4 4 1 9  
世文(せぶん・長) → 梅外(ばいがい・長/長谷、詩人/尊攘派) 3 6 8 4  
世文(せぶん・奥田) → 容安斎(ようあんさい・奥田おくだ、医者/詩文) 4 7 6 1  
世文(せぶん・竜) → 鏡湖(きやうこ・竜りゅう、儒者/詩) N 1 6 6 8  
世文(せぶん・林/新井) → 文山(ぶんざん・新井/林、儒/詩文/藩士) F 3 8 4 2  
世文(せぶん・桃井) → 翠庵(すいあん・桃井/桃/坂根、藩儒/詩) 2 3 2 0
- L2441 **勢平**(せへい/なりひら・吉井よい/由井) ?-? 江中期大阪歌舞伎作者;合作/1766-75頃活動、

1766「適あはれ討三国一」/69「愛物三番続」/73「松下嘉平治連歌評判」/75「競はなくらべ伊勢物語」著

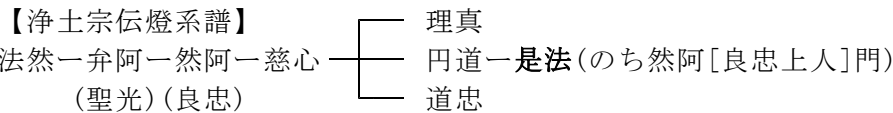
L2442 瀬平(せへい・林はやし) ? - ? 江後期嘉永1848-54頃の京西陣の織屋:錦織名手、北船橋町住、後年松平家の招聘で岩代会津若松に赴く、「日吉山王大宮御神輿御戸帳一式織方仕法帳」著、[瀬平(;名)の通称/屋号]通称;金目大師、屋号;伊筒屋

- 瀬平(せへい・片山) → 敬斎(けいさい・片山かたやま、書家) F 1 8 6 4
- 瀬平(せへい・長沼) → 為豊(ためとよ・長沼ながぬま、書家) S 2 6 5 9
- 瀬平(せへい・石原) → 文樵(ぶんしょう・石原いしはら、俳人) F 3 8 7 5
- 世平(せへい・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2
- 勢平(せへい・近藤) → 国昌(くにまさ・近藤こんどう、国学者) E 1 7 1 9

L2443 瀬兵衛(せべえ;通称・鳥居とりい、名;忠蔵)?-? 江後期水戸藩士:1837家督継嗣、1803「柳営両山勤服日次秘鑑」著、瀬兵衛忠順の養父

- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・永田) → 政純(まさずみ・永田ながた、藩士/右筆) C 4 0 9 9
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・星野) → 地口有武(ぢぐちのありたけ、旗本/狂歌) D 2 8 4 4
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・伊南) → 芳通(よしみち・伊南いなみ、軍学者) H 4 7 3 6
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・石川) → 篤記(あつき・石川いしかわ、国学者) E 1 0 5 4
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・谷) → 左中(さちゅう・谷たに、幕臣) K 2 0 4 6
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・白崎) → 琴路(きんろ・白崎、酒造業/俳人) I 1 6 3 7
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・下石) → 道二(どうに・下石おろし、武道;槍術家) G 3 1 8 4
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・栗本) → 匏庵(ほうあん・栗本、医者/幕臣) 3 9 1 1
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・北条/伊勢) → 氏曄(うじあき・北条ほうじょう/伊勢いせ、藩士/詩) E 1 2 8 7
- 瀬兵衛(せべえ/せひょうえ・飯田) → 正号(まさな・飯田いいた、藩士) N 4 0 4 8
- 世方(せほう・荒木) → 千洲(せんしゅう・荒木あらき、鑑定家) M 2 4 4 6
- 世懋(せぼう・岡部) → 四溟(しめい・岡部おかべ、幕臣/漢学/詩) F 2 1 8 6
- 是保(ぜぼ・町口) → 是保(これやす・町口まぢぐち/坂上/別所、廷臣/明法博士) R 1 9 3 1

E2473 是法(ぜほう;法諱、初法諱;元耀げんよう)?-? 1324存(80歳以上) 鎌倉期浄土僧;円道門/のち良忠門、十楽院の坊官/法体歌人、兼好と交流:徒然草124段;学匠を表さずひたすら念仏の姿入、為世13回忌和歌(1350刊)・続現葉集入、勅撰5首;続千載(1415)新千載(2035)新拾遺(1153/1831)新後拾遺(793)、[あふさかの関より奥を尋ぬらん越えてかへらぬ道はありやと](続千;恋1415)



- 世樸(せぼく・後藤) → 九臯(きゅうこう・後藤ごとう、儒者/詩文) M 1 6 5 3
- 世味庵(せみあん) → 竹外(ちくがい・深沢、幕臣/俳人) C 2 8 7 6
- 川観の舎(せみの屋せみのや) → 順(したごう・高本/原田、医/儒/国学) E 2 1 5 0

E2474 蟬丸(せみまる、醍醐天皇皇子?:平曲の説)?-? 平安前期の歌人、琵琶の名手、説話伝説となる、逢坂の関に庵室を結ぶ;関明神とし祀らる/源博雅が3年間通い琵琶の秘曲を受(;今昔)勅撰4首;後撰(1089)/新古(1850/1851)/続古今(1725)

[これやこの行くも帰るも別れつつ[ては]しるもしらぬも逢坂の関](後撰1089[百人一首])

- 施命(せみょう/せめい;字) → 日生(にっしょう;法諱・三妙院、日蓮僧) E 3 3 3 5
- 世民(せみん) すべて → 世民(せいみん)

L2444 是夢(ぜむ・幽泉亭ゆうせんてい)?-? 江後期上州群馬郡川原村の天台宗薬王寺の住僧、俳人、逸淵と交流、「十かへり集」著、[是夢(;号)の別号] 睡虎(;初号)/幽泉亭

- 施無畏院(せむいゐん) → 聖基(しょうき;法諱、真言・三論大僧正) H 2 2 9 1
- 施無畏王院(せむいおうゐん) → 尊眞親王(そんしんしんのう、青蓮院門跡) F 2 5 6 0

02406 世舞子(せむこ・川崎かわさき、号;香蘭、加倉井砂山2女) 1832-1919 88 常陸茨城郡成沢村の生、儒学/書家;父門、父経営の家塾日新館に修学している商家川崎八郎右衛門と結婚、夫 → 八郎右衛門(はちろうえもん・川崎かわさき、回船問屋/金融) J 3 6 9 8

- 世明(せめい・脇坂/桃) → 西河(せいか・桃井/桃もも、藩儒/詩) 2 4 7 9  
 是明(せめい・倉根) → 是明(これあき・倉根くらね、藩士/教育/詩歌) Q 1 9 6 6  
 是茂(せも・源) → 是茂(これもち・源みなもと、廷臣/歌人) E 1 9 5 4  
 E2475 是網(せもう・活斎かつさい) ? - ? 江後期俳人、  
 1835俳諧作法書「俳諧仕様帳」(詩仏・硯寿堂序)/37「同二篇」著  
 世雄(せゆう/せおう;字、世雄坊) → 日性(にっしょう;法諱・円智院、日蓮僧) E 3 3 1 9  
 世雄(せゆう・金谷) → 玉川(ぎょくせん・金谷かなや、藩士/儒者) I 1 6 8 7  
 世雄(せゆう・原) → 脩斎(しゅうさい・原はら、儒者/詩人) X 2 1 3 2  
 世融(せゆう・田中/鑄木) → 梅溪(ばいけい・鑄木/田中、絵師) B 3 6 0 3  
 世猷(せゆう・村瀬) → 秋水(しゅうすい・村瀬むらせ、絵師) X 2 1 7 3  
 是雄(せゆう・藤原) → 是雄(よしお/これお・藤原、廷臣/詩人) C 4 7 3 3  
 世雄院(せゆういん/せおういん) → 日逢(にっぽう;法諱・世雄院、日蓮僧) F 3 3 5 9  
 是容(せよう・長岡) → 是容(これかた・長岡ながおか、藩老/国学) O 1 9 2 1  
 G2454 せよ子(せよこ・三浦みうら) ? - ? 江中期;幕臣大番三浦勘右衛門の母、  
 歌;1798刊石野広通「霞関集」入、  
 [咲く花の山分衣心さへいくしほ染めてめづるこのもと](霞関;春149)  
 L2445 是楽(せらく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入/1698「続猿蓑」入  
 [我が宿はかづらに鏡すゑにけり](続猿蓑;下/親に贈るべき鏡餅を鬢の前に置く;能の家)  
 世良親王(せらしんのう) → 世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌) I 4 7 1 9  
 是理(せり・豊島) → 新九郎(しんくろう・豊島てしま、砲術家) N 2 2 9 6  
 芹之舎(せりのや) → 重一(しげかず・小堀おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 7  
 世隆(せりゅう・福嶋) → 紀隆(のりたか・福嶋ふくしま、神職) E 3 5 8 3  
 世竜(せりゅう・箕田) → 牛山(きゅうざん・箕田みた、書家) M 1 6 6 7  
 世良(せりょう・松尾) → 東萊(とうらい・松尾、藩士/儒者) H 3 1 9 3  
 世良(せりょう・阿部) → 良山(りょうざん・阿部あべ、篆刻家) H 4 9 7 4  
 世亮(せりょう・佐々木/箕浦) → 靖山(せいざん・箕浦みのうら/佐々木、藩士/儒者) B 2 4 7 5  
 世良親王(せりょうしんのう) → 世良親王(よながしんのう、後醍醐皇子・歌) I 4 7 1 9  
 世霊(せらい・鶴嶺) → 戊申(しげのぶ・鶴嶺つるみね、国学者/歌人) C 2 1 7 3  
 G2423 世話内子(せわのないし) ? - ? 天明期1781-89頃;江戸女流狂歌師;  
 1787「才蔵集」入;智恵内子・ひまの内子と共に[三内子]と称される、  
 [ゆうべまで風にほぐれしかた糸のけさうち紐にむすぶ青柳]  
 世廉(せれん・岡橋) → 鵬子(かんし・岡橋、俳人/詩文) G 1 5 3 4  
 先(せん・西宮) → 奎斎(けいさい・西宮、藩の儒者) F 1 8 6 6  
 亘(せん・木村) → 黙老(もくろう・木村、藩家老/芸能) B 4 4 1 4  
 宣(せん・山中) → 天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩) D 3 0 9 3  
 宣(せん・渡辺) → 立庵(りつあん・渡辺わたなべ、与力/茶人) B 4 9 5 6  
 宣(せん・渡辺) → 善慶(よしのり・渡辺わたなべ、国学/歌) Q 4 7 1 5  
 宣(せん・久津見) → 景寛(かげひろ・高林たかばやし/久津見、藩士/歌) U 1 5 9 5  
 搏(せん・菊池) → 半隠(はんいん・菊池さくち、儒者) H 3 6 2 2  
 釧(せん・矢田部) → 弘岡(ひろおか・矢田部やたべ、神職/国学) I 3 7 3 6  
 銓(せん・沖おき) → 天外(てんがい・沖おき、儒者/勤王派) D 3 0 2 4  
 琬(せん・瀬尾) → 長珪(ちようけい・瀬尾せお、医者) H 2 8 9 7  
 泉(せん・山崎) → 忠央(ただなか・山崎やまさき、藩士/儒者) Q 2 6 2 6  
 泉(せん・江田) → 霞村(かそん・江田えだ、儒者/詩) M 1 5 8 5  
 泉(せん・福田) → 理軒(りけん・福田ふくだ、和/洋算) 4 9 9 4  
 泉(せん・岩井) → 重遠(しげとお・岩井・巖井/祝い、和算) R 2 1 6 4  
 泉(せん・小篠/佐々) → 泉翁(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者) E 2 4 9 6  
 泉(せん・伊牟田) → 泉(いずみ・伊牟田いむた、神職/教育者) J 1 1 8 6  
 泉(せん・富樫) → 広厚(ひろあつ・富樫とがし/小串、国学/歌) K 3 7 2 7

泉(せん・樋口)	→	泉(いずみ・樋口ひぐち/岩佐、和算家/歌)	K 1 1 5 8
箭(せん・松井/稲村)	→	三伯(さんぱく・稲村/海上/松井、医/蘭学)	E 2 0 6 3
僊(せん・中島)	→	石浦(せきは・中島なかじま/中浦、医/儒者)	D 2 4 8 3
遷(せん・菊池)	→	梅軒(ばいけん・菊池さくち、藩儒者)	B 3 6 1 1
遷(せん・谷口)	→	遷(うつる・谷口たにぐち、医者/歌人)	E 1 2 7 8
遷(せん・森川)	→	頼(たのむ・森川もりかわ、楽人/国学/歌)	2 7 0 2
選(せん・増山)	→	正賢(まさかた・増山ましやま、藩主/書画)	B 4 0 9 0
選(せん・浦上)	→	春琴(春葉しゅんきん・浦上/紀、絵師/詩)	J 2 1 4 1
せん(扇)	→	扇女(おうぎじよ、俳人)	1 4 4 5
仙(せん・山科)	→	言継(ときつぐ・山科/藤原、廷臣/歌人)	3 1 3 3
仙(せん・島)	→	花隠(かいん・島しま、幕臣/本草学)	J 1 5 1 8
仙(せん・橘)	→	仙(ひさし・橘たちばな、国学者/歌人)	B 3 7 0 6
仙(せん・一字名)	→	光顕(みつあき・外山とやま/藤原/日野、権大納言/歌)	J 4 1 8 2
閃(せん・佐和)	→	莘斎(しんさい・佐和さわ、儒者/勤王/僧)	O 2 2 4 4
渲(せん・宇夫形/長尾)	→	無墨(むぼく・長尾/宇夫形、儒者/詩)	C 4 2 9 9
潜(せん・檜林)	→	宗建(そうけん・檜林ならばやし、医者;種痘)	B 2 5 2 7
潜(せん・今井)	→	晦堂(かいどう・今井いまい、藩士/儒者)	J 1 5 0 0
潜(せん・結城)	→	確所(かくしよ・結城ゆうき、藩士/儒者)	H 1 5 3 1
潜(せん・中井/河西)	→	函洲(かんしゅう・川西/河西、藩士/儒者)	H 1 5 6 7
潜(せん/ひそむ・浦池)	→	九淵(きゅうえん・浦池うらいけ、藩士/詩文)	I 1 6 6 9
潜(せん・戸口/井上)	→	四明(しめい・井上/戸口、藩士/儒者)	F 2 1 8 3
潜(せん・大井)	→	漁隠(ぎょいん・大井おおい/平、藩士/文筆)	N 1 6 1 0
潜(せん・関谷)	→	潜(ひそむ・関谷せきや、儒者/国学者)	C 3 7 5 6
潜(せん・平山)	→	兵原(へいげん・平山ひらやま、兵学/武芸者)	2 7 2 5
潜(せん・池内)	→	蓴(ぬなわ・池内いけうち、藩士/歌人/茶)	3 4 1 4
戩(せん・江木)	→	鰐水(がくすい・江木えぎ、藩士/儒/兵学)	E 1 5 7 3
善(ぜん・原)	→	念斎(ねんさい・原、儒者)	3 4 6 3
善(ぜん・滝川)	→	太冲(たいちゅう・滝川、医者)	K 2 6 6 1
善(ぜん・日野西)	→	国豊(くにとよ・日野西ひのし、廷臣/記録)	C 1 7 9 9
善(ぜん・黒田)	→	梁洲(りょうしゅう・黒田くろだ/森、藩士/儒)	H 4 9 8 6
善(ぜん・津田/田)	→	養(よう・津田つだ/修姓;田、医者/俳人)	4 7 5 3
善(ぜん・茂木)	→	久周(ひさちか・茂木もてぎ、足利学校代官)	B 3 7 3 4
善(ぜん・菊池)	→	梅軒(ばいけん・菊池さくち、藩儒者)	B 3 6 1 1
善(ぜん・河原/皆川)	→	誠蔵(せいざう・皆川みながわ/河原、藩儒)	J 2 4 1 2
善(ぜん・法道寺)	→	善(よし・法道寺、和算家)	K 4 7 2 4
全(ぜん・吉田)	→	盤谷(ばんこく・吉田よしだ、儒者)	H 3 6 6 4
漸(ぜん・松林)	→	飯山(はんざん・松林まっばやし、儒者)	H 3 6 8 4
漸(ぜん・進しん)	→	鴻溪(こうけい・進しん、藩士/儒者)	G 1 9 2 5
漸(ぜん・曾根)	→	柳涯(りゅうがい・曾根そね、篆刻家)	D 4 9 2 1
漸(ぜん・村井/邨井)	→	忠漸(ちゅうぜん・村井/邨井/村、儒医/和算)	G 2 8 5 3

02497 宣阿(せんあ;法諱) ? - ? 南北期;時宗僧/歌人、

1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首]出詠、

[別れにし昨日の春の花の香をしばしはとめよ袖の下風](高田明神歌;21/首夏風)

2422 宣阿(せんあ・香川[河]かがわ/本姓;平、名;景継/隣善、正矩2男) 1646-1735 89 父は周防岩国藩家老、岩国藩士、儒者;宇都宮遯庵・木下順庵門、熊谷了庵周辺の儒者として活躍、連歌;里村昌程門/歌;阿野公業・白川雅喬王・清水谷実業・中院通茂・武者小路実陰門、遊行45世他阿尊遵より二条・冷泉家二流の伝授を受/阿野公緒より古今伝授を受、地下宗匠家として公認され梅月堂を創始、出家;堯眞、有職故実・甲州流兵学を修得、1695父正矩「陰徳太平記」の校訂補填/95「富士一覽記」「東遊紀行」著、家集「水雲集」、「新勅撰抄」「梅月堂宣阿家集」「梅月堂随筆」「草庵和歌集」「梅月堂堯眞法師和歌」外著多数、

- [宣阿(；号)の通称/別号]通称;木工允もくのすけ、別号;一枝軒/淵竜/梅月堂、法名;堯眞
- 染阿(せんあ・信蓮社) → 湛澄(たんちよう;法諱・染問、浄土僧/歌) I 2 6 5 2
- 瞻阿(せんあ;号) → 如禅道人(にょぜんどうじん、浄土僧/書画) G 3 3 0 5
- 僊阿(せんあ) → 仏定(ぶつじよう;法諱、浄土僧) D 3 8 3 6
- 専阿(せんあ;法名) → 長時(ながとき・北条/赤橋、執権/歌人) E 3 2 6 9
- 専阿(せんあ・玉蓮社) → 大順(だいじゆん;法諱、浄土僧) K 2 6 3 1
- 専阿(せんあ・得蓮社) → 浄嚴(じようごん;法諱、浄土僧) I 2 2 9 2
- 2423 善阿(ぜんあ・ぜんな) ? - ?1312存 鎌倉期地下連歌宗匠/時宗金光寺の僧?、  
地下連歌統一に導く;[近代の地下の宗匠也](良基の言)、句集「連葉集」(散佚)、  
1312法輪寺の千句参加/菟玖波集33句入、古今連談集に正法寺花の下での逸話あり、  
救済・十仏・順覚・信昭・良阿らの師、  
[見し花のおもかげうづむ青葉かな](菟玖波;正和元年三月法輪寺の千句の発句)
- 02400 善阿(ぜんあ;法諱、) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]入、  
[夏の比いでは(出羽)の国羽黒という山にいりける時読める、  
み山ちは夏をもしらず白がしの枝には雪をみる心ちして](林葉累塵;夏359)
- N2486 善阿(ぜんあ・矢代やしろ) ? - ? 江後期;歌人、1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[起き出でて手洗ふ水のしづくさへ見るまに氷るけさの寒けさ](大江戸倭歌;冬1156)
- 専愛(せんあい・佐藤) → 直翁(ちよくう・佐藤さとう、藩校教授/儒・歌) M 2 8 5 9
- L2446 洗悪(せんあく) ? - ? 尾張の俳人;1689「あら野」入、  
[武蔵野と思へど冬の日あし哉](あら野;卷七)
- 善阿弥(ぜんあみ・梅津) → 憲忠(のりただ・梅津、藩家老/連歌) E 3 5 9 4
- L2447 仙庵(せんあん・梅田うめだ、名;見周)?-? 江前期紀州の儒者;永田善斎門、講説業、  
「養華斎集」著、[仙庵(；号)の字/別号]字;道砥、別号;養華斎
- E2477 宣安(せんあん) ? - ? 江戸の俳人;梅盛門、1656梅盛「口真似草」入
- E2478 仙庵(仙菴せんあん) ? - ? 京の医者/俳人;初め談林の高政門/のち信徳門、  
1678「京三吟」編(；信徳政定まささとと興行)、81信徳「七百五十韻」参加、1687「誹諧三月物」入、  
1687言水「京日記」/89言水「誹諧前後園」晩翠「俳諧せみの小川」清風「誹諧一橋」入、  
1690其角「新三百韻」/90言水「新撰都曲みやこぶり」4句入/92助叟「俳諧新始」入、  
[晴れゆくや四季の富士見る山桜](都曲;上9)
- E2479 専庵(専菴せんあん・平住ひらすみ、名;周道)?-1734 伊予の儒者;山本復斎門(崎門学)、医者/本草学、  
伊予吉田藩の御殿医、正徳1711-16頃大坂北久宝町住;医を開業/医・儒の著作/書画嗜む、  
1714「分類故事要語」(11巻)/15「前々太平記」19「唐土訓蒙図彙」著(橘守国画)、  
1720「袖珍医方大成」26「南方草木状」32「産科俗訓」、「日本古戦記」「周易本義拙解」外著多  
[専庵(；号)の字/別号]字;専安、別号;静斎/橘[立花]墩/橘館/建春山人/季直
- L2448 先安(せんあん・大原おおはら) ? - ? 江中期享保1716-36頃備中足守の医師、  
1726「医門摘要」著
- L2449 仙庵(せんあん・丹羽にわ、名;公信/祐輔、浅野元勇2男)1698-176063 越前坂井郡金津の医者、  
丹羽利慶3女の支那子の婿;丹羽家を継嗣、丹生郡宿浦に移住;医業/婦人科に長ず、  
易学にも通ず、「診腹伝」「経絡説約」著、嘯堂の父、  
[仙庵(；号)の字/法号]字;允父、法号;貞裕/貞祐
- L2450 専庵(せんあん・上月こうづき、名;信敬、信侶男)1704-5249 撰津尼崎の医学・神道;山本復斎門/医業、  
経史・詩賦に通ず、寛延1748-51頃に韓客と唱和、「医門精義」「温泉小鑑」「温泉通考」、  
「好生堂随筆」「南陽真義」「日朝余響」「麻疹精要」「医易脈学」「千百年眼」「瓊斎集」著、  
1749「日本学則」51「徂徠学則辨」著、外著多数、信勝の父、  
[専庵(；号)の通称/別号]通称;丹蔵、別号;鶴洲/瓊斎けいさい
- L2451 泉庵(せんあん・内藤ないとう、名;希哲)?-? 江中期信州松本の医者/江戸で開業/詩文、  
太宰春台と交流、1731「医経解惑論」、「医経辨惑論」「玉函類纂」「傷寒論集成辨妄」、  
[泉庵(；通称)の字/別通称]字;師道/子道、別通称;繹えき、小島瑞の師
- L2453 仙庵(せんあん・中曾根なかそね、名;安彊)1786-184863 上州安中の東秋間馬場の医者/歌人、



1843(天保14)「伊香保日記」著、  
[仙庵(；号)の字/別号]字;子健、別号;養寿斎

- L2454 **潜庵**(せんあん・芳賀はが、名;南柯)1787-1828<sup>42</sup> 陸前仙台の医者/江戸で内外の医術を研鑽修業、  
儒;亀田鵬斎門、仙台で医業/仙台藩医学総督渡辺道可に登用され施業執ヒ、  
藩命により上京し眼科を修学/帰藩;医学助教に就任、詩/書に長ず、「傷寒探古」著、  
[潜庵(；通称)の字/号]字;孔昭、号;好問子/舩余真人こうよしんじん
- L2455 **千庵**(せんあん・森田もりた、漢方医甫三ほさん[静斎]2男)1798-1857<sup>60</sup> 越後蒲原郡加茂の蘭方医者;  
初め医を父門/14歳;江戸で医学修行/1821(文政4)京で医・蘭学;藤林普山(父と親交)門、  
1822帰郷;父を支援/23江戸で医・蘭学;宇田川榛斎/榕庵門、眼科;長崎でシボルト門、  
1825(文政8)オランダ語;吉雄忠次郎・藤井方亭門/国学;寺門静軒門、帰郷;父の医業助力、  
1828(文政11)父没;家督嗣;町医者;1830家伝薬[一粒丸]販売、本草学/和学/詩歌に通ず、  
「見聞雑録」「天花弁」「国医考」「解屍編」「千庵随筆」「西語名寄せいごなよせ」著、  
[千庵(；通称)の名/字/別通称/号]名;徳盛のりもり、字;守古もりひさ、別通称;逸庵、  
号;謙斎/巢守園/榎々舎ひひのや/雲樵うんしやう
- E2480 **潜庵**(せんあん・春日かすが/本姓;源、越前守仲恭の長男)1811-78<sup>68</sup> 母;漢城光基女の岸子、  
京烏丸通一条上ルの儒者、父と同様に久我家諸大夫;通明・建通父子に出仕/従五下侍士、  
儒;五十君南山門、鈴木遺音・富松万山門、池田草庵と親交;陽明学を修学、讃岐守、  
勤王派;1857頃から梁川星巖・西郷隆盛と交流;国事に奔走;安政大獄に連座;62特赦、  
維新後;1868奈良県知事;事に座し致仕/以後学問を講ず、1839「潜庵旧稿」、「読易抄」著、  
「閑窓余事」著、「藤樹先生書簡」編/「潜庵先生文集」「潜庵先生偶筆」著、  
姉;春日袖子、息子;仲襲(竹窓)・白水(名衷、字仲淵、別号竹酔)、  
[潜庵(；号)の名/字/通称]名;仲好/仲襲、字;子賛、通称;直之助、讃岐
- L2456 **潜庵**(せんあん・近藤こんどう、名;士専、太田泰助3男)1813-68<sup>56</sup> 伊勢の儒者;叔父松井万庵門、  
のち斎藤拙堂門、大阪で篠崎小竹・坂井虎山門;陽明学を修学、1852富山で医業、子弟教育、  
「潜庵詩集」「潜庵文稿」「塩賊伝」「治本論」「文章染指」著、  
[潜庵(；号)の字/通称/別号]字;達卿、通称;順三郎、別号;蘇堂
- L2457 **仙庵**(せんあん・利光としみつ、名;宗瓊/瓊)?-? 代々三河吉田の町医/江後期吉田藩医;蘭方医、  
江戸詰、1860致仕/帰郷;近隣諸村に種痘を実施、1850(嘉永3)「引痘夜話」著、  
1850「魯西亜牛痘全書」校訂/53「異船拙案」著、  
[仙庵(；通称)の号] 自然楼じねんろう/大玖だいきゅう
- |                |   |                          |           |
|----------------|---|--------------------------|-----------|
| 宣安(せんあん・榊原)    | → | 宣安(のぶやす・榊原さかきばら/藤原、神職)   | I 3 5 6 4 |
| 専庵(せんあん・倉光/中山) | → | 静安(せいあん・中山なかやま、医・儒者)     | H 2 4 1 6 |
| 専庵(せんあん)       | → | 道井(どうかん・高野瀬たかのせ、俳人)      | C 3 1 3 6 |
| 専庵(せんあん・井上)    | → | 士朗(しろう・井上、医者/俳人)         | 2 2 1 6   |
| 潜庵(せんあん)       | → | 幹雄(みきお・三森、俳人)            | 4 1 6 8   |
| 潜庵(せんあん・並木)    | → | 栗水(りつすい・並木なみき、儒者/私塾)     | C 4 9 0 5 |
| 遷安(せんあん・増山)    | → | 遷安(ゆきやす・増山ますやま/坂谷、神職/国学) | H 4 6 2 7 |
| 尖庵(せんあん・井上)    | → | 夔庵(かいあん・井上いのうえ、漢学)       | I 1 5 3 3 |
- L2458 **善庵**(ぜんあん;通称・三井みつ、名;重之、道安2男)1708-48<sup>41</sup> 讃岐の医者;家学の眼科学を修学、  
兄梅山と研鑽;三井流眼科、大坂で医業;病を得て帰郷、中国医書[外台秘要]を研究;  
1743「銅関医通」編
- 02440 **全庵**(ぜんあん・野田のだ、) ? - 1760 江中期;信濃飯田の医者、国学者/歌人、  
国学・歌;依田正純(1681-1749)門/歌学;澄月(1714-98)門
- L2459 **善庵**(ぜんあん・坂井さかい、名;知与/通称;九兵衛、九兵衛男)1780-1842<sup>63</sup> 信濃高藤藩士、  
弓術;多賀谷文四郎門、藩の弓術師範となる、和漢学を修学/歌・俳諧・生花・茶道に通ず、  
貝原益軒学を信奉;子弟教育/天保飢饉に救援活動、1833「農家補荒録」、「刀剣本意談」著
- 2424 **善庵**(ぜんあん・朝川あさかわ、名;鼎、片山兼山男)1791-1849<sup>59</sup> 朝川黙斎の養子/江戸儒者;養父黙斎門、  
1802(12歳)山本北山の奚疑塾入門、諸国遊学、諸侯より招聘;藤堂・大村・松浦家など、  
「善庵文鈔」「善庵存稿」「人琴鈔」「庭立紀譚」「韓非子正誤」「荀子述」「楽我室詩文稿」著、  
「筆語草」「和漢筆談」編、1809「孝経六書」「古文孝経私記」/49「善庵随筆」著、外著多数、

[善庵(；号)の字/別号]字；五鼎、別号；学古塾

- E2481 **善庵**(ぜんあん・国友くにとも、名；尚友/尚克、尚之男)1801-6262 代々常陸水戸藩の鉄砲師、水戸藩士、儒；高橋坦室・藤田幽谷門、彰考館で修史事業に参加/1844藩主斉昭の致仕；連座禁囚刑、赦免；藩校弘道館教授/教授頭取/小姓頭/侍講、贈正五位、「閑道録」「管見随鈔」「忠経」著、1838「蝦夷情実」問/58「文淵余波」著、「原田環翠年譜」「朋党論広義」編、外多、「善菴遺稿」、[善庵(；号)の字/通称/別号]字；伯庸/温卿、通称；吉之助/吉之介/万五郎/与五郎、別号；宝竹堂
- L2460 **善庵**(ぜんあん・加藤かとう、名；良由)?-1862 播磨姫路藩士；儒医・大田錦城門、1833「僊桃録」著、1836「柳橋詩話」40「墨水観花記」46「傷寒論序文注解」60「観虎記」、「墨堤遊記」著、「柳橋随筆」「老婦重身紀事」「旧聞新識」「西遊文藻」「六国史論」著、[善庵(；号)の字/別号]字；良白、別号；草軒/富春、法号；默笑自然居士
- L2461 **全庵**(ぜんあん・長尾ながお、名；明、杉本実春院男)?-? 江後期幕臣；奥医師長尾全庵の養子、1829小普請入/48幕府御医師/58仲ケ間取締手伝/63仲ケ間取締、1858「告病傷寒温疫家説」著、[全庵(；通称)の号]方堂
- 全庵(ぜんあん・三浦) → 郷彦(くにひこ・三浦みうら/源、藩医/歌人) E 1 7 5 4  
全庵(ぜんあん・垣内) → 己山(きざん・垣内かきうち、医者/儒/詩) K 1 6 6 1  
全庵(ぜんあん・江村) → 剛斎(こうさい/ごうさい・江村えむら、儒者) B 1 9 1 3  
全菴(ぜんあん・脇田) → 信親(のぶちか・脇田、医者) B 3 5 9 9  
善庵(ぜんあん・岡田) → 花邨(かそん・岡田おかだ、医者/儒) M 1 5 8 4  
善庵(ぜんあん・小野) → 君山(くんざん・小野おの、書/篆刻) D 1 7 6 5  
善庵(ぜんあん・棚谷) → 桂陰(けいいん・棚谷たなや、医者) F 1 8 2 5  
善庵(ぜんあん・牧野) → 安春(やすはる・牧野まきの/加藤、医者/国学) G 4 5 6 3  
善庵(ぜんあん・牧野) → 安純(やすずみ・牧野まきの、医者/神職) G 4 5 6 2  
蟬闇(ぜんあん・号) → 瑞巖(ずいがん；道号・竜惺、臨濟僧) E 2 3 2 8
- 02458 **暹伊**(せまい；法師) ? - ? 鎌倉南北期；僧、歌人；1345刊[藤葉集]入、[もらさじとこころの内におさふるはそでにもつつむ涙なりけり](藤葉；恋396)
- L2462 **専意**(せんい；法諱) ? - ? 江前期天台宗理鏡院住僧、1637(寛永14)「本覚讚仏」、「達磨大師安心法門私註」著  
宣以(せんに/のぶため・長谷川) → 平蔵(へいぞう・長谷川、幕臣；旗本) 2 7 6 5
- E2482 **善為**(ぜんい；法諱) ? - ? 法師、歌人、勅撰1首；新後拾遺1020、[はかなしや我が思ひねの心より通ふただちの夢の契りは](新後拾；恋1020)
- L2463 **禅偉**(ぜんい；法諱・傑岩けつがん；道号)?-?1481存 臨濟宗楊岐派僧；寂室元光の法孫、近江曹源寺開、永源寺の霊仲禅英門/嗣法/永源寺15世、1481「永源寂室和尚語録抄」
- L2464 **禅意**(ぜんい；法諱、松梅院禅昌男)1596-163641 京の社僧；北野天満宮祠官；1598三綱補任、1613松梅院を継嗣(父は徳勝院開創)、神殿大預/神事奉行/公文職歴任；1632法橋/34法眼、のち法印、1612-27(慶弔17-寛永4)「北野社家日記」著、連歌作者；「発句十四句」著、1612通善・父禅昌と「何船百韻」/17禅昌と「何船百韻」/26昌琢と「何木百韻」など、[禅意(；法諱)の幼名/号]幼名；梅寿丸、号；松梅院、禅珍の父
- E2483 **蟬衣**(ぜんい・雨柳堂)?- ? 江中期大坂の俳人；雑俳点者、1716(享保元)頃雑俳撰集「銀土器ぎんかわらけ」編；(明石人麿社奉納一万句集の勝句三百番を披露した会所本)
- L2465 **善意**(ぜんい；法諱・芳山；字、俗姓；大坪)1715-7561 越中稲積村の真宗本願寺派僧；西光寺安貞門、京の法霖門、1737師安貞を継承；氷見西光寺7世住職；境内に学舎尺伸堂を建設；子弟教育、兄弟子の義教(第6代能化)と共に三業帰命説を主唱、1744「輪駁行蔵録」63「唾面録」、1769「評偽辨」71「慧日霜露篇」73「安心或問」、「阿弥陀経述聞」「信願開合集」「善意詠歌集」、「観経四帖疏証定鈔」「正信偈帰仰録」「真宗略名目図略疏」「白糸篇」外著多数、[善意(；法諱)の別法諱/号]別法諱；自牽じけん、号；叻山/尺伸堂/無人閣、諡号；明達院
- L2466 **善以**(ぜんい；法諱) ? - ? 美濃房島村の真宗僧、1753刊「譬喩願海鈔」著  
禅意(ぜんい、近衛) → 義俊(宜俊ぎしゅん、真言僧/門跡、連歌) B 1 6 2 3

- 善偉(ぜんい;号) → 堯恵(ぎょうえ;法諱・善偉、浄土僧) N 1 6 2 5  
 全威(ぜんい;法諱) → 虎林(こりん;道号・全威、臨濟僧) O 1 9 0 3  
 専一(せんいち・神谷) → 元邦(もとくに・神谷かみや、商家/国学者) J 4 4 7 1  
 善一(ぜんいち・田沼) → 善一(よしかず・田沼/藤原/篠原/えびのや、故実) C 4 7 5 2  
 千一郎(せんいちろう・半井) → 瑞成(よしなり・半井なからい、医者/歌人) O 4 7 2 7  
 善一郎(せんいちろう・長谷川) → 広(ひろし・長谷川はせがわ、和算家) D 3 7 0 1  
 善一郎(せんいちろう・佐藤) → 行道(ゆきみち・佐藤さとう、国学者) G 4 6 8 7  
 善一郎(せんいちろう・古久保) → 実行(さねゆき・古久保ふるくぼ、神職/国学) P 2 0 2 8  
 千一居士(せんいつこじ) → 敬所(けいしょ・猪飼いかい、儒者) 1 8 7 3
- 02437 暹胤(せんいん・西坊にしほり、河鱒かわぼた実利2男) 1832-9564 京の廷臣(父は三位右近権中将)の生、  
 近江滋賀郡の園城寺山内円満院の坊官西坊家人、西坊敬胤の嗣/法橋、歌人、河鱒公述の弟  
 千引(せんいん・大石) → 千引(ちびき・大石おおいし、国学者/歌) 2 8 1 6  
 千胤(せんいん・田中) → 千胤(ちたね・田中たなか/川上、国学・歌) E 2 8 9 8  
 千胤(せんいん・遠藤) → 千胤(ちたね・遠藤えんどう/平、歌人) M 2 8 1 7  
 宣尹(せんいん・久須見) → 宣尹(のぶただ・久須見、医/神道) B 3 5 8 2  
 川蔭(せんいん・小山) → 川蔭(かわかげ・小山おやま/藤原、藩士/国学/画/歌) S 1 5 8 4  
 泉尹(せんいん→いずたか?・堀田) → 仁助(にすけ・堀田ほった/藤原、暦算家) 3 3 3 3  
 詮胤(せんいん・宮原) → 藪山(ふさん・宮原みやはら、儒者/医者) C 3 8 3 5  
 宣胤(せんいん・中御門) → 宣胤(のぶたね・中御門、廷臣/歌・連歌) 3 5 0 9  
 宣胤(せんいん・桃井) → 宣胤(のぶたね・桃井、武士/連歌) B 3 5 9 0  
 宣胤(せんいん/のぶたね・河合/阪本) → 幸庵(こうあん・阪本、藩士/儒者) H 1 9 2 1  
 宣胤(せんいん・尾関) → 宣胤(のりたね・尾関おせき/尾張、神職) H 3 5 6 2  
 潜隠(せんいん・伊地知) → 季安(すえやす・伊地知いちち、藩士/記録) F 2 3 7 2  
 善胤(ぜんいん・原) → 念斎(ねんさい・原はら、藩儒) 3 4 6 3
- L2467 仙塙(せんう・細木ほそき・さいき/本姓;源、摂津国屋つのかにや伊兵衛男) ?-1856 江戸山城河岸の豪商、  
 金沢・米沢・広島藩等の御用達、書;秦星池門/狂歌:弥生庵雛丸門、俳諧・芝居・遊所の通、  
 「水魚連狂歌雙六」編/1840「津廻国名所図会」著、香以の父、  
 [仙塙(;号)の通称/別号]通称;藤次郎/藤兵衛/津藤、  
 別号;竜池/桃江園/桃の本鶴盧/鶴の門雛亀つるとひなかめ/源僊みなものやまひと  
 屋号;摂津国屋つのかにや/津国屋/一鱗堂、法号;白誉雲外竜池居士  
 泉宇(泉于せんう・志水) → 盤谷(初世ばんこく・志水しみず、俳人) H 3 6 6 2  
 前右大臣(ぜんうだいじん) → 前右大臣(さきのうだいじん)  
 前右大臣室(ぜんうだいじんのしつ) → 公顕室(きんあきのしつ) D 1 6 7 6  
 穿雲散人(せんうさんじん) → 文十(ぶんじゅう・高橋/宇陀野、俳人) F 3 8 7 2  
 仙雲亭寿山(せんうんていじゅざん) → 政香(まさか・渡辺わたなべ、神職/国学/歌) B 4 0 6 4
- E2486 詮慧(せんえ・せんね;法諱、俗姓;源) ?-? 鎌倉期近江の天台僧/のち1240頃曹洞僧:道元門、  
 道元の嗣法/師没後に京の永興庵開創、1264道元「永平広録」巻1・9・10編、  
 「永平元和尚頌古」「永平元禅師語録」編/「興正禅師語録」編
- L2468 泉恵(せんえ・北林房) 1285 - 136177 鎌倉南北期天台宗園城寺の学僧;1293静泉門、  
 1299出家/1304長乗門;十八契印の伝授を受/1310伝法灌頂を受、1344「幸徳集」著、  
 「水心記」「寺門伝記」「金剛頂疏要文」「新羅問答抄」「大日経義积開題」「大日経義积要文」著、  
 [泉恵(;法諱)の号/通称]号;北林房、通称;水心法印/袈裟法師  
 千恵(せんえ;法諱/新千載集) → 基時(もととき・堀川/源、廷臣/僧/歌) E 2 4 8 7
- L2469 禅慧(ぜんえ・ぜんね;法諱・函海;道号、号;獅子窟、俗姓西村) 1753-181462 丹後浜村臨濟僧;南窓門、  
 のち国清寺曠谷門/独園禅諾・湛堂元丈門、1790駿河宝泰寺住持、「獅庵余稿」著  
 禅慧(ぜんえ・ぜんね;法諱、寧山) → 寧山(ねいざん;道号・禅慧、臨濟僧) 3 4 5 4  
 禅慧(ぜんえ・ぜんね;法諱、月船) → 月船(げつせん;道号・禅慧、臨濟僧) H 1 8 1 5  
 禅恵(ぜんえ;法名) → 忠房親王(ただふさしのう、歌人) F 2 6 7 8  
 善慧(ぜんえ;号・尋得) → 尋得(じんとく;法諱・善慧、三河鳳萊寺僧) P 2 2 4 9  
 千穎(せんえい・藤原) → 忠朝(ただとも・藤原ふじわら/岡田、商業/歌) W 2 6 2 8

- 千穎(せんえい)多くは → 千穎(ちかい)  
 仙英(せんえい;号) → 有道(ゆうどう;法諱、曹洞僧) H 4 6 4 6  
 善慧院(ぜんえいん) → 日貞(にっせい;法諱・練阿、日蓮僧) F 3 3 3 2  
 善慧大師(ぜんえだいい) → 成尋(じょうじん;法諱、天台僧/歌人/入宋) T 2 2 6 2  
 善慧坊(ぜんえいぼう) → 証空(しょうくう;法諱、浄土僧) M 2 1 0 9
- L2470 專英(せんえい;法諱) 1187 - ? 1261存 大和の法相僧;生駒郡竹林寺良遍(or良算)門、  
 法相・唯識を修学/興福寺西院住;1248維摩会の講師/1261探題(5回目/82歳)、権大僧都、  
 「共許有性」「挙此三種」「法自相」著
- E2487 專永(せんえい) ? - ? 連歌、1451教房邸「以呂波百韻」連衆:兼良と  
 E2488 專榮(せんえい;号・池坊いけのぼう)?- ? 戦国期京の頂法寺六角堂の僧、華道;池坊専応門、  
 立花の花型の整備に尽力、青蓮院入道尊鎮親王の寵愛を受、將軍義輝の求めで立花を行う、  
 1551「古伝法巻」64「池坊立花伝書」67「池坊専榮立花口伝」著、「池之坊立花大巻秘伝書」伝
- E2489 千影(せんえい・西坊にしほう、名;胤員、別号;敲月居) 1756-182570 近江大津の円満院の坊官、  
 俳人;蝶夢門、1807頃無住になった義仲寺を守り芭蕉追遠の「時雨会」を興行;句集編刊、  
 1809「霜のかね」編/12「時雨会」編
- E2490 沾永(せんえい・貴志きし、名;理八、別号;青条、沾洲[1671-1741?]男)?-? 俳人
- L2471 詮榮(せんえい;法諱) ? - ? 1822存 天台宗比叡山法曼院11世、僧正、  
 1786「当流深秘記」編/1796「相実和尚伝」99「伝法密印集」著、「五体一句選」著、  
 「天台諸門跡記」「詩歌雑録附小野小町辨」「以心灌頂法則」外著多数
- 千英(せんえい・井田) → 千英(ちふさ・井田いだ、歌人) L 2 8 5 9  
 千英(せんえい・佐藤) → 千英(ちふさ・佐藤さとう、神職/国学者) F 2 8 2 9  
 千穎(せんえい) → 千穎(ちかい・ちえい、別田わけだ、歌人) 2 8 5 7  
 千穎(せんえい・石田) → 千穎(ちかい・石田いだ、藩士/国学/歌) M 2 8 0 3  
 千穎(せんえい・井上) → 淑蔭((よしかげ・井上、国学/戯作/歌) 4 7 0 5  
 千穎(せんえい・西村/大江) → 千穎(ちかい・燕栗園えんりつえん/さぐりえん初世、狂歌) 2 8 6 0  
 千穎(せんえい・下里) → 千穎(ちかい・下里しもさと/藤原/中臣/鎌田、神道) M 2 8 6 9  
 千穎(せんえい・下里) → 千穎(ちかい・武田たけだ/三好、藩士/歌) M 2 8 8 1  
 千穎(せんえい・角田) → 信道(のぶゆき・角田つのだ、国学者) J 3 5 2 2  
 仙英(せんえい;法諱) → 仏洲(ぶっしゅう;道号・仙英、曹洞僧) H 3 8 4 5  
 遷永(せんえい・増山) → 遷永(ゆきなが・増山ますやま、御師/国学) H 4 6 2 6
- E2491 禅永(ぜんえい;法諱・松梅院;号、松梅院禅興男) 1555-9541 京社僧;北野天満宮祠官/1557三綱補任、  
 別当職/神事奉行/神殿大預/公文職/1591法印/権大僧都、  
 連歌作者;紹巴と交流、1570(永禄13)聖護院僧正禅永等「山河百韻」/77紹巴と「何木百韻」、  
 1578「羽柴千句」連衆/79晴氏禅永等「何船百韻」参加
- 善永(ぜんえい・滋野) → 善永(よしなが・滋野朝臣、廷臣/詩人) F 4 7 2 4  
 善永(ぜんえい;号) → 宝巖(ほうごん;法諱・善永、真宗僧) 3 9 7 9  
 善英(ぜんえい・木戸) → 善英(よしひで・木戸きと、国学者) M 4 7 3 9  
 宣英堂(せんえいどう) → 輝教(てるのり・葛城、書肆) C 3 0 8 7  
 仙栄堂(せんえいどう) → 守国(もりくに・上垣かみがき、庄屋/養蚕業) F 4 4 3 8  
 禅栄房(ぜんえいぼう;号) → 宝蔵院胤瞬(ほうぞういんいんしゅん、法相僧/槍術家) C 3 9 1 8
- 02453 宣易(せんえき・屋良やら、唐名;湛令望) 1658-172972 琉球の和文学者;王子尚純の右筆、書法に長ず、  
 1713王府より書法伝授の命で門弟指導;石嶺真忍の師、平敷屋朝敏は外孫
- 千益(せんえき・疋田) → 千益(ちます・疋田/匹田ひきた、歌人) F 2 8 4 0  
 仙益(せんえき・高橋) → 済庵(せいあん・高橋/並河、藩医/詩) H 2 4 2 4  
 宣易(せんえき・河本) → 宣易(のぶやす・河本かわもと、神職/国学) I 3 5 0 5  
 詮益(せんえき・毛利) → 詮益(あきます・毛利もうり、藩士/記録) D 1 0 9 0
- E2492 禅憚(ぜんえき;法諱・叔悦しゅくえつ;道号、号;鶯谷/鶯谷おうこく、俗姓;太田) 1449-153587 相模臨濟僧:  
 円覚寺帰源庵の殷賢禅彭門/嗣法、円覚寺149世、万里集九と交流、「叔悦和尚詩集」著
- 善慧大師(ぜんえだいい) → 成尋阿闍梨(じょうじんあざり、平安期僧) O 2 1 0 7
- L2472 善悦(ぜんえつ;法諱・退堂;字)?- ? 戦国期永正弘治1504-58頃筑紫の浄土僧、

下野飯沼の弘経寺5世鎮譽祖洞門/1506相模小田原に誓願寺開山/23武蔵小机泉谷寺開山、  
1534相模酒匂に大見寺開山/下野飯沼弘経寺7世、「五重始末」著、法名;名蓮社見譽

- L2473 **禅悦**(ぜんえつ;法諱・可山かざん;道号)?-?1754存 京臨濟妙心寺住僧/1754妙心寺379世、  
1765「雪江和尚語録付行状」編、「大智度論助覧」「六物凶会解」「随聞筆記」「古事書抜」
- L2474 **善悦**(ぜんえつ・岡本おかもと、名;豊久/通称;善蔵)1689-176779 絵師;狩野養朴・並川甫雲門、  
紀州藩出仕;小十人役/江戸詰;奥坊主・御絵番を務める、「流鏑馬図」画  
善慧坊(ぜんえぼう) → 証空(しょうくう;法諱、浄土宗西山派祖)G 2 2 2 1  
千右衛門(専-せんえもん・皆川/富士谷)→ 成章(なりあきら・富士谷、国学/歌)3 2 2 7  
千右衛門(専-せんえもん・富士谷)→ 御杖(みつえ・富士谷、成章男、国学/歌)4 1 2 3  
千右衛門(せんえもん・吉田)→ 十郎兵衛(2世じゅうろべえ・吉田、歌舞伎役・作者)I 2 1 4 7  
千右衛門(せんえもん・田村/坂本)→ 額祐(がくすけ・2世絵馬屋、狂歌)E 1 5 7 5  
千右衛門(せんえもん・山崎)→ 罔雄(国雄くにお・林、国学者/狂歌)C 1 7 6 5  
仙右衛門(せんえもん・富士谷)→ 元広(もとひろ・富士谷、御杖男、国学)E 4 4 1 7  
仙右衛門(せんえもん・村田)→ 春道(はるみち・村田むらた、商人/国学/歌)3 6 3 7  
仙右衛門(せんえもん・佐瀬)→ 与次右衛門(よじえもん・佐瀬させ、勸農家)C 4 7 2 7  
仙右衛門(せんえもん・伊東)→ 燕晋(えんしん・伊東、講釈師)B 1 3 1 3  
仙右衛門(せんえもん・長崎)→ 通徳(みちのり・長崎ながさき/越智、連歌師)J 4 1 9 8  
仙右衛門(せんえもん・松崎)→ 琴好(きんこう・石部いしべ、商家/黄表紙)D 1 6 9 6  
仙右衛門(せんえもん・高橋)→ 松園(しょうえん・高橋たかはし、商家/儒詩)H 2 2 3 1  
仙右衛門(せんえもん・細野)→ 要斎(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌)4 7 9 8  
専右衛門(せんえもん・小出)→ 松斎(しょうさい・小出こいで、藩士/国学者)J 2 2 0 2  
泉右衛門(せんえもん・佐々)→ 泉翁(せんおう・佐々ささ/小篠、藩士/儒者)E 2 4 9 6
- L2475 **善右衛門**(ぜんえもん・鴻池こうのいけ、名;正成、鴻池[山中]新六幸元8男)1608-9386 鴻池家初代当主;  
鴻池家の祖、摂津鴻池村の酒醸造業/一族で商業/正成は1619大坂内九宝寺町住/分家、  
1625海運業/59両替商、大名貸等で蓄財、隠居後は大坂今橋二丁目に移住(;今橋鴻池)、  
俳人:西鶴と交流/1679西鶴五百韻を3日間自邸西六邸で催、1680(延宝8)「無分別」著、  
1678西鶴「物種集」入、  
[もゝもゝ桃一盃一ぱい又一盃](五百韻;第二「早何」発句;山本西六名)、  
[善右衛門(;通称)の号] 西六さいろく/山本西六
- L2476 **善右衛門**(ぜんえもん・谷川たにがわ)?-? 江中期大坂堂島新地四丁目の和算家、  
1736(元文元)「小割塵劫記」著
- L2477 **善右衛門**(ぜんえもん・中村なかむら)1806-8075 岩代伊達郡梁川村の養蚕家:  
1839二本松藩医稲沢宗庵使用の体温計を参考に[蚕当計]を考案/科学的飼育を普及、  
1849(嘉永2)「蚕当計秘訣」著
- L2478 **善右衛門**(ぜんえもん・藤本ふじもと/本姓;佐藤、名;縄葛ときかず)1815-9076 信濃小県郡上塩尻村養蚕業;  
代々善右衛門を称す、1827信濃小布施で祖父と蚕の新種「青白」を発見、  
天保1830-44頃羽後秋田藩主佐竹義厚・羽前米沢藩主上杉斉定に招聘;蚕業指導、  
1845中山重作と蚕の改良研究;一代雑種カナスを作出、1872(明治5)蚕種大惣代、  
伝習生を養成、国学;平田篤胤没後門/前田夏蔭・橋守部門、勤王;諸国の山陵を参詣、  
1841「蚕かひにかひの学」著、  
[善右衛門(;通称)の幼名] 平作、藤本昌信の孫
- 善右衛門(ぜんえもん・渡邊)→ 正(まさ・渡邊わたなべ、藩士/歌人)U 4 0 2 0  
善右衛門(ぜんえもん・加藤)→ 重五(じゅうご・加藤かとう、材木商/俳人)H 2 1 2 9  
善右衛門(ぜんえもん・菊池)→ 長良(ながよし・菊池さくち、和算家)G 3 2 4 6  
善右衛門(ぜんえもん・箱島)→ 阿誰(あすい・箱島はこしま、商人/俳人)B 1 0 1 0  
善右衛門(ぜんえもん・西村)→ 可玖(かきゅう・西村、俳人)B 1 5 2 8  
善右衛門(ぜんえもん・下野屋)→ 喜之(よしゆき・海老原えびはら、商家/歌)K 4 7 3 9  
善右衛門(ぜんえもん・渡辺)→ 守由(もりよし・渡辺わたなべ、藩士/地誌家)G 4 4 8 4  
善右衛門(ぜんえもん・加治)→ 鳳山(ほうざん・加治かじ、藩士/儒者)B 3 9 0 4  
善右衛門(ぜんえもん・栗崎)→ 履斎(りさい・栗崎くりさき、儒者)B 4 9 0 6

善右衛門(ぜんえもん・伊東)→ 藍田(らんでん・伊東いとう/東/菱田、儒者) D 4 8 0 4  
 善右衛門(ぜんえもん・松井)→ 幸隆(ゆきたか・松井/山田、国学/歌人) E 4 6 6 0  
 善右衛門(ぜんえもん・山田)→ 充香(みちか・山田やまだ、藩士/国学) H 4 1 5 4  
 善右衛門(ぜんえもん・大和屋)→ 大江丸(おおえまる・大伴、飛脚問屋/俳人) 1 4 0 3  
 善右衛門(ぜんえもん・奈良屋)→ 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0  
 善右衛門(ぜんえもん・垂水屋)→ 若冲(じゃくちゆう・海北かいほう、歌人/国学) 2 1 3 7  
 善右衛門(ぜんえもん・鯛屋)→ 貞因(ていゐん・榎並/永田、俳人/狂歌) 3 0 0 1  
 善右衛門(ぜんえもん・駒屋)→ 帰一坊(きいつぼう・雨後庵、俳人) J 1 6 5 9  
 善右衛門(ぜんえもん・神野)→ 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) I 1 6 4 7  
 善右衛門(ぜんえもん・菱屋)→ 方信(まさのぶ・寺井てらい、心学者) F 4 0 7 0  
 善右衛門(ぜんえもん・富田)→ 春山(しゅんざん・富田/永野、医者/詩人) K 2 1 8 2  
 善右衛門(ぜんえもん・中村)→ 国香(くにか・中村、儒者/郷土史家) B 1 7 4 8  
 善右衛門(ぜんえもん・築瀬)→ 広記(こうき・築瀬やなせ、藩士/儒者) I 1 9 2 1  
 善右衛門(ぜんえもん・田代)→ 政典(まさのり・田代たしろ、藩家老) G 4 0 1 1  
 善右衛門(ぜんえもん・古森)→ 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0  
 善右衛門(ぜんえもん・古森)→ 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
 善右衛門(ぜんえもん・竹内)→ 孝貞(こうてい・竹内たけうち、教育家;道学) K 1 9 7 2  
 善右衛門(ぜんえもん・荒木)→ 李谿(りけい・荒木あき、字;儒者/詩/画) 4 9 8 8  
 善右衛門(ぜんえもん・松井)→ 松宇(しょうう・松井まつい、名主/俳人) F 2 2 2 9  
 善右衛門(ぜんえもん・松崎)→ 商山(しょうざん・松崎まつさき、幕府儒官) J 2 2 2 9  
 善右衛門(ぜんえもん・上田)→ 善淵(ぜんえん・上田うえだ、藩儒) L 2 4 8 0  
 善右衛門(ぜんえもん・上田)→ 久富(ひさとみ・上田うえだ、藩士/歌人) I 3 7 5 9  
 善右衛門(ぜんえもん・黒川)→ 盛之(もりゆき・黒川くろかわ/藤原、歌人) I 4 4 8 5  
 善右衛門(ぜんえもん・千葉)→ 胤英(たねふさ・千葉ちば、藩士/和算家) S 2 6 0 2  
 善右衛門(ぜんえもん・千葉)→ 常一(つねかず・千葉、胤英男/和算家) B 2 9 8 8  
 善右衛門(ぜんえもん・宮崎屋)→ 夏鼎(ひろさだ・井上いづえ、商家/歌人) L 3 7 0 8  
 善右衛門(ぜんえもん・古森)→ 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
 善右衛門(ぜんえもん・大石/砂張屋)→ 善信(よしのぶ・大石おおいし/源、国学/歌) L 4 7 9 2  
 善右衛門(ぜんえもん・網野)→ 義友(よしとも・網野あみの/菅原/雨宮、商家/国学) L 4 7 2 8  
 善右衛門(ぜんえもん・太田)→ 雅輔(まさすけ・太田おた、神職/国学/歌) O 4 0 5 0  
 善右衛門(ぜんえもん・葛西)→ 昌丕(まさひろ・葛西かさい、国学/救民策) O 4 0 7 5  
 善右衛門(ぜんえもん・林) → 親方(ちかまさ・林はやし、歌人) N 2 8 3 3  
 善右衛門(ぜんえもん・野田)→ 千足(ちたり・野田のだ、歌人) N 2 8 2 7  
 善右衛門(ぜんえもん・野田)→ 誠民(のぶたみ・野田のだ、千足男/歌人) J 3 5 5 5  
 善右衛門(ぜんえもん・川上)→ 尋寿(つねひさ・川上かわかみ、国学/歌) F 2 9 5 4  
 善右衛門(ぜんえもん・野村)→ 匡解(まさとき・野村のむら、藩士/歌人) R 4 0 5 2  
 善右衛門(ぜんえもん・福住)→ 貞固(さだかた・福住ふくずみ/川上、商家/歌) P 2 0 2 2  
 善右衛門(ぜんえもん・妹尾)→ 正孝(まさたか・妹尾せのお、醸造業/国学) Q 4 0 3 9  
 善右衛門(ぜんえもん・岩谷)→ 九十老(くじゅうろう・岩谷いわたに、豪農/公共事業) E 1 7 0 5

E2493 泉円(せんえん) ? - ? 平安後期の僧/歌人、「ひなのさへづり」編、  
 1071-82頃「多武峯往生院千世君ちよきみ歌合」:右方入(判者;紀伊入道素意[藤原重経])  
 [岩間わく水の音こそ聞ゆなれ秋の夜深くなるにやあるらむ]、  
 (多武峯歌合;五番右10/水有幽音)

L2479 千円(せんえん・大高おたか、別号;四九坊)?-? 陸奥西津軽郡深浦の俳人:津軽最初の正風俳諧、  
 竹越漁光と親交、1750(寛延3)「津軽反古」(漁光と共著)、  
 追善集「ふつくえ」(息子杏円と漁光男里桂の編)

泉円(せんえん;法諱) → 猷円(ゆうえん;法諱、天台僧/歌人) 4 6 7 6  
 泉園(せんえん・太田) → 雅輔(まさすけ・太田おた、神職/国学/歌) O 4 0 5 0  
 箭園(せんえん/やまぶきその) → 享寿(きやうじゆ・竹内たけうち、法眼/歌人) C 1 6 5 7  
 千園(せんえん・堀内) → 千園(ちその・堀内ほりうち、国学者) N 2 8 4 9

- 千淵(せんえん・伊東) → 見龍(けんりゅう・伊東いとう、藩医者) M 1 8 8 1  
 02482 善円(ぜんえん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [習所成種姓、  
 のりの水まかせざりせばいかにしてむろのはやわせたねをかさまし](檜葉;釈教570)
- L2480 善淵(ぜんえん・上田うへだ、名;節、藤右衛門男) 1773-1851 79 伊予西条藩士/儒者・細井平洲門、  
 1811家督継嗣/藩儒;1832学問所教授/生涯江戸詰、松崎慊堂こうどうと親交、陸舟の父、  
 「庚午漫采」「青山閑話」著、平洲に関する善淵の談話を木下犀潭が筆録「山窓閑話」あり、  
 [善淵(号)の字/通称/別号]字;子成、通称;八三郎/雄次郎/善右衛門、別号;観稼翁  
 善円(ぜんえん;法諱) → 善念(ぜんねん;法諱、法相僧) N 2 4 0 6  
 善淵(ぜんえん・北川) → 善淵(よしふか・北川きたがわ、藩士/歌人) G 4 7 7 9  
 善淵(ぜんえん・清水) → 柳溪(りゅうけい・清水しみず、藩の茶人) D 4 9 4 9  
 全延(ぜんえん・土門) → 築山(つくざん・本間ほんま/土門、儒者) B 4 8 2 0  
 潜淵庵(せんえんあん) → 不玉(ふぎよく・伊東、医者/俳人) B 3 8 4 5  
 善淵堂(ぜんえんどう) → 基庸(もとつね・山本やまもと、藩士/書家) D 4 4 1 7
- E2494 専応(せんおう;号・池坊いけのぼう) 1482-1543 62 戦国期京の頂法寺六角堂の僧、華道;池坊専慶門、  
 立花の技術的工夫;理論の確立に尽力/戦国期華道確立;池坊立花の礎を築く、専栄の師、  
 内裏・青蓮院尊鎮親王・曼殊院覚如の愛顧を受、「池坊専応口伝」(;1523[天文11]最古)、  
 「池坊花伝抄」「生花大要」「歌鞠華」「大巻並床飴図」著/「花の伝書」伝、  
 [すきやかなる物のきはにはこまやかなる物を用ひ  
 ふとき物のきはにはいかにも細き物を用べし](対比の妙;「専応口伝」)
- E2495 仙桜(せんおう) ? - ? 播磨姫路の俳人、1692才麿「椎の葉」13句入、  
 [草茎くさぐきはみな振舞て仕廻しまひけり](椎の葉;146/晩秋草木黄落の景)
- E2496 泉翁(せんおう・佐々ささ、名;泉、小篠紀の男/小篠東海の孫) 1810-86 77 石見浜田の生;父は浜田藩士、  
 1822(13歳)佐々家の養子;家督嗣、古学;猪飼敬所門/儒詩;頼山陽門/江戸の朝川善庵門、  
 石見藩主松平康英の奥州棚倉移封に随従し儒官/1867武蔵川越移封に随い川越藩士、  
 国学;足代弘訓門、1871国漢両学の大教授に就任、  
 「詞原三叢」「采樵余録」「叢外余芳」「経義史論雑説」「文詩和歌稿」著、  
 [泉翁(;号)の字/通称/別号]字;如是、通称;礼蔵/泉右衛門、別号;白水/楽軒/楽庵
- N2482 仙翁(せんおう・山田やまだ) ? - ? 江後期;歌人、  
 1860鋤柄助之「現存百人一首」入、  
 [朧夜をやがてすずしく見し影のひかりそひゆく秋の月かな](現存百人一首;69)
- 千翁(せんおう) → 不角(ふかく・立羽たちば/山崎、書肆/俳人) 3 8 0 3  
 阡翁(せんおう) → 貞雄(さだお・瀬名せな、幕臣/故実家) B 2 0 7 2  
 泉翁(せんおう・大塚) → 磯名(いそな・大塚おおつか/武田、国学・歌) K 1 1 0 5  
 扇翁(せんおう・浅田) → 八百彦(やおひこ・浅田/朝田あさだ、俳人) 4 5 3 8  
 扇翁(せんおう・語仏老人) → 扇橋(せんきょう・二世船遊亭、落語) F 2 4 1 4  
 潜翁(せんおう) → 常足(つねたり・上野、洋学者) C 2 9 4 6  
 仙翁(せんおう・良寿、真言僧) → 監物(けんもつ;通称・佐野、郷土史家) M 1 8 4 9  
 仙翁(せんおう・添田) → 完太夫(かんだゆう・添田そえだ、将棋士) R 1 5 3 1  
 蟾翁(せんおう・池田) → 錦橋(きんきょう・池田いけだ、医者) Q 1 6 7 9
- 02488 全王(ぜんおう・転経院) ? - ? 鎌倉期;興福寺転経院の童/歌人、  
 1237刊[檜葉集]入、  
 [かよひける松陽院の桜はつねよりもとく咲く木なりければ、  
 散るなごりもまたあやなくやおぼえけむ よみ侍りける、  
 はつはなはかつちるいろにもものぞおもふいつまで人にうらやまれけむ]
- L2481 全応(ぜんおう;法諱) ? - ? 江前期上州勢多郡新川の天台僧;善昌寺住僧、  
 1734(享保19)「旧記外云伝」著  
 全応(ぜんおう;号) → 性山(しょうざん;法諱、天台僧/歌人) U 2 2 9 0  
 全翁(ぜんおう) → 直談(なおもり・井伊いゝ直興/藩主/大老/歌) L 3 2 0 1

- 禅雄(ぜんおう/ぜんゆう:法諱)→ 大円(だいえん:道号・禅雄、曹洞僧) J 2 6 2 2  
 膳王(ぜんおう) → 膳王(膳部[夫]王かしわでのおおきみ、万葉歌人) C 1 5 1 3  
 禅翁(ぜんおう) → 日人(わつじん・遠藤/木村、藩士/俳人) 5 3 5 1  
 髯翁(ぜんおう・山崎) → 宗円(そうえん・山崎/源、幕府鍼医) G 2 5 3 2  
 髯翁(ぜんおう・浅山) → 可清(よしきよ・浅山あさやま、藩士/歌人) L 4 7 1 7  
 善応寺殿(ぜんおうじどの) → 通直(みちなお・河野、武将/城主/連歌) C 4 1 0 6  
 仙翁亭(せんおうてい) → 羨鳥(せんちょう・坂上、大庄屋/俳人) G 2 4 3 7  
 半兵衛(はんべえ・坂上) → 羨鳥(せんちょう・坂上、大庄屋/俳人) G 2 4 3 7  
 善応幽海(ぜんおうゆうかい;出家号)→ 博高(ひろたか・東久世、廷臣/歌) G 3 7 1 5  
 潜屋(せんおく) → 常信(つねのぶ・狩野かのう、絵師/鑑定/歌) D 2 9 0 2  
 麩屋(せんおく) → 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家) G 4 4 4 1
- E2497 **仙化**(仙花せんか、別号;青蟾堂せいせんどう)?-? 江前期江戸の芭蕉門俳人、其角と交流、  
 1686「蛙合かわずあわせ」編(古池やの句入)、1683其角「虚栗」入集/85風瀑「一楼賦」入、  
 1689「あら野」1句/91「猿蓑」1句/94「炭俵」5句/98「続猿蓑」1句入集/94其角「句兄弟」入、  
 [一葉ひとは散る音かしましきばかり也]、  
 (あら野;四初秋/松島雲居の寺にて;瑞巖寺で桐一葉の落ちる音)
- E2498 **沾荷**(せんか) ? - ? 磐城平藩士/俳人;露沾門/藩主内藤露沾の付人、  
 1690不卜「続原」1句/98「続猿蓑」1句/1705沾竹「五十四郡」(沾荷と平に赴いた記念集)入、  
 [我が庭や木ぶり見直す初桜](続猿蓑;下)
- L2482 **仙花**(せんか・市川いちかわ) ? - ? 江後期甲斐?の俳人、敲氷と交流、  
 1795(寛政7)甲斐中巨摩郡の俳人市川渭川の追善集「露の記念」編
- E2499 **扇歌**(せんか・都々一[逸]坊どいつぼう初世、姓;岡おか、医者岡おか玄作男)1804-5249 常陸佐竹村磯部生、  
 幼時に片眼失明/一時石岡の旅籠屋酒井長五郎の養子;不縁/按摩業と門付けで生活、  
 1838江戸で音曲咄;船遊亭扇橋門、うかれ節の祖、人気を得たが幕府の忌諱に触れ江戸払、  
 帰郷;常陸石岡で没、川柳作者;真砂連/「誹風柳多留」入、「新板十二ヶ月とちりとん」編、  
 「都津地里問屋并おもしろぶし」著、[大名の家主になる御本陣](川柳百人一首)、  
 [都々一(逸)坊扇歌(初世;号)の通称/法号]通称;子之松ねのまつ/福次郎、  
 法号;都々一坊賢叟清信士/都々一坊見伝居士
- F2400 **仙果**(2世せんか・笠亭りゅうてい、姓;篠田しのだ、通称;久次郎)1837-8448 合巻作者:初世笠亭仙果門、  
 「桶狭間軍記」「桶狭間続軍記」著、「浪華五侠伝」編、1867「四国攻軍記」「勢州軍記」著、  
 「燈火茶話」著、  
 [2世笠亭仙果(;号)の別号] 万石亭積丸  
 仙果(初世せんか・笠亭りゅうてい) → 種彦(2世たねひこ・柳亭、高橋次房、戯作者) 2 6 4 4  
 潜窩(せんか・李) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0  
 潜窩(せんか) → 穀堂(こくどう・古賀、藩士/儒者/詩人) C 1 8 3 9  
 宣嘉(せんか・沢) → 宣嘉(のぶよし・沢さわ/姉小路、攘夷派) E 3 5 0 5  
 染香(せんか;号) → 寛隆(かんりゅう;法諱・大基、真宗僧) R 1 5 8 0
- N2456 **扇賀**(せんが) ? - ? 京の俳人;1729隆志「俳諧草結」2句入(205/256)  
 [紅白の中睦むつじや袖のきく](俳諧草結;205/袖の模様の菊は源平の旗とは違う)
- L2483 **仙雅**(せんが・中川なかがわ、別号;富雪庵)?-? 江後期京の俳人:柳波門、  
 1791(寛政3)「俳諧滝の音」編  
 千賀(せんが・野口) → 千賀(ちか・野口のぐち/松村、歌人) N 2 8 2 6
- L2484 **全瓦**(ぜんが・神門ごうと、名;要勝)1732-180271 丹波亀山藩士;1754家督嗣/58馬役、  
 1774罪を得て一時座敷牢入、俳人:京の修古門/文旨舎・逍遙窩の号を受、門人多数、  
 亀山俳壇の中心として活躍;諸国より俳諧行脚多数滞在、生前に文旨舎を門弟芝蘭に譲渡、  
 1781(天明元)「花むしろ」81-82「越旦」編、86「竹の操」著、  
 [全瓦(;号)の通称/別号]通称;佐仲すけなか/新右衛門、別号;文旨舎2世/逍遙窩2世  
 善賀(ぜんが・丸山) → 作楽(さくら・丸山、藩士/国学/詩歌) F 2 0 1 3
- L2485 **専海**(せんかい;号) ? - ? 室町戦国期信濃の僧/摂津伊丹に住、  
 連歌;1485新住吉御千句・94宗祇らと何路百韻など参加、新撰菟玖波集1句入、



金刀比羅本「新撰菟玖波集」書写の民部卿専海と同一か?

- L2486 **仙海**(せんかい;法諱) ? - ? 室町後期安桃期天台僧:武州仙波院・南院等に住、1589(天正17)「千手法則」、「文言雑々集」著
- E2487 **専戒**(せんかい;法諱、芳春ほうしゅん;字) 1640-1710<sup>71</sup> 真言僧;安楽寿院専教門;出家/運敵門;修学、1697智積院10世;権僧正/98僧正/1701(元禄14)金堂建立援助を幕府に求め江戸下向、1705智積院金堂落慶供養を実施、「智積院靈宝并袈裟世具目錄」著
- G2413 **遷介**(せんかい・杜もり、杜鷺山人)?- ? 江中期漢学者/狂文作者、1758狂文「訳文由縁看月やくぶんゆかりのつきみ」著(宮路蘭八「ゆかりの月見」の漢訳)
- L2487 **洗懷**(せんかい;法諱、水空すいくう;号)?-1841 越前浄土宗西山派安養寺僧/京の本山禅林寺65世、在住5年、「論題精義集」「当麻寺相口訣裏書」著
- I2470 **詮海**(せんかい;法諱、幡光はんこう;字、俗姓;中島) 1786-1860<sup>75</sup> 大和山辺郡筑紫村の融通念仏僧、1793大和西念寺東海門;得度/98撰津大念寺入;法脈・円頓戒を受、1799大和稗田常楽寺住、諸国歴遊;禅・律・密教を修学/儒・詩・書を修得、1829大念仏寺の講主、1837大和駒塚の東福寺を兼任;融通律の根本道場とする、「円念法語」「大念仏事蹟考」著、「融通念仏大宗記」「融通宗意弁」「融通円門章大意」「融通他力解」「融通念仏験得伝」外著多、[詮海(;法諱)の幼名/通称/号]幼名;馬之祐うまのすけ、通称;稗田の和上/稗田の真人、号;戒珠院/四徳/坊主墨海/天竺老人
- L2488 **宣界**(せんかい;法諱、俗姓;藤井、恵照男) 1811-90<sup>80</sup> 越後頸城郡桜町新田真宗本願寺派真常寺の生、越後三島郡本与板の本願寺派光西寺住職/崑崙社に入;興隆・僧朗・慧麟門;宗学を研鑽、自坊の側に私塾徳水社を創設;子弟教育、1867司教、72権少教正/83勸学職、「四教儀集註天保録」「高僧和讃弘化録」「往生論嘉永録」「愚禿鈔安政録」、「文類聚鈔文久録」「入出二門偈慶応録」「序分義定善義慶応録」外著多数、諡号;正化院
- L2489 **荐海**(せんかい;法諱) ? - ? 江後期華嚴宗東大寺別当189世、1868「御後見日記」著  
宣海(せんかい・林) → 宣海(のぶみ・林、名主/国学/歌人) D 3 5 3 5  
泉海(せんかい・近藤) → 華溪(かけい・近藤こんどう、医者) K 1 5 7 2
- L2490 **千豈**(せんがい・堀内ほりうち、名;折久) 1725-1803<sup>79</sup> 相模藤沢の俳人;千梅門、1739藤沢宿大久保の名主役を継嗣/1798辞職、俳諧;「千豈点取帳」(評)、吐竜の師、妻;かの(号;白蟬)、千班の父、[千豈(;号)の通称/別号]通称;七郎左衛門、別号;竹堂/竹里館/道謙居士、法号;清白院
- F2401 **仙厓**(仙崖せんがい;道号・義梵ぎぼん;法諱、井藤いとう甚八男) 1750-1837<sup>88</sup> 美濃武儀郡谷口村の臨濟僧、美濃武儀郡清泰寺の空印門;出家/のち月船禅慧門/博多聖福寺の盤谷門/月船の嗣法、筑前博多聖福寺の住寺/晩年は同寺虚白院に住、禅画に長ず;近世禅画の代表者の1、「捨小舟」「点眼菓」「触鼻羊」「仙厓和尚語録」「仙厓和尚書翰」著、[仙厓義梵の号]号;円通/天民/百堂/虚白、諡号;普門円通禅師
- F2492 **梅崖**(せんがい;法諱・奕堂えきどう;道号、俗姓平野) 1805-79<sup>75</sup> 名古屋曹洞僧;1818雪堂暁林門;出家、風外本高門;法嗣/1857加賀天徳院住持/1868永平寺と総持寺の抗争調停、1870総持寺独住1世、「鉄笛倒吹講話」「良寛和尚詩集」編、[奕堂梅崖の号]三界無頼/無似子/弘濟慈徳禅師/諸嶽奕堂  
千呆(千獸せんがい;道号) → 性安(性安しょうあん;法諱・千呆、黄檗僧) G 2 2 5 4
- N2451 **善海**(ぜんかい;法諱) 1448 - ? 1511<sup>存</sup> 上州青柳の天台宗竜蔵寺住、のち武州児玉郡大光普照寺住/武州仙波中院に転住、1493「問要竜問抜書」/1511「竜問鈔」、「九品往生義私案立」「四種三昧義阿陀報応」著、「宗要集松吟」「文句私見聞」「三周義案立無始無明」「被接義私案律一生破無明」著
- Q2468 **禅海**(ぜんかい;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、1670下河辺長流[林葉累塵集]5首入、[山里の軒のつららもややとけぬ都の花やさかむとすらん](林葉累塵;春139)[さびしさにしひてたへなば松風もあらそひかねて吹きやよわらん](同集;雑1213)  
禅海(ぜんかい;字) → 潮音(ちようおん;法諱、曹洞僧/史学) H 2 8 5 3  
禅鎧(ぜんがい;法諱) → 樵禅(しょうぜん;道号・禅鎧;法諱、臨濟僧) K 2 2 4 4

千界百如庵(せんかいひやくによあん)→慈芳(じほう;法諱、天台尼僧/悉曇学) F 2 1 6 6  
禅河院御室(ぜんかいいんのおむろ)→法守親王(ほうしゅしんのう、仁和寺門跡/歌) B 3 9 6 3  
千河翁(せんがおう・宮崎)→信生(のぶなり・宮崎みやざき、神職/国学) H 3 5 1 8

- 2425 仙覚(せんかく;法諱) 1203 - ? 1272存 天台僧;権律師/歌人、万葉集の校勘と研究:  
13歳から研究に志す/1246諸本を比較;無点歌152首に新点を加える;1247仙覚寛元本完成、  
1253奏状を添え後嵯峨上皇に献上/1266万葉集校訂本[文永三年本]完成、  
1269「万葉集註釈」著/72さらに万葉集を一校、藤原時朝と交流、新和歌集・東撰和歌六帖入、  
勅撰4首;続古今(1522)続拾遺(647)新拾遺(1588)新続古今(1795)、  
[おもかげのうつらぬ時もなかりけり心や花の鏡なるらむ](続古今;1522/花歌)
- L2492 仙覚(せんかく、通称;上野僧都) 1250-? 1284存 鎌倉期真言学僧:兼観門;1273伝法灌頂を受、  
理性院宗遍門;1276・84伝法灌頂を受、理性院院務、信耀・性照の師、  
「諸尊法伝受日記」「伝法灌頂作法口決」「伝法灌頂雑記」著
- L2493 千閑(せんかん) ? - ? 江前期伊予の俳人;1689「あら野」2句入、  
[海士の家い聖ひりよびこむやよひ哉](あら野;八/詞書;八島にて/八島;讃岐の古戦場)、  
(前を通る乞食僧を招き入れ供養・平家の末裔か/頃は元暦元年三月十八日の事なりし)
- N2457 扇角(せんかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(92)
- N2458 扇鶴(せんかく) ? - ? 江前期俳人;1691不角「二葉之松」入(237)
- L2494 仙鶴(せんかく) ? - ? 俳人;1715雲鈴「笈之若葉おのわかば」入  
堀内仙鶴と同一? → 仙鶴(せんかく・堀内、俳人/茶人) F 2 4 0 3
- F2403 仙鶴(せんかく・堀内、名:宗信、堀内浄佐養子) 1675-174874 江前中期;江戸座の俳人;沾徳門、  
1706京に移住/俳諧点者、茶道:3世宗左門/表千家堀内家の祖、画;一蝶門/戯画に長ず、  
1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
1726「水精宮」/「花すゝき」編、「十二月箱じゅうにつきはこ」編、  
1729隆志「俳諧草結」(序・15句点句と発句)入/没後:几董「其雪影」1句入、  
3回忌追善集「籠耳」(1750門弟中村漆翁編:師)、  
[雪こぼす片日かひに落つるひばりかな](俳諧草結;片日は片日向/日差しに雲雀が舞降る)、  
[今や牽ひく富士の裾野の蝸牛がつづり](其雪影;巻尾322/象の登りけるとしに:  
1729[享保14]牡象一頭が長崎から上方を経て江戸に来る/富士から見れば象も蝸牛)、  
(本歌;逢坂の関の清水に影見えて今やひくらむ望月の駒;拾遺集 紀貫之)  
[仙鶴の別号] 化笛斎/笛斎/笛叟/鶴翁/白鶴翁/化南庵/長生庵
- F2404 仙鶴(せんかく・但見ただみ) ? - ? 江中期大阪の浄瑠璃作者/豊竹座の合作者、  
延享1744-48頃浅田一鳥・豊岡珍平・初世為永太郎兵衛(千蝶)らと活動、  
1744「潤色江戸桜」「柿本紀僧正旭車」「遊君衣紋鑑」/45「詩近江八景」47「裾重紅梅服」著  
但見弥四郎と同一か? → 弥四郎(やしろう・但見、浄瑠璃作者) 4 5 7 4  
千鶴(せんかく・中山、) → 千鶴(ちづる・中山なかやま、商家/歌人/書) N 2 8 1 8  
宣覚(せんかく;字) → 日慶(にちけい;法諱・遠覺院、日蓮僧) B 3 3 5 0
- L2496 千岳(せんかく;道号・道止どうし;法諱、初道号;虚舟) 1644-170057 因幡の禅僧;  
初め因幡鳥取の臨濟宗竜峯寺の提宗慧全門;出家、提宗と共に黄檗宗に帰依;木庵性瑠門、  
1683木庵の嗣法、85竜峯寺6世、鳥取藩主池田綱清に招聘され清源寺開山、「脈脉論解存」著  
千岳(千嶽せんかく;道号) → 宗勿(そうじゆん;法諱・千岳;道号、臨濟僧) I 2 5 0 9  
箭岳(せんかく・川名) → 安之(やすゆき・川名かわな、藩士/国学者) F 4 5 7 7
- L2497 禅覚(ぜんかく;法諱・五智房;号、通称;大天法印、藤原家範男) 1143-121472 天台僧;禅朗阿闍梨門、  
1181真円より伝法灌頂を受、1209園城寺別当/10拜堂をする/法印、「護摩五智房記」著
- L2498 禅覚(ぜんかく;法諱、三位法印/相応院大僧都、因幡法眼尊隆男) 1174-122047 真言御室仁和寺僧、  
;隆憲門、1194行宴より/1214道法親王より伝法灌頂、1218大僧都、  
1194「ものところ」1200「六紙様第九」、「雑要秘鈔」「尊秘」「計注」「甲乙沢見抄」著
- F2405 禅覚(ぜんかく) ? - ? 法師、歌人:1324成立「続現葉集」(;禅覚法師名)入、  
続現葉の歌は1364成立「新拾遺集」812には[読人しらず]、  
[たのめおく宿しなければ旅の空くるるを道の限にぞ行く](新拾遺;羈旅812)
- 禅覚(ぜんかく;法名) → 武雄(たけお・足助あすけ/小槻/辻、神職) V 2 6 0 0

- 善廓(ぜんかく;字) → 閑空(かんくう;法諱・善廓、浄土僧) Q 1 5 2 6  
千鶴庵万亀(せんかくあんばんき) → 万亀(ばんき・千鶴庵、読本/狂歌) H 3 6 3 6  
善学院(ぜんがくいん) → 日鏡(にちきょう;法諱・印英、日蓮僧) B 3 3 2 5  
善学院(ぜんがくいん) → 日高(にちこう;法諱、日蓮僧) B 3 3 7 9  
善学院(ぜんがくいん) → 公助(こうじよ;法諱、天台僧/歌人) J 1 9 6 8  
千鶴亭友年(せんかくていともし) → 友鶴(ともつる・千歳軒、狂歌) P 3 1 8 9  
仙客亭柏琳(せんかくていはくりん) → 柏琳(はくりん・仙客亭、戯作者) E 3 6 1 2  
千客亭万亀(せんかくていばんき) → 万亀(ばんき・千鶴庵、読本/狂歌) H 3 6 3 6  
千鶴堂(扇鶴堂せんかくどう) → 北洋(ほくよう・葛飾かつしか、絵師) E 3 9 0 5  
仙鶴堂(せんかくどう) → 一雄(かずお・松本まつもと、絵師) M 1 5 1 5  
F2406 釋袞軒(せんかへん) ? - ? 俳人、1664作法書「はなひ草大全」著  
仙果亭嘉栗(せんかていかりつ) → 上太郎(じょうたろう・紀、三井高業、浄瑠璃作/狂歌) 2 2 8 7  
宣果亭朝省(せんかていちようせい) → 朝省(ちようせい・宣果亭、狂歌) J 2 8 1 4  
仙花堂(せんかどう) → 重長(しげなが・西村、書肆/画家) C 2 1 6 1  
浅華洞(せんかどう) → 宗定(むねさだ・深沢ふかざわ、国学者/狂歌) E 4 2 1 9  
泉花堂三蝶(せんかどうさんちよう;号) → 三蝶(さんちよう・泉花堂せんかどう、戯作者) M 2 0 6 0  
全花楼(ぜんかろう) → 道直(みちなお・野口のぐち、商家/国学者) C 4 1 0 7  
2426 千観(せんかん;法諱、通称;津国内供、橘敏貞男) 918-983/66 天台僧;初め園城寺運昭門;顕密を修学、  
内供奉十禅師となる;撰津箕面に隠棲、963撰津高槻の金竜寺に住;同寺再興、実因の兄弟、  
民衆教化に尽力、967村上天皇女御庄子女王・更衣藤原祐姫の出家の戒師を務める、  
歌人、最古の和讃「極楽国弥陀和讃」著、「五味義記」「往生十大願」「三宗要録」「嘱累義記」、  
「三周義私記」「七聖義記」「十妙義私記」「二諦義私記」「六即義私記」外著多数、  
勅撰4首;新勅撰(577)続千載(1024)続後拾(1305)新千載(1832)、  
[法身の月はわが身を照らせども無明の雲の見せぬなりけり](;新勅撰;釈教577)  
☆極楽国弥陀和讃;日本における初の和讃/珍海[菩提心集]に引用(浄全15・507上下)等、  
後世の浄土教者や以後の和讃に多くの影響、原作の句数は不明;  
同時代の慶滋保胤[日本往生極楽記]千観の項に[阿弥陀和讃二十余行を作]
- 02480 瞻寛(せんかん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、興福寺僧増辨と交流、  
歌人;1237刊[檜葉集]6首入、  
[貞慶已講(1155-1213)よをのがれて後建久(1190-99)のころ宝積院卅講、  
しのびて聴聞し侍りけるに雪の深く積りければ増弁律師が講師なるにつかはしける、  
いにしへはふみみしかどもしら雪のふかきみちこそあともおぼえぬ](檜葉;釈教545)
- 千寛(せんかん・権田) → 千寛(ちひろ・茅舎かや、藩士/狂歌作者) F 2 8 2 5  
千幹(せんかん・正木) → 千幹(ちもと・正木長秀、商家/国学者) F 2 8 4 8  
千萩(せんかん・野田) → 千萩(ちもと・野田のだ/岩神/波多/秦、国学) N 2 8 2 8
- L2499 仙巖(せんがん;法諱) ? - ? 江前期京の時宗七条道場金光寺の僧、  
連歌作者:昌琢門、興意親王・智仁親王・良怨親王らの連歌会に参加、昌琢と一座、  
慶長15-元和1610-24頃百韻多数;慶長15(1610)昌琢と百韻/元和8(1624)「何船百韻」など、
- M2400 仙巖(せんがん;道号・元嵩げんすう;法諱、川島瀬左衛門男) 1684-1763/80 近江黄檗僧;梅嶺道雪門/嗣法、  
1723近江正瑞寺住持/43仙台大年寺9世/63宇治万福寺19世;普山せず/江戸金瑞寺で没、  
1743「仙巖和尚語録」、「仙巖和尚大年寺語録」著
- 潜巖(せんがん;道号) → 観機(かんき;法諱・潜巖、曹洞僧/彫刻) Q 1 5 1 4  
沾雁(せんがん) → 利視(としみ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 8  
賤丸(せんがん・眠亭) → 川柳(4世せんりゅう、人見周助) 2 4 4 2
- F2407 禅観(ぜんかん;法諱・九条、蓮寂上人、俗姓;藤原)?-? 鎌倉期の僧、九条金頂寺別当、  
九条公順こうじゅんの父
- P2401 善観(ぜんかん;法諱・善観房)?-? 鎌倉中後期;京太秦の念仏僧(広隆寺僧?)、  
浄土僧安楽(遵西)らの六時礼讃の念仏に曲譜を決めて[声明]とする、  
さらに[法事讃]に曲を付し修す(徒然草227段)
- E2476 禅閑(ぜんかん;法諱) ? - ? 江前期時宗僧;六条道場の僧、

1676西鶴「古今誹諧師手鑑」入、

[時宗ならで名や尼寺の花の庭](手鑑/清水寺の尼寺地主じゅ権現にて下間治部卿会合に、地主じゅを時宗にもじる)

善観(ぜんかん;法名) → 基房(もとぶさ・藤原、摂政・関白/歌人) E 4 4 2 0

禅関(ぜんかん;道号・元青) → 元青(げんせい;法諱・禅関、黄檗僧) K 1 8 4 5

M2401 全巖(ぜんがん;道号・林盛りんせい;法諱)?-1765 尾張の曹洞僧:仁国宗怒門/嗣法、尾張竜興寺13世、尾張万松寺18世/1756尾張の長松寺創建、「正法眼蔵撃節集」「大般若経品目提綱歎徳頌」著

禅巖(ぜんがん;道号) → 元密(げんみつ;法諱・禅巖、黄檗僧) M 1 8 4 0

仙巖斎(せんがんさい) → 氏真(うじまね・今川、武将/歌/連歌) 1 2 3 1

千間子(せんかんし・前田) → 千間子(ちまこ・前田、藩主の室/歌人) F 2 8 3 9

川観亭(せんかんでい→せみのや) → 順(したごう・高本/原田、医/儒/国学) E 2 1 5 0

洗眼堂(せんがんどう、藤原唯彦) → 秀根(ひでね・河村、藩士/国学者/歌) D 3 7 5 4

前関白～(ぜんかんぱく～) → 前関白～(さきのかんぱく～)

善観房(ぜんかんぼう) → 善観(ぜんかん;法諱、念仏僧/声明) P 2 4 0 1

川関楼琴川(せんかんろうきんせん) → 惟充(これみつ・川関かわぜき、戯作者) O 1 9 8 9

倩季(せんき・秋田) → 倩季(よしすえ・秋田あきた/安倍、藩主) D 4 7 7 2

千祺(せんき・頼) → 杏坪(きょうへい・頼らい、儒者/史家) 1 6 3 8

千規(せんき・徳永) → 千規(ちのり・徳永とくなが、国学者) F 2 8 1 6

宣紀(せんき・細川) → 宣紀(のぶり・細川ほそかわ、藩主/詩人) C 3 5 7 2

宣輝(せんき・草鹿砥) → 宣輝(のぶてる・草鹿砥くさかど、神職/国学) C 3 5 9 0

撰喜(せんき・せんき) → 喜撰(きせん、六歌仙) B 1 6 4 0

千達(せんき・松林) → 飯山(はんざん・松林まつばやし、儒者) H 3 6 8 4

宣義(せんぎ/のりよし・稻生) → 若水((じゃくすい・稻生いのう/稻、儒/本草) G 2 1 3 0

M2402 禅喜(ぜんき;法諱、藤原最実男)874-95582 880比叡入山/889出家;尊意門/949天台大僧都、講経は千余度、晩年は極楽寺内竹林院に隠棲、「念仏助成記」「浄土図様」著

禅機(ぜんき;字) → 環中(かんちゅう;号・禅機、臨濟僧) R 1 5 3 7

善奇(ぜんき・松田) → 駒水(くすい・松田まつだ、藩士/儒者) C 1 7 0 6

F2408 千菊(せんぎく・安井やすい、敏雄[謙助]男)1866-1883夭逝18歳 息軒の孫、1878「息軒遺稿」編

仙菊(せんぎく・服部) → 安休(あんきゅう・服部はっとり、藩士/神道) G 1 0 0 2

千菊園一葉(せんぎくえんいちよう) → 一葉(いちよう・千菊園、伊藤、狂歌) G 1 1 5 5

D2446 舛吉(せんきち) ? - ? 江前期上方の俳人、

1673西鶴「生玉万句」第六相撲第三/第六月発句等入、

[馬金かがねも骨を折りてや渡るらん](生玉万句;相撲第三、

脇句一瓶いちへい;軽籠かるこで担ふ道芝の露)

仙吉(せんきち・曲山人) → 曲山人(きよくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2

仙吉(せんきち・青木) → 周溪(しゅうけい;号・青木、絵師/俳人) X 2 1 0 0

仙吉(せんきち・朝倉) → 義方(よしかた・朝倉あさくら、和算家) C 4 7 7 5

仙吉(せんきち・赤川) → 知至(ともゆき・赤川あかがわ、藩士/歌人) T 3 1 8 7

仙吉(せんきち・田島) → 尋枝(ひろえ・田島たじま、商家/国学者) K 3 7 0 3

仙吉(せんきち・森) → 三穂磨(みほまる・森もり、国学者) K 4 1 7 9

専吉(せんきち・飯沼) → 慾斎(よくさい・飯沼いぬま/西村、医者/本草) B 4 7 7 2

雋吉(せんきち→としよし・伊藤) → 雋吉(としよし・伊藤、航海術/砲術) O 3 1 2 1

M2403 善吉(ぜんきち・永田ながた、名;可大)1748-182275 白河藩領岩代須賀川の絵師;伊勢の画僧月僊門、兄丈吉(昆山)没後;兄の異国染の業を継嗣、藩主松平定信に見出され命により谷文晁門、1796御用絵師;白河住、蘭画;司馬江漢門/破門される、

1799長崎でオランダ人より銅版画技術を修得、江戸で多くの銅版画・洋画を描く、

狂歌を嗜む/1816須賀川に帰郷、1808「銅版画解剖図」画、14雨考編俳諧「青かげ」銅版画入、「大日本金竜山之図」「江戸城外風景」画など多数、

[善吉(;通称)の別通称/号]別通称;田善(でんぜん)、号:亜欧堂田善/星山堂、法号;一翁如旦居士

善吉(ぜんきち・児玉) → 実満(じつまん/さねまる・児玉こだま、郷土史) V 2 1 0 9

- 千吉(せんきつ:号) → 泰然(たいねん;法諱・千吉:号、天台僧) K 2 6 8 9  
 仙橋(せんきつ・筑波) → 曲山人(きよくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2  
 仙橋(せんきつ・宮川) → 政運(まさかず・宮川/松岡/志賀、随筆家) B 4 0 7 8  
 泉橋(せんきつ・紫嶺齋) → 曲山人(きよくさんじん、人情本作者) 1 6 4 2  
 善謔主人(ぜんぎやくしゅじん) → 屈斎(くっさい・三木、藩士/詩・滑稽本) C 1 7 4 7  
 千客亭万亀(せんきゃくていばんき) → 万亀(ばんき・千鶴庵、読本/狂歌) H 3 6 3 6
- F2409 千及(せんきゆう・田路たじ、別号;雅言館)?-? 備前の人;武事に励む/父没後母と撰津伊丹移住、  
 文事・俳諧;鬼貫門/高弟となる、晩年は大阪三津寺八幡宮の傍らに隠棲、  
 1705「伊丹酒壺五歌仙」著/「酸鼻集」編、1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
 1718波天「万石船まんごくぶね」に所付入、  
 [行水につれてもゆかぬ柳哉](伊丹発句合;春)
- 詮久(せんきゆう・尼子) → 晴久(はるひさ・尼子あまこ、武将/連歌) G 3 6 7 2  
 宣久(せんきゆう・西園寺) → 宣久(のぶひさ・西園寺、城主/紀行) C 3 5 9 2  
 千牛(せんきゆう・箕曲) → 在一(ありかず・箕曲みのわ、神職/詩歌) F 1 0 2 6
- F2410 禅休(ぜんきゆう;法諱、通称;浜雅楽大夫、禅心法師の男)?-? 南北期の僧;法師、  
 歌人、新千載集1866、  
 [いつまでか柳の門のちりをうけて身をたてぬ世になほつかへまし](新千;雑1866)
- M2404 善救(ぜんきゆう;法諱・普濟ふさい;道号、俗姓;藤原)1347-140862 加賀河北郡の曹洞僧;  
 1353(7歳)加賀の観法寺入/59(13歳)浄住寺寂室了光門;出家/能登総持寺通玄寂霊の嗣法、  
 のち1393総持寺住持/丹波永沢寺・越中竜泉寺・能登永光寺歴住、  
 その間に越中願泉寺・越前禅林寺の開山、「通幻霊禅師総持語録」「通幻霊禅師漫録」編、  
 「普濟善救禅師語録」著
- 全久(ぜんきゆう;法諱) → 桂芳(けいほう;道号、臨濟僧) I 1 8 2 9  
 善久(ぜんきゆう/よしひさ・樺山) → 玄佐(げんさ・樺山、武将/歌人) B 1 8 8 1  
 善久(ぜんきゆう・岩谷) → 文淵(ぶんえん・岩谷いわや、医者/詩文) E 3 8 8 4  
 善久(ぜんきゆう・狩野) → 善久(よしひさ・狩野かのう、医者/国学) M 4 7 1 5  
 善玖(ぜんきゆう;法諱) → 石室(せきしつ;道号・善玖;法諱、臨濟僧) F 2 4 1 1  
 禅休(ぜんきゆう;入道名) → 倫篤(ともあつ・三須みす/藤原、幕臣/連歌) P 3 1 1 5
- M2405 蟾居(せんきよ・岩城いわき、名;長膺、屋号;岩城屋)1789-186476 伊予吉田の商家;  
 1821酢油商岩城屋7代目を継嗣/町年寄として町政に参画、和漢書に通ず、俳人;蒼虬門、  
 文化1804-18頃伊予吉田で一門を結社;師より賞として桐机を贈与される、  
 「波留富久路」「櫛記」著、  
 [蟾居(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;子平、字;子慶、通称;晋助/覚兵衛、  
 別号;円理/大徳/川流/月蟾子げっせんし/文雅園/売茶翁
- 船居(せんきよ/ふない;号) → 達言(たつげん;法諱・船居、真宗僧) R 2 6 5 8  
 千魚(せんぎよ・鮎沢) → 国維(くにつな・鮎沢あゆさわ、藩士/国学) C 1 7 9 0  
 仙魚(せんぎよ・瀬川) → 菊次郎(きくじろう・瀬川、歌舞伎役者) K 1 6 1 5  
 潜魚庵(せんぎよあん) → 魚坊(ぎよぼう・中島、歌人/俳人) Q 1 6 3 0  
 善居逸(せんきよいつ、一字姓;善) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9
- 02476 瞻經(せんきよう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧;法師、  
 歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]2首入(122牡丹の歌)
- 02477 専慶(せんきよう;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧;法師、  
 歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]4首入、  
 [ほととぎすとはざかりゆく山のはにのこれる月もかたぶきにけり](檜葉;夏131)、  
 [法橋頭照(1130?-1209?)雲居寺歌とて草花飾仏前といふ題をひろくすすめ侍りけるに、  
 うつしううるところがらにや秋萩もうきよのほかのはなとみゆらむ](檜葉;釈教548)
- F2412 千杏(せんきよう) ? - ? 絵師、1788赤蜻蛉「女郎買之糠味噌汁」画
- F2413 扇橋(せんきよう・船遊亭せんゆうてい)?-1829 奥平家家臣、江戸赤坂住、音曲;宮本豊前太夫門、  
 常磐津兼太夫門;常磐津若太夫名、落語;初世三笑亭可楽門、1809音曲入落語を披露;  
 音曲咄の祖、雑俳;前句付点者;真砂連主導、「誹風柳多留」入、

[くれそうにして紅みの舌を出し](柳多留;三七)、

門人;二世船遊亭扇橋・都々一坊扇歌・鼠遊亭鉄扇・船遊亭扇松・船遊亭扇蝶など

F2414 扇橋(2世せんきょう・船遊亭、本名;鈴木十蔵)1786-? 落語家;初世扇橋門、江戸麻布住/木挽町住、1841-43奥州仙台・八戸・大館・久保田(秋田)・青森・深浦など巡業;紀行「奥のしおり」著、1848「落語家奇奴部類」著、川柳作者;真砂連;1833-39頃誹風柳多留一二二篇一一六五篇入、[軒へふく菖蒲尾長のうしろ向](川柳百人一首)、

[2世扇橋(;号)の別号]船遊亭新橋/船遊亭扇蝶/入船いりふね扇蔵/語仏老人扇翁

G2491 扇橋(3世せんきょう・船遊亭)?- ? 江戸の落語家;2世扇橋門、扇橋三世襲名、[3世扇橋(;号)の別号] 扇蔵

F2415 扇橋(4世せんきょう・船遊亭、初代五明楼玉輔男)?-? 落語家;扇橋四世襲名、のち初代入船米蔵、[4世扇橋(;号)の別号] 扇太郎、初代入船米蔵いりふねよねぞう、

02427 仙慶(せんきょう;法諱・俗姓;武たけ)1840-181475 近江蒲生郡の真宗本願寺派 広濟寺住職、国学、[仙慶の名/号]名;竜泰、号;松濤/武仙

千郷(せんきょう・芝原) → 千郷(千里ちさと・芝原しばら、国学者) M 2 8 6 6

千郷(せんきょう・田沢) → 千郷(ちさと・田沢たざわ、藩士/歌人) E 2 8 2 5

千郷(せんきょう・武藤) → 千郷(ちさと・武藤むとう/鳴原、国学/歌) N 2 8 6 4

仙慶(せんきょう) → 仙慶(せんけい;法諱、僧/歌人) F 2 4 2 0

宣教(せんきょう・中御門) → 宣教(のぶのり・中御門なみかど、廷臣/日記) C 3 5 6 8

宣教(せんきょう・根岸) → 宣教(のぶのり・根岸ねぎし、国学/歌人) J 3 5 5 3

宣鏡(せんきょう・吉村) → 宣鏡(のぶあき・吉村よしむら、歌人) G 3 5 9 1

宣業(せんきょう・横田) → 祈綱(のりつな・横田よこた、商人/尊攘派) F 3 5 1 0

宣業(せんきょう・阪本) → 弦山(げんざん・阪本、医者/経史/文学) J 1 8 2 8

M2406 禅興(ぜんきょう;法諱・松梅院;号、松梅院禅光男)?-1601 戦国安桃期の社僧;北野天満宮祠官、松梅院住/1535三綱補任、神殿大預/政所奉行職/法印、娘が豊臣秀次の妾;連座で牢籠、1598赦免、連歌作者;1600(慶長5)万句興業、1575紹巴と「何木百韻」/77紹巴と「懐旧百韻」、禅永・禅祐の父

善慶(ぜんきょう;法諱) → 善慶(ぜんけい;法諱、法師/歌人) O 2 4 7 9

善教(ぜんきょう・よしのり・片野) → 東四郎(3世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) F 3 1 3 2

善教(ぜんきょう・よしのり・鈴木) → 益堂(えきどう・鈴木すずき、儒者) D 1 3 6 8

善教(ぜんきょう・久保) → 善教(よしのり・久保くぼ、藩士/詩人) F 4 7 9 2

善恭(ぜんきょう・丹波) → 兼康(かねやす・丹波たんば、廷臣/医者) P 1 5 0 0

仙橋庵(せんきょうあん) → 朱玉(しゆぎよく・鈴木すずき、藩士/俳人) Y 2 1 6 0

仙教院(せんきょういん;号) → 無幻(むげん;法諱、修験僧/書家) 4 2 4 9

僊杏院(せんきょういん) → 西湖(せいこ・田村/坂上、幕吏/医/本草) B 2 4 3 3

闡教院(せんきょういん;諡号) → 目云(もくうん;法諱、真宗本願寺派学僧) 4 4 6 8

泉響園(せんきょうえん) → 琴而(きんじ・斎藤、商家/俳人) H 1 6 9 4

泉橋外史(せんきょうがいし) → 毅堂(きどう・鷺津わしづ、儒者) G 1 6 0 1

善教寺猿算(ぜんきょうじえんざん) → 猿算(えんざん・善教寺、浮世草子作者) C 1 3 1 5

遷喬亭(せんきょうてい) → 氷解(ひょうかい、山本長十郎、狂歌) F 3 7 1 6

M2407 仙旭(せんきょく;法諱) ? - 1797 浄土宗西山派西谷流の僧、「当麻曼陀羅略賛解」著

僊玉(せんきょく;法諱) → 舜堂(しゆんどう;道号、曹洞僧) L 2 1 6 3

禅曲(ぜんきょく・誰庵すいあん) → 安照(あんしょう・金春/6世大夫、能楽) C 1 0 1 3

M2408 禅旭(ぜんきょく;法諱) ? - ? 江中期武州大里郡西別府の臨濟宗安楽寺19世住寺、1738(元文3)「安楽寺由来略記」著

前旭(ぜんきょく;字) → 日泉(にっせん;法諱・甘露院、日蓮僧) E 3 3 7 9

潜居士(せんきょし) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5

千金(せんきん・下村/島村) → 弘堂(こうどう・島村しまむら、儒者) G 1 9 4 2

千金(せんきん・名倉) → 千金(ちかね・名倉なくら、国学者) N 2 8 1 0

F2416 専吟(せんぎん;法諱) ? - ? 江前中期江戸の僧/俳人、

1696「若葉合」/170轍士「花見車」1句/05朝叟「ゆげた」入、1713秋色女「石なとり」跋文、

- [山鳥のおろと氷るや滝の松](花見車;89/おろは尾羽/尾羽のように長く垂れた松枝)
- 2427 **蟬吟**(ぜんざん・藤堂とうどう、名;良忠、伊賀上野城代良精3男)1642-66**早世**25 俳人;季吟門、芭蕉が近侍、1665「貞徳十三回忌追善百韻」主催(;芭蕉参加)、没後;「如意宝珠」「続山井」「猿蓑」等に入、[大坂おおさかや見ぬよの夏の五十年](猿蓑;二/五月六日大坂討死の遠忌をとむらひて、祖父藤堂良勝は1615[慶長20]5月6日落城前日戦死/50年忌は1664)[蟬吟(;号)の通称] 新七郎
- 蟬闇(ぜんざん;道号) → 龍惶(りゅうこう;法諱・蟬闇ぜんざん、臨濟僧/詩)M 4 9 7 4  
 千金子(せんきんす) → 南畝(なんぼ・大田、幕臣/狂歌詩) 3 2 3 3  
 千錦亭(せんきんてい) → 六花亭富雪(りっかていとみゆき、絵師) B 4 9 6 4  
 洗金甫(せんきんぼ) → 金助(かねすけ・荒井、石狩/樺太開拓) O 1 5 5 5
- 02422 **暹煦**(せんくう;法諱、) 1828 - 1869**42** 伊勢桑名の僧、近江三井寺日光院住職、国学、阿闍梨、聖護院宮の侍講、歌[鳩のうみ]入
- F2417 **瞻空**(せんくう;法諱、藤原伊行男)?-?1265**以前没** 浄土宗西山派の上人、高松院姝子内親王の籠僧を勤める/東国に修行、歌僧;檜葉集5首入、続古今集1735、世尊寺伊経・尊円(定伊/天台僧)・建礼門院右京大夫の兄弟[草のいほを月と共には出でぬれど影かくすべき山の端ぞなき](続古;雑1735)[入我我入の観、つねにすむこころの月のはれぬればひかりぞかよふありあけのそら](檜葉;釈教571)
- M2409 **專空**(せんくう;法諱、俗名;大内行弘、下野真岡城主大内国行3男)1292-1343**52** 下野真宗僧、下野高田の専修寺3世頭智門/のち1310専修寺4世住職、焼失した大谷の御影堂再建に尽力、東北・東海・北陸を行脚;布教活動、1343「高田口伝鈔」編/「宗祖門侶交名牒」著、「三十三通相承口伝」伝
- 仙空(せんくう;法名) → 持純(もちずみ・畠山/源、歌人) B 4 4 4 3  
 闍空(せんくう;字) → 亮範(りょうはん;法諱・闍空、浄土西山派僧) J 4 9 2 9
- F2418 **禪空**(ぜんくう;法諱、覚道上人、鷹司[藤原]伊平男)?-? 浄土宗西山派嵯峨流の僧;上人、浄金剛院覚導坊の住僧、歌人;後嵯峨院1周忌に哀悼歌詠、勅撰3首;続拾遺(1322;後嵯峨院1周忌詠/1388)新後撰(671)、[めぐりきてかたみとならば慰まで同じ月日はなほぞ悲しき](続拾;雑1322)
- F2419 **漸空**(ぜんくう;号、了観りょうかん;法諱)?-? 浄土宗西山派僧;観日門/京に三福寺建立、三福寺蓮光院に住;上人、歌人;1292厳島社頭和歌参加、続門葉入、勅撰3首;新後撰(1246;花の頃訪れた客に詠む)続千載(1020)新千載(891)、早歌作者:1296以前?明空「宴曲集;郭公」作詞、[いまよりの心かよはばおもひいでよかならず花のをりならずとも](新後撰;雑1246)[花の名をそれと聞きてもゆふかほの光は露の秋そまたるる]
- M2410 **善空**(ぜんくう;号・慧篤えとく;法諱)1413-92**80** 室町戦国期浄土僧;山城三鈷寺中統門/西山義を修学、のち三鈷寺14世、嵯峨二尊院13世、伏見に般舟院を開創、「髻珠鈔」「行要念仏安心抄」著、「浄土安心詮要鈔」編、「戒珠抄」「正信指要抄」/1484「当山并諸末寺記」著、[善空(;号)の別号/別法諱]別号;撰善院、別法諱;慧仁、諡号;円慈和尚
- 禅空(ぜんくう;法名) → 実量(さねかず・三条/転法輪三条、左大臣/歌) C 2 0 9 6  
 禅空(ぜんくう) → 経遠(つねとお・甘露寺、廷臣/故実) C 2 9 6 1  
 然空(ぜんくう) → 策伝(さくでん・安楽庵あんらくあん、浄土僧/茶人) 2 0 1 4  
 善空(ぜんくう・曾谷) → 学川(がくせん・曾谷そだに、儒者/詩/篆刻) E 1 5 8 8  
 賤窟(せんくう・森川) → 宗円(そうえん・森川もりかわ/島本、医者) 2 5 7 3  
 全愚道人(ぜんぐどうじん) → 周崇(しゅうそう;法諱・大岳;道号、臨濟僧) H 2 1 9 5  
 仙九郎(せんくろう・不破/多賀谷) → 環中仙(かんちゅうせん・多賀谷、和算家) R 1 5 3 9  
 全九郎(ぜんくろう・福住) → 貞庸(さだつね・福住ふくずみ/桜井、商家/歌) P 2 0 2 3  
 善九郎(ぜんくろう・岩室) → 宇柏(うはく・岩室いむろ、醸造業/俳人) E 1 2 2 0  
 善九郎(ぜんくろう・寺西) → 我竟(がきょう・寺西てらにし、俳人) J 1 5 3 7  
 善九郎(ぜんくろう・菊池) → 大瓠(たいこ・菊池/菊地、藩士/儒者) B 2 6 3 4

- 善九郎(ぜんくろう・中神) → 行忠(ゆきただ・中神ながみ、地誌家) E 4 6 7 2  
 善九郎(ぜんくろう・大原/望月) → 千春(ちはる・望月もちづき/大原、俳人) F 2 8 1 7  
 善九郎(ぜんくろう・岩谷) → 九十老(くじゅうろう・岩谷いわたに、豪農/公共事業) E 1 7 0 5  
 善九郎(ぜんくろう・樗田) → 義倉(よしくら・樗田くぬぎだ/柏木、国学) M 4 7 5 8  
 善九郎(ぜんくろう・藪屋) → 茂美(しげよし・五島ごとう、商家/国学) O 2 1 4 4  
 善九郎(ぜんくろう・錦戸) → 好昌(よしまさ・錦戸にしきど、国学者) O 4 7 4 0  
 善九郎(ぜんくろう・芝) → 秀恭(ひでやす・芝しば/加藤、藩士/神職) J 3 7 7 7  
 善家(ぜんけ・永田) → 桐隠(とういん・永田、儒者) B 3 1 0 6
- F2420 仙慶(せんけい/せんきょう;法諱)?- ? 平安期の僧;法師、歌人、拾遺集391・1343、  
 [五月雨にならぬかぎりには郭公ほととぎす何かは鳴かむしのぶばかりに]、  
 (拾遺;物名391/はななかむじ[花柑子];四・五句に隠す)
- F2421 専慶(せんけい・池坊いけのぼう)?- ? 室町前期京の頂法寺六角堂の僧/華道家、  
 池坊の元祖
- M2411 仙溪(せんけい・富春軒ふしゅんけん)?- ? 江前期京の華道家、当世風の立花様式を創案、  
 門弟多数、1688「立花時勢粧」
- F2422 扇計(せんけい) ?- ? 京伏見の俳人、  
 1690言水「新撰都曲」3句入・江水「百人一句」作者目録入、  
 [崩さずに置きて涼しや藤の棚](都曲;上122/夏の涼にも役立つ)
- F2423 仙溪(せんけい) ?- ? 京の俳人、1691江水「百人一句」目録入
- M2412 仙桂(せんけい;号) 1704?- ? 江中期上方の俳人、松原志中と交流;  
 志中還暦に賀集を編纂、1754「知命賀章」編、「還暦鳧藻輯」編、「誹諧滝乃鏡」著
- M2413 潜溪(せんけい・草野くさの、名;雲、佐藤固庵の長男) 1715-9682 父は肥後熊本藩儒;父門、大塚退野門、  
 藪慎庵門、熊本藩主細川重賢に出仕/藩校時習館助教、1743改姓;草野(父の本姓)、禄3百石、  
 能書家、詩人;1778孤山「楽泮集」入、「草野先生板文字坤」著、  
 [潜溪(;号)の字/通称/別号]字;士竜、通称;雲平、別号;草雲
- F2424 先啓(せんけい;法諱・了雅りょうが;字、安福寺了孝男) 1720-9778 美濃亀山の真宗大谷派安福寺の生、  
 1736(17歳)親鸞伝の研究に志す;その遺跡を調査、安福寺14世、蓮如伝の研究にも従事、  
 大谷派を代表する宗史家、1756「蓮如上人小部集」57「開祖聖人絵伝並鈔記目録」著、  
 1757「大谷遺法纂彙」著/59「蓮如上人御伝記」編、72「実如上人小部集」73「随問辨惑編」著、  
 1779「高祖御真影記」、「安心相承聖教目録」著、「浄土真宗玉林和歌集」編、外編著多数、  
 [先啓(;法諱)の号]象山/禿氏/朝露子/玄亀山人
- M2414 千兮(せんけい・岡崎おかざき/竹内、竹内延盈男) 1798-188386 母;妙翠、信濃小県郡栗林の農家、  
 俳諧;江戸の岡崎如毛門、文政1818-30頃江戸増上寺寺侍の岡崎家の養子/麻布二本松に住、  
 1843師如毛の五窓楼を継嗣/1844月並会を開始;門人多数を指導、1876(明治9)教導職試補、  
 谷川護物・小林見外と交流、1841「鮫洲抄」43「五窓集」編/48「正風俳諧百家集」著、  
 「湯島神社月並奉燈三句集」著/「平川天満宮奉額集」編、  
 [千兮(;号)の名/通称/別号]名;多忠二/環/延珍、通称;喜十郎、  
 別号;五窓楼2世/春秋楼/白眉/蟻塔/千歳庵
- M2415 泉溪(せんけい・真柳まやなぎ、名;辰壽) 1822-9776 仙台藩士/兵学者;謙信流兵学・東条流砲術を修学、  
 刀法槍術の印可を得、俳人;五梅庵舎用門/五梅庵を継嗣;多数の門弟を指導、辰亮の父、  
 幕末維新に蝦夷・京・江戸間を往来/西南役に従軍/警視局に勤務/晩年は神宮教中講義、  
 1852「佐幾玉集」編、  
 [泉溪(;号)の通称/別号]通称;半太夫、別号;三思庵/五梅庵2世、法号;悟去弗居士
- 千景(せんけい・藤原) → 千景(千蔭・ちかげ・藤原、廷臣/歌) 2 8 8 7  
 千継(せんけい・凡/讃岐) → 千継(ちつぐ・讃岐/凡、廷臣/明法家) E 2 8 7 8  
 川景(せんけい・小山) → 川蔭(かわかげ・小山おやま/藤原、藩士/国学/画/歌) S 1 5 8 4  
 泉溪(せんけい・井上) → 松斎(しょうさい・井上いのうえ、儒者) I 2 2 9 4  
 泉卿(せんけい・村瀬) → 立斎(りつさい・村瀬むらせ、医者) B 4 9 9 4  
 仙桂(せんけい・平岩) → 仙山(せんざん・平岩/平巖/平、儒/詩人) F 2 4 4 6  
 仙慶(せんけい・武) → 仙慶(せんきょう;法諱・武たけ、真宗僧) O 2 4 2 7



- 潜溪(せんけい;道号) → 處謙(しよけん;法諱・潜溪;道号、臨濟僧) C 2 2 3 8  
 扇慶(せんけい・後藤) → 基邑(もとむら・後藤ごとう、郷土史家) E 4 4 4 1  
 銚卿(せんけい・藤井) → 樗亭(ちよてい・藤井、医者/詩/俳) K 2 8 4 2  
 宣卿(せんけい・新井) → 宣卿(のぶのり・新井、儒者) C 3 5 7 3  
 宣卿(せんけい・山中) → 天水(てんすい・山中やまなか、儒者/詩) D 3 0 9 3  
 宣慶(せんけい・葛岡) → 宣慶(のぶよし・葛岡くずおか/かどおか/庭田、廷臣/歌人) D 3 5 8 3  
 宣経(せんけい・内田) → 宣経(のりつね・内田、国学者) F 3 5 1 4  
 宣敬(せんけい・林) → 宣敬(のぶたか・林はやし、藩士/国学) B 3 5 7 5  
 鮮溪(せんけい;号) → 印定(いんじょう;法諱、真宗本願寺派僧) I 1 1 6 2  
 染溪(せんけい・三枝) → 峻徳(しゅんとく・三枝さいぐさ、藩医/教育) L 2 1 6 8  
 専岡(せんけい) → 関通(かんつう;法諱・無礙、浄土僧) R 1 5 4 3  
 専慶(せんけい;法諱) → 専慶(せんきょう;法諱、法師/歌人) O 2 4 7 7  
 M2416 専藝(せんげい;号、幼名;慶千代丸、専存男) 1488-1509早世22 連歌作者;専順の孫、  
 1500(明応9)宗祇と「山河百韻」発句詠、1503「宗祇一周忌追善百韻」に実隆・宗碩と一座、  
 1507宗仲と「片何百韻」一座  
 M2417 禅慶(ぜんけい;法諱) ? - ? 平安期の僧/歌人;拾遺抄537、  
 [世の中にあやしき物は雨降れど大原川のひるにぞありける](拾遺抄;雑537)、  
 (詞書;雨の降る日大原川をまかり渡りけるにひるのつき侍りければ)  
 02479 善慶(ぜんけい・ぜんきょう;法諱)?- ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [秋のなかば人々月前遠情といふ事よみ侍りけるに、  
 心さへいたらぬくまもなかりけりこよひの月のかげにたぐひて](檜葉;秋249)  
 F2425 禅慶(ぜんけい;法諱・一笑;道号) 1384-1460 77 臨濟僧;愚中周及門、「永徳一笑禅師語録」著、  
 「愚中和尚語録」「愚中和尚年譜」編  
 M2418 禅慶(ぜんけい;法諱・永琳院;号)?-? 1511存 戦国期京の社僧;北野天満宮祠官/永琳院に住、  
 禅予の没後に遺児梅寿丸(禅光)の後見;1499-1500松梅院代を務める、  
 1499-1500「北野社家日記」著  
 M2419 禅慶(ぜんけい;法諱) ? - ? 戦国期天台僧;  
 1532般舟三昧院での後柏原院7回忌の導師:「後柏原院七回聖忌記御経供養次第」著  
 F2426 禅慶(ぜんけい、民部卿) ? - ? 1544三条西公条に伊勢物語講釈を要請  
 02405 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、5代善左衛門) 1809-78 70 美濃岐阜中竹屋町の商家;善左衛門家6代;  
 味噌醬油醸造業、歌人、妻;総年寄丹羽与三右衛門女、古道の父、  
 辞世歌[本末をいつのまにやら聞きわけて弥陀にまかせて参る極楽](岐陽雅人伝入)  
 [善慶(;隠居号)の名/別号]名;善助、別号;有道/一貫  
 善左衛門(ぜんざえもん・高橋) → 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、商家/歌人) O 2 4 0 5  
 禅溪(ぜんけい;道号) → 祇円(しえん;法諱・禅溪、曹洞僧/老荘) P 2 1 7 1  
 全慶(ぜんけい;法名) → 守隆(もりたか・水野みずの/源、武将/連歌) F 4 4 5 6  
 善慶(ぜんけい・池尻) → 善慶(よしちか・池尻いけじり/武田、藩士) L 4 7 5 0  
 善慶(ぜんけい・渡辺) → 善慶(よしのり・渡辺わたなべ、国学者/歌人) Q 4 7 1 5  
 善卿(ぜんけい・倉成) → 竜渚(りゅうしょ・倉成くらなり/くらし、儒者) E 4 9 5 9  
 善卿(ぜんけい・池田) → 錦橋(きんきょう・池田いけだ、医者) Q 1 6 7 9  
 善卿(ぜんけい・金本) → 摩斎(まさい・金本かなもと、儒者/詩) B 4 0 2 4  
 善継(ぜんけい/よしつぐ・神馬) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1  
 善継(ぜんけい・小西) → 澹斎(たんさい・小西、藩士/儒者/地誌) I 2 6 1 8  
 善継(ぜんけい・中川) → 善継(よしつぐ・中川なかがわ、眼科医/歌) O 4 7 1 5  
 禅圭(ぜんけい;法諱) → 大鼎(たいてい;道号・禅圭、臨濟僧) K 2 6 6 9  
 M2420 浅鷄庵大人(せんけいあんたいじん)?- ? 江後期岩代伊達郡小手郷の狂歌作者、  
 1849(嘉永2)「豊穂狂歌集」編  
 仙溪院(せんけいいん) → 畔李(はんに・南部、藩主/俳人) I 3 6 6 0  
 仙溪亭(せんけいてい) → 嘉菊(かきく、三井高英、俳/狂歌) 1 5 0 6

- F2427 僊月(せんげつ) ? - ? 俳人・氷壺門、1851「俳諧龍雀」共編  
 織月(せんげつ・土井) → 雛丸(ひなまる・初世三日坊、医者/狂歌) E 3 7 2 9  
 禅傑(ぜんげつ;法諱・特芳) → 特芳(とくほう;道号・禅傑、臨濟僧) 3 1 3 9  
 禅月(ぜんげつ・亀井) → 曇栄(どんえい;道号・宗暉、臨濟僧/詩) S 3 1 0 3  
 織月(せんげつ・相良) → 頼徳(よりのり・相良さから、藩主/狂歌) J 4 7 4 6  
 織月(せんげつ・中川) → 狂言堂(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7  
 潜月齋(せんげつざい) → 芦尺(ろしゃく・中村なかむら、俳人) B 5 2 6 2  
 織月齋(せんげつざい・近松春屋軒) → 狂言堂(きょうげんどう・近松、浄瑠璃/囃会/雑俳) N 1 6 6 7  
 織月窓(せんげつそう;庵号) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、俳人) D 4 9 3 3  
 織月亭島人(せんげつていとうじん) → 頼徳(よりのり・相良さから、藩主/狂歌) J 4 7 4 6  
 織月堂(せんげつどう) → 雛丸(ひなまる・初世三日坊、医者/狂歌) E 3 7 2 9  
 船月堂(せんげつどう) → 石燕(せきえん・鳥山とりやま/鳥、絵師) D 2 4 3 5  
 禅月房(ぜんげつぼう) → 円元(えんげん;法諱、天台園城寺僧) E 1 3 6 8
- 02470 宣憲(せんけん;法諱) 1182 - ? 平安末鎌倉期;南都の僧/歌人;  
 覚遍催[光明院歌会]参加、1237刊[檜葉集]2首入、  
 [わびつつはわすれむと思ふうつりがをそでに吹きこすむめの下風](檜葉;恋398)
- F2428 川権(せんけん) ? - ? 江前期伊勢山田の俳人、1633重頼「犬子集」1句入、  
 [きばと見しは軒のつらゝぞ鬼瓦](犬子集;六1466/軒の氷柱を鬼の牙と見る)
- 千兼(せんけん・藤原) → 千兼(ちかぬ・藤原、廷臣/歌人) B 2 8 4 8  
 千萱(せんけん・津野) → 千萱(ちかや・津野つゆ、商家/国学) M 2 8 9 8  
 扇軒(せんけん・有馬) → 頼権(よりゆき・有馬ありま、藩主/和算家) J 4 7 9 3  
 宣賢(せんけん・清原) → 宣賢(のぶかた・清原、和漢学) 3 5 0 5  
 宣賢(せんけん・高島) → 饒石(にぎし・並河なみかわ/高島、国学/歌) H 3 3 1 4  
 宣顕(せんけん・岡本) → 宣顕(のぶあき・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 3  
 詮賢(せんけん・屋代) → 弘賢(ひろかた・屋代やしる、幕臣/国学者) 3 7 1 5  
 潜建(せんけん・檜林) → 宗建(そうけん・檜林ならばやし、医者;種痘) B 2 5 2 7
- F2429 宣源(仙源せんげん;法諱) ? - ? 1091存 平安後期期の僧;阿闍梨/[走井阿闍梨]の称、  
 歌人、1091(寛治5)「従二位藤原親子家草子合」参加、金葉集(356/Ⅲ374)、  
 [今はたゞ寝られぬ寝いをぞ友とする恋しき人のゆかりと思へば](金葉;恋356/草子合)、  
 (寝られぬ寝いは眠られないこと/袋草紙に清原顕季の[寝られぬい]の批難入)  
 仙原(せんげん;法諱、耕叟) → 耕叟(こうそう;道号・仙源、臨濟僧) K 1 9 3 1  
 仙彦(せんげん・松木) → 仙彦(のりひこ・松木まつき/度会/檜垣、神職) K 3 5 0 0  
 宣元(せんげん・田中) → 宣元(のぶもと・田中たなか、神職/国学者) I 3 5 8 7  
 宣愿(せんげん・岡本) → 宣愿(のぶよし・岡本おかもと/石上、藩士/歌) H 3 5 8 2
- M2421 禅顯(ぜんけん;法諱) ? - ? 僧/歌人、1356成立「菟玖波集」;3句入、  
 [月より秋の霜やをくらむ](菟玖波;雑1150/前句;鐘をきく寝覚の後も更る夜に)
- F2431 全玄(ぜんげん;法諱、双林寺大僧正、藤原実明男) 1113-9280 天台僧;行玄僧正門/1164権大僧都、  
 1180権僧正/1184天台座主59代、1185僧正;座主を辞退/1189大僧正;再度天台座主、  
 衆徒と和せず;1190座主・大僧正を辞退、東塔桂林房に住、1152「伝法灌頂記」55「仏眼」著、  
 「輪穢りんけつ供養作法」「三戒」著、歌人:1171「全玄法印歌合」を主催、風雅1970、  
 [けふ見ればみ山の花は咲きにけりなげきぞ春もかはらざりけり](風雅;雑1970)、  
 (師の前大僧正行玄没後から歎き続け翌年の春比叡山に登り花の咲くを見ての詠)
- F2432 善源(ぜんげん;法諱、俗名;八居やつい[源]三郎国行、土岐[源]二郎国綱男)?-? 鎌倉期の僧;法師、  
 歌人、勅撰4首;新千載(1825)新拾遺(1068/1755)、  
 [鳩鳥は氷れる波に夜離よがれして月ばかりすむ庭の池水](新千載;雑1825)
- M2422 禅源(ぜんげん;法諱・法師)? - ? 鎌倉後南北期叡山僧?、連歌:菟玖波集2句入、  
 1285比叡山大講堂供養参加・85諸寺供養部類入の禅源法師と同一?、  
 [山里は雲もけふも夕にて](菟玖波:十四雑1429/前句;雪にもなひく松の一もと)
- M2423 禅元(ぜんげん;法諱・青松院)?- ? 戦国期弘治永祿1555-70頃京の社僧;  
 北野天満祠官/1557(弘治3)闕官、永祿1558-70頃再度闕官、

- 連歌作者;紹巴と一座、1557北野社裏白連歌に参加、1558「夢想連歌」参加  
 善源(ぜんげん;字) → 忍達(にんたつ;法諱・心浄坊、天台僧) G 3 3 6 5  
 善言(ぜんげん/よしことorよとき・井上/田中) → 琴水(きんすい・小野原おのはら、儒者) R 1 6 2 6  
 禅源院(ぜんげんいん;法号) → 晴通(はれみち・久我こが、廷臣/連歌) H 3 6 1 2  
 禅源大濟禅師(ぜんげんたいさいぜんじ) → 日峰(にっぽう・宗舜、臨濟僧) F 3 3 5 4  
 禅源大沢禅師(ぜんげんだいたくぜんじ) → 桃隠(とういん・玄朔、臨濟僧) B 3 1 0 4  
 M2424 先賢卜子嬰(せんけんぼくしか)? - ? 江中期大阪の洒落本作者;  
 1763「列仙伝」平野屋東助刊  
 専源靈神(せんげんれいしん;神号) → 兼雄(かねお・吉田/卜部、神道家) C 1 5 7 0  
 善言靈神(ぜんげんれいしん;神号) → 高豊(たかとよ・藤井/大中臣、神職/歌) M 2 6 5 0  
 千广路(せんげんろ) → 垢染衣紋(あかしまのえもん、鈴木/狂歌作者) C 1 0 2 1  
 02401 千子(せんこ・池田いけだ、号;真証院、丹羽光重女) 1651-1700<sup>48</sup> 父は陸奥二本松藩初代藩主、  
 備前岡山藩主池田綱政の正室、松(堀田正伸正室)・振(本多忠国正室)の母、  
 歌人  
 F2433 洗古(せんこ) ? - ? 俳人、1699荷兮「青葛葉」連句入  
 N2496 扇子(せんこ・相沢あいざわ、相沢良安女) 1829-1904<sup>76</sup> 父は三河国西尾藩主松平乗全の侍医、  
 江戸の生/学問;松平乗全門、医者石川朧(おけら)と結婚;婿養子に迎える/8人出産5人夭折、  
 歌人;夫と共に井上文雄・加藤千浪・佐々木弘綱門、三河西尾藩大奥に出仕、  
 「母子草」(息女竹子と共編)、  
 夫 → 朧(おけら・相沢あいざわ/石川、医者/歌人) D 1 4 7 7  
 千古(せんこ・大江) → 千古(ちふる・大江、詩歌) F 2 8 3 1  
 千古(せんこ・来住) → 千古(ちふる・来住きずみ、藩校教授/歌) M 2 8 4 1  
 千古(せんこ・一柳ひとつやなぎ) → 千古(ちふる・一柳ひとつやなぎ・越智、国学) F 2 8 3 2  
 千古(せんこ・高島) → 春松(しゅんしょう・高島たかしま、絵師) L 2 1 0 5  
 千虎(せんこ・川崎) → 千虎(ちとら・川崎かわさき、絵師/故実家) F 2 8 0 7  
 宣固(せんこ・川佐/浅裏庵) → 広好(ひろよし・浅裏庵あさうらあん、藩士/狂歌) H 3 7 7 1  
 詮虎(せんこ・屋代) → 弘賢(ひろかた・屋代やしる、幕臣/国学者) 3 7 1 5  
 染古(せんこ) → 古風(ふるかぜ・加藤、歌人) E 3 8 6 6  
 染古(せんこ・久永) → 眞事(まこと・久永ひさなが、幕臣/歌人) 4 0 7 7  
 千吾(せんご・茂山) → 正虎(まさとら・茂山9世/佐々木、能狂言師) E 4 0 8 8  
 M2425 禅胡(ぜんこ;法諱・漢月かんげつ;道号)?-1769 曹洞僧;面山瑞方門のち梅聞祖芳門;嗣法、  
 豊後永慶持24世、豊後英雄寺7世;英雄寺に没、「健康普説」編  
 全故(ぜんこ/なりもと/たけもと・柏木) → 素龍(そりゅう・柏木、歌/俳/書) E 2 5 5 0  
 善吾(ぜんご・永田) → 善斎(ぜんさい・永田/広島、儒者/詩) F 2 4 4 1  
 善吾(ぜんご・竹内) → 武信(たけのぶ・竹内たけうち、和算家) O 2 6 5 8  
 善吾(ぜんご・荒川) → 天散(てんさん・荒川、儒者;学政参画) D 3 0 5 2  
 善吾(ぜんご・松岡) → 定庵(ていあん・松岡まつおか、本草家) 3 0 2 5  
 善吾(ぜんご・小野) → 思温(もとはる・小野おの/佐伯、藩士/歌) J 4 4 4 6  
 善吾(ぜんご・松岡) → 貞義(さだよし・松岡まつおか/深見、医者) P 2 0 4 0  
 千古庵(せんこあん・安藝) → 文江(ぶんこう・安藝あき、材木商/俳人) F 3 8 1 8  
 F2436 宣光(せんこう;法諱、称;桐下老人/号;玄誉?)?-? 戦国期浄土僧;京の誓願寺不断光院住職/歌僧、  
 明応1492-1501頃大和長谷寺近辺に隠棲?、歌人;家集「西林和歌集」、新菟2句入、  
 「玄誉法師詠歌聞書」編、  
 玄誉と同一? → 玄誉(げんよ、浄土僧/歌学) D 1 8 2 2  
 F2434 専好(初世せんこう・池坊いけのぼう) 1541-1621<sup>81</sup> 京の頂法寺六角堂執行、華道の家元;指導的役割、  
 1599京の大雲院の百瓶花会に門弟百人と出瓶、「池坊専好立花口伝」著、  
 1589「池坊専好花伝書」1606「座敷莊嚴式」、「池坊立華新撰五十瓶図」「池坊立華百瓶図」著  
 E2450 専好(2世せんこう・池坊いけのぼう)?-? 京の頂法寺六角堂執行、華道の家元、  
 1629後水尾天皇主催の大立花会に出瓶;創意技巧に高い評価、1622「座敷莊嚴之図」著  
 F2435 筌滉(せんこう・市川いちかわ) ? - ? 江中期越後柏崎の俳人、郁翁・雲鈴・重英と交流、

1715(正徳5)「小太郎柏崎」編(:郁翁序)

- M2426 **扇好**(せんこう・土橋亭どきょうてい/どばしてい) ?-1850 江後期文政天保1818-44頃江戸の落語家; 初世船遊亭扇橋門/次に初世土橋亭竜馬りゅうば(2世司馬竜生)門、土橋亭扇好を名乗る、1842刊「百面相仕方はなし」(;師の竜馬と共著)、のち司馬竜生3世を継承、妻;女髪結いの[きく]、  
[土橋亭扇好(;号)の別号] 2世万笑亭扇幸/3世司馬竜生りゅうしゅう
- M2427 **先行**(せんこう・寺門てらかど、名;謹) 1831-1906 76 常陸水戸藩士/儒者;会沢正志斎門、1850進仕、1860「振学管窺」著/63「会沢先生行実書」編、「正志斎略譜」「不忍黙」「守拙文集」外著多数、  
[先行(;号)の字/通称/別号]字;信卿、通称;政次郎、別号;守拙
- 洗口(せんこう、俳号) → 七五三助(しめすけ・初世奈河、歌舞伎作者) 2 1 3 5  
宣光(せんこう・大伴) → 宣光(のりみつ・大伴おおとも、神職/国学) F 3 5 9 0  
宣光(せんこう/のりみつ・鷺津) → 毅堂(きどう・鷺津わしう、儒者) G 1 6 0 1  
宣光(せんこう・中島) → 宣光(のぶみつ・中島なかじま、大庄屋/歌人) J 3 5 3 6  
宣光(せんこう・寺部) → 宣光(のぶみつ・寺部てらべ/大伴、神職/歌) G 3 5 4 4  
宣光(せんこう・伏原) → 宣光(のぶみつ・伏原ふせはら/清原、廷臣/漢学) J 3 5 8 9  
宣衡(せんこう・中御門) → 尚良(ひさよし・中御門なかみかど、廷臣/連歌) C 3 7 1 5  
仙口(せんこう・鶴柄) → 鶴柄仙口(うからのせんこう、狂歌) B 1 2 6 6  
千広(せんこう・玉樹斎) → 千広(ちひろ・玉樹斎/源/村上、華道) F 2 8 2 4  
千広(せんこう・伊達) → 千広(ちひろ・伊達/宇佐美、藩士/歌) F 2 8 2 2  
千広(せんこう・岡) → 千広(ちひろ・岡おか、国学者) M 2 8 2 8  
千広(せんこう・田中) → 千広(ちひろ・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 3  
千弘(せんこう・伊藤) → 千弘(ちひろ・伊藤いとう、国学者) F 2 8 2 7  
先孝(せんこう・青木) → 錦村(きんそん・青木あおき、儒者) J 1 6 0 5  
泉行(せんこう;号) → 忠義(ちゅうぎ;法諱、真言僧) F 2 8 8 9  
扇幸(2世せんこう・万笑亭) → 扇好(せんこう・土橋亭どきょうてい、落語家) M 2 4 2 6  
詮興(せんこう・新保/伊能) → 忠敬(ただたか・伊能いのう、商家/測量図) F 2 6 2 5
- M2428 **禅光**(ぜんこう;法諱・松梅院;号、禅予2男) ?-? 1532存 戦国期社僧;北野天満宮祠官/1492三綱補任、  
神殿大預/1499-1500幼名梅寿丸を称す、永琳院禅慶が代官を務める松梅院を継嗣、  
連歌作者、「北野社家日記」(1505-15社家条々引付)著、禅興ぜんきょうの父
- 2428 **禅高**(ぜんこう;法名・山名やまな/本姓;源、名;元豊/豊国、豊定3男) 1548-1626 79 母;細川高国女、武将、  
父は因幡守護、従五下/中務大輔、兄豊数が逆臣のため奪われた因幡鳥取城を奪回;  
因幡守護となる、羽柴秀吉に攻略され降伏;入道;禅高と称す、秀吉の御伽衆となる、  
武家故実精通、歌・連歌を詠、秀吉没後は家康・秀忠に近侍/御伽衆として殊遇を受く、  
連歌;紹巴・昌琢らと百韻多数;1582紹巴と山何連歌/昌琢と1603懐旧百韻・20初何百韻等
- 2429 **全交**(初世ぜんこう・芝しば、名;藤十郎、初姓;吉川/のち山本) 1750-93 44 江戸の商人吉川家の生、  
江戸芝西久保神谷町住、大蔵流狂言を修得/水戸藩狂言師山本藤七の養子;業を継ぐ、  
多芸多能で学問教養を備えた通人、黄表紙作者、1776「能天御利生」/81「大違宝船」、  
1781「通一声女暫」/84「閻羅三茶替」87「茶歌舞伎茶目傘」89「拜寿仁王参」93「尻孫御用神」、  
「全交通鑑」「全交法師常々艸」「百人一首戯講釈」「八百八町穴だらけ」外著作多数、  
[初世芝全交(;号)の別号]司馬全交/司馬交/司馬亭/全交坊/交遊、法号;全交院
- N2493 **善光**(ぜんこう) ? - ? 江後期;歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[澄みのぼる月にをりをり限なすは風に柳のなびくなりけり](大江戸倭歌;秋899)
- 全交(2世ぜんこう芝、万扇堂) → 玉粒(ぎょくりゅう・晋米斎、合巻/狂歌) D 1 6 1 2  
全交(ぜんこう・筑地) → 伝笑(でんしょう・関亭かんてい、合巻) D 3 0 8 3  
全孝(ぜんこう・北島) → 全孝(たけのり・北島きたじま、国造/神職) W 2 6 8 0  
前光(ぜんこう・柳原) → 前光(さきみつ・柳原、廷臣/国事/記録) G 2 0 5 8  
善巧(ぜんこう;字) → 寛助(かんじよ;法諱・善巧、真言僧) M 1 5 5 6  
善交(好・ぜんこう・築地) → 中良(ちゅうりょう・森島、洋学、戯作) 2 8 1 9  
善行(ぜんこう・大蔵) → 善行(よしゆき・大蔵おおくら、漢学者/詩) H 4 7 8 7

善功(ぜんこう・片野) → 東四郎(4世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) F 3 1 5 9  
 善弘(ぜんこう・浅井) → 速馬(はやま・浅井あさい、藩士/和算家) F 3 6 7 4  
 善公(ぜんこう・真蓮社) → 愚底(ぐてい; 法諱、浄土僧) C 1 7 4 8  
 善幸(ぜんこう; 法諱) → 公教(こうきょう; 法諱、真宗僧/茶・歌人) I 1 9 3 2  
 禅亨(ぜんこう; 法諱・乾叟) → 乾叟(けんそう; 道号・禅亨、曹洞僧) K 1 8 6 8  
 禅興(ぜんこう; 法諱) → 春作(しゅんさく; 道号・禅興、臨濟僧) K 2 1 7 6  
 専光院(せんこういん) → 日純(にちじゅん; 法諱・活了、日蓮僧) C 3 3 2 7  
 専光院(せんこういん; 法号) → 久利(ひさとし・仙石せんごく、藩主/騒動/歌) I 3 7 4 9  
 千光院(せんこういん・増命) → 静観(じょうかん; 諡号、天台座主) F 2 2 9 4  
 禅光院入道(ぜんこういんにゅうどう) → 実淳(さねあつ・徳大寺/藤原、太政大臣) C 2 0 8 6  
 泉光院(せんこういん・野田) → 成亮(せいりょう・野田のだ、修験僧) D 2 4 1 6  
 前後軒(ぜんこうけん) → 高福(たかよし・三井、商家; 財閥の礎) N 2 6 7 7  
 織筆斎(せんごさい) → 春可(しゅんか・織筆斎、俳人) M 2 1 9 5  
 染香人(せんこうじん) → 雲華(うんげ・大含だいがん、真宗大谷派僧) B 1 2 0 7  
 穿江亭(せんこうてい) → 其梅(きばい・野村のむら、俳人) L 1 6 7 7  
 全交坊(ぜんこうぼう) → 全交(初世ぜんこう・芝/司馬、狂言師/戯作) 2 4 2 9  
 千光法師(せんこうほうし) → 栄西(えいさい・ようさい・明庵、臨濟祖) 1 3 0 3

F2437 宣光門院(せんこうもんいん、名; 実子、権大納言正親町実明女) 1297-1360<sup>64</sup> 花園天皇の妃、  
 女房歌人に五条・新右衛門督など

宣光門院右衛門督(せんこうもんいんのうえもんのかみ) → 新右衛門督(しんうえもんのかみ) D 2 2 5 5  
 宣光門院五条(せんこうもんいんのごじょう) → 五条(ごじょう・宣光門院、歌人) C 1 9 9 5  
 宣光門院新右衛門督(せんこうもんいんのしんうえもんのかみ) → 新右衛門督(しんうえもんのかみ) D 2 2 5 5  
 羨江楼(せんこうろう) → 巨洲(きょしゅう・伊東、俳人) P 1 6 6 4  
 善五右衛門(ぜんごえもん・小笠原) → 政登(まさなり・小笠原、幕臣/記録) F 4 0 3 9

M2429 千谷(せんこく・溝口みぞぐち、名; 成従、鈴木勝屋2男) 1696-1760<sup>65</sup> 溝口頼成の養嗣子、

書家; 松野竜谷門、さらに青蓮院宮門、松平大和守に出仕、江戸麻布谷町住; 門弟多数、  
 「千谷愚詠集」「詩歌往来」「書札往来集」「隅田川往来」「女用文章」「女用文正訓大全」、  
 「衆妙書簡」外著多数、

[千谷(;号)の字/通称/別号]字; 子誠、通称; 荘司/庄司、別号; 潜谷/衆妙館、法号; 観性院

千国(せんこく・刑部) → 千国(ちくに・刑部直おさかべのあたい、万葉防人歌人) D 2 8 6 5  
 潜谷(せんこく・溝口) → 千谷(せんこく・溝口/鈴木、書家) M 2 4 2 9  
 泉谷園安斎(せんこくえんあんさい) → 有飛(ありとび・鱸すずき、国学/俳人) F 1 0 5 1  
 仙石播磨守妻つや子(せんごくはりまのかみのつまつやこ) → つや子(つやこ・仙石せんごく、歌人) E 2 9 9 4  
 善古軒(ぜんこけん) → 守俊(もりとし・水野みずの、藩士/文筆家) F 4 4 9 3  
 前後軒(ぜんごけん) → 高福(たかよし・三井、商家; 財閥の礎) N 2 6 7 7  
 潜居士(せんこじ) → 許六(きよろく・森川、俳人) 1 6 5 5  
 泉戸亭(せんこてい) → 桃魚(とうぎよ・小島富右衛門、俳人) C 3 1 7 6  
 千古母(せんこのはは・小野) → 千古母(ちふるのはは・小野、歌人) F 2 8 3 3  
 前後亭(ぜんごてい) → 竹也(ちくや・山本、俳人) D 2 8 8 1  
 染古楼(せんころう) → 古風(ひさかぜ・加藤、藩士/歌人) 3 7 9 1  
 千五郎(せんごろう・茂山) → 正虎(まさとら・茂山、狂言) E 4 0 8 8  
 千五郎(せんごろう・茂山) → 正虎(まさとら・茂山9世/佐々木、能狂言師) E 4 0 8 8  
 仙五郎(せんごろう・村井) → 知衡(ともひら・村井、藩士/兵法) Q 3 1 3 8  
 専五郎(せんごろう・吉田) → 為幸(ためゆき・吉田よしだ、藩士/和算家) S 2 6 8 6  
 善五郎(せんごろう・沢村) → 宗十郎(初世そうじゅうろう・沢村、歌舞伎役者/俳) 2 5 1 0  
 善五郎(せんごろう・山本) → 好阿(こうあ・静観房じょうかんぼう、医者/談義本作者) 1 9 6 3  
 善五郎(せんごろう・浅井) → 竜馬(りうま・馬りょうま・土橋亭どばしてい、落語/講談) J 4 9 4 6  
 善五郎(せんごろう・津国屋/山本) → 椿園(ちんえん・伊丹、読本作者) 2 8 3 2  
 善五郎(せんごろう・堀田) → 憲之(のりゆき・堀田ほった、酒造業/歌人) J 3 5 9 4  
 善五郎(せんごろう・武内) → 度道(ただみち・武内/竹内、和算家) Q 2 6 8 8

- 善五郎(ぜんごろう・有賀) → 秀元(ひでもと・有賀ありが、商家/国学) M 3 7 0 4  
 善五郎(ぜんごろう・前島) → 正美(まさみ・前島まえじま/源、名主/国学) S 4 0 5 1  
 善五郎(ぜんごろう・物集) → 高見(たかみ・物集もづめ、神道/国学/教育) Z 2 6 9 2  
 千根(せんこん・木村) → 千根(ちね・木村きむら、藩士/国学/歌) M 2 8 4 0
- F2438 禅巖(ぜんごん;法諱) ? - ? 鎌倉or南北期の僧;法眼、  
 歌人、1384刊「新後拾遺集」;1526、  
 [神がきや一夜の松のみしめ縄ちとせをかけて世を祈るかな](新後拾;神祇1526)
- F2439 禅巖(ぜんごん) ? - ? 連歌、1356-70崇永催「紫野千句」連衆  
 歌人禅巖と同一? → 禅巖(ぜんごん、歌人) F 2 4 3 8
- M2441 穿砂(せんさ) ? - ? 狂歌;1785「徳和歌後万載集」1首入、  
 [いれ上戸かんをもまたずひやでのむくせのわるさよ](後万載;混本歌813)、  
 (五七五七の四句体/いれは苛立つ;せっかちな飲酒)
- M2430 泉左(せんさ;号・伊豆いづ) ? - ? 江後期筑前武丸村の俳人:来遊中の石蘭と交流、  
 郷土の孝子正助の50回忌追善集編纂;1806「正助追善集」編/1806「雪の比」著  
 千座(せんざ・小原) → 千座(ちくら・小原おはら/立石、神職/歌) M 2 8 1 9  
 千座(せんざ・堀池) → 千座(ちくら・堀池ほりいけ、神職/国学/歌) N 2 8 4 7  
 善佐(ぜんさ/ぜんすけ・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1
- G2416 瞻西(せんさい・せんせい;法諱、瞻西上人)?-1127 鎮西の人?、天台宗比叡山僧/のち東山雲居寺住、  
 声明・説教に長じ貴賤隔てなく帰依を集める、通称;雲居寺上人、「和歌曼荼羅」を描く、  
 歌人;1116「雲居寺結縁経後宴歌合」主催、藤原基俊・顕季・源俊頼と交流、後葉集1首入、  
 続詞花集2首入/菟波集1句入、袋草紙に雨漏りの歌の逸話入、  
 勅撰11首;金葉(635)詞花(150)千載(383/1209)新古(658/1977)新勅(1382)続千(955)以下、  
 [法りのためになふ薪たぎりにことよせてやがて憂き世をこりぞはてぬる](金葉;雑635)、  
 (詞書;提婆品の心/釈迦が仏法を得るため荷った薪修行/樵りと懲りを掛る;薪の縁語)、  
 [天王寺に詣でて舍利を拝み奉るとてよみける、  
 たきぎつきけぶりもすみてさりにける是や残りともみるぞかなしき](続詞花;釈教469)
- 2430 専齋(せんさい・江村むら、別姓;芝、栄基[既在きざい]男)1565-1664長寿百歳 京の医者;秦宗巴門、  
 濂洛の学を修得、儒医として肥後熊本藩主に出仕;側近、歌人/連歌、  
 清正没後帰京;美作津山藩主森忠政に招聘;賓師の礼を以て遇される、  
 「老人雑話」専齋口述;孫伊藤坦庵筆録、「随筆付譚」、細川幽斎・木下長嘯子・紹巴らと親交、  
 1582紹巴「狭衣下紐」書写;押小路本など、1599紹巴と山何百韻/1600友貞と何人百韻、  
 90歳を超えなお強壯;後水尾天皇に養生法を尋ねられ;  
 [養生の秘訣は別儀なし、飲食些く思慮も些し、ただ些の一字を体得するにあり]と答う、  
 1664(寛文4)勅命で院参し鳩杖・黄金・扇紙などを賜う、好庵・剛斎・愚庵3子の父、  
 友人伊藤坦庵の著に宗具の日常談話を記録した「老人雑話」あり、  
 [専齋(;号)の名/別号]名;宗具むねとも、別号;倚松庵いしょうあん/鳩杖堂
- G2499 泉齋(泉齋せんさい) ? - ? 京衣の棚の表具師、歌人、1666行風「古今夷曲集」入  
 [表具師はちく軸してぞ嬉しがるのりの道しる人のお歌を](古今夷曲集;九)  
 (表具を褒めもらった石清水豊蔵坊信海への返信、のりは糊と法を掛ける)
- F2440 川齋(せんさい・松本まつもと、名;豊卜)?-? 江中期上州新田郡の神道家、  
 1731「神儒弁義」/34「六根清浄太祓謹解」著、  
 [川齋(;号)の別号] 三有軒/元庵
- M2431 専齋(せんさい・藤野ふじの、名;豊充/昌章、別号;心源齋)1702-8382 志野流香道家:蜂谷宗先門、  
 高弟として師の嗣子勝次郎の筆頭後見人となる、のち藤野流を興す春淳しゅんじゅんの祖父、  
 「香之茶湯秘伝」「香銘録」「家風香之式」著、春昌の父、春淳・蜂谷貞重の祖父
- M2432 潜齋(せんさい・林はやし/花沢、名;秀直、林秀尹2男)1750-181768 上総堀上村の農家の生、  
 1775母方の花沢家を継嗣;のち復姓、儒者;1787稲葉黙齋門、  
 寛政1789-1801頃讃岐丸亀藩の儒官;9年後病のため致仕、帰郷;講説業、尾関当補と交流、  
 [潜齋(;号)の通称] 文二郎/文次
- 02409 千齋(儼齋(せんさい・木村きむら、)1768-184578 尾張愛知郡の医者、歌;小沢蘆庵門、

国学/歌学;伴蒿蹊・芝山持豊門、尾張名古屋住、  
[千斎(通称)の別通称/号]別通称;不可得、号;蓼園

M2433 僊斎(せんさい・森もり、名;豊直) ?-1847 飛騨高山の人/名古屋に出て医学修得、  
眼科医;尾張藩医一段席に進む、国学;1827田中大秀門/のち本居内遠門、「早見之歌集」著、  
[僊斎(通称)の別通称] 庄右衛門

仙斎(せんさい・菊池) → 武侯(たけよし・菊池さくち、国学者/俳人) W 2 6 7 8  
仙斎(せんさい・森) → 厚給(あつとも・森もり、医者/国学/歌) I 1 0 5 5  
潜斎(せんさい・隠岐) → 宗沓(そうぶつ・隠岐おき、茶人) I 2 5 8 3  
潜斎(せんさい・本間) → 遊清(ゆうせい・本間、医・国学・歌) 4 6 0 5  
潜斎(せんさい・桂) → 周水(しゅうすい・桂かつら、藩士/儒者) H 2 1 7 6  
潜斎(せんさい・富山) → 定静(さだきよ・富山とみやま/辻、商家/国学) O 2 0 9 1  
遷斎(せんさい・石川) → 丈山(じょうざん・石川、儒者/詩人) S 2 2 5 7  
遷斎(せんさい・金谷) → 興詩(おきうた・金谷、国学/歌人) C 1 4 8 6  
洗斎(せんさい・岸大路) → 持之(もちゆき・岸大路・岸/橘、国学者) B 4 4 7 8  
浅斎(せんさい・堀) → 直格(なおただ・堀、藩主/文芸) B 3 2 5 7  
泉斎(せんさい・加藤) → 円斎(えんさい・加藤/賀嶋、儒者:経学) E 1 3 7 2  
専斎(せんさい・藤野) → 春淳(しゅんじゅん・藤野ふじの、香道家) K 2 1 9 8  
蟬斎(せんさい・進藤) → 重記(しげり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6  
荃斎(せんさい・井部) → 香山(こうざん・井部いべ、儒者/詩人) G 1 9 3 7  
儻斎(せんさい・円山) → 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
千歳(せんざい・前田) → 利保(としやす・前田、藩主、歌/本草) O 3 1 0 1  
千歳(せんざい・平塚) → 春江(しゅんこう・平塚、漢学/詩文) J 2 1 6 6

F2441 善斎(ぜんさい・永田ながた/初姓;広島、名;正明/道慶) 1597?-1664? 68? 京の儒者;  
14歳で建仁寺古潤慈稽門/詩人、儒;藤原惺窩・林羅山門、羅山推挙で紀州和歌山藩儒、  
和歌山住、「善斎詩集」「本朝烈婦伝」「逸落罕伝」「文選髓」「沓潜ひつせん文集」、  
1649「宮崎文庫紀」「永田善斎文庫記」/52「膾余雑録」「南紀略志」著  
[善斎(号)の字/通称/別号]字;平安/平庵、通称;善吾、別号;石蘊/沓潜ひつせん/沓潜居、  
格庵・純歳・平庵(南川)の父

F2442 全斎(ぜんさい・太田おた、名;勝朋/経方/方) 1759-1829 江戸の備後福山藩邸の生/儒者、  
福山藩の定江戸藩士;1786家督継嗣/88藩の藩文学教授/側用役勝手掛/年寄、  
1825病のため致仕、音韻・諺語研究、1783「韓非子翼毳よくぜい」20巻著、1797「諺苑」編、  
1805「漢吳音図」著、「全斎読例」「全斎走筆」「全斎墨叢」「墨子考要」著、外編著多数、  
[全斎(号)の幼名/字/通称/法号]幼名;亀之助、字;叔亀、通称;八郎、法号;功德院

F2444 善斎(ぜんさい;号・渡辺わたなべ、名;道一) ?-? 江中期尾張の儒者/常陸矢田部藩儒、  
詩:1788(天明8)「善斎百詠」著

F2443 全斎(ぜんさい・泉いづみ/初姓;藤間、名;晋すむ) 1818-65 石見の儒者/詩;頼山陽・坂井虎山門、  
浜田藩に出仕、詩に長ず、「涵虚楼遺稿」著、  
[全斎(号)の字/通称]字;康侯、通称;浅右衛門

全斎(ぜんさい・金内) → 格三(かくぞう・金内かねうち、儒者) K 1 5 1 8  
漸斎(ぜんさい・柴田) → 風山(ふうざん・柴田しばた、儒者/書) 3 8 6 8  
禅才(ぜんさい;法諱) → 奇文(きぶん;道号・禅才、臨濟僧) L 1 6 8 5  
禅材(ぜんさい;法諱) → 古月(こげつ・禅材、臨濟僧) M 1 9 3 4  
蟬斎(ぜんさい・進藤) → 重記(しげり・進藤/菅原、神職/地誌) S 2 1 0 6  
蟬斎(ぜんさい・黒木) → 茂矩(しげり・黒木くろき、神職/国学) O 2 1 3 4  
千載庵(せんざいあん) → 歩月(ほげつ、俳人) E 3 9 1 2  
千載庵(せんざいあん) → 有筋(ありとき・鶴舎つるや/武田、国学/俳) F 1 0 4 9  
千歳庵(せんざいあん) → 千兮(せんけい・岡崎/竹内、如毛門俳人) M 2 4 1 4  
善哉庵(ぜんざいあん) → 其角(きかく・榎本、俳人) 1 6 0 5  
善哉庵(ぜんざいあん) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0  
前斎院(ぜんさいいん) → 前斎院(さきのさいいん)

千在館(せんざいかん) → 春路(しゅんろ・千在館、俳人) P 2 1 4 9  
 前斎宮(ぜんさいぐう～) → 前斎宮(さきのさいぐう～)  
 前斎宮河内(ぜんさいぐうのこち) → 河内(こうち) B 1 9 6 8  
 千歳軒友鶴(せんざいけんともつる) → 友鶴(ともつる・千歳軒、狂歌) P 3 1 8 9  
 千歳児(せんさいじ) → 乾什(けんじゅう・岩本、俳人) C 1 8 0 7  
 千載堂(せんざいどう) → 丈石(じょうせき・早川、宗順、俳人) T 2 2 8 6  
 千載堂(せんざいどう) → 丈士(じょうし・早川、丈石男、俳人) S 2 2 7 3  
 仙左衛門(千左衛門せんざえもん・服部) → 蒼雄(須賀雄すがお・服部/富田、国学/歌) B 2 3 6 1  
 仙左衛門(せんざえもん・杉本) → 近直(ちかなお・杉本すぎもと、商家/国学) M 2 8 7 1  
 仙左衛門(せんざえもん・丹下) → 政之(まさゆき・丹下たんげ、歌人) Q 4 0 8 6  
 仙左衛門(せんざえもん・矢野) → 道正(みちまさ・矢野やの、藩士/国学者) K 4 1 8 7  
 専左衛門(せんざえもん・田沼) → 意行(もとゆき・田沼たぬま、幕臣) E 4 4 5 8  
 専左衛門(せんざえもん・黒川) → 盛隆(もりたか・黒川、藩士/国学/歌人) F 4 4 5 9  
 専左衛門(せんざえもん・大槻) → 清雄(きよお・大槻おつき、大肝入/俳/歌人) T 1 6 7 9

M2434 善左衛門(ぜんざえもん・横浜よこはま、名;玄英) ?-? 加賀金沢藩士横浜勘兵衛の養子;1753家督を嗣、  
 金沢藩士;5百50石/1768使番/定番頭並/95加増5百石/近習御用、1806隠居;心齋、  
 文筆家:「大聖寺御使一卷」編、

[善左衛門(;通称)の別通称/号]別通称;次郎/浪江/那百助、隠居号;心齋

善左衛門(ぜんざえもん・吉田) → 追風(おいかぜ・吉田、相撲行司) C 1 4 2 7  
 善左衛門(ぜんざえもん・横地) → 島狄子(とうてきし・横地、医者/書家) G 3 1 6 6  
 善左衛門(ぜんざえもん・宮城) → 孝庸(たかつね・宮城みやぎ/宮木、藩士/歌) Z 2 6 8 1  
 善左衛門(ぜんざえもん・亀田) → 如心(じょしん;名、亀田かめだ、神職) M 2 2 4 9  
 善左衛門(ぜんざえもん・神野) → 菊叢(きくそう・神野じんの、儒/詩歌) 1 6 4 7  
 善左衛門(ぜんざえもん・池田) → 普安(ふあん・池田/菊谷、商家/俳人) 3 8 2 8  
 善左衛門(ぜんざえもん・菊池) → 西崖(せいがい・菊池、藩士/神道研究) H 2 4 7 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・亀田) → 佳彦(よしひこ・亀田/度会/松木、神職) G 4 7 1 9  
 善左衛門(ぜんざえもん・大島) → 芝蘭(之蘭しらん・大島おおしま、和算家) M 2 2 9 3  
 善左衛門(ぜんざえもん・板倉) → 良矩(よしのり・板倉いたくら、郷土史家) F 4 7 8 3  
 善左衛門(ぜんざえもん・河原) → 政心(せいしん・河原、藩士/砲術/礼法) I 2 4 9 1  
 善左衛門(ぜんざえもん・金や) → 三惟(三以さんい・菊谷、俳人) E 2 0 0 9  
 善左衛門(ぜんざえもん・長谷川) → 寛(ひろし・長谷川はせがわ、和算家/教育) F 3 7 8 8  
 善左衛門(2世ぜんざえもん・長谷川) → 弘(ひろむ・長谷川/佐藤、寛の養嗣/和算家) H 3 7 4 6  
 善左衛門(ぜんざえもん・永井) → 幸直(さちなお・永井ながい、名主/国学/歌) N 2 0 2 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・佐藤) → 信要(のぶあき・佐藤、地誌家) 3 5 7 3  
 善左衛門(ぜんざえもん・寺西) → 我竟(がきょう・寺西てらにし、俳人) J 1 5 3 7  
 善左衛門(ぜんざえもん・穂積) → 通泰(みちやす・穂積ほづみ/竹内/斉藤、歌人) C 4 1 7 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・佐野) → 政言(まさこと・佐野、幕臣、天明事件) L 4 0 1 2  
 善左衛門(ぜんざえもん・細貝) → 栗園(りつえん・細貝ほそがい、国学者) B 4 9 6 1  
 善左衛門(ぜんざえもん・菊池) → 元(げん・菊池/菊地さきち、藩士/儒者) H 1 8 5 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・福住) → 世貞(つぐさだ・福住ふくずみ、商家/歌人) G 2 9 2 5  
 善左衛門(ぜんざえもん・福住) → 伊貞(これさだ・福住、世貞養子/商家/歌) R 1 9 2 0  
 善左衛門(ぜんざえもん・石田) → 五芳(ごほう・石田いしだ、俳人) N 1 9 6 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・酒井) → 忠興(ただおき・酒井さかい/戸田、幕臣/国学) X 2 6 3 4  
 善左衛門(ぜんざえもん・高島) → 定辟(さだのり・高島たかばたけ、藩士/記録) J 2 0 3 1  
 善左衛門(ぜんざえもん・三田) → 守道(もりみち・三田さんだ/平、歌人) I 4 4 9 7  
 善左衛門(ぜんざえもん・久保田) → 玄仙(げんせん・久保田くぼた、医者/歌) N 1 8 6 8  
 善左衛門(ぜんざえもん・高橋) → 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、商家/歌人) O 2 4 0 5  
 善左衛門(ぜんざえもん・高橋) → 古道(ふるみち/こどう・高橋、善慶男/商家/歌人) I 3 8 1 2  
 千作(せんさく・茂山) → 正虎(まさとら・茂山9世/佐々木、能狂言師) E 4 0 8 8  
 千作(せんさく・越後屋) → 美則(よしのり・村上、商家/国学者) P 4 7 5 1



- 善作(ぜんさく・市浦) → 南竹(なんちく・市浦いちうら、藩士/儒者) J 3 2 3 0  
 善作(ぜんさく・今田) → 五雲(ごうん・今田いまだ、俳人) L 1 9 7 0  
 前左大臣(ぜんさだいじん〜)すべて → 前左大臣(さきのさだいじん〜)
- M2435 詮察(せんさつ; 法諱、高橋たかはし七九郎種詮男) 1638-1717 伊勢の浄土僧; 1644伊勢梅香寺で出家、江戸増上寺28世詮雄門/のち増上寺学頭/壇林大光院・鎌倉光明寺歴住/1714増上寺37世、1716(享保元)将軍家継の葬儀法要の導師、病により麻布一本松に隠棲、1713「血盆経和解」15「瑜伽戒本綱義」、「阿弥陀三味海経等出所縁起」「成唯識論頌科解」著、[詮察(法諱)の法名] 雄蓮社松誉忠阿触光/松誉/忠阿/
- F2445 千差万別(せんさばんべつ、千差堂万別)?-? 江戸の戯作者; 初世森羅万象(森島中良)門、洒落本・黄表紙作者; 1785「無駄酸辛甘」88「下戸之蔵開」91「路無語帖」「為朝が綱回」、1794「趣向気工作」著
- 泉三郎(せんざぶろう・西郷/横井) → 鉄叟(てつそう・横井、藩士/国事奔走) C 3 0 5 5  
 仙三郎(せんざぶろう・中村) → 柳原向(やなぎはらのむこう、狂歌/戯作者) D 4 5 9 0  
 暹三郎(せんざぶろう・権藤) → 松門(しょうもん・権藤ごんどう、藩医者) B 2 2 6 9  
 善三郎(ぜんざぶろう・中西) → 弘房(ひろふさ・中西/度会、神職/記録) H 3 7 0  
 善三郎(ぜんざぶろう・中西) → 弘乘(ひろのり・中西/度会、弘房男/神職) G 3 7 8 7  
 善三郎(ぜんざぶろう・菊池) → 西崖(せいがい・菊池、藩士/神道研究) H 2 4 7 4  
 善三郎(ぜんざぶろう・谷) → 宗臨(そうりん・谷たに、商家/連歌作者) D 2 5 2 0  
 善三郎(ぜんざぶろう・松会) → 芳文(よしふみ/よしふみ・松会まつえ、書家) G 4 7 8 2  
 善三郎(ぜんざぶろう・杉野) → 多助(たすけ・杉野すぎの、藩士) P 2 6 0 3  
 善三郎(ぜんざぶろう・高尾) → 竹溪(ちくけい・高尾たかお、藩士/儒者) C 2 8 8 6  
 善三郎(ぜんざぶろう・三井) → 良福(よしとみ・三井みつゐ、旗本/歌人) K 4 7 9 3  
 善三郎(ぜんざぶろう・油屋) → 安道(やすみち・野井のい/矢野、醸造/国学) G 4 5 3 7  
 善三郎(ぜんざぶろう・相田) → 朝久(ともひさ・相田あいだ、書家) Q 3 1 3 6  
 善三郎(ぜんざぶろう・田中) → 雪麿(ゆきまろ・墨川亭、藩士/絵師/戯作) 4 6 1 1
- N2458 泉杉(せんさん) ? - ? 江前期俳人; 1691不角「二葉之松」入(226)  
 宣瓊(せんさん・草鹿) → 玄竜(げんりゅう・草鹿、医/詩人) M 1 8 9 2
- F2446 仙山(せんざん・平岩/平巖ひらいわ/修姓; 平、名; 桂、慶斎男)?-1704? 京の詩人・経史: 石川丈山門、1661加賀金沢藩儒、72丈山没後致仕/帰京: 1672丈山の詩仙堂継承、帰京後も金沢藩より禄、1661「北州雑詩」、「渭北吟囊」「江東吟藁」「岩桂詩集」「甲辰紀行」「曇桐さんとう集」「東行雑詩」「道中紀行」著、死を前に草稿すべて火中に投ず; 友人の大沢四水が諸方に残る作品収集; 「忘筌窠曇桐ほうせんかさんとう集」(四水が1706刊; 序跋)、[仙山(号)の字/別号]字; 仙桂、別号: 一柳軒、晞顔齋、居を忘筌窠ほうせんかと称す  
 大沢四水 → 君山(くんざん・大沢おおさわ/印牧かねまき、儒者/詩文) D 1 7 6 4
- F2447 千山(せんざん・井上のうえ/本姓; 越智)?-1726 播州姫路の藩御用商人; 姫路六人衆の1、書肆、俳人; 来山門/のち惟然門、惟然に従い元灌・厚風らと口語調誹諧を主唱、惟然没後洛東岡崎風羅堂から芭蕉遺品を移す; 蓑塚を築造、蕉門の支考・路通・野坡と交流、鬼貫・来山と親交、1696(元禄9)「印南野いなみの」1702「花の雲」03「当座はらひ」編、1705「又花の雲」09「注連縄」12「みの塚」編、二葉じょう集・鹿子の渡・四山しざん集で活躍; 入集、千山追善集; 「霜の葉」「散木葉」(息子寒瓜編)、1692才麿「椎の葉」8句入、寒瓜(俳人)の父/寒瓜・寒鳥・寒鴻と子孫代々丹頂堂を名乗る; 風羅堂誹諧を伝承、[みじかよやさてさてこれが夜中よの](遺墨)、[千山(号)の通称/別号]通称; 平福屋三右衛門/書林三右衛門、別号; 春曙菴/春曙堂/丹頂堂/風羅堂3世、法号; 春曙庵清流千山居士
- F2448 千山(せんざん・五十嵐いがらし、紀伊国屋きのくにや文左衛門) 1669-1734 紀伊出身の幕府材木御用達、江戸の大火に木曾の木材を買占め数年で富豪; 紀文大尽と称し豪奢を極める、晩年は零落、俳人; 其角門、逸話多く説話伝説化
- F2449 扇山(せんざん) ? - ? 大阪の俳人、1690之道「あめ子」1句入、[照る月の下にせはしや虫の声](あめ子; 190)

- F2450 扇山(せんざん) ? - ? 江戸雑俳点者、1702松淵「冠独歩行」判入
- F2451 沾山(初世せんざん・内田うちだ) 1716-1758<sup>43</sup> 江戸浅草の俳人・沾徳門、江戸談林の中心、  
「東千句」「麓の道」「浜松ヶ枝」著  
[舟つけて闇へまたげば蟋蟀きりぎりす](1735米仲「かなあぶら」入/蟋蟀はこおろぎ)、  
[初世沾山(;号)の別号]合歡堂/玉桂坊/桂二坊/行輦坊齋こうしゅうぼう・こうちゅうぼう
- F2452 沾山(2世せんざん・内田うちだ、初姓;中村、別号;無化坊)?-? 江戸俳;初世沾山門、のち2世襲号、  
「二冊子」入、1760「無花坊沾山祝賀句会」編
- F2453 沾山(3世せんざん・内田うちだ、別号;丘美坊) 1716-58<sup>43</sup> 俳人:沾山2世門、3世襲号、  
「二冊子」入、1754竹翁「童の的」入
- F2456 千山(せんざん・矢野やの、別号;別湖亭)?-? 江中期俳人、1772(明和9)刊「天雲のよそ」編
- F2454 沾山(4世せんざん・内田うちだ、初姓;中村)?-? 江中期1750-1818頃江戸の俳人:3世沾山門、  
沾徳座沾山側点者、4世襲号、1754竹翁「誹諧童の的」評点句入/1792「米翁追善集」編、  
1798(寛政10)「誹諧二冊子」編、1805「非支考」編、  
[4世沾山の別号] 社麦/石鯨/西峽庵/春化坊/静斎/合歡堂
- F2455 沾山(5世せんざん・杉原/初姓;菊地) 1727-1814<sup>88</sup> 江戸の俳人:4世沾山門、5世襲号、  
1804(享和4)「俳諧参語」為大と共編、「駅路宿」編(没後1825刊)、  
[5世沾山の別号] 百化/百化坊精齋/合歡堂
- F2457 沾山(7世せんざん・内田うちだ/初姓不明)?-1851 越後魚沼郡の俳人、江戸住;5世沾山、  
法橋/法眼、沾山6世襲号/沾徳7世を襲名/のち7世沾山を称す、江戸沾徳座点者、  
1838(天保9)「堀川百首田舎ばなし」41「俳諧芥川」47「俳諧あらまし」著、  
1848「俳諧鱈はいかいかい」27-30篇編(;序と跋)、「癸卯年歳旦」著、  
[7世沾山の別号]崑山、玉花坊友齋、6世沾山/沾徳7世、合歡堂
- F2458 船山(せんざん・草場くさば、名;廉、佩川はいせん[1788-1867]男) 1819-87<sup>69</sup> 肥前小城藩士、儒;父門、  
江戸昌平黌の古賀侗庵門、のち篠崎小竹門、帰郷後郷校多尚聖堂で教鞭、  
のち対馬藩の学頭、詩人;「桜花」「蘭画賛」など
- 02413 泉山(せんざん・澤田さわだ、本橋吉右衛門4男) 1823-1910<sup>88</sup> 武蔵入間郡北入曾村の生、  
漢学;1832(10歳)常泉寺釈亮賢門/国学;1837田口保明門/漢学・詩;大沼沈山・関口貞斎門、  
和算;1841宮野助左衛門門/漢方医学・易学;関口玄益門、手習塾開設;子弟教育、  
1846(弘化3/24歳)入間郡北野村広谷の農家澤田家の養子;家督嗣、私塾[北広堂]開設;  
手習と漢学を教授、1860(万延元)青蓮院宮御門流の入木道の免許を受く、  
京の嵯峨御所江戸表御役所より[北広堂]を許可/書道の泉山流を創作、広域の門弟多数、  
手本を清書・版木彫刻・製本し[いろはうた][往来物][国尽・村名・名頭][北の往来]で教育、  
1873[狭山学校]創立;校長に就任、  
「地震解」「銭算盤」「等差級数」「筆算自摘要」「考益創業」「仮名遣明鏡」「入間碑集」著  
[泉山(;号)の幼名/名/通称]幼名;茂吉、名;正勝、通称;新五郎  
号の泉山は「七曲井」(狭山市北入曾)に因む
- 千山(せんざん;道号) → 慧単(えたん;法諱・千山、臨濟僧) E 1 3 0 4
- 千山(せんざん・田村) → 水鷗(すいおう・田村たむら、絵師) E 2 3 2 1
- 沾山(6世せんざん・内田) → 沾山(7世せんざん・内田/沾山6世⇒沾徳7世⇒沾山7世) F 2 4 5 7
- 泉山(せんざん・佐々木) → 政二(まさじ・佐々木ささき、藩士/俳人) C 4 0 6 4
- 泉山(せんざん・吉田) → 則孝(のりたか・吉田よしだ/戸田、商家/国学) K 3 5 3 3
- 扇山(せんざん・山本) → 正秋(まさあき・山本やまもと、国学者/歌) T 4 0 5 5
- F2459 善算(ぜんざん;法諱) ? - ? 鎌倉南北期の僧;法印、歌人、  
勅撰2首;1359成立「新千載集」(1082)・新後拾遺(1012)、  
[涙河袖のしがらみせきかねてやどれる月も影ぞ流るる](新千載;恋1082)
- 全三(ぜんさん・脇田) → 琢所(たくしよ・脇田わたた、儒者/藩士) O 2 6 0 3
- 千山舎(せんざんしゃ) → 湖竹(こちく・斎藤さいとう、俳人) D 1 9 2 4
- F2460 泉山坊(せんざんぼう) ? - ? 滑稽本作者、  
1763「評判龍美野子たつのみやこ」(:梁雀州と共著)
- F2461 詮子(せんし・東三条院とうさんじょういん/ひがし、梅壺女御、藤原兼家女) 962-1001<sup>40</sup> 母;藤原中正の女時姫、

円融天皇女御;978入内/986皇太后/991落飾;女院、歌;986「皇太后詮子瞿麦合なでにあかせ」催、1001道長催「女院40賀屏風歌」、栄花物語・権記に逸話、  
 勅撰8首;後拾遺(1003)/千載(1057)/新古今(809/1712)/新勅(1062)/続古(311/1594/1830)、  
 [思ひやるわがころもではさゝがにのくもらぬ空に雨のみぞ降る](後拾遺;雑1003、返歌、  
 贈歌;斎宮女御;大空に風待つほどのくものいの心細さを思ひやらなん、  
 斎宮女御[村上天皇女御929-985]は東三条院詮子はより33歳年上)

- F2462 **宣子**(せんし・藤原ふじはら、為頭女)?-1321 鎌倉期京極派歌人、従二位、関白二条兼基の室、  
 関白二条道平の母、藤原為家の孫、1319文保百首入、  
 勅撰33首;新後撰(800/1073/1094)玉葉(5首642/811/1442/1737/2446)続千載(9首)、  
 続後拾遺(2首)風雅(6首)新千載(3首)新拾遺(4首)新続古今(1首)  
 [われのみとくゆる煙の下もえに人はやすくや思ひてつらん](新後撰;恋800)
- F2463 **宣子**(せんし・日野ひの/本姓;藤原、資名すけの女)?-1382 後光厳天皇の典侍/従一位、  
 時光・竹向(たけむき、資子/名子)の妹、歌人:1367新玉津島社歌合/1375永和百首参加、  
 勅撰8首;新後拾遺(156/200/396/597/754/1101)新続古今(1190/1253)、  
 [末の松さきこす藤の波のまにまたや弥生の春もくれなん](新後拾;春156/百首歌)  
 [宣子(;名)の号] 号;岡松一品おかまつのいっぽん
- F2465 **千之**(せんし・望月もちつき/旧姓;大原)?-? 京の呉服商/俳人;重頼門、  
 1674維舟「大井川集」/77似舟「かくれみの」/1676西鶴「古今俳諧師手鑑」入、  
 1680自悦「洛陽集」/91只丸「小松原」入、  
 [首たけのおもひや星の川渡り](手鑑)、  
 [千之(;号)の通称/別号]通称;三郎介、別号;葉分軒/露分庵/近源子
- F2466 **扇士**(せんし) ? - ? 大阪の俳人、1691賀子「蓮実」2句入、  
 [其の後のちの無音ふいはゆるせ山桜](蓮実;196/年に一度の再開)
- F2467 **仙芝**(せんし) ? - ? 俳人、1699東鷲「小弓俳諧集」入
- N2465 **扇之**(せんし) ? - ? 肥後熊本の俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
 [目出度と云うは裏なり賀の初め](広原海/賀宴は四十歳[初老]から始まる/裏は逆)
- 2431 **千四**(せんし・長谷川はせがわ、名;紀隆/通称;十郎左衛門) 1689-1733 大和の人;長谷寺の僧;還俗、  
 大阪住;浄瑠璃作者;1727より竹本座作者、単独or竹田出雲(初世)・文耕堂と合作、  
 俳諧;才鷹門;大阪で雑俳点者、1721「花王伊勢物語」編/脚本;27「敵討御未刻太鼓」、  
 1728「加賀国篠原合戦」29「尼御台由比浜出」31「鬼一法師三略巻」32「壇浦兜軍記」外多数、  
 俳諧;「奉納日親堂五千句集」評、雑俳「智恵海」入、追善集「はつか草」(1733三蝶編)、  
 法号;若水信士
- M2436 **泉子**(せんし;号) ? - ? 江中期大阪の俳人、「当社住吉宮奉納式千句集」編
- M2437 **千四**(せんし・十寸見ますみ) ? - ? 江中期1741-48頃浄瑠璃・歌舞伎作者、  
 1744「傾城千引鐘」
- F2468 **染子**(せんし・そめこ・一応亭いちおうてい、河南散人)?-? 江戸の談義本作者、  
 1754(宝暦4)「教訓不弁舌ふべんぜつ」著(吉文字屋次郎兵衛・本屋庄兵衛板)、  
 1773「へらず口」著(上総屋利兵衛板)
- E2424 **千之**(せんし・芝川堂) ? - ? 江戸後期江戸の町医者/川柳作者;小石川連、  
 養老連に属す、「誹風柳多留」三七篇に初見、小石川稻荷奉額/大塚波切不動奉額に連名、  
 1834桜木会の判者(柳多留一四四)、幾千代女いくちよ(川柳作者;9歳没)の父、  
 [花屋の見世に生ひしげる柳樽](柳多留;三七)
- 宣子(せんし・従三位・従二位) → 宣子(せんし・藤原為頭女) F 2 4 6 2  
 宣子(せんし・上島) → 雅政(まさただ・上島うえま、詩人) N 4 0 9 1  
 宣之(せんし/のりゆき・石田) → 一鼎(いつてい・石田いしだ、儒者/詩文) H 1 1 6 4  
 千子(せんし・向井) → 千子(ちね・向井千代子、去来妹、俳人) F 2 8 1 4  
 千子(せんし・池田) → 千子(せんこ・池田いけだ、藩主室/歌) O 2 4 0 1  
 千之(せんし・鳥居) → 円秋(えんしゅう・鳥居とりい、藩士/天文学) E 1 3 8 9  
 千之(せんし・三井/黒木) → 千之(ちゆき・黒木くろき、眼科医) H 2 8 0 3  
 千之(せんし・野田/海北) → 若冲(じゃくちゅう・海北かいほう、歌人/国学) 2 1 3 7

千之(せん・大木/桜木)→	闇齋(ざんさい・桜木、儒者/垂加神道)	Q 1 6 9 8
千之(せん・沢田)	→ 東里(とうり・沢田さむね、書家)	I 3 1 1 5
千之(せん・松浦)	→ 誠之(せい・松浦、儒者)	B 2 4 8 7
千之(せん・合田)	→ 強(つよし・合田ごうだ、医者/蘭方)	E 2 9 3 8
千之(せん・星野)	→ 千之(かづゆき・星野ほしの、幕臣/奉行)	V 1 5 6 2
千之(せん・八木)	→ 籟洞(らいどう・八木やぎ、藩士/砲術家)	4 8 8 6
千斯(せん・古賀)	→ 竹堂(ちくどう・古賀こが、藩儒/教育)	D 2 8 6 4
先之(せん・名倉)	→ 松窓(しょうそう・名倉、藩士/漢学/渡仏)	K 2 2 5 9
仙子(せん・松平)	→ 頼寛(よりひろ・松平まつだいら、藩主/儒家)	J 4 7 6 5
扇子(せん・相沢)	→ 扇子(せんこ・相沢あいざわ、歌人)	N 2 4 9 6
沾之(せん・土山)	→ 孝之(たかゆき・土山つちやま、幕臣/豪遊)	N 2 6 6 1
染之(せん・磯谷)	→ 泰隆(やすたか・磯谷いそがや/加藤、幕臣/国学)	F 4 5 2 9
詮子(せん・有馬)	→ 詮子(あきこ・有馬ありま、歌人)	G 1 0 9 0
詮子(せん・井伊)	→ 詮子(あきこ・井伊いゐ/伊達、守眞院/歌人)	G 1 0 9 2
専司(せん・江刺)	→ 恒久(つねひさ・江刺えさし、藩士/国学者)	D 2 9 4 0

- F2469 宣旨(せんじ・中宮・前中宮)?- ? 平安前期宇多天皇中宮温子[872-907]の女房歌人、中宮温子の許で宣旨を伝える役の女房、後撰288(伊勢[藤原継蔭女]との贈答歌)・1127;温子の兄藤原時平邸に出仕していた、[花薄はなすき穂に出づる事もなき宿は昔忍ぶの草をこそ見れ](後撰;秋288)、(伊勢が尾花を贈ってきたので忍ぶ草を付けての贈歌)、(伊勢の返歌;289/屋戸やども狭せに植ゑ並なめつゝぞ我は見る招く尾花に人やとまると)
- F2470 宣旨(せんじ・後一条院中宮・前中宮・二条院)?-? 後一条院中宮威子[?-1036/道長女]の女房;宣旨を伝える役、のち威子女の章子内親王(二条院)の乳母、歌人;勅撰4首;千載562・玉葉1515/2420・新続古858、[憂きもののさすがに惜しき今年かな遠ざかりなん君が別れに](千載;哀傷562)、(今年;1036[長元9]4月後一条院没・9月威子没/12月伯母上東門院に移った章子を見舞う)
- F2474 宣旨(せんじ・六条斎院ろくじょうさいいん、後朱雀院中宮宣旨、源頼国女)?-1092;90余歳 母;藤原信理女、藤原高定の妻/のち源隆国の妻、後朱雀院中宮嬬子に出仕;女房名宣旨せんじ、宣旨伝達の役、その娘祿子内親王[1039-96]の乳母/同家(六条斎院家)の女房;同家歌合に16度参加、物語作者;1055六条斎院物語合の「玉藻に遊ぶ権大納言」著、「狭衣物語」著者?(定家説)、勅撰6首;後拾遺(1096/1111)新古(2001)新勅(547)玉葉(401)続後拾(490)、[忍び音を聞きこそわたれ時鳥通ふ垣根のかくれなければ](後拾遺;雑1096)、(脩子内親王家五節の命婦の許に藤原高定が通うのを知って命婦を匿名でおどした歌)
- F2471 宣旨(せんじ・郁芳門院いほりもみいん)?-? 白河天皇皇女郁芳門院媞子(い)内親王[1076-96]家の女房、宣旨伝達の役、歌人;風雅1963、[露の身のきえはてぬとも言のはにかけても誰か思ひ出づべき](風雅;1963)
- F2473 宣旨(せんじ・六条院ろくじょういん、藤原顕良女)1110?-? 1131存 平安後期女房歌人、後三条天皇皇女聡子内親王に出仕、後白河天皇皇女斎宮好子内親王[?-1192]の傳育者、俊成[1114-1204]の妻;八条院坊門局の母、家集「六条院宣旨集」、聡子内親王没1131頃の歌、勅撰6首;千載(1141)続後拾(254)新千載(927)新続古(1037/1578/1770)、[先立つを見るはなほこそかなしけれ遅れ果つべきこの世ならねば](千載;雑1141)、(死を自らの問題として認識する哀傷歌)
- F2475 宣旨(せんじ・後京極院ごきょうごくいん、中宮宣旨)?-? 鎌倉後期女房歌人、後醍醐天皇中宮の後京極院禧子[1303-33]の女房/歌;京極派、1297八月十五夜歌合参加、続千載1052 [おちまさる涙と人にしられずはおさふる袖の色かはるとも](続千載集;十一恋1052)
- F2464 宣旨(せんじ・後光明照院前関白左大臣家)?-? 鎌倉後期二条道平[1288-1335]家の女房、宣旨伝達の役の女房、連歌;菟玖波集1句入、[寄せてはかへる沖つ白浪](菟玖波;1910、前句;関白左大臣/家の酒宴後に人々帰る時;さらさらやさらさらとこそ立ちにけれ)

後醍醐天皇妃の宣旨と同一?→ 為道女①(ためみちのむすめ、二条関白女房)H 2 6 4 7 ①

- M2438 仙児(せんじ) ? - ? 江戸期;京の俳人;雑俳;笠付を得意
- F2476 沾耳(洗耳せんじ) ? - ? 江中期越中泊の山伏か?  
俳人;1721(享保6)支考(;越中行脚中)門、29江戸に出る;1729-38浅草寺内に天柱庵結庵、湖十と交流、のち1741頃まで西国行脚、1729「伽陀箱かだぼ」36「四時行」45「梅日記」編、[沾耳(;号)の別号]鳥巢下/西行庵/梅後園
- F2472 専二(せんじ奈良なら、佐四郎男)1822-92 讃岐三木郡池戸村の農業、私塾で修学;数理に長ず、1851組頭に就任/のち副戸長/維新後;香川県勸業課員、奈良稻と称する稻を普及、農具を開発/全国各地で農業指導、1890秋田県花館村で指導;没、明治三老農の1、「蒟蒻栽培調理法」著
- 千治(せんじ・岸) → 千治(ちはる・岸きし、国学者) L 2 9 3 8
- 千次(せんじ・早川) → 直昌(なおまさ・早川はやかわ、剣客/州吏) O 3 2 4 2
- 宣旨(せんじ・前中宮、後撰歌人) → 宣旨(せんじ・中宮) F 2 4 6 9
- 宣旨(せんじ・御形みあれ、花山期歌人) → 御形宣旨(みあれのせんじ) 4 1 5 0
- 宣旨(せんじ・中宮、拾遺歌人) → 馬内侍(うまのないし) 1 2 8 8
- 宣旨(せんじ・前中宮、千載歌人) → 宣旨(せんじ・後一条院中宮) F 2 4 7 0
- 宣旨(せんじ・裸子内親王家) → 宣旨(せんじ・六条斎院) F 2 4 7 4
- 宣旨(せんじ・中宮、続千歌人) → 宣旨(せんじ・後京極院) F 2 4 7 5
- 宣旨(せんじ) → 為道女①(ためみちのむすめ、二条関白女房、後醍醐妃)H 2 6 4 7 ①
- 洗耳(せんじ) → 長行(ながみち・小笠原、幕臣/詩歌) F 3 2 9 0
- 洗耳(せんじ・島) → 霞ト(かほく、島しま、商家/俳人) P 1 5 4 0
- 宣治(せんじ・堀越) → 宣治(のぶはる・堀越、木兎菴秋来、藩士/俳) C 3 5 8 4
- 宣次(せんじ・三魔) → 義山(ぎざん;法諱・良照;字、浄土僧) K 1 6 7 6
- 専治(せんじ・矢野) → 安盛(あさか・矢野やの、砲術家) E 1 0 2 9
- 銚治(せんじ/もりはる?・寺尾) → 一純(いちじゅん・寺尾てらお、藩士/詩人) C 1 1 4 9
- 仙二(せんじ・横山) → 鶴水(かくすい・横山よこやま、儒者) K 1 5 1 4
- 仙児(せんじ) → 鳳毛(ほうもう、藩士/俳人) C 3 9 5 9
- 仙次(せんじ・矢野) → 道正(みちまさ・矢野やの、藩士/国学者) K 4 1 8 7
- 仙治(せんじ・井口) → 寿山(じゅざん・井口、長寿/書家/歌人) O 2 1 8 2
- 箭次(せんじ・三輪) → 常宣(つねのぶ・三輪みわ、国学者) G 2 9 4 5
- F2479 全史(ぜんし;号、免円) ? - ? 江中期俳人、伊勢屋暁雨(2世)から号を受、1753「新撰武蔵曲」入
- F2480 蒸子(せんじ) ? - ? 江中期俳人;蕉門、1764「うやむやのせき(落柿舎3世本伝書)」監修・刊
- 全子(ぜんし・紀) → 紀乳母(きのめのと、陽成天皇乳母) B 1 6 6 9
- 善之(ぜんし/よしゆき・穂積) → 永機(えいき・穂積ほづみ、俳人) 1 3 2 0
- 善之(ぜんし・三井) → 善之(よしゆき・三井みつゐ、眼科医) H 4 7 9 3
- 善之(ぜんし・家崎) → 善之(よしゆき・家崎いえさき、商家/和算家) H 4 7 9 4
- 善之(ぜんし・窪田) → 善之(よしゆき・窪田くぼた、藩士/暦算家) H 4 7 9 6
- 善之(ぜんし/よしゆき・田村) → 西湖(せいこ・田村/坂上、幕吏/医/本草) B 2 4 3 3
- 蟬子(せんし・森) → 如柳(じよりゅう・森/斎藤、国学/歌) V 2 2 3 6
- 漸之(ぜんし;俳号) → 秀富(ひでとみ・小野寺/大高、赤穂義士/俳人) I 3 7 7 4
- F2477 善次(善二ぜんじ・青木あおき)? - ? 江中期宝暦安永1751-81頃大阪の歌舞伎作者、1762「井手玉川正平織」「宝小槌手づま占」/66「艶小袖当世模様」/77「鍋祀貞女競」著
- 善次(ぜんじ・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2
- 善次(ぜんじ・茂木) → 久周(ひさちか・茂木もてぎ、足利学校代官) B 3 7 3 4
- 善次(ぜんじ・山崎/高橋) → 復斎(ふくさい・高橋/山崎、藩儒/詩文) B 3 8 5 3
- 善治(善司ぜんじ・倉成) → 竜渚(りゅうしよ・倉成くらなり/くらなし、儒者) E 4 9 5 9
- 善治(ぜんじ・鳥屋) → 眞秋(まあき・鳥屋とや/山本、商家/国学) R 4 0 0 4
- 善司(ぜんじ・魚澄[魚住]) → 荊山(けいざん・日尾ひお、儒者/詩人) 1 8 0 5

膳司(ぜんじ・渋川) → 佑賢(すけかた・渋川しぶかわ、天文暦算家) G 2 3 2 0  
 全次(ぜんじ・村田) → 全次(またつぐ・たけつぐ・村田むらた、神道家) T 4 0 1 2  
 前次(ぜんじ・三浦) → 前次(ちかつぐ・三浦みうら、藩主) B 2 8 2 1  
 漸至庵(ぜんしあん) → 観山(かんざん、茶人) Q 1 5 7 7  
 宣示院(せんじいん) → 日耀(にちよう;法諱・了孝、日蓮僧) D 3 3 4 9  
 宣示院(せんじいん) → 日長(にちちよう;法諱、日蓮僧) F 3 3 1 8  
 善次右衛門(ぜんじえもん・平野) → 柄悟(へいご・平野ひらの、通事/華音) B 2 7 5 1  
 仙子園(せんしえん) → 斗周(としゅう・仙子園、俳人) O 3 1 0 6  
 潜思閣主人(せんしかくしゅじん) → 春嶽(しゅんがく・松平慶永、藩主/詩歌) J 2 1 3 3  
 専識(せんしき;字) → 頼景(らいけい;法諱・専識、真言僧) 4 8 3 7  
 剪枝崎人(せんしきじん) → 秋成(あきなり・上田、読本) 1 0 0 9  
 千之斎(せんしさい・小出) → 東郊(とうこう・小出こいで、儒者) D 3 1 7 8  
 仙字山人(せんじさんじん) → 政行(まさゆき・三島、幕臣/地誌家) I 4 0 3 0

M2439 前侍従(ぜんじじゅう/さきのじじゅう、三条左大臣頼忠家女房)?-? 平安前期歌人;  
 977三条左大臣頼忠殿前栽歌合参加、

[いろいろの虫の音聞こゆ身にしみて今宵やものあはれ知るらむ](頼忠歌合;78)

本院侍従と同一? → 侍従(じじゅう・本院、歌人) D 2 1 9 0

嬪子女王(せんしじよおう) → 嬪子女王(せんしにょおう、斎宮) P 2 4 0 5

善七(ぜんしち・池田) → 普安(ふあん・池田/菊谷、商家/俳人) 3 8 2 8

善七(ぜんしち・綿屋) → 真纏(まさで・荒瀬あらせ/鈴木、商家/国学) L 4 0 8 2

善七(ぜんしち・服部) → 盛徳(もりり・服部はっとり、国学) L 4 4 0 3

専七郎(せんしちろう・曲淵/渡辺) → 之道(これみち・渡辺、藩士/儒者) O 1 9 8 8

善七郎(ぜんしちろう・阿部) → 正武(まさたけ・阿部、藩主/老中/武家法度) D 4 0 3 3

M2440 旃室(せんしつ;道号・周馥しゅうふく;法諱、俗姓;山名)?-?1460存 幼時;細川成之に養育、  
 臨濟僧;嵯峨華嚴院の玉潭中湛門;出家/嗣法、華嚴院・阿波補陀寺・光勝院・等持院を歴住、  
 1459(長禄3)天竜寺168世;60住山、周易・蘇軾の詩を研究、「翰林残稿」著

千室(せんしつ・大伴) → 千室(ちむろ・大伴宿禰、万葉歌人) F 2 8 4 7

仙室(せんしつ・畠山) → 光政(みつまさ・畠山はたけやま、藩医) K 4 1 0 7

潜室(せんしつ;号) → 健易(けんえき;法諱・東漸;道号、臨濟僧) 1 8 0 9

02490 宣実(せんじつ;法諱) ? - ? 鎌倉期;南都の僧/法師、歌;1237刊[檜葉集]入、  
 [しげりあふ夏野の草をふきわけてはむけの風のあとぞみえ行く](檜葉;雑800)

☆日野俊光男宣実(仁和寺僧)とは別人

詮実(せんじつ・間部) → 詮実(あきざね・間部まなべ、藩主/随筆) G 1 0 5 8

全室(ぜんしつ・伊勢) → 貞宗(さだむね・伊勢/平、幕臣/故実家) C 2 0 5 3

02483 全実(ぜんじつ;法諱、興福寺甲斐上座の昌実男)?-? 平安鎌倉期;南都興福寺の僧/法師、  
 1237刊[檜葉集]入、浄土僧住蓮(法然門弟/1207斬首)の従兄弟、  
 [忠季朝臣(・源/1146頃没)うせていみのうちなりける人につかはしける、

きみはよも思はざりけりけむふじ衣かさねてかかるなげきせむとは](檜葉;哀傷586)

洗耳亭(せんじてい) → 牛哥(ぎゅうか・洗耳亭、俳人) M 1 6 3 9

潜思堂(せんしどう) → 正安(まさやす・奥平おくだいら、藩士/儒者) I 4 0 0 4

2432 選子内親王(せんしないしんのう、通称大齋院、村上天皇10皇女)964-1035?母;中宮安子(藤原師輔女)、  
 948内親王宣下/974三品/975(12歳)第十六代賀茂齋院に卜定;57年間奉仕、  
 1031老病のため退下;落飾、風雅を愛する歌人;後宮と異なる洗練されたサロン形成、  
 1012自撰集「発心和歌集」、歌合;4度催;985-987頃[大齋院螢合]・1017?大齋院草合など、  
 「大齋院前御集」「大齋院御集」(共に齋院を中心にした人々の日常生活の贈答歌集)、  
 勅撰38首;拾遺(1337)後拾(7首40/468以下)金(630)詞(410)千(968)新古(1970)以下、  
 玄々集入/続詞花集入(767脚病に関する齋院宰相と贈答歌→2085宰相[撰子内親王家])、  
 [春はまづ霞にまどふ山里をたちよりてとふ人のなきかな](後拾遺;春40/前御集)  
 選子内親王家宰相(せんしないしんのうけのさいしやう) → 宰相(さいしやう) 2 0 8 5

選子内親王家中将(せんしなしいんのうけのちゅうじょう)→ 中將(ちゅうじょう、齋院中将) G 2 8 3 6

選子内親王家中務(せんしなしいんのうけのなかつかさ)→ 中務(なかつかさ、中将の妹) 3 2 1 0

- P2405 嬪子女王(せんしによおう、具平親王3女) 1005-8177 母;為平親王2女、  
1016(長和5)後一条天皇即位に伴い伊勢齋宮に卜定、18伊勢に下向/25勅使を迎え裳着、  
1031(長元4)酒乱に乘じ神がかり状態で伊勢神宮の荒魂と称し祭主大中臣輔親に託宣;  
齋宮権頭藤原相通夫妻の不正・朝廷の齋宮祭祀輕視の批判(齋王託宣事件;小右記・紀略)、  
相通夫妻は流罪、1036(長元9)天皇崩御で退下、1051(永承6)藤原教通の継室、  
源師房・隆姫女王・敦康親王妃の姉妹、  
長元4年齋王託宣時の歌;齋宮が内宮に参りにわか雨降り風吹き託宣し酒のみて詠;  
[さか月にさやけき影のみえぬればちりのおそりはあらじとをしれ](後拾遺;神祇1160、  
盃に冴えた月光見えた《不逞の輩の罪は神眼にお見通し》塵ほどの心配もない)、  
輔親返歌;[おほぢちゝむまごすけちかみよまでにいたゞきまつるすべらおほんがみ]、  
(後拾;1161/祖父の頼基父の能宣・孫の私の輔親と三代までもお仕申す皇祖神様、  
御託宣は謹んで承りました)
- F2481 宣旨典侍(せんじのすけ、為道女?)?-? 鎌倉期の女房/歌人、  
続後拾遺195・731・923、  
[あかずきく心ありとや知らざらむ遠ざかり行く郭公ほととぎすかな](続後拾;夏195)  
旧部類附録作者異義に新後撰集の中宮宣旨と同一とあるが新後撰にはその名なし?  
蘇舎(せんしゃ・こけのや) → 尚輔(ひさすけ/なおすけ・中村、藩士/国学者) B 3 7 1 7
- 02474 専寂(せんじやく;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊素俊撰[檜葉集]6首入;章信の不退寺草庵での歌会参加、  
[在中將の建て侍りける不退寺に法橋章信草の庵結びて住み侍りければ、  
人々常にまかりて歌よみ連歌などして遊びはべりけるに故宮の花をよめる、  
みづのえのよしのの山の桜花たがよの春をおもひいづらむ](檜葉;春64)
- M2441 仙寂(せんじやく;法諱、仙舜?)?-? 南北朝京祇園社社僧・法師/連歌、菟玖波集1句入、  
[人こゝろ秋の末にやなりぬるらむ](菟玖波;恋994/前句;風のつてにもとはぬ比かな)  
扇雀(せんじやく・吉川) → 宜大(ぎだい、吉川/那波、商業/俳人) F 1 6 7 3  
千尺(せんじやく・西尾/岩垣) → 東園(とうえん・岩[巖]垣/源、儒者) B 3 1 4 9
- F2482 禅寂(ぜんじやく;法諱、俗名;日野長親、日野兼光2男)??-? 1216(50歳位)存 母;源家時女、廷臣、  
從五上/刑部少輔/民部大輔、20歳頃出家;天台僧;大原来迎院住/源空門、  
鴨長明と親交;日野外山に堂を建立?、1216長明没後35日の前日に「月講式」著、  
[禅寂(;法諱)の通称]大原如蓮坊/如蓮坊
- F2483 宣守(せんじゆ;法諱、恵命院、中御門宣方男)??-? 室町期真言僧;恵命院権僧正、  
のち大勝金剛院僧正、故実家:1420(応永27)「海人藻芥あまのもくず」著  
孱守(せんじゆ・小沢) → 精庵(せいあん・小沢おざわ、漢学/洋学) H 2 4 2 8
- M2442 専壽(せんじゆ;法諱) 1726 - 178055 美濃岐阜の浄土宗本誓寺28世住職、  
歌人;冷泉為村・為泰門/為村より美濃西行と称される、作歌数万首、「谷汲紀行」著、  
[専壽(;法諱)の法名/通称]法名;曇蓮社香誉/香誉、通称;恵澄源阿常念
- M2443 船樹(せんじゆ、神波かんなみ、名;勉、重成2男)1759-182971 代々美濃大野の医者;父門、詩;金竜道人門、  
1779名古屋住;林良沢邸に寄宿;医を修学、名古屋で小児科医を開業/名古屋藩寄合医師、  
終身月俸を給与される、国学;本居春庭・本居大平門、「葉名韻輯」著、  
[船樹(;号)の字/通称/別号]字;方努、通称;曾七、別号;船樹山人
- M2445 泉壽(せんじゆ・中川なかがわ) ? - ? 江後期;古銭学者、古銭に関する研究、  
1858刊「愛家掇影初輯」著/59「安政孔方図鑑」著/59「和漢稀世泉譜」編、  
[泉壽(;通称)の号] 積古齋/文林堂  
千樹(せんじゆ・田中/千樹園)→ 春回(しゅんかい・田中、儒者//医/詩人) Z 2 1 5 2  
千寿(せんじゆ・西村) → 清狂(せいきやう・西村にしむら、絵師) H 2 4 8 9  
千寿(せんじゆ・山田/久米)→ 千壽(ちほぎ・燕栗園えんりつえん2世、書肆/狂歌) F 2 8 3 7  
仙孺(せんじゆ・岡) → 延年(のぶとし/えんねん・岡おか、商家/絵師) H 3 5 7 7  
泉壽(せんじゆ・英齋) → 英壽(えいじゆ・景齋、可候門絵師/戯作) C 1 3 8 9

- 宣儒(せんじゆ・林) → 龜瑞(きずい・林はやし、国学者) L 1 6 0 0
- F2484 善珠(ぜんしゆ;法諱、通称;秋篠僧正、俗姓;阿刀あと・跡・安都) 723-797 75 奈良平安期法相僧、興福寺の学僧;玄昉門/唯識・因明を修学、秋篠寺を開山、桓武天皇の信任厚い、795皇太子(平城天皇)の病平癒の賞により僧正を勅、「法苑林章記」「成唯識論疏肝心記」、「本願薬師経鈔」「般若心経幽賛記」「三弥勒経抄」「上下両経疏」「唯識燈明鈔」外著多数、歌;玉葉集2628、  
[有為の世はいづらつねなる草の葉に結べる露の風待つがごと](玉葉;釈教2628)
- F2485 禅守(ぜんしゆ;法諱、通称;宮僧正、邦省親王男) ?-1415 南北室町期の僧、後二条天皇の孫、中院通冬の猶子、真言僧;成助僧正門/仁和寺真光院住、法印、1376(永和2)伏見仙洞の故光厳院13回忌追善結縁灌頂における大阿闍梨を務める、1415東寺長者/大僧正、歌:勅撰6首;新拾遺(1825)新続古(206/1354/1611/1982/2004)、  
[山深みまたすむ人のあるにこそ身一ならぬうき世とは知れ](新拾;雑1825)
- F2486 善種(ぜんしゆ/よしたね・山田) ? - ? 江初期俳人;西武門、1657西武「沙金袋」224句入  
善主(ぜんしゆ・菅原) → 善主(よしぬし・菅原すがら、廷臣/漢学者) F 4 7 4 7  
禅珠(ぜんしゆ;法諱) → 龍派(りゅうは;道号・禅珠、臨濟僧/詩) F 4 9 3 8  
千手庵(せんじゆあん) → 道溪(どうけい・林はやし、茶人) D 3 1 2 2  
仙寿院(せんじゆいん) → 宗安(そうあん・山科やましな、侍医/墨竹) 2 5 4 6
- F2487 暹秀(せんしゆう;法諱) ? - ? 僧;法印、歌人、玉葉集2719(;千手経の心を詠)、  
[枯るる樹もまた花の咲く誓ひあれば我が身のならひ末も頼もし](玉葉;釈教2719)
- Q2466 仙舟(せんしゆう;法諱) ? - ? 江前期;上方の僧/歌人、  
1670下河辺長流[林葉累塵集]5首入、  
[春の日にあそぶ糸ゆふある物とめにはかかれど手にはかからず](林葉累塵;春122)、  
[武蔵の国に下りて住みけるにすみうくやありけんよめる、  
おき所わが身の露はなきものをたがため広きむさしの原](同集;雑1236)
- F2488 沾洲(せんしゆう・貴志きし) 1670- 1739 70 近江膳所の生?/1696には江戸の俳人;沾徳門、1704江戸西河岸橋南に住;立机/其角と交流、比喻体の俳諧(譬喩俳諧)を起こす、江戸俳壇を風靡;点者とし一大勢力、1704「のぼり鶴」05「橋南はしみなみ」07「箆えびら」編  
1707其角遺稿「類柑子」編、09「奇南篇」編、16風葉「江戸筏」序(;独吟歌仙入)、25「百千万」編、1726「白字録」30「曾我物語」35「友あぐら」37「親うぐいす」編/38「俳諧両吟集」、  
「としの市」点評、歳旦多数、息子沾永も俳人、  
[野のうへに短き富士やほととぎす](ふる琴集入)、  
[沾洲(;号)の別号]民丁(:初号)/橋南居/篁影堂/行軸齋ぎょうしゅうさい/五千叟/安叟、
- F2489 澶洲(せんしゆう・鈴木すずき/修姓;木、名;吉明/嘉章よしあき) 1715-76 62 江中期江戸の儒者・篠崎東海門、徂徠学に私淑、1771「漫画随筆」74「経史摘語」、「澶洲筆乗」「澶洲山人文集」「学庸彙考」、「経史成語解」「形容字考」「助語訣」「助語字訳文」「治道要解」「論語彙考」/「尺牘筌」編、  
[澶洲(;号)の字/通称/別号]字;煥卿/子煥、通称;嘉蔵、別号;澶洲山人
- F498 千秋(せんしゆう) ? - ? 江中期俳人、  
1754潘山(百子)「しぐれの碑」(;貞因[貞柳貞峨の父]25回忌・貞峨13回忌追善集)入、  
[初霜の置くもかたみや塚の草](しぐれの碑)
- M2446 千洲(せんしゆう・荒木あらき、名;一、元融男) ?-? 江後期の鑑定家;渡辺鶴洲門/父を継嗣;鑒画職、  
1851(嘉永4)「続長崎画人伝」著  
[千洲(;号)の字/別号]字;世方、別号;春潭
- 千秋(せんしゆう・山口) → 延年(えんねん・山口/余、篆刻/俳人) C 1 3 1 9  
千秋(せんしゆう・上杉) → 頼成(よりしげ・上杉/藤原、武将/歌人) I 4 7 7 1  
千秋(せんしゆう・三浦) → 葛山(かつざん・三浦みくら、藩士/儒者) N 1 5 3 5  
千秋(せんしゆう・頼) → 春水(しゅんすい・頼らい、儒者/藩儒/詩人) 2 1 6 0  
千秋(せんしゆう・横井) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1  
千秋(せんしゆう・大石) → 千秋(ちあき・大石おおい、国学/歌) B 2 8 0 1  
千秋(せんしゆう・太田) → 千秋(ちあき・太田おた、歌人) L 2 8 5 0  
千秋(せんしゆう・田所) → 千秋(ちあき・田所たどころ/三輪、藩士/歌) 2 8 0 0



千秋(せんしゅう・吉村) → 千秋(ちあき・吉村よしむら、国学者) 2833  
 千秋(せんしゅう・松田) → 千秋(ちあき・松田、歌人) 2834  
 千秋(せんしゅう・山原) → 千秋(ちあき・山原やまはら、俳人/国学) N2872  
 千秋(せんしゅう・丸川) → 松隠(しょういん・丸川まるかゝ、藩儒) F2219  
 千秋(せんしゅう・吉田) → 謙斎(けんさい・吉田よしだ、藩士/詩文) I1890  
 千秋(せんしゅう・大伴) → 千秋(ちあき・大伴おおとも/加藤/高師連、神職/国学) M2824  
 千秋(せんしゅう・佐藤) → 千秋(ちあき・佐藤さとう、国学/歌人) M2858  
 千秋(せんしゅう・菅野) → 千秋(ちあき・菅野すがの/菅原、藩士/国学/神職) M2870  
 千秋(せんしゅう・長島) → 千秋(ちあき・長島ながしま、歌人) N2822  
 千秋(せんしゅう・吉永) → 千秋(ちあき・吉永よしなが/藤原、神職/画) N2879  
 千舟(せんしゅう・小野) → 殷興(たかおき・小野おの、藩士/国学者) V2699  
 仙舟(せんしゅう;法諱) → 魚潜(ぎよせん;号・仙舟、浄土僧/俳人) P1677  
 泉秀(せんしゅう;字) → 立詮(りつせん;法諱・泉秀、真言僧/詩歌) C4909  
 泉州(せんしゅう・真木) → 保臣(やすおみ・真木まき、神職/勤王家) B4509  
 宣就(せんしゅう・岡本) → 宣就(のぶなり・岡本/熊井田、兵法家) C3558  
 宣秀(せんしゅう・中御門) → 宣秀(のぶひで・中御門、廷臣/故実/連歌) D3500  
 宣秋(せんしゅう・栗田) → 宣秋(のりあき・栗田くりた、神職/国学) E3523  
 宣秋(せんしゅう・吉田) → 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) K3535  
 扇洲(せんしゅう・品川) → 弥二郎(やじろう・品川しながわ、藩士/尊攘) F4510  
 蟾洲(せんしゅう・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩/画) Q2637  
 占秋(せんしゅう・寺山) → 吾鬢(あずら・寺山、藩士/歌人) E1048  
 宣充(せんじゅう/のぶみつ・恩田) → 蕙楼(けいろう・恩田おんだ、藩士/儒者) 1897

M2447 善修(ぜんしゅう;法諱) ? - ? 平安初期法相宗興福寺僧、  
 藤原浜成と問答:「唯識問答」、794(延暦13)比叡山根本中堂の本尊供養の導師を勤める  
 02434 善秀(ぜんしゅう;法諱・内記なき、法名;離塵) 1834-9360 飛騨大野郡の真宗大谷派の往還寺僧、画、  
 国学(古学)・歌;大橋長広門

全脩(ぜんしゅう・遠藤) → 千胤(ちたね・遠藤えんどう/平、歌人) M2817  
 禅秀(ぜんしゅう;法諱) → 北禅(ほくぜん;道号・禅秀;法諱、臨濟僧) D3959  
 善秀(ぜんしゅう;初法諱) → 景菰(けいし;法諱・蘭坡らんば、臨濟僧) 1864  
 善秀(ぜんしゅう・尾中) → 善秀(よしひで・尾中おなか、村長/国学) L4791  
 善従(ぜんじゅう・山本) → 鬼角(きかく・山本やまもと、里正/俳人) J1682  
 千秋庵(せんしゅうあん) → 三陀羅法師(さんだらほうし、狂歌) E2054  
 千秋庵(せんしゅうあん) → 清兵衛(せいべえ・靱山もみやま、農業/教育) J2458  
 宣秋庵(せんしゅうあん) → 信英(のぶひで・羽生はにゅう、藩士/歌人) J3564  
 泉重院(せんじゅういん) → 寿軒(じゅけん・八島やしま、修験僧/医者) Y2173  
 善住院(ぜんじゅういん;法号) → 尊信(そんしん;法諱、真言大覚寺門跡) F2557  
 染習園(せんしゅうえん) → 玄碩(げんせき・里村、連歌) C1846  
 千秋園(せんしゅうえん) → 陳令(のぶはる・野上、藩士/儒者) C3585  
 千秋館(せんしゅうかん) → 壺山(こざん・本多、忠如、藩主/詩人) G1960  
 千秋館(せんしゅうかん) → 泰州(やすくに・富田とみた/源、藩士/歌人) B4534  
 千秋館(せんしゅうかん) → 泰平(やすひら・山田やまだ、歌人) C4583  
 千秋斎(せんしゅうさい) → 儂叟(たんそう・清田、儒者) I2649  
 千秋斎(せんしゅうさい) → 高(たかし・都筑まつぎ、儒者/詩人) X2643  
 澶洲山人(せんしゅうさんじん) → 澶洲(せんしゅう・鈴木/木、儒者) F2489  
 占秋舎(せんしゅうしゃ) → 吾鬢(あずら・寺山、歌人) E1048  
 千秋亭(千秀亭せんしゅうてい) → 柏光(はくこう、俳人) D3606  
 千秋堂(せんしゅうどう) → 政常(まさつね・小本おもと/金田一、藩士/国学) O4022

N2442 千秋万歳(せんしゅうばんざい) ? - ? 狂歌、1787「才蔵集」入、  
 [花もはや再び咲かぬさくら炭半なかばたちてはいけるかひなし](才蔵集;516)、  
 (たつ;炭が灰になること/たつ・いけるは炭の縁語/活ける・生けるを掛る)

- 千秋楼(せんしゅうろう) → 敏成(としなり・吉田、国学/歌人) N 3 1 2 6  
 先十郎(せんじゅうろう・横田) → 俊孚(としざね・横田よこた、藩士/医者) M 3 1 5 5  
 善十郎(ぜんじゅうろう・平塚) → 飄斎(ひょうさい・平塚/平、幕臣/俳人) F 3 7 2 4  
 善十郎(ぜんじゅうろう・星) → 雪忠雅(ゆきちゅうが、歌人) E 4 6 8 8  
 善十郎(ぜんじゅうろう・荒木) → 如元(じよげん・荒木/一ノ瀬、洋風絵師) C 2 2 4 2  
 善十郎(ぜんじゅうろう・赤塚) → 美允(よしまさ・赤塚あかつか、和学) L 4 7 1 1  
 千樹園(せんじゅえん・田中) → 春回(しゅんかい・田中、儒者/詩人) Z 2 1 5 2  
 千尋園(せんじゅえん・泉) → 円(まどし・泉いずみ、商家/国学/歌) J 4 0 9 1
- 02486 千手王(せんじょう・仁和寺)?- ? 鎌倉期;仁和寺眞乗院の童/歌人、  
 1237刊[檜葉集]入;同院の童の薬師・松若と共に入集、  
 [仁和寺の眞乗院に歌よむ童あまた侍りけるがこの集にいらむとて歌ども送りけるを、  
 まさしき奈良のゆかりにあらではいりがたき由申して返したりければ、  
 たちかへりいはせける;(千手王・薬師・松若の歌)、  
 わきてやはならの都に限るべきいづこも同じやまことのは](檜葉;713/千手王)
- 全祝(ぜんしゅく;法諱) → 北高(ほこう;道号・全祝、曹洞僧) E 3 9 4 2
- F2491 泉壽軒(せんじゅけん) ? - ? 江中期安藝広島の雑俳点者、  
 1705「千石とをし」編(:福井文毛子刊)
- 仙寿斎(せんじゅさい) → 茂信(しげのぶ・木村きむら、藩士/国学) O 2 1 1 8  
 船樹山人(せんじゅさんじん) → 船樹(せんじゅ、神波かなみ、医者) M 2 4 4 3
- M2448 千首楼堅丸(せんしゅうろうかたまる、別号;屋職堅丸、姓;浜松はまつ)?-? 江戸神田藍染川北畔の狂歌作者、  
 神田側判者、1810(文化7)「狂歌千もとの草」1818(文政元)「狂歌紫のゆかり」編、  
 1824「狂歌千もとの華」、「狂歌枕草子春曙抄初篇」「美知乃久布理」編
- M2449 宣舜(せんしゆん;法諱) ? - ? 室町戦国期天台宗の僧;法印、真海に宗要を談ず、  
 1510(永正7)「宗要抄」、「仏土義第五重自受用所居」著
- 占春(せんしゆん・曾) → 槃(はん・曾そう/宋そう、本草/医者) H 3 6 1 5  
 千俊(せんしゆん・中原) → 千俊(ゆきとし・中原/山口、廷臣) F 4 6 0 6  
 千俊(せんしゆん・矢内) → 千俊(かずとし・矢内やない、国学/歌人) W 1 5 0 1  
 千春(せんしゆん;僧号) → 千春(ちはる・三芳野みよしの、亮貫、僧/神職/寺再興) N 2 8 5 9  
 千春(せんしゆん)訓はすべて → 千春(ちはる)
- 宣俊(せんしゆん・嶺田) → 楓江(ふうこう・嶺田/峰田、藩士/詩) 3 8 6 0  
 宣浚(宣濬せんしゆん・吉村) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2  
 詮春(せんしゆん・細川) → 詮春(あきはる・細川ほそかわ、守護/歌) I 1 0 9 3
- M2450 宣淳(せんじゆん;法諱) 1224 - ?1307以後没 鎌倉期の僧;法相僧?、1299「明矢石論」著
- 2433 専順(せんじゆん;号・春楊坊/柳本坊) 1411-76?66? 室町戦国期京六角堂頂法寺僧;同寺の執行/法眼、  
 1467応仁乱中;美濃守護代の斎藤妙春宅に寄寓;その地で戦乱の犠牲となる、専存の父、  
 華道家;美濃隠棲中に1472(文明4)瓶華を立華・砂の物・生花の三様に分ける、  
 連歌作者;師匠関係不詳;梵灯or宗御門?、宗祇の師/宗祇撰[竹林抄]の連歌七賢の1、  
 1467「専順五百句」著/作法書「片端」著/「専順百句附」「法眼専順句集」「専順独吟」著、  
 「専順独吟何袋百韻」「専順日発句」著、「玉蓮集」「百一蓮珠」編、一座加した連歌は多数;  
 初出;1443(嘉吉3)宗砌と一座「何木百韻」、1445「文安月千句」49「広柏千句」参加、  
 1464?盛長催「熊野千句」参、1472「美濃千句」参、76「表佐千句[十花千句]」第一発句、  
 新撰菟玖波集111句入集(宗砌に次ぐ多数)、  
 [こと葉の花ぞ松にかゝれる/春きては人の千年をいはふ日に](専順五百句)
- M2451 仙順(せんじゆん;法諱) ? - ? 1739存 天台宗比叡山妙音院の住僧、  
 1735(享保20)「神事能雑記」/1737「中御門院御中陰記」「中御門院御百ヶ日記」外著多数
- M2452 宣順(せんじゆん;法諱・号;木公山人) 1764-? 1830存 天台僧;1779(16歳)東叡山寛永寺入;  
 天台教学を修学、信濃飯田の木公草舎に住/晩年は信州諏訪白雲寺に退隠;没、  
 1799「台宗二百題私記」1830(天保元)「台宗小止観帳中記」著
- 宣順(せんじゆん・中御門) → 宣順(のぶより・中御門なかみかど、廷臣/日記) E 3 5 0 8  
 千楯(せんじゆん・城戸/蛭子屋) → 千楯(ちたて・城戸/大江、書肆/国学) 2 8 1 3

- 専順(せんじゆん;字) → 隆慶(りゅうけい;法諱、真言僧) D 4 9 4 5
- M2453 全春(ぜんしゆん;道号・祖英そえい;法諱) ?-? 江中期江戸麻布の曹洞宗長谷寺の住僧、  
1733「宗綱錦縫篇」著
- 善春(ぜんしゆん;法名) → 元雅(もとまさ・観世、観世3代目/能楽) 4 4 2 1
- 善淳(ぜんしゆん・芝田) → 善淳(よしあつ・芝田しばた、歌人) C 4 7 1 2
- 全順(ぜんしゆん;字) → 深覚(しんかく;法諱、全順、社僧;真言僧) N 2 2 6 9
- 浅春庵(せんしゆんあん) → 安良(やすよし・山口やまぐち、醸造業/国学) D 4 5 5 7
- 占春園(せんしゆんえん・一僊) → 一僊(いつせん・岩本いわもと、絵師) H 1 1 5 1
- 擅春園(せんしゆんえん) → 長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者) D 3 2 1 7
- 擅春斎(せんしゆんさい) → 長昭(ながあきら・市橋、藩主/儒者) D 3 2 1 7
- 先春堂(せんしゆんどう) → 慶寧(よしやす・前田まえだ/藤原、藩主/歌) H 4 7 8 5
- 泉処(せんしよ・山口) → 直毅(なおき・山口、幕臣/奉行) B 3 2 0 7
- 浅処(せんしよ・二斗庵) → 幸雄(ゆきお・二斗庵にとあん、洒落本作者) E 4 6 3 6
- G2404 仙女(せんじよ・杵屋きねや) ? - ? 江戸日本橋米沢町の長歌師匠、芸者?、狂歌、  
1783赤良「万載狂歌集」入、  
[から猫のみすぢの糸につながれて何の因果にばちあたる身ぞ](万載集;十五雑)  
(猫は芸者の異名、唐猫の皮で張った三味線の芸事の厳しき)
- 仙女(せんじよ・瀬川) → 菊之丞(3世きくのじよ・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9
- 仙女(せんじよ・津村) → 也柳(やりゅう・津村つむら、修験僧/俳人) B 4 5 9 2
- 扇女(せんじよ) → 扇女(おうぎじよ、俳人) 1 4 4 5
- F2493 禅助(ぜんじよ;法諱、真光院大僧正、中院[源]通成男) 1247-1330<sup>84</sup> 京の真言宗仁和寺真光院住僧、  
1259法眼/63権少僧都/権僧正/僧正/1293(永仁元)大僧正、1308(延慶元)東寺座主;初例、  
仁和寺・神護寺別当/後宇多院灌頂国師、母;藤原頼綱女、「拾要詮」「袈裟印」「伝流抄」著、  
1288「禅助大僧正記」著、1324後宇多法皇石清水社歌合/性助親王五十首歌参加、  
熊野十二首参加、閑月集・続現葉集入集、  
勅撰20首;続拾遺(589)新後撰(4首724/1223以下)玉葉(1080)続千(7首)続後拾(3首)以下、  
[せめてなど月見る夜半も身のほどの憂きはかずそふ涙落つらむ](続拾;雑秋589)
- 禅恕(ぜんじよ;法諱) → 提洲(ていしゅう;道号・禅恕、臨濟僧) B 3 0 0 8
- 全恕(ぜんじよ) → 東海(とうかい;道号・昌峻;法諱、臨濟僧) B 3 1 9 4
- 02485 宣性(せんしよ;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
歌人;1237刊[檜葉集]入、  
[百首の歌の中に、  
身にそへるしぐれに月のくもるかなしらぬ山ちをたれかおくらむ](檜葉;羈旅661)
- M2454 泉奘(せんしよ;法諱・寛順;字、今川義元2男) 1518-88<sup>71</sup> 駿河の律僧;唐招提寺の高範門;受戒、  
諸寺に遊学;戒律・密教に精通、京の泉涌寺住;正親町天皇に菩薩戒を授与、  
大和伝香寺を開山/のち唐招提寺管掌、泉涌寺に没、  
「南山北義見聞私記」「南山律宗教観名目私記」「南山教観名目楷釈」「分亡物法則拓山伝」著、  
[泉奘(;法諱)の号] 象耳しよじ
- F2494 僊松(せんしよ) ? - ? 江戸の蕉門俳人、1680「桃青門弟独吟二十歌仙」入
- F2495 仙嘯(僊嘯せんしよ;三雲みくも) 1769-1844<sup>76</sup> 代々京の医/篆刻;葛子琴門、高芙蓉に私淑、  
篆刻家として一家を成す/詩文に長ず/俳人/点茶を嗜む、「仙嘯楼印譜」著、  
1844「仙嘯老人快哉心事」編、  
[仙嘯(;号)の名/字/通称/別号]名;宗孝/孝、字;子孝、通称;中書、別号;仙嘯人、  
法号;僊嘯院
- M2455 仙承(せんしよ;法諱) ? - ? 江後期天台僧;弾正房門、法印/助僧都、  
1846「長音錫状目安私記」、「山燈集」「九条錫杖解」「引声口決」著
- M2456 宣正(せんしよ;法諱、俗姓;上原) 1814-79<sup>66</sup> 豊前下毛郡溝部の真宗本願寺派教順寺15世住職、  
宗学;豊前蓮光寺覚照門/月珠門;月珠没後に本山学林で宗乗・余乗を修学、  
青蓮院で俱舎・天台を修学/1862(文久2)教順寺入住、晩年;豊前宇島の乗桂校で教鞭、  
1875司教/没後1890勸学職を追贈、1854「摧破論」、「本典丁巳録」著

- Q2458 **宣正**(せんしょう・吉水よしみず、)1834-190976 越中富山の僧/近江栗太郡常盤村の西迎寺14世、  
 国学・歌人；[鴉のうみ]入、  
 [宣正(名)の法諱/号]法諱；暢阿、号；洗夢
- 02421 **専正**(せんしょう；法諱、名；正麿)1840-190869 京の六角堂頂法寺住職/華道；池坊42世、  
 歌学；拜郷蓮菴いん門、1872京都博覧会に門弟を伴い出瓶/77内国勸業博覧会に出品、  
 1879京都府女学校の華道教授/89東京に池坊出張所開設、正風体を制定「花の志雄理」刊、  
 「華かがみ」教科書シリーズ；自撰生花集「専正生花集」著、  
 [専正の号] 長春館柳外
- 宣昭(せんしょう) → 宣昭(のりあき・長谷川、幕臣/隨筆) E 3 5 2 2  
 宣昭(せんしょう・荒井) → 宣昭(のぶあき・荒井/大立目、藩士) 3 5 8 0  
 宣祥(せんしょう・長谷川) → 宣祥(のりよし・長谷川はせがわ、医者) J 3 5 5 7  
 宣将(せんしょう/のりまさ・岩間) → 清行(きよゆき・岩間いわま、藩士/歌人) T 1 6 5 5  
 詮勝(せんしょう) → 詮勝(あきかつ・間部まなべ、藩主、詩人) D 1 0 3 2  
 川象(せんしょう/かわのり・福田/藤原) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9  
 千生(千章せんしょう・為永) → 瓢長(ひょうちよう・為永ためなが、戯作者) F 3 7 3 4  
 千章(せんしょう) → 直条(なおえだ・木村、藩士/詩人) 3 2 7 8  
 千勝(せんしょう・石川) → 憲之(のりゆき・石川いしかわ、藩主/儒者) G 3 5 1 0  
 千松(せんしょう；号) → 信仲(信中しんちゆう；道号・明篤；法諱、臨濟僧) 2 2 6 1  
 千松(せんしょう・神馬) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1  
 千鍾(せんしょう・岡村/正住) → 弘美(こうび・正住しょうじゆ、絵師/茶道) B 1 9 8 6  
 先勝(せんしょう・伊藤) → 玄筋(げんせつ・伊藤いとう、藩医/儒者) K 1 8 5 5  
 先勝(先賞・先抄・洗抄せんしょう・清水) → 賞七(しょうしち・清水、歌舞伎作者) J 2 2 4 2  
 仙松(せんしょう・泉) → 円(まどし・泉いずみ、商家/国学/歌) J 4 0 9 1  
 僊松(仙松せんしょう・林) → 孚一(さねかず・林はやし/石井、商家/歌人) P 2 0 1 6  
 専章(せんしょう・斎藤) → 不言斎(ふげんさい・斎藤、日蓮僧) B 3 8 8 0
- F2497 **仙杖**(せんじょう・大久保おおくぼ、名；門治/通称；茂兵衛)?-1734 伊賀上野の蕉門俳人、  
 1694「炭俵」96「初蟬」98「続猿蓑」入/1700子珊「続別座敷」入、  
 [寒声かんごゑや山伏村の長つゝみ](続猿蓑；下/長堤での厳しい寒稽古)
- M2457 **専定**(せんじょう・池坊いけのぼる)1767-183266 京の頂法寺六角堂の僧、華道家；池坊の家元、  
 画；岸駒門/梅花に長ず、立華様式整備；池坊生花の礎、1797「瓶花容導集」編、  
 1804「百花式」08「生花百花式」/20「池坊花百観図」「挿花百規」、「家元生花百瓶図」著、  
 「いろは段付」「生坊立華直伝之集」「生之坊流挿花百規之図式」「生花定式」「瓶生図」外著多、  
 [専定(；号)の別号] 瓢庵/智春館
- I2466 **専常**(せんじょう；法諱) ? - ? 江後期；僧侶、  
 歌；1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [富士のねに有明の月の影消えて朝霧寒し武蔵野の原](大江戸倭歌集；冬1127/野外霜)
- 千丈(せんじょう・山本) → 千丈(ちたけ・山本やまと、狂歌作者) D 2 8 7 7  
 千丈(せんじょう・瀧廻本) → 瀧廻本千丈(たきのもとちたけ、幕臣/狂歌作者) N 2 6 8 9  
 千丈(せんじょう；道号) → 実巖(じつがん；法諱・千丈、曹洞僧) U 2 1 5 7  
 千丈(せんじょう・古山) → 千丈(ちたけ・古山こやま、藩士/国学/歌) M 2 8 4 9  
 宣条(せんじょう) → 宣条(のぶえだ・伏原ふしはら、博士/見聞記) 3 5 9 9  
 詮丈(せんじょう・屋代) → 弘賢(ひろかた・屋代やしる、幕臣/国学者) 3 7 1 5  
 沾城(せんじょう・内藤) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1
- G2400 **全性**(ぜんじょう；法諱) ? - ? 1184存 平安後期の僧；法師、歌人；1184平行盛と歌贈答、  
 言葉集入集、勅撰2首；玉葉(2317)風雅(2008)、  
 [ひとりのみ波間に宿る月を見て昔の友や面影に立つ](玉葉；雑2317/行盛に贈歌)、  
 (元暦元1184一ノ谷で経正・忠度没後に壇ノ浦に向かう行盛に贈る歌)、  
 (玉葉2318行盛返歌；もろともに見し世の人は波の上に面影浮ぶ月ぞ悲しき/1185入水)
- F2499 **禅性**(ぜんじょう；法諱、藤原公重男)?-? 鎌倉期仁和寺の真言僧；法師；釈迦院住/阿闍梨/法眼、  
 琵琶に長じ能筆家/歌人、1197守覚法親王下命「御室五十首」参加、万代・秋風集入集、

新古今集966、  
[初瀬山夕ゆふ越えくれて宿とへば三輪の檜原ひばらに秋風ぞ吹く]、  
(新古今; 羈旅966/長月に初瀬詣の道)、

[山おろしは檜原がうれに響ききて吹雪にまよふ三輪の杣人](御室五十首; 冬687)

M2458 禅昌(ぜんしょう; 法諱・号; 松梅院/徳松院/徳勝院、松梅院禅永男) 1571-1631 61 社僧; 北野天満祠官、  
1595(文祿4)豊臣秀次事件に叔母らが連座のため左遷; 丹波亀山に移住/; 赦免後復帰、  
1598(慶長3)三職(神事奉行・神殿大預・公文)補任、権大僧都/1607法印・別当職、禅意の父、  
1613松梅院を息子禅意に譲渡/徳松院を開創; 徳勝院と改称、秀吉・毛利輝元に古典書写、  
1589-1612(天正17-慶長17)「北野社家日記」著、連歌作者: 昌琢らと百韻多数、  
1603(慶長8)昌琢と「懐旧百韻」/10昌琢と「何人百韻」/17昌琢と「何人百韻」など多数、

G2401 全昌(ぜんしょう・藤とう) ? - ? 江中期水戸藩国学者: 万葉集注釈編纂事業参加、  
初め書写担当; 1716安藤為章没後編纂を担当、歌人、1733光圀「积万葉集」編、「积万紀原」著

M2459 全昌(ぜんしょう・本保ほんぼ) ? - ? 江後期加賀金沢藩士; 1856算用場奉行/62致仕、  
1852「御算用場御用番宅ニテ取捌拔萃」、[全昌(; 名)の通称]平太夫

全昌(ぜんしょう・富永) → 全昌(まさよし・富永、藩士/記録) D 4 0 2 0

全象(ぜんしょう) → 全象(ぜんぞう; 法諱、真宗本願寺派僧) M 2 4 8 5

善性(ぜんしょう) → 継成(けいじょう; 法諱、真宗僧) G 1 8 1 1

善章(ぜんしょう・岡田) → 善章(よしあきら・岡田おかだ/源、幕臣/歌) K 4 7 4 3

善韶(ぜんしょう・伊藤) → 東所(とうしょ・伊藤いとう、儒者/詩文) F 3 1 1 8

善韶(ぜんしょう・萩原) → 嵩嶽(すうがく・萩原はぎはら、儒者/講説) 2 3 9 7

善勝(ぜんしょう・法師) → 玄如(げんにょ; 法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8

善勝(ぜんしょう・水野/京極) → 高明((たかあきら・京極、幕臣/詩人) L 2 6 5 0

禅倡(ぜんしょう; 法諱) → 霖翁(りんおう; 道号・禅霈; 法諱、臨濟僧) K 4 9 0 2

M2460 善讓(ぜんじょう; 法諱・竜天; 字、俗姓; 松島、戒文男) 1806-86 81 豊前下毛郡蠣瀬の照雲寺の生、  
学問; 日田成宜園かんぎえんに修学/真宗本願寺派僧; 1827京で得度; 性海門/宗学を修得、  
1837(天保8)帰郷; 照雲寺11世住職、自坊に信昌閣創設; 子弟教育、1847安居監事、  
1859司教/62勸学、維新後; 大講義/権中教正、「建立章記」「巻頭讚筆記」「二卷鈔興殿記」、  
「妄尽還源観私記」「玄義分提耳」「序分義講録」「行信辨」「念猶存録」外著多数、得隣の兄、  
諡号; 勞謙院

栲城(せんじょう・川津) → 眞清(まさきよ・川津かわづ/萩原、神職/国学) P 4 0 0 3

禅定(ぜんじょう) → 公秀(きんひで・三条/正親町三条、歌) E 1 6 5 8

禅定(ぜんじょう; 字) → 定尊(じょうそん; 法諱・禅定、真言僧) K 2 2 6 8

善繩(ぜんじょう・春澄) → 善繩(よしただ・春澄はるすみ、漢学者/詩) E 4 7 2 1

善繩女(ぜんじょうのむすめ・春澄) → 善繩女(よしただのむすめ・春澄、後撰歌人) E 4 7 3 1

千松庵(せんしょうあん・一樹いちじゅ) → 一樹(いちじゅ・千松庵、華道/插花) G 1 1 2 3

千掌庵(せんしょうあん) → 千芴(せんれい・井上いのうえ、俳人) L 2 4 9 1

千松一(せんしょういち) → 千松一(せんまついち、勾当/歌人) N 2 4 9 1

禅昌院(ぜんしょういん) → 政国(まさくに・細川/源、武将/詩歌人) C 4 0 3 6

02491 禅定院壽王(ぜんじょういんのじゅおう)?-? 鎌倉期; 元興寺禅定院の童/歌人、  
1237刊[檜葉集]入、

[律師尊海 月次の歌よませ侍りけるに秋の夜の心をよみ侍りける、  
まどろまばいくたび夢をのこさましあけがたきよの独り寝のそこ](檜葉; 雑830)

02487 禅定院尊者(ぜんじょういんのそんじや)?-? 鎌倉期; 元興寺禅定院の童/歌人、  
1237刊[檜葉集]4首入、

[さほひめの柳のまゆのうすみどり花にかぎれる春の色かな](檜葉; 雑童690)

02492 禅定院得壽(ぜんじょういんのとくじゅ)?-? 鎌倉期; 元興寺禅定院の童/歌人、  
1237刊[檜葉集]入、

[雨後月といへることを、  
むらさめのはれゆくあとの月影にかたへかくれぬのべの白露](檜葉; 雑829)

G2402 先勝軒(せんしょうけん・清水しみず)?-? 江後期歌伎作者; 初世桜田治助門、

1855「若木仇名草わかぎのあだなくさ」玉屋玉助と合作

- 沾松軒(せんしょうけん) → 政樹(まさき・内藤、藩主/算学/俳) C 4 0 2 1  
善相公(ぜんしょうこう、一字姓;善) → 清行(きよゆき・三善みよし、廷臣/漢学) 1 6 4 9  
杣咲斎(せんしょうさい) → 紹完(しょうかん・木山きやま/源、社僧/連歌作者) H 2 2 8 2  
善勝寺大納言(ぜんしょうじだいながん) → 隆顕(たかあき・四条、廷臣/記録) L 2 6 4 1  
仙嘯人(せんしょうじん) → 仙嘯(僊嘯せんしょう・三雲みくも、篆刻家) F 2 4 9 5  
仙掌亭不崑(せんしょうていふこん) → 不崑(ふこん・仙掌亭、狂歌) B 3 8 9 2  
前松梅院(ぜんしょうばいいん) → 公意(こうい;法諱、天台僧/連歌) H 1 9 2 9  
千鐘房(せんしょうぼう、須原屋4世) → 恪斎(かくさい・北圃きたばたけ/北畠、書肆) J 1 5 8 2

M2462 禅勝房(ぜんしょうぼう;号) 1174- 125885 遠州の僧;初め蓮華寺で天台を修学、  
熊谷蓮生に会い念仏に帰す/蓮生の紹介で山城吉水の源空(法然)門;浄土念仏行者、  
のち蓮華寺に帰り念仏弘通に専念、「十問答因縁集」著

- 禅定坊(ぜんじょうぼう) → 桓守(かんしゅ;法諱、天台僧/歌人) D 1 5 8 8  
善勝法師(ぜんしょうぼうし) → 玄如(げんにょ;法諱、浄土僧/歌人) C 1 8 8 8  
扇松丸(せんしょうまる・伊達) → 宗紀(むねただ・伊達だて、藩主/築庭/歌) D 4 2 5 4  
宣松老人(せんしょうろうじん) → 董堂(とうどう・中井/井、商家/詩/狂歌) G 3 1 7 8  
蟾蜍園(せんじょえん) → 玉洲(ぎょくしゅう・岩井、商家/儒者) P 1 6 0 6  
剪燭斎(せんじよくさい) → 信富(のぶよし・安井、神職/詩/狂歌) D 3 5 9 4  
蟾如斎(せんじよさい) → 直弘(なおひろ・藤村、書画・俳諧) C 3 2 3 0  
仙女路考(せんじよろうこう、俳号) → 菊之丞(3世きくのじょう・瀬川、歌舞伎役者) 1 6 9 9  
仙四郎(せんじろう・堀田) → 正朝(まさとも・堀田ほつた、藩主/茶道) S 4 0 4 3  
専四郎(せんじろう・有田) → 竹声(ちくせい・有田ありた、歌人) L 2 8 9 8  
千二郎(せんじろう・三井/黒木) → 千之(ちゆき・黒木くろき、眼科医) H 2 8 0 3  
千次郎(せんじろう・江馬) → 笋荘(じゅんそう・江馬えま、蘭学/藩医) L 2 1 3 7  
千次郎(せんじろう・山岡) → 浚明(まつあけ・山岡/大伴、幕臣/国学) J 4 0 6 6  
千次郎(せんじろう・板倉) → 重寛(しげひろ・板倉いたくら、藩主/国学) N 2 1 3 7  
千次郎(せんじろう・尾張屋) → 園村竹(そののむらたけ、多田敏包、狂歌) E 2 5 1 7  
千次郎(せんじろう・酒井) → 忠器(ただかた・酒井さかい、藩主/歌人) U 2 6 9 8  
千次郎(せんじろう・小比賀) → 信近(のぶちか・小比賀おびが、神職) H 3 5 6 1  
千次郎(せんじろう・中野) → 徴雄(もとお・中野なかの、藩士/歌人) K 4 4 7 9  
仙次郎(せんじろう・上田) → 秋成(あきなり・上田うえだ、国学者/読本) 1 0 0 9  
仙次郎(先次郎せんじろう・横田) → 俊孚(としぎね・横田よこた、藩士/医者) M 3 1 5 5  
仙次郎(せんじろう・九鬼) → 隆国(たかくに・九鬼きき、藩主/歌) U 2 6 2 8  
仙次郎(銚次郎/千次郎せんじろう・小林/深川) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9  
泉次郎(せんじろう・吉村) → 春樹(はるき・吉村よしむら、国学/歌人) K 3 6 9 7  
専次郎(せんじろう・坂本) → 春樹(はるき・坂本さかもと、藩士/歌人) G 3 6 2 6

M2463 善四郎(ぜんしろう・栗山くりやま) ?-1839 江戸の料理人;浅草新鳥越の料理店「八百善」の主人、  
江戸随一の名店として繁昌;贅沢料理の逸話多数、俳諧・三味線を嗜む、  
1822-35「料理通」(;長崎で卓袱料理研究)/22「精進料理通」、「料理こんだてあわせ」著、  
[善四郎(;通称)の別通称/屋号]別通称;八百屋善四郎、屋号;福田屋/八百善やおぜん

- 善四郎(ぜんしろう・神屋) → 宗湛(そうたん・神屋/神谷/紙屋、商家/茶人) C 2 5 4 5  
善四郎(ぜんしろう・橋本) → 每延(まいえん・橋本はしもと、俳人) 4 0 0 0  
善四郎(ぜんしろう・長谷川) → 規一(きいち・長谷川はせがわ、和算家) J 1 6 5 7  
善四郎(ぜんしろう・村尾) → 元融(げんゆう・村尾、医/儒/国学者) D 1 8 1 7  
善四郎(ぜんしろう・一ノ瀬) → 如元(じよげん・荒木/一ノ瀬、洋風絵師) C 2 2 4 2  
善次郎(ぜんじろう・小笠原) → 長恒(ながつね・小笠原、幕臣/故実) E 3 2 5 3  
善次郎(ぜんじろう・荒木) → 半山(はんざん・荒木、俳人) 3 6 8 0  
善次郎(ぜんじろう・松本/池田) → 可候(かこう・一筆庵、溪斎英泉、絵師/戯作) 1 5 1 3  
善次郎(ぜんじろう・高畑) → 我泉(がせん・高畑、俳人) M 1 5 7 4  
善次郎(ぜんじろう・並木) → 五柳(ごりゅう・並木なみき、4世五瓶/歌舞伎作者) E 1 9 0 6

- 善次郎(ぜんじろう・水原) → 保明(やすあきら・水原/幸田、幕臣) 4 5 8 6  
 善次郎(ぜんじろう・丁字屋) → 知常(ともつね・大口おおくち、心学者) P 3 1 8 7  
 善次郎(ぜんじろう・青地) → 忠愛(ただよし・青地あおち、藩士/記録) R 2 6 2 9  
 善次郎(ぜんじろう・武居) → 世平(つぐひら・武居たけい、歌人/狂歌) 2 9 8 2  
 善次郎(ぜんじろう・片岡) → 維良(これよし・片岡かたおか/平尾、藩儒) Q 1 9 6 2  
 善次郎(ぜんじろう・竹内) → 重信(しげのぶ・竹内たけうち、和算家) S 2 1 0 1  
 善次郎(ぜんじろう・浅野) → 慶熾(よしてる・浅野あさの、藩主/書/歌) K 4 7 6 1  
 善次郎(ぜんじろう・村田) → 明哲(めいてつ・村田むらた、藩士/天文家) 4 3 2 8  
 善次郎(ぜんじろう・前野) → 謙夫(よしお・前野まえの、酒造業/国学) P 4 7 0 6  
 善二郎(ぜんじろう・岡田) → 南山(なんざん・岡田、儒者) J 3 2 0 8  
 善治郎(ぜんじろう・大畑) → 晴潔(はるきよ・大畑おおはた、藩士/国学者) G 3 6 3 0  
 善治郎(ぜんじろう・丁字屋) → 狙山(そざん;号、商家/俳人) J 2 5 7 7  
 善治郎(ぜんじろう・錦織) → 義晔(よしあき・錦織にしじり、商家/庄屋/日記) O 4 7 3 6
- 02481 瞻眞(せんしん;法諱) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人;1237刊[檜葉集]入、  
 [大般若経の三世仏母のむね、  
 あひがたきみよの仏のははきぎをありとみつるも契なりけり](檜葉;釈教564)
- M2464 仙心(せんしん;法諱) ? - ? 鎌倉期僧;法師/連歌;西園寺実氏家の連歌連衆、  
 菟玖波集1句入(;常磐井入道西園寺実氏[1194-1269]家の連歌に一座)、  
 [心のはてもなほ秋の風](菟玖波;雑1546/前句;世をいとふ芳野のやまの奥の庵)
- 02472 専心(せんしん;法諱) ? - ? 鎌倉期浄土僧;上人、興福寺再建勸進にも関与?、  
 歌人;1237[檜葉集]入、  
 [重実法師(興福寺僧/昌実男/浄土僧住蓮の従兄弟)が方の山荘滞在後帰りに障子に、  
 かへりなむ日かずのほどを思ふにもくるるはあきのをしきのみかは](檜葉;雑874)
- C2424 千岑(せんしん) ? - ? 江中期尼ヶ崎の俳人、  
 1714月尋「伊丹発句合」;四季発句入、  
 [杖はなす翁とはいへ帰り花](伊丹発句合;冬)
- M2465 先晋(せんしん;法諱・音長;字、俗姓;前島) 1772-1847 76 武州馬郷の真言僧;馬郷常勝寺で出家、  
 1790(19歳)智積院で修学/1841智積院35世、「諸法流目録」/1792「曼供誦経導師作法」著
- M2466 洗心(せんしん・黒崎くろさき、名;貞孝)?-? 江後期文化文政1804-30頃常陸大子村の儒者:  
 水戸の藤田幽谷門、郷里で楽山詩社を結社、1826(文政9)「常陸紀行」著、  
 [洗心(;号)の字/通称/別号]字;子順/至純、通称;五郎左衛門/藤右衛門、  
 別号;漱石そうせき/璞斎はくさい
- 02403 洗心(せんしん・大道おおみち、) 1813-1886 74 近江野洲郡守山駅の筆頭役人、  
 歌人;[鴉のうみ]入
- M2467 専滲(せんしん;法諱) ? - ? 江後期磐城相馬の僧、  
 天保1830-44頃「灌頂執行募縁牒指南」
- 詮信(せんしん・源/桃井) → 詮信(のりのぶ・桃井、歌人) F 3 5 3 9  
 詮真(せんしん・香阪/酒井) → 鶯蒲(おうほ・ほう・酒井さかい/香阪、僧/絵師) B 1 4 3 6  
 千心(せんしん;法諱) → 仁海(にんかい;法諱、雨僧正、真言僧) G 3 3 1 8  
 千森(せんしん・上杉) → 篤興(あつおき・上杉うえずぎ、庄屋/国学者) H 1 0 0 6  
 仙心(せんしん・越智おち/越えつ) → 高崧(こうすう・越智/修姓;越、眼科医) J 1 9 9 8  
 洗心(せんしん・奈良) → 松荘(しょうそう・奈良なら、詩歌人) K 2 2 5 6  
 専信(せんしん;法名) → 忠高(ただたか・九条/藤原、廷臣/日記) F 2 6 2 1  
 闡真(せんしん;法名・太梁院) → 治脩(はるなが・前田、藩主/日記) G 3 6 6 3  
 宣親(せんしん・中山) → 宣親(のぶちか・中山、廷臣/歌・連歌) B 3 5 9 5  
 宣真(せんしん;字) → 頼円(らいえん;法諱・宣真、真言学僧) 4 8 2 0  
 宣信(せんしん・堤) → 宣信(のりのぶ・堤つみ、医者/歌人) J 3 5 1 9  
 宣辰(せんしん・田井) → 宣辰(のぶとき・田井たい、庄屋/地震記録) K 3 5 4 2  
 川人(せんじん・滋岳) → 川人(かわひと・慈岳朝臣しげおかのあそみ、陰陽家) P 1 5 8 3

千仞(せんじん/ちひろ・岡) → 鹿門(ろくもん・岡おか、藩儒者/紀行) B 5 2 1 5  
 千仞(せんじん・岡部) → 盛賢(もりかた・岡部おかべ、和算家) F 4 4 3 1  
 千尋(せんじん・藤原/勝川) → 春章(初世しゅんしょう・勝川/勝宮川、絵師) J 2 1 9 4  
 千尋(せんじん・高松) → 千尋(ちひろ・高松たかまつ/高塚、神職/国学) M 2 8 8 0  
 千尋(せんじん・佐成) → 千尋(ちひろ・佐成さなり/藤原、藩士/歌) M 2 8 6 0  
 千尋(せんじん・石黒) → 千尋(ちひろ・石黒いしぐろ、藩士/国学者) F 2 8 2 3  
 千尋(せんじん・進藤) → 千尋(ちひろ・進藤しんどう、坊官/国学) F 2 8 2 6  
 千尋(せんじん・福島) → 千尋(ちひろ・福島ふくしま、歌人) L 2 8 5 1  
 千尋(せんじん・大井) → 山陽(さんよう・芝の屋、狂歌) G 2 0 0 9  
 千尋(せんじん・弓削/和田) → 巖足(伊豆足いざたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3  
 千尋(せんじん・岡部) → 千尋(ちひろ・岡部おかべ/狛こま、家老/歌) M 2 8 2 9  
 千尋(せんじん・木内) → 千尋(ちひろ・木内きうち、理髪業/歌人) M 2 8 3 8  
 千尋(せんじん・佐々木) → 千尋(ちひろ・佐々木ささき、藩士/歌人) M 2 8 5 7  
 千尋(せんじん・齋藤) → 千尋(ちひろ・齋藤さいとう、国学/歌人) M 2 8 6 4  
 千尋(せんじん・中井) → 千尋(ちひろ・中井なかい、国学者/歌人) N 2 8 1 1  
 千尋(せんじん・中川) → 千尋(ちひろ・中川なかがわ、藩士/国学) N 2 8 1 4  
 千尋(せんじん・水内) → 千尋(ちひろ・水内みずうち、国学者) N 2 8 6 1  
 儂人(せんじん・横山) → 儂人(たんじん・横山、儒者) I 2 6 4 0

G2405 全真(ぜんしん;法諱、二位僧都、藤原親隆男) 1151-? 母;平時信女、平清盛の猶子、天台僧、  
 法眼/権少僧都、比叡山に住/1185(文治元)壇ノ浦戦で捕虜;安藝国に配流;承仁親王の贈歌、  
 1189赦免;帰京、歌人:1171「全玄法印歌合」/72「法輪寺歌合」/1200(正治2)「若宮歌合」参加、  
 玉葉集2首;1131/2415、

[うらやましいかななる雁の春くればもとの越路に立ち帰るらん](玉葉;旅歌1131/配所)

G2408 善真(ぜんしん;法諱) ? - ? 鎌倉期法師、1236後鳥羽院判「遠島御歌合」右方入、  
 [さえ残る雪げの春の朝霞かすむ名のみやそらに立つらん](遠島歌合;八番右16)

G2407 禅心(ぜんしん;法諱) ? - ? 法師、禅休の父、歌人;1355(文和4)「経旨和歌」入、  
 勅撰3首;続千載(1477)続後拾遺(1200)新千載(760)、  
 [もろともにおもふが中のいかならんつらきだにこそ恋しかりけれ](続千;恋1477)

G2409 禅信(ぜんしん;法諱、義明;字、洞院満季or実信男) 1400-6768 室町期真言僧;1413出家、  
 1418禅守門;伝法灌頂を受/1420件僧正/東寺長者;以後5度長者、仁和寺真光院住、大僧正、  
 1434「三箇吉事並拜堂記」「禅信僧正拜堂并御影供記」、「真秘鈔伝授記」外著多数、  
 歌人;1446文安詩歌合参加、「宇治御百首」入、新続古今集1788、  
 [時雨つる外山の松の色よりもふらぬ雪げの雲ぞつれなさ](新続古;雑1788/待雪)

M2468 禅親(ぜんしん;法諱、梅松院;号、禅芸男) ?-? 室町期社僧;北野天満祠官/梅松院住、  
 1458「北野社家日記」著

全真(ぜんしん・鶴田) → 直好(なおよし・鶴田つるた/藤原、藩士/国学) N 3 2 9 2

禅信(ぜんしん;法名) → 俊平(としひら・源、鎌倉期歌人) N 3 1 5 6

善信(ぜんしん;法名/玉葉集入) → 康信(やすのぶ・三善みよし、明法家/問注所執事) 4 5 0 7

善信(ぜんしん・藤井;変名) → 親鸞(しんらん;法諱、浄土真宗祖) 2 2 3 0

善信(ぜんしん・大石) → 善信(よしのぶ・大石おおいし/源、国学/歌) L 4 7 9 2

善伸(ぜんしん・柴田) → 善伸(よしのぶ・柴田しばた、藩士/測量術) F 4 7 6 8

善真(ぜんしん・神馬) → 泰運(たいうん・神馬じんば、儒/医/俳人) J 2 6 1 1

善心(ぜんしん・宝蓮社) → 发興(きゅうこう;法諱、浄土僧) M 1 6 5 5

善臣(ぜんしん・谷森) → 善臣(よしおみ・谷森たにもり/平、国学者) C 4 7 4 2

02498 禅尋(ぜんじん;法諱、) ? - ? 南北期僧;法眼、

歌:1387浄阿5代奉納[隠岐高田明神百首]出詠、

[花はなほ秋はゆくともこの神に水をたむけん千代の白菊](高田明神歌;55暮秋菊)

全人(ぜんじん・中清) → 清旭(きよあき・中村、藩士/尊王派) N 1 6 0 4

善親院(ぜんしんいん) → 親子(ちかこ・戸田とだ/島津、藩主室/歌) N 2 8 0 2

専信院是海(せんしんいんぜかい) → 徹周(てっしゅう;法諱、真宗/時宗僧) C 3 0 4 2



- 千尋園(せんじんえん) → 円(まどか・泉/和泉いづみ、歌人) J 4 0 9 1
- G2410 鮮仁軒(せんじんけん、本名不祥)?-? 江中期洒落本、1757「遊客年々考」著
- 千仞居士(せんじんこじ) → 太華(たいか・福田、藩士/武術/絵師) B 2 6 0 9
- M2469 染心齋(せんしんさい、本名不祥)?-? 江戸後期歌人、1805「物名ものな和歌私抄」著
- 洗心子(せんしんし) → 玄恵(げんえ、天台僧//宋学/歌/連歌) 1 8 0 8
- 洗心舎(せんしんしゃ) → 維則(これのり・山田やまだ、藩士/儒者) O 1 9 7 2
- 千尋舎(せんじんしゃ→ちひろのや) → 正文(まさぶみ・田中/平、官人/歌人) H 4 0 2 6
- 洗心亭(せんしんてい) → 梅洲(ばいしゅう・高橋、藩士/儒/詩) B 3 6 4 7
- 洗心亭(せんしんてい) → 方純(まさずみ・森脇もりわき、藩士/歌人) T 4 0 2 7
- 洗心洞(せんしんどう) → 中齋(ちゅうさい・大塩平八郎、儒/義挙) G 2 8 0 7
- 洗心洞(せんしんどう) → 蘭齋(らんさい・立花たちばな、儒者) C 4 8 2 3
- 潜心堂(せんしんどう) → 時謹(ときざね・由良、藩士/暦算家) J 3 1 1 6
- 善身堂(ぜんしんどう) → 鵬齋(ほうさい・亀田、儒者/詩/教育) 3 9 5 4
- 専信房(せんしんぼう) → 光胤(こういん;法諱、法相学僧) H 1 9 3 4
- M2470 仙水(せんすい・桃井ももい、別号;梶苳斎ふしさい、2世山夕男)?-? 江中期江戸の俳人、  
1721/25/26/27/29/31/33各年「享保歳旦」編/1726「歌仙轉ル宿」評
- 千水(せんすい・熊坂) → 適山(てきざん・熊坂、藩士/絵師) B 3 0 9 4
- 千穂(せんすい・平山) → 季雄(すえお・平山ひらやま/藤原、藩士/絵師) J 2 3 0 6
- 仙水(せんすい・桃井) → 山夕(2世さんせき・桃井ももい、俳人) M 2 0 5 1
- 仙瑞(せんずい;道号) → 広光(こうこう;法諱・仙瑞、黄檗僧) I 1 9 7 3
- 善水(ぜんすい・瀬見) → 善水(よしみ・よしお・瀬見せみ、大庄屋/歌) H 4 7 2 8
- 禅瑞(ぜんずい;法諱) → 祥鳳(しょうほう;道号・禅瑞、臨濟僧) B 2 2 6 1
- 浅翠庵(浅水庵せんすいあん) → 花外(かがい・星野、俳人) B 1 5 1 8
- 浅水漁者(せんすいぎょしゃ) → 香塙(こうやう・進藤しんどう、僧/詩人) H 1 9 3 8
- 千穂舎(せんすいしゃ) → 応進(まさゆき・黒瀬くろせ/秦、国学者) I 4 0 3 2
- 沾数(扇数せんすう・久留島) → 義太(よしひろ・久留島くるとしま/村上、和算) G 4 7 5 9
- M2471 仙助(せんすけ;通称・中田なかた)?-? 江中期歌舞伎作者・京の民屋半之助座付、  
1729(享保14)「飾磨掲布染」榊山多門と共作
- M2472 専助(せんすけ・中嶋屋なかじまや)?-? 江中期阿波小松島の藍商、儒学修得、  
「肥後遊草」(;熊本滞在中の見聞記)
- G2411 専助(せんすけ・菅すが、姓;竹森) 1728?-79?52? 江中期京の医家の生/若きより浄瑠璃を愛好、  
大阪の浄瑠璃太夫:2世此太夫門、豊竹座及び北堀江市側の豊竹此吉座付専属太夫、作者、  
1767処女作「染模様そめもよう妹背門松」が大当り;以後豊竹此吉座の中心的作者、  
1773「摂州合邦辻がっぽうがつじ」76「桂川連理柵れんりのしがらみ」79「今盛恋緋桜このひざくら」など多数、  
1780京に隠退/のち経営悪化の豊竹此吉座の依頼で1789再び新作発表、  
1789「博多織恋鉤はかたおりこのおもに」(中村魚眼助作)、「花楓都模様はなもみぢみやこもよう」など4作、  
以後は消息不明/没年も不詳、  
[菅専助(;通称)の別称] 豊竹光太夫みつだゆう/竹本光太夫(;一時期)
- G2412 専助(初世せんすけ・笠縫かさぬい、俳人谷村田社男)?-? 江中後期江戸の歌舞伎作者・初治桜田助門、  
1781「昔男雪雛形」より立作者、江戸市村座・中村座・桐座・河原崎座で活動、のち頭取、  
1783「けいせい羅衣辻かたびらのつじ」84「曾我娘長者」85「男山娘源氏おとこやまふりそでげんじ」、  
1787「菊の草摺」95「八十八夜恨鮫鞘」「江戸桜娘道成寺」/98「太平記御貢船諷」外著多数、  
[初世笠縫専助(;号)の別号] 西川仙助/笠縫米富かさぬいのべいふ、俳名;米夫/田社(父名を嗣)、  
頭取名;百千万兵衛
- M2473 泉助(せんすけ・奈河ながわ) ?-? 江後期歌舞伎作者;1813(文化10)より上方舞台、  
京大阪の芝居で活動、1834(天保5)「色競九重錦」著
- M2474 仙助(専助せんすけ・松島まつしま)?-? 江後期歌舞伎作者;1857江戸中村座助作者、  
江戸諸座で3世桜田治助・3世瀬川如皐らの創作に協力、1846(弘化3)「青砥稿」著
- B2431 専助(3世せんすけ・笠縫かさぬい)?-? 歌舞伎作者、1861-2中村座作者
- 泉介(せんすけ・山本) → 昌蔭(まさかげ・山本やまと/源/中島、藩士/国学) O 4 0 8 9

仙助(せんすけ・西川) → 専助(初世せんすけ・笠縫、歌舞伎作) G 2 4 1 2  
 仙助(せんすけ・永田) → 寿稔(じゅねん・永田ながた、篆刻家) 2 1 7 7  
 仙助(せんすけ・菊池) → 武章(たけふみ・菊池きくち、儒者/国学) W 2 6 7 6  
 仙助(専助せんすけ・後藤) → 葛名(くずな・後藤ごとう、国学/歌人) E 1 7 1 6  
 仙助(専助せんすけ・安原) → 正條(正条まさえだ・安原やすはら/佐伯、国学/歌) T 4 0 3 5  
 仙輔(せんすけ・小串) → 重威(しげたけ・小串おぐし/大蔵、藩士/国学) N 2 1 6 3  
 専助(2世せんすけ・笠縫) → 段二(だんじ・松島まつしま、歌舞伎作者) I 2 6 2 6  
 専助(せんすけ・藤田) → 土岐双馬(とぎのそうば、狂歌) J 3 1 6 9  
 専助(せんすけ・栗田) → 樗堂(ちようどう・栗田/二畳庵、俳人) K 2 8 4 3  
 専助(せんすけ・西川) → 高煥(たかあき・西川にしかわ、藩士/国学) Y 2 6 8 3  
 専助(せんすけ・桐) → 友壽(ともよし・桐ゆずりは、神職/国学) W 3 1 8 9  
 千輔(せんすけ・杉浦) → 益(えき・杉浦すぎうら、漢学者) D 1 3 5 9  
 千助(せんすけ・池田) → 貞雄(さだお・池田いけだ、幕臣) H 2 0 7 8  
 千助(せんすけ・小川) → 月曆(つきまる・喜多川きたがわ、絵師) 2 9 5 9  
 千助(千輔せんすけ・杉浦) → 止斎(しさい・杉浦/平、藩士/心学者) T 2 1 4 6  
 千助(せんすけ・西村) → 遠里(とのおさと・西村にしむら、商家/暦算家) I 3 1 5 9  
 扇助(せんすけ・重かさね; 役者) → 由輔(2世ゆうすけ・金井かない、歌舞伎作者) C 4 6 8 6  
 僊助(せんすけ・小野) → 湖山(こざん・小野/横山、詩人) C 1 9 6 9  
 遷甫(せんすけ・菊池) → 梅軒(ばいけん・菊池きくち、藩儒者) B 3 6 1 1  
 遷介(せんすけ・杜) → 遷介(せんかい・杜、漢学者/狂文) G 2 4 1 3

G2415 善助(ぜんすけ・寺田てらだ) ? - ? 歌謡; 大坂系上方歌(; 地歌) の伝承者、  
 1767(明和4)「琴曲大成糸のしらべ」編(柏原屋与左衛門板)

善助(ぜんすけ・大河内) → 秀元(ひでもと・大河内おおごうち、武将/記録) D 3 7 9 7  
 善助(ぜんすけ・菅井) → 梅関(ばいかん・菅井すがい、絵師) 3 6 9 0  
 善助(ぜんすけ・天川) → 友春(ともはる・天川/赤松、酒造業/歌) Q 3 1 2 9  
 善助(ぜんすけ・牧) → 百峰(ひやくほう・牧まき、儒者) E 3 7 7 8  
 善助(ぜんすけ・大塚) → 稼圃(かほ・大塚おおつか、儒者) P 1 5 3 2  
 善助(ぜんすけ・冢田) → 旭嶺(ぎよくれい・冢田つかだ、医/儒者) P 1 6 4 4  
 善助(ぜんすけ・小原) → 大丈軒(だいじょうけん・小原おはら/伴、儒者) B 2 6 6 3  
 善助(ぜんすけ・西岡) → 天津(てんしん・西岡にしおか、儒者) D 3 0 8 9  
 善助(ぜんすけ・古森) → 省吾(しょうご・古森こもり、俳人) I 2 2 7 0  
 善助(ぜんすけ・奈良屋) → 思明(しめい・寺田/田、書肆/音曲関係) V 2 1 8 0  
 善助(ぜんすけ・扇屋/平野屋) → 蝶酔(ちようすい・平山、商家/俳人) J 2 8 0 8  
 善助(ぜんすけ・山本/中沢) → 東臯(とうこう・中沢/山本、儒者) D 3 1 9 5  
 善助(ぜんすけ・北浦) → 定政(さだまさ・北浦、藩士/陵墓測量) J 2 0 7 3  
 善助(ぜんすけ・市原) → 政寛(まさひろ・市原いちばら、絵師) H 4 0 0 0  
 善助(ぜんすけ・赤塚) → 美允(よしまさ・赤塚あかつか、和学) L 4 7 1 1  
 善助(ぜんすけ・高橋) → 善慶(ぜんけい・高橋たかはし、商家/歌人) O 2 4 0 5  
 善助(ぜんすけ・島崎) → 春景(はるかげ・島崎しまざき、国学/歌人) K 3 6 2 5  
 善介(ぜんすけ・小野田) → 雪貢(せつこう・小野田、町吏/俳人) K 2 4 8 9  
 善佐(ぜんすけ・古森) → 痴雲(ちうん・古森こもり、書家/俳人) 2 8 4 1  
 善祐(ぜんすけ・中野) → 素堂(そどう・中野なかの、儒者) E 2 5 1 1  
 善甫(ぜんすけ・菊池) → 梅軒(ばいけん・菊池きくち、藩儒者) B 3 6 1 1  
 善輔(ぜんすけ・星野) → 文良(ぶんりょう・星野ほしの、藩抱絵師) G 3 8 7 5  
 宣是(せんぜ; 字) → 日蓮(にちうん; 法諱、日蓮僧) 3 3 5 2

G2417 千盛(せんせい・三枝さえぐさ/本姓; 平) ?-? 戦国期廷臣; 連歌作者、  
 1470教具催「北畠家連歌合」参加、  
 [花の春月の秋をも過ぎし来て  
 いつの時にか我はとはれむ] (北畠家連歌合; 恋百四十三番右、左は藤原季理すえまさ)

N2483 千清(せんせい・富田とみた) ? - ? 江後期; 歌人、

1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、

[棚ばたにかすべきものもなき宿の軒端にかけよささがにの糸]、  
(大江戸倭歌;秋711/七夕)

瞻西(せんせい;法諱)	→	瞻西(せんさい・せんせい;法諱、天台僧/歌人)	G 2 4 1 6
浅生(せんせい)	→	野坡(やは・志太、俳人)	4 5 1 2
千生(せんせい・谷)	→	千生(ちなり・谷たに、語学者)	F 2 8 1 1
千声(せんせい・加藤)	→	雀庵(じゃくあん・加藤/田中/加田、俳/随筆)	G 2 1 0 5
泉声(せんせい・塩川)	→	文麟(ぶんりん・塩川、絵師)	G 3 8 7 9
仙省(せんせい・町田)	→	亙(わたる・町田まちだ、藩士/歌人)	5 3 8 9
宣性(せんせい;法諱)	→	宣性(せんしょう;法諱、僧/歌人)	O 2 4 8 5
宣清(せんせい・花輪)	→	伝兵衛(でんべえ・花輪はなわ清宣、和算家)	E 3 0 2 2
宣清(せんせい・中井)	→	宣清(のぶきよ・中井なかい、歌人)	J 3 5 3 3
宣正(せんせい;法諱)	→	宣正(せんしょう;法諱、真宗本願寺派僧)	M 2 4 5 6
宣正(せんせい・吉水)	→	宣正(せんしょう・吉水よしみず、僧/歌人)	Q 2 4 5 8
宣政(せんせい・今井)	→	宣政(のぶまさ・今井いまい、医者/歌人)	H 3 5 4 1
詮政(せんせい・長沼)	→	詮政(あきまさ・長沼ながぬま、和算家)	D 1 0 8 9

M2475 **禅盛**(ぜんせい;法諱・密乗院)?- ? 京の社僧;北野天満宮祠官/密乗院住、連歌作者、  
松梅院禅能の弟、松梅院禅予の実父説あり、法印/1462松梅院主が相続する御師職に就任、  
1465禅予がその職を継嗣、1462「寛政三年正月二十五日禅盛能阿何人百韻」興行

J2429 **善静**(ぜんせい;法諱) ? - ? 江後期;僧/歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[足引のゆふ山かげの呼子鳥よべど帰らぬ春にも有るかな](大江戸倭歌;春369/暮春鳥)

全成(ぜんせい・和気)	→	全成(みななり・みなしげ・和気わけ、医官/歌)	H 4 1 2 7
全性(ぜんせい;法諱)	→	全性(ぜんしょう;法諱、僧/歌人)	G 2 4 0 0
禅性(ぜんせい;法諱)	→	禅性(ぜんしょう、藤原公重男、歌人)	F 2 4 9 9
善性(ぜんせい→ぜんしょう)	→	継成(けいじょう;法諱、真宗僧)	G 1 8 1 1
善成(ぜんせい・四辻)	→	善成(よしなり・四辻よつじ/源、左大臣/歌学)	4 7 2 1
善成(ぜんせい/よしなり・菅原)	→	源八(げんぱち・菅原すがわら、村役/救民/俳人)	M 1 8 1 5
善成(ぜんせい/よしなり・浅井)	→	玄香(げんこう・浅井あさい、藩士/詩)	I 1 8 7 5
善世(ぜんせい・太田)	→	玄九(げんきゅう・太田おた、儒者/漢学)	I 1 8 4 5
善正(ぜんせい・中島/田中)	→	芳洲(ほうしゅう・田中/中島、医者/和算)	B 3 9 4 1
善清(ぜんせい・大森)	→	善清(よしきよ・大森おおもり、絵師)	D 4 7 1 7
善誠(ぜんせい・青山)	→	清友(きよとも・青木あおき、俳人)	P 1 6 9 9
善政(ぜんせい/よしまさ・荻戸)	→	太華(たいか・荻戸のぞき、藩士/藩改革)	B 2 6 0 7
善政(ぜんせい・駒井)	→	善政(よしまさ・駒井こまい、医者/郷土史)	H 4 7 0 6
善政(ぜんせい・堀家)	→	善政(よしまさ・堀家ほりけ、神職/国学)	P 4 7 0 1
善政(ぜんせい・村松)	→	善政(よしまさ・村松むらまつ、神職/国学)	P 4 7 5 6
泉井園(せんせいえん)	→	且松(たんしょう・碓井/臼井うすい、俳人)	I 2 6 8 5
千世園(せんせいえん)	→	菅雄(すけお・須賀雄すけお・服部/富田、国学/歌)	B 2 3 6 1
銭井斎(せんせいさい・箕輪)	→	蕃昌(しげまさ・箕輪みのわ、天文家)	S 2 1 6 2
繕生室(ぜんせいしつ)	→	甫周(ほしゅう・桂川/4世、幕府蘭医)	E 3 9 2 2
鮮星堂(せんせいどう)	→	五礼(ごらい・二宮、眼科医/俳人)	O 1 9 1 2

G2418 **宣政門院**(せんせいもんいん・権子内親王、後醍醐天皇皇女)1315-6248 母;後京極院藤原禧子、  
1319内親王/一品/30伊勢斎宮に卜定/31准三宮/斎宮退下、1333光厳天皇の妃、  
1335院号宣下/40出家、歌;新千載(5首1432/1475/1746/1842/1896)、新葉2首(1280/1289)、  
[人はなほこれぞこの世の別れとも知らず契りし程のはかなさ](新千;恋1432)

N2461 **川石**(せんせき) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入、  
[美女を妻妾めかけな置きそお乳ちの人](千代見草/乳母が奥方の味方になって殿を諫める)

G2419 **沾石**(せんせき、初号;九阜きゅうこう)?-? 江中期江戸の俳人;沾徳門、1712「耕作」編;改名、  
1716宗瑞「江戸筏」地巻第六独吟歌仙入;[されば空千鳥巻まきたて藪の声](発句)、

(朝嵐が川辺の千鳥を巻き立て藪を騒がせる/「されば空」は明るくなりの略)

- M2476 **荃石**(せんせき・鈴鹿すずか、知石男) 1713-42早世<sup>30</sup> 京の俳人・父知石門、  
「俳諧雪形見」著/1742(寛保2)「千里雪」編、松本百花の師、  
[荃石(;号)の別号]初号;知丸、別号;寸松堂
- M2477 **穿石**(せんせき・沢井さかい、名;居敬)?-1779 大阪の書家:幼時より関山恭庵門、  
師没後その門人を指導、佐々木専念志頭磨家より磁印を伝承;1773佐々木志頭磨を称す、  
晩年は中風のため右手麻痺;左手で書を伝える、1756「草書一行句選」編、「心画談」著、  
[穿石(;号)の字/通称/別号]字;主一/史頭、通称;十蔵/佐々木志頭磨[志津磨]、  
別号;松竹堂
- M2478 **泉石**(せんせき・鷹見たかみ、名;忠常ただつね、忠徳男) 1785-1858<sup>74</sup> 下総古河藩士;江戸詰め小姓、  
目付/用人、1831家老/藩主土井利位の大坂城代に随従/1837大塩平八郎の乱鎮圧に当る、  
和・蘭学に通ず、蘭学;幼時に藩医河口信任門/20歳頃より大槻玄沢門、  
杉田玄白・箕作阮甫・桂川甫賢・渡辺華山らと交流、1846故あり蟄居;泉石と号し学問専念、  
1805-57「鷹見泉石日記」、「和蘭国全図」「和蘭世代譜」「ローマ字百人一首」、  
「ロシアの語集」「蝦夷北蝦夷地図」「日光駅路里数之表」「天象図」「愚意」著、  
[泉石(;号)の字/通称/別号]字;伯直、通称;又蔵/十郎左衛門、  
別号;楓所/泰西堂/可琴軒/Jan Hendorik Daper(ヤン=ヘントリック=タッペル)、法号;忠宣院
- 泉石(せんせき・三宅) → 石庵(せきあん・三宅みやけ、儒者/詩/俳人) D 2 4 3 1  
泉石(せんせき・青木) → 金山(きんざん・青木あおき、儒者) R 1 6 0 8  
船石(せんせき・小国) → 玉淵(ぎよくえん・小国、儒者) I 1 6 8 3  
泉石庵(せんせきあん) → 黙隠(もくいん:法諱・佚山、書/曹洞僧) 4 4 6 7  
苦夕庵(せんせきあん) → 従門(よりかど・筑紫/藤原、幕臣/神道) I 4 7 5 3  
染跡園(せんせきえん) → 雪成(せつせい・ゆきなり、露竹舎、俳人) E 2 4 4 6  
泉石軒(せんせきけん) → 磐海(ばんかい・小山、盆石) H 3 6 3 3  
泉石田舎(せんせきでんしゃ) → 行虎(みちたけ・加藤/柴田、医者/歌人) B 4 1 7 4
- G2420 **扇雪**(せんせつ・吉野よし) ? - ? 江前期俳人、1678西鶴「物種集」入、  
1686仙化「蛙合」1句/88不卜「続の原」3句入、  
1691琴風「瓜作」歌仙入、  
[道閉ちて五加うごぎに昼の念仏ねぶつかな](続の原;8/繁るうごぎの生垣の庵中から念仏)
- G2421 **洗雪**(せんせつ) ? - ? 江中期俳人、1763涼袋「古今俳諧明題集」34句入  
千拙(せんせつ;号) → 万安(ばんあん;道号・英種;法諱、曹洞僧) H 3 6 1 8
- G2422 **善節**(ぜんせつ・ぜんせち;法諱)? - ? 1421存 僧;法師、歌人:1414(応永21)頓証寺法楽百首入、  
1415「詠法華経和歌」参加/1421(応永28)「細川満元家月次始」参加、  
新続古今集2首(1061;寄草恋・1686;樹陰納涼)、  
[波かかる袖となみせそいそ山のいはもとすげのねにはたつとも](新続古;恋1061)
- M2479 **全節**(ぜんせつ・吉川よしかわ、名;剛、吉川縫殿林久男)?-? 常陸鹿島神宮祠官家の生/天浦・大節の弟、  
儒者:常陸潮来の宮本茶村門/のち江戸昌平覺に修学、  
1865(慶応元)「府朝事略」著、「大日本史蒙求」著、  
[全節(;字)の通称] 久勁/勁
- 扇折女(せんせつじょ) → 妙智尼(みょうちに;法号、稻垣諏訪子/歌人) G 4 1 5 8  
前撰政(ぜんせつしょう〜) → 前撰政(さきのせつしょう〜)
- G2424 **千川**(せんせん・岡田おかだ、宮崎荊口2男)?-1706(30余歳) 岡田家の養子/美濃大垣藩士、俳人;芭蕉門、  
此筋しきの弟/文鳥の兄、1691路通「俳諧勸進牒」入、1694「炭俵」1句/98「続猿蓑」3句入、  
1700杉風「冬かつら」09吟墨「既望いざよい」入、  
[麦の穂と共にそよぐや筑波山つくばやま](炭俵;上)  
[千川(;号)の通称] 治左衛門、
- N2466 **筈船**(せんせん) ? - ? 俳人;1703不角「広原海わたつみ」入、  
[無筆でも事済む曾我の納戸役などやく](広原海/曾我兄弟は赤貧ゆえ出納帳は無記入)
- N2459 **千泉**(せんせん) ? - ? 江中期京の俳人;1729隆志「俳諧草結」2句入(208/243)  
[夕立や互にかはく水の花](草結;208/水の花は睡蓮/立上り乾いていく遅速の様子)

- 千々(せんせん、千前軒奚疑、俳号)→ 出雲(いづも・初世竹田、浄作者) 1 1 9 8  
千川(せんせん・高橋) → 千川(ちかわ・高橋たかはし、国学/神職) M 2 8 7 8  
千扇(せんせん・加藤) → 泰温(やすあつ・加藤かとう、藩主/国学) F 4 5 6 5  
千箭(せんせん・黒田) → 千箭(ちや・黒田くろだ、藩士/国学/歌) M 2 8 4 7  
泉々(せんせん・中山) → 胡民(こみん・中山、蒔絵師/茶湯/俳) N 1 9 7 4
- M2480 前川(ぜんせん・津田つた) ? - ? 美濃大垣藩士;江戸詰、俳人;芭蕉門、  
1689細道旅を終えた芭蕉を迎え大垣で曾良・路通と歌仙/1698「続猿蓑」1句入、  
[はつ春や年は若狭の白比丘尼しろびくに](続猿蓑;下/  
巡り来る春は人魚の肉を食し八百歳の長寿の比丘尼と同じ永遠)
- 冉仙(ぜんせん・山田) → 梅東(ばいとう・山田やまだ/清水/源、神職/儒詩) B 3 6 8 7
- M2481 然々(ぜんぜん・太田おた、通称;三兵衛、別号;応齋)?-? 幕末期安政1854-60頃江戸の俳人、  
1861「寿觴集」
- 全善(ぜんぜん/かねよし・渋江)→ 拙齋(ちゆうさい・渋江、医/儒者) G 2 8 0 9  
浅泉居(せんせんきょ) → 甘交(かんこう・芝/司馬しば、戯作者) D 1 5 6 3  
千前軒(せんぜんけん・奚疑)→ 出雲(初世いずも・竹田、浄瑠璃作者) 1 1 9 8  
千前軒(せんぜんけん) → 出雲(2世いずも・竹田、浄瑠璃作者) 1 1 1 2  
千々齋(せんせんさい・門田)→ 樸齋(朴齋ぼくさい・門田もんでん/山手、儒者) D 3 9 1 6  
漸々舎(ぜんぜんしゃ) → 巴十(はじゅう・漸々舎、俳人) E 3 6 4 7  
千々巢(せんせんそう) → 木子(ぼくし・斉藤、秋田の俳人) F 3 9 8 9  
扇川堂(せんせんだう) → 東藤(とうとう・穂積、俳人) G 3 1 7 2  
専々道人(せんせんだうじん) → 海音(かいおん;法諱、真宗僧) I 1 5 4 5
- G2426 仙鼠(せんそ・吉川、名;正芳、来椒堂、野田の成方しげかた[巢飲叟鶴鼠りょうそ]3男)?-? 吉川正容の養子、  
江中期の俳人、1753成方「裏見寒話」編;  
実父成方が甲府勤番中1724-53(享保9-宝暦3)甲斐で見聞した事象記事を整理し刊行
- 仙鼠(せんそ・益戸) → 滄洲(そうしゅう・益戸ますこ、藩士/儒/詩) H 2 5 7 7  
仙鼠(せんそ・長尾) → 元門(もとかど・三輪/長尾、藩老/兵学) C 4 4 4 0
- M2482 蟬鼠(ぜんそ) ? - ? 近江膳所の俳人;1691「猿蓑」1句入、  
[梅が香や酒のかよひのあたらしき](猿蓑;四/かよひは掛売の控帳/心機一新の春)
- 禅祚(ぜんそ;法諱・天啓)→ 天啓(てんけい;道号・禅祚、臨濟僧) D 3 0 4 0
- B2462 宣僧(せんそう;法諱) ? - ? 戦国期;沙門(出家僧)、歌人、  
1563(永禄6)「十五夜三首歌合(永禄歌合)」参加、  
[影更けて月も夜寒の山の端に落ちくる雁の声のさやけさ](永禄歌合;月前雁十七番左)
- H2400 宣相(せんそう/のぶすけ?・樹木うえき)?-? 撰津狂歌作者、1666行風「古今夷曲集」3首入  
[巖いただきに尾にまた雪のむらぎえは駁毛ぶげのやうな生駒山哉](古今夷曲集;一春歌)  
(駁毛は斑のある馬の毛色)
- B2419 詮叟(せんそう;道号・宗註そうちゆう;法諱、号;幻々居)1737-9054 近江の臨濟僧;京大徳寺巨海宗如門、  
;嗣法、1786大徳寺400世、大仙門下三玄派、寸松庵に住、「仏祖伝法正宗贊」著
- G2427 川荘(せんそう・保岡やすおか、名;正令、嶺南いなん長男)1818-8366 儒者;昌平黌に修学/のち藤森弘庵門、  
武蔵川越藩講学所教授/侍講/督学/参政、1867上野前橋藩博諭堂督学/少参事、  
「日本外史前編」編、高吉(鳳鳴)の父、  
[川荘(;号)の字/通称/別号]字;正卿、通称;正太郎、別号;眠軒
- 宣相(せんそう・船橋) → 経賢(つねかた・船橋ふなはし、廷臣/故実) B 2 9 9 2  
宣宗(せんそう・井上) → 岡坊(こうぼう・井上いのうえ、儒者/詩人) L 1 9 2 6  
潜叟(せんそう) → 筋庵(せつあん・宮原) E 2 4 0 3  
潜叟(せんそう・中島) → 雪楼(せつろう・中島なかじま、藩儒/詩人) E 2 4 7 2  
潜叟(せんそう・宮原) → 筋庵(せつあん・宮原/渡橋、儒者/詩) E 2 4 0 3  
潜窓(せんそう・三森) → 幹雄(みきお・三森みつもり、俳人) 4 1 6 8  
川叟(せんそう) → 川柳(せんにゅう・柄井) 2 4 3 9  
川僧(せんそう;道号) → 慧済(えさい;法諱・川僧、曹洞僧) D 1 3 9 2  
千倉(せんそう・山崎) → 久章(ひさふみ・山崎/弓削、神職/国学) B 3 7 8 8

- 沾窓(せんそう) → 来道(らいどう、俳人) 4 8 8 8
- 仙叟(せんそう・千) → 宗室(初世そうしつ・千せん、茶人;裏千家) B 2 5 7 3
- 仙叟(せんそう・紫碧) → 東溟(とうめい・林、儒/詩) H 3 1 3 6
- 仙巢(せんそう;号) → 景轍(けいてつ・玄蘇、臨濟僧、朝鮮外交) G 1 8 4 0
- 仙巢(せんそう) → 虞山(愚山ぐざん・加藤、藩士/地誌/歌) B 1 7 3 6
- 専宗(せんそう) → 空莫(くうばく;法諱、真言僧) C 1 7 3 0
- G2428 扇蔵(せんそう・西川にしかわ) ? - 1817 歌舞伎所作事(舞踊)の振付師
- M2483 千蔵(せんそう・井後いご) ? - ? 江後期文化文政1804-30頃阿波徳島の医者、  
儒学;江戸の古賀精里門/医学;阿波勝瑞しょうずいの橘元景もとかげ門/徳島で医開業、  
「種徳庵累聚方函」著
- 02457 泉三(せんそう・山中やまなか) 1821-1899 79 周防佐波郡の国学者、山中函蔵と同族?
- 千蔵(せんそう・天沼/伊藤) → 恒庵(こうあん・天沼あまぬま/伊藤、儒/書) E 1 9 8 5
- 千蔵(せんそう・下郷) → 亀洞(きどう・千代倉/下郷、学海、醸酒/俳人) B 1 6 5 7
- 千蔵(せんそう・頼) → 養堂(ようどう・頼らい、儒者/詩文) 4 7 0 7
- 千蔵(せんそう・永田) → 蘿道(らどう・永田ながた、俳人/琴) B 4 8 4 9
- 千蔵(宣蔵せんそう・吉田) → 茂木(茂樹/茂本しげき・吉田よしだ/大林、国学) a 2 1 0 8
- 泉蔵(せんそう・小野/桜本) → 招月(しょうげつ・小野おの、農業/詩文) M 2 1 2 4
- 泉蔵(せんそう・大田) → 秀延(ひでのぶ・大田、歌人) 3 7 3 9
- 泉蔵(せんそう・出水いづみ;変名) → 宗則(むねのり・寺島/松木/長野、洋学/外交) C 4 2 2 3
- 専蔵(千蔵せんそう・菊池) → 南陽(なんよう・菊池さくち、儒者) 3 2 4 4
- 専蔵(せんそう・志村/古屋) → 峰城(ほうじょう・古屋/伴、儒/書家) F 3 9 7 6
- 専蔵(せんそう・川島) → 栗斎(りつさい・川島かわしま、儒者) B 4 9 9 0
- 専蔵(せんそう・栗田) → 樗堂(ちようどう・栗田くりた、酒造業/俳人) K 2 8 4 3
- 専三(せんそう・山崎) → 九臯(きゆうこう・山崎まさき、医者/儒) M 1 6 5 1
- 専三(せんそう・山崎) → 菜茹(さいじよ・山崎、九臯養子/医者) G 2 0 7 4
- 仙三(せんそう・薮屋) → 関牛(かんぎゅう・薮しとみ、関月男/絵師) G 1 5 2 0
- 仙蔵(せんそう・山本) → 日下(にっか・山本、儒者) D 3 3 7 4
- 仙蔵(せんそう・山本) → 澹斎(たんさい・山本/福富、医/儒者/詩) I 2 6 1 7
- 仙蔵(せんそう・成島) → 和鼎(かずかね・成島・秦、幕臣/儒/歌) C 1 5 1 7
- 仙蔵(せんそう・平山/平) → 千里(せんり・平山ひらやま/平、和算家) N 2 4 2 6
- 仙蔵(千蔵/僊蔵せんそう・北角/成島) → 衡山(こうざん・成島、和鼎養子/幕臣/儒/歌) J 1 9 2 6
- 仙蔵(せんそう・林) → 天真(てんしん・林はやし/福山、書家) D 3 0 9 0
- 仙蔵(せんそう・峰村) → 白斎(はくさい・峰村みねむら、農業/俳人) D 3 6 0 8
- 仙蔵(せんそう・鈴木) → 真実(まさね・鈴木、藩士/国学/歌) C 4 0 6 2
- 仙蔵(せんそう・富岡) → 京楽(きやうらく・立亭りゆうてい、人情本) H 1 6 0 3
- 仙蔵(せんそう・河内) → 盛征(もりゆき・河内かわうち、藩士/国学者) G 4 4 7 8
- 仙蔵(せんそう・伊能) → 高老(たかとし・伊能いのう/大神、国学/歌) V 2 6 5 5
- 扇蔵(せんそう・入船いりふね) → 扇橋(2世せんきやう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 4
- 扇蔵(せんそう・船遊亭) → 扇橋(3世せんきやう・船遊亭、落語家) G 2 4 9 1
- 銭蔵(せんそう・芳川) → 維堅(これかた・芳川よしかわ、古銭鑑定家) O 1 9 2 0
- 僊三(せんそう・安原) → 正敏(まさとし・安原やすはら/河本、商家/歌) T 4 0 3 7
- 潜蔵(せんそう・千葉) → 逸斎(いつさい・千葉ちば、藩士/儒者) E 1 1 1 9
- 潜蔵(せんそう・渋谷) → 松堂(しょうどう・渋谷しぶや、儒者;古義学) O 2 1 9 2
- 潜蔵(せんそう・田中/井部) → 健斎(けんさい・井部いべ/田中、儒者) E 1 8 8 4
- 潜蔵(せんそう・田山) → 敬儀(たかのり・田山たやま、歌人) D 2 6 4 7
- 潜蔵(せんそう・深川) → 元儻(もとよし・深川/深河/小林、本草家) E 4 4 7 9
- 潜蔵(せんそう・村上) → 仏山(ぶつざん・村上むらかみ、庄屋/詩人) D 3 8 3 5
- 潜蔵(せんそう・谷;変名) → 晋作(しんさく・高杉、藩士/勤王家) E 2 2 3 1
- G2429 善叢(ぜんそう;法諱・茂彦もげん;道号) 1460-1541 82 戦国期臨濟僧:讃岐道福寺・山城真如寺住持、  
京の万寿寺住持/晩年天文1532-41頃東福寺199世、「怨菴駢儷」「浣華集」著、

[茂彦善叢の号] 浣華かんか道人/恕庵

禅璉(禅操ぜんそう;法諱)→ 白翁(はくおう;道号・禅璉;法諱、臨濟僧) C 3 6 7 2

善聡(ぜんそう・武岡/劉)→ 素軒(そけん・劉りゅう/彭城/武岡、通事) J 2 5 6 0

M2484 善蔵(ぜんぞう;名・高橋たかはし) 1684-1761 78 筑前那珂郡山田村の庄屋、櫛栽培研究;諸国巡遊、1732(享保17)飢饉に櫛栽培の利により救民、1747「窮民夜光の玉」著

M2485 全象(ぜんぞう;法諱) ? - ? 江後期近江野洲の真宗本願寺派頭了寺住職、曇竜門、三業惑乱の論争決着後になお異義を唱える者を説諭帰順させるに尽力、詩文に長ず、「浄土和讃復集記」「往生浄土論講義」「大経四十八願講義」著

善蔵(ぜんぞう・岡本)→ 善悦(ぜんえつ・岡本おかもと、絵師) L 2 4 7 4

善蔵(善三ぜんぞう・樋口)→ 遯庵(かいあん・樋口ひぐち、藩士/儒者) H 1 5 1 3

善蔵(ぜんぞう・沢村/三輪)→ 執斎(しっさい・三輪みわ/沢村/大村/真野、儒者/歌) E 2 1 8 8

善蔵(ぜんぞう・桜井)→ 舟山(しゅうざん・桜井さくらい、医者/藩儒) H 2 1 4 6

善蔵(ぜんぞう・広津)→ 藍溪(らんけい・広津ひろつ、農業/儒者/教育) B 4 8 8 2

善蔵(ぜんぞう・伊藤)→ 華岡(かこう・伊藤いとう、書家) L 1 5 6 0

善蔵(ぜんぞう・永田)→ 有功(ゆうこう・永田ながた、藩士/和算家) B 4 6 6 2

善蔵(ぜんぞう・滝川/三好)→ 質直(かたなお・滝川/三好、藩士/和算) N 1 5 0 3

善蔵(ぜんぞう・服部)→ 栗斎(りつさい・服部はっとり、藩儒/教育) B 4 9 8 8

善蔵(ぜんぞう・今成)→ 慮呂(慮呂りよ・今成、商家/俳人) J 4 9 8 3

善蔵(ぜんぞう・勝部)→ 朝矩(ともり・勝部かつべ、大庄屋/歌人) U 3 1 7 7

善蔵(ぜんぞう・松本)→ 福田(ふくひさ・松本、藩士/馬術家) B 3 8 6 5

善蔵(ぜんぞう・常松)→ 菊畦(きくけい・常松つねまつ、大庄屋/詩文) K 1 6 0 7

善蔵(ぜんぞう・沢)→ 眞風(まかぜ;名・沢さわ、国学者) 4 0 4 9

漸造(ぜんぞう・鈴木)→ 鸞湖(がこ・鈴木すずき、絵師) L 1 5 5 6

浅草庵(せんそうあん→ あさくさあん)

初世 → 市人(いちんど・浅草あさくさ、狂歌) 1 1 1 8

2世 → 浅草庵守舎(あさくさあんもりや、狂歌) E 1 0 3 2

3世 → 春村(はるむら・黒川、俳・狂歌) 3 6 3 8

4世 → 種彦(2世たねひこ・柳亭、戯作者) 2 6 4 4

5世 → 伊平(いへい・岡野蓬室、国学/狂歌) I 1 1 2 3

浅草庵(せんそうあん) → 綾足(あやたり・建部たけべ、俳/歌/戯作) 1 0 2 8

浅草庵(せんそうあん) → 東朔(とうさく・三輪みわ、医者) E 3 1 4 8

浅桑園(せんそうえん) → 安良(やすよし・山口やまぐち、醸造業/国学) D 4 5 5 7

穿窓軒(せんそうけん) → 眞矩(しんく・内藤ないとう、商家/和算家) N 2 2 9 2

穿窓軒老人(せんそうけんろうじん) → 眞矩(しんく・内藤ないとう、商家/和算家) N 2 2 9 2

川草子(せんそうし・琴風軒) → 松意(しょうい・高木たかぎ、俳人) E 2 2 7 4

浅草堂(せんそうどう) → 五瓶(初世ごへい・並木なみき、歌舞伎作者) 1 9 4 0

千草堂(せんそうどう) → 昌初(まさのぶ・飯室いむろ、本草家/博物) F 4 0 8 4

仙蔵坊(せんぞうぼう) → 澄意(ちようい;法諱、白山本宮長吏) H 2 8 1 9

仙蔵坊(せんぞうぼう) → 実顕(じっけん;法諱、天台叡山僧/歌人) E 2 1 8 2

泉蔵坊(せんぞうぼう) → 宗海(そうかい;法諱、修験僧) G 2 5 4 7

千足(せんそく・横井) → 千足(ちたり・横井よこい、国学者) N 2 8 7 6

千足(せんそく・糸永) → 千足(ちたり・糸永いとなが、神職) M 2 8 0 8

千足(せんそく・匂坂) → 千足(ちたる・匂坂こうざか、国学) M 2 8 5 5

千足(せんそく・館松) → 千足(ちたり・館松たてまつ、神職/国学/歌) M 2 8 8 1

千足(せんそく・中村) → 正也(まさや・中村なかむら、藩陪臣/歌人) R 4 0 1 7

千足(せんそく・野田) → 千足(ちたり・野田のだ、歌人) N 2 8 2 7

千足(せんそく・三輪) → 伴蔭(ともかげ・三輪みわ、国学/神職/歌) W 3 1 5 5

千束(せんそく・浜田) → 千束(ちづか・浜田はまだ、大庄屋/国学) N 2 8 3 1

千束(せんそく・藤田) → 友愛(ともちか・藤田ふじた/秦/永本、神職) W 3 1 2 4

千族(せんぞく・中里) → 千族(ちえだ・中里なかざと、神職/歌人) N 2 8 1 5

- 宣統(せんぞく・長江) → 宣統(のりつぐ・長江ながえ、歌人) K 3 5 5 2  
 善則(ぜんそく・赤松) → 香雨(こうう・赤松あかまつ、商家/鑑定家) H 1 9 3 9  
 02460 宣尊(せんそん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、  
 歌人:1237刊[檜葉集]入;興福寺光明院の歌会に参加、  
 [光明院にて人々歌あまたよみ侍りけるに、  
 このほだにそばしもちればみちたえしみ山のいほに雪はふるつつ](檜葉;冬332)
- M2486 泉尊(せんそん;法諱、初法諱;俊泉、藤原久行男) 1288-1369 82 鎌倉南北期の天台僧、  
 近江の天台宗園城寺の静泉門/俱舎論・天台学を修学、密教;定憲門、四度可行;長乗門、  
 1318園城寺に戒壇を建立;延暦寺衆徒の訴により陸奥に配流、  
 20年後の1338(暦応元)園城寺に復帰;42谷堂・峰堂の学頭、58法勝寺三十講に招聘;  
 法印権大僧都に至る、1349「大乘止観見聞上」著
- M2487 宣存(せんそん/せんぞん;法諱、俗姓;反町そりまち) 1639-1708 70 上州群馬郡西鳥の僧;1647石塔寺長清門、  
 1653天台宗東叡山円珠院の宣海門;得度、1664比叡山教王房住;修学8年、  
 1672東叡山に帰り東漸院に住/円珠院3世/1688権僧正;浅草寺を管轄、  
 「東叡山縁起」「顕戒論鈔」、「詩文集」著、  
 [宣存(;法諱)の別法諱/号]別法諱;公祐/賢空/守快、号;黙堂/伝法心院/解脱親王守快  
 千村(せんそん・田中) → 千村(ちむら・田中たなか、藩士/国学者) M 2 8 7 4  
 泉樽(せんそん→いづたり・弓削/和田) → 巖足(いづたり・和田、藩士/歌人) 1 1 2 3
- M2488 専存(せんぞん、専順男) ? - ? 1509 存 京の天台宗頂法寺六角堂の僧;法眼、専芸の父、  
 1497(明応6)飛鳥井雅俊より伊勢物語を受、連歌作者;新撰菟玖波;5句入  
 善太(ぜんた・三善) → 道統(みちむね・三善みよし、廷臣/詩人) C 4 1 6 5  
 善太(ぜんた・葛西) → 清俊(きよとし・葛西、藩士/儒者/詩文) I 1 6 9 1  
 善太(ぜんた・中井) → 竹山(ちくざん・中井なかい、儒者/詩文) 2 8 0 9  
 仙台(せんだい・奥村) → 栄発(てるのり・奥村、医/儒詩) C 3 0 8 6  
 全態(ぜんたい・津金) → 胤貞(たねさだ・津金つがね、藩士/窯業発展) R 2 6 7 9  
 川内古雲行(せんだいこうんこう) → 蘭阪(らんぱん・三浦みうら/松田、医/本草) D 4 8 1 3  
 前太政大臣女(せんだいじょうだいじんのむすめ) → 長通女(ながみちのむすめ・久我こが) F 3 2 9 1  
 闡提屈[窟](せんだいくつ) → 慧鶴(えかく・白隠、禅僧文学) C 1 3 0 9  
 闡提子(せんだいし) → 玉仲(ぎよくちゆう;道号・宗琇、臨濟僧) P 1 6 2 6  
 千代樹(せんだいじゆ/ちよき・桐林/衣川) → 広滋(ひろしげ・衣川/桐林、藩士/国学) G 3 7 0 0  
 前太政大臣(せんだいじょうだいじん) → 前太政大臣(さきのだいじょうだいじん)
- 闡提道人(せんだいどうじん) → 宝洲(ほうしゅう;道号・道聡;法諱、黄檗僧) B 3 9 3 4  
 仙台曾呂利(せんだいのそり) → 与斎(よさい・新関にいぜき、茶人/狂歌) B 4 7 8 1  
 仙台通蔵(せんだいみちそう) → 楽(たぬし・ら・今村、医/国学/歌) G 2 6 3 4  
 全太理(ぜんたいり;またたり・かなたり) → 全太理(まさたり・神宅、出雲風土記) D 4 0 6 7
- M2489 全沢(ぜんたく;通称・宮田みやた) ? - ? 江中期山城淀藩医、古医方に長ず、  
 早く両親を失った甥の前野良沢を養育;感化を与える、1741(寛保元)「医学知津」著
- M2490 禅諾(ぜんだく;法諱・独園どくおん;道号、号;黄梅軒、俗姓;軸丸) 1710-77 68 豊後臼杵の臨濟僧:  
 豊後の月桂寺の篁谷宗貞の室入/その弟子の層崖禅瑠(そうがいぜんとう)門;出家、諸国遍歴、  
 下総光福寺の玉洲祖億の印可を受/1745層崖没後の月桂寺を住持、1771妙心寺405世、  
 「秦鑽集」「奏鑽集鈔」著
- 僊太夫(仙太夫せんたゆう・中島) → 雪楼(せつろう・中島、藩儒/詩人) E 2 4 7 2  
 善太夫(ぜんたゆう・梶原) → 景照(かげひろ・梶原かじら、金石文学者) E 1 5 9 9  
 善太夫(ぜんたゆう・貝原) → 楽軒(らくけん・貝原かいほら、藩儒) B 4 8 1 0  
 善太夫(ぜんたゆう・高島) → 安定(やすさだ・高島たかばたけ、藩士) B 4 5 4 1  
 善太夫(ぜんたゆう・中西) → 弘佐(ひろすけ・中西/度会、神職/歌) G 3 7 1 1  
 善太夫(ぜんたゆう・河津) → 直入(なおいり・河津がかわづ、藩士/歌人) L 3 2 7 6  
 善太夫(ぜんたゆう・益) → 元永(もとなが・益ます/二本杉、神職/国学) L 4 4 3 3  
 善太夫(ぜんたゆう・正木) → 昌陽(まさきはる・正木まさき、藩士/国学/故実) S 4 0 5 5  
 善太夫(ぜんたゆう・高橋/高島) → 及加(きゅうか・高島/高橋、俳人) B 1 6 9 1



善大夫(ぜんだゆう・野村) → 俊胤(としたね・野村のむら、神職) W 3 1 0 5  
 千太郎(せんたろう・杉山) → 復堂(ふくどう・杉山、儒者/藩政参画) B 3 8 6 1  
 千太郎(せんたろう・中村) → 克則(かつり・中村なかむら、藩士/歌人) V 1 5 2 3  
 千太郎(せんたろう・永井) → 星渚(せいしよ・永井/大江、漢学者) C 2 4 1 1  
 千太郎(せんたろう・股野) → 順軒(じゅんけん・股野またの、藩士/儒者) J 2 1 4 8  
 千太郎(せんたろう・石野) → 広壽(ひろとも・石野いしの、中原/幕臣/歌) I 3 7 2 6  
 仙太郎(せんたろう・前田) → 直定(なおさだ・前田、藩士/系図) B 3 2 1 9  
 仙太郎(千太郎せんたろう・若山) → 花琴(かがく・若山わかやま、兵学者) J 1 5 2 9  
 仙太郎(せんたろう・岡田) → 新川(しんせん、岡田、儒者/詩人) 2 2 4 4  
 仙太郎(せんたろう・古屋) → 太郎兵衛(たろべえ・古屋、商家/読書家) T 2 6 7 5  
 仙太郎(せんたろう・竹村) → 茂雄(しげお・竹村たけむら、農業/国学/歌) B 2 1 9 3  
 仙太郎(せんたろう・林) → 良本(よしもと・林はやし、藩家老/歌人) H 4 7 7 0  
 仙太郎(せんたろう・中山) → 繁樹(しげき・中山なかやま、藩士/国学/歌) Q 2 1 9 2  
 仙太郎(せんたろう・遠山) → 信行(のぶゆき・遠山とおやま、国学者) J 3 5 2 9  
 泉太郎(せんたろう・小川) → 清臣(きよおみ・小川おがわ、真澄男/歌人) T 1 6 6 9  
 潜太郎(せんたろう・堀) → 春峰(春峯はるみね・堀ほり、藩士/歌人) K 3 6 7 8  
 専太郎(せんたろう・上田) → 子幹(しかん・上田うえだ、儒者/藩士) P 2 1 8 7  
 扇太郎(せんたろう・船遊亭) → 扇橋(4世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 5  
 僊太郎(せんたろう・大沢) → 章忠(あきただ・大沢おおさわ、庄屋/歌人) H 1 0 2 3

M2491 善太郎(せんたろう・門坂かどさか)?- ? 近江日野の豪商4代目/相模藤沢でも醸造業、  
 心学;脇坂義堂門、石川雅望と交流、1804(文化元)「孝子善次行状」著

善太郎(ぜんたろう・菅) → 橋洲(きつしゅう・菅かん、藩士/儒者) L 1 6 4 5  
 善太郎(ぜんたろう・稲葉) → 通故(みちひさ・稲葉いなば、藩士/兵法家) H 4 1 3 3  
 善太郎(ぜんたろう・戸板) → 保佑(やすすけ・戸板/多々良/多、和算/改暦) B 4 5 7 2  
 善太郎(ぜんたろう・幸田) → 誠之(まさゆき・幸田/藤原、幕臣/儒者) I 4 0 2 3  
 善太郎(ぜんたろう・桜井) → 霽松(せいしょう・桜井さくらい、儒者) I 2 4 7 9  
 善太郎(ぜんたろう・高橋) → 古道(ふるみち/こどう・高橋かたはし、商家/歌人) I 3 8 1 2  
 善太郎(ぜんたろう・河津) → 直入(なおいり・河津がかわづ、藩士/歌人) L 3 2 7 6  
 善太郎(ぜんたろう・水野) → 忠上(ただかみ・水野みずの、歌人) Z 2 6 7 5  
 善太郎(ぜんたろう・堀江) → 眞清(ますが・堀江ほりえ、国学者) S 4 0 4 6

M2492 僊潭(仙潭せんたん・藤咲ふじさき、名;正方まさかた、正安2男) 1688-1762 75 江戸生/幼時に常陸水戸に移住、  
 儒;舜水門/1726彰考館入;編纂に参加、水戸藩儒/1749矢倉奉行/代官・郡奉行歴任、  
 詩人、「海棠詩」「僊潭詩稿」「僊潭筆記」「藤咲仙潭日記」「大日本史引書通考」「十三夜考」著、  
 「礼儀類典引用記者考」「撰家清華正統略系」/1744「有職備考」著、  
 [僊潭(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名;幹事、字;叔通、通称;伝八/小右衛門、  
 別号;粹精堂

梅檀舎(めんだんしゃ) → 良順(よしより・勝野かつの/田宮、藩士/和漢学) M 4 7 2 2  
 梅檀二葉(めんだんふたば) → 六朶園二葉(ろくだえんふたば、狂歌) 5 2 9 8

M2493 仙知(僊知せんち・安井やすい、姓;中野/名;知得) 1776-1838 63 伊豆三島の囲碁棋士;  
 安井家7世仙角門、1800跡目/14安井家8世を嗣ぐ、準名人、本因坊元丈と並称、  
 本因坊丈和の名人碁所問題に関与、  
 1797「碁立百番」、1822「河洛余数」編/23「碁経亀鑑」著、安井家9世は息俊哲(算知)が継嗣  
 千治(せんち・岸) → 千治(ちはる・岸きし、国学者) L 2 9 3 8

M2494 禅智(ぜんち;法諱・妙蔵院/真満院;号、妙蔵院禅祐男)?-? 1645存 京の社僧;北野天満宮祠官、  
 妙蔵院住/1601父没後に妙蔵院を継嗣/権律師/法橋、1640隠居;真満院住、  
 連歌作者;1613(慶長18)禅智舜性等「何路百韻」/17(元和3)禅昌らと「何船百韻」

M2495 禅智(ぜんち;法諱・慧門えもん;道号) 1758-1830 73 曹洞僧;玄透即中門、美濃箕善応寺17世、  
 撰津鳳林寺住持、1829但馬駿泉寺授戒会出席、「玄透即中和尚語録」編  
 禅智(ぜんち;字) → 信日(しんにち;法諱、禅智;字、真言僧) P 2 2 5 1  
 善智(ぜんち、真言修験僧) → 日伝(にちでん、肥前阿闍梨、日蓮僧) C 3 3 8 8

- 前知(ぜんち・西野) → 前知(さきとも・西野にし、商家/歌人) P 2 0 0 5  
 全癡(ぜんち) → 拙巖(せつがん;法諱、真宗本願寺派僧) K 2 4 8 0
- 02429 善智院(ぜんちいん;法号・塚越つかごし、) 1738-1813 76 出羽飽海郡の庄内松山藩土塚越喜八郎の妻、  
 歌人;加藤枝直えな門、  
 [はるゝまもあらし時雨の音のみに身はこがらしのふゆの山さと]  
 禅智院(ぜんちいん) → 日感(にちかん;法諱、日蓮僧) B 3 3 0 6  
 禅智院(ぜんちいん) → 日好(にちこう;法諱・唯妙、日蓮僧) B 3 3 8 3
- G2431 沾竹(せんちく;号) ? - ? 江中期江戸の俳人:  
 磐城平の露沾(内藤義英)を訪ね記念集を編纂;1704(宝永元)「五十四郡」編(露沾と)
- G2432 千竹(せんちく・双木なみき) ? - ? 江中期江戸の浄瑠璃作者、1781-83肥前座で活動、  
 著作よりも補綴者、1781「鎌倉三代記」「むかし唄今物語」83「石田詰将基軍配」など合作
- 2434 禅竹(ぜんちく・金春こんばる、名;貫氏/氏信、金春弥三郎男) 1405-? 1468存 能役作者:世阿彌の女婿、  
 金春座中興の祖、「幽玄三輪」、「六論一露之記」「至道要抄」「五音三曲集」、  
 「猿楽縁起」「明宿集」、能作;「芭蕉」「定家」「小塩おしお」など  
 [禅竹の通称/法号] 通称;式部大夫/竹田大夫/竹翁[居士]/賢翁、法号;禅竹/賢翁禅竹
- G2433 善筑(ぜんちく・竹尾たけお/本姓;源、名;次春、斎藤好春の長男) 1782-1839 58 江戸品川の浄土僧、  
 伊勢来迎寺で出家;[察竜]名、江戸心法寺・芝増上寺で修学、  
 1815増上寺56世教誉典海より[撰門]名を受、浄土宗史・系譜の研究に業績、  
 1821突如還俗;湯島に住;[覚斎]の号、幕府表坊主竹尾家を継嗣;[善筑]と称す、  
 譜牒学/故実家、大田南畝・塙保己一・近藤正斎・屋代弘賢と交流、「葵章考」「葵御紋考」、  
 1819「三縁山志」20「三縁山志続篇」編/29「旧考余録」「薪のけむり」/36「類例略要集」著、  
 1837「太平郷斧談」著、「和歌釈教註」「檀林深川靈巖寺志」「善光寺考」著、外編著多数、  
 歌;蜂屋光世「大江戸倭歌集」(1858刊)入、  
 [いにしへをしのびしのびに鳴く虫の声にも袖のぬれにけるかな]、  
 (大江戸倭歌;雑1892/寄虫懐旧)、  
 [善筑(;通称)の法諱/法名/字/号]法諱;察竜/撰門、法名;常誉察阿/察阿、  
 字;子竜、号;覚斎
- 洗竹庵(せんちくあん) → 疎安(そあん・久須美/久須見、茶人) F 2 5 8 1  
 千竹園(せんちくえん) → 為泰(ためひろ・ためやす・森、歌人) H 2 6 3 8  
 専痴夢史(せんちむし) → 正秋(まさあき・臼田うすだ/鷺見、国学者) N 4 0 9 6  
 煎茶亭(せんちやてい) → 清風大人(せいふうたいじん、狂歌) J 2 4 5 5
- M2461 仙忠(せんちゅう;法諱) ? - 1690 駿河安倍郡久能村の久能山の社僧(天台宗)、  
 1649(慶安元)久能山德音院(1646創建)に初住/法印、「千部読経開結表白」「祓」著
- G2434 千中(せんちゅう・都秀太夫みやこひでぢゅう) ?-? 江中期18ct前半の音曲家、一中節;初世門、  
 「夕霞浅間嶽」編
- 千疇(せんちゅう・山田) → 千疇(知宇禰/千有年ちうね・山田、国学者) 2 8 3 9  
 宣忠(せんちゅう・中御門) → 宣忠(のぶただ・中御門なかみかど、廷臣/日記) B 3 5 8 1  
 宣忠(せんちゅう・岡本) → 宣忠(のぶただ・岡本おかもと、商家/歌人) H 3 5 8 4  
 瞻仲(せんちゅう・山田) → 三川(さんせん・山田やまだ、儒者/詩人) G 2 0 1 7  
 善忠(せんちゅう;法名) → 頼康(よりやす・土岐/源、武将/歌/連歌) J 4 7 8 9  
 全中(ぜんちゅう;法名) → 一興(かずおき・猪子いのこ、幕臣/国学) T 1 5 5 7  
 禅柱(ぜんちゅう;号) → 崇源(すうげん;法諱・禅柱/臨濟僧/歌) I 2 3 6 3  
 前中宮(ぜんちゅうぐう〜) → 前中宮(さきのちゅうぐう〜)  
 仙千代(せんちよ・檜垣) → 常有(つねあり・檜垣/度会、神職) B 2 9 6 6  
 仙千代(せんちよ・檜垣) → 常古(つねふる/つねひさ・檜垣/度会、神職) D 2 9 6 2  
 仙千代(せんちよ・檜垣) → 常善(つねよし・檜垣/度会、神職/記録) E 2 9 2 5
- G2436 泉澄(せんちよう、僧) ? - ? 1140「金沢文庫本仏教説話集」筆録
- M2496 宣澄(せんちよう;法諱、大谷派本願寺13世宣如[光従]3男) 1627-1680 54 真宗大谷派僧、  
 近江長浜の大通寺(長浜御坊)の初世住職、法印権大僧都に至る、俳人、  
 「三帖和讃御文出似葉口伝」著、

- [宣澄(法諱)の幼名/字/号]幼名;阿茶丸、字;従高、号;宣流/方円/靈瑞/靈瑞院
- G2437 **羨鳥**(せんちょう・坂上さかみ、名;正閑) 1653-1730 78 伊予宇摩郡中之庄村の庄屋;父継嗣、  
松山・高松藩等の御用金を調達/蔵米払い下げを受けて財をなす:大庄屋となる、  
俳人;京阪を往来;北条団水ら上方談林派と交流、伊予に新風を導入、  
信仰心厚い;持福寺建立/諸寺に寄進/晩年は剃髪、1696「簾」/「高根」/1713「俳諧花橋」編、  
[羨鳥(号)の通称/別号]通称;半兵衛、別号;仙翁亭
- N2462 **千鳥**(せんちょう) ? - ? 江前期俳人;1693不角「二息」入
- G2438 **扇朝**(せんちょう、市中庵) ? - ? 江中期川柳作者・初代川柳[1718-90]期、  
「誹風柳多留二五篇」(:和笛選)編/序、  
[其外の月ハねうちのしてがなし](柳多留二五篇)
- N2445 **千兆**(せんちょう) ? - ? 備後三原の俳人;1768無名庵「鳳節」入
- G2439 **泉晁**(せんちょう・貞斎ていさい) 1811- ? 江戸靈岸島の絵師;溪斎英泉門、  
1848頃まで錦絵の美人画・草双紙の挿絵を制作、1826-28「婦女今川」27「和歌三人由来」画、  
1830「艶競恋花染」32-34「浮世新形恋の花染」35-37「錦廻桂」40「浮世人情浜千鳥」外画多数、  
[貞斎泉晁(号)の通称/別号]通称;吉蔵、別号;青蔦亭/素月園/青花堂
- 千町(せんちょう・野田) → 千町(ちまち・野田のだ、藩士/国学/歌) F 2 8 4 1  
 千町(せんちょう・宝田) → 千町(ちまち・宝田のだ、藩士/合巻作者) F 2 8 4 2  
 千町(せんちょう・柴田) → 千町(ちまち・柴田しばた、神職/歌人) M 2 8 6 8  
 千町(せんちょう・田内) → 千町(ちまち・田内たのうち、藩士/国学/歌) L 2 8 4 2  
 千町(せんちょう・桑原) → 千町(ちまち・桑原くわばら、国学/歌人) M 2 8 4 8  
 千町(せんちょう・川喜田) → 重盈(しげみつ・川喜田かわきた、商家/国学) O 2 1 1 0  
 千蝶(せんちょう・為永) → 太郎兵衛(初世たろべえ・為永、浄瑠璃/歌舞伎作者) H 2 6 8 5  
 千朝(千潮せんちょう) → 祇徳(初世ぎとく・仲、札差/俳人) B 1 6 6 0  
 千澄(せんちょう・青木) → 千枝(ちえだ・青木あおき、藩士/国学者) 2 8 4 5  
 扇朝(せんちょう;俳号) → 半四郎(7世はんしろう・岩井、歌舞伎役者) I 3 6 0 6  
 扇蔵(せんちょう・船遊亭) → 扇橋(2世せんきょう・船遊亭、落語家) F 2 4 1 4  
 宣澄(せんちょう・麦竜舎) → 雲郎(雲朗うんろう・坂本、商家/俳人) E 1 2 1 8  
 宣澄(せんちょう・麦竜[隴]舎) → 雲郎(雲朗うんろう・麦竜舎ばくりゅうしゃ、商家/俳歌人) E 1 2 1 8
- Q2461 **全超**(ぜんちょう;法諱、法師) ? - ? 江前期;京の僧、歌人、  
1682河瀬菅雄[麓の塵]15首入、  
[朝まだき高根に残る横雲も霞に消えて春やたつらん](麓の塵;春15)  
[曇りなき世の鏡ともあふげ猶都の空にすめる月影](麓の塵;秋255)
- G2440 **全長**(ぜんちょう;法諱) 1679 - 1747 69 紀州名草郡内海村名高浦の浄土宗専念寺14世、  
1706「顕浄土伝戒論私記」著/36「以呂波字考録」編、「顕浄土伝戒論補註」「和歌浦物語」著
- M2497 **善超**(ぜんちょう;法諱、今出川実種男) 1785-1855 71 京岡崎真宗僧;1789真宗山元派本山証誠寺僧、  
本堂を再建/証誠寺20世住職/1811上人号を勅許、歌人;賀茂季鷹門、勤王派;志士と交流、  
「東溟家集」、「文案のちり」「文案余塵」「決疑篇」「和讃手爾遠波考」「観荷堂漫筆」著、  
[善超(法諱)の幼名/号]幼名;元麿、号;東溟/越前(越山/山元)老樵、  
法号;無礙光院むげこういん
- 善冢(ぜんちょう・永田) → 桐隠(とういん・永田ながた善家、儒者) B 3 1 0 6  
 善長(ぜんちょう/よしなが・小笠原) → 満長(みつなが・小笠原、武将/故実) E 4 1 1 6  
 善長(ぜんちょう・毛利) → 元次(もとつぐ・毛利/大江、藩主/儒者) D 4 4 0 7  
 善長(ぜんちょう/よしなが・片野) → 東四郎(2世とうしろう・片野/永楽屋、書肆) F 3 1 5 7  
 善長(ぜんちょう・増田) → 善長(よしなが・増田ますだ、文筆家) F 4 7 3 5  
 善長(ぜんちょう・荒居) → 善長(よしなが・荒居あらい、藩士/茶人) L 4 7 3 0  
 善激(ぜんちょう・大井) → 善激(よしまき;名・大井おおい、歴史家) D 4 7 1 6  
 宣暢院(せんちょういん;諡号) → 廓忍(かくにん;法諱・紫雲、真宗本願寺派僧) S 1 5 0 4  
 洗潮斎(せんちょうさい、岸大路) → 持之(もちゆき・岸大路、国学者) B 4 4 7 8  
 泉蝶斎(せんちょうさい) → 英春(えいしゅん・溪斎、可候門絵師) C 1 3 0 1
- G2441 **仙鳥女**(せんちょうじよ、安齋三左衛門の妻) ?-1802 鎌倉星ノ井の農家の女主人;30歳頃夫に死別、

俳人;乙草庵西奴門/師没後は泰里(2世存義)門、雪濤の姉、

1802「卯の花くもり」著(没後刊)、

[卯の花にききそこなはじほととぎす](卯の花くもり/死の数日前詠)

[仙鳥女(;号)の通称/別号]通称;仙鳥尼(せんちょうに)/別号;無事庵、法号;暉光妙仙禅定尼

仙鳥尼(せんちょうに) → 仙鳥女(せんちょうじょ、農業/俳人) G 2 4 4 1

宣直(せんちよく・藤木) → 宣直(のりなお・藤木ふじき、神職) F 3 5 2 8

詮直(せんちよく・肥田瀬) → 詮直(あきなお・のりなお・肥田瀬ひたせ、武将/歌) D 1 0 6 6

全直(ぜんちよく・李) → 梅溪(ばいけい・李り、漢学者) B 3 6 0 0

善直(ぜんちよく・池田) → 京水(きょうすい・池田いけだ、医者) O 1 6 1 3

G2442 宣陳(せんちん) ? - ? 阿波住俳人、1666「阿波千句」入

G2443 先通(せんつう) ? - ? 九州の俳人、1693長水「白川集」入

宣通(せんつう・大中臣) → 宣通(のぶみち・大中臣、神職/歌) K 3 5 5 7

仙亭(せんてい・松平) → 雪川(せつせん・松平、治郷の弟/俳人) E 2 4 4 8

泉亭(せんてい) → 盤谷(ばんこく・志水、俳人) H 3 6 6 2

宣定(せんてい・鳥丸) → 宣定(のりさだ・鳥丸からすまる、廷臣/日記) E 3 5 5 2

宣庭(せんてい・葛岡) → 宣庭(のぶにわ・葛岡くずおか/源、歌人) K 3 5 4 5

G2444 全貞(ぜんてい) ? - ? 連歌、1356-70崇永催「紫野千句」連発

M2498 全禎(ぜんてい;法諱) 1627 - 1692<sup>66</sup> 安藝佐伯郡草津の真宗本願寺派教専寺5世住職;

1640(寛永17)得度/豊前小倉永照寺の西吟門、のち安藝仏護寺などで講席を開く、

「視聴記」著(;教専寺6世理円著作説もある)、

[全禎(;法諱)の前の法諱]理伝(;初法諱)/信誓

G2445 全提(ぜんてい;名;政五郎/通称;雲政)?-1829 江戸中後期;出雲の僧;臨濟宗妙心寺派、

駿河の遂翁門、刻苦精練、信濃諏訪の温泉寺僧、詩人/書多数、山梨稲川「思旧漫録」記事入

善貞(ぜんてい・よしさだ・川島) → 茂樹(しげき・川島/革島/林、幕臣/歌人) C 2 1 1 2

禅定(ぜんてい→ぜんじょう) → 定尊(じょうそん;法諱・禅定、真言僧) K 2 2 6 8

正定閣(せいていかく;号) → 信晧(しんぎょう;法諱、真宗仏光寺派僧) N 2 2 9 0

闍提屈(せんていくつ→せんだいくつ) → 慧鶴(えかく;法諱・白隠;道号、臨濟僧) C 1 3 0 9

全亭主人(ぜんていしゅじん、全亭子) → 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本) J 2 2 4 1

全亭正直(ぜんていしょうじき) → 正直(しょうじき・全亭、狂歌・読本作者) J 2 2 4 1

善哲(ぜんてつ;字) → 日理(にり;日璃にちり;法諱・一道院、日蓮僧) D 3 3 5 6

禅徹(ぜんてつ;法号) → 安重(やすしげ・荻野おぎの、砲術家) B 4 5 6 6

扇田(せんでん・袴田) → 勝彦(かつひこ・袴田はかまだ/藤原、農業/歌) V 1 5 3 6

M2499 銭塘(せんとう・萱野かやの、名;来章、考澗2男) 1729-81<sup>53</sup> 肥後熊本藩士;父を継承;大坂藩邸留守居役、

藩邸内菁莪館で多数の碩学を招聘し漢学講義をさせる/儒者;程朱学を修学、詩;混沌社友、

兵法修得;弓槍剣法に長ず、禄;5百石、「銭塘吟稿」著、日本詩選に4首入、

[銭塘(;号)の字/通称/別号]字;君誉、通称;司馬太、別号;臥游軒、法号;悟徹院

N2400 銭塘(せんとう・陳ちん、名;厚/字;生卿)?-? 江中期上総の漢学者、「詩作早指南」「惣門新書」著、

「十三経注疏正誤考」「十三経辨誤」「徂徠先生助字考」「陳氏周易証解」著

銭塘(せんとう;号) → 円門(えんもん;法諱、真宗大谷派僧/詩) F 1 3 3 9

千稻(せんとう・堀内) → 千稻(ちしね・堀内ほりうち、庄屋/商家/歌) N 2 8 4 8

千稻(せんとう・米沢) → 千稻(ちしね・米沢よねざわ、戸長/国学/歌) N 2 8 8 1

千濤(せんとう・石川) → 千濤(ちなみ・石川いしかわ、歌人) F 2 8 0 9

尖堂(せんどう・山口) → 直毅(なおき・山口、幕臣/奉行) B 3 2 0 7

泉堂(せんどう・杉田) → 立卿(りゅうけい・杉田すぎた、玄白男/蘭医) B 4 9 6 8

仙堂(せんどう) → 霜後(そうご、俳人) B 2 5 3 3

宣道(せんどう・岩間) → 宣道(のりみち・岩間いわま、歌人) F 3 5 8 6

G2446 全藤(ぜんとう・釈) ? - ? 戦国期室町幕臣、僧/歌人、

文亀末永正初1503-5頃「武家歌合」参加;10首入、

[行くかたも常世とよの鴈の跡遠み身をなか空の春やうからむ](武家歌合;十一番左)

I2471 禅統(ぜんとう;道号・眞紹しんしょう;法諱) 1820-76<sup>57</sup> 遠江浜松の黄檗宗大雄庵楚州如宝門;出家、

師楚州に常随/1848嗣法、57大雄庵に入室/のち遠江引佐郡瀬戸村の宝林寺22世、  
画に長ず、「崎中唱和」画/「楚州禅師語録」編

- 禅棟(ぜんとう;法諱) → 梁南(りょうなん;道号・禅棟、臨濟僧/詩) J 4 9 1 3  
禅洞(ぜんとう;字) → 慧鳳(えほう;法諱、真言律僧) E 1 3 2 4  
善道(ぜんどう・田代) → 三喜(三帰さんき・田代、医者;李朱医学) L 2 0 9 5  
善道(ぜんどう/よしみち・斎藤) → 弥九郎(やくろう・斎藤、武芸/兵法家) 4 5 5 2  
善道(ぜんどう・高橋) → 善道(よしみち・高橋たかはし、幕臣/和算家) H 4 7 4 2  
浅桐庵(せんとうあん) → 宣秋(のぶあき・吉田よしだ、商家/歌人) K 3 5 3 5  
善導寺上人(ぜんどうじしょうにん) → 弁長(べんちよう;法諱、浄土僧;鎮西流祖) B 2 7 3 6  
仙東舎春笑(せんとうしゃしゅんしょう) → 春水(2世しゅんすい・為永、藩士/戯作者) 2 1 5 8  
漸道人(ぜんどうじん) → 千如(せんによ;法諱、沢村、天台僧/歌) O 2 4 1 5  
旋頭茶翁(せんとうちやおう) → 宗玄(そうげん・羽佐間はざま、医者) H 2 5 1 8

2435 沾徳(せんとく・水間みずま/初姓;門田かどた、名;友兼) 1662-1726<sup>65</sup> 江戸の磨工(研刀師?)/俳人:調也門、  
師と磐城平藩主内藤風虎の江戸藩邸に出入;露言・露沾門/1677頃露沾より沾葉号を受、  
内藤家に出仕/風虎没後致仕/1687水間沾徳と改姓;俳諧宗匠/儒;林家入門、  
歌;山本春正・清水宗川門、談林派だが其角・芭蕉と交流/其角没後江戸俳壇の中心;  
都会風理知的譬喩俳諧、1692「俳林一字幽蘭集」1703「枝葉集」05「余花千句」、「秋花千句」、  
1718「沾徳随筆」21「後余花千二百句」、「文蓬菜ふみよぎ」「合歓堂家集」「連歌拾葉集」外編著多、  
1716風葉「江戸筏」序、1702轍士「花見車」1句入、  
追善集;「水精宮」(仙鶴編)/「白字録」「塵の粉」「浜松ヶ枝」/13回忌「合歓の花道」(沾山編)、  
[低き方へ水のあはつやはつ嵐](沾徳随筆/前書;栗津晴嵐あはつせいらん/泡立つと栗津を掛る)  
[沾徳(;号)の通称/別号]通称;治郎左衛門、別号;沾葉(;初号)/合歓ごうかん堂、法号;本妙院

G2447 扇徳(せんとく・大木おおき) ? - ? 俳人、歌謡作者/三味線;杵屋勘五郎門、  
1704「落葉おちば集」編(1703「松の葉」の続編/題簽「絵入松の葉」、卷一唱歌/卷二所作歌、  
卷三丹前出端たんぜんでは/卷四踊歌百番/祇園町踊唱歌・都音頭/卷六古今節・浄瑠璃、  
卷七流行歌はやりた、江戸役者などの歌舞伎歌が多い)、1710「松の落葉」編、  
[律に呂に尽ぬ落葉や家の風](落葉集;卷一表紙見返の句)、  
発句を勧進した俳人(其角「類柑子」入)、「松の葉」編者秀松軒との関係不詳

N2401 仙得(せんとく・坂口さかぐち/初姓;荻野おぎの) 1801-1867<sup>67</sup>?<sup>67</sup>? 棋士:安井仙角門/師の生家坂口家を継嗣、  
1838(天保9)七段;御城碁出仕、天保4傑の1、「囲碁段附人名録」編/「弘化三年囲碁段附」著  
幼名;虎次郎

- 千徳(せんとく・堀田) → 一之(かずゆき・堀田ほつた、幕臣/和学者) V 1 5 6 5  
宣徳(せんとく・吉村) → 宣徳(のぶのり・吉村よしむら、家老/歌) C 3 5 7 5  
宣徳(せんとく・水原) → 慈音(じおんに;法諱・水原、真宗勤王僧) Z 2 1 9 0  
先徳(せんとく・貞松房) → 仲算(忠算・中算ちゅうさん;法諱、法相僧) G 2 8 1 0  
仙篤(せんとく・藤浪) → 万徳(万得まんとく・藤浪ふじなみ、医者) K 4 0 7 5  
沾徳(7世せんとく) → 沾山(7世せんざん・内田、俳人) F 2 4 5 7  
仙徳院(せんとくいん) → 宗恪(そうかく・吉田よしだ、幕府医官) G 2 5 5 7  
善徳院(ぜんとくいん;法号) → 元世(もとよ・毛利もうり/堀田、藩主/歌) I 4 4 7 8  
先得亭(せんとくてい) → 野草(やそう・先得亭、俳人) D 4 5 6 7

N2402 禅訥(ぜんとつ;法諱) ? - ? 江後期臨濟僧:物先海旭門、1822「栗棘蓬」編  
千屯(せんとん・城戸) → 千屯(ちむら・城戸きと、国学) F 2 8 4 6

2436 千那(せんな;号、明式みょうしき;法諱、俗姓;三上みかみ、明芸男) 1651-1723<sup>73</sup> 近江堅田の真宗僧;  
本願寺派、父は堅田の本福寺9世/兄は本福寺10世明賢、本願寺14世光常に出仕、  
梵唄ばんぱいに通ず、1692兄明賢の没により本福寺11世を継嗣、法橋、1705権律師/13退隠、  
俳人;初め談林の高政門/1685芭蕉門、1708芭蕉の遺跡を巡拝、尚白と共に近江蕉門の古老、  
のち共に蕉門を離れる、千梅の師、1708「白馬諦」13「白馬紀行」編、  
1685風瀑「一楼賦」87尚白「孤松ひとつまつ」90之道「あめ子」2句/91「猿蓑」10句/98「続猿蓑」入、  
追善集;「鎌倉海道」(1725門人千梅編)/「千那50回忌追悼集」(1770曾孫末角編)、

[時雨きや並びかねたる鮎いささぶね] (猿蓑; 卷一冬/鮎は琵琶湖固有のハゼ科の魚)、  
(沖の鮎網の船団が急に列を乱す; 時雨だな/俯瞰の構図)、  
[千那(;)号)の法諱/別号]法諱; 明式みょうしき/妙式、

別号; 官山子/千那堂官江、蒲萄坊ふとうぼう/生々

僊那(せんな・菩提) → 菩提(ぼだい・僊那、婆羅門僧正) E 3 9 4 5  
善阿(ぜんあ) → 善阿(ぜんあ、時宗僧/連歌師) 2 4 2 3  
善内(ぜんない・野田) → 美陳(よしのぶ・野田のだ、庄屋/国学/歌) M 4 7 1 8  
善内(ぜんない・森谷) → 倭雲(わうん・森谷もりたに、神職/国学者) 5 3 9 0  
千那堂官江(せんなどうかんこう) → 千那(せんな・蒲萄坊、俳人) 2 4 3 6  
前内大臣(ぜんないだいじん〜)すべて → 前内大臣(さきのないだいじん〜)  
泉南(せんなん; 号) → 周鳳(しゅうほう; 法諱・瑞溪; 道号、臨濟僧) 2 1 4 9  
泉南(せんなん; 号) → 瑞巖(ずいがん; 道号・竜惺、臨濟僧) E 2 3 2 8  
禅南坊(ぜんなんぼう; 号) → 昌曼(しょうまん; 法諱、天台僧/法印) L 2 2 6 5

N2403 禅爾(ぜんに; 法諱、俗姓; 阿倍あへ) 1253or54-1325 京の僧; 19歳出家/戒律; 八幡大乘院の琳海門、  
華嚴: 山城金山院で戒壇院凝然門、具足戒; 1274円照門、中一を禅爾に改称/律師、  
加賀の無量寿福院で華嚴・律を講説、南都に戻り真言院聖守より灌頂を受、  
禅; 紀伊由良の興福寺覚心門、円照・聖守の提唱する[教禅一如]の実践者、  
1283顕尊に招かれ和泉久米田寺住持、「随文鈔抄」「初発心時」「華嚴經文義綱目序科文」著、  
1317「理護摩次第私記」著、

[禅爾(;)法諱)の初法諱/字]初法諱; 中一、字; 円戒

千入(せんにゅう・宇都宮) → 安浦(やすうら・宇都宮うつのみや/渡部、神職) F 4 5 3 8  
千入(せんにゅう・小倉) → 美孝(よしたか・小倉おぐら/望月、藩士/国学) L 4 7 8 2  
杣入斎(せんにゅうさい) → 紹宅(しょうたく・木山/源、城主/連歌作者) K 2 2 7 4

02415 千如(せんによ; 法諱、沢村さわむら) 1811-8272 肥後熊本の天台宗神護寺住職、  
国学/歌; 吉永千秋門、  
[千如の号] 憲道人/漸道人

宣如(せんによ; 号、本願寺13世) → 光従(こうじゅう; 法諱・真宗大谷派僧) J 1 9 5 4

G2448 善如(ぜんによ; 号・俊玄; 法諱、慈俊従覚の長男) 1333-8957 本願寺3世宗昭覚如の孫、  
大納言日野俊光の猶子、真宗僧; 青蓮院で修学/法灯を継嗣; 本願寺4世、法印権大僧都、  
能書家、1379「存覚法語」注、「顕教行証文類延書」著、

[善如(;)号)の幼名/俗名/通称]幼名; 光養丸、俗名; 宗康、通称; 大納言

N2404 禅忍(ぜんにん; 法諱、藤原ふじわら、名; 氏頼、隆頼男、唱阿[藤原頼貞]弟) ?-? 鎌倉期廷臣; 左衛門尉、  
出家; 僧、歌; 1276(建治2)「住吉社三十五番歌合」右方参加(判者; 藤原為氏)、  
[草枕仮寝の床の袖のうへに又かげやどす有明の月](住吉; 旅暁月六番右12)

全仁親王(ぜんにんしんのう) → 全仁親王(まさひとしんのう・常盤井宮、歌) G 4 0 8 0  
詮慧(せんえ; 法諱) → 詮慧(せんえ・せんえ; 法諱、曹洞僧) E 2 4 8 6  
禅慧(ぜんえ; 法諱・函海; 道号) → 禅慧(ぜんえ; 法諱・函海、臨濟僧) L 2 4 6 9  
禅慧(ぜんえ; 法諱・寧山) → 寧山(ねいざん; 道号・禅慧、臨濟僧) 3 4 5 4  
禅慧(ぜんえ; 法諱・月船) → 月船(げつせん; 道号・禅慧、臨濟僧) H 1 8 1 5  
善寧(ぜんねい; 法諱) → 弗隠(ふつゐん; 号・善寧、真言僧/歌人) D 3 8 2 5  
泉禰宜(せんねぎ) → 親成(ちかなり・祝部/樹下、神職) B 2 8 4 3  
千年(せんねん)多くは → 千年(ちとせ)  
千年(せんねん・黒田) → 玄鶴(げんかく・黒田くろだ、医者/詩文) I 1 8 2 6  
千年(せんねん・岩間/松井) → 竹山(ちくざん・松井/亘理、医者/詩) D 2 8 0 8  
千年(せんねん・吉村) → 寛泰(ひろやす・吉村よしむら、藩士/儒者) H 3 7 5 5  
千年(せんねん・羽生) → 凌雲(りょううん・羽生はにゅう、医者) G 4 9 3 9  
千稔(せんねん・椿) → 仲輔(なかすけ・椿つばき、国学/歌) D 3 2 8 7  
専念(せんねん; 剃髮号) → 志頭磨(志津磨しづま・佐々木、書家) U 2 1 0 7  
儻然(せんねん・柴田) → 是真(ぜしん・柴田しばた、絵師/漆芸家) D 2 4 9 9

N2405 禅念(ぜんねん; 法諱、号; 慈恩寺律師) ?-908(延喜8) 平安前期の真言僧; 宗叡門; 付法の弟子、

- 宗叡に随い入唐、禅念の付法の弟子7人；世捐・会理・禅彦・玄静・寂照、「十八道禅念鈔」著
- N2406 善念(ぜんねん；法諱) ? - ? 1562存 法相宗興福寺僧；胤慶(；光胤の弟子)門、  
1562(永禄5)「成唯識論泉鈔」著、  
[善念(；法諱)の別法諱] 善円/仙祐
- N2451 善念(ぜんねん；法諱) ? - ? 越後の真宗大谷派光照寺の住職、  
「往生論講義」著
- 宣能(せんのう→のりよし・岩間)→宣道(のりみち・岩間いわま、藩士/歌人) F 3 5 8 6  
 仙之右衛門(せんのえもん・細野)→要斎(ようさい・細野/藤原、藩士/儒/地誌) 4 7 9 8  
 専之丞(せんのじょう・益田/真下)→晚菘(ばんすう・真下ましも、幕臣/詩/書) I 3 6 2 5  
 仙之丞(せんのじょう・宮原)→義周(よしちか・宮原みやはら/源、幕臣；高家) E 4 7 5 2  
 仙之丞(せんのじょう・鈴木)→有本(ありもと・鈴木すずき、儒医) H 1 0 7 7  
 善之丞(せんのじょう・馬詰)→親音(もとね・馬詰うまづめ、藩士/歌) D 4 4 6 6  
 善之丞(せんのじょう・矢野)→秋和(あきかず・矢野やの、蘭学者) D 1 0 3 1  
 善之丞(せんのじょう・大竹)→文礼(ぶんれい・大竹おおたけ、和算家/測量) G 3 8 8 2  
 善之丞(せんのじょう・久松)→定愷(さだたか・久松/菅原、幕臣/日記) I 2 0 3 4  
 善之丞(せんのじょう・宇都宮)→為忠(ためただ・宇都宮うつのみや、歌人) V 2 6 7 7  
 漸之進(せんのしん・松林)→飯山(はんざん・松林まつばやし、儒者) H 3 6 8 4  
 善之進(せんのしん・川村)→榴窠(りゅうか・川村かわむら、藩儒者/教授) D 4 9 1 1  
 善之進(せんのしん・福住)→貞陳(さだのぶ・福住ふくずみ、商家/歌人) P 2 0 2 4  
 千之助(せんのすけ・朽木)→倫綱(ともつな・朽木くつき、藩主) P 3 1 8 3  
 千之助(せんのすけ・太宰)→春台(しゅんたい・太宰だざい/平手、儒者) 2 1 6 2  
 千之助(せんのすけ・竹田)→春庵(しゅんあん・竹田たけだ、藩儒) J 2 1 1 8  
 千之助(せんのすけ・宮重)→信義(のぶよし・宮重、幕臣/儒/国学) D 3 5 8 6  
 千之助(せんのすけ・榊原)→職尹(もろただ・榊原/源、幕臣/記録) C 4 4 9 3  
 千之助(せんのすけ・大竹)→信定(のぶさだ・大竹、幕臣/文筆) B 3 5 5 3  
 千之助(せんのすけ・浅野)→長訓(ながみち・浅野あさの、藩主) K 3 2 8 0  
 千之助(せんのすけ・池田)→明清(あききよ・池田いけだ、国学者) G 1 0 9 8  
 千之助(せんのすけ・米原)→豊秋(とよあき・米原よねはら、藩士/国学者) V 3 1 3 7  
 千之助(せんのすけ・栗崎/廬)→驥(き・廬ろ/栗崎くりさき、通事/詩文) J 1 6 4 7  
 千之助(せんのすけ・斎藤)→利安(としやす・斎藤さいとう、幕臣/歌人) T 3 1 6 3  
 先之助(せんのすけ・佐野)→正修(まさなが・佐野さの、藩士/歌人) P 4 0 9 0  
 詮之助(せんのすけ・土岐)→朝豪(ともたけ・土岐とき、幕臣/文筆家) P 3 1 6 8  
 扇之助(せんのすけ・飛田)→春山(しゅんざん・飛田とびた、藩士/儒者) F 2 2 1 8  
 仙之助(せんのすけ・高沢)→菊圃(きくかん・高沢たかざわ、藩士/儒者) K 1 6 0 5  
 仙之助(せんのすけ・草川)→綱忠(つなただ・草川、藩士/能書/教育) B 2 9 1 1  
 仙之助(せんのすけ・大国)→正武(まさたけ・大国/長手、国学者) D 4 0 4 1  
 仙之助(せんのすけ・田中)→義村(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌) N 4 7 6 4  
 仙之助(せんのすけ・富永)→尹久(ただひさ・富永とみなが、神職/歌人) Y 2 6 4 2  
 専之助(せんのすけ・田沼)→意行(もとゆき・田沼たぬま、幕臣) E 4 4 5 8  
 専之助(せんのすけ・岡見)→知周(ともちか・岡見おかみ、藩士/紀行) I 3 1 9 1  
 専之助(せんのすけ・安達)→月讖(げつしん・安達あだち、俳人/教育) N 1 8 5 6  
 専之助(せんのすけ・岡見)→知愛(ともなる・岡見、知周男/藩士/地誌) Q 3 1 1 0  
 専之助(せんのすけ・渋江)→道陸(どうりく・渋江しぶえ/稲垣、医者) I 3 1 1 9  
 専之助(せんのすけ・西村)→清臣(きよおみ・西村にしむら、藩士/歌人) U 1 6 0 5  
 専之輔(せんのすけ・村井)→量令(かずのり・村井、幕臣/典籍編集) F 1 5 2 2  
 撰之助(せんのすけ・黒岩/中居)→剛屏(ごうへい・中居、商家/蘭学) L 1 9 0 7  
 全之助(せんのすけ・中西)→弘通(ひろみち・中西/度会/春木、神職) H 3 7 3 3  
 善之助(せんのすけ・河根)→豊光(とよみつ・河根かわね、文筆家) R 3 1 6 8  
 善之助(せんのすけ・岩淵/蘆野)→東山(とうざん・蘆野あしの、儒者/詩文) E 3 1 5 3  
 善之助(せんのすけ・小泉)→蒼軒(そうけん・小泉こいずみ、地誌/測量家) H 2 5 0 8

- 善之助(ぜんのすけ・窪田) → 善之(よしゆき・窪田くぼた、藩士/暦算家) H 4 7 9 6  
 善之助(ぜんのすけ・巨勢) → 利啓(としのり・巨勢こせ、幕臣/歌人) N 3 1 3 1  
 善之助(ぜんのすけ・南部) → 信有(のぶあり・南部なんぶ、領主/和学) J 3 5 4 5  
 善之助(ぜんのすけ・渡辺) → 義治(よしはる・渡辺わたなべ、藩士/和算家) G 4 7 1 6  
 善之助(ぜんのすけ・片桐) → 嘉則(よしのり・片桐かたぎり、歌人) M 4 7 2 1  
 善之助(ぜんのすけ・深沢) → 秀景(ひでかげ・深沢ふかざわ、国学/狂歌) K 3 7 8 0  
 善之允(ぜんのすけ・宗) → 重正(しげまさ・宗そう、藩士/国学者) Z 2 1 2 4  
 賤乃屋(せんのをや→しずのや) → 亀文(きぶん・大河原、商家/和漢学/戯作) G 1 6 2 1
- N2460 **線波**(せんば) ? - ? 江前期俳人;1692不角「千代見草」入  
 [人買の我をさがなく値打ちして](千代見草)  
 仙坡(せんば・中井) → 蕉園(しょうえん・中井なかい、儒者) H 2 2 2 8  
 浅笹庵(せんばあん) → 瓢亭百成(ひょうていひやくなり、戯作者) F 3 7 3 6  
 浅波庵(せんばあん) → 河鳥(かちょう・都曲園、田口/向後、狂歌) N 1 5 1 5
- G2450 **千梅**(せんばい・田中たなか、名;知義、知次男) 1686-1769<sup>84</sup> 近江栗太郡辻村の鋳物師の家、  
 1640江戸に出店;深川で鍋釜製造・販売の家業を継嗣;江戸と近江を往復、  
 俳人;千那門/江戸・相模藤沢・伊勢・近江に門人多数、謡曲/蹴鞠も嗜む、  
 1716「鹿島紀行」「常総紀行」/25師追善「鎌倉海道」編、34「竹の秋」編/39「松島紀行」著、  
 1744芭蕉50忌「千とりの恩」/50「蝶てふつかひ」編、  
 1753「箋纏輪わくかせわ」(62非難書石橋「糸切歯」)/58「自娛文艸」58「蕉門俳書説」著、  
 1763「やきおほね」(門弟梅尺と共編)、「若葉の奥」「千尋のかげ」著、外編著多数、  
 [千梅(;号)の通称/別号] 通称;七左衛門(七右衛門)、  
 別号;白翁/亞靖/方竟/方竟楼/方鏡叟/方鏡閣/千梅林/浄山翁/吐風楼/自娛堂
- N2452 **峯梅**(せんばい・中村なかむら) ? - ? 江後期羽後秋田茶町梅之町の俳人、  
 1820「無東西むとうざい」編  
 [峯梅(;号)の通称/別号]通称;岩蔵、別号;穀雨堂  
 禅霈(ぜんはい;法諱) → 霖翁(りんおう;道号・禅霈;法諱、臨濟僧) K 4 9 0 2  
 千梅林亜靖(せんばいりんあせい) → 千梅(せんばい・田中、俳人) G 2 4 5 0  
 善博士(せんはかせ) → 為政(ためまさ・慶滋/賀茂、廷臣/詩歌) H 2 6 4 0  
 宣白(せんぱく・大田) → 友悦(ゆうえつ・大田おた、医者/俳人) 4 6 7 3  
 禅薫(ぜんくん;法諱) → 直翁(ちよくう;道号・宗謙、臨濟僧) K 2 8 2 5  
 仙人(せんじん・富永) → 竹村(ちくそん・富永、医/儒学/歌) D 2 8 4 1  
 専八(せんぱち・箕浦) → 秦川(しんせん;号・箕浦、藩士/儒者) 2 2 4 3  
 専八(せんぱち・荒) → 至重(しじゅう・荒あら、藩士/和算家) T 2 1 6 7  
 善八(ぜんぱち・酒井) → 抱一(ほういつ・酒井さかい、絵師/俳人) 3 9 1 3  
 善八(ぜんぱち・鯛屋/榎並/永田) → 貞柳(ていりゅう・油煙斎/鯛屋、商家/狂歌) 3 0 0 9  
 善八(ぜんぱち・榎並/鯛屋) → 海音(かいおん・紀きの、貞柳の弟/浄瑠璃作者/狂歌) 1 5 0 1  
 善八(ぜんぱち・田口) → 保明(やすあき・田口たぐち、国学者) 4 5 8 2  
 善八(ぜんぱち・沢) → 尚智(ひさとも・沢さわ、和算家) B 3 7 5 9  
 善八(ぜんぱち・人見) → 美至(のりゆき・人見ひとみ、幕府儒官) G 3 5 1 1  
 善八(ぜんぱち・藤屋) → 元実(もとざね・原はら、商家/歌人) L 4 4 0 6
- N2443 **搏万**(せんばん・程てい) ? - ? 琉球詩人;1708「焚餘稿」(順則「中山詩文集」所収)
- N2468 **千班**(せんばん・堀内ほりうち、名;隆久、千豈男) 1746-1817<sup>72</sup> 相模藤沢の名主の家、俳人;  
 1782-1817(天明2-文化14)「句帖」著  
 [千班(;号)の通称/別号]通称;幸左衛門、別号;篁舎、法号;分正院  
 宣範(せんぱん・吉村) → 宣範(のぶのり・吉村よしむら/源、家老/国学) G 3 5 7 1
- N2489 **千彦**(せんひこ・太田おた) ? - ? 江後期;歌人、  
 1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
 [かならずと契りし人の偽りも吾がまことよりあらはれにけり](大江戸倭歌;恋1432)  
 善弼(ぜんひつ・河崎) → 敬軒(けいけん・河崎/川崎かわさき、儒者) F 1 8 5 0  
 全弼(ぜんひつ・真鍋) → 叡美(えいび・真鍋まなべ/竹村/赤松、医者/俳人) D 1 3 3 3



- 泉姫(せんひめ・有馬/津軽)→ 順承室(ゆきつぐのしつ・津軽つがる、藩主正室/歌人) G 4 6 7 2
- G2451 千百(せんひやく・観翠堂) ? - ? 江戸の俳人; 雑俳点者; 夢仏門、1775「相合袴」編  
 阡陌園(せんひやくえん) → 南北(なんぼく・東西庵、狂歌、合巻) 3 2 3 4  
 千百翁(せんひやくおう) → 雲鼓(うんこ・堀内、俳人) B 1 2 1 3  
 全苗(ぜんびょう→ぜんみょう) → 月湛(げつたん; 法諱・全苗、洞水、曹洞僧) H 1 8 2 3  
 禅苗(ぜんびょう→ぜんみょう; 法諱・蓬洲) → 蓬洲(ほうしゅう; 道号・禅苗、臨濟僧) B 3 9 5 3  
 禅苗(ぜんびょう→ぜんみょう; 法諱・曇瑞) → 曇瑞(どんずい; 道号・禅苗、曹洞僧) S 3 1 3 5
- N2407 専武(せんぶ; 名・菊地きくち、虎之助男/本姓; 藤原) ?-? 伊豆八丈島の為朝大明神社神主; 父を継嗣、  
 1711(正徳元)「豆州八丈島八郎大明神略由来」著、通称; 奎允、
- G2453 千布(せんぷ) ? - ? 江中後期俳人、1791「雪幸ゆきのさら集」共編: 阿人と
- G2452 仙鳧(せんぷ・一葉舎) ? - ? 幕末期俳人、  
 1851(嘉永4)「校正七部集」龍守と共編(七部集については→龍守りゅうじゅ E 4 9 5 3 参照)、  
 1852俳諧撰集「玉葉集」編
- 専父(せんぷ・山崎) → 菜茹(さいじよ・山崎やまさき、医者) G 2 0 7 4  
 宣武(せんぶ・伏原) → 宣武(のぶたけ・伏原ふせはら/清原、廷臣/漢学) J 3 5 9 0  
 潜夫(せんぷ・山鹿) → 素行(そこう・山鹿やまが、儒/軍学者) 2 5 2 2  
 潜夫(せんぷ・太田/池守) → 秋水(しゅうすい・池守いけもり/太田、儒者) X 2 1 7 0  
 潜夫(せんぷ・井手) → 夢沢(ぼうたく・千村/井出/井、藩士/詩) E 3 9 5 7  
 潜夫(せんぷ・渋江) → 長伯(ちやうはく・渋江、幕府奥医/本草) J 2 8 6 9  
 潜夫(せんぷ・大石) → 眞麿(まさまる・大石/魚住、藩士/史家) H 4 0 3 2  
 善富(ぜんぷ・篠原) → 善富(よしとみ・篠原しのはら、和算家) E 4 7 9 9  
 善夫(ぜんぷ・坂井) → 東派(とうは・坂井さかい、藩儒/詩文) G 3 1 8 9  
 善武(ぜんぶ・唐木) → 善武(よしたけ・唐木からき、商家/国学/歌) M 4 7 2 7  
 善武(ぜんぶ・中村) → 善武(よしたけ・中村なかむら、藩士/国学) O 4 7 2 2
- G2455 仙風(せんぷう・杉山すぎやま、名; 賢水、杉風の父) ?-? 江前期撰津の人、江戸で魚商、  
 俳人; 父門、1681似春「芝肴」入
- N2467 泉風(せんぷう) ? - ? 俳人/雑俳; 1711「花鳥」入、  
 [あたいこと 馬士まご似せ武士を呑みにけり](花鳥/呑むは相手を呑むと酒を飲むを掛る)、  
 (馬子は武士に変装した町人を見破る眼を持ち金品を脅し酒代にする)
- G2456 仙風(せんぷう・島田/嶋田はまだ) 1775-? 1816存 秋田の役人; 1807山本郡森岡の郡奉行所勤務、  
 1809近江義仲寺訪問/俳人; 千影門、1810師より無名庵11世継嗣/1811-12頃出羽行脚、  
 1816無名庵に帰る; のち離庵、1810・16義仲寺「時雨会」句集編
- 宣風(せんぷう・高井) → 宣風(のりかぜ・高井/久保田/常磐井、歌学) B 3 5 1 1  
 宣風(せんぷう・山田) → 勘解由(かげゆ・山田、宮家臣/勤王派) L 1 5 4 3  
 千風(せんぷう・上田/紀/川上) → 千風(ちかぜ・上田うねだ/紀、材木商/国学/歌) B 2 8 0 7  
 千風(せんぷう・佐野) → 千風(ちかぜ・佐野さの/藤原、神職/国学) M 2 8 6 1  
 千風(せんぷう・矢西) → 千風(ちかぜ・矢西やし、菱屋/商家/歌) N 2 8 7 0  
 泉風園(せんぷうえん) → 琴而(きんじ・斎藤、商家/俳人) H 1 6 9 4  
 膳部王(膳夫王ぜんぶおう) → 膳王(膳部[夫]王かしわでのおおきみ、万葉歌人) C 1 5 1 3  
 千文(せんぶん・大舎人部) → 千文(ちふみ・大舎人部おとねりべ、万葉防人歌人) F 2 8 3 0  
 詮平(せんべい・鳥居大路) → 詮平(よしひら・鳥居大路といのおおじ/賀茂、神職/連歌) G 4 7 5 0  
 宣平(せんべい)すべて → 宣平((のぶひら)
- 専平(せんべい・岩田) → 好算(こうざん・岩田いわた、和算家) J 1 9 1 2
- G2459 善平(ぜんべい・近松・栄さかい・坂井・堺谷) ?-? 歌舞伎・浄瑠璃作者: 近松半二の助作者、  
 1759「敵討禱成就」71「女庭訓」78「おはつ徳兵衛 往古曾根崎村噂むかいむかしそねぎむらのうわさ」合作
- 善平(ぜんべい・本間/小泉) → 其明(きめい・小泉/本間/小柳、測量/画) M 1 6 0 9  
 善平(ぜんべい・田口) → 藤好(ふじよし・田口たぐち、儒者/詩) C 3 8 7 4  
 善平(ぜんべい・辰巳屋/伊藤) → 和兌(かずみち・伊藤いとう/藤原、藩士/国学) T 1 5 5 5  
 千兵衛(せんべえ・林、材木商) → 也籟(やらい・林はやし、俳人) E 4 5 5 3
- N2408 善兵衛(ぜんべえ・安達屋あだちや) ?- ? 江中期江戸の書肆、1749「宗匠点式并宿所」著

- N2409 善兵衛(ぜんべえ・石原いしはら) 1729-9466 江中期三河高浜の回船問屋・酒造業、  
俳人;智角門、雑俳点者;[かしく]と称する会所を設置;月3回興行、歌人;御歌所に出仕、  
尾張侯・紀州侯の碁の相手をす、1775「法の枢」「誹諧堪忍袋」「誹諧嗟家遊」「村の長」編、  
1776「誹諧飛鳥川」「誹諧かまくらやま」/77「誹諧かくれさと」「誹諧神の戯」編、  
1790「川やしろ」編、「花の魁さきがけ」編、「あかねうち」「もしほ艸」評、外編・評多数、  
[善兵衛(;通称)の号] お高[於高]おたか/桃華亭/萌角ほうかく
- N2410 善兵衛(ぜんべえ・前川まえかわ・伊丹屋)?-? 江中期大坂嶋町一丁目の書肆/のち高麗橋一丁目住、  
1779「小謡朗詠集」著/1781読本「唐のよし野」著、  
[善兵衛(;通称)の別通称/号]別通称;伊丹屋善兵衛、号;文栄堂  
前川来太と同一か? → 来太(らいた・前川まえかわ、書肆/戯作) 4 8 8 1
- F2490 善兵衛(ぜんべえ・牧野まきの、屋号;和泉屋・誠格堂)?-? 江後期-明治期江戸本町六丁目の書肆、  
幕末明治の書物問屋仲間の中堅/中心的役割/1899辞職/廃業、  
1841「和漢軍談紀略考大成」補填/1910「徳川幕府時代書籍考」
- 善兵衛(ぜんべえ・中西) → 弘房(ひろふさ・中西/度会、神職/記録) H 3 7 0  
 善兵衛(ぜんべえ・板垣) → 重治(しげはる・板垣いたがき、歌人) a 2 1 6 7  
 善兵衛(ぜんべえ・広瀬) → 宗栄(むねよし・広瀬/内海、藩士/心学) C 4 2 8 9  
 善兵衛(ぜんべえ・救二郷) → 義陳(よしのぶ・救二郷くにさと、藩士/和学) M 4 7 5 2  
 善兵衛(ぜんべえ・野田) → 忠肅(ただまさ・野田のだ、国学者/歌人) F 2 6 8 5  
 善兵衛(ぜんべえ・藤田) → 友閑(ゆうかん・藤田、書家) B 4 6 0 7  
 善兵衛(ぜんべえ・穂積) → 以貫(いかん/これつら・穂積ほつみ、儒者/芸談) 1 1 7 1  
 善兵衛(ぜんべえ・星野) → 浩忠(ひろただ・星野ほしの、藩士/歌人) G 3 7 2 7  
 善兵衛(ぜんべえ・油屋) → 東陽(とうよう・高木、儒者/詩文) H 3 1 7 9  
 善兵衛(ぜんべえ・釘屋) → 直秀(なおひで・松木、国学/歌人) C 3 2 2 4  
 善兵衛(ぜんべえ・鞍屋) → 蘭溪(らんけい・内海うつみ、本草学者) B 4 8 8 5  
 善兵衛(ぜんべえ・服部) → 直好(なおよし・服部はっとり、藩士/兵法家) C 3 2 9 2  
 善兵衛(ぜんべえ・池田) → 普安(ふあん・池田/菊谷、商家/俳人) 3 8 2 8  
 善兵衛(ぜんべえ・和田) → 秋郷(あきさと・和田、藩士/国学者) D 1 0 3 9  
 善兵衛(ぜんべえ・田中) → 箕山(きざん・田中たなか、儒者/詩/書) K 1 6 7 2  
 善兵衛(ぜんべえ・箱島) → 阿誰(あすい・箱島はこしま、商人/俳人) B 1 0 1 0  
 善兵衛(ぜんべえ・田原) → 蛙水(あすい・田原たはら、俳人) E 1 0 4 4  
 善兵衛(ぜんべえ・兼清) → 蔭正(かげまさ・兼清かねきよ、国学者) L 1 5 3 2  
 善兵衛(ぜんべえ・岩橋) → 嘉孝(よしたか・岩橋いわはし、天文家) E 4 7 0 2  
 善兵衛(ぜんべえ・加藤) → 寛斎(かんさい・加藤、藩士/地歴/俳人) Q 1 5 5 7  
 善兵衛(ぜんべえ・讃岐屋) → 岩苔(がんたい・岡田、商家/俳人) R 1 5 3 0  
 善兵衛(ぜんべえ・和泉屋) → 三譜(みつづ・石川いしかわ、旅館業/歌人) L 4 1 2 1  
 善兵衛(ぜんべえ・小沢) → 素溪(そけい・小沢おざわ、俳人) J 2 5 5 7  
 善兵衛(ぜんべえ・平野) → 昌伝(しょうでん・平野/惟任、天文/測量) L 2 2 1 1  
 善兵衛(ぜんべえ・中村) → 良広(よしひろ・中村/中臣/樋口、書家/歌) G 4 7 6 9  
 善兵衛(ぜんべえ・中村) → 宜文(よしふみ・中村なかむら、国学者) O 4 7 2 0  
 善兵衛(ぜんべえ・遠藤) → 元孚(もとのぶ・遠藤えんどう、国学/歌・俳) J 4 4 4 2  
 善兵衛(ぜんべえ・織戸) → 為貞(ためさだ・織戸おりと、国学者) W 2 6 3 7  
 善兵衛(ぜんべえ・亀藤) → 逸翁(いつおう・亀藤きとう、藩士/歌人) K 1 1 1 8  
 善兵衛(ぜんべえ・平野屋) → 橘仙(きつせん、平野屋、書肆橘仙堂/俳) L 1 6 4 8  
 善兵衛(ぜんべえ・佐々木) → 昌豊(まさとよ・佐々木ささき、国学者) P 4 0 8 3  
 善兵衛(ぜんべえ・寺島) → 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8  
 善兵衛(ぜんべえ・西田) → 藤居(ふじやす・西田にしだ、国学/歌) I 3 8 5 8  
 善兵衛(ぜんべえ・武知) → 方穫(まさかり・武知たけち、藩儒/詩歌人) P 4 0 1 6  
 善兵衛(ぜんべえ・杉本) → 幹之(みきゆき・杉本すぎもと/堀川、藩士/歌) J 4 1 3 6  
 善兵衛(ぜんべえ・後藤) → 邦経(くにつね・後藤ごとう、藩士/国学者) E 1 7 1 7  
 善兵衛(ぜんべえ・柴田) → 瑞々(ずいずい・柴田しばた、国学者) I 2 3 6 0

千別(せんべつ)すべて → 千別(ちわき・ちわけ)

千別舎(せんべつしゃ→ちわけのや/ちわきのや・秋山)→ 惟恭(これいや・秋山あきやま、神職/詩歌) P 1 9 4 2

N2472 仟遍(せんべん;法諱・性紹;字) 1454-1516<sup>63</sup> 真言僧;1477高野山入;宝性院良雄門;伝法灌頂受、師没後に宝性院10世、晩年は大和吉野郡賀名生(かのう/あのを)村に閑居、通称;賀名生先師、1494「一期安心記」「諸観口伝」「仟遍記」、「引進鈔」「正念誦観想」「真言教相興起伝来記」著、「伝法灌頂文明記」「秘密灌頂秘印」「論議式法見聞随筆」「湯山抄」「遍典問答」外著多数

02473 禅遍(ぜんべん;法諱、) ? - ? 平安鎌倉期;南都の僧/法師、歌人;1237刊[檜葉ならは集]8首入、春日社関連の僧か?、仁和寺の僧都禅遍(孝継男)とは別人?、[寛喜三年(1231)のころ奈良の人々春日社に五十首歌奉りけるに 春鳥、めぐりこむほどは雲井の秋風を月にちぎりてかへるかりがね] (檜葉;春36)

禅遍(ぜんべん;初法諱) → 宏教(こうぎょう;法諱、真言宗西院流僧) I 1 9 3 3

H2498 千畝(せんぼ;道号・周竹しゅうちく;法諱)?-1458 室町期臨濟僧;愚中周及門;法嗣、「千畝大和尚也足集」著

G2460 沾圃(せんぼ、宝生ほうしゅう/服部、名;重世/暢、宝生流8世重友3男) 1663-1745<sup>83</sup> 越前福井藩の能楽師、1693頃其角に随い芭蕉晩年の門人、磐城平藩内藤義泰(風虎)の次男義英(露沾)に出仕、1730兄の宝生流10世家元暢栄まはる没/11世友清若年のため家元後見役のため江戸に戻る、能役者として幕府に出仕、俳人として芭蕉後見のもとに立圃2世を襲ぐ、「続猿蓑」編集の発起人とし参加/1694「炭俵」3句・98「続猿蓑」54句入、「萩の露」「翁草」入、能の作品;「靖定山」「法養寺」「祐養園」、「面論記」著、「御追福誹諧集」編、「猿蓑にもれたる霜の松露はうろ哉」(続猿蓑;第四歌仙発句)、(脇句;芭蕉/日は寒けれど静かなる岡)、[沾圃(;号)の幼名/通称/別号]幼名;数馬、通称;宝生左大夫/佐大夫、栄九郎、別号;雨言(;初俳号)/立圃2世/幾重斎/万菊翁、法号;延享院

N2411 遷甫(遷圃せんぼ;通称・谷崎たにざき、正久男) 1761-1822<sup>62</sup> 志摩磯部村の人・幼時に失明、鍼医導引術を修得/伊勢度会郡宇治の開業医;古医方に通ず、「鍼穴分寸主話」著

千畝(せんぼ・高島) → 千畝(ちうね・高島たかぼたけ、歌人) M 2 8 7 9

千畝(せんぼ・玉楮) → 千畝(ちうね・玉楮たまかじ、槐庵/漆工) M 2 8 8 2

宣甫(せんぼ・大谷) → 宣甫(のぶとし・大谷おおたに、町人/国学/歌) H 3 5 7 1

2437 潜鋒(せんぼう・栗山くりやま、名;成信/愿すなほ、長沢良節長男) 1671-1706<sup>36</sup> 山城淀の儒者(父;淀藩儒)、1684桑名黙齋門/同門の水戸藩儒鵜飼鍊齋推挙により八条宮尚仁深奥の侍読、1689親王没後に京で開塾、のち水戸藩儒;修史事業に参画/1697彰考館総裁に拔擢、徳川光圀の信望を得る;光圀没後も重用される、1689「保建大記」「保平綱史」著、1703「富士山焼並地震紀事図」、「倭史後編」「潜鋒詩集」「弊帚文集」著、「弊帚集」編、[潜鋒(;号)の字/通称/別号]字;伯立はくりゅう、通称;源助/源介、別号;拙齋主人/弊帚主人、法号;潜鋒成信居士、栗山砥齋の兄

G2461 沾蓬(せんぼう) ? - ? 江戸の俳人、1691江水「元禄百人一句」目録入

泉峰(せんぼう・境) → 建直(たてなお・境さかい二郎/齋藤、儒者/藩教授) X 2 6 3 7

扇峰(せんぼう) → 乾峰(けんぼう・二世、俳人) D 1 8 0 7

扇峰(せんぼう・石丸) → 秀樹(ひでき・石丸いしまる、医者/歌人) L 3 7 2 2

千峰(せんぼう;法諱) → 雄山(ゆうざん・千峰、曹洞僧) C 4 6 0 3

千方(せんぼう・安原) → 千方(ちかた・安原やすはら、和算家) B 2 8 0 8

千邦(せんぼう・熊谷) → 千邦(ちくに・熊谷くまがい、藩医/国学) M 2 8 2 3

千矛(せんぼう・堀田) → 千矛(ちぼこ・堀田ほつた、神職/国学者) N 2 8 4 5

千矛(せんぼう・常盤井) → 巖戈(いわしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7

千房(せんぼう・鈴木) → 李東(りとう・鈴木すずき、里長/俳人) C 4 9 2 9

詮房(せんぼう・間部/西田) → 詮房(あきふさ・間部まなべ、藩主/日記) D 1 0 8 5

専鋒(せんぼう・森) → 昌胤(まさたね・森/源/雨森、神道家) D 4 0 5 9

N2473 全報(ぜんぼう;法諱、号;薩生房)?-? 鎌倉期の僧/初め天台僧/のち浄土僧;幸西門、一念義を修学、西山義;証空[1177-1247]門、自説を立て京を離れ鎌倉に住す、

「念仏助行要文抄」編

- G2462 **全峰**(ぜんぼう) ? - ? 江戸の俳人、  
1686仙化「蛙合」1句/90不ト「続の原」2句/91「猿蓑」1句入、  
[葉がくれぬ花を牡丹の姿哉](猿蓑;二/葉隠れしない大輪の牡丹)  
善芳(ぜんぼう、法諱) → 世阿彌(ぜあみ、能役作者) 2 4 0 1  
禅鳳(ぜんぼう・金春/桐林) → 元安(もとやす・金春、能役作者) 4 4 2 3  
前豊(ぜんぼう・広幡) → 前豊(さきとよ・近衛/広幡/源、内大臣/画) G 2 0 3 9  
浅芳庵(せんぼうあん) → 守弘(もりひろ・河野/越智/石崎、国学/史家) G 4 4 4 1  
浅蓬庵(せんぼうあん) → 玉世(たまよ・新井あらい、絹商/狂歌師) V 2 6 3 0  
善法院(ぜんぼういん) → 忍舜(にんしゅん;法諱、天台僧) G 3 3 4 7  
千峯軒(せんぼうけん) → 親英(ちかひで・広瀬、藩士/弓術家) B 2 8 7 0  
善法寺(ぜんぼうじ;号) → 尚清(しょうしょう;法諱、田中、社僧/法印) Q 2 2 9 7  
千茅老人(せんぼうろうじん) → 漣々(2世れんれん、大久保忠保、俳人) B 5 1 3 6
- G2463 **仙木**(せんぼく) ? - ? 美濃室原の俳人、1691江水「百人一句」目録入
- N2412 **仙朴**(せんぼく;通称・秋山あきやま、名;正広、前名;小倉道喜)?-? 武蔵の棋士:本因坊道策門、五段、  
師没後秋山仙朴に改名;和泉堺に移住、1720「新撰碁経大全」著;一文が本因坊家の激怒、  
1725寺社奉行に訴えられ絶版・破門、1720「古今当流新碁経」25「石立」、「新撰碁経大全」著、  
「新撰碁経大全」の一文;[今 道策流を学ぶ者 予の外に之無く]  
千朴(せんぼく・須賀) → 一中(いちちゅう・初世都太夫、浄瑠璃) 1 1 2 4  
善朴(せんぼく・橋本) → 帰奇(きき・橋本はしもと、茶道/俳人) J 1 6 9 1  
千本(せんぼん) → 千本(ちもと、歌人) L 2 8 7 2  
仙松(千松せんまつ・稲垣) → 正雄(まさお・稲垣いなぎ、名主/天文暦学) N 4 0 7 0  
千松(せんまつ・山崎) → 因碩(3世いんせき・井上いづえ、棋士) 1 1 7 9
- N2491 **千松一**(せんまついち) ? - ? 江後期;勾当/歌人、  
1858蜂屋光世「大江戸倭歌集」入、  
[わが恋は野末におふるしのなれやうきふしのみぞしげくなり行く]、  
(大江戸倭歌;恋1573/寄篠恋)  
千丸(せんまる・二条) → 康道(やすみち・二条/藤原/九条、摂政) D 4 5 0 5  
賤丸(せんまる→しずまる・眠亭) → 川柳(せんにゅう・4世、人見周助) 2 4 4 2  
銓丸(せんまる・三条西) → 季知(すえとも・三条西/西三条、廷臣/尊攘) B 2 3 2 9  
千麿(せんまる・横井) → 千秋(ちあき・横井、藩士/国学者/歌) 2 8 0 1  
泉麿(せんまる・小塙) → 重一(しげかず・小塙おはなわ、藩士/歌人) N 2 1 6 6
- G2464 **仙密主**(せんみつしゅ) ? - ? 室町期歌人、  
1437(永享9)正徹(招月清岩)が[永享九年正徹詠草]を贈与:奥書に入
- N2475 **暹明**(せんみょう;道号・祖韜そとう;法諱)?-1785 筑紫の曹洞僧;武蔵の蔵六庵・長泉寺住持、  
常陸の永巖寺住持、「蔵六庵遺稿」著
- N2474 **宣明**(せんみょう;法諱) 1750 - 1821? 加賀八田村の真宗大谷派法円寺の生、  
1767(18歳)高倉寮入;慧琳・随慧門/宗学を修学、南都・初瀬で俱舎・唯識を修学、  
1787(天明7)越中高岡の開正寺住職/91擬講/93嗣講/1811講師、正慶・恵月・亮空の師、  
「阿弥陀経講義」「本願鈔講義」「改悔文記」「最要鈔法話」「法話集」「秘学鈔」「略文類枢要」、  
1802「一念多念証文要決」12「安楽集口義」13「教行信証講義」20「選択集講義」外著多数、  
[宣明(;法諱)の号] 巴陵/恵山子/円乘院
- N2413 **専明**(せんみょう・池坊いけのぼり、別号;有芳館、専定せんじょう男) 1793-1864? 京頂法寺六角堂の僧、  
華道家元;池坊41世、歌人;1815加藤景範門、  
「生花池の坊百壇」「惣花生標目」「口伝集」「瓶花示道集」著
- N2414 **鮮妙**(せんみょう;法諱・利井かがい;姓、常頭男) 1834-1914? 撰津島上郡五百住常見寺の生、  
真宗本願寺派僧/1871父の跡嗣;常見寺住職、真宗学;美濃の行照・肥後の僧亮門、  
京の善讓勸学の指導を受く、1874私塾専精舎を設立;閉鎖/86行信教校を設立;後進指導、  
1865「行信乙丑篇」著、  
[鮮妙(;法諱)の号]如々/赤愚/摩訶巖窟/雙非房、諡号;専精院

- Q2469 善明(ぜんみょう・尼、) ? - ? 江前期;尼僧/歌人、  
 1670下河辺長流[林葉累塵集]13首入、  
 [花をこそ待ちし心に今もまた人をなしけるほととぎすかな](林葉累塵;夏251)、  
 [一夜とて隔てしよりぞ逢坂はうたがひを置く関と成りける](同集;恋912)  
 [我を君うど浜にしもすまんとや遠くなるみの浦を過ぐらん]、  
 (同集;恋1008/宇度浜は天女が降り舞った駿河の歌枕)
- 禅苗(ぜんみょう;法諱・蓬洲) → 蓬洲(ほうしゅう;道号・禅苗、臨濟僧) B 3 9 5 3  
 禅苗(ぜんみょう;法諱・曇瑞) → 曇瑞(どんずい;道号・禅苗、曹洞僧) S 3 1 3 5  
 禅明(ぜんみょう;初道号) → 月浦(げつぼ;道号・元照;法諱、黄檗僧) H 1 8 3 5  
 全苗(ぜんみょう・月湛;法諱) → 月湛(げつたん・全苗、号;洞水、曹洞僧) H 1 8 2 3  
 善明(禅明ぜんみょう;字、善明[禅明]院) → 日暎(にっしょう、日蓮僧) F 3 3 1 9  
 宣明院(せんみょういん) → 勝乘(しょうじょう・宣明院、真宗僧) J 2 2 8 0  
 仙妙院尼(せんみょういんのあま) → 周子(かねこ・鍋島、歌人) O 1 5 4 7  
 禅明房(ぜんみょうぼう;号) → 寛智(かんち;法諱、真言僧) E 1 5 0 9  
 先民(せんみん・六角) → 鬼洞(きどう・六角ろかく、儒者) L 1 6 6 2  
 先民(せんみん・滋賀) → 菜橋(らいきょう・滋賀しが、儒者/詩人) 4 8 3 3  
 善民(ぜんみん・青木) → 蒼海(そうかい・青木あおき、藩儒) G 2 5 4 9  
 千矛(せんむ・堀田) → 千矛(ちほこ・堀田ほつた、神職/国学者) N 2 8 4 5  
 千矛(せんむ・常盤井) → 巖戈(いかしほこ・常盤井ときわい、神主/国学) F 1 1 1 7  
 洗夢(せんむ;号・暢阿) → 宣正(せんしょう・吉水よしみず、僧/歌人) Q 2 4 5 8
- G2465 泉溟(せんめい・高志たかし/修姓;高、名;利甫、利次男)?-? 江中期堺の儒者:京の伊藤東涯門、  
 仁齋の学を排し宋儒を主唱、1747「時学鍼炳しんぜつ」/1757兄利貞「全堺詳志」を補刊、  
 1761「兼葭堂けんかどう記」、「寓勢漫稿」 「撰播担簦艸せつばんたんとうそう」 「波亭観松記」 「辨道夜行燭」、  
 「養浩詩文」、「養浩遺文」著、  
 [泉溟(;号)の字/通称/別号]字;養浩、通称;一介、別号;茅溟/穆齋、利貞の弟
- N2477 泉明(せんめい・佐々木ささき、名;直求、通称;住吉屋市兵衛) 1716-9378 代々大阪の薬酒商経営、  
 俳人;一交舎草秀門、旅を好む/1769奥州行脚;土産の柳枝を吉祥寺に移植;詩歌俳を募集、  
 歌を嗜む、1769(明和6)「松島紀行」/1771「一人一首短冊篇」編
- N2476 千明(せんめい・風羅堂8世)? - 1806 京の俳人;暁台門、1799播磨姫路の風羅堂に入、  
 のち8世を継嗣、近江日野に客死、1799「時雨会集」 「時雨集」編/1803「風羅念仏集」編、  
 「いつてふね」 「初文台」著
- 泉溟(せんめい・武内/玉川) → 灑齋(こうさい・玉川/武内、儒者) I 1 9 8 7  
 宣名(せんめい・饗庭) → 宣名(のぶな・饗庭あえば/大中臣、武家/歌) K 3 5 5 5  
 宣明(せんめい・伏原) → 宣明(のぶはる・伏原ふしはら、明経博士) C 3 5 8 7  
 宣明(せんめい・西宮) → 宣明(のぶあき・西宮にしのみや、藩士/国学) 3 5 7 7  
 宣明(せんめい・石金) → 瀬浜(らいひん・石金いしがね/石、農業/漢学) 4 8 9 2  
 宣明(せんめい・佐々原) → 梅操(ばいそう・佐々原ささはら、儒者) B 3 6 7 5  
 宣明(せんめい・兼重) → 慎一(しんいち・兼重かねしげ、藩士;藩政) N 2 2 3 1  
 宣明(せんめい・佐々原) → 宣明(のぶあき・佐々原ささはら、儒者/教育) I 3 5 5 2  
 詮明(せんめい・河原) → 桃水(とうすい・河原/五々庵、医者/俳人) F 3 1 7 8  
 詮明(せんめい・坂本) → 立斎(りつさい・坂本さかもと、和算家) B 4 9 9 8  
 遷明(せんめい・名・植木) → 椒園(しょうえん・植木うえき、詩人) H 2 2 3 2  
 善鳴(ぜんめい・岩瀬) → 忠震(ただなり・岩瀬/設楽、幕臣/詩画) Q 2 6 3 7  
 宣明齋(せんめいさい) → 支庵(かいあん・井上いのうえ、漢学) I 1 5 3 3
- G2466 扇面亭伝四郎(せんめんていでんしろう、扇屋伝四郎)?-? 江後期江戸横山町の商家扇屋主人、書画会肝煎、  
 渡辺崋山と交流、1815「諸家人名録」初編/18「諸家人名録」二編刊、「関東諸家人名録」編
- 千茂(せんも・吉住) → 千茂(ちしげ・吉住よしづみ、代官家臣/歌) L 2 8 3 7  
 詮茂(せんも・河北) → 詮茂(のりしげ・河北かわきた、師職/国学) I 3 5 0 0  
 禅模(ぜんも;法諱) → 宗模(そうも;法諱・径山;道号、臨濟僧) I 2 5 9 8  
 仙門(せんもん;道号・浄寿) → 浄寿(じょうじゅ;法諱、仙門、黄檗僧/伝記) J 2 2 5 1

- 染間(せんもん;字) → 湛澄(たんちよう;法諱・染間、浄土僧/歌) I 2 6 5 2
- N2415 全門(ぜんもん・斎藤さいとう) 1700-1761 62歳 京の心学者:石田梅岩門;高弟、師の代講、  
門下の盟主として後進の指導と教化に尽力、「斎藤先生語録」「斎藤先生筆痕」、  
[全門(;名)の字/通称/号]字;二介、通称;近江屋/仁兵衛、号;北山、  
息子の全孝/全交も心学者
- 禅門清風(ぜんもんせいふう) → 日扇(にっせん;法諱・長松ながまつ、日蓮僧) 3 3 0 7
- G2467 千弥(せんや・中村なかむら) ? - ? 江中期18ct初・歌舞伎役者:女形、千弥染めで有名、  
1701「血汐の水風呂」出演
- 千弥(せんや・荻野/埜) → 保己一(ほきいち・埜はなわ、検校/国学者) 3 9 6 0
- 千弥(せんや・岡部) → 長慎(ながちか・岡部おかべ、藩主/藩史/歌) K 3 2 3 3
- 千弥(せんや・田中) → 義村(よしむら・田中たなか、神職/国学/歌) N 4 7 6 4
- 善也(ぜんや・小比賀) → 信近(のぶちか・小比賀おびが、神職) H 3 5 6 1
- 善弥(ぜんや・村木) → 良広(よしひろ・村木むらき、国学者) P 4 7 5 3
- 前山科大臣(ぜんやましなのおとど) → 園人(そのひと・藤原、廷臣/系譜編纂) E 2 5 2 0
- 禅愉(ぜんゆう;法諱) → 龜年(きねん;道号・禅愉、臨濟僧) L 1 6 7 3
- N2478 仙祐(せんゆう;法諱) ? - ? 江前期僧;京の僧・会衆に仏制比丘六仏図を構ず、  
諸書を涉猟し註釈、1611(慶長16)奈良伝香寺での照珍の講義を写伝、  
1611「仏制比丘六仏図私鈔」著
- G2468 闌幽(せんゆう・諏訪すわ、名;忠虎ただとら、忠晴3男) 1678-1731 54 信濃高島藩主;1695父没;家督継嗣、  
従五下安藝守、江戸火消役・山里丸門番・吉良義周の身柄預役を務める、  
藩邸焼失・元禄大地震災害などで藩財政窮乏、生来の学問好き/俳人、1701沾徳「文蓬莱」入、  
[文泉(;号)の幼名/通称/法号]幼名;右京、通称;万年、法号;洞虎院
- 仙祐(せんゆう;法諱) → 善念(ぜんねん;法諱、法相僧) N 2 4 0 6
- 泉祐(せんゆう・大野/巨野) → 文泉(ぶんせん・大野/巨野おの、絵師) F 3 8 9 9
- 芭雄(せんゆう・藤原) → 芭雄(とまお・藤原ふじわら、歌人) X 3 1 1 0
- 宣雄(せんゆう・梅村) → 宣雄(のぶお・梅村うめむら、国学/歌人) H 3 5 5 3
- 宣猷(せんゆう・吉村) → 翠山(すいざん・東里/吉村、藩士/儒者) 2 3 6 2
- N2416 善祐(ぜんゆう;法諱) ? - ? 平安前期僧;法師、小僧都?、  
896(寛平8)9月清和天皇皇后高子(二条后)との密通が露見;伊豆へ流罪(:扶桑略記入)、  
流罪のとき;拾遺集に母の心痛の歌・後撰集に伊勢の離別の歌あり、  
[別れてはいつ逢ひ見むと思ふらん限りある世の命ともなし](伊勢/後撰;離別1319)
- 母 → 善祐母(ぜんゆうのはは、拾遺歌人) G 2 4 6 9
- 二条后 → 高子(こうし・たかこ・藤原、女御/陽成天皇母) B 1 9 2 2
- N2479 全宥(ぜんゆう;法諱・浄嚴じょうごん;字) ?-1420没?or1440存? 室町期撰津の真言僧;宥快門、  
宥快没後;成雄門、吉野大塔の供養導師を勤める/1440高野山奥院造営供養の職衆?  
1403「安流加行折紙伝授記」、「安流伝授記」「諸尊法聞書」著
- N2480 善祐(ぜんゆう;法諱) ? - ? 室町後期天台僧;竜禅院住、真祐と交流、  
「超八円教相義」著
- N2417 禅祐(ぜんゆう;法諱・妙藏院;号、松梅院禅興男)?-1601斬殺 安桃期社僧;北野天満宮祠官、  
禅水・禅昭の弟、妙義院住、善智の父、1601. 4. 18花見で宮仕らと喧嘩;斬殺される、  
連歌を嗜む:紹巴と「何路百韻」/1591昌叱と「何木百韻」、別号;因幡殿
- 禅雄(ぜんゆう/ぜんおう) → 大円(だいえん;道号・禅雄;法諱、曹洞僧) J 2 6 2 2
- 禅勇(ぜんゆう;号) → 重成(しげなり・大高/高階、武将/歌/連歌) C 2 1 6 2
- 善雄(ぜんゆう・仲科) → 善雄(よしお・仲科なかしな宿禰、続日本紀) C 4 7 3 2
- 善遊(ぜんゆう;法諱・大休号) → 大休(だいきゆう;道号・善遊、曹洞僧) J 2 6 6 3
- 善友(ぜんゆう・立見/倉田) → 幽谷(ゆうこく・倉田/立見、儒者) B 4 6 6 4
- 善圀(ぜんゆう;字) → 日東(にっとう;法諱・称理院、日蓮僧) F 3 3 4 4
- 禅友庵(ぜんゆうあん) → 寿昌(としまさ・戸田、藩士/本草家) N 3 1 7 3
- 先憂慨人(せんゆうがいじん) → 葦原(いげん・児島強介、儒/詩歌) 1 1 4 7
- 先憂斎(せんゆうさい) → 地山(ちざん・先憂斎、兵法家) E 2 8 2 7

- 船遊亭扇橋(せんゆうていせんきょう)→扇橋(せんきょう・船遊亭、音曲咄家) F 2 4 1 3
- G2469 善祐母(ぜんゆうのはは、善祐法師の母)?-? 平安初期歌人、  
拾遺集925(善祐の伊豆流罪の時に子を思う母の心境を贈る)、  
[泣く涙世はみな海となりななん同じ渚に流れ寄るべく](拾遺;恋925)
- 子 → 善祐(ぜんゆう;法諱、皇后と密通) N 2 4 1 6
- 宣予(せんよ・武笠) → 宣予(のぶやす・武笠たけがき、藩士/歌人) J 3 5 0 4
- 宣誉(せんよ;法名) → 心阿(しんあ;法名、浄土学僧) N 2 2 2 4
- 宣誉(せんよ白蓮社) → 忍激(にんげき;法諱、浄土僧) G 3 3 7 0
- 宣誉(せんよ・白蓮社) → 敬首(きやうしゅ;法諱、忍激門浄土僧) G 1 6 7 8
- 宣誉(せんよ;字) → 弘阿(こうあ;法諱・小笠原、僧/歌) Q 1 9 7 3
- 闡与(せんよ;法諱) → 吐丈(とじやう;号/隆苗、浄土僧/俳人) O 3 1 1 8
- G2470 全誉(ぜんよ) ? - ? 連歌、1356-70「紫野千句」参
- N2418 禅予(ぜんよ;法諱・松梅院;号、禅春or禅盛男)1450-94暗殺45 戦国期社僧;北野天満祠官、  
松梅院住、従兄弟の禅親の猶子/1465足利義尚誕生に御師職;辞退後1487再任/神殿大預、  
法眼、松梅院設置の北野連歌会の管理;その地位をめぐり前任の禅椿と係争;神前で暗殺、  
1488-94(長享2-明応3)「北野社家日記」著、  
連歌;1488(長享2)4月宗祇と「何路百韻」、新撰菟玖波集2句入
- 善誉(ぜんよ・英蓮社) → 秀馨(しゅうけい;法諱、浄土僧) W 2 1 9 6
- 禅誉(ぜんよ・定蓮社) → 即中(すくちゆう;法諱、浄土僧) J 2 5 4 8
- 漸誉(ぜんよ・転蓮社) → 了吟(りやうぎん;法諱、浄土僧) H 4 9 0 9
- G2471 千葉(せんよう) ? - ? 江前中期江戸の雑俳宗匠/1698調和「洗朱」入、  
1704冠楽堂人「雪の笠」入
- N2419 闡揚(せんよう;法諱・法高;字、興正寺23世寂聴の長男)1737-9559 江中期山城の真宗僧;父門、  
1753関白鷹司輔平の猶子;得度/法眼、貫瑞・憲栄門、1756権僧正/57父没;興正寺24世継嗣、  
三業惑乱に際し願生帰命・三業帰命説を排斥し門末を教諭す、  
1795刊「顕真実要義抄」「真宗安心決正消息」著、  
[闡揚(;法諱)の幼名/諡号]幼名;藤丸/綱君、諡号;平等心院
- 沾葉(せんよう・門田/水間) → 沾徳(せんとく・水間みづま/門田、俳人) 2 4 3 5
- 宣陽(せんよう・七尾) → 宣陽(のぶあき・七尾、儒者/紀行文) 3 5 7 5
- 宣陽(せんよう・高島) → 宣陽(のぶはる・高島たかしま/沢、代官/歌) I 3 5 9 4
- 仙陽(せんよう;字) → 日逮(にったい・眞如院、日蓮僧) F 3 3 0 0
- 沾楊(せんよう・藤森) → 文輔(ぶんぼ・藤森ふじもり、紺屋/俳人) G 3 8 4 3
- 撰葉(せんよう・辻) → 隆好(たかよし・辻つじ、商家/国学/勤王) Y 2 6 2 9
- G2472 禅要(ぜんよう;法諱) ? - ? 法師、歌人;新後拾1408、  
[よしさらば捨てられぬ身をあだし世のうきにまかせてはてをこそみめ](新後拾;1408)
- N2420 禅陽(ぜんよう) ? - ? 1364存 南北期社僧;北野天満宮祠官;師職、法眼、  
1351高師尚が失脚殺害されると逐電;師職を解任/のち復職、法印、連歌;菟玖波集2句入、  
[そのきさらぎもなかは過ぎぬる](菟;春39/前句;神垣の春を忘れぬ梅が香に)
- N2421 善養(ぜんよう;法諱・信暁院;号、光善寺18世寂円男)1736-1829長寿94 越前の真宗仏光寺派僧、  
越前光善寺の生、父門;学問に励み性相学に精通/1774京の本山仏光寺で内陣継目/助講師、  
1780光善寺19世、1767「浄土真宗本尊顕正義」68「興隆正法義」81「御伝絵詞証義編」著、  
1791「愚禿鈔御相伝」1794「金鍔匡直編」1814「切支丹結末記」著、禅証の義父、  
[善養(;法諱)の別法諱/通称]別法諱;三徳、通称;宰相素雲
- 全雍(ぜんよう;法諱) → 邵庵(しょうあん;道号・全雍、臨濟僧) G 2 2 5 3
- 善容(ぜんよう;字) → 義霜(ぎそう;法諱・善容、真宗僧) L 1 6 1 2
- 善養(ぜんよう・金子) → 豊雄(とよお・金子かねこ、神職/国学/歌) U 3 1 7 9
- 浅葉庵(せんようあん・三谷) → 句仏(くぶつ・三谷、俳人) D 1 7 3 9
- G2473 千葉軒(せんようけん・近松ちかまつ)?-? 浄瑠璃・歌舞伎作者;近松柳やなぎの門/柳の助作者;  
1791「雕刻左小刀」94「日本賢女鑑」/96「鬼上官漢土きじょうかんもろこし日記」99「絵本太功記」、  
1799「太功後編の籟颯たいこうごにちのはたあげ」の助作者、1827「色競恋の柵」著

- [近松千葉軒(;号)の通称/別号]通称;意八、別号;近松松助/近松松輔/千葉意八  
 千養軒(せんようけん) → 正積(まさかず・曾我部そがべ、国学/歌人) Q 4 0 4 2  
 禅要居士(ぜんようこじ) → 俊定(としさだ・古藤田ことうだ、剣術家) M 3 1 4 5  
 千葉城老人(せんようじょうろうじん) → 有通(ありみち・林はやし、国学;尊攘思想) F 1 0 8 1  
 宣耀聖灯禅師(せんようせいとうぜんじ) → 敬峯(けいほう;道号・宗恭、臨濟僧) N 1 8 1 8
- G2474 宣耀殿女御(せんようでんのようご・藤原芳子ほうし/よこ、左大臣藤原師尹もろまさ女)?-967 母;藤原定方女、  
 村上天皇妃;956以前に入内/958女御/962従四下、天皇試問に古今集全暗誦の逸話(大鏡)、  
 歌人;956「宣耀殿女御瞿麦合」主催、万代集入、勅撰2首;続古今1400/玉葉1556、  
 [おくれても越えけるものを死出の山先立つことをなになげきけん](続古今;哀傷1400)  
 [宣耀殿女御の別称] 小一条女御こいちじょうのようご/宣耀殿御息所/大将御息所  
 宣陽房(せんようぼう;号) → 顕真(けんしん;法諱、天台僧/歌) C 1 8 3 0
- G2475 宣陽門院(せんようもんいん・名;観子、後白河天皇皇女)1181-1252?72 母;丹後局高階栄子、  
 1189内親王/准三后、1191院号宣下/1205(元久2)出家、歌;玉葉2339、  
 [うかりけるこの世の夢の覚めぬまをみるもうつつの心地やはせし](玉葉;雑2339)、  
 (娘を亡くした人が退出した翌朝に贈る)
- H2401 線来(せんらい・入江いりえ、金吹屋宗四郎)?-? 京の商家/俳人;淡々門、其諺の庵を継承、  
 1728柳岡「万国燕」51句入
- N2422 仙籟(せんらい・関せき、名;一味、梅庵男)1833-67?35 播磨竜野藩士/儒;江戸で野田笛浦・古賀茶溪門、  
 伊勢の斎藤拙堂門/詩文;土井髻牙ごうが門、1863帰藩;儒員に抜擢;藩政に貢献、疫病で急死、  
 「仙籟遺稿」、  
 [仙籟(;号)の字/別号]字;士充、別号;嘯洞
- N2423 善来(ぜんらい;法諱・儀山ぎざん;道号、俗姓;後)1802-78?77 若狭大飯郡大島の臨濟僧;  
 1812(11歳)高浜長福寺の南嶺謙公門;薙髮/各地禅林を歴参、  
 1824(23歳)備前曹源寺の太元孜元門;嗣法、1837備前曹源寺住持、1844牧雲院に隠棲、  
 1855藩主池田慶政に招請され曹源寺に再住/のち山城妙心寺523世/大徳寺歴住、  
 1866孝明天皇より禅師号、1868和泉南宗寺に移住/のち牧雲院隠棲、「儀山和尚語録」著、  
 [儀山善来の別道号/号]別道号;凡島、号;仏国興盛禅師  
 全楽斎(ぜんらくさい) → 董川(とうせん・狩野かのう、奥絵師) T 3 1 4 1  
 全楽堂(ぜんらくどう) → 華山(かざん・渡辺、藩士/絵師/蘭学) 1 5 8 3  
 沾蘭(せんらん[てんらん]) → 利正(としまさ・南部、藩主/俳人) N 3 1 7 1
- N2424 善鸞(ぜんらん・慈信房、親鸞男/如信によしの父)?-? 真宗僧/東国で父に異を唱える/1256破門
- 2438 千里(せんり・ちさと;名・大江おおえ、音人おとんど男/音人の孫説・玉淵男説などあり)?-? 平安期廷臣;  
 漢学;大学寮に修学/883(元慶7)備中大丞、中務少丞/兵部少丞歴任/903兵部大丞/従六上、  
 詩歌人、宇多院詩歌壇で活躍;893頃「仁和二宮歌合」参加・「寛平御時后宮歌合」参加;3首、  
 894(寛平6)宇多院の命で家集「句題和歌(大江千里集)」撰、「大江千里奉進歌集」、  
 898頃「三月三日紀師匠曲水宴きのししょうきよすいのおん和歌」参加、千古ちふるの兄、中古36歌仙の1、  
 勅撰25首;古今(10首14/155/193/271/467/577/643/859/998/1065)後撰(222/1115)、  
 新古今(55/405/870)新勅(122)続古(179)玉(1104)続千(176)続後拾以下  
 [月見ればちちに物こそかなしけれわが身ひとつの秋にはあらねど](古今193)
- G2476 仙里(せんり) ? - ? 俳人、1703午寂「太郎河」歌仙入
- N2425 仙李(せんり;号・倉富くらとみ、倉富東義の養子)?-?1811(文化8)以前に没 筑後徳童の俳人;玉屑門、  
 1801「露のうてな」-05「静心集」著、追善集「三仏会」(仙李ら3兄弟の追善)
- G2477 扇裡(せんり;号・僊鼠亭) ? - ? 江中期俳人、大和郡山藩主柳沢信鴻(米翁)の親族?、  
 1753「みひくらぶり」編、-54「かなへ集」編、「扇裡輯歌仙」編
- N2426 千里(せんり・平山ひらやま/修姓;平、名;驥)?-? 江中期肥前長崎の和算家;若杉多十郎門、  
 のち京の中根彦楯・村井中漸門、1787(天明7)「算藪」著、  
 [千里(;号)の通称] 仙蔵
- N2427 甄里(せんり・森本もりもと、名;参みつぼし、幸丞男)1743-1833長寿91 土佐布師田村の人/高知藩士;  
 1783家督、御免方先遣/1789教授方下役/1801江戸上方御仕送銀宰領/06証文蔵御番司書、  
 京の大通院御番、1809(文化6)当分勘定人加役、儒者、1813「送鯛録」著、



[甄里(；号)の字/通称/別号]字;孝謹、通称;藤蔵、別号;長春舎/杏園/十三園主人

- G2478 千里(せんり) ? - ? 俳人;玄武坊門、1800「玄武庵発句集」有聲と共校  
G2479 千里(せんり・旭あさひ、名;道一/字;伯貫)?-? 江後期長門の儒者;徂徠学修学、大阪高麗橋住、  
藤沢東暎と交流、1829「文章薫蕪弁」、「非々物非々徴」著  
G2480 千里(せんり・昌谷さかや、別名;麟、精溪男)1838-1903<sup>66</sup> 美作津山の儒者;父と同門の長門得齋門、  
1853(16歳)江戸昌平鬢入学:松林飯山と並称/江戸鍛冶羅橋御門内に住、  
1858父没;家督継嗣/津山藩勘定奉行/大目付歴任、維新後;司法省出仕/大審印判事、  
詩文に長ず、「卷阿集」著、

[千里(；名・字)の通称/号]通称;麟之助/端一郎、号;華陽/槿宇/蠡齋れいさい

- 千里(せんり・苗村) → 千里(ちり・苗村、俳人) K 2 8 4 8  
千里(せんり・人見) → 必大(ひつだい・人見/野/小野、幕臣医者) C 3 7 6 9  
千里(せんり・栗崎) → 驥(き・廬ろ、通事/人物伝) J 1 6 4 7  
千里(せんり・森下) → 驥(き・森下もりした、藩士/医者) J 1 6 4 8  
千里(せんり・櫛田) → 北渚(ほくしよ・櫛田くした、藩儒) D 3 9 4 6  
千里(せんり・中田) → 錦江(きんこう・中田なかつ、驥、藩士/漢学) Q 1 6 9 3  
千里(せんり・武井) → 樗斎(ちよさい・武井、儒者) K 2 8 3 7  
千里(せんり・伊藤) → 祐胤(すけたね・伊藤いとう、藩医/儒者) G 2 3 4 3  
千里(せんり・内藤) → 東甫(とうほ・内藤、藩士/絵師) H 3 1 1 1  
千里(せんり・横山/千坂) → 畿(みやこ・千坂ちさか/横山、幕臣/儒者) F 4 1 9 2  
千里(せんり・重松/張) → 篤太夫(とくだゆう・重松、藩士/記録) L 3 1 1 7  
千里(せんり・中西/小林) → 秋水(しゅうすい・小林/中西、俳人) X 2 1 6 9  
千里(せんり・邨田/村田) → 眉山(2世びざん・邨田/村田、俳人) C 3 7 2 6  
千里(せんり・安藤) → 千里(ちさと・安藤あんど、家老/国学) M 2 8 0 0  
千里(せんり・広井) → 遊冥(ゆうめい・広井ひろい、藩儒者/和算) D 4 6 8 7  
千里(せんり・岡部/岡) → 白駒(はく・岡部/岡、医/儒者) 3 6 2 1  
千里(せんり・遠藤) → 大倉(だいそう・遠藤、医者/詩歌) K 2 6 5 6  
千里(せんり;号) → 義秀(ぎしゅう;法諱・桜井さくらい、僧/国学) U 1 6 4 2  
千里(せんり・藤本) → 千里(ちさと・藤本ふじもと/原、国学/歌) N 2 8 4 1  
千里(せんり・但馬/田結莊) → 千里(ちさと・田結莊たゆいのしょう/但馬、蘭学/砲術) B 2 8 9 6  
亘理(せんり・木俣) → 守位(もりり・木俣きまた/橋、藩老/歌人) J 4 4 7 8  
専鯉(せんり) → 柳居(りゅうきよ・佐久間、麦阿、俳人) D 4 9 3 3

- N2428 禅利(ぜんり;道号・智外ちがひ;法諱、俗姓丸山)1724-1802<sup>79</sup> 三河設楽郡東上邑の曹洞僧:  
1732(9歳)土佐脇邑観音寺智伝門/1733東漸瑛石門;出家、黙子素淵・頑極管慶門、  
崑山元瑞門;嗣法、伊勢河俣の直心寺住持/安藝国泰寺住持、  
晩年;1787自ら再建開山の安藝府中の長福寺に退隠、  
「禅利智外和尚語録」著

- 全吏(ぜんり) → 晞雨(2世ぎょう・伊勢屋、俳人) C 1 6 2 0  
禅理(ぜんり;法名) → 師平(もろひら・鷹司/藤原、関白/歌人) H 4 4 8 2  
前里(善里ぜんり・岡田) → 寒泉(かんせん・岡田おかだ、幕府儒官) E 1 5 0 6  
千里軒(せんりけん) → 一魚(いちぎよ・金井かない、俳人) G 1 1 1 5  
千里岱(せんりたい) → 一樓(いちろう・大和屋、俳人) G 1 1 6 4  
千里台天有(せんりだいてんゆう) → 資始(すけもと・日野/藤原、歌人/狂歌) H 2 3 1 6  
占立(せんりつ) → 占立(せんりゆう、俳人) N 2 4 2 9  
浅葎庵(せんりつあん) → 永世(ながよ・富田とみた、国学/史家) G 3 2 3 0

- G2481 千里亭(せんりてい・藪虎やぶとら;号、姓;野上のがみ)?-? 大坂瓦町筋中橋の書肆;狂歌書林と自称す、  
狂歌本を出版、自らも狂歌作者、1811「狂歌人名録」「狂歌道の栞」/24「花のしをり」編、  
1835「太箸集」、「狂歌歌の栞」編、

[千里亭藪虎(；号)の通称] 扇屋利助

- 千里亭(せんりてい;号) → 芝石(しせき・西川にしかわ、俳人) U 2 1 1 2  
千里亭白駒(せんりていはく) → 白駒(はく・千里亭、18ct後半狂歌) 3 6 2 1

- 千里之助(せんりのすけ・土崎)→ 宗直(むねなお・土崎つちざき、神職/国学) E 4 2 0 0  
千里浪子(せんりのなみこ) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、読本作者) B 3 0 2 0
- G2483 泉流(せんりゅう; 号・藤田ふじた) ? - ? 江前中期撰津兵庫の雑俳点者/京に住:  
「有馬薬師御宝前奉納老万句集」評/「国風俗」評、1689言水「前後園」/90「新撰都曲」2句入、  
1714月尋「伊丹発句合」; 四季発句入、  
[氷る夜の池に腹うつ狸かな](都曲; 下368)/[行人の身の癖なほす柳かな](伊丹発句)
- G2484 川柳(せんりゅう・吉田よじだ) ? - ? 大阪の俳人、1678西鶴「物種集」入、  
1682春林「俳諧百人一句難波色紙」入、90北枝「卯辰集」1句/91賀子「蓮実」2句入、  
1702「花見車」1句入、  
[待宵まつひのちからに成りし砧かな](卯辰集; 393/恋人来訪を待つ宵に砧を打つ)
- N2429 占立(せんりゅう/せんりつ) ? - ? 播磨姫路の俳人; 1692才麿「椎の葉」8句入; 歌仙参、  
[又こそは凝水げすいこぼして帰るらん](椎の葉; 歌仙代5句、また茶湯の下水をこぼしたか、  
前句; 千山; 夜習ひ仕まふ時に成りけり)
- G2482 千柳(せんりゅう・田中たなか) ? - ? 江中期享保1716-36頃大阪の浄瑠璃作者、  
豊竹座の浄瑠璃執筆: 西沢一風と組んで合作、並木宗輔(千柳後の豊竹座立作者)の師?、  
1723「建仁寺供養」井筒屋源六恋寒晒/24「女蟬丸」25「南北軍問答」身替弓張月著、  
1725「万代石礎」昔米万石通、外著多数、  
村上嘉介(浄瑠璃作者)と同一か?
- N2430 潜竜(せんりゅう; 法諱) ? - ? 江中期真宗僧: 法霖「選択念仏集」の講義を非難、  
1725「選択集講義破斥」、「五種正行聞書」著
- 2439 川柳(初世せんりゅう、姓; 柄井からい、八右衛門男) 1718-90 73 江戸浅草新堀天台宗端竜宝寺門前町住、  
祖父の図書(1749没)の代から名主; 1555父より家督継嗣; 八右衛門を嗣、  
俳人; もと談林調俳諧の判者という/雑俳; 1757前句付点者として立机; 無名庵川柳と号す、  
1757「万句合」興行(初会)/以後「川柳評万句合」主催(1789まで); 江戸人気随一の点者、  
1765川柳点「柳多留[柳樽]」初篇刊行(呉陵軒可有編)(以後1838迄)、  
前句付を「川柳」と称されるようになる、長男・五男が川柳2・3世を嗣、妻は女柳めやなぎか?  
「上げつけて惜しや切れ行く風いかのぼり」(1782李牛追善; 筥初)、  
伝辞世「木枯やあとで芽を吹け川柳」(竜宝寺の句碑)、  
[初世川柳(;号)の幼名/名/通称/別号]幼名; 勇之助/名; 正通、通称; 八右衛門、  
別号; 無名庵/緑亭、法号; 契寿院
- 2440 川柳(2世せんりゅう、姓; 柄井からい、初世川柳長男) 1759-1818 60 江戸川柳点者;  
1804-5川柳二世を襲名、1806「誹風柳多留三五篇」は嗣号記念の独撰、  
[世の中の恵みを受けつ返り花](柳多留; 四三)、  
[2世川柳(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 六之助、字; 幸孝、通称; 弥惣右衛門/八右衛門、  
別号(俳号); 若菜?
- 2441 川柳(3世せんりゅう、姓; 柄井からい、初世川柳5男) 1776-1827 52 江戸川柳点者; 1819川柳三世を襲名、  
「誹風柳多留」七一篇と七六篇に評、1824隠退、  
辞世[蓮の葉の露と消えゆく我身哉]、  
[3世川柳(;号)の幼名/字/通称/別号]幼名; 金蔵、名; 八蔵、字; 幸達/孝達、  
通称; 八右衛門、別号; 柳翁(退隠号)、法号; 但受院
- 2442 川柳(4世せんりゅう、姓; 人見ひとみ) 1778-1844 67 江戸八丁堀の南町奉行の物書同心、  
30俵二人扶持、大塚住/雑俳; 文日同礫川の折句連、2世川柳門; 風梳ふうし。庵賤丸しずまるの号、  
1806誹風柳多留三五篇に初見/点者; 五八篇から選句発表/1821七四篇の序、  
1823頃より八丁堀中之橋の自邸で月例会を催/24川柳四世を襲名、「俳風狂句」提唱、  
俳風狂句の元祖と称す/1837北町奉行大草高好の論戒で隠退; 柳翁と改号、  
1811「賤丸選句集」編/35「俳風狂句百人集」校訂、「川柳百人一首」校、  
辞世[香のあるを思ひ出にして翻れ梅]、  
[4世川柳(;号)の通称/別号]通称; 周助、別号; 眠亭/賤丸しずまる/風梳ふうし。庵/柳思庵/柳翁、  
法号; 崇徳院
- 2443 川柳(5世せんりゅう、姓; 水谷みづたに/名; 雅好) 1787-1858 72 江戸日本橋茅場町の生; 幼時父母と死別、

水谷太平次に養育/養家は代々幕府魚御用の佃島漁師で名主;養家継承、川柳点者:  
 2世川柳・4世川柳門、1812誹風柳多留六二篇に初見/14「風流夏柳」10句入/柳多留六六に評、  
 1837川柳五世を襲名、1838誹風柳多留が一六七篇で終刊、39初世川柳五十回忌法要を催;  
 竜宝寺に木枯の句碑建立、1841「新編柳多留」初編発刊・49五五編まで刊行、  
 安政初1854頃に4世川柳の俳風狂句を[柳風狂句]に改称、草双紙・伝記など著作多数、  
 1833「芽出し柳」45「狂句百味箆笥」編/1847-63「遊仙窟春雨草紙」47「烈女百人一首」著、  
 1851-53「祥瑞白菊物語」著/55「俳人百家撰」56「海内柳の丈くらべ」編、外編著多数、  
 [和らかでかたく持ちたし人ごころ](佃島住吉社の句碑)、  
 [5世川柳(;号)の通称/別号]通称;金蔵、別号;腥齋[鯉齋]佃なまぐさいたぐり/緑亭/風叟  
 法号;真実院

N2431 **潜竜**(せんりゅう・加賀山かがやま、名;翼、児島雲琳2男) 1811-7161 会津藩御側医加賀山太沖盛俊の養子、  
 会津藩蘭医/1834養父の跡継承;御側医、蘭医学;伊東玄朴・貫斎門、江戸藩邸に蘭学館創設、  
 医学生育成資金制度を作る/1859会津帰藩;藩校日新館に蘭学科を設置、戊辰戦に従軍医、  
 「古医方精義」「古医方発蒙」著、  
 [潜竜(;通称)の幼名/号]幼名;岩松、号;仁山、法号;仁山院

2444 **川柳**(6世せんりゅう・水谷みづたに、5世川柳[水谷金蔵]男) 1814-8269 江戸佃島の魚問屋、川柳点者、  
 1826(13歳)末広大会参加/1858父没;5世川柳継嗣/維新後[柳風会]創設、佃島振興に尽力、  
 1881有栖川親王より国歌一章を下賜、1861「新調絵入柳多留」「追福狂句合」編、  
 1866「風流柳たる」編、「新家内喜多留」編、81川柳5世の本願寺句碑を三囲神社に移設、  
 [つまらぬといふはちひさな智恵袋](三囲神社の句碑)、  
 [川柳6世(;号)の幼名/通称/別号]幼名;喜代松/金次郎、通称;金蔵/謹五/謹、  
 別号;和風亭/腥[鯉]齋なまぐさい/ごまめ

N2432 **仙流**(せんりゅう) ? - ? 江後期羽前山形の雑俳点者: 1855「最上仙流」編

川流(せんりゅう)	→	蟾居(せんきよ・岩城、商家/俳人)	M 2 4 0 5
千柳(初世せんりゅう・並木)	→	宗輔(そうすけ・並木、浄瑠璃作者)	2 5 1 2
千柳(二世せんりゅう・並木)	→	翁輔(おうすけ・並木、浄・歌舞伎作者)	B 1 4 0 0
千柳(せんりゅう・松平)	→	定静(さだきよ・松平、藩主/歌/紀行)	I 2 0 1 2
千流(せんりゅう・行弘)	→	正常(まさつね・行弘ゆきひろ/中原、国学者)	T 4 0 6 6
宣流(せんりゅう;号)	→	宣澄(せんちよう;法諱、大谷派僧/俳人)	M 2 4 9 6
宣隆(せんりゅう・草鹿砥)	→	宣隆(のぶたか・草鹿砥くさかと、儒/国学)	B 3 5 7 4
宣隆(せんりゅう・中御門)	→	尚良(ひさよし・中御門なかみかど、廷臣/連歌)	C 3 7 1 5
潜龍(せんりゅう・伊集院)	→	兼愷(かねやす・伊集院、家老/歌人)	P 1 5 0 1
潜竜(せんりゅう・堀池)	→	久道(ひさみち・堀池、藩士/和算家)	B 3 7 9 9
潜竜(せんりゅう・時習軒)	→	篤信(あつのぶ・中川ながわ、漢学/神道)	I 1 0 1 0

G2485 **禅隆**(ぜんりゅう;法諱) ? - ? 鎌倉期元亨1321-4頃生存の僧;法印/歌人、  
 二条派歌人、続現葉入、勅撰5首;続千載(1926)続後拾(757)新千(731/923)新拾(1826)、  
 [なみだ河うきせをしばしすぐしてやしづみもはてぬ身をばたのまん](続千;雑1926)

全竜(ぜんりゅう;法諱・月潭)	→	月潭(げつたん;道号・全竜、曹洞僧)	H 1 8 2 4
全柳(ぜんりゅう・横井)	→	璨(さん・横井よこい、蘭方医者)	L 2 0 7 3
浅竜庵細道(せんりゅうあんほそみち)	→	細道(ほそみち・浅竜庵、医者/狂歌)	E 3 9 4 3
仙竜院(せんりゅういん)	→	頼時(頼岑よりとき・金森かなもり/源、藩主)	J 4 7 1 6
潜竜閣(せんりゅうかく)	→	斉昭(なりあき・徳川、藩主/攘夷論)	G 3 2 9 8
潜竜窟(せんりゅうくつ)	→	巖男(いざお・よしお・広瀬、商家/国学者)	F 1 1 7 1
潜竜齋(せんりゅうさい)	→	豊春(とよはる・歌川、絵師/歌川派祖)	R 3 1 4 8
千柳亭綾彦(せんりゅうていあやひこ)	→	唐曆(からまる・千柳亭、医者/狂歌)	F 1 5 9 6
泉龍亭是正(せんりゅうていこれまさ)	→	是正(これまさ・泉竜亭せんりゅうてい、戯作者)	P 1 9 6 6
潜竜堂(せんりゅうどう)	→	龜学(きがく・井田いだ、藩士/易学家)	J 1 6 8 3

2445 **沾涼**(せんりょう;初世せんりょう・菊岡さくおか、名;房行/光行、飯東三悦男) 1680-174768 伊賀上野の生、  
 菊岡行尚の養子、江戸神田住;壳薬業、のち柳川直光門;刀剣装具などの金工業/表装師、  
 俳人;一昌・露沾門/点者、江戸座で活動、和漢学に通ず、1705「反古談」、17「百福寿」編、

1720「続福寿」23「百華実」32「江戸砂子」編、35「続江戸砂子温故名跡志」、36「鳥山彦」編、  
 1743「藻塩袋」46「本朝俗諺志」、「綾錦」日本道中行程記「日本名跡志」「諸国里人談」、  
 「奈良土産」「奈良土産続編」「俳諧故事談」「雑類原記」「近世世事談」著、  
 [うぐいすの遍昭素性せいほととぎす](綾錦/遍昭が鶯なら素性は時鳥/両者は実は親子)  
 [沾涼(；号)の通称/別号]通称;藤右衛門、別号;崔下いか庵・南仙[僊]斎・米山

N2433 沾涼(沾涼2世せりょう、北村きたむら、初号;東巴、開行舎) 1699-1783<sup>85</sup> 江戸俳人;旧室門/初世沾涼門、  
 江戸宗因座沾涼側点者、1754竹翁「俳諧童の的」評点句8句入

N2434 沾涼(沾涼3世せりょう、菊岡光行、初世孫)?-? 江戸俳人

N2435 暹亮(せりょう;法諱・雲照;字、俗姓;杉本/三神) 1686-1751<sup>66</sup> 越前大野郡石徹白村の神職家の生、  
 1699暹雄大和尚につき出家;天台僧;治部卿公暹亮と称す、園城寺法明院学頭代、  
 円宗院・善法院に転住、1749大僧正、「雑記事珠」編/1747「四聖諦滅縁行正決集」、  
 [暹亮の幼名/通称/号]幼名;虎丸、通称;治部卿公暹亮、号;聖無動院

02423 暹瞭(せりょう;法諱、院号;三光院、俗姓;樹下) 1844-65<sup>早世22</sup> 近江滋賀郡の僧;大僧正、  
 歌:[鴉のうみ]入

千亮(せりょう・布川) → 栢舟(はくしゅう・布川、俳人) D 3 6 2 5

泉梁(せりょう・藤井) → 三郎(さぶろう・藤井、藩士/暦算天文) D 2 0 8 3

宣令(せりょう・刀理とり/土理) → 宣令(みのり・刀利とり、廷臣/詩歌) F 4 1 6 6

G2487 善了(ぜんりょう;法諱) ? - ? 僧;法師、歌人、勅撰2首;新千載1790・新拾遺786、  
 [いねがてにもるをばしらで小山田の夜を人まと鹿や鳴くらむ](新千載;雑1790)

詮量院(せりょういん) → 日綱(にちこう;法諱・知能、日蓮僧) B 3 3 8 9

善良院(せりょういん;法号) → 縫(ぬい・石川/奥泉おくいづみ、歌人) 3 4 0 3

千緑(せりよく・木綿園) → 広海(ひろみ・益岡ますおか、国学者) K 3 7 9 9

千里浪子(せりろうし) → 庭鐘(ていしょう・都賀つが、医者/唐話/読本) B 3 0 2 0

G2488 玕林(せんりん;法諱、沙門)? - ? 京の俳人;1690言水「新撰都曲」3句入、  
 [御廟ごびょうなる一葉ひと女土産かな](都曲;179/参詣の土産の桐一葉)

N2436 潜鱗(せんりん・小沢おざわ) ? - ? 江後期常陸太田村の儒者、江戸で講説、  
 1820(文政3)「訓義考」著、  
 [潜鱗(；号)の名/字]名;時亮/知足、字;子諒

千林(せんりん・萩原) → 英純(ひでずみ・萩原はざむら、農業/国学) K 3 7 6 2

仙林(せんりん;道号) → 祖元(そげん;法諱・仙林;道号、曹洞僧) J 2 5 6 4

洗林(せんりん・林) → 晋軒(しんけん・林、読耕斎男/幕府儒官) D 2 2 9 3

泉隣(せんりん、泉隣居) → 星洲(せいしゅう・松浦まつうら、星占家) B 2 4 9 9

善隣(ぜんりん・菅原) → 善隣(よしちか・菅原すがわら、廷臣) F 4 7 9 1

宣林院(せんりんいん;号) → 照意(正意しょうい;法諱、本願寺派僧) G 2 2 7 2

禅林寺(ぜんりんじ) → 有房(ありふさ・六条/千種、廷臣/歌人) 1 0 3 8

禅林寺(ぜんりんじ) → 有忠(ありただ・六条、廷臣/歌人) B 1 0 7 6

禅林寺(ぜんりんじ) → 有光(ありみつ・六条、廷臣/歌人) B 1 0 9 7

禅林寺大僧正(ぜんりんじのだいそうじょう) → 深覚(しんかく;法諱、師輔男/真言僧) D 2 2 6 7

禅林寺僧都(ぜんりんじのそうず) → 眞紹(しんしょう;法諱、真言僧) O 2 2 8 5

禅林寺入道前太政大臣(ぜんりんじのにゅうどうさきのだいじょうだいじん) →

禅林寺法印(ぜんりんじのほういん) → 静遍(静遍じょうへん;法諱、真言僧) L 2 2 5 8

N2437 善林坊(ぜんりんぼう) ? - ? 江中期の僧;陸前宮城郡国分寺の執事、  
 1743(寛保3)「馬樞神由来記」著

L2491 千苓(せんれい・井上いのうえ) 1714- ? 1801(享和元)存 信濃上田の町人/俳人;沾緑(麦二の父)門、  
 定家様の書家、1766「蓑の露」、「正風むかし道」著、  
 [千苓(；号)の通称/別号]通称;弁助、別号;胡桃庵/胡桃斎/胡桃下/千掌庵

F2402 仙靈(せんれい;法諱・疾空しゅう;号) 1737-97<sup>61</sup> 京の浄土宗西山派西谷流の誓願寺住僧、  
 「観無量寿経四帖疏楷定記辨要」著

02410 千嶺(せんれい・栗田くりた、) ? - ? 天保1830-44頃没<sup>48歳</sup> 伊予松山の簾屋、歌人、  
 [のどこかにも霞める山の桜花月移ろひて面白きかな]、

- [千嶺(；号)の名/通称/別号]名;政貴、通称;松之助、別号;白堂/璞堂はくどう/自然/松隠  
宣令(せんれい→せんりょう・刀利)→宣令(みのり・刀利)と、廷臣/詩歌人) F 4 1 6 6  
千齡(せんれい・頼) → 春風(しゅんぷう・頼)と、儒者/医者/詩) K 2 1 4 2  
千齡(せんれい・長山) → 盛晃(もりあき・長山ながやま、藩士/文筆家) F 4 4 0 6  
千齡(せんれい・漆原) → 漆園(しつえん・漆原うるしばら、絵師/詩人) U 2 1 4 8  
仙齡(せんれい・松橋) → 成章(なりあき・松橋まつはし/;源、国学者) O 3 2 9 1  
仙嶺(僊嶺せんれい・円山)→ 応挙(おうきよ・円山/藤原・源、絵師) 1 4 4 6  
善礼(ぜんれい・瀬見) → 善礼(よしひろ・瀬見せみ、国学/歌) N 4 7 5 4  
禅驪(ぜんれい:法諱) → 太竜(たいりゅう:道号・禅驪、臨濟僧) L 2 6 1 8  
千連(せんれん・津田) → 千連(ゆきつら・津田つだ、藩士/記録) E 4 6 9 5  
禅蓮院信阿円觀(ぜんれんいんしんあえんかん)→ 義山(ぎざん;法諱・良照;字、浄土僧) K 1 6 7 6  
禅蓮社詮誉幻阿(ぜんれんしゃせんよげんあ)→ 蝶夢(ちょうむ・五升庵、浄土僧/俳人) 2 8 2 6  
宣蓮社明誉(せんれんしゃめいよ)→ 普寂(ふじやく:法諱、浄土僧) C 3 8 6 9  
梅蓮社檀誉(せんれんしゃだんよ)→ 乘阿(じょうあ;法諱、浄土僧/増上寺貴主) U 2 2 9 6  
G2486 仙呂(せんろ・竹村たけむら、3代目釣燈屋ちようちんや市兵衛) 1677-? 88歳存 安藝広島紙屋町の釣燈屋;  
厳島管絃祭の雨具奉納/1719藩命で3千端の桐油合羽を製作、口中医を業、俳人;野坡門、  
[近江路や諏訪は雲間に鳴子鳥](野坡追善「十三題」)  
N2438 仙魯(せんろ) ? - ? 江中期丹波の俳人;  
1783維駒これこま「五車反古ごしゃほうぐ」1句入、  
[門見えて爪上つまあがりなり冬木立](五車反古;巻尾475/山門に向いつま先上りの坂道)  
N2439 仙路(せんろ・伴、名;矩道)? - ? 江後期陸奥津輕藩江戸詰藩士、  
長柄奉行格御姫様付となる、俳人/古書蒐集、同藩渋江抽斎[1805-58]と親交、  
「枇杷壺仙路評句集」「柳水庵仙路評句集」「にはたつみ」著、  
[仙路(；号)の通称/別号]通称;友右衛門、別号;柳水庵/枇杷壺  
千輻(せんろ) → 為山(いざん・関、俳人) 1 1 8 5  
千浪(せんろう) すべて → 千浪(ちなみ)  
仙楼(せんろう・奥田) → 尚斎(しょうさい・奥田、儒者) S 2 2 3 1  
泉老(せんろう・増田) → 紫陽(しやう・増田ますだ、藩儒/尊攘/詩) G 2 2 4 6  
泉郎(せんろう・松村) → 蘭桂(らんけい・松村まつむら、俳人) B 4 8 8 0  
潜楼(せんろう) → 静軒(せいけん・野間、三竹、医者/詩文) 2 4 0 8  
H2407 千鹿(せんろく・竹野たけの、別号;唧山閣がんざんかく/長芝亭) 1682-?1760頃没 79? 大坂天満宮菅原町俳人、  
;祇空門、のち芳室門、1729「玉磨」入、1729「享保己酉俳書」著/41「早苗鷹下」42「夏の海」編、  
1749「雨の恵」、「喜南工杜利」「俳諧卯花月」「俳諧梅名月」「俳諧早苗」「俳諧筑紫琴」著、  
善録(ぜんろく・山井) → 崑崙(こんろん・山井やまのい/大神、儒者) G 1 9 9 1  
善六(ぜんろく・天木) → 時中(じちゅう・天木あまぎ、儒者) E 2 1 6 0  
善六(ぜんろく・福住) → 世貞(つぐさだ・福住ふくずみ、商家/歌) G 2 9 2 5  
善六(ぜんろく・西川) → 吉輔(吉介よしすけ・西川にしかわ、国学者) D 4 7 8 0  
善六(ぜんろく・綿屋) → 真纏(まさで・荒瀬あらせ/鈴木、商家/国学) L 4 0 8 2  
善六(ぜんろく・永井) → 千船(ちふね・永井ながい、藩士/歌人) N 2 8 2 0  
禅六郎(ぜんろくろう・寺島)→ 白也(はくや・寺島てらしま、代官/俳人) D 3 6 9 8  
川隈漁叟(せんわいぎょそう/かわくまのぎょそう?)→ 晃樹(あさき・西原、国学者) 1 0 4 7  
善和(ぜんわ・瀬口) → 善和(よしかず・瀬口せぐち、藩茶坊主/歌) N 4 7 5 2  
千若丸(せんわかまる) → 信永(しんえい・蜷川、連歌) D 2 2 5 1  
扇和書屋(せんわしよおく) → 楊園(ようえん・竹内たけうち、儒者/詩人) 4 7 6 5